

居
徳
遺
跡
群
V

四国横断自動車道（伊野～須崎間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

第86集

一〇〇三・一一

財高知県文化財団埋蔵文化財センター

居 徳 遺 跡 群 V

四国横断自動車道（伊野～須崎間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2003.12

財高知県文化財団埋蔵文化財センター

居 徳 遺 跡 群 V

四国横断自動車道（伊野～須崎間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2003.12

財高知県文化財団埋蔵文化財センター



4 A区・4 B区完掘状態の空撮（東から）



4 A区・4 B区完掘状態の空撮（南から）

巻頭図版 2



4 A区遺物出土状態（西から）



4 A区遺物出土状態（南東から）



4 A区遺物出土状態（南から）



4 A区遺物出土状態（北から）

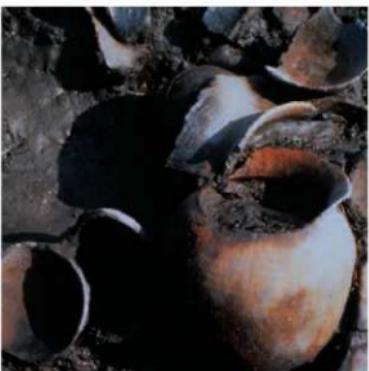
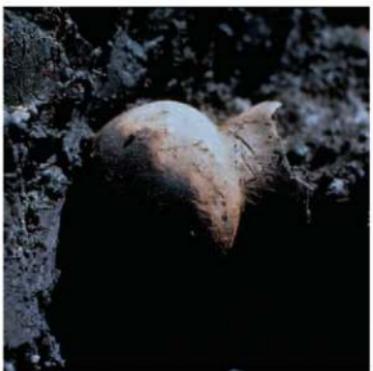
巻頭図版 4



4 A区木根周辺の出土状態（東から）

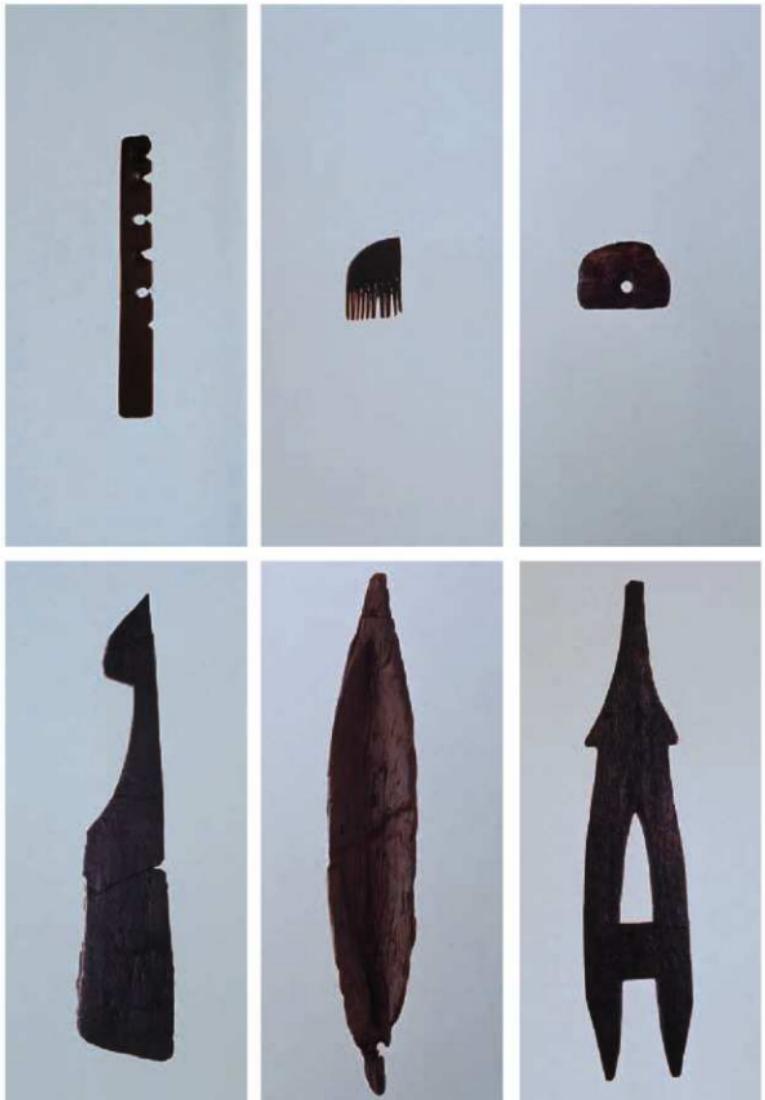


4 A区木根周辺の出土状態（西から）



4 A区遺物出土状態

卷頭図版 6



4 A区出土木製品



4 B区遺物出土状態

卷頭図版 8



4 B 区 SK 1 出土状態



4 A 区・4 B 区調査区遠景（北西から）

例　　言

1. 本書は四国横断自動車道（伊野一須崎間）建設に伴う、居徳遺跡群の発掘調査報告書第5集である。本書には調査4A区、4B区の調査成果、ならびに関連の付編を所収する。

2. 居徳遺跡群の所在地は、高知県土佐市高岡町乙居徳他である。

3. 調査期間ならびに発掘調査面積は次のとおりである。

	(調査期間)	(調査面積)
4A区	平成10年1月30日～平成10年3月18日	1,753m ²
4B区	平成10年5月27日～平成10年10月10日	1,863m ²

4. 発掘調査及び整理作業は、高知県教育委員会が日本道路公团四国支社と委託契約を締結し、財團法人高知県文化財団埋蔵文化財センターがこれを実施した。調査体制は以下のとおりである。

調査総括	古谷聰志（財團法人高知県文化財団埋蔵文化財センター ・所長）
同	津野州夫（ ・次長兼総務課長）
同	西川 裕（ ・調査課長）
同	山本哲也（ ・調査第1班長）
同	出原恵三（ ・調査第3班長）
調査事務	吉岡利一（ ・総務課主幹）
同	大原裕幸（ ・総務課主幹）
同	石川 馨（ ・総務課主幹）
同	田坂京子（ ・専門調査員）
同	大野佳代子（ ・専門調査員）
同	佐竹 寛（ ・専門調査員）
同	曾我貴行（ ・調査員）
同	藤方正治（ ・調査員）
同	下村 裕（ ・調査員）
技術補助員	小倉 功
測量補助員	土居寿美子
同	中岡きよ
同	岩原明美

5. 本書の編集・執筆は藤方が行った。尚、付編1から3の執筆は松葉礼子、汐見 真、岡田文男、大澤正巳、鈴木瑞穂の各氏によるものである。

6. 遺構等の名称については、SK（土坑）、SR（自然流路）、SX（性格不明遺構）、P（柱穴及びピット状遺構）等の略号を使用する。それぞれの番号は各調査区における通し番号である。
7. 遺物実測図の縮尺は土器・土製品、石器・石製品が1／2と1／3、木器・木製品が1／1から1／4である。遺物番号は各調査区での通し番号であり、挿図及び写真図版中の番号と遺物番号は一致している。
8. 土層ならびに出土遺物の色調については『新版標準土色帖1996年版』の名称を使用した。
9. 遺跡の測量は、国土座標第Ⅳ系に則っておこなった。挿図中の北は原則として座標北である。また、挿図中の標高は海拔高を示す。
10. 発掘調査に際しては、地元高岡町清滝・東灘・西灘地区をはじめとした周辺地域にお住まいの方々の全面的な御理解と御協力、ならびに暖かい御支援を賜り、調査を円滑に進めることができました。記して衷心より謝意を表します。
11. 4B区出土の砂鉄については村上恭通氏（愛媛大学）、大澤正巳氏（九州テクノリサーチ）から御教授・御指導を賜った。記して衷心より謝意を表します。
12. 発掘調査に際しては、土佐市都市計画課、高知県土木部高速道路推進課の御協力を得た。また、発掘調査及び報告書作成に際しては、高知県立歴史民俗博物館、高知県教育委員会、財團法人高知県文化財団埋蔵文化財センターの諸氏から御助言・御協力を得た。衷心より謝意を表します。
13. 発掘調査にかかる掘削作業は工事請負方式とし、大豊建設株式会社（平成9年度）、不動建設株式会社（平成10年度）と委託契約を締結して実施し、工事の施行管理は社団法人高知県建設技術公社に委託した。工事に従事して頂いた多くの方々の御尽力により、調査を完遂することができた。記して衷心より謝意を表します。
14. 発掘調査に伴う測量基準点設置、航空写真撮影ならびに航空写真測量は、アジア航測株式会社に委託して実施した。
15. 自然遺物等の分析及び樹種同定は、株式会社パレオ・ラボに委託して実施した。
16. 木器・木製品の保存処理及び樹種同定は、株式会社吉田生物研究所に委託して実施した。
17. 砂鉄の分析は、株式会社九州テクノリサーチに委託して実施した。

18. 付編1から3には委託して行った分析等の結果、そのうち今回の報告に係わるものを掲載した。

19. 整理作業に際しては、次の方々に御尽力頂いた。御芳名を記して衷心より謝意を表します。

矢野 雅 宮本幸子 中西純子 小松経子 岩貞泰代 楠瀬憲子 前田玲子
高橋千代 久万公子 川井由香 内村富紀 元吉ゆみ子 岸ゆかり 岡宗真紀
入野三千子 橋田美紀 土居江里子

20. 遺跡の略号は下記のとおりとし、出土遺物の注記にはこれを使用した。

4 A区・・・「97-8 I T 4 A」

4 B区・・・「98-8 I T 4 B」

21. 出土遺物は財團法人高知県文化財団埋蔵文化財センターで保管している。

本文目次

第Ⅰ章 調査の成果

(1) 4 A区	3
(2) 4 B区	125

付編1 居徳遺跡群から出土した木製品と木材片の樹種同定 233
- 1 A区, 4 A区, 4 C区出土の遺物 -

株式会社 バレオ・ラボ

付編2 居徳遺跡群出土木製品の樹種調査結果 237
- 4 A区, 4 B区出土の遺物 -

株式会社 吉田生物研究所

付編3 居徳遺跡群出土鉢入砂鉄の金属学的調査 241
- 4 B区の出土遺物 -

株式会社 九州テクノリサーチ

挿図目次

Fig. 1	居徳遺跡群調査区配置図 (S : 1/2,000)	1~2
Fig. 2	4 A 区の位置 (S : 1/5,000)	3
Fig. 3	4 A 区全体図 (S : 1/200)	5~6
Fig. 4	4 A 区南壁セクション図 (S : 1/40)	8~10
Fig. 5	4 A 区SK1遺構平面図 (S : 1/40)	11
Fig. 6	4 A 区P 1・P 2 遺構平面図 (S : 1/40)	11
Fig. 7	4 A 区中央ベルトセクション図 (S : 1/40)	12~13
Fig. 8	4 A 区Ⅲ e 層・Ⅲc層遺物分布図 (S : 1/40)	14
Fig. 9	4 A 区Ⅲ d 層遺物出土状態1 (S : 1/30)	16
Fig.10	4 A 区Ⅲ d 層遺物出土状態2 (S : 1/30)	17
Fig.11	4 A 区出土遺物 1 SK 1 (S : 1/3)	18
Fig.12	4 A 区出土遺物 2 Ⅲ e 層 (S : 1/3)	19
Fig.13	4 A 区出土遺物 3 Ⅲ e 層 (S : 1/3)	20
Fig.14	4 A 区出土遺物 4 Ⅲ e 層 (S : 1/3)	21
Fig.15	4 A 区出土遺物 5 Ⅲ c 層 (S : 1/3)	22
Fig.16	4 A 区出土遺物 6 Ⅲ d 層 (S : 1/3)	23
Fig.17	4 A 区出土遺物 7 Ⅲ d 層 (S : 1/3)	24
Fig.18	4 A 区出土遺物 8 Ⅲ d 層 (S : 1/3)	25
Fig.19	4 A 区出土遺物 9 Ⅲ d 層 (S : 1/3)	26
Fig.20	4 A 区出土遺物10 Ⅲ d 層 (S : 1/3)	27
Fig.21	4 A 区出土遺物11 Ⅲ d 層 (S : 1/3)	28
Fig.22	4 A 区出土遺物12 Ⅲ d 層 (S : 1/3)	29
Fig.23	4 A 区出土遺物13 Ⅲ d 層 (S : 1/3)	30
Fig.24	4 A 区出土遺物14 Ⅲ d 層 (S : 1/3)	31
Fig.25	4 A 区出土遺物15 Ⅲ d 層 (S : 1/3)	32
Fig.26	4 A 区出土遺物16 Ⅲ d 層 (S : 1/3)	33
Fig.27	4 A 区出土遺物17 Ⅲ d 層 (S : 1/3)	34
Fig.28	4 A 区出土遺物18 Ⅲ d 層 (S : 1/3)	35
Fig.29	4 A 区出土遺物19 Ⅲ d 層 (S : 1/3)	36
Fig.30	4 A 区出土遺物20 Ⅲ d 層 (S : 1/3)	37
Fig.31	4 A 区出土遺物21 Ⅲ d 層 (S : 1/2,1/3)	38
Fig.32	4 A 区出土遺物22 Ⅲ d 層 (S : 1/3)	39
Fig.33	4 A 区出土遺物23 Ⅲ d 層 (S : 1/3)	40
Fig.34	4 A 区出土遺物24 Ⅲ d 層 (S : 1/3)	41
Fig.35	4 A 区出土遺物25 Ⅲ d 層 (S : 1/3)	42
Fig.36	4 A 区出土遺物26 Ⅲ d 層 (S : 1/3)	43
Fig.37	4 A 区出土遺物27 Ⅲ d 層 (S : 1/3)	44
Fig.38	4 A 区出土遺物28 Ⅲ d 層 (S : 1/3)	45
Fig.39	4 A 区出土遺物29 Ⅲ d 層 (S : 1/3)	46
Fig.40	4 A 区出土遺物30 Ⅲ d 層 (S : 1/3)	47

Fig.41	4 A区出土遺物31	III d層 (S : 1/3)	48
Fig.42	4 A区出土遺物32	III d層 (S : 1/3)	49
Fig.43	4 A区出土遺物33	III d層 (S : 1/3)	50
Fig.44	4 A区出土遺物34	III d層 (S : 1/3)	51
Fig.45	4 A区出土遺物35	III d層 (S : 1/3)	52
Fig.46	4 A区出土遺物36	III d層 (S : 1/3)	53
Fig.47	4 A区出土遺物37	III d層 (S : 1/3)	54
Fig.48	4 A区出土遺物38	III d層 (S : 1/3)	55
Fig.49	4 A区出土遺物39	III d層 (S : 1/3)	56
Fig.50	4 A区出土遺物40	III d層 (S : 1/3)	57
Fig.51	4 A区出土遺物41	III d層 (S : 1/3)	58
Fig.52	4 A区出土遺物42	III d層 (S : 1/3)	59
Fig.53	4 A区出土遺物43	III d層 (S : 1/3)	60
Fig.54	4 A区出土遺物44	III d層 (S : 1/3)	61
Fig.55	4 A区出土遺物45	III d層 (S : 1/3)	62
Fig.56	4 A区出土遺物46	III d層 (S : 1/3)	63
Fig.57	4 A区出土遺物47	III d層 (S : 1/3)	64
Fig.58	4 A区出土遺物48	III d層 (S : 1/3)	65
Fig.59	4 A区出土遺物49	III d層 (S : 1/3)	66
Fig.60	4 A区出土遺物50	III d層 (S : 1/3)	67
Fig.61	4 A区出土遺物51	III d層 (S : 1/3)	68
Fig.62	4 A区出土遺物52	III d層 (S : 1/3)	69
Fig.63	4 A区出土遺物53	III d層 (S : 1/3)	70
Fig.64	4 A区出土遺物54	III d層 (S : 1/3)	71
Fig.65	4 A区出土遺物55	III d層 (S : 1/2,1/3)	72
Fig.66	4 A区出土遺物56	III d層土製勾玉 (S : 1/2)	72
Fig.67	4 A区出土遺物57	III b層 (S : 1/3)	75
Fig.68	4 A区出土遺物58	III b層 (S : 1/3)	76
Fig.69	4 A区出土遺物59	III b層 (S : 1/3)	77
Fig.70	4 A区出土遺物60	III b層 (S : 1/3)	78
Fig.71	4 A区出土遺物61	III b層土製勾玉 (S : 1/2)	78
Fig.72	4 A区出土遺物62	III層群 (S : 1/3)	79
Fig.73	4 A区出土遺物63	その他の包含層 (S : 1/2,1/3)	80
Fig.74	4 A区出土遺物64	III e層・III c層 (S : 1/3)	81
Fig.75	4 A区出土遺物65	III d層 (S : 1/2,1/3)	82
Fig.76	4 A区出土遺物66	III d層 (S : 1/3)	83
Fig.77	4 A区出土遺物67	III d層 (S : 1/3)	84
Fig.78	4 A区出土遺物68	III d層 (S : 1/3)	85
Fig.79	4 A区出土遺物69	III層群 (S : 1/3)	86
Fig.80	4 A区出土遺物70	III d層 (S : 1/3)	87~88
Fig.81	4 A区出土遺物71	III d層 (S : 1/2,1/3)	89
Fig.82	4 A区出土遺物72	III b層・III層群 (S : 1/2,1/3)	90

Fig.83	4 A区出土遺物73 Ⅲ b層・Ⅲ層群 (S : 1/3, 1/4)	91~92
Fig.84	4 B区の位置 (S : 1/5,000)	125
Fig.85	4 B区全体図（下層）(S : 1/200)	127~128
Fig.86	4 B区全体図（上層）(S : 1/200)	129~130
Fig.87	4 B区南西壁セクション図 (S : 1/40)	132~134
Fig.88	4 B区西壁セクション図 (S : 1/40)	136~138
Fig.89	4 B区西壁セクション図（下層）(S : 1/40)	139
Fig.90	4 B区SK1遺構平面図 (S : 1/20)	140
Fig.91	4 B区SK2遺構平面図 (S : 1/20)	141
Fig.92	4 B区SK6・7遺構平面図 (S : 1/40)	141
Fig.93	4 B区SK3遺構平面図 (S : 1/20)	142
Fig.94	4 B区SK5遺構平面図 (S : 1/20)	143
Fig.95	4 B区南北ベルトセクション図 (S : 1/40)	144~146
Fig.96	4 B区遺物出土状態1 L6-1グリッド (S : 1/20)	148
Fig.97	4 B区遺物出土状態2 L6-1・2グリッド (S : 1/20)	149
Fig.98	4 B区遺物出土状態3 L6-2グリッド (S : 1/20)	150
Fig.99	4 B区出土遺物1 Ⅲ E層 (S : 1/3)	151
Fig.100	4 B区出土遺物2 Ⅲ C層群 (S : 1/3)	152
Fig.101	4 B区出土遺物3 Ⅲ C層群 (S : 1/3)	153
Fig.102	4 B区出土遺物4 Ⅲ C層群 (S : 1/3)	154
Fig.103	4 B区出土遺物5 Ⅲ C層群 (S : 1/3)	155
Fig.104	4 B区出土遺物6 Ⅲ C層群 (S : 1/3)	156
Fig.105	4 B区出土遺物7 Ⅲ C層群 (S : 1/3)	157
Fig.106	4 B区出土遺物8 Ⅲ D層群 (S : 1/3)	159
Fig.107	4 B区出土遺物9 Ⅲ D層群 (S : 1/3)	160
Fig.108	4 B区出土遺物10 Ⅲ D層群 (S : 1/3)	161
Fig.109	4 B区出土遺物11 Ⅲ D層群 (S : 1/3)	162
Fig.110	4 B区出土遺物12 Ⅲ D層群 (S : 1/3)	163
Fig.111	4 B区出土遺物13 Ⅲ D層群 (S : 1/3)	164
Fig.112	4 B区出土遺物14 Ⅲ D層群 (S : 1/3)	165
Fig.113	4 B区出土遺物15 Ⅲ D層群 (S : 1/3)	166
Fig.114	4 B区出土遺物16 Ⅲ D層群 (S : 1/3)	167
Fig.115	4 B区出土遺物17 Ⅲ D層群 (S : 1/3)	168
Fig.116	4 B区出土遺物18 Ⅲ D層群 (S : 1/3)	169
Fig.117	4 B区出土遺物19 Ⅲ D層群 (S : 1/3)	170
Fig.118	4 B区出土遺物20 Ⅲ D層群 (S : 1/3)	172
Fig.119	4 B区出土遺物21 Ⅲ D層群 (S : 1/3)	173
Fig.120	4 B区出土遺物22 Ⅲ D層群 (S : 1/3)	174
Fig.121	4 B区出土遺物23 Ⅲ D層群 (S : 1/3)	175
Fig.122	4 B区出土遺物24 Ⅲ D層群 (S : 1/3)	176
Fig.123	4 B区出土遺物25 Ⅲ D層群 (S : 1/3)	177
Fig.124	4 B区出土遺物26 Ⅲ D層群 (S : 1/3)	178

Fig.125	4 B 区出土遺物27	III D層群 (S : 1/3)	179
Fig.126	4 B 区出土遺物28	III D層群 (S : 1/3)	180
Fig.127	4 B 区出土遺物29	III D層群 (S : 1/3)	181
Fig.128	4 B 区出土遺物30	III D層群 (S : 1/3)	182
Fig.129	4 B 区出土遺物31	III D層群 (S : 1/3)	183
Fig.130	4 B 区出土遺物32	III D層群 (S : 1/3)	184
Fig.131	4 B 区出土遺物33	III D層群 (S : 1/3)	185
Fig.132	4 B 区出土遺物34	III D層群 (S : 1/3)	186
Fig.133	4 B 区出土遺物35	III D層群 (S : 1/3)	187
Fig.134	4 B 区出土遺物36	III D層群 (S : 1/3)	188
Fig.135	4 B 区出土遺物37	III D層群土製勾玉 (S : 1/2)	188
Fig.136	4 B 区出土遺物38	III D層群砂鉄入鉢 (S : 1/3)	188
Fig.137	4 B 区出土遺物39	III B層群 (S : 1/3)	189
Fig.138	4 B 区出土遺物40	III B層群 (S : 1/3)	190
Fig.139	4 B 区出土遺物41	III B層群 (S : 1/3)	191
Fig.140	4 B 区出土遺物42	その他の包含層 (S : 1/3)	192
Fig.141	4 B 区出土遺物43	その他の包含層 (S : 1/3)	193
Fig.142	4 B 区出土遺物44	III E層・III C層群 (S : 1/3)	194
Fig.143	4 B 区出土遺物45	III D層群 (S : 1/2, 1/3)	195
Fig.144	4 B 区出土遺物46	III D層群 (S : 1/3)	196
Fig.145	4 B 区出土遺物47	III B層群 (S : 1/2, 1/3)	197
Fig.146	4 B 区出土遺物48	III B層群 (S : 1/3)	198
Fig.147	4 B 区出土遺物49	III C層群・III D層群 (S : 1/2, 1/3)	199
Fig.148	4 B 区出土遺物50	III D層群 (S : 1/3)	200
Fig.149	4 B 区出土遺物51	III D層群 (S : 1/3)	201
Fig.150	4 B 区出土遺物52	III D層群 (S : 1/3)	202
Fig.151	4 B 区出土遺物53	III D層群 (S : 1/3)	203~204
Fig.152	4 B 区出土遺物54	III B層群・III D層群 (S : 1/3)	205~206
Fig.153	4 B 区出土遺物55	III D層群 (S : 1/3)	207
Fig.154	4 B 区出土遺物56	III B層群 (S : 1/2, 1/3)	208
Fig.155	4 B 区出土遺物57	III B層群 (S : 1/3)	209~210
Fig.156	4 B 区出土遺物58	III B層群 (S : 1/4)	211~212

付図1 4 A区出土遺物分布 III d層 (S : 1/80)

付図2 4 B区出土遺物分布 III D層群 (S : 1/80)

表 目 次

表 1 4 A区南壁セクション層序表	8
表 2 4 A区中央ベルトセクション層序表	13
表 3 4 A区遺物観察表1	93
表 4 4 A区遺物観察表2	94
表 5 4 A区遺物観察表3	95
表 6 4 A区遺物観察表4	96
表 7 4 A区遺物観察表5	97
表 8 4 A区遺物観察表6	98
表 9 4 A区遺物観察表7	99
表10 4 A区遺物観察表8	100
表11 4 A区遺物観察表9	101
表12 4 A区遺物観察表10	102
表13 4 A区遺物観察表11	103
表14 4 A区遺物観察表12	104
表15 4 A区遺物観察表13	105
表16 4 A区遺物観察表14	106
表17 4 A区遺物観察表15	107
表18 4 A区遺物観察表16	108
表19 4 A区遺物観察表17	109
表20 4 A区遺物観察表18	110
表21 4 A区遺物観察表19	111
表22 4 A区遺物観察表20	112
表23 4 A区遺物観察表21	113
表24 4 A区遺物観察表22	114
表25 4 A区遺物観察表23	115
表26 4 A区遺物観察表24	116
表27 4 A区遺物観察表25	117
表28 4 A区遺物観察表26	118
表29 4 A区遺物観察表27	119
表30 4 A区遺物観察表28	120
表31 4 A区遺物観察表29	121
表32 4 A区遺物観察表30	122
表33 4 A区遺物観察表31	123
表34 4 A区遺物観察表32	124

表35	4B区南西壁セクション層序表	132
表36	4B区西壁セクション層序表	135
表37	4B区南北ベルトセクション層序表	144
表38	4B区遺物観察表1	213
表39	4B区遺物観察表2	214
表40	4B区遺物観察表3	215
表41	4B区遺物観察表4	216
表42	4B区遺物観察表5	217
表43	4B区遺物観察表6	218
表44	4B区遺物観察表7	219
表45	4B区遺物観察表8	220
表46	4B区遺物観察表9	221
表47	4B区遺物観察表10	222
表48	4B区遺物観察表11	223
表49	4B区遺物観察表12	224
表50	4B区遺物観察表13	225
表51	4B区遺物観察表14	226
表52	4B区遺物観察表15	227
表53	4B区遺物観察表16	228
表54	4B区遺物観察表17	229
表55	4B区遺物観察表18	230
表56	4B区遺物観察表19	231
表57	4B区遺物観察表20	232

写真図版目次

- 卷頭図版1 上：4 A区・4 B区完掘状態の空撮（東から）
下：4 A区・4 B区完掘状態の空撮（南から）
- 卷頭図版2 上：4 A区遺物出土状態（西から）
下：4 A区遺物出土状態（南東から）
- 卷頭図版3 上：4 A区遺物出土状態（南から）
下：4 A区遺物出土状態（北から）
- 卷頭図版4 上：4 A区木根周辺の出土状態（東から）
下：4 A区木根周辺の出土状態（西から）
- 卷頭図版5 4 A区遺物出土状態
- 卷頭図版6 4 A区出土木製品
- 卷頭図版7 4 B区遺物出土状態
- 卷頭図版8 上：4 B区SK1出土状態
下：4 A区・4 B区調査区遠景（北西から）
- P L. 1 上：4 A区SK1完掘状態
下：4 A区SK1埋積状態
- P L. 2 上：4 A区P1完掘状態
下：4 A区P2完掘状態
- P L. 3 上：4 A区P3完掘状態
下：4 A区P4完掘状態
- P L. 4 上：4 A区遺物出土状態
下：4 A区遺物出土状態
- P L. 5 上：4 A区遺物出土状態
下：4 A区遺物出土状態
- P L. 6 上：4 A区木根周辺の遺物出土状態
下： 同上
- P L. 7 上：4 A区木根周辺の遺物出土状態
下：4 A区L6-21・22グリッドⅢd層遺物出土状態
- P L. 8 上：4 A区L6-17グリッドⅢd層遺物出土状態
下：4 A区調査風景
- P L. 9 4 A区Ⅲc層・Ⅲd層遺物出土状態
- P L. 10 4 A区Ⅲd層群遺物出土状態1
- P L. 11 4 A区Ⅲd層群遺物出土状態2
- P L. 12 4 A区Ⅲb層・Ⅲd層群遺物出土状態
- P L. 13 4 A区出土遺物1

- P L. 14 4 A区出土遺物2
P L. 15 4 A区出土遺物3
P L. 16 4 A区出土遺物4
P L. 17 4 A区出土遺物5
P L. 18 4 A区出土遺物6
P L. 19 4 A区出土遺物7
P L. 20 4 A区出土遺物8
P L. 21 上：4 B区完掘状態（南東から）
下：4 B区完掘状態（南から）
P L. 22 上：4 B区西完掘状態（手前）・4 A区（奥）
下：中央ベルトセクション（西から）
P L. 23 上：4 B区SK1完掘状態
下：4 B区SK1堅果類出土状態
P L. 24 上：4 B区SK1出土状態
下：4 B区SK1網籠状遺物出土状態
P L. 25 上：4 B区SK2堅果類出土状態
下：4 B区SK5完掘状態
P L. 26 上：4 B区SK6出土状態
下：4 B区SK6検出状態
P L. 27 上：4 B区L5-22・L6-1グリッド遺物出土状態
下：4 B区K5-19グリッド遺物出土状態
P L. 28 上：4 B区表土掘削状態
下：4 B区調査風景
P L. 29 4 B区ⅢC層・ⅢD層群遺物出土状態
P L. 30 4 B区ⅢD層群遺物出土状態
P L. 31 4 B区木製品・自然遺物出土状態
P L. 32 4 B区出土遺物1
P L. 33 4 B区出土遺物2
P L. 34 4 B区出土遺物3
P L. 35 4 B区出土遺物4
P L. 36 4 B区出土遺物5
P L. 37 4 B区出土遺物6
P L. 38 4 B区出土遺物7
P L. 39 4 B区出土遺物8
P L. 40 4 B区出土遺物9

居徳遺跡群 通巻目次

『居徳遺跡群 I』(本文編)

- 第Ⅰ章 調査に至る経過
- 第Ⅱ章 遺跡の位置と環境
- 第Ⅲ章 調査の概要
- 第Ⅳ章 調査の成果
 - (1) 1B区
 - (2) 1C区(その1)
 - (3) 1D区
- 第Ⅴ章 考察
- 1C区第Ⅳ層群出土土器について

『居徳遺跡群 II』(写真図版編)

- 1B区
- 1C区(その1)
- 1D区

『居徳遺跡群 III』

- 第Ⅰ章 調査の成果
 - (1) 確認調査(1)
 - (2) 1A区
 - (3) 1C区(その2)
 - (4) 1DN区
 - (5) 1F区
- 付編1 居徳遺跡群の自然科学分析
 - 漆塗り土器・赤彩土器の塗布材料と胎土材料-
- 付編2 高知県居徳遺跡群出土木製品の樹種調査結果
 - 確認調査(1)・1C区・1DN区出土木製品について-

『居徳遺跡群 IV』

- 第Ⅰ章 調査の成果
 - (1) 確認調査(2)
 - (2) 確認調査(3)
 - (3) 1E区
 - (4) 2A区

- (5) 3B区
- (6) 4C区

第Ⅱ章 考察
2A区検出の流路群について

- 付編1 居徳遺跡群から出土した大型植物化石
 - 1D区、1E区、1F区、4C区出土の遺物 -
- 付編2 居徳遺跡群出土土器の内容物
 - 4C区出土の遺物 -
- 付編3 居徳遺跡群出土木製品の樹種調査結果
 - 2A区の出土遺物 -

『居徳遺跡群 V』

- 第I章 調査の成果
 - (1) 4A区
 - (2) 4B区
- 付編1 居徳遺跡群から出土した木製品と木材片の樹種同定
 - 1A区、4A区、4C区出土の遺物 -
- 付編2 居徳遺跡群出土木製品の樹種調査結果
 - 4A区、4B区出土の遺物 -
- 付編3 居徳遺跡出土鉢入砂鉄の金属学的調査
 - 4B区の出土遺物 -

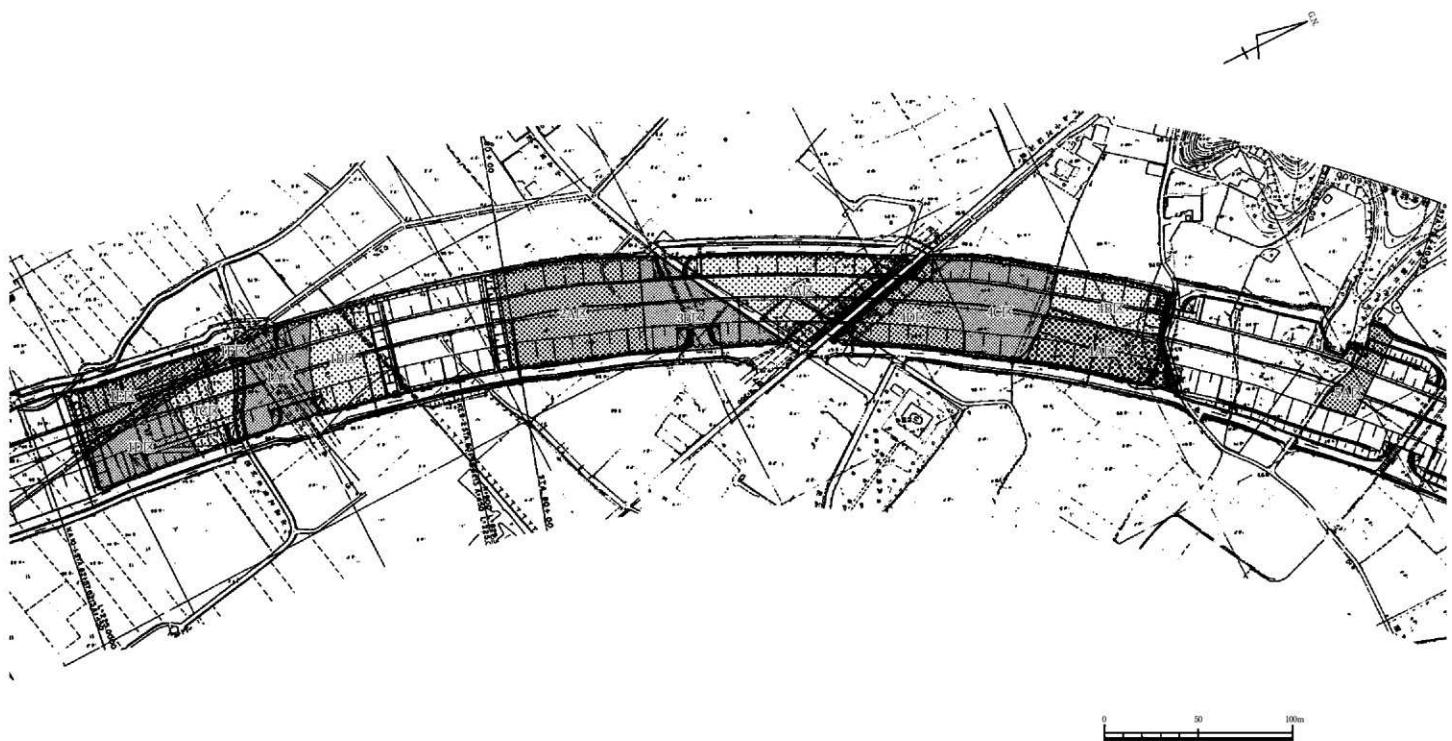


Fig. 1 居德遺跡群調査区配置図 (S : 1/2,000)

第Ⅰ章 調査の成果

(1) 4 A区

1. 4 A区の概要

4 区の殆どを包括する谷の東端に位置する調査区である。清滝山系から延びる小さな尾根はこの辺りでは標高を下げ、調査区の南側に至っては沖積地に埋没される。4 A区の東半は尾根の西側斜面に相当し、西半は現況平滑な水田面である。この尾根は北に隣接して設定された4 B区に連なり、西に開いた大きな弧を描く。嘗て比高差を残していたであろうこの尾根は調査時点では既に深く削平改変されており、西側は畠地、東側は道路となって当時の面影を留めていない。

調査は水田面下に残存していた遺物包含層を中心としてすすめられ、主に尾根から延びるなだらかな斜面で進められた。出土遺物は縄文晩期から古墳時代、古代・中世の土器・土製品、石器・石製品、木器・木製品などである。縄文晩期から弥生前期の遺物はさほど多くはないが、包含層の最下層で発見されたものである。隣接する調査区、4 C区東端で検出された流路跡の一部機能時期と重なるものと考えられる。古墳前期から中期にかけては遺物の出土点数も多く、残存状態も良好であった。斜面部に残された土師器の多くは完形または完形に近いものであり、鉢、甕、高壺を中心として小型丸底土器やミニチュア土器などの祭祀遺物が出土している。の中には、斜面に残された木の根 (Fig.10) 周辺に多くの土器が発見されており、一つの祭祀単位を形成していたものと考えられる。木器・木製品の出土も古墳時代以降多く認められ、この調査区周辺が洪水時に冠水する環境にあったことを物語るものであろう。

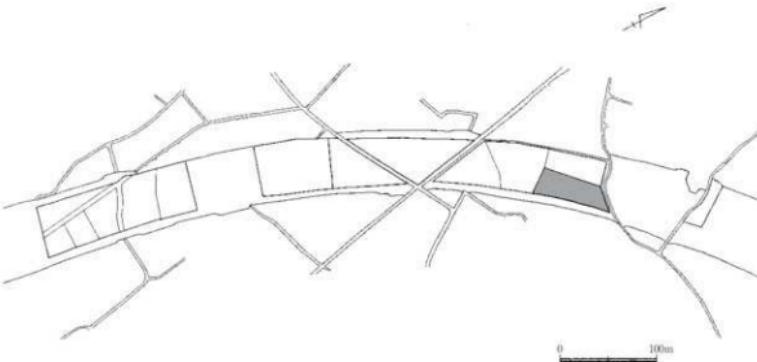


Fig.2 4 A区の位置 (S : 1/5,000)

2. 調査の方法

4 A区の調査は平成10年1月から行われた。先ず、機械掘削を平成10年1月26日から開始した。調査区の東半は尾根状の高位に相当し遺構の残存が期待されたが、表土下に地山面（黄褐色礫層）が存在しており、耕作（畠、水田）により強く削平を受けたものと考えられる。遺構の発見は一部が旧斜面付近（沖積層との境界付近）で可能であった。次に、機械包含層掘削を平成10年1月28日から開始した。西半の沖積層（粘性土層）部分が掘削の対象であり、遺物の包含が比較的薄い堆積層を掘削した結果、南西方向への緩やかな傾斜面が以下の遺物密度が濃い堆積層として残存し、これについては人力による精査を行うこととした。最後に、各包含層の人力掘削は平成10年1月30日から開始した。掘削は平面的には第IV系公共座標に則った4m×4mのグリッドを単位としてを行い、調査区全体の堆積状態は西壁セクションを精査することで凡その掘削の目安とし、遺物密度が高い斜面部では各グリッドの境界壁と中央部の斜面に設けたセクションで堆積土層を確認して行った。遺物の取り上げは、遺構名・グリッド名と層名を記入することで行い、保存状態の良いものについては出土状態を写真撮影の上、図化または先述の公共座標を記録することで行った。遺構等の平面図作成については先の座標系を用いて1/10, 1/20等の縮尺で適宜行い、掘削後の航空測量に因っても行った。包含層の多くは粘土または粘質土層であり、斜面からは規模は小さい湧水が絶えず掘削作業の効率を低下させていた。また激しい降雨に際しては調査区に周辺に降った雨水が集中して数回に渡って冠水した。平成10年3月9日に掘削を終了し、3月18日に航空写真撮影、3月21日（土）に現地説明会を1区の成果と合わせて一般に行なった。

3. 層序

調査区の堆積状況は西南壁セクションに示されているとおり基本的には緩やかな洪水性の粘土乃至粘性土層の堆積であり、流路等の直接的な影響はなかったものと考えられる。

(1) 基本層序 (Fig.4)

I層・II層は耕作土、旧耕作土ならびに耕作に伴う層である。一部には地山崩壊角礫が含まれており、北又は東の尾根斜面の崩壊か削平が行われたものと考えられる。これらの土層を排除した時点で調査区の東半では黄褐色砂礫層（地山）が確認されており、西半では各堆積層が水平に削平され縞状を呈して確認された。

III層は調査の主体となった層群であり、縄文晩期から古代・中世の遺物包含層群と考えられる。上位からIII b層、III d層、III c層、III e層の各層が存在し、これらの層は更に細分されIII b-0からIII b-3層、III dからIII d-3層、III c層、III e層の各々に分けられる。III b層は腐植、植物遺体と木器・木製品を多く含んだやや湿潤な堆積環境にあったものと考えられる。時期的には古墳時代後期から古代のものであろう。III d層の各層を西南壁では判別することができなかった。斜面部分を中心とした堆積であり、斜面部分の崩壊に伴う一時的な堆積の可能性も考えられる。後述する4 B区のIII D層と共通する状況を示すものであるが、地山崩壊角礫を多く

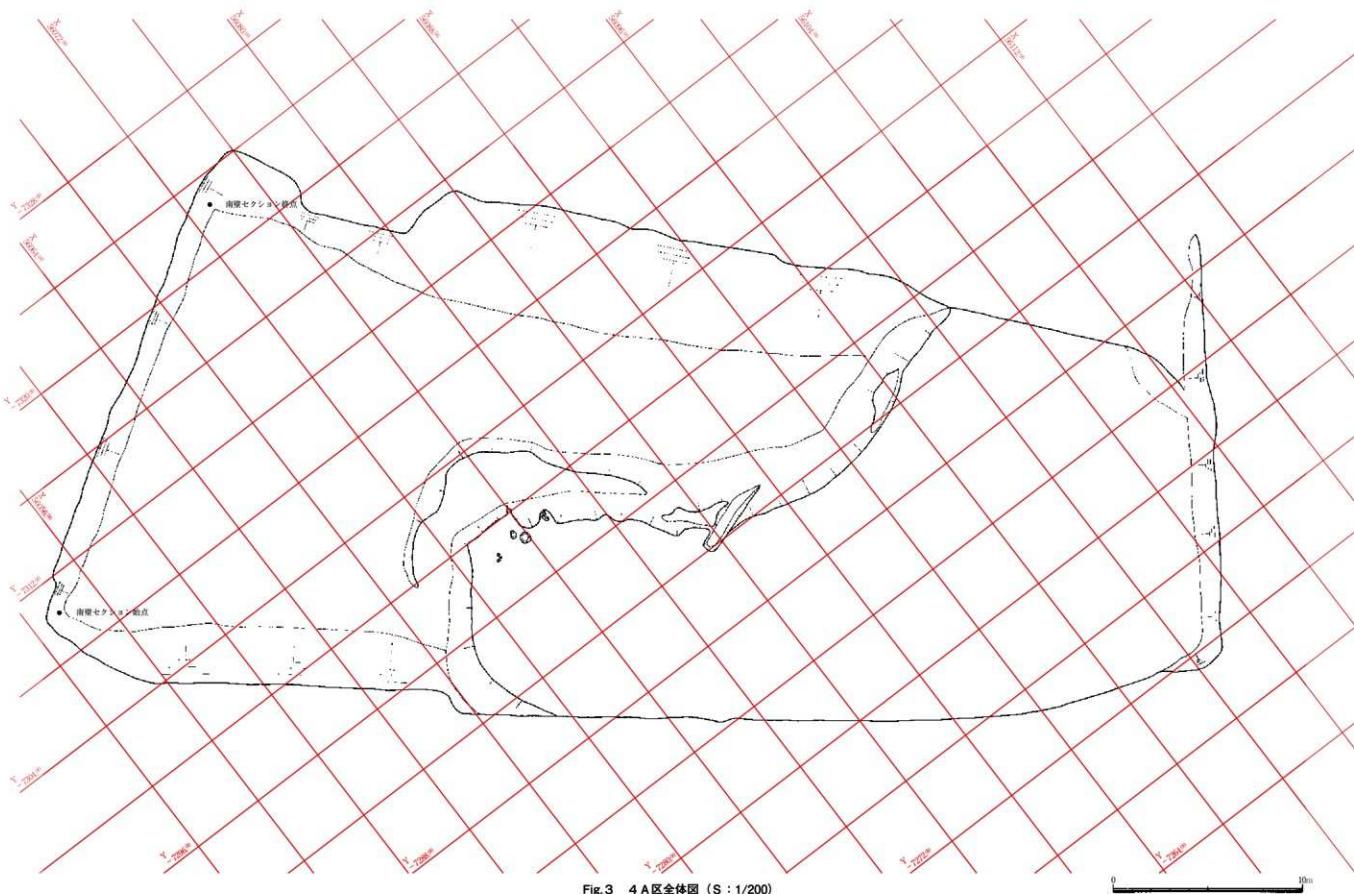


Fig.3 4 A区全体図 (S : 1/200)

含む点でやや様相が異なるか。時期的には弥生後期末から古墳時代中期のものであろう。^{Ⅲ c} 層は地山崩壊角礫を含むやや明色がかった色調であり、遺物の包含は破片を中心として薄い。時期的には弥生前期を中心としたものか。^{Ⅲ e} 層は淡色の粘土層であり、地山部分から南西側の谷底に向かってなだらかに下る堆積層である。地山部分からの小規模な湧水は^{Ⅲ e} 層を掘削する段階で顕著であり、本層を構成する粘土は水分を含んで力学的な平衡状態を失うと容易く崩壊することをくり返した。ここでは既報告の4C区SD2に係わる出土遺物が見られる。出土は散発的であり、縄文晩期土器が出土している。

(2) 中央ベルト (Fig.7)

調査区の中央部で地山検出面から西側に下る斜面に設定したベルトである。斜面部の堆積状況は上位に腐植を多く含んだ^{Ⅲ b} 層が厚く覆う。^{Ⅲ b} 層は暗褐色の粘性土層であり、木製品の出土も多く見られた。調査区全体に渡って緩やかな傾斜を有して堆積したことが窺える。古墳時代後期以降古代にかけての遺物は本層出自のものと考えられる。^{Ⅲ d} 層は祭祀に係わる遺物群が出土した層であり、ここで見る限り斜面にのみに存在したと考えられる。遺物の出土状態は現位置を留める可能性が強く、埋積等の痕跡は認められないが意図的なもの可能性が高い。このうち立ち木の根元周辺に置かれた（または木の根が遺物を取込んだ）。遺物群が出土したのは^{Ⅲ d} 層の上位部分である。掘削に際しては明確な区分が行なえず、下位部分では遺物の出土が希薄であり、土器も破片での出土が多かった。

4. 遺構

遺構は、全て地山上で確認または地山上に掘削されたものである。多くは上部を既に削平されており、遺構の底部が辛うじて残ったものが多かった。

①土坑

S K 1 (Fig.5)

S K 1 は調査区の中央部、地山面（黄褐色礫層）から斜面部にかけて検出され土坑であり、L6-18・19グリッドに位置する。平面形態は推定隅丸長方形を呈し、残存規模は長辺3.40m、短辺80cm、地山面からの深さは60cmを測る。遺構埋土は上位で灰色粘土であり、3層の整然とした堆積が認められる。長軸方向は北北西である。底面は比較的平らであり、残された壁面も概ね急または直立して立上がる。斜面部に開いていたと考えられ、開口部付近は時期的には異なるが、丁度^{Ⅲ d} 層の中で祭祀遺物が纏まって出土した部分に相当する。

出土遺物は弥生土器の甕底部1点であり、1を図示した。(Fig.11)

②ピット状遺構

P 1 (Fig.6)

調査区の中央部やや南寄りのL7-7グリッドに位置する。緩やかに彎曲する尾根の西側斜面の

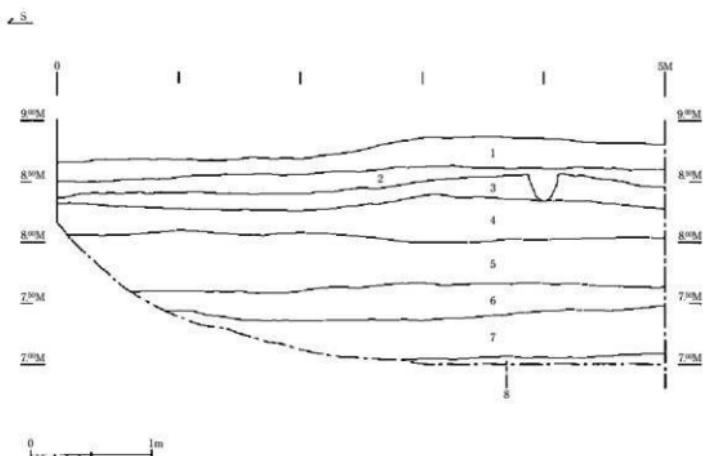
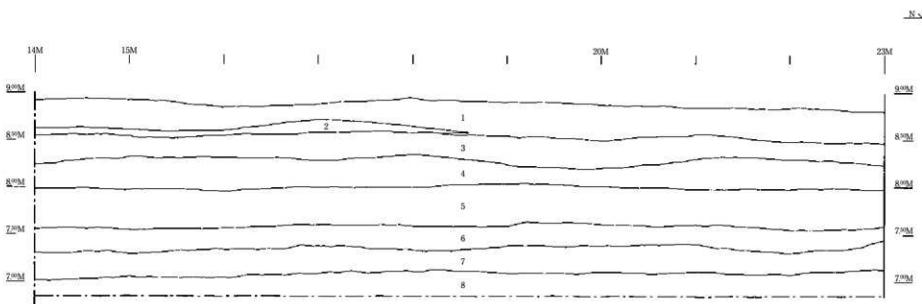
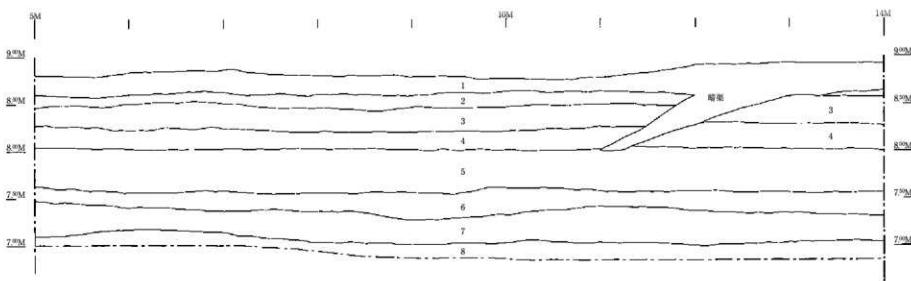


表1. 4 A区南壁セクション層序表

層	内容	その他
1	粘性あり、縮まりあり。褐色(10YR4/6)、青灰色粘土(5B5/1)を含む。	耕作土
2	粘性あり、縮まりあり。褐色(10YR5/1)土、小石を多く含む。	
3	粘性あり、縮まりあり。灰黄色(10YR4/2)、炭化物、地山崩壊跡を含む。	旧耕作土
4	粘性あり、縮まりあり。小型の植物遺体を含む。黒色土(N5/10)、暗赤褐色(5YR3/6)	
5	粘性あり、縮まりあり。小型の植物遺体を含む。褐色(10YR5/1)、に少し褐色(7.5YR5/3)	
6	粘性あり、縮まりあり。褐色(7.5YR4/1)	
7	粘土。縮まりあり。植物遺体を多少含む。灰色(7.5Y5/1)	
8	粘土。縮まりあり。青灰色(5B6/1)	III c 層

Fig. 4 4 A区南壁セクション図 (S : 1/40)



0 2m

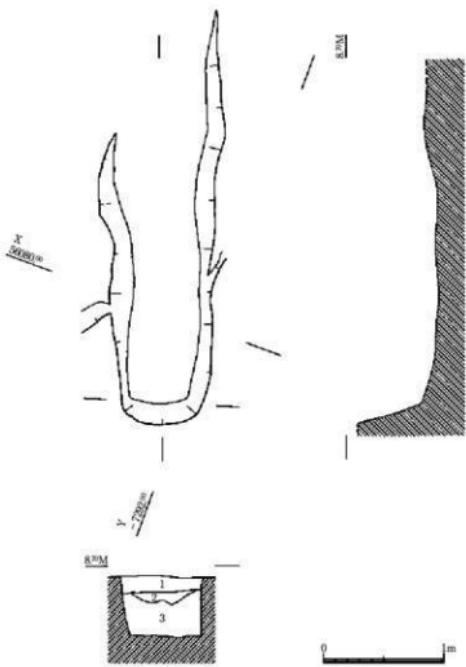


Fig. 5 4 A区 SK 1 遺構平面図 (S : 1/40)

先端部で南西側に張出した箇所に相当する。斜面際に近い地山の削平部分で検出された遺構であり、底部が辛うじて残されていたものである。平面形態は不整円形を呈し、規模は長径42cm、短径40cm、地山面からの深さは10cmを測る。遺構埋土は暗灰色土の單層である。

出土遺物は弥生後期末から古墳前期の土器破片である。

P 2 (Fig. 6)

P 1 に近い地山削平面で P 1 よりも斜面部に寄ったL7-2・7グリッドに位置する。P 1 と同じく遺構上位は削平により破壊されたものと考えられる。平面形態は円形であり、規模は直径約50cm、地山面からの深さは18cmを測る。遺構埋土は暗灰色土である。

出土遺物は無い。時期は弥生後期末から古墳前期か。

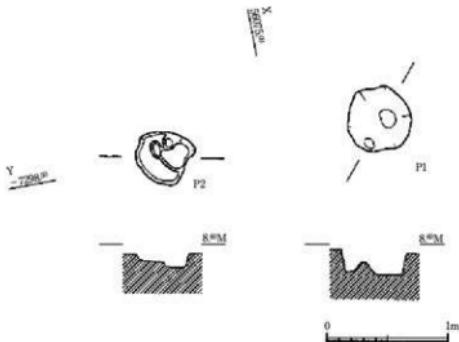


Fig. 6 4 A区 P 1・P 2 遺構平面図 (S : 1/40)

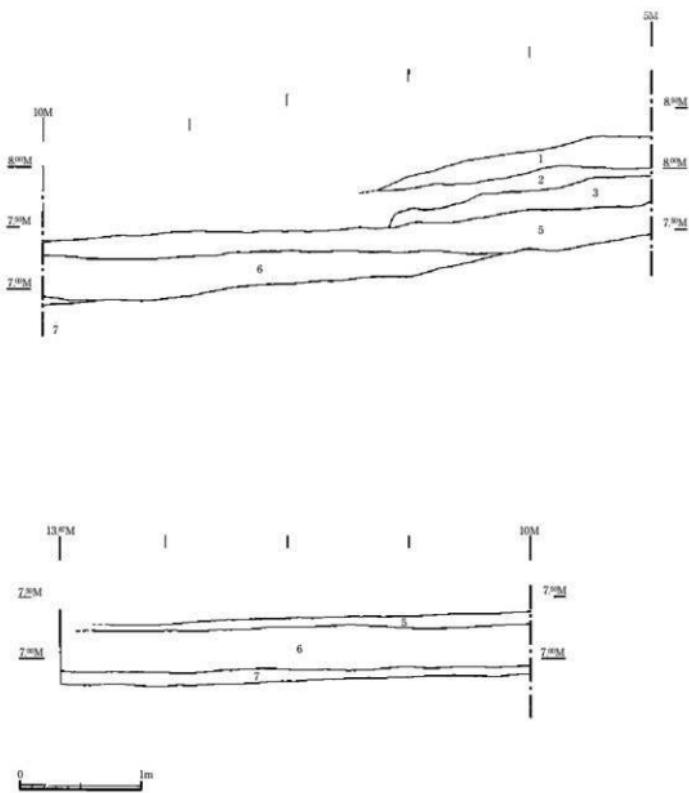


Fig.7 4A区中央ベルトセクション図 (S : 1/40)

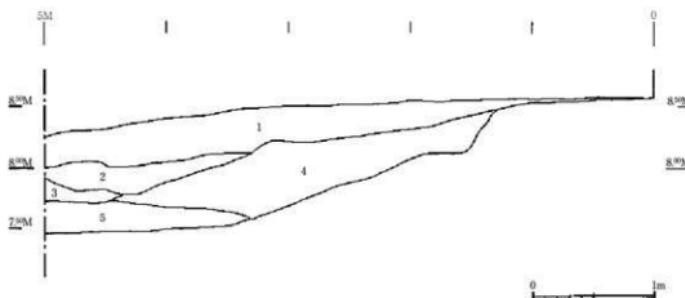


表2. 4 A区中央ベルトセクション層序表

層	内容	その他
1	粘性あり。締まりややあり。腐植を含む。褐色土	III b 層
2	粘性あり。締まりややあり。青色地山崩壊角礫を含む。灰褐色土	
3	粘性あり。締まりややあり。暗褐色土	
4	粘性あり。締まりあり。青色地山崩壊角礫を含む。灰色粘土	III d 層
5	粘性あり。締まりややあり。腐植を含む。黄褐色土	III d - 3 層
6	粘性あり。締まりあり。青色地山崩壊角礫を含む。青灰色粘土	III c 層
7	粘性あり。締まりあり。淡灰色粘土	III e 層

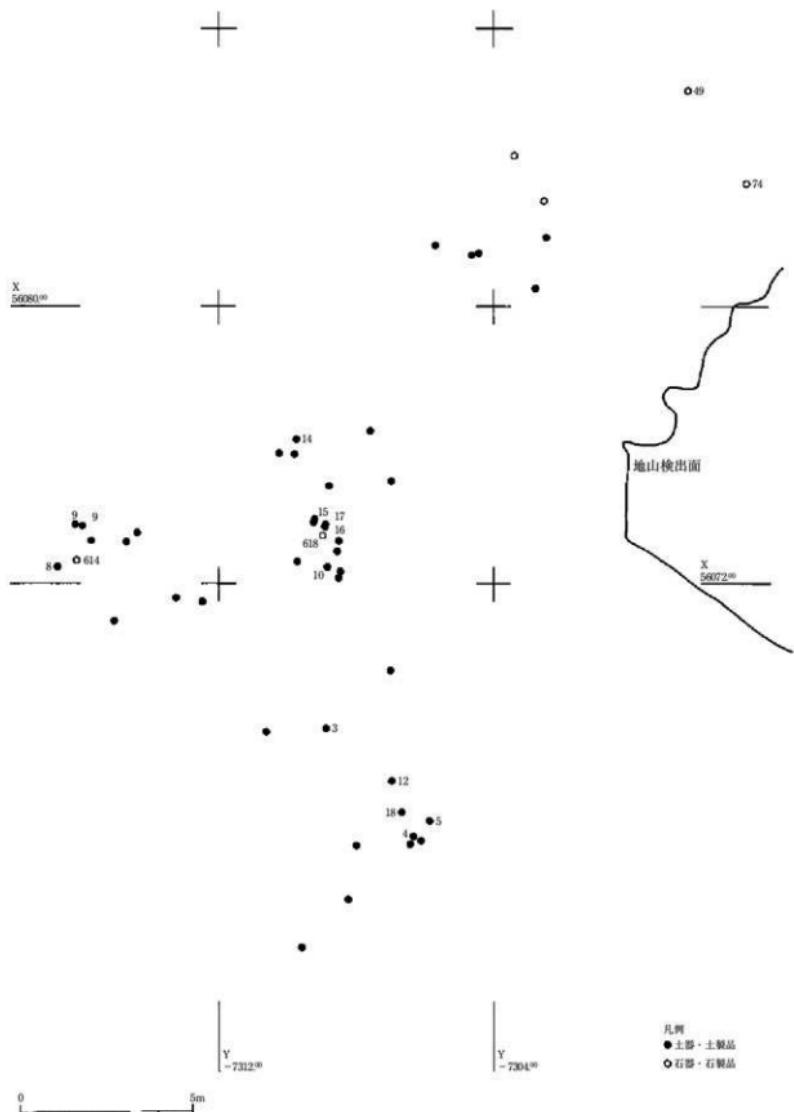


Fig. 8 4 A区IIIe層・IIc層遺物分布図 (S : 1/140)

5. 遺物

遺物は地山上で確認された各遺構とⅢe層、Ⅲc層、Ⅲd層群、Ⅲb層の各層から出土した。

(1) 遺構出土遺物

① 地山上検出遺構

S K 1 出土遺物 (Fig.11)

弥生土器が2点出土している。このうち図示できるものは平底の壺底部1である。また、他1点は壺の胴部破片であり、何れも弥生後期土器と考えられる。

P 1 出土遺物

土師器の壺と高坏の破片が各々3点と細片が出土している。図示できるものは無い。

(2) 包含層出土遺物

① 土器・土製品

Ⅲe層出土土器・土製品 (Fig.12~14)

出土土器・土製品の総点数は、144点であり、このうち縄文土器は116点、弥生土器は25点である。

縄文土器のうち浅鉢は25点、深鉢は90点、壺は1点である。弥生土器のうち壺は11点、壺は8点、鉢は1点である。

図示したものは2から19の18点である。2は浅鉢である。内縁気味に外斜め上方に立上がる口縁の内面にLRによる縄文と沈線1条を施す。体部の内面はヘラミガキで仕上げられる。3から10は深鉢の口縁である。3は口縁の外面に突帯を貼付し、押圧による刻みを施す。4は内傾する口縁に口唇は平らな面を成す。外面は条痕が施される。5は口唇が丸味を持った面を成す。外面には条痕が施される。6は口唇の平らな面に斜位の刻みが施される。7は口縁が直立する。内外面には条痕が施され、外面はのちナデ消す。8は口縁が内縁気味に立上がる。口縁下で屈曲するか。9は器面に粘土接合による凹凸が残される。10は口縁が波状を成し、内外面には凹凸が残される。11は体部の破片である。端部が結束しない区画沈線と磨消縄文が施される。縄文後期後葉の土器か。12は壺の胴部である。外面はハケのちミガキが施され、一部に赤色顔料が残る。13は深鉢の底部であり、平底である。14・15は深鉢である。14は口縁が内縁気味に立ち上がり、内外面はナデで仕上げられる。15は口縁が緩く外反する。16は外面に縦位のヘラミガキが施される。浅鉢か。17から19は深鉢の体部である。外面には条痕が残る。

Ⅲc層出土土器・土製品 (Fig.15)

出土土器・土製品の総点数は241点であり、縄文土器は98点、弥生土器は73点、土師器は70点である。

縄文土器のうち浅鉢は2点、深鉢は96点である。弥生土器のうち壺は24点、壺は49点である。土師器のうち壺は67点、高坏は1点、壺は1点、ミニチュア土器は1点である。縄文土器としたものの中には諸属性の違いは認められるものの、外見上は区別し難い深鉢形のものも縄文系



Fig. 9 4 A 区Ⅲd層遺物出土状態 1 (S : 1/30)

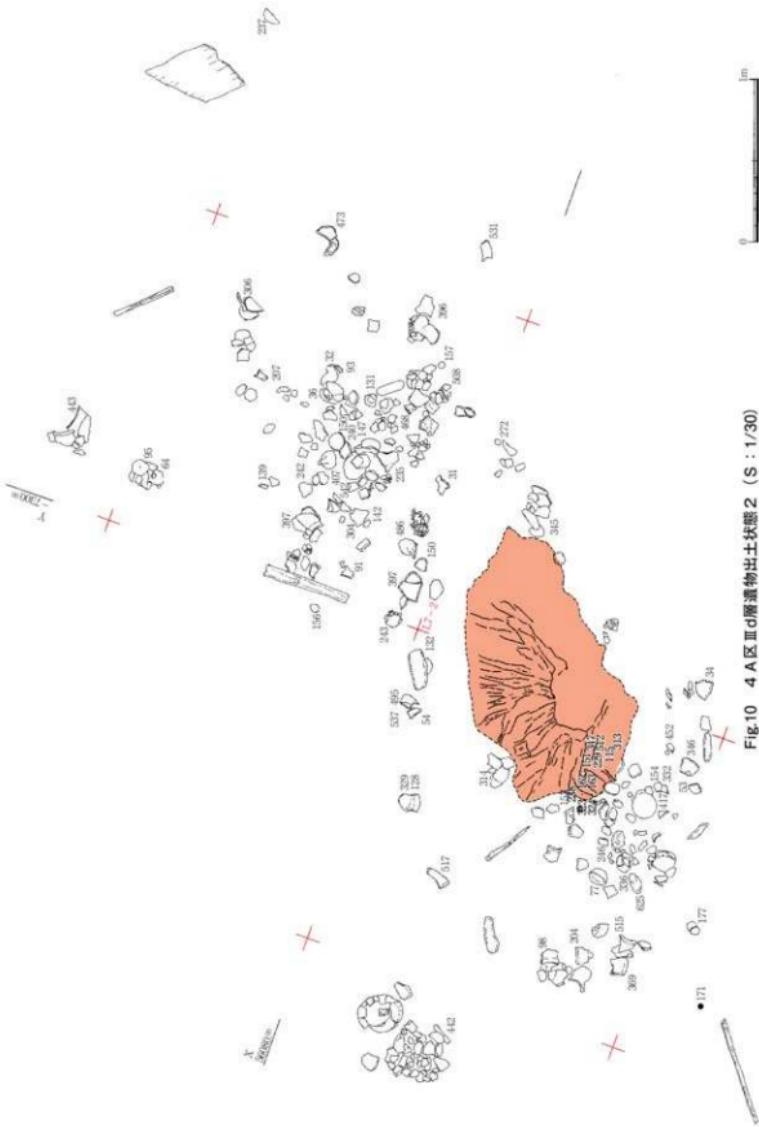


Fig.10 4 A区IIId層遺物出土状態2 (S : 1/30)

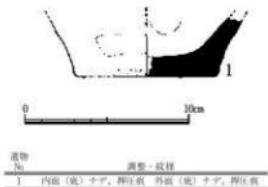


Fig.11 4 A区出土遺物 1 SK 1 (S : 1/3)

土器として扱った。出土した弥生土器の中には前期を出自とするものが多く含まれる。

図示したものは20から25の6点である。20は壺である。口縁は波状を成し、外面に2条の円形浮紋列と櫛描沈線を施す。21は壺の口縁か。口唇は外傾する面を成し、外側に肥厚する。22・25は鉢の口縁か。口唇は丸味を持って修め、内外面にはナデを施す。23・24は壺または壺の底部である。24は外底面に溝状の窪みが廻る。

Ⅲd層出土土器・土製品 (Fig.16~66)

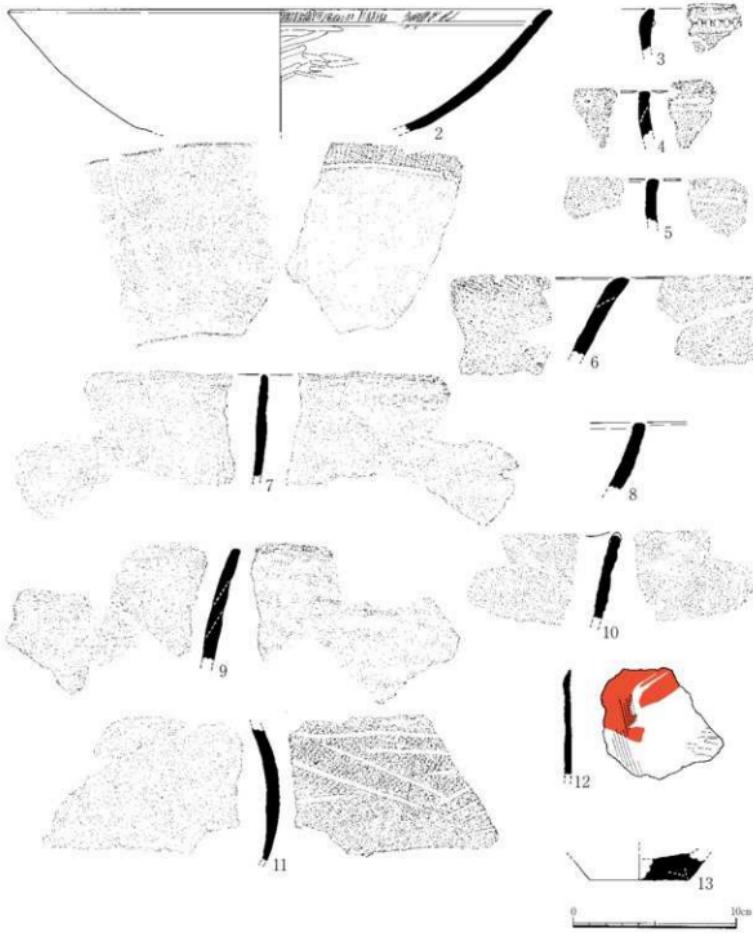
出土土器・土製品の総点数は7,671点である。そのうち縄文土器は13点、弥生土器は237点、土師器5,032点、須恵器7点である。縄文土器や弥生土器の時期的に古いものは崩壊等に伴う混入や斜面部調査による下層への掘削によるものと考えられる。

縄文土器のうち浅鉢は1点、深鉢は12点である。弥生土器のうち壺は143点、壺は53点、鉢は13点、高杯は3点である。土師器のうち壺は4,379点、高杯は380点、鉢は147点、壺は90点、ミニチュア土器は29点、器台は6点である。

図示したものは26から561の536点である。

高坏 (Fig.16~21)

図示したのは26から107の82点である。26は坏部口縁は屈曲の後に内縫気味に立上がる。脚部は屈曲の後に直線的に開く。27は口縁が屈曲の後に内縫気味に立上がる。脚部は屈曲の後に直線的に開く。28は口縁が弱い屈曲の後に内縫気味に立上がる。脚部は下位で外反して開く。29は口縁が屈曲の後に直線的に立上がる。脚部は屈曲の後にやや外反して開く。30は口縁が屈曲の後に直線的に立上がる。脚部は屈曲の後に外反して開く。31は口縁が弱い屈曲の後にやや外反して立上がる。脚部は屈曲の後に外反して開く。32は坏部が椀形を呈する。口縁は屈曲の後に内縫気味に立上がる。脚部は屈曲の後に外反して開く。33は口縁が屈曲の後にやや外反して立上がる。34は口縁が弱い屈曲の後に内縫して立上がる。脚部は屈曲の後に内縫して開く。35は脚部がやや浅い椀形を呈する。坏部は口縁で短く外反する。脚部は連続的に外反する。36は坏部に段を有する。坏部は口縁で短く外反する。脚部は連続的に外反する。37は坏部に段を有する。口縁は緩く外反して立上がる。脚部は弱い屈曲の後やや外反して開く。38は坏部に段を有する。坏部は口縁で外反する。脚部は屈曲の後に内縫して開く。39は坏部に段を有する。口縁は外反して立上がる。脚部は連続的に外反して開く。40は坏部に段を有する。口縁はやや外反して立上がる。脚部は屈曲の後に直線的に開く。41は坏部が椀形を呈する。口縁は内縫して立上がる。脚部は連続的に外反して開く。坏部の外面には丁寧なナデが施される。42は坏部が椀形を呈する。口縁は直線的に立上がる。脚部は連続的に外反して開く。43から46は坏部が



遺物 No.	測量・絞錠
2	内面 (L) 開文 (LR) 施紋、1 無枝錐形区画北端 (体) ヘラミガキ 外面ナデ
3	内面 (L) ナデ 外面 (L) ナデ
4	内面 (L) ナデ 外面 (L) 条板
5	内面 (L) ナデ? 外面 (L) 条板
6	内面 (L) ナデ? 外面 (L) 条板
7	内面条板 外面 (L) ナデ
8	内面ナデ 外面ナデ

遺物 No.	測量・絞錠
9	内面 (L) ナデ 外面 (L) ナデ, 凹凸面
10	内面 (L) ナデ, 凹-凹凸面 外面 (L) ナデ? 凹凸面
11	内面ナデ, 竹面区画北端内開文 (LR) 施紋、区画外側溝、北端部は粘土が盛り上がる
12	外縁ハケ、ヘラミガキ
13	内面 (R) ナデ

Fig.12 4 A区出土遺物2 IIIe層 (S : 1/3)

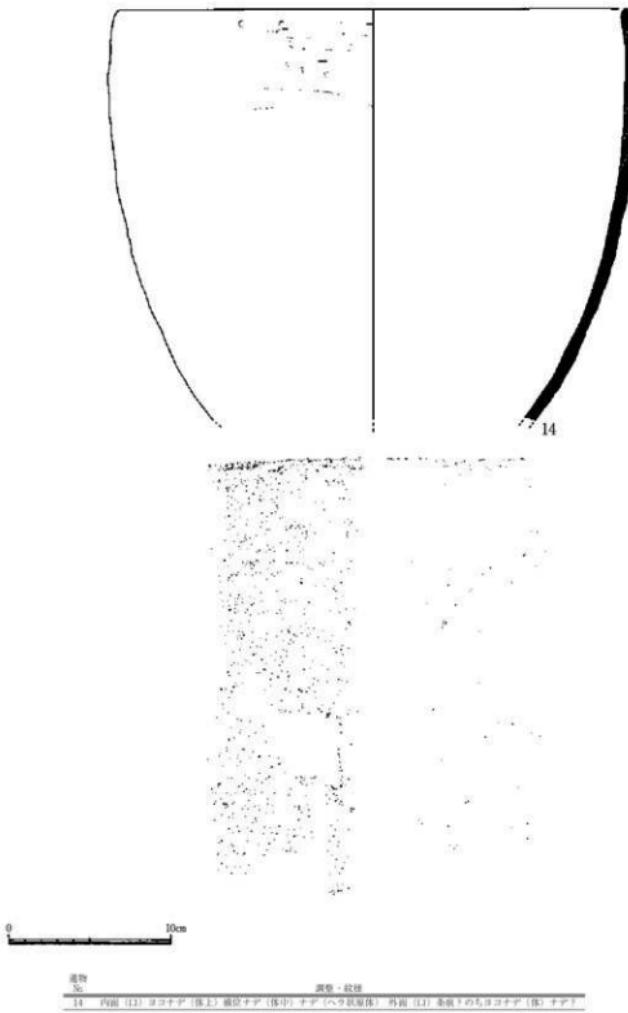


Fig.13 4 A区出土遺物3 Ⅲe層 (S : 1/3)

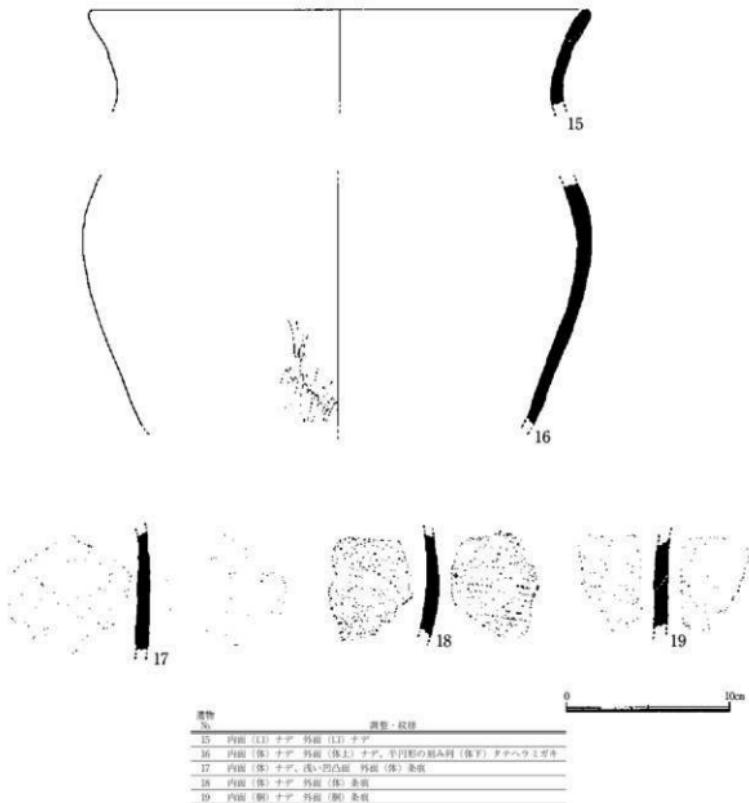


Fig.14 4 A区出土遺物4 IIIe層 (S : 1/3)

楕形を呈するものと考えられる。43は脚部が直線的に開き、裾で短く外反する。44から46の脚部は概ね連続的に外反する。

47から81は高坏の坏部である。47は坏部に段を有する。口縁は内彎して立ち上がる。48・49・51は口縁が屈曲の後に直線的に立上がる。50も恐らく口縁が直線的に立上がるものであろう。52は坏部に弱い段を有する。口縁は直線的に立上がる。53は口縁が弱い屈曲の後に内彎気味に立上がる。54は口縁が鋭い屈曲の後に直線的に立上がる。55は坏部の下位で段を有する。口縁は緩く外反する。内面には丁寧なナデが施される。56は坏部に弱い段を有する。口縁は緩く外反する。57は坏部の下位で屈曲する。口縁は短く外反する。58は坏部は楕形を呈する。口縁は弱い屈曲から緩く外反して立上がる。59は坏部に段を有する。口縁は外反して立上がる。60は

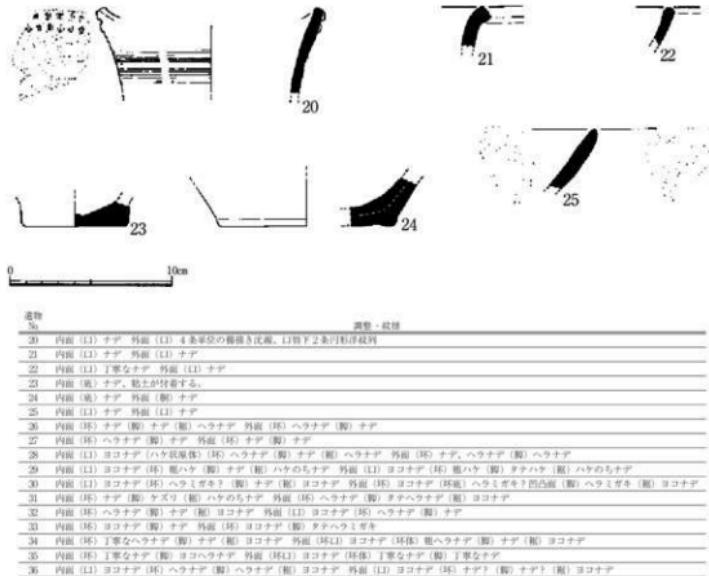


Fig.15 4 A区出土遺物5 Ⅲc層 (S : 1/3)

坏部に段を有する。口縁は緩く外反して立上がる。61は坏部に段を有する。口縁は外反して立上がる。62は椀形の坏部である。口縁は弱い屈曲から緩く外反して立上がる。63は坏部が浅い椀形を呈する。口縁は緩く外反して立上がる。64は坏部が浅い椀形を呈する。口縁は短く外反する。65は坏部が浅い椀形を呈する。口縁は短く外反する。66は坏部が浅い椀形を呈し、口縁は短く外反する。67は坏部が椀形を呈し、口縁は直線的に立上がる。68は坏部が椀形を呈し、口縁は内縁気味に立上がる。69は坏部が椀形を呈し、口縁は内縁気味に立上がる。70は坏部が椀形を呈すると考えられる。口縁は内縁して立上がる。71は坏部が椀形を呈し、口縁は内湾する。72は坏部が椀形を呈し、口縁は内湾する。73は坏部がやや容量のある椀形を呈する。器壁は厚く仕上げられ、口縁は内縁して立上がる。白色系の胎土を用いる。74は坏部が浅い椀形を呈する。口縁は内縁して立上がる。75は坏部が皿形を呈する。口縁は内縁して上方に立上がる。76は坏部が浅い椀形を呈する。口縁は内縁気味に立上がる。77は坏部が皿形を呈する。口縁は内縁して立上がる。78は坏部が皿形を呈する。口縁は内縁して上方に立上がる。79は坏部が浅い皿形を呈する。口縁は内縁して立上がる。80は坏部が皿形を呈する。口縁は内縁して上方に立上がる。81は坏部が椀形を呈すると考えられる。

82から107は高坏の脚部である。82は脚部で屈曲の後に幅はやや外反して開く。83は脚部で屈

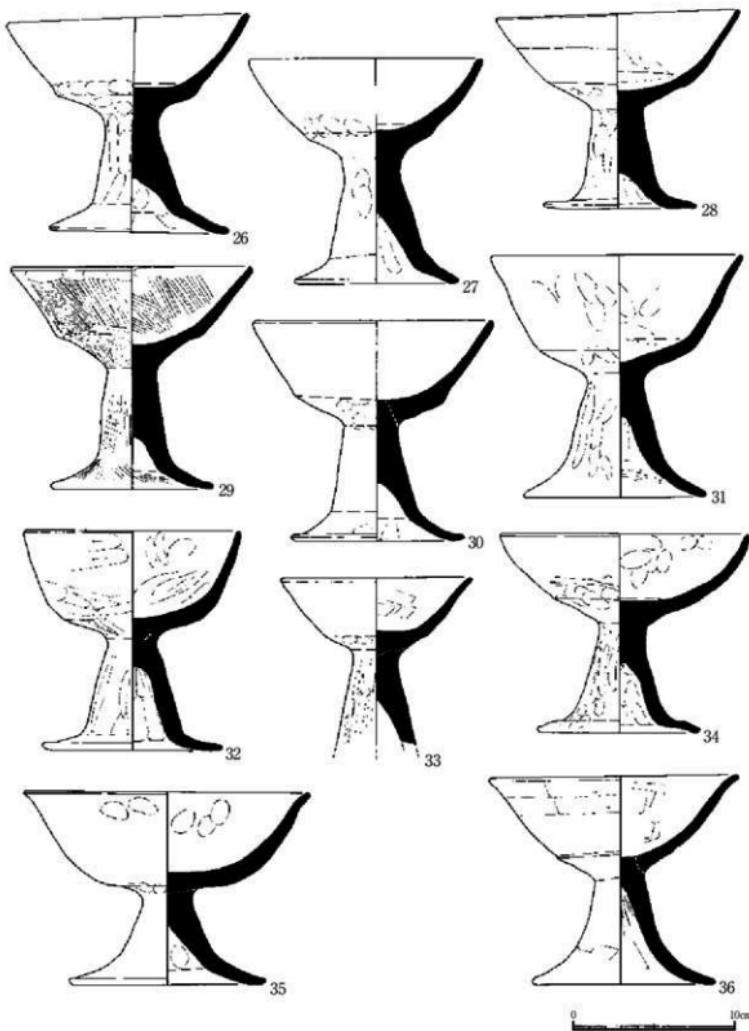


Fig.16 4 A区出土遺物6 III d層 (S : 1/3)

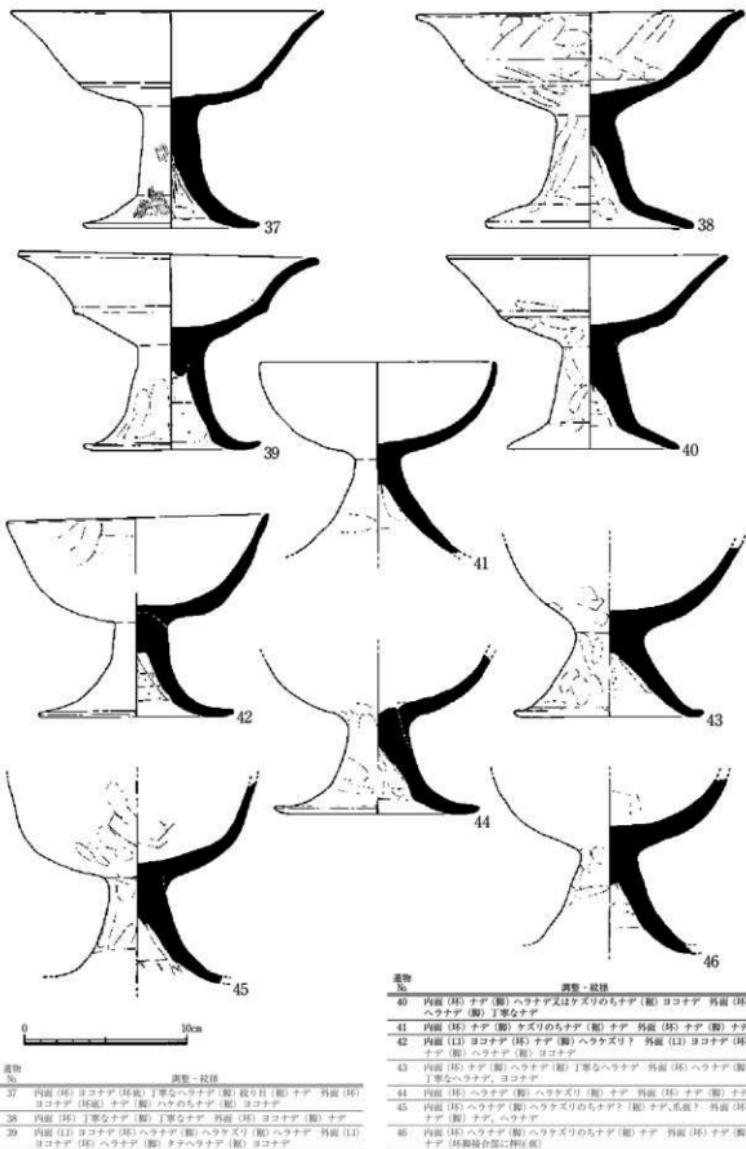
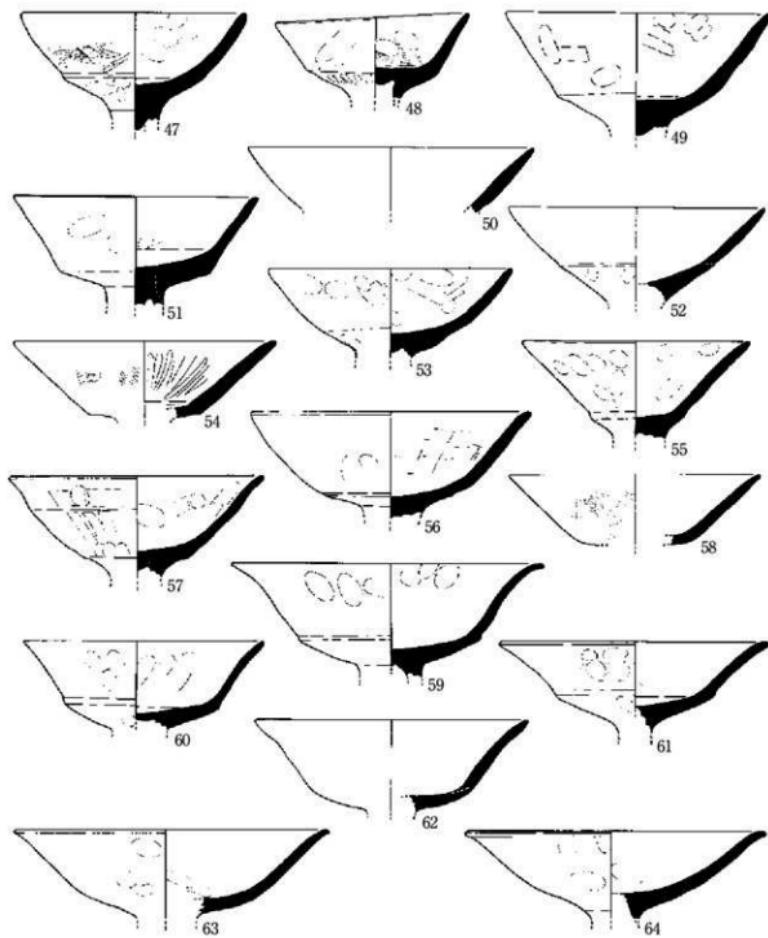


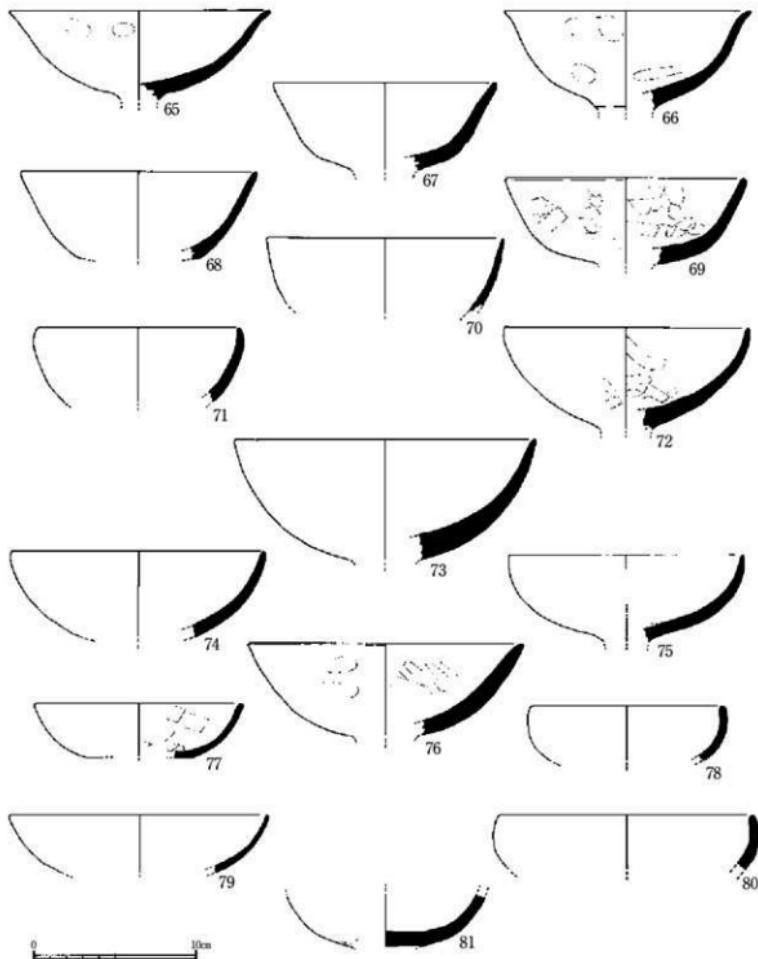
Fig.17 4 A区出土遺物7 Ⅲd層 (S : 1/3)



遺物 No.	測量・続種
47 内面(左)ヨコナデ(右)ハラナデ、ハクミオキ? 外面ハラミガキ?	
48 内面(左)ヨコナデ(右)ハクミのちナデ 外面(右)ナデ、ハラミガ	
49 内面(左)丁寧なハラナデ 外面(右)ナデ	
50 内面(左)ヨコナデ 外面(右)ヨコナデ	
51 内面(左)ヨコナデ(右)ハラナデ	
52 内面(左)ヨコナデ(右)ヨコナデ	
53 内面(左)ヨコナデ(右)ハラナデ	
54 内面(左)ヨコナデ(右)ハラナデ	
55 内面(左)ヨコナデ(右)ヨコナデ	
56 内面(左)ヨコナデ(右)ヨコナデ	
57 内面(左)ヨコナデ(右)ハラナデ	
58 内面(左)ヨコナデ(右)ヨコナデ	
59 内面(左)ヨコナデ(右)ヨコナデ	
60 内面(左)ヨコナデ(右)ヨコナデ	
61 内面(左)ヨコナデ(右)ヨコナデ	
62 内面(左)ヨコナデ(右)ヨコナデ	
63 内面(左)ヨコナデ(右)ハラナデ	
64 内面(左)ヨコナデ(右)ヨコナデ	

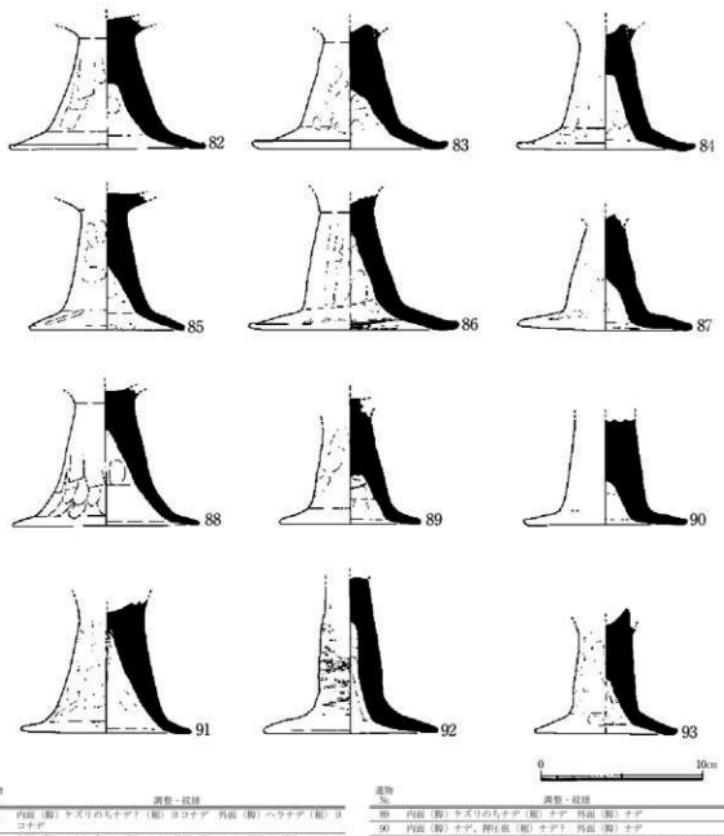
遺物 No.	測量・続種
57 内面(左)ヨコナデ(右)ハラナデ 外面(左)ヨコナデ(右)タテハラナデ(右)ヨコナデ	
58 内面(左)ナデ(右)ナデ 外面ハケのちナデ	
59 内面(左)ヨコナデ 外面(右)ヨコナデ	
60 内面(左)ヨコナデ(右)ナデ、浅い凸凹面 外面(左)ヨコナデ(右)ナデ、凸凹面	
61 内面(左)ナデ 外面(右)ヨコナデ(右)ハラナデはミガキ	
62 内面(左)ナデ 外面(右)ヨコナデ(右)ナデナカナ(透らかな面)	
63 内面(左)ハラナデ 外面(右)ナデ	
64 内面(左)丁寧なナデ 外面(左)ヨコナデ(右)ナデ	

Fig.18 4 A区出土遺物8 IIId層 (S : 1/3)



遺物 No.	調整・状様	遺物 No.	調整・状様
65	内面 (L) ヨコナギ (环) 丁寧なナギ 外面 (R) ナギ	73	内面ナギ (滑らかな面) 細かい凹痕 外面ナギ (滑らかな面)
66	内面 (R) ミサキナギナギ 外面 (L) ナギ	74	内面 (R) ナギ 外面 (L) ナギ
67	内面 (L) ヨコナギ (R) ナギ 外面 (L) ヨコナギ (R) ハラナギ	75	内面 (R) ナギ (滑らかな面) 外面 (R) ナギ
68	内面 (L) ヨコナギ (R) ナギ 外面 (R) ナギ	76	内面 (R) ハラナギ 外面 (R) ハラナギ
69	内面 (L) ヨコナギ (R) ヘラナギ 外面ヘラナギ	77	内面 (L) ハラナギ (棒) ハラナギ 外面ナギ バ凸面
70	内面 (R) ナギ 外面 (L) ナギ? 小さな凹凸面	78	内面ナギ 外面ナギ
71	内面 (L) ナギ 外面 (R) ナギ? 小さな凹凸面	79	内面ナギ (滑らかな面) 外面ナギ、ミサキ?
72	内面 (L) ヨコナギ (R) 丁寧なナギ 外面 (L) ヨコナギ (R) ナギ、凸面	80	内面 (L) ナギ 外面 (L) ナギ
73	内面ナギ (滑らかな面) 細かい凹痕 外面ナギ (滑らかな面)	81	内面 (L) ヨコナギ (R) ナギ 外面 (R) ナギ? ハラナギ

Fig.19 4 A区出土遺物9 Ⅲd層 (S : 1/3)

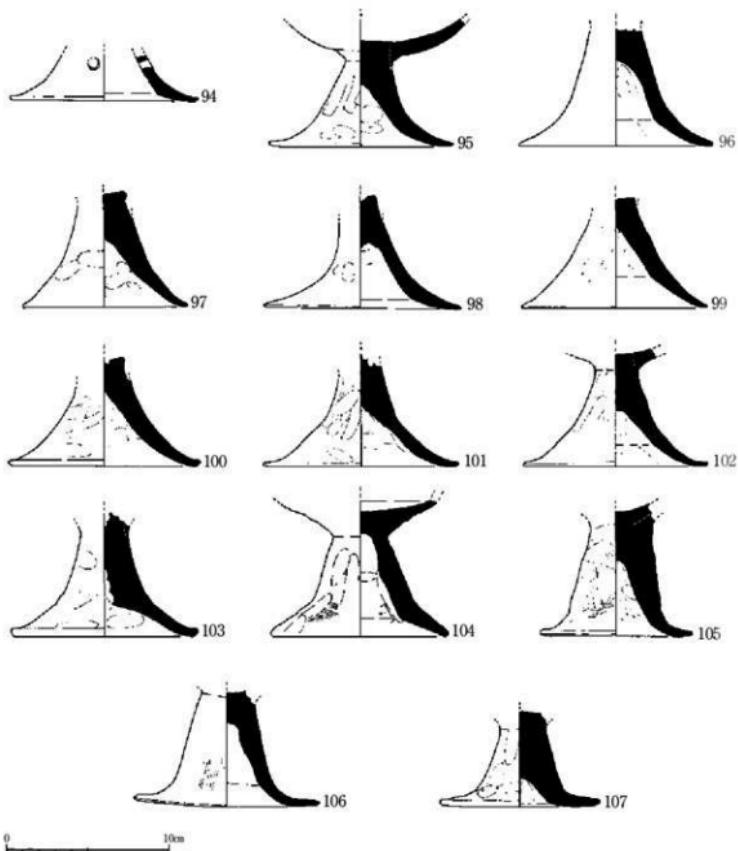


遺物 No.	調整・紋様
82	内面(脚) ナダのちナダ (脚) ヨコナダ 外面(脚) ヘラナダ (脚) ヨコナダ
83	内面(脚) ヘラケズリ (脚) ナダ 外面(脚) ナダ、凹凸面(脚) ヨコナダ
84	内面(脚) 凹凸ナダ (脚) ナダ、外延(脚) ヨコナダ (脚) ハナナダ (ハナ状施傷)
85	内面(脚) ナダ、凸面(脚) ナダ 外延(脚) ヘラヘナダ
86	内面(脚) ナダ (脚) ハナ 外面(脚) ヘラナダ (脚) ハナのちナダ
87	内面(脚) ナダ (脚) ハナ 外面(脚) ナダ、浅い凹凸面(脚) ヘラナダ
88	内面(脚) ナダ、凹凸面(脚) ヨコナダ 外面(脚) テクヘナダ (脚) ハナナダ (ハナ状施傷) (脚) ヨコナダ

遺物 No.	調整・紋様
89	内面(脚) ナダのちナダ (脚) ナダ 外面(脚) ナダ
90	内面(脚) ナダ、押圧痕 (脚) ナダ? 外面(脚) ナダ
91	内面(脚) 縦り目、ナダ (脚) ヨコナダ 外面(脚) ヘラナダのちナダ (脚) ハラナダ、ナダ
92	内面(脚) ナダ (脚) ヘラナダ 外面(脚) ヘラミガキ (脚) ヘラミガキ? (スリップ施傷?)
93	内面(脚) ナダ、縦り目 (脚) ヘラナダ 外面(脚) ヘラナダ

Fig.20 4 A区出土遺物10 III d層 (S : 1/3)

曲の後に裾は外反して開く。内面にはケズリ痕が残る。84は脚部で屈曲の後に裾は外反して開く。85は脚部で屈曲の後に裾は直線的に開く。内面には爪痕が残る。86は脚部で屈曲の後に裾はやや外反して開く。87は脚部で屈曲の後に裾は直線的に開く。88は脚部で外反し、屈曲の後に裾は短く直線的に開く。89は脚部で屈曲の後に裾は短く直線的に開く。90は脚部で屈曲の後に裾は直線的に開く。91は脚部で屈曲の後に裾は短く外反して開く。内面には絞り目が残る。92は



語素	翻訳	調整・絆接
94 内此(テ) ナデ(ヅル) 外此(テ) ナデ	内此(テ)	ナデ
95 内此(テ) ハラ(ハラダ) (脚伸びが跡跡) ヨコナデ(ヅル) 外此(テ) ナデ(ヅル)	内此(テ)	ハラ(ハラダ)
96 内此(テ) ケツリのちナデ(ヅル) ナデ(ヅル) ハラ(ハラダ) 外此(テ) ナデ	内此(テ)	ケツリのちナデ(ヅル)
97 内此(テ) ハラ(ハラダ) ナデ(ヅル) ヨコナデ(ヅル)	内此(テ)	ハラ(ハラダ)
98 内此(テ) ハラ(ハラダ) ヨコナデ(ヅル) 外此(テ) ナデ(ヅル) ヨコナデ	内此(テ)	ハラ(ハラダ)
99 内此(テ) ケツリのちナデ(ヅル) ナデ(ヅル) 外此(テ) ハラ(ハラダ)	内此(テ)	ケツリのちナデ(ヅル)
100 内此(テ) ハラ(ハラダ) ハラ(ハラダ) 外此(テ) ナデ	内此(テ)	ハラ(ハラダ)
101 内此(テ) ハラ(ハラダ) ナデ(ヅル) ハラ(ハラダ) ハラ(ハラダ) 頭古面	内此(テ)	ハラ(ハラダ)

書名	調査・経緯
102 内面(胸) ケツモのちナデ? (脇) ヨコナデ 外面(胸) テテヘラナナ (脇) ヨコナデ	
103 内面(胸) ヘラナナ (脇) ハナモのチナデ 外面(胸) ハナナナ (脇) ヨコナデ	
104 内面(胸) ハタケズイ (脇) ナナデ (脇) ナナデ (脇) ハナモ (脇) ハナモ (脇) ヨコナデ	
105 内面(胸) ナデ、ハラヒロ (脇) ヨコナデ 外面(胸) テテハナモのチナデ (脇) ヨコナデ	
106 内面(胸) ケツモのチナデ (脇) ヨコナデ 外面(胸) ナナナナ (脇) ナナナナ	
107 内面(胸) ナナナナ (脇) ヨコナデ ヘラナナ (脇) ナナナナ (脇) ナナナナ (脇) ヘラナナ	

Fig.21 4 A区出土遺物11 IIId層 (S : 1/3)

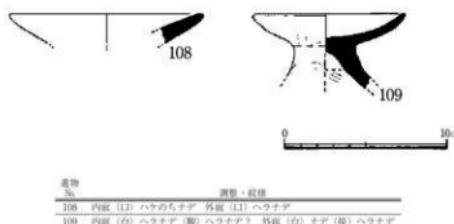


Fig.22 4 A区出土遺物12 III d層 (S : 1/3)

する。内面にはナデ・ヘラナデが施される。98は脚部が連続的に外反する。内面にはケズリが施される。99は脚部が連続的に外反する。内面にはケズリのちナデが施される。100は脚部が連続的に外反する。内面にはケズリが施される。101は脚部が連続的に外反する。内面にはケズリが施される。外面は凹凸が顕著である。102は脚部が連続的に外反する。内面にはケズリが施される。103は脚部が連続的に外反する。脚部の上半は中実である。104は脚部で弱く屈曲し、裾は直線的に開く。坏部で屈曲を持つ。105は脚部の下位で屈曲の後に裾は短く外反する。外面はハケ状原体によるナデが施される。106は脚部の下位で外反する。内面はケズリ後ナデが施される。外面はハケ状原体によるナデか。107はやや低い脚部である。裾は屈曲の後に直線的に開く。脚柱部は概ね中実である。

高坏には形態的な特徴が坏部と脚部の各々に認められる。

〈坏部〉

1. 坏部に屈曲（または段）を持つもの（26~34・36~40・47~61）、2. 坏部に屈曲（または段）を持たないもの（35・41~46・68~81）である。1には1a. 口縁が内彎気味に立上がるもの、1b. 口縁が直線的またはやや外反するもの（62~67）、1c. 口縁が外反して立上がるものが存在する。2は概ね楕形を呈するものであり、坏部が深いものと浅いもの、皿形に近いものがある。

〈脚部〉

I. 脚部に屈曲を持つもの（82~93）、II. 脚部が連続的に外反するもの（94~103）である。Iには1a. 裾が内済するもの、1b. 裾が直線的に開くもの、1c. 裾が外反するものが存在する。脚部の下位で外反するもの（39・106）についてはIIの連続的に外反するものとはやや異なるものと考えられる。

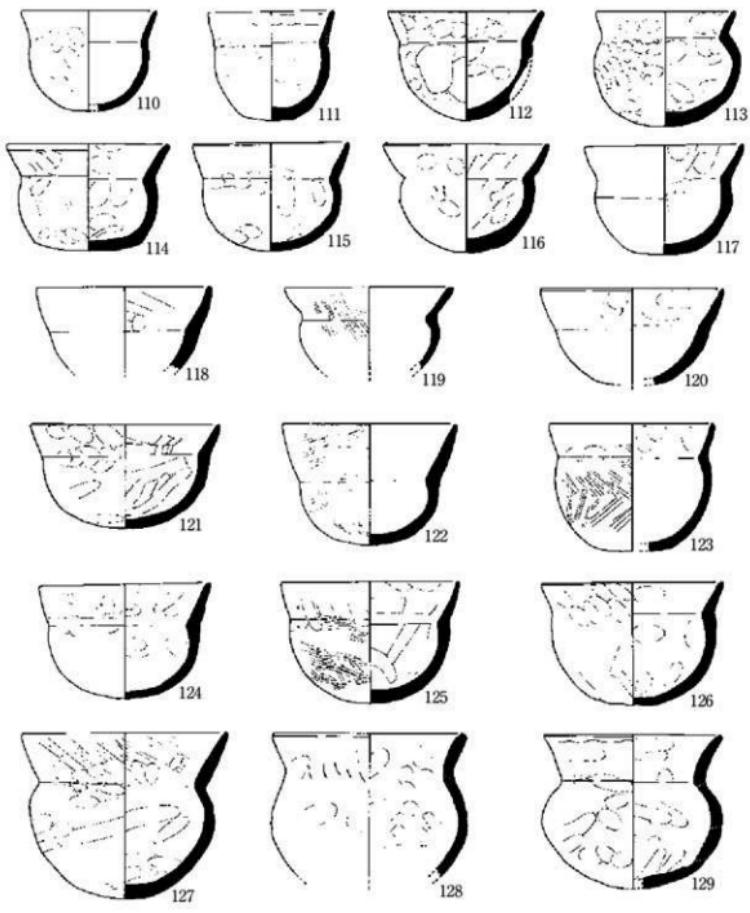
器台 (Fig.22)

小型の製品であり、台部は浅い皿状を成す。108は口縁が直線的に外上方に向かうものであり、109はやや内済する。高坏の脚部として示した94は器台の脚部の可能性がある。

小型丸底土器 (Fig.23~25)

小型丸底土器として取り上げたものは110から150の41点である。

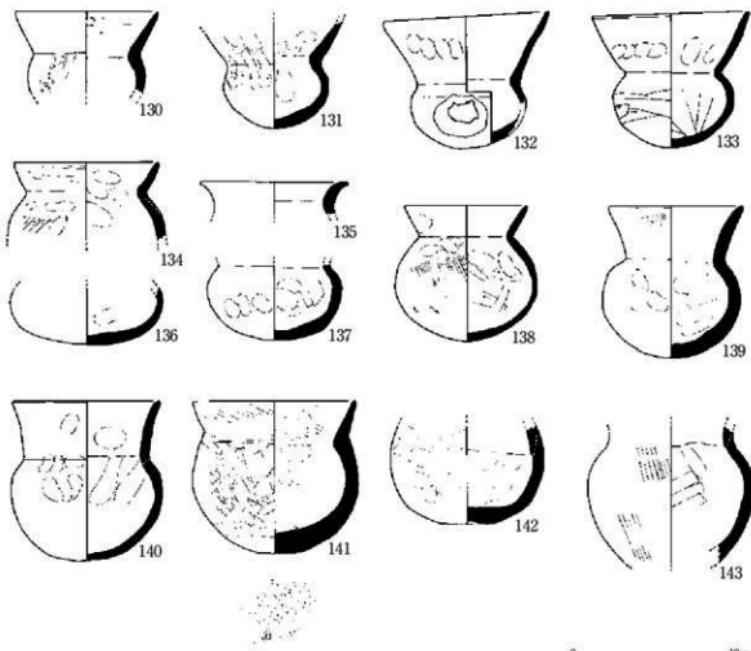
エンタシス形を呈する脚柱から屈曲の後に、裾は直線的に開く。外面はヘラミガキが施される。93は脚部で屈曲の後に裾は直線的に開く。94は脚部が連続的に外反する。円形の透かし孔が施される。器台の脚部か。95は脚部が連続的に外反する。内面には強いナデが施される。96・97は脚部が連続的に外反する。



遺物 No.	測定・観察
110	内面 (L1) ヨコナデ (体) 丁寧なヘラナデ 外面 (L1) ナデ。ヨコナデ (体) ナデ
111	内面 (L1) ナデ (側) ナデ 外面 (L1) ナデ (側) ヘラナデ
112	内面 (L1) ヘラナデ (側) ナデ 外面 (L1) ヨコナデ (体) ナデ
113	内面 (L1) ヨコナデ (体) 丁寧なヘラナデ 外面 (L1) ヨコナデ (側) ヨコナデ (側)
114	内面 (L1) ナデ (体) 工業化ヘラナデ 外面 (L1) ナデ (側) ハカのちナデ
115	内面 (L1) ヘラナデ (体) 丁寧なヘラナデ 外面 (L1) ヨコナデ (体) ナデ
116	内面 (L1) ヨコナデ (体) 丁寧なヘラナデ 外面 (L1) ヨコナデ (側) ヨコナデ (側) ヘラナデ。系統
117	内面 (L1) ナデ (体) 丁寧なヘラナデ 外面 (L1) ヨコナデ (側) ヨコナデ (側) 凸凹面
118	内面 (L1) 丁寧なナデ。ハラ压痕 (体) ナデ (滑らかな面) 外面ナデ?
119	内面 (L1) ヨコナデ (体) ナデ。神社痕 外面 (L1) ハカのちヨコナデ (体) 上) ハカ (部分) ナデ

遺物 No.	測定・観察
120	内面 (L1) ナデ (体) 丁寧なナデ 外面 (L1) ナデ。ヨコナデ (体) ナデ
121	内面 (L1) ヨコナデ (側) ハカ状痕体 (側) 丁寧なヘラナデ 外面ナデ
122	内面 (L1) ヘラナデ (側) 丁寧なヘラナデ 外面ヘラナギキ
123	内面 (L1) ヨコナデ (側) ヘラナデ 外面 (L1) ヨコナデ (側) ヨコナデ ハカ
124	内面 (L1) ヨコナデ (側) ヘラナデ 外面 (L1) ヨコナデ (側) ナデ
125	内面 (L1) ヨコナデ (側) 丁寧なヘラナデ 外面 (L1) ヨコナデ (側) やや 丁寧なヘラナギキ
126	内面 (L1) ヘラナデ (側) 丁寧なヘラナデ 外面 (L1) ヨコナデ (側) ヘラナデ
127	内面 (L1) ハカのちヘラナデ (側上) ハカのちナデ (側下) ヘラナデ? 外面 (L1) ハカのちナデ? (側) ヨコナデ (側) ナデ (側) 傷(ハケ状)のヘラナデ痕
128	内面 (L1) ナデ (側) 凸凹面 (側) ヘラナデ 外面 (L1) ヨコナデ ヘラナデ (側) ヘラナデ
129	内面 (L1) ヨコナデ (側) ナデ。神社痕 外面 (L1) ヨコナデ (側) ヨコナデ (側) ナデ (側) 強いヨコナデ。凹凸面

Fig.23 4 A区出土遺物13 3d層 (S : 1/3)



遺物 No.	調査・絞抜
130 内面 (L1) ヨコハケのちナデ (削) ナデ 外面 (L1) ハケのちナデ (削) ハケ	
131 内面 (L1) ヨコナデ (削) ナデ、押付底 外面 (L1) ナデ (削) ヘラナデ (削) ナデ	
132 内面 (L1) ヨコナデ (削) ナデ 外面 (L1) ヨコナデ (削) ミガキ?	
133 内面 (L1) ヨコナデ (削) ナデ ヘラナデ 外面 (L1) ヨコナデ (削) ヨコナデ、ケズリのちナデ	
134 内面 (L1) ヨコナデ (削) ナデ 外面 (L1) ヨコハナデ (削上) ヨコナデ (削) ナデ、ヘラナデ	
135 内面 (L1) ヨコナデ (削) ナデ 外面 (L1) ヨコナデ	
136 内面 (底) ナデ 外面 (底) ヘラナデ	

遺物 No.	調査・絞抜
137 内面 (削) ヘラナデ 外面 (削) 上半なヘラナデ	
138 内面 (L1) ヘラナデ (削) ナデ、指痕押压、ケズリのちナデ 外面 (L1) ナデ (削)	
139 内面 (L1) ナデ、ヘラミガキ? (削) ナデ 外面 (L1) ナデ、ヘラミガキ? (削)	
140 内面 (L1) ナデ (削) ナデ 外面 (L1) ヘラナデ (削) ナデ	
141 内面 (L1) ハケのちヨコナデ (削) ヘラナデ、外面 (L1) ハケのちヨコナデ (削) ナデ、ヨコナデ (削) ハケのちナデ	
142 内面 (削) ナデ、押付底 外面 (削) ハケのちナデ、押付底	
143 内面 (削) ヘラナデ 外面 (削) ヨコナデ (削上) ヨコナデ (削下) ヨコナデ	

Fig.24 4 A区出土遺物14 III d層 (S : 1/3)

110から129は鉢形とした。有段鉢または鍔状の口縁を有する鉢に近似する形態である。大きく広がった口縁を有し、口縁下に屈曲を持つ。横方向に張り出した浅い体部であり、緩やかな丸底を呈す。128・129はやや大型であり、球形に近く張出した胴体部から壺形か。130から150は壺形または壺形とした。132は球形の小さな胴体部から口縁はやや長く直線的に立上がる。仕上げは丁寧であり、胴体中位に剥落による孔が開く。大きく張出した球形の胴部と明瞭な頸部を有する。136・137の胴体部は鉢形のものか。また、147から150は容量も大きく小型の壺または壺とすべきか。器面の調整は通有の土器に見られるナデが施されるものも存在する。多くは丁寧に仕上げられており、ヘラミガキ風のナデも見受けられる。胎土についても精製されたも

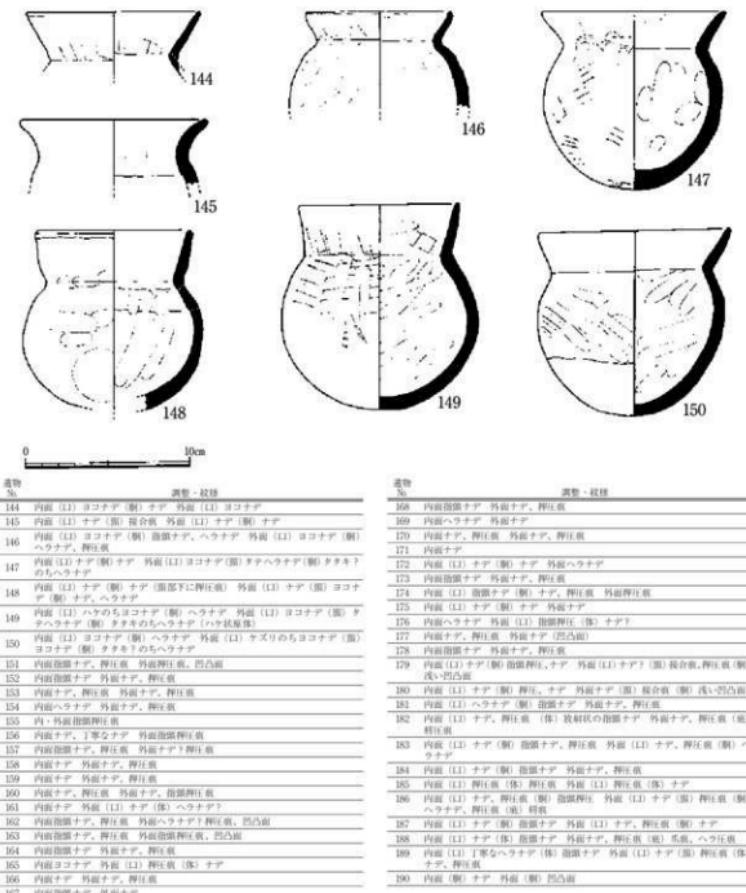


Fig. 25 4A区出土遗物15 三足鼎 (S : 1/3)

のが多い。

三二手弓子主器 (Fig. 26; 27)

ミニチュア土器として図示したのは151から194の44点である。

157から160は浅い皿形である。151から156と161から163は口縁の開いた所謂椀形である。164から190は鉢形または壺、壺形と考えられる。164・165・167・190は球形の胴体部から口縁は内側に傾する。179・177は短く口縁は外反する。166・176は口縁外面を押出すことで段部が形成される。

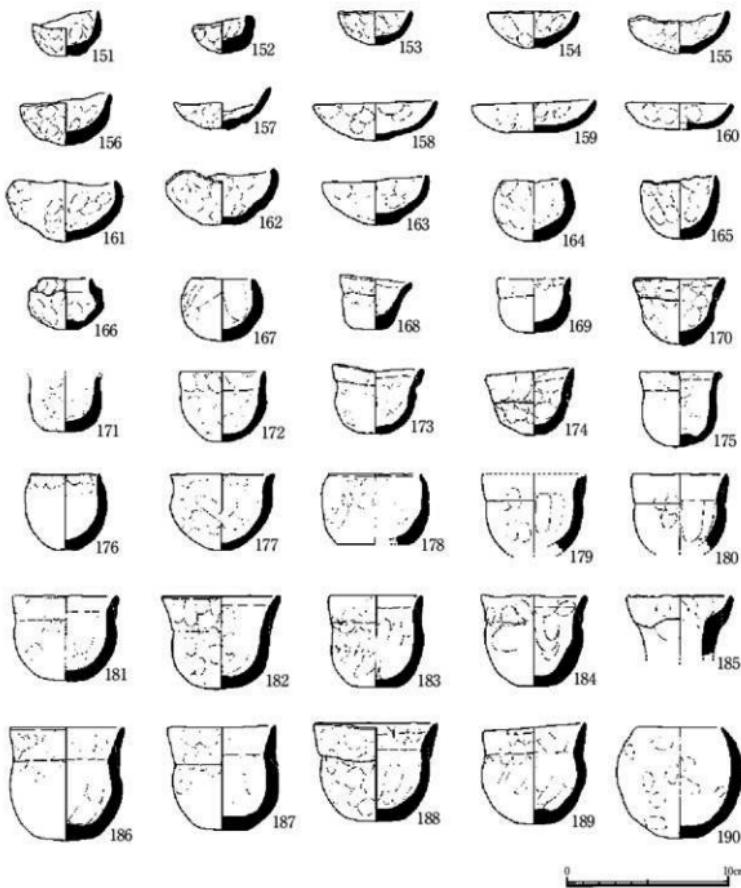
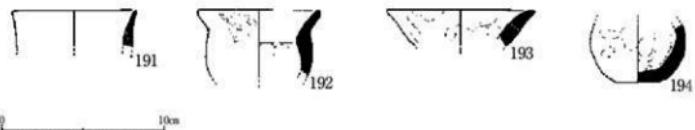


Fig.26 4 A区出土遺物16 IIId層 (S : 1/3)

れる。178は口縁は内彎し、底部は押しつぶされた平底を成す。168から170と179から188には口縁に粘土帯を貼付し肥厚する。外面には接合痕が明瞭な段として残る。口縁部を強く意識したものであり、壺形または壺形と考えられる。押圧痕を残した手捏ね成形によるものを基準とした。鉢形の形態を示すもので器高の低い皿状の製品には、鉢との区分が困難なものも存在する。

壺 (Fig.28~30)

壺として図示したものは195から213の19点である。



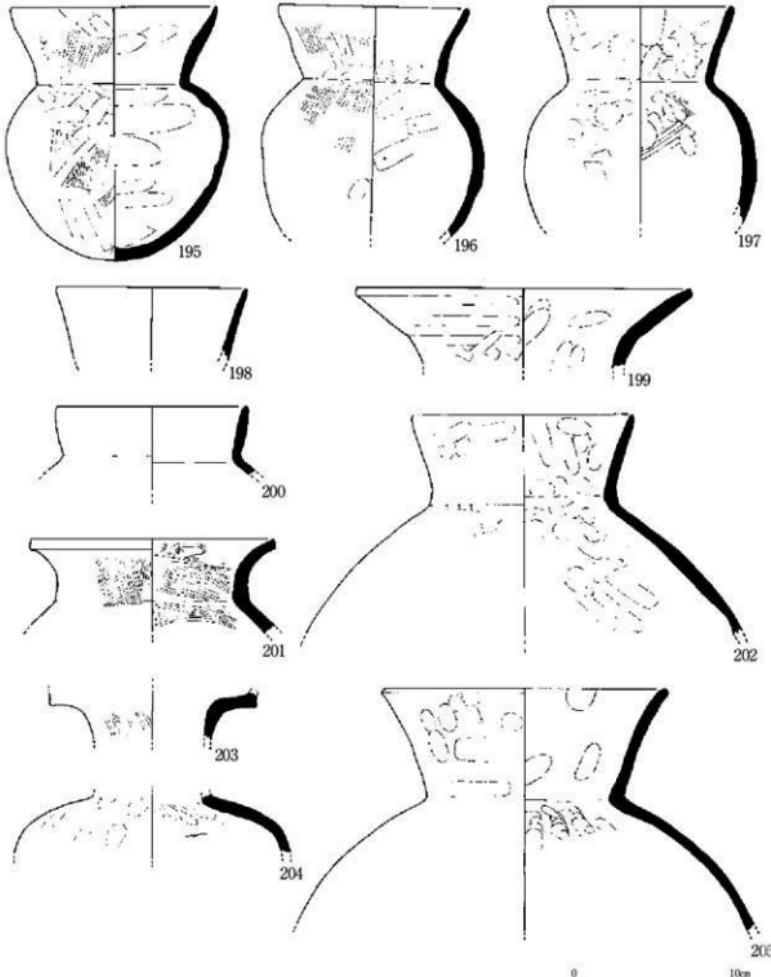
遺物 No.	調整・紋様
191 内面 (L) ナデ、接合痕 外面 (L) ナデ	
192 内面 (L) ヨコナデ (側) ナデ 外面 (L) 粗ハケ (側) ナデ?	

遺物 No.	調整・紋様
193 内面 (L) ナデ、押付痕 外面 (L) 押付痕	
194 内面 (側) ナデ 外面 (側) 押付痕	

Fig.27 4 A区出土遺物17 III d層 (S : 1/3)

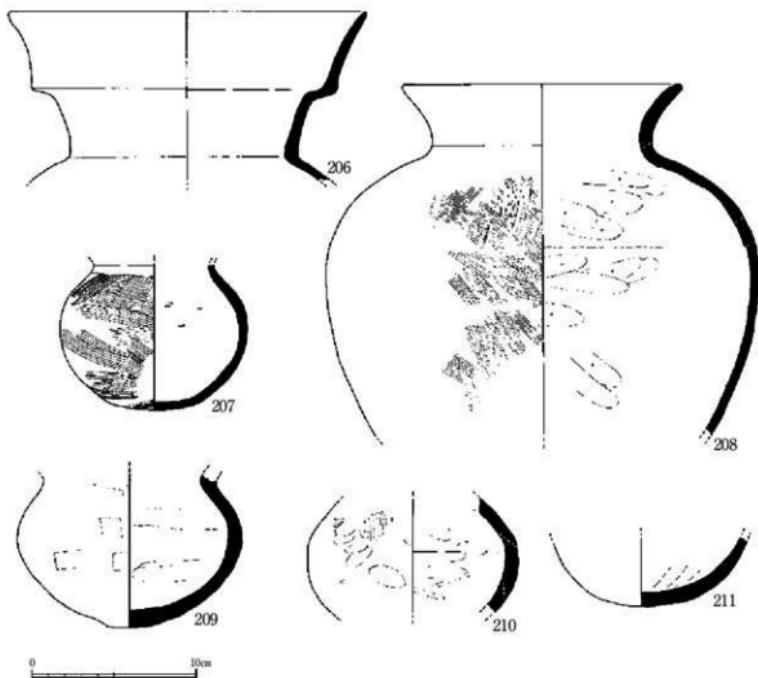
195から198・200はやや小型の製品で精製胎土である。195は肩張り形の胴部に口縁は内彎気味に立上がる。胴部の内面に強いヨコナデ、外面には粗ハケのちヘラナデを施す。196は球形の胴部に口縁はやや外反して立上がる。胴部の内面はケズリ、外面にはハケのちナデを施す。197は球形の胴部に口縁は直線的に立上がる。胴部の内面はハケのちナデ、外面にはナデを施す。198は口縁が直線的に立上がるものであり、小型丸底土器とするべきか。199は口縁が外反して立上がる広口形の壺である。口縁は外側にやや肥厚し、口唇は面を成す。弥生後期土器か。200は口縁が内彎気味に短く立上がる。201は口縁が外反して立上がる。口唇は外傾する面を成し、外側にやや肥厚する。外面はハケが施される。弥生後期土器である。202は球形と考えられる胴部に口縁は直線的に立上がる。胴部の上位内面には指頭押圧のちナデが施される。203は発達した頸部に口縁は大きく外反して開く。口唇は上方に肥厚し、やや窪んだ面を成す。搬入品である。204は203と同一個体と考えられる。胴部の上位は外側に大きく張出す。胎土は精緻である。205は球形と考えられる胴部から口縁はやや外反して立上がる。口唇は丸味を持った面を成す。内面には煤が付着する。206は二重口縁の壺である。口縁は明瞭な屈曲（段）を有し、のちに緩やかに外反して開く。口唇は丸く修め、外面にはナデを施す。図示し得ないが二重口縁には、他に口縁が屈曲したのちに直線的に立上がる例が認められる。胎土は灰色系の色調であり、やや粗な砂粒を含む。207は小型の壺である。球形の胴部に内面はケズリのちナデを施し、外面はハケを施す。208は球形の胴部に口縁は緩く外反して立上がる。口唇は丸く修める。胴部内面は強いナデが施され、砂粒が動くものの滑らかに仕上げられる。外面は細かいハケのちナデが施される。器面には凹凸面が残る。209・210は小型の壺である。胴部の中位がやや張出す球形を呈する。内面にナデを施し、内面には接合痕が残る。212は球形の胴部に口縁は緩く外反する。口唇は外傾する面を成す。胴部の内面はハケのちナデが施され、外面はタタキのちハケまたはナデが施される。213は胴部の中位がやや張出す球形を呈する。口縁はやや外反して立上がり、口唇は丸く修める。外面は概ねナデで仕上げられ、胴部の外面下位にはミガキが施される。

小型の壺には精製された胎土を持つものがあり、これらは器面の調整に於いてもナデやミガキで仕上げられる。



遺物 No.	測定・絞様	遺物 No.	測定・絞様
195 内面 (L) ヨコナデ、ナゲ (側) ヨコナデ (側) ヨコナデ (側) ハケが跡付 外面 (L) ヨコナデ、鰯小かのらナデ (側) ハケのらへナデ		201 内面 (L) ヨコナデ (側) ハケのらへナデ (側) ヨコナデ (側) ハケのらへナデ	
196 内面 (L) ハケのちナデ (側) ケズリのちナデ 外面 (L) ハケ (側) ハケ (側) 中) ハラナデ		202 内面 (L) ヨコナデ (側) ナゲ、押江痕 外面 (L) ヨコナデ (側) ナゲ	
197 内面 (L) ヨコナデ、押江痕 (側) ハケのちナデ、押江痕 外面 (L) ヨコナデ (側) 強いナデ (側) ナゲ、浅い凹凸面		203 内面 (L) ヨコナデ (側) ナゲ、押江痕 外面 (L) ヨコナデ (側) ヨコナデ (側) ナゲ	
198 内面 (L) ナゲ 外面 (L) ナゲ		204 内面 (側上) ナゲ痕、押江痕 (側下) ヨコハケのちナデ (ハケ状厚岸)、外面 (側) ナゲ	
199 内面 (L) ヨコナデ 外面 (L) ヨコナデ (下部はヘラナデ)		205 内面 (L) ヨコナデ、ナゲ (側) ナゲ、押江痕 外面 (L) ヨコナデ (側) ナゲ	
200 内面 (L) ヨコナデ 外面 (L) ヨコナデ			

Fig.28 4 A区出土遺物18 III d層 (S : 1/3)



遺物 No.	調整・枚様
206 内面 (L) ナデ 外面 (L) ナデ	
207 内面 (L) ヨコナデ (側) ナデ 外面 (R) ヨコナデ (側) ヨコナデ (側) ハケハケ	
208 内面 (L) ヨコナデ (側) 突いナデ 外面 (L) ヨコナデ (側) ハケハケナデ	
209 内面 (R) ナデ 外面 (R) ナデ	
210 内面 (R) ナデ 外面 (R) ヨコナデ (側) ヨコナデ (側) ハケのちへナデ (側) ハケのちへナデ (側)	
211 内面 (R) ナデ 外面 (R) ナデ	

Fig.29 4 A区出土遺物19 III d層 (S : 1/3)

その他の土器 (Fig.31)

214から228はIII d層出土土器で時期がやや古いものである。214は縄文土器の浅鉢口縁である。口縁の内外面には沈線紋が施され、外面には竹管による刺突紋が施される。215は広口壺の口縁である。上下に肥厚する口唇には櫛描沈線が施される。216は壺の口縁か。直立する口縁外面には凹線退化?の櫛描沈線が施される。217は壺破片を転用した土製円盤である。218から228は壺または壺の底部であり、平底である。218は狭い平端面を成し、220はやや突出した底部を呈す。

鉢 (Fig.32~40)

鉢のなかで図示したものは229から361の133点である。

229から256は小容量のものであり、形態的には皿形から浅い椀形を呈す。調整は主に内外面

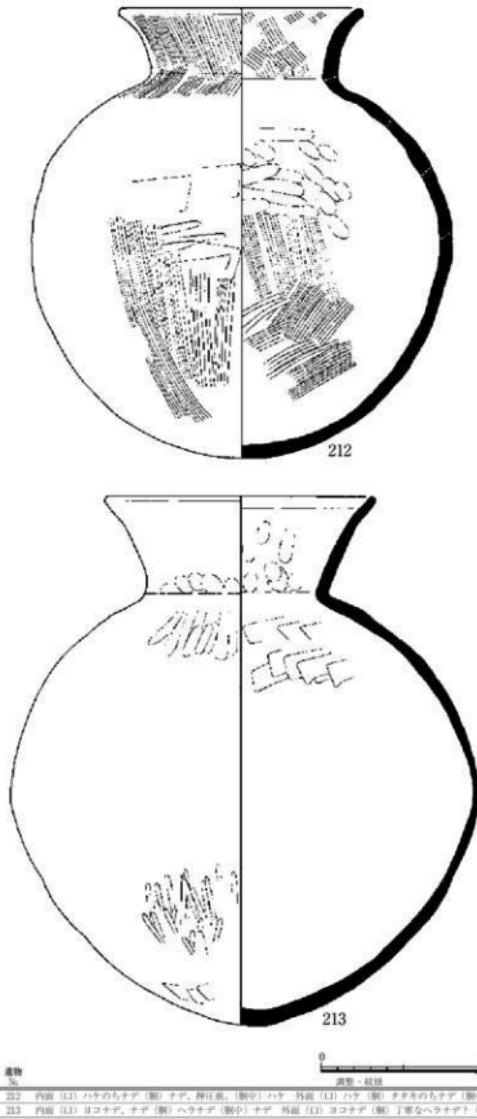


Fig.30 4 A区出土遺物20 Ⅲd層 (S : 1/3)

にナデを施すものが多く、押圧痕を残すものを見られる。内面が滑らかに仕上げられるものは型造りの製品¹¹が含まれると考えられ、内外面に押圧痕を多く残すものは手捏ね成形を考えられる。229・230は明らかに手捏ね成形によるものであろう。238は体部の内面を丁寧なナデで仕上げる。口縁の一部に煤が付着する。灯明皿として使用したものか。250は外面に横位のハケを施し、内面にもハケが残る。内面を滑らかに仕上げるものが多く、ヘラナデによるものが多い。底部は丸底のものが多く、中には押しつぶした平底?のものが存在する。255から267は皿形である。底部は緩い丸底か押しつぶした様な平底である。調整はナデ・ヘラナデが卓越しており、内面は概ね滑らかである。255は内擣氣味に立上がる口縁を有し、口唇は太く丸く修める。胎土は精錬され、白色系の色調に焼き上げられる。高壊の胎土に近似する。259は内外面に煤が付着する。260は口縁は内彎して立ち上がり、口唇は丸く修める。外面をタタキのちナデで仕上げ、内面は丁寧なナデを施す。外面には262や

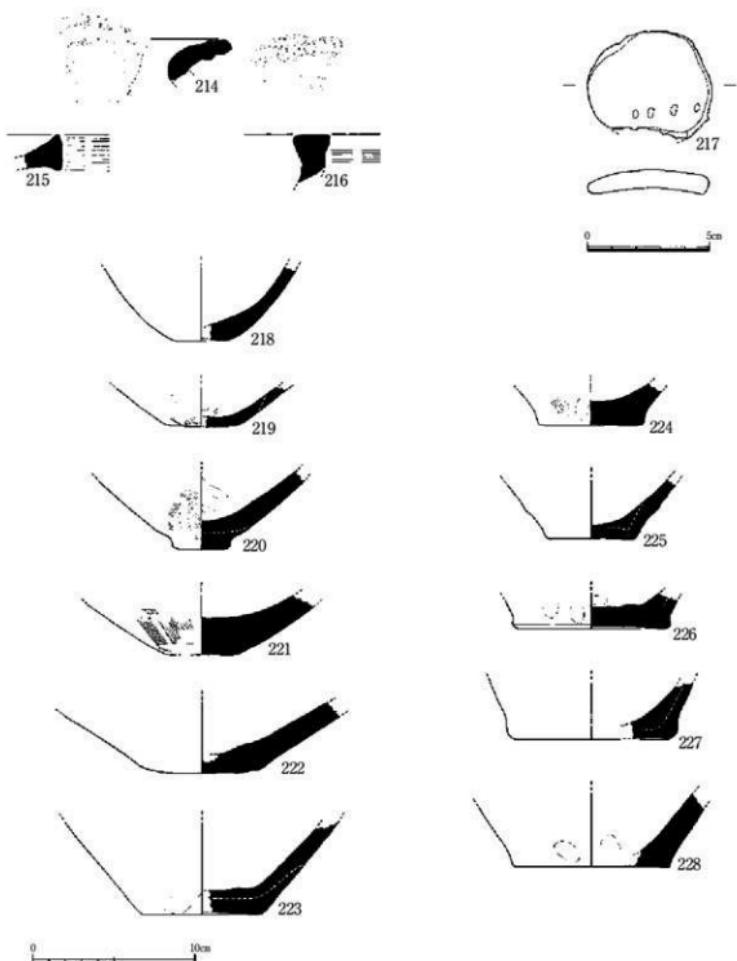
遺物
No.

212

内面 (L1) ハケのちナデ (脚) ナデ、押圧痕 (脚中) ハケ 外面 (L1) ハケ (脚) タタキのちナデ (脚中) タタキのちハケ (底) ナデ

213

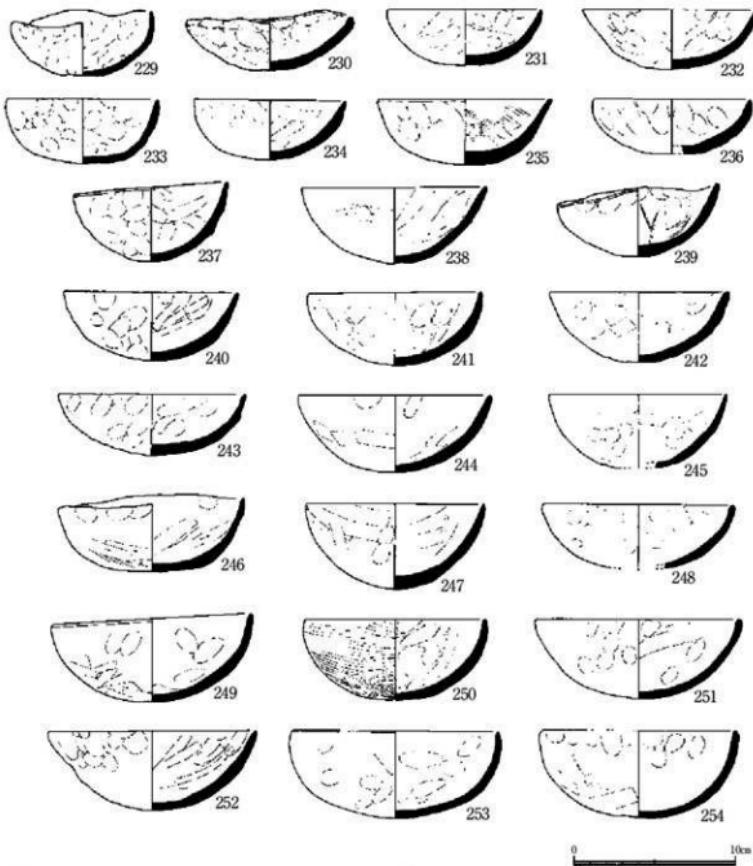
内面 (L1) ヨコナデ、ナデ (脚) ヘラナデ (脚中) ナデ 外面 (L1) ヨコナデ (脚) 丁寧なヘラナデ? (脚中) ナデ (脚下) ヘラタタキ (底) ヘラナデ?



遺物 No.	測量・枚種
214	内面 (L) 縦帯による工字文 外面 (L) たい北端、竹管による刺突
215	内面 (L) ナデ 外面 (L) ナデ、口唇部4条のヘラ積き沈面
216	内面 (L) ナデ、押仕痕 外面 (L) 振桂き沈面
217	内面ナデ 両面剥突開
218	内面 (底) 強いナデ 外面 (底) ナデ
219	内面 (底) ナデ 外面 (側) ハケのちナデ (底) ハケ
220	内面 (底) ナデ 外面 (底) ハケ

遺物 No.	測量・枚種
221	内面 (底) ナデ 外面 (底) タタキのちハテ
222	外面 (底) ナデ
223	内面 (底) ナデ 外面 (底) ナデ
224	内面 (底) ナデ 外面 (底) ハケ
225	内面 (底) ナデ 外面 (底) ナデ、凹内面
226	内面 (底) ナデ 外面 (底) ナデ
227	内面 (底) ナデ 外面 (底) ナデ
228	内面 (底) ナデ 外面 (底) ナデ

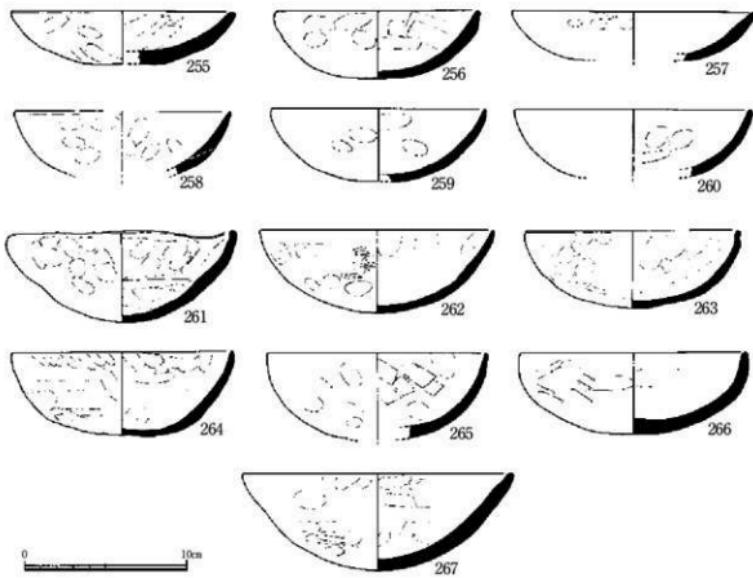
Fig.31 4 A 区出土遺物21 Ⅲd層 (S : 1/2, 1/3)



遺物 No.	調査・絞抜
229	内面側脚ナデ 外面ナデ、凹凸面
230	内面ナデ、丁寧なハラナデ 外面押付痕
231	内面ナデ、押付痕、外面ナデ、押付痕
232	内面丁寧なナデ、深い凹凸面、外面押付痕
233	内面ナデ、沿脚押付痕、外脚押付痕
234	内面ハラナデ、外面ハラナデ、押付痕、深い凹凸面
235	内面(左) 離ハケ(右) ハラナデ(底) 丁寧なハラナデ、外面ナデ、ハラナデ、押付痕
236	内面(左) 深い凹凸面、外脚ナデ
237	内面丁寧なハラナデ、外脚ナデ、押付痕
238	内面丁寧なハラナデ、外脚部ハラナデ
239	内面(左) ナデ、押付痕(右) ハラナデ、へき丘痕、外脚凹凸面
240	内面ハラナデ、外脚凹凸面
241	内面丁寧なハラナデ、外脚ハラナデ、凹凸面
242	内面(左) ヨコナデ(底) ハラナデ、外面(右) ヨコナデ(底) ナデ、押付痕
243	内面ハラナデ(底) ナデ(左) ヨコナデ(右) ナデ、押付痕
244	内面ハラナデ、外脚(左) ヨコナデ、押付痕(右) 押ハラナデ
245	内面ハラナデ(左) ヨコナデ(右) ハラナデ
246	内面(左) ナデ(右) ヨコナデ(底) ハラナデ、押付痕
247	内面ハラナデ、外脚(左) ヨコナデ(右) ハラナデ
248	内面(左) ヨコナデ(底) ナデ(右) ヨコナデ(底) ナデ、深い凹凸面
249	内面(左) ヨコナデ(底) ナデ(右) ヨコナデ(底) ナデ、押付痕
250	内面(左) ヨコナデ(底) ナデ(右) ヨコナデ(底) ナデ、押付痕
251	内面(左) ヨコナデ(底) ナデ(右) ヨコナデ(底) ナデ、押付痕
252	内面(左) ヨコナデ(底) ナデ(右) ヨコナデ(底) ナデ、押付痕
253	内面(左) ヨコナデ(底) ナデ(右) ヨコナデ(底) ナデ、押付痕
254	内面(左) ヨコナデ(底) ナデ(右) ヨコナデ(底) ナデ、押付痕

遺物 No.	調査・絞抜
244	内面側ヘラナデのち丁寧なナデ 外面ハラナデ(凹凸面)
245	内面ナデ、凹凸面 外面(左) ヨコナデ(底) ナデ、押付痕
246	内面ヘラナデ 外面(左) ヨコナデ、押付痕(底) 押ハラナデ
247	内面ヘラナデ 外面(左) ヨコナデ(底) ハラナデ
248	内面丁寧なナデ(邊らかに仕上げる) 外面(左) ヨコナデ(底) ナデ、深い凹凸面
249	内面(左) ヨコナデ(底) ハラナデ、外脚(左) ヨコナデ(底) 押ハラナデ
250	内面(左) ヨコナデ(底) ナデ(右) 丁寧なナデ(邊らかに仕上げる) ナデ 外面(左) ヨコナデ(底) ナデ
251	内面丁寧なハラナデ 外脚ナデ(凹凸面)
252	内面(左) ナデ(右) 丁寧なハラナデ 外脚押付痕
253	内面(左) ヨコナデ(底) 丁寧なナデ 外脚(左) ヨコナデ(底) 押ハラナデ
254	内面(左) ヨコナデ、押付痕(底) 丁寧なナデ 外面(左) ヨコナデ(底) ハラナデ

Fig.32 4 A区出土遺物22 Ⅲd層 (S : 1/3)

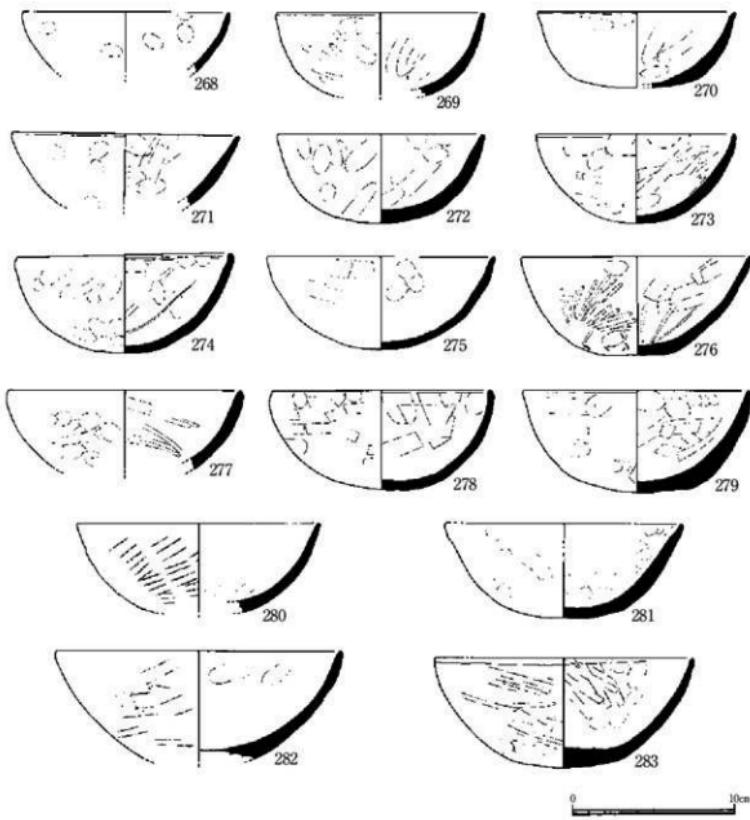


遺物 No.	調整・紋様
255	内面ハラナデのちヘラナデ 外面(口)ヨコナデ(体)ナデ
256	内面丁寧なヘナナデ 外面(口)ヨコナデ(体)凹面(底)ヘラナデ
257	内面丁ナデ 外面(口)押圧痕(体)なで、浅い凹面
258	内面(口)ヨコナデ(体)ナデ 外面(口)ヨコナデ(体)凹面
259	内面ナデ 外面(口)ヨコナデ(体)ヘラナデ(底)凹面
260	内面ナデ 外面(口)ヨコナデ(体)ナデ、浅い凹面
261	内面ナデ 外面(口)ヨコナデ(体)ナデ
262	内面(口)ヨコナデ(体)ナデ 外面(口)ヨコナデ(体)凹面
263	内面(口)ヨコナデ(体)ナデ 外面(口)ヨコナデ(体)凹面
264	内面(口)押圧痕(体)丁寧なヘナナデ 外面(口)ナデ、押圧痕(体)無なヨコナデ
265	内面ヘナナデ 外面ナナデ、凹面
266	内面(口)ヨコナデ(体)ナデ 外面(口)ナデ(体)タタキのちナデ
267	内面(口)ヘラナデ(体)ナデ 外面(口)ヘラナデ(体)ナデ 外面(口)押圧痕(体)ヘラナデ、押圧痕

遺物 No.	調整・紋様
263	内面(口)ヨコナデ(体)ヘラナデ 外面(口)ヨコナデ(体)凹面
264	内面(口)押圧痕(体)丁寧なヘナナデ 外面(口)ナデ、押圧痕(体)無なヨコナデ
265	内面ヘナナデ 外面ナナデ、凹面
266	内面(口)ヨコナデ(体)ナデ 外面(口)ナデ(体)タタキのちナデ
267	内面(口)ヘラナデ(体)ナデ 外面(口)ヘラナデ(体)ナデ 外面(口)押圧痕(体)ヘラナデ、押圧痕

Fig.33 4 A区出土遺物23 III d層 (S : 1/3)

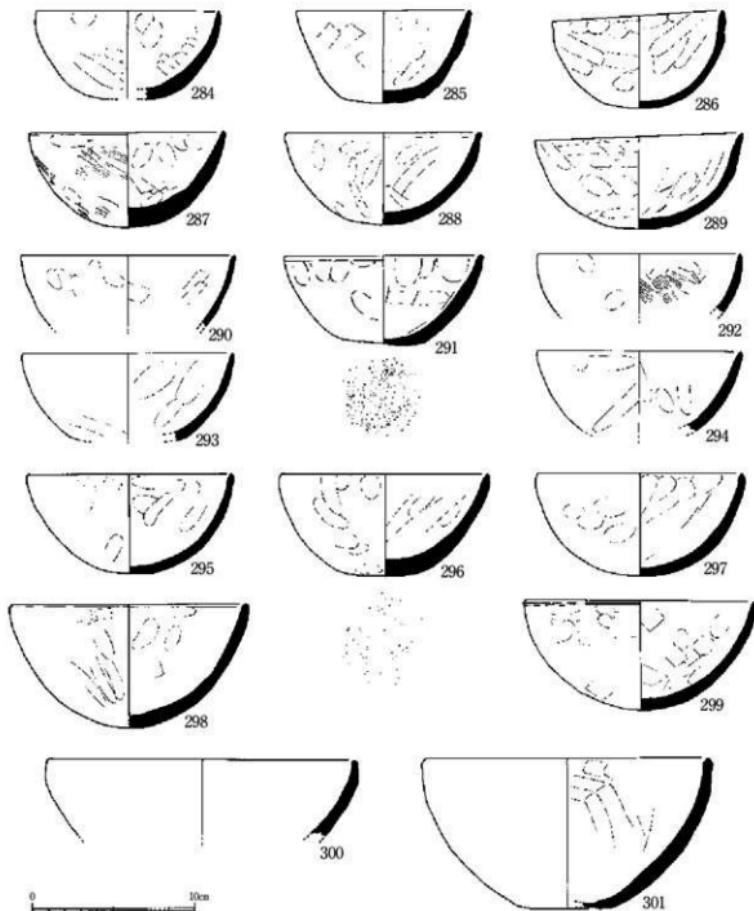
266の様に、ヘラミガキやタタキ目を残すものがある。267は口縁が内彎気味に立上がり、口唇は丸く修める。内外面は横位のヘラナデが顕著であり、内面の低位は丁寧なナデが施され、また外面の口縁には凹凸面が残る。268から283は椀形である。底部は丸底のものが多く、276の平底や270の緩い凸面を成す底部が存在する。ここでも調整の多くはナデ・ヘラナデが占める。268は口縁の一部に煤が付着する。灯明皿²¹か。276は体部の内面に放射状のヘラミガキが暗文風に施される。外面はミガキまたは丁寧なナデが施される。277は体部の内面に横位のヘラミガキが施される。外面は押圧痕が残るもの、ヘラナデやヘラミガキが施される。278・279は体部の内面が丁寧なナデで仕上げられる。280・282は体部の内面がナデで仕上げられ、外面にはタタキ目が残る。283は体部の内面にミガキ風の丁寧なナデが施され、外面にもミガキ風のヘラナデが施される。284から301は椀形であり、やや深さを増す。口縁の立ち上がりも内彎が顕著である。底部は丸底と緩い凸面を成す平底が存在する。調整はナデやヘラナデが主である。286は



遺物 No.	測量・絞錠
268 内面 (L1) ナデ 外面 (L1) ヨコナデ (体) ナデ、浅い凹凸面	
269 内面 (L1) ヨコナデ (体) 丁寧なナデ? 外面 (L1) ヨコナデ (体) ヘラナデ?	
270 内面ナデ (滑らかな面) 外面 (L1) ヨコナデ (体) ナデ?	
271 内面 (L1) ナデ 外面 (L1) ヨコナデ、ナデ	
272 内面ナデ、押住板、外面ナデ?	
273 内面丁寧なヘラナデ、外面 (L1) ヨコナデ (体) ヘラナデ	
274 内面 (L1) 押住板 (体) 丁寧なヘラナデ 外面 (L1) ヨコナデ (体) ヘラナデ	
275 内面ナデ、浅い凹凸面 外面 (L1) 強いヨコナデ? (体) ヘラナデ、浅い凹凸面	
276 内面 (L1) 丁寧なヘラナデ (体) 丁寧なヘラナデ (放射状のミギキ) 外面 (L1) ヨコナデ (体) ヘラナデ	

遺物 No.	測量・絞錠
277 内面 (L1) ヨコナデ (体) ヘラミガキ、外面ヘラナデ、押住板、一部ヘラミガキ	
278 内面丁寧なヘラナデ 外面 (L1) ヨコナデ (体) ヨコハラナデ	
279 内面丁寧なヘラナデ 外面 (L1) ヨコナデ (体) ヘラナデ、凸凹面	
280 内面ナデ 外面 (L1) ナデ (体) ナキキ	
281 内面 (L1) ナデ、押住板 (体) ヘラナデ、押住板、外側ヘラナデ、押住板	
282 内面ナデ 外面ヨコナデのところにはナデ	
283 内面丁寧なヘラナデ 外面ヘラナデ	

Fig.34 4 A区出土遺物24 III d層 (S : 1/3)



遺物 No.	測定・絞様
284	内面ヘナナデ、外面ナナデ、ヘナナデ
285	内面ナナデ、外面重なるヘナナデ(凹凸面)
286	内面ナナデ、外面ヘナナデ
287	内面ヘナナデ、外面(左)ナナデ、ナナデ(右)タコのちハケ又はナナデ
288	内面(左)ヨコナナデ(体)ヘナナデ、外面(右)ヨコナナデ(体)ナナデ、凹凸面
289	内面(左)ナナデヨコナナデ(体)ナナデヘナナデ、外面(右)ヨコナナデ(体)ナナデ、横ナナデ
290	内面ヘナナデ(滑らかな面)ナナデ(浅い凹凸面)
291	内面ナナデ、ナナナナデ、外曲ナナデ凹凸面
292	内面ナナデ、ナナナナデ、外曲ナナデナナデ
293	内面ヘナナデ、外曲ヘナナデ

遺物 No.	測定・絞様
294	内面(左)ヨコナナデ(体)ナナデ(滑らかに仕上げる)、外面(左)ヨコナナデ(右)ヘナナデ
295	内面(左)ヨコナナデ(体)丁寧なナナデ、外面(右)ヨコナナデ(ナナデ)
296	内面ヘナナデ(底部から螺旋状)外曲(左)ヨコナナデ(体)ヘナナデ(底)本ノ葉口状
297	内面(左)ヨコナナデ(体)ヘナナデ、外曲ヘナナデ
298	内面ヘナナデ、外曲(左)ヨコナナデ(右)ヘナナデ
299	内面ヘナナデ、ヘク江目、外曲(左)ヨコナナデ(右)ナナデ
300	内面ナナデ、ヘナナデ、外曲(左)ナナデ(体)ナナデ、凹凸面
301	内面(左)ナナデ、押付角(体)ナナデ、外曲(右)ヨコナナデ(右)ナナデ

Fig.35 4 A 区出土遺物25 III d層 (S : 1/3)

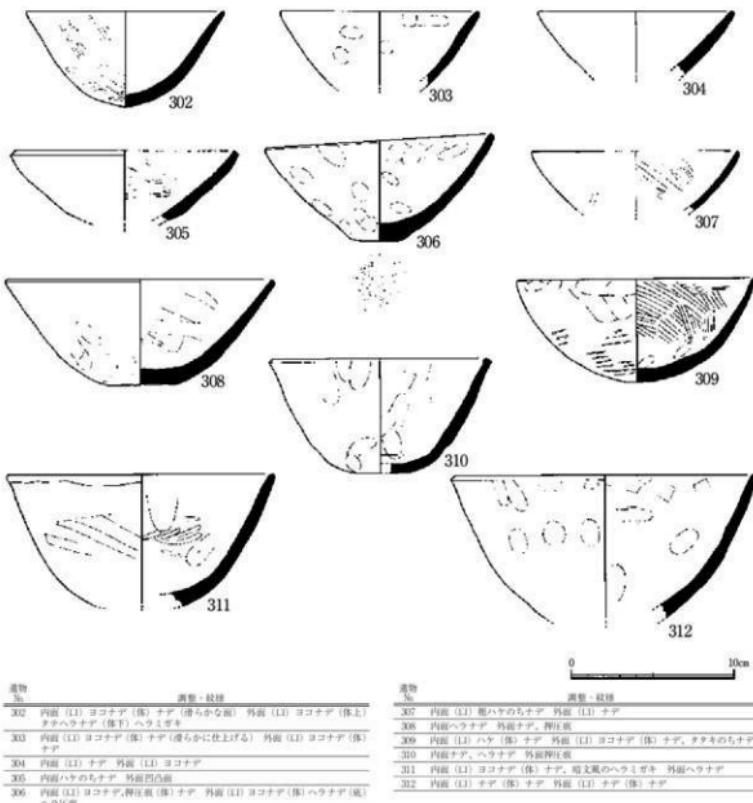
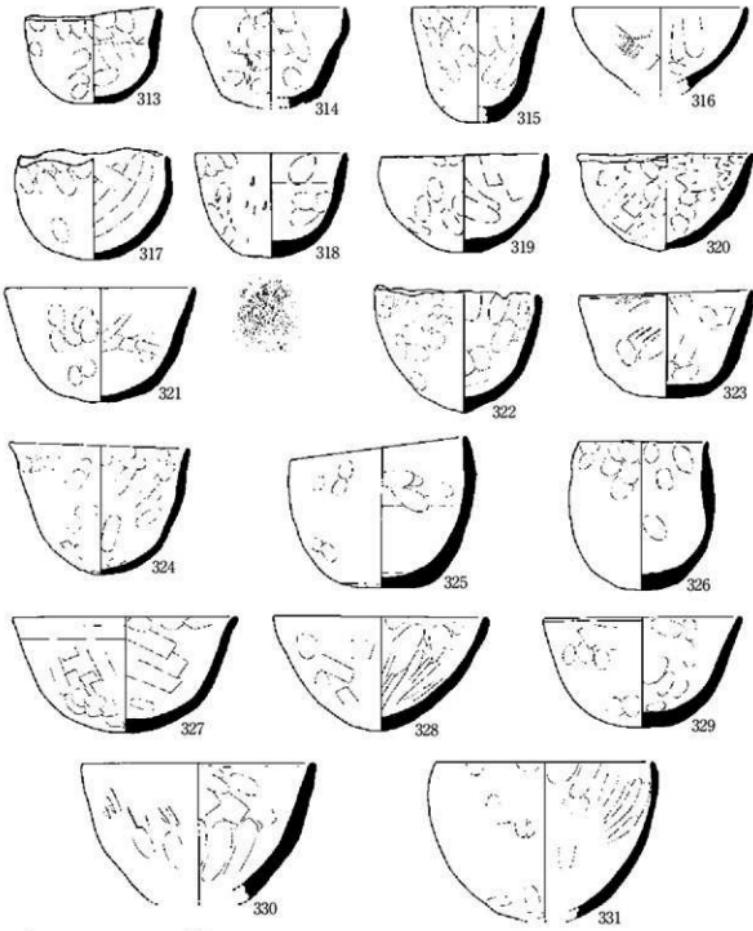


Fig.36 4 A区出土遺物26 Ⅲd層 (S : 1/3)

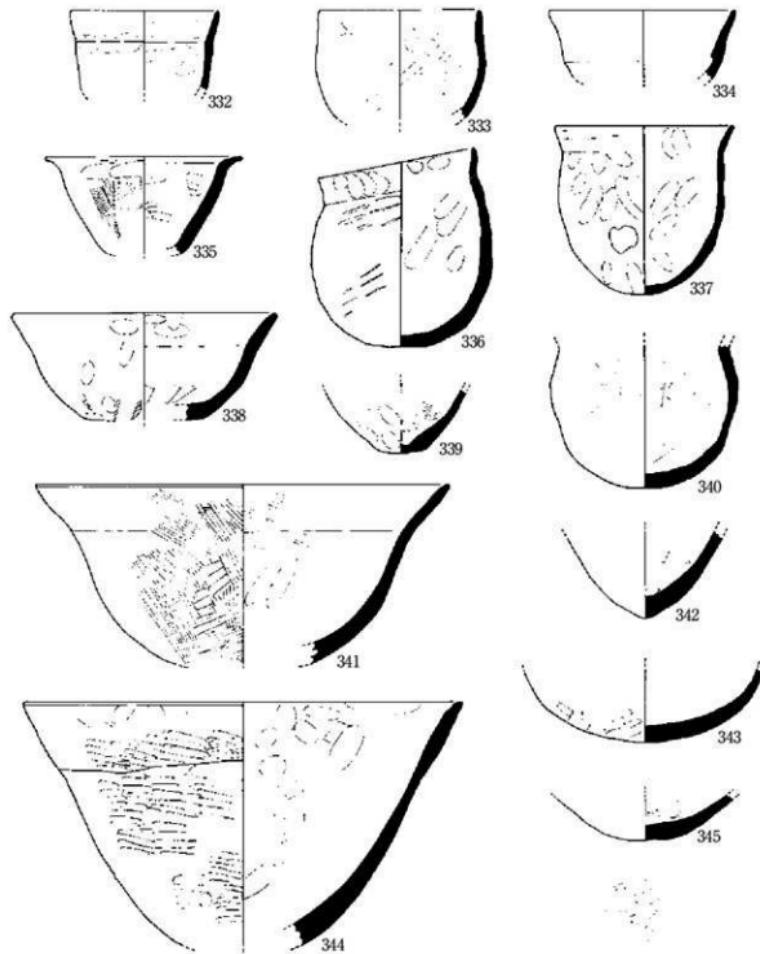
口縁の一部に煤が付着する。287は体部の外面にタタキ目が残される。292は体部の内面にハケ状原体によるナデ痕が残される。300・301は椀形を呈したやや容量の大きなものである。302から312は楕形(平形?)である。口縁は直線的またはやや内彎して外上方に広がるものが多くを占める。底部は丸底と平底が存在する。調整はナデやヘラナデが多いものの、外面のタタキや内面にハケを残すものも存在する。304は口縁の一部に煤が付着する。305は口唇が外傾する面を成す。体部内面はハケのちナデが施される。306は底部がやや突出した狭い平底を成す。口縁の内面には煤が付着する。307は口唇が狭い外傾する面を成す。体部の内面は粗いハケのちナデが施される。308は口唇が外傾する面を成し、底部はやや窪んだ平底を成す。309は内面にハケのちナデが施され、外面にはタタキ目が残る。310は口唇が外傾する面を成し、底部が押し潰し



遺物	測量・枚録
313	内面(左)ヨコナデ(体)丁寧なナデ、外側ナデ(凸面)
314	内面ヘラナデ、押住痕、外側ナデ?、蒸痕、押住痕
315	内面ナデ、内側ヘラナデ
316	内面(左)丁寧なナデ(体)丁寧なナデ、外側ハケのちナデ
317	内面細胞ナデ、外側(右)凸面
318	内面(左)ヨコナデ(体)ヨコナデ(体)ナデ、爪痕(右)ヘラナデ
319	内側ナデ(右)ヘラナデ、外側凸面
320	内面(左)ヨコナデ(体)ヘラナデ、外側ヘラナデ、押住痕
321	内面(左)ヨコナデ(右)ヘラナデ

遺物	測量・枚録
322	内面(左)ナデ、押住痕(体)ナデ、ヘラナデ(裏)ヘラナデ、外側(右)押住痕(体)ヘラナデ凸面
323	内面ナデ、外側(左)ヨコナデ(体)ヘラナデ
324	内面(左)ナデ(体)ヘラナデ、外側(右)押住痕(体)ヘラナデ
325	内面(左)ナデ(右)ナデ、外側ナデ、凸面
326	内面(左)ナデ、押住痕(体)ナデ、外側(右)ナデ、押住痕(体)ナデ
327	内面ヘラナデ(底部に瘤状状のヘラナデ)、内面(左)ヨコナデ(体)ヘラナデ、外側(右)ヨコナデ(体)ヘラナデ
328	内面(左)ヘラナデ(裏)ヘラナデのちミガキ(底部中央から放散状のヘラナデ)
329	内面丁寧なナデ、外側(左)ヨコナデ(体)ナデ?
330	内面(左)ナデ(体)強いヘラナデ、外側(右)ナデ(体)深い凹凸面
331	内面ナデ、ヘラナデ、外側ナデ?(裏)ヘラナデ

Fig.37 4 A区出土遺物27 3d層 (S : 1/3)

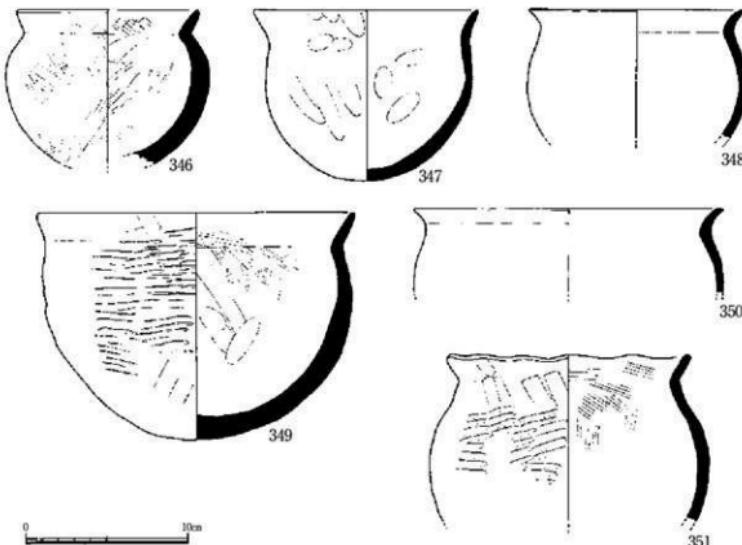


遺物 No.	調査・収録
332 内面 (L) ヨコナデ (体) ハラナデ 外面ナデ	
333 内面 (L) ハラナデ (裏) ハラナデ 外面ナデ	
334 内面 (L) ナデ 外面 (L) ナデ	
335 内面 (L) ハラナデ (体) ハラナデ 外面 (L) ヨコナデ (体) 縦ハケのちナデ (L)	
336 内面 (L) ナデ 四凸 (体) ナデ 外面 (L) 深口直 (B) タキのちナデ	
337 内面 (L) ヨコナデ (体) ナデ ハラナデ 外面 (L) ケズリのちナデ (体) ナデ ハラナデ	
338 内面 (L) ヨコナデ (体) ハラナデ 外面 (L) ナナ? (体) ナナ? 極口直 (B)	
339 内面 (L) 縦ハケのちナデ 外面ナデ	
340 内面 (L) 縦ハケのちナデ ハラナデ 外面 (L) ハラナデ	
341 内面 (L) ハケのちナデ (B) ナデ 外面 (L) ハケのちヨコナデ (体) ナデのちハケ	
342 内面 (L) ハケのちナデ 外面 (L) ナデ ハラナデ	
343 内面ナデ 外面 (L) ヨコナデ (体上) ナデ (体下) ナズリ	
344 内面 (L) ナデ 四凸直 (B) ハラナデ 外面 (L) ナナ? (体) ナナ? 極口直 (B) タキのちナデ	
345 内面 (L) ハケのちナデ 外面 (L) ハラナデ	

0 10cm

遺物 No.	調査・収録
341 内面 (L) ハケのちナデ (B) ナデ 外面 (L) ハケのちヨコナデ (体) ナデのちハケ	
342 内面 (L) ハケのちナデ 外面 (L) ナデ ハラナデ	
343 内面ナデ 外面 (L) ヨコナデ (体上) ナデ (体下) ナズリ	
344 内面 (L) ナデ 四凸直 (B) ハラナデ 外面 (L) ナナ? (体) ナナ? 極口直 (B) タキのちナデ	
345 内面 (L) ハケのちナデ 外面 (L) ハラナデ	

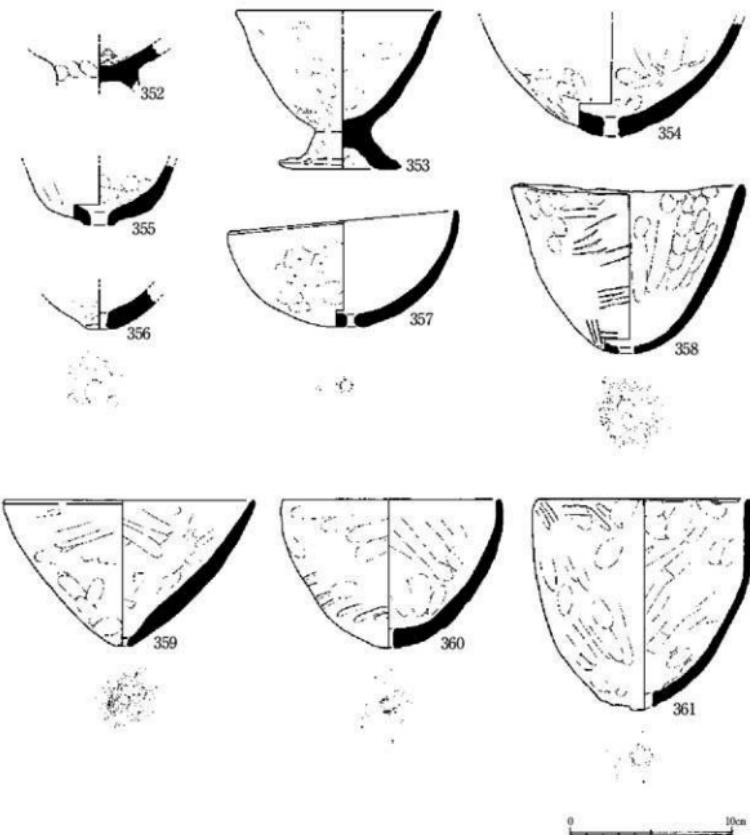
Fig.38 4 A区出土遺物28 IIId層 (S : 1/3)



遺物 No.	調整・紋様
346 内面 (L) ハケのちナデ (脚) ヘラナデ (輪組全体で跡が残る) 外面 (L) ハケのちナデ	
347 内面 (L) ナデ、押付 (左) ナデ、外面 (L) ナデ、凹凸面	
348 内面 (L) ナデ (脚) ヘラナデ 外面 (L) ヨコナデ (脚) ナデ、浅い凹凸面	
349 内面 (L) ハケのちナデ (脚) ハケのちナデ 外面 (L) タキのちナデ (脚) タキのちナデ	
350 内面 (L) ナデ (脚) ヘラナデ? 外面 (L) ナデ? (脚) ナデ、浅い凹凸面	
351 内面 (L) ハケのちヘラナデ (脚) ハケのちヘラナデ 外面 (L) ヘラナデ (脚上) タキのちヘラナデ (脚) タキ	

Fig.39 4 A 区出土遺物29 Ⅲd層 (S : 1/3)

た不明瞭な平底を呈す。311・312はやや容量のあるものである。311は体部の内面に暗文風のヘラミガキが施される。312は口唇が外傾する面を成す。313から331は器高の高い深い楕形（湯呑み形）である。底部は丸底を成すものが多く、やや尖底となるものや押しつぶした不明瞭な平底を呈するものがある。口縁は概ね内擣して立上がり、直線的に外上方に向かうものや端部で外反するもののが存在する。調整はナデまたはヘラナデが卓越する。313は口縁の内面に弱い屈曲が存在する。314は口縁の内面に押圧痕が顕著であり、口縁は内擣して上方に立上がる。体部の外面には押圧痕と爪痕を残す。315は深い湯呑み形を呈する。体部の内面で屈曲し、口縁は直線的に立上がる。底部は押しつぶした不明瞭な平底を呈する。317は口縁が不整形であり、浅く不規則な波状を呈する。318は口縁の内面に屈曲を有する。外面はナデを施し爪痕を残す。319は口唇の外側に粘土が盛り上がりやや肥厚する。322は口縁が不整形であり、不規則な浅い波状を成す。底部はやや尖底である。323・325は底部が押しつぶした不明瞭な平底を成す。324は口縁の一部が短く外反する。326は深い湯呑み形を呈する。口縁の一部で短く外反する。327は口縁が短く外反する。328は体部の内面に放射状のミガキを暗文風に施す。330・331は楕形でやや容

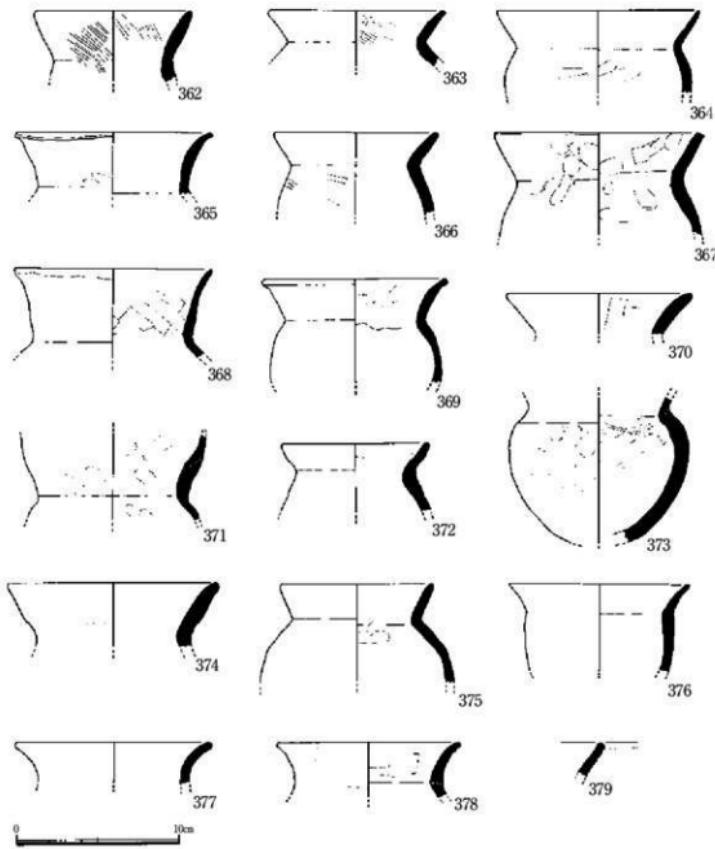


遺物 No.	測量・絵様
352 内面(体)ハケのちナデ、ハケ又はヘラ仕様 外面(底)ナデ、神社柄	
353 内面(体)丁寧なハクナデ(白)ハクナデ 外面(脚)ナデ(脚筋)ハケ(白)脚筋	
354 内面(底)ナデ、ハラナデ 外面(底)ヘラ仕様	
355 内面(底)ナデ、神社柄 外面(底)ハクナデ?	
356 内面(底)ナデ、小さな凹凸面 外面(底)タキのちナデ	

遺物 No.	測量・絵様
357 内面ナデ 外面ヘラナデ?タクミガキ様の滑らかな面。(底)凹凸面。一部に円形の小凹窪	
358 内面曲頭ナデ 外面タクミガキのちナデ	
359 内面タクミガキ 外面(L1) ハラミガキ(体)ヘラナデ?	
360 内面ナデ(底)神社柄 外面(L1)ナデ(体)タキのちナデ	
361 内面ヘラナデ 外面(L1)タキのちナデ(体)ヘラナデ	

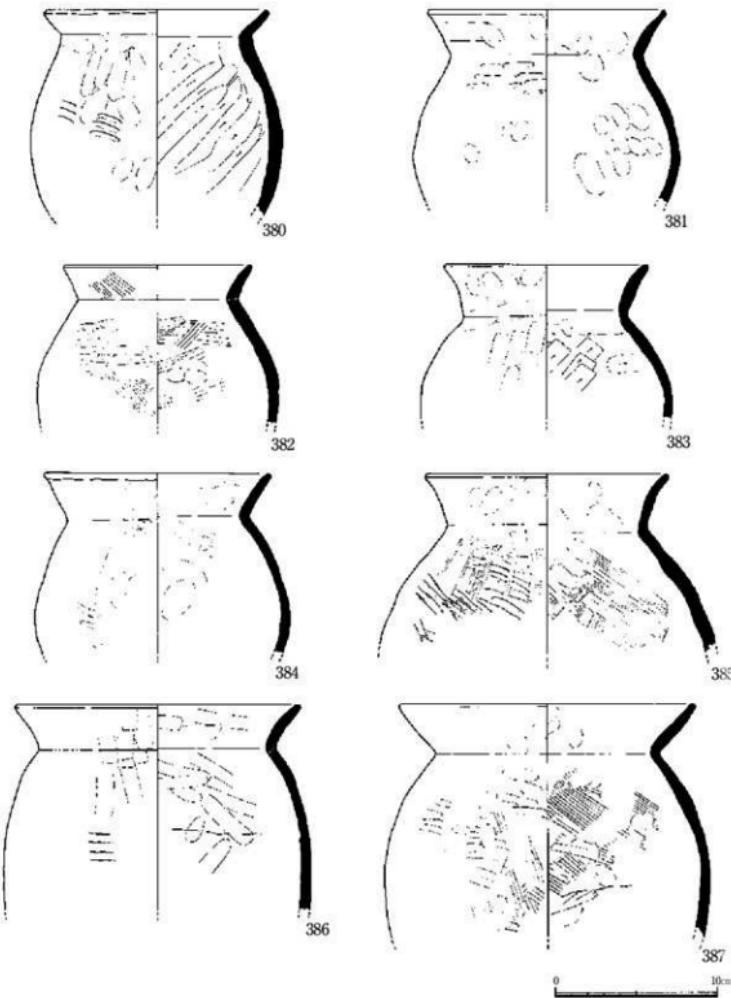
Fig.40 4 A区出土遺物30 III d層 (S : 1/3)

量が大きい。332から338と340から344は鉗状の口縁を有するものである。332から335は小型丸底土器とすべきものか。332から334は口縁下で緩く屈曲する。333は口縁は屈曲の後に上方に立上がる。内面は丁寧にナデを施す。335は口縁が屈曲の後に外反して開く。口唇は外側にやや肥厚する。体部の内面はミガキ風のヘラナデを施し、外表面はハケを施す。蓋の可能性もある。336



遺物 No.	測量・絵図	遺物 No.	測量・絵図
362 内面 (L1) ハケのちナデ 外面 (L1) ヨコナデ。ハケ (側) ナデ ナデ、ヘラ形	362	372 内面 (L1) ナデ (側) ナデ 外面 (L1) ナデ (側) ヨコナデ (側) ナデ、凸 凹面	372
363 内面 (L1) ヨコナデ (側) ハケのちナデ 外面 (L1) ハケのちヨコナデ (側) ナデ、ヘラ形	363	373 内面 (L1) ナデ (側) ナデ 外面 (L1) ヨコナデ (側) ナデ、ヘラ形	373
364 内面 (L1) ナデ (側) ナデ 外面 (L1) ナデ (側) ナタキのちナデ 365 内面 (L1) ナデ 外面 (L1) ナデ、ヘラナデ 366 内面 (L1) ヨコナデ (側) ヘラナデ 外面 (L1) ヨコナデ (側) ナタキのち ナデ	364	374 内面 (L1) ヨコナデ (側) ヘラナデ 外面 (L1) ヨコナデ 375 内面 (L1) ヨコナデ (側) ヘラナデ 外面 (L1) ヨコナデ 376 内面 (L1) ナデ (側) ナデ 外面 (L1) ナデ、ヘラナデ	374
367 内面 (L1) ナタキ (側) ナデ 外面 (L1) ナデ、押注模 (側) ナデ 368 内面 (L1) ヘラナデ 外面 (L1) ナデ 369 内面 (L1) ヘラナデ (側) ナデ 外面 (L1) ナデ (側) ナタキのち 370 内面 (L1) ヨコナデ (側) ヘラナデ 外面 (L1) ヨコナデ (側) ナデ、凹凸面	367	377 内面 (L1) ナデ (側) ナデ 外面 (L1) ナデ (側) ナデ 378 内面 (L1) ナデ (側) ナデ 外面 (L1) ナデ、凹凸面 379 内面 (L1) ナデ (側) ナデ 外面 (L1) ナデ	377
371 内面 (L1) ヨコナデ (側) ヘラナデ 外面 (L1) ヨコナデ (側) ナタキのち ナデ 372 内面 (L1) ナデ (側) ナデ 外面 (L1) ナデ (側) ナデ 373 内面 (L1) ナデ (側) ナデ 外面 (L1) ヨコナデ (側) ナデ、ヘラ形	371	376 内面 (L1) ナデ (側) ナデ 外面 (L1) ナデ (側) ナデ 377 内面 (L1) ナデ (側) ナデ 外面 (L1) ナデ (側) ナデ 378 内面 (L1) ナデ (側) ナデ 外面 (L1) ナデ、凹凸面 379 内面 (L1) ナデ (側) ナデ 外面 (L1) ナデ	376
374 内面 (L1) ヨコナデ (側) ヘラナデ 外面 (L1) ヨコナデ 375 内面 (L1) ヨコナデ (側) ヘラナデ 外面 (L1) ヨコナデ 376 内面 (L1) ナデ (側) ナデ 外面 (L1) ナデ、ヘラナデ	374	377 内面 (L1) ナデ (側) ナデ 外面 (L1) ナデ (側) ナデ 378 内面 (L1) ナデ (側) ナデ 外面 (L1) ナデ (側) ナデ 379 内面 (L1) ナデ (側) ナデ 外面 (L1) ナデ	377
377 内面 (L1) ナデ (側) ナデ 外面 (L1) ナデ (側) ナデ 378 内面 (L1) ナデ (側) ナデ 外面 (L1) ナデ (側) ナデ 379 内面 (L1) ナデ (側) ナデ 外面 (L1) ナデ	377	377 内面 (L1) ナデ (側) ナデ 外面 (L1) ナデ (側) ナデ 378 内面 (L1) ナデ (側) ナデ 外面 (L1) ナデ (側) ナデ 379 内面 (L1) ナデ (側) ナデ 外面 (L1) ナデ	377

Fig.41 4 A区出土遺物31 IIId層 (S : 1/3)



遺物 No.	測量・絵録
380	内面 (L1) ナデ (網) ケヌリのちナデ、押注痕、外面 (L2) ナデ (網) タタキのちナデ
381	内面 (L1) ナデ (網) ナデ、押注痕、外面 (L2) ナデ (網) タタキのちナデ
382	内面 (L1) ヨコナデ (網) ハケ、外面 (L2) ココナデ (網) ナデ、タタキのちハケ
383	内面 (L1) ナデ (網) ヘラケズリ、ヘラナデ、外面 (L2) ナデ (網) ヘラナデ (網)

遺物 No.	測量・絵録
384	内面 (L1) ヘラナデ (網) ヘラナデ、外面 (L2) ナデ (網) タタキのちナデ
385	内面 (L1) ヨコナデ (網) ハケ、押注痕、外面 (L2) ヨコナデ (網) タタキのちハケ
386	内面 (L1) ヨコナデ (網) ハラナデ (ハケ長脚体) (網) ナデ 外面 (L2) ヘラナデ (網) タタキのちナデ
387	内面 (L1) ナデ (網) ハケ、ハケのちナデ、外面 (L2) ナデ (網) ナデ、タタキのちナデ

Fig.42 4 A区出土遺物32 III d層 (S : 1/3)

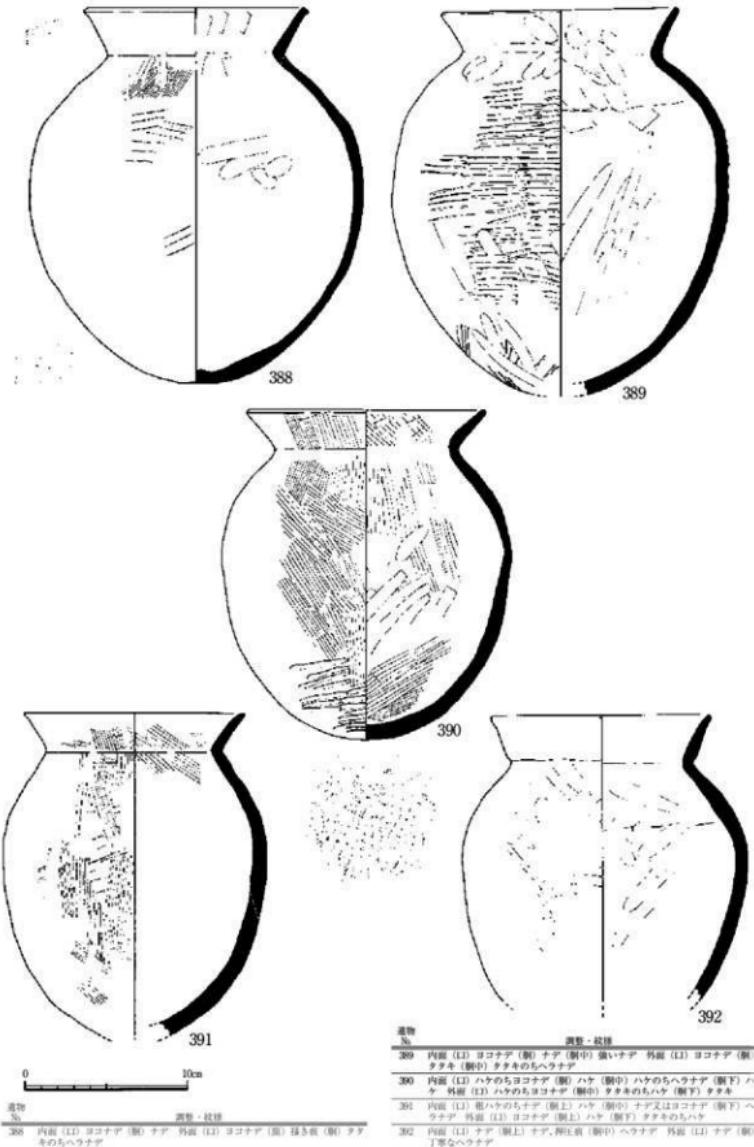
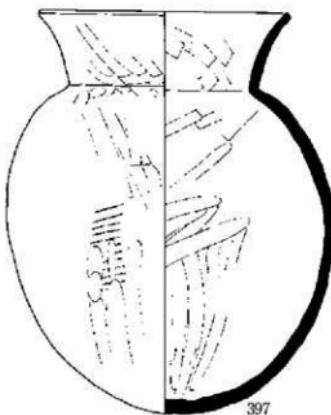
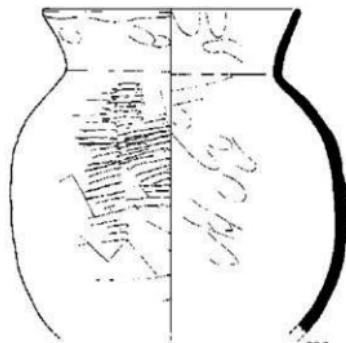
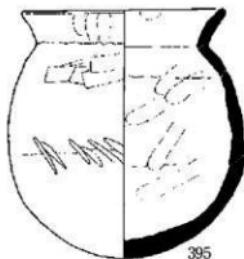
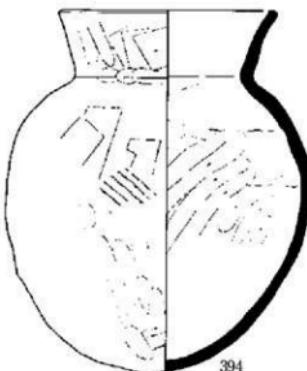
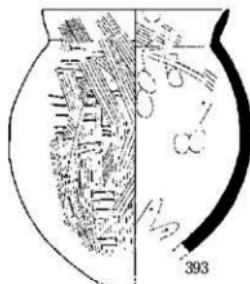


Fig.43 4 A区出土遺物33 Ⅲd層 (S : 1/3)



遺物 No.	測量・絵様
393 内面 (L) ハケのちナデ (刷) ケズリのちハラナデ。ケズリ。ケズリのちナデ。外縁 (L) ハケのちナデ? (刷) タタキのちハラナデ。	
394 内面 (L) ヨコナデ (刷上) ケズリのちナデ (刷中) 錆いナナメ又はケズリ? (刷下) ハラナデ 外縁 (L) ヨコナデ。ハラナデ (刷) タタキのちハラナデ	
395 内面 (L) ナナデ (刷) ハラナデ 外縁 (L) ナナデ (刷上) タタキのちハラナデ (刷中) ハラナデ (刷下) ケズリのちハラナデ	
396 内面 (L) ヨコナデ (刷) ハラナデ 外縁 (L) ヨコナデ (刷) タタキのちハラナデ	

遺物 No.	測量・絵様
397 内面 (L) ヨコナデ。ハラナデ (刷上) ハラナデ (刷中) 錆いハラナデ? (刷中が剥く) 外縁 (L) ヨコナデ。ハラナデ (刷部) タタキのちハラナデ	

0 10cm

Fig.44 4A区出土遺物34 III d層 (S : 1/3)

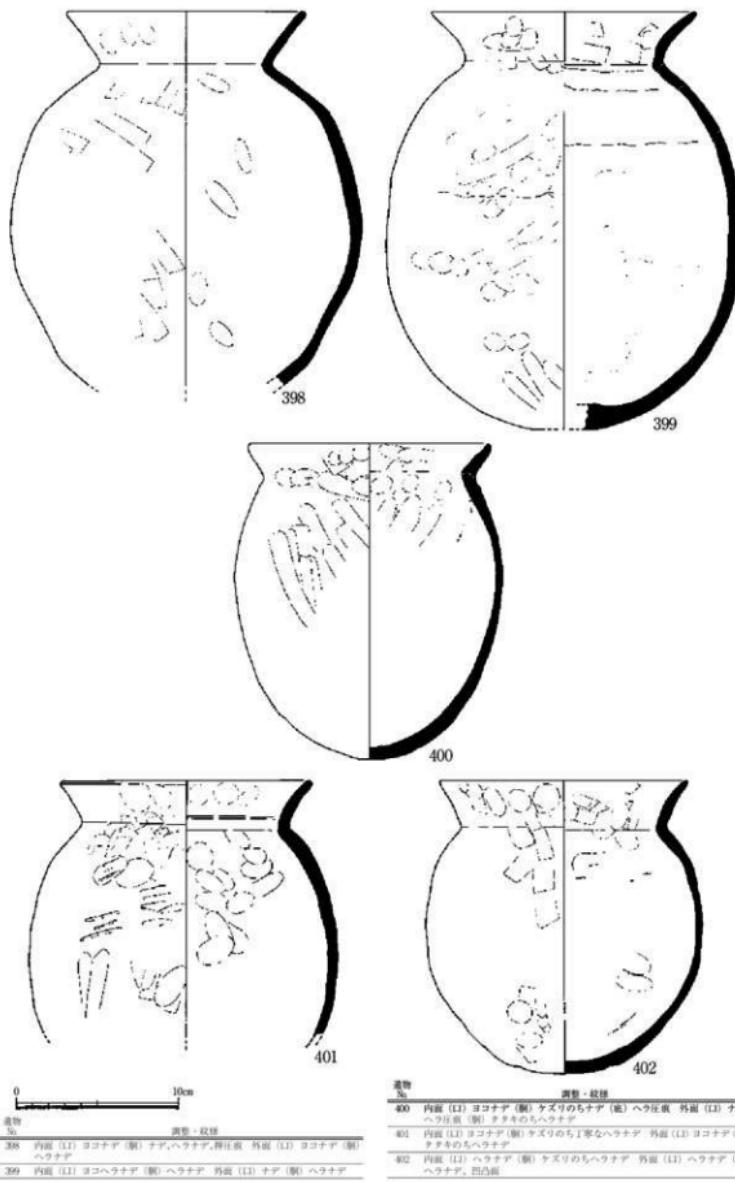


Fig.45 4 A区出土遺物35 IIId層 (S : 1/3)

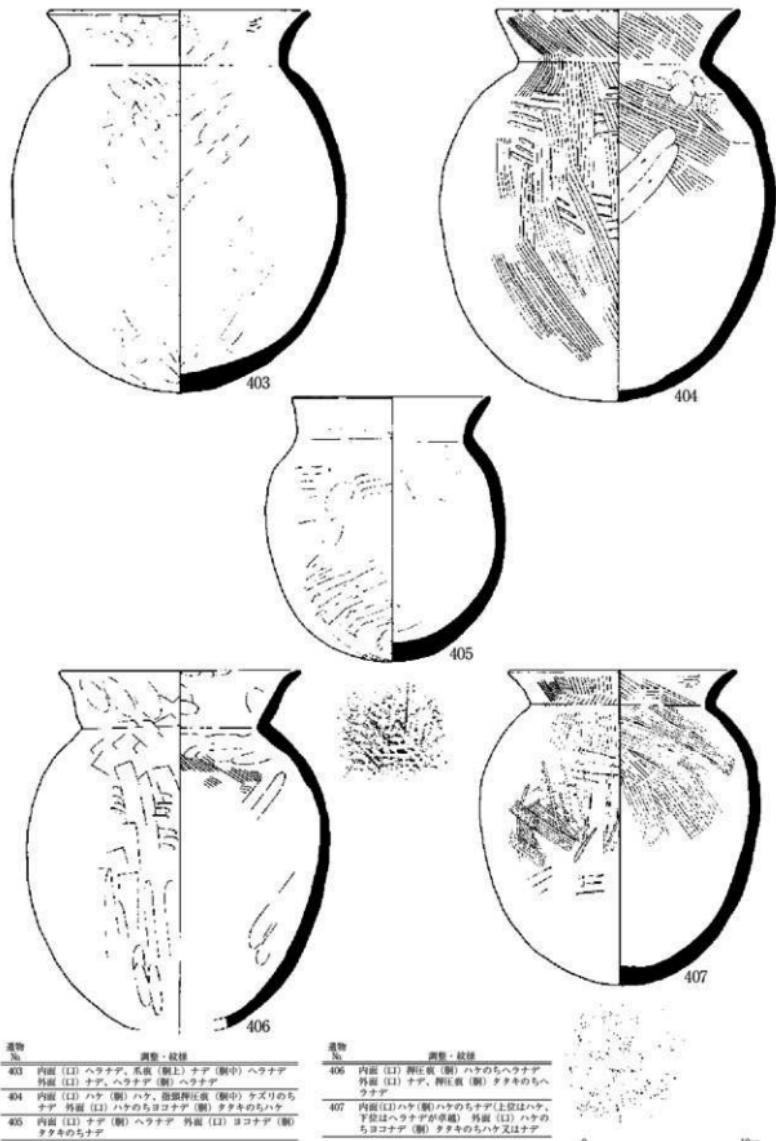


Fig.46 4 A区出土遺物36 III d層 (S : 1/3)

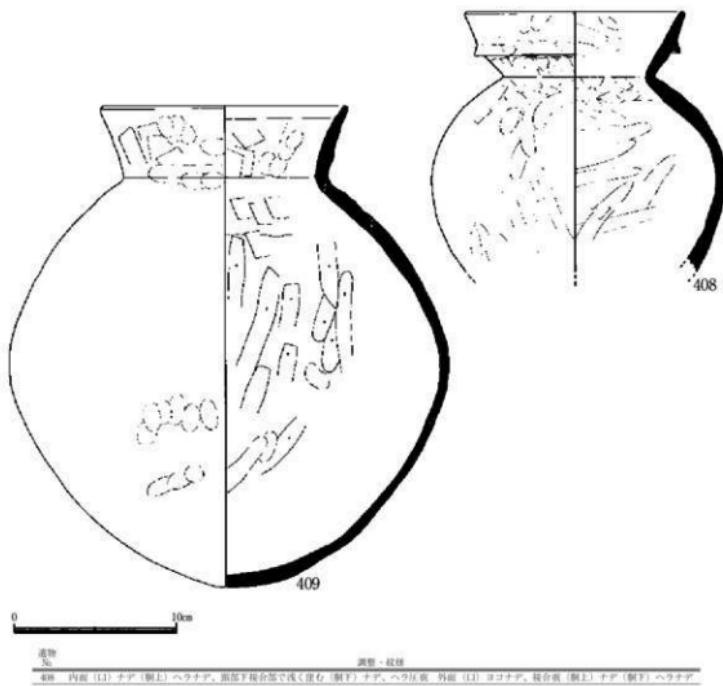
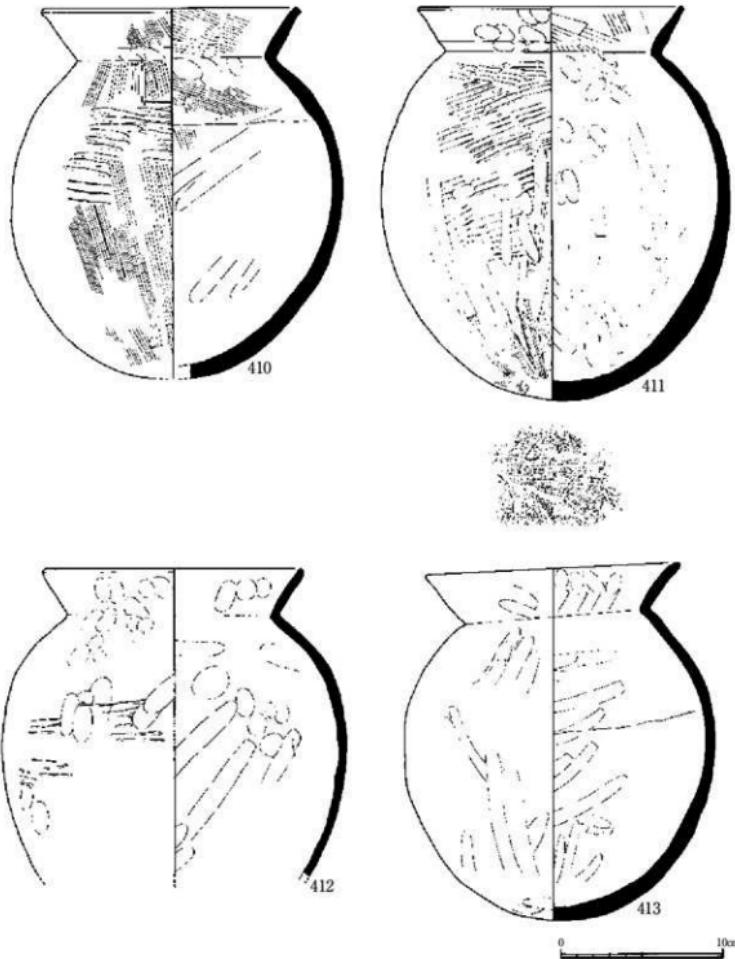


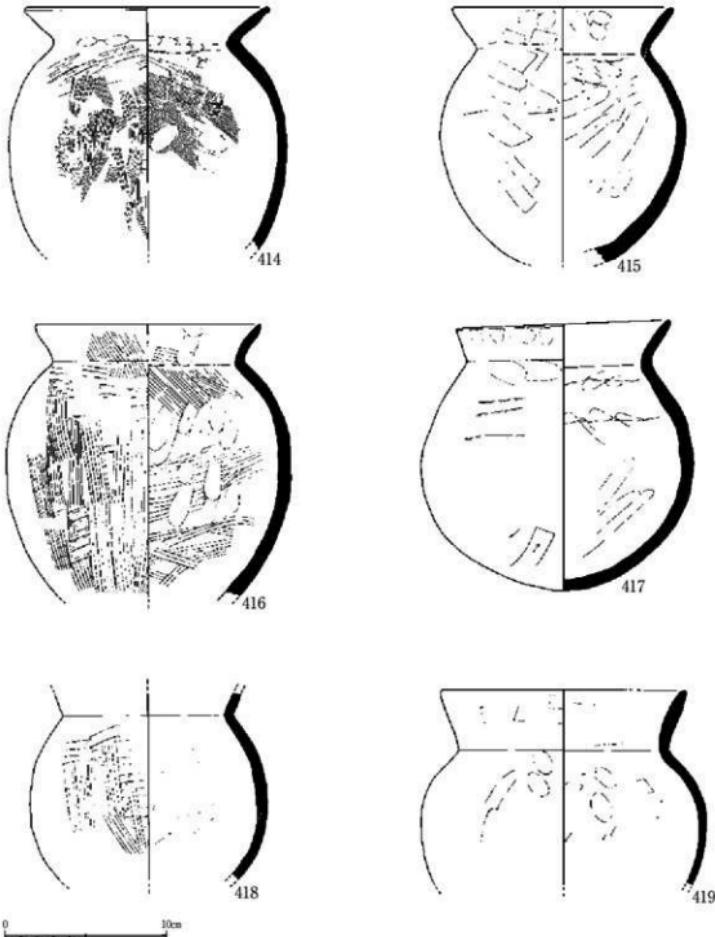
Fig.47 4 A区出土遺物37 III d層 (S : 1/3)

は椀形の体部に短い口縁が付く。外面にはタタキ目が残る。337は長胴形の胴体に口縁は弱い屈曲の後に直線的に立上がる。内外面にナデを施す。340は膨らんだ体部を有したやや壺の形態に近いものである。338は口縁がやや浅い椀形の体部に開いて付く。339は底部が弱い凸面を成し、底部の内面にはハケが施される。341・344は容量大のボウル形を呈する。341は口縁が開いて立上がり、口縁下に明瞭な変換点を有する。外面はタタキのちハケを施す。344は口縁下に粘土の接合痕が存在する。外面にはタタキ目が卓越する。341・344はやや古相か。342から345は鉢の底部と考えられる。342は尖底を成す。やや深い椀形の底部か。345は底部がやや突出する。丸底か。346から351は開いた口頭部に短い口縁が鉗状に付くものであり、鉢とした。何れも口縁は壺形に近似し、開いて立上がる。調整は口縁下の屈曲が緩やかなものにはナデが施されており、口縁下の屈曲がやや急なものはハケを施すか、またはタタキ目を残す。351は口縁が波状を成す。膨らみを持った胴体に口縁は屈曲の後に直線的に立上がる。内面にハケを施し、外面にはタタキ目が残る。352・353は台付鉢とした。やや深い椀形の鉢部に低く短い脚が付く。354か



遺物番号	測量・絵録
410 内面 (L1) ハナギ(網) ハケ、網状板(網内) ヘラナギ、外面 (L2) ハケのちヨコナギ(網) タタキのちハケ(網内) ハケ	
411 内面 (L1) ヨコナギ(網) 網状葉体(網) ヘラナギ、外面 (L2) ヨコナギ(網) タタキのちハケ(網内) ハケ	
412 内面 (L1) ナデ(網) ナデ(網内) アズリのちナデ、外面 (L1) ヨコナギ(網) タタキのちナデ	
413 内面 (L1) ナデ(網) ヘラナギ、ヘラ花瓶(網) ヘラナギ、外面 (L2) ヨコナギ(網) タタキのちナデ	

Fig.48 4 A区出土遺物38 III d層 (S : 1/3)



遺物

調査・成績

414 内面 (L1) ハカのちナデ (刷) 織ハテのちナデ 外面 (L2) ヨコナデ (刷) ナデ、タクキのち織ハケ
415 内面 (L1) ナデ、神社瓦 (刷) 織ハテナカナデ 外面 (L2) ナデ (刷) ハラ佐瓦 (刷) ヘラナデ
416 内面 (L1) 織ハテ (刷) 織ハテナデ、ナデ 外面 (L2) ハテ (刷) タクキのちハテ
417 内面 (L1) ナデ (刷) ナデ、縞合部に押住痕 外面 (L2) ナデ、神社瓦 (刷下) タクキのちナデ (刷下) ナデが折越 (刷下) ケズリのちナデ
418 内面 (L1) ナデ (刷) ヘラナデ 外面 (L2) ハテ (刷) タクキのちハテ
419 内面 (L1) ケズリのちヨコナデ (刷) ナデ 外面 (L2) ヨコナデ (刷) ヘラナデ
420 内面 (L1) ヘラナデ (刷) ナデ 外面 (L2) ヨコナデ (刷) ナデ、ヘラナデ
421 内面 (L1) ナデ (刷) ヘラケズリのちヘラナデ (刷下) ナデ 外面 (L2) ヨコナデ、押住痕 (刷) ヘラナデ

Fig.49 4 A区出土遺物39 Ⅲd層 (S : 1/3)

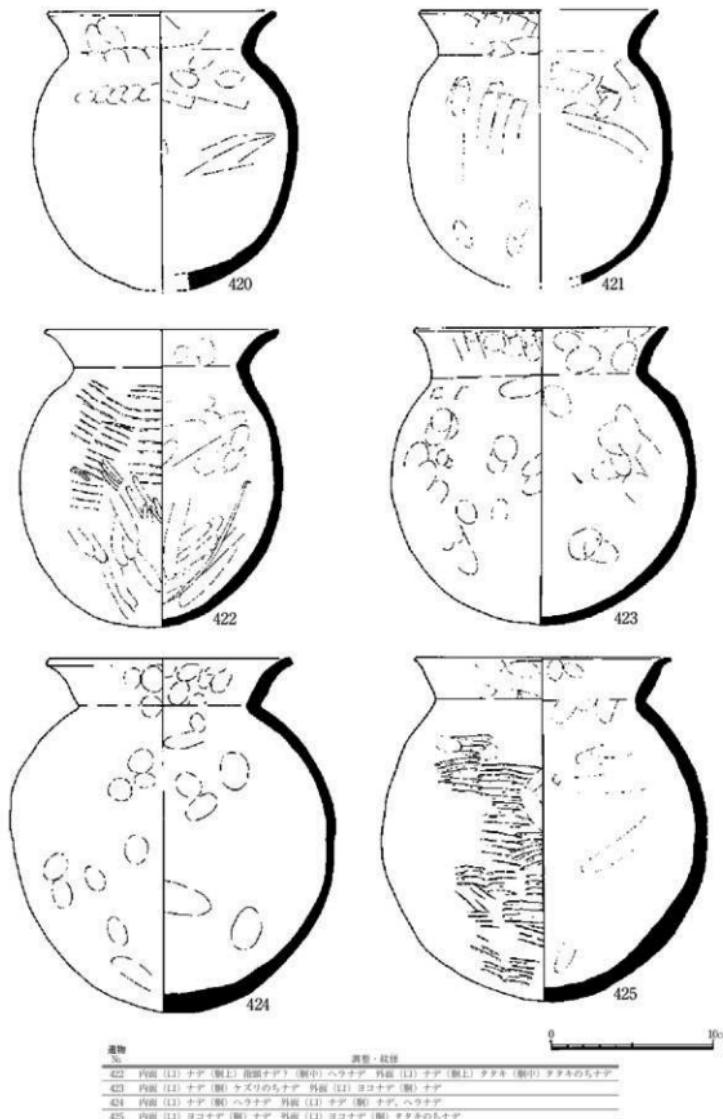


Fig.50 4 A区出土遺物40 IIId層 (S : 1/3)

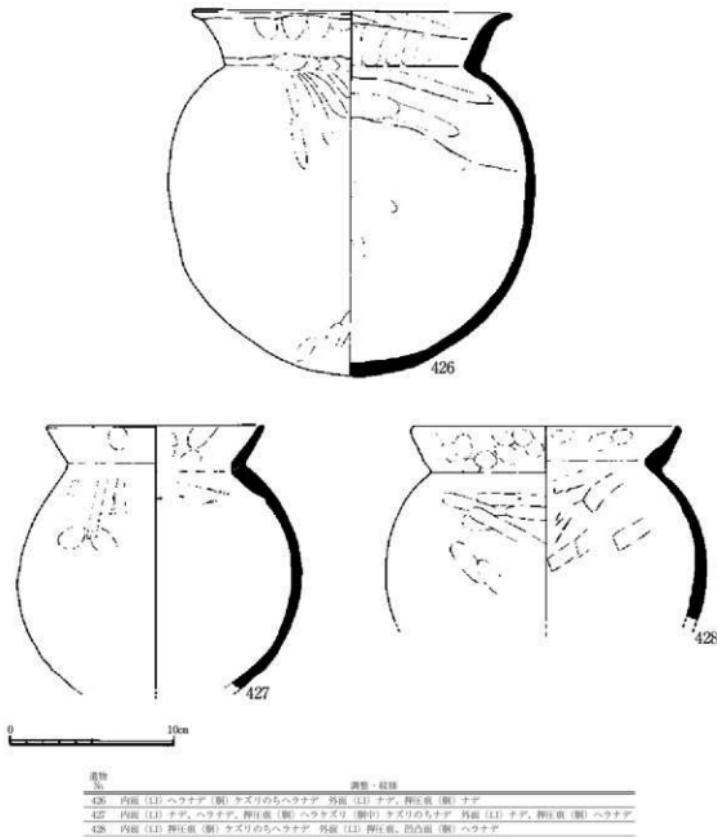
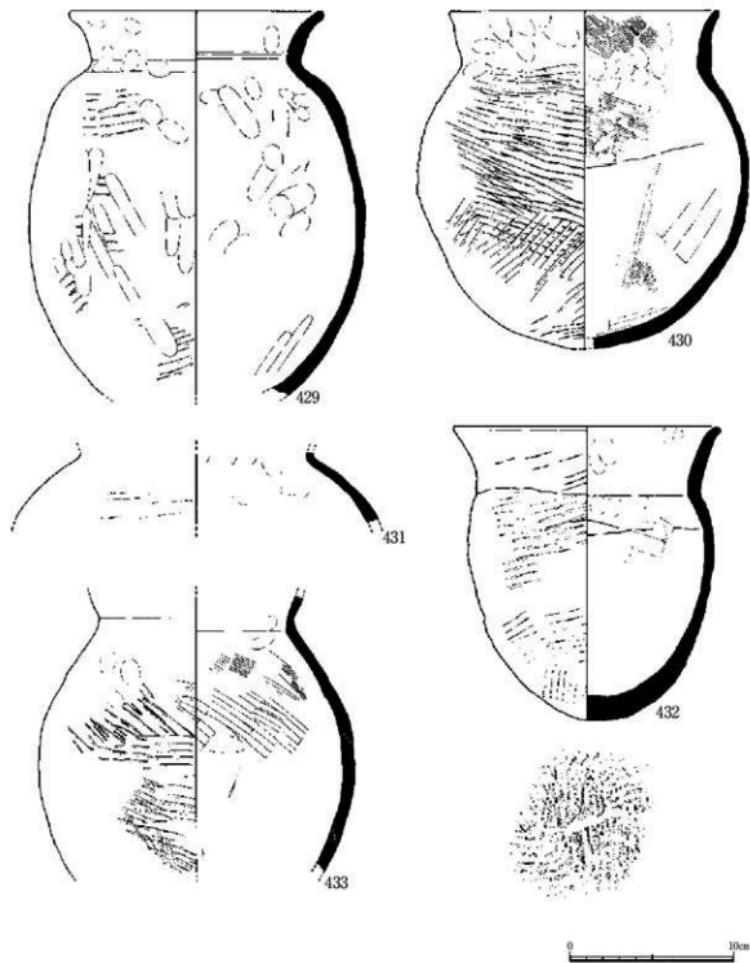


Fig.51 4 A区出土遺物41 IIId層 (S : 1/3)

ら361は有孔の鉢、またはその底部である。357は器高のやや低い楕形である。358・360・361は深めの楕形であり、外面にタタキ目を残す。355は底部が内面側からの焼成前穿孔により粘土が突出する。孔の内面側が大きく広がる。

これらの出土した鉢は主に形態から以下の様に分けることができる。

- 器高が高い楕形、湯呑み形を呈するもの、II) 器高がやや低いく広い口縁を持つ楕形、向付形、III) 器高が低く広い口径を持つ皿形を呈するもの、IV) 比較的容量のあるボウル形、V) 口縁が鈎状をなすものが見られる。I)からV)の各々に於いて以下の形態的な属性がある。



遺物
No.

調整・絞錆

429 内面 (左) ヨコナデ (右) 沈没状の凹部 (左) ケズリのちナデ 外面 (右) ヨコナデ (左) タタキのちナデ

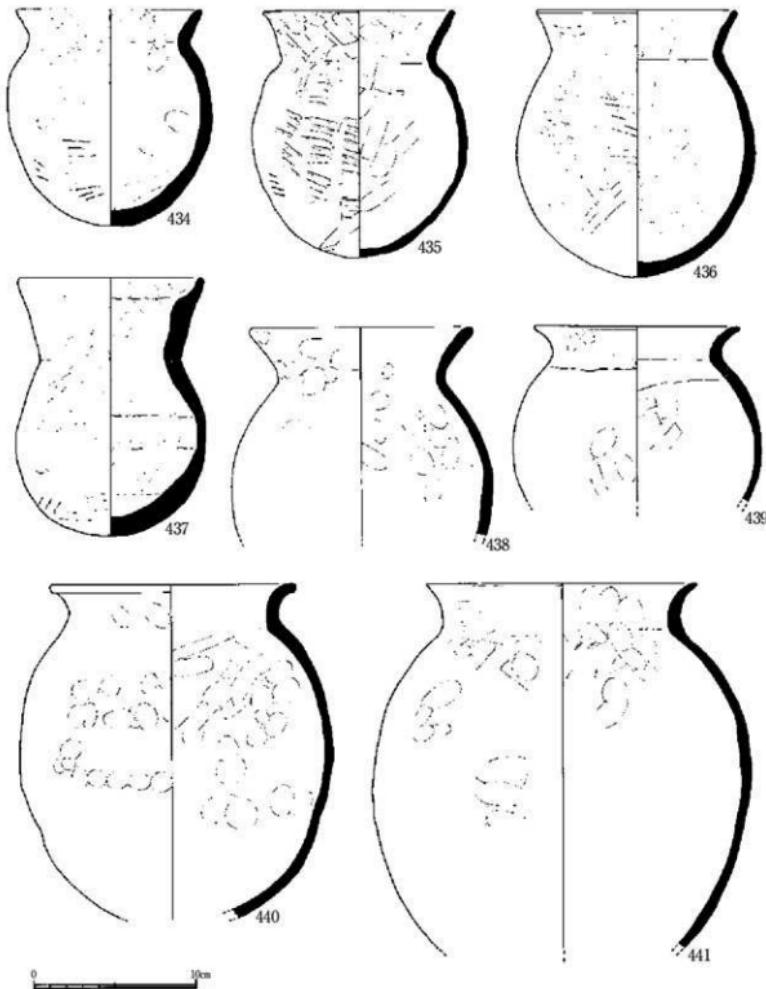
430 内面 (左) ハケ (右) 神社前 (左) ハケのちナデ (右) 相ハケ又はヘラナデ 外面 (左) ダタキのちヨコナデ (右) タタキ

431 内面 (左) ハラ压板 (左上) 壁内板 ハナゲ 外面 (右) ヨコナデ (左上) タタキのちナデ

432 内面 (左) ナデ (右) ナデ ハラ板 外面 (左) ダタキのちナデ (右) タタキ

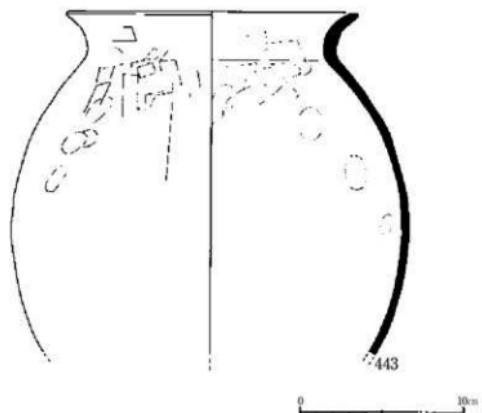
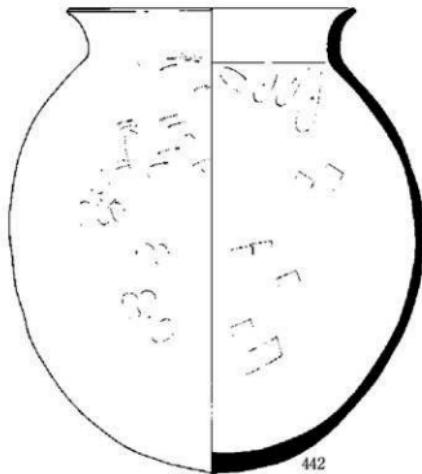
433 内面 (左) ハケのちナデ (左上) ハケのちナデ (右) ハケ? 又はヘラナデ? (左) ケズリ? 外面 (左) ヨコナデ (左上) ヨコナデ (左中) タタキ (左下) タタキのちハケ

Fig.52 4 A区出土遺物42 III d層 (S : 1/3)



遺物 No.	測量・絵様
434 内面 (L) ナデ (網) ヘラナデ 外面 タキのちナデ	
435 内面 (L) ヨコナデ (網) ナデ 外面 (L) ヨコナデ (網) ナデ タキのちヘラナデ	
436 内面 (L) ナデ (網) ナデ (網) ヘラナデ 外面 (L) タキのちナデ? (網) タキのちナデ	
437 内面 (L) 鋼柱底 ナデ (網上) ナデ (網下) ヘラナデ 鋼柱底 外面 (L) ヘラナデ 鋼柱底 (網上) ナデ (網下) タキのちナデ	
438 内面 (L) ヨコナデ (網) ナデ 四凸面 外面 (L) ヨコナデ (網) ナデ	
439 内面 (L) ナデ (網) ケズリのちヘラナデ 外面 (L) ヨコナデ (網) ナデ	
440 内面 (L) ヨコナデ (網) 亂いヘラナデ (網上) ヘラナデ 外面 (L) ヨコナデ (網) ヘラナデ 四凸面	
441 内面 (L) ヨコナデ ヘラ柱 (網上) ケズリのちナデ (網下) ナデ 外面 (L) ヨコナデ (網) ヘラナデ	

Fig.53 4 A区出土遺物43 IIId層 (S : 1/3)



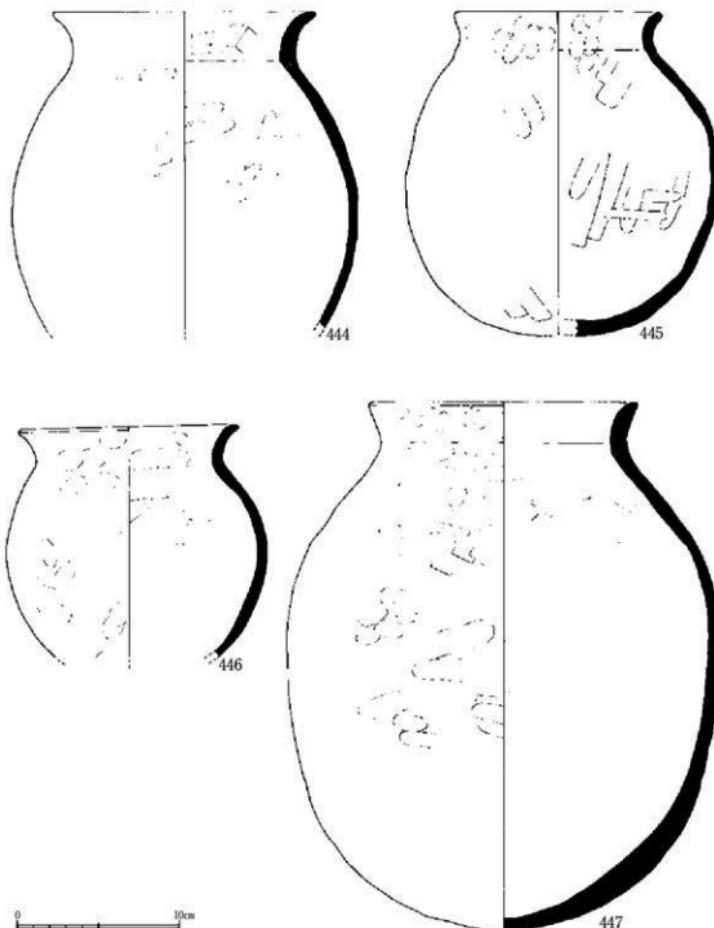
遺物 No.	測量・様様
442 内面 (L1) ヘラナデ (側) ケズリのちナデ 外面 (L2) ヨコナデ (側) ナデ、押付痕	
443 内面 (L1) ヨコナデ (側) ケズリのちナデ 外面 (L2) ヨコナデ (側) ヘラナデ	

Fig.54 4 A区出土遺物44 III d層 (S : 1/3)

口縁形態には、a. 外反するもの、b. 直線的に立上がるものの、c. 内彎するものが存在する。また底部形態には、i. 丸底、ii. 平底、iii. 押しつぶしたような不明瞭な平底が存在する。Iにはa・b・cが存在し、cが多く見られる。bはやや古相か。またaの出現頻度が低い。II・IIIは主にcで占められる。IVは一定量見られるが形態的に個体差が大きい。Vは個体数が少ない。供膳形態を反映したものであろう。

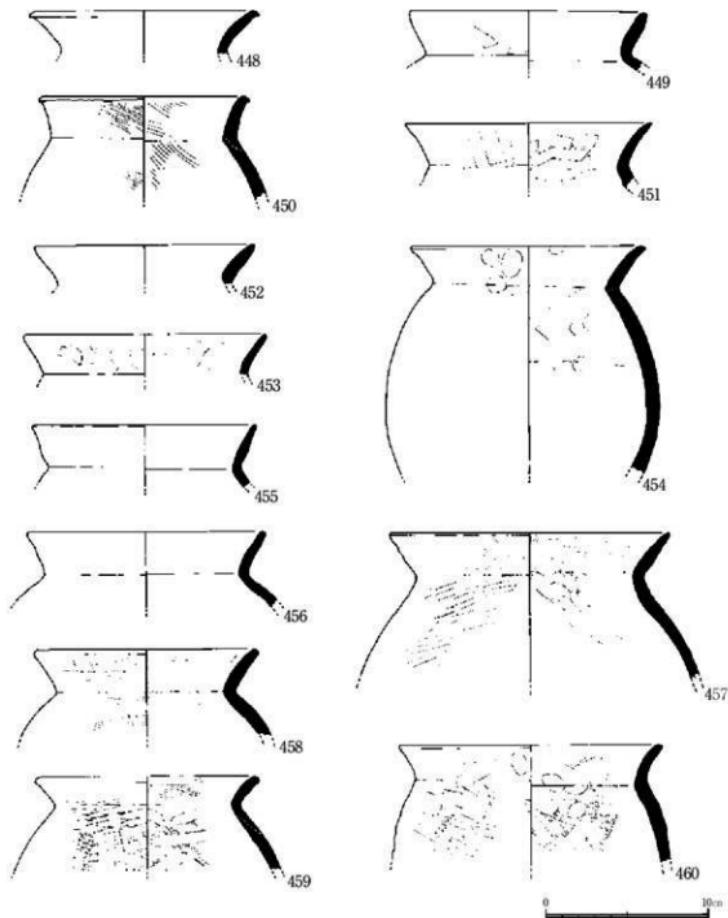
注

- 1) 「仁ノ遺跡」で認められるやや容量のある鉢に残されたザル状容器の痕跡など、型造りの痕跡を明らかに残すものはここでは存在しない。
- 2) 祭祀が夜を通して行われた事を考えると、後のかわらけに見られる灯明皿的な用途が小型の鉢にあった可能性は高い。形態的に椀形、皿形の区別は認められない。



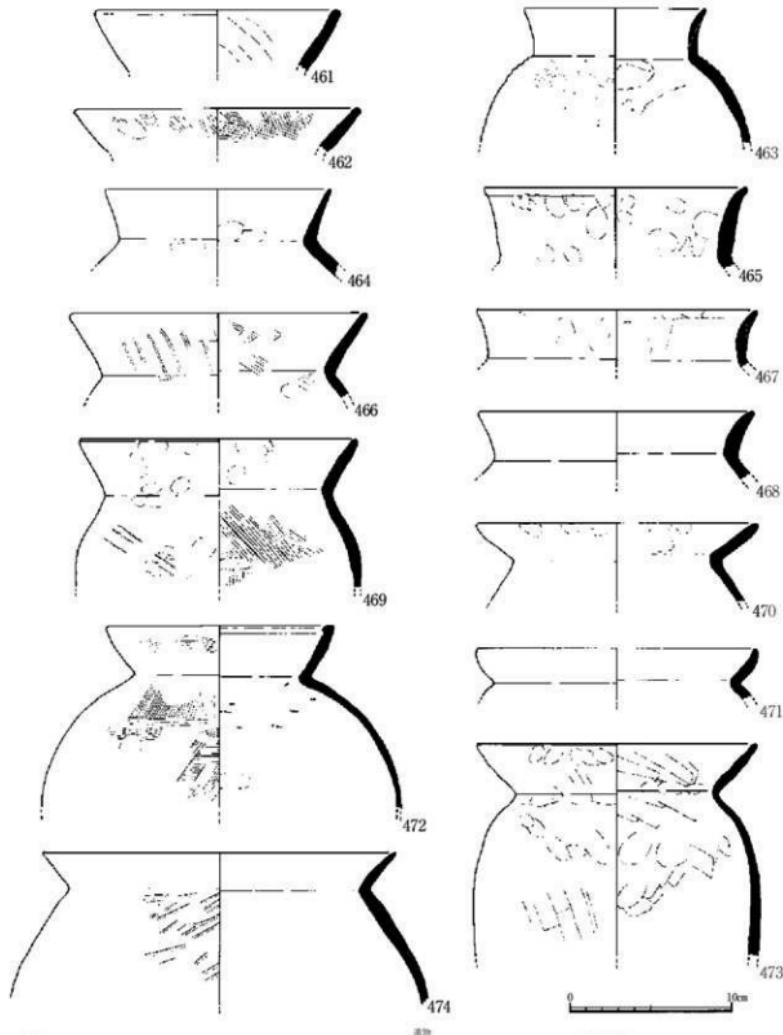
番号	調査・絞り
444	内面 (L) ヨコナデ (削) ケズリのちナデ 外面ナデ
445	内面 (L) ナデ。押付痕 (削) 働いヘラナデ? 外面 (L) ヨコナデ (削) ヘラナデ
446	内面 (L) ヘラナデ (削) ケズリのちナデ 外面 (L) ナデ。押付痕 (削) ヘラナデ
447	内面 (L) ヘラナデ (削) ヘラナデ 外面 (L) ヘラナデ (削) ヘラナデ
448	内面 (L) ナデ 外面 (L) ヘラナデ
449	内面 (L) ヨコナデ 外面 (L) ヨコナデ
450	内面 (L) ハケのちナデ (削) ハケのちナデ 外面 (L) ハケ (削) ハケのちナデ
451	内面 (L) ヘラナデ (削) ヘラナデ? ヘラナデ 外面 (L) ヘラナデ。浅い凹凸面

Fig.55 4 A区出土遺物45 IIId層 (S : 1/3)



遺物	調査・絞錆
448 内底 (L) ケズリのちヨコナデ (削) 外底 (L) ヨコナデ	
449 内底 (L) ナデ (削) 外底 (L) ヨコナデ、押毛根	
450 内底 (L) ナデ (削) ハラナシ (削) 外底 (L) ハケのちナデ (削) ナデ	
451 内底 (L) ナデ (削) ナデ (削) 外底 (L) ナデ (削) ヨコナデ (削) ヨコナデ	
452 内底 (L) ナデ (削) ナデ (削) 外底 (L) ナデ (削) ヨコナデ (削) ヨコナデ	
453 内底 (L) ヨコナデ (削) ナデ (削) 外底 (L) ナデ (削) ヨコナデ (削) ヨコナデ	
454 内底 (L) ハラナシ (削) ハラナシ (削) 外底 (L) ナデ (削) ナデ (削) ナデ	
455 内底 (L) ハラナシ (削) ハラナシ (削) 外底 (L) ナデ (削) ヨコナデ (削) ヨコナデ	
456 内底 (L) ヨコナデ (削) ヨコナデ (削) 外底 (L) ヨコナデ (削) ヨコナデ (削) ヨコナデ	
457 内底 (L) ハラナシ (削) ハラナシ (削) 外底 (L) ハラナシ (削) ヨコナデ (削) ヨコナデ	
458 内底 (L) ヨコナデ (削) ヨコナデ (削) 外底 (L) ヨコナデ (削) ヨコナデ (削) ヨコナデ	
459 内底 (L) ハラナシ (削) ハラナシ (削) 外底 (L) ハラナシ (削) ヨコナデ (削) ヨコナデ	
460 内底 (L) ハケのちヨコナデ (削) ハケ (削) 外底 (L) ヨコナデ、押毛根 (削) ヤクモのちナデ	

Fig.56 4 A区出土遺物46 III d層 (S : 1/3)



遺物 No.	測量・絞様	測量・絞様
461	内面 ハナデ(縦ハケ状跡体) 外面 ナデ、浅い凹凸面	
462	内面 (L1) ヨコナデ、ハケ 外面 (L1) ハケのちナデ	
463	内面 (L1) ヨコナデ(縦) ナデ、押抜(側面) ケズリ 外面 (L1) ヨコナデ(縦) タタキ	
464	内面 (L1) ナデ(縦) 押抜痕(側) 外面 (L1) 押抜(縦) ハケ足はナデ(ハケ状跡体)	
465	内面 (L1) ナデ、押抜痕(側) 押抜痕(縦) 外面 (L1) ヨコナデ	
466	内面 (L1) ハケのちナデ 外面 (L1) ハケのちナデ	
467	内面 (L1) ヨコナデ(縦) 外面 (L1) ヨコナデ(縦) ハケのちナデ	
468	内面 (L1) ヨコナデ(縦) 外面 (L1) ヨコナデ(縦) ハケのちナデ	
469	内面 (L1) ヨコナデ(縦) ハケのちナデ 外面 (L1) ヨコナデ(縦) ハケのちナデ	
470	内面 (L1) ヨコナデ(縦) ハケのちナデ 外面 (L1) ヨコナデ(縦) ハケのちナデ	
471	内面 (L1) ヨコナデ(縦) ハケのちナデ 外面 (L1) ヨコナデ(縦) ハケのちナデ	
472	内面 (L1) ヨコナデ(縦) ハケのちナデ 外面 (L1) ヨコナデ(縦) ハケのちナデ	
473	内面 (L1) ヨコナデ(縦) ハケのちナデ 外面 (L1) ヨコナデ(縦) ハケのちナデ	
474	内面 (L1) ナデ(縦) ハナデによる底凹凸面 外面 (L1) ナデ	

Fig.57 4 A区出土遺物47 Ⅲd層 (S : 1/3)

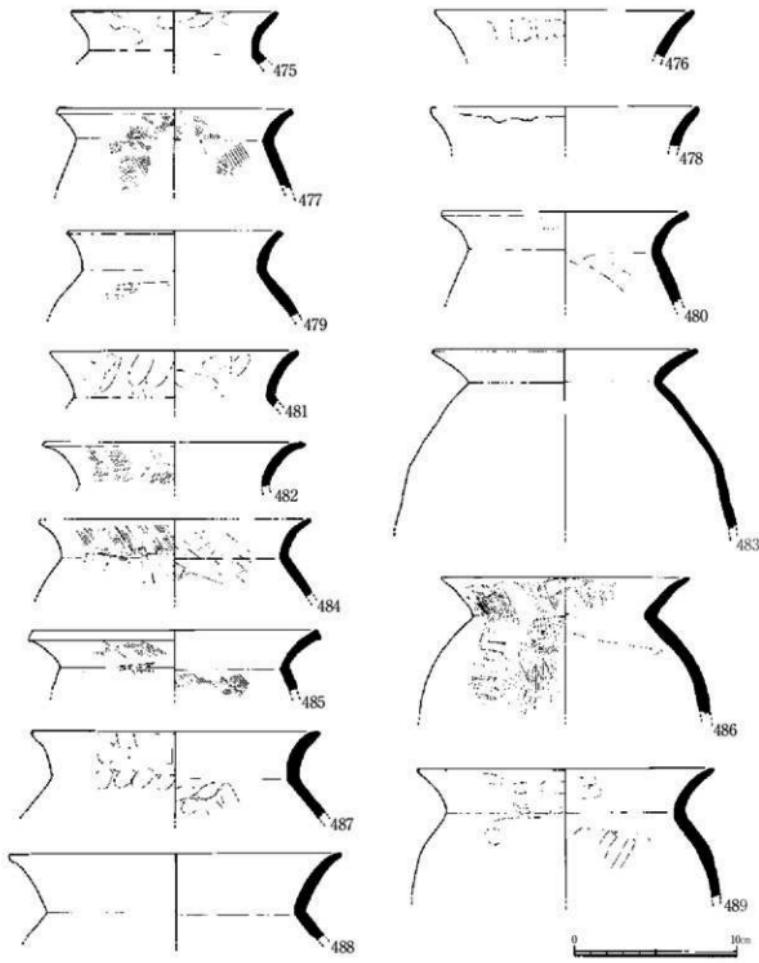
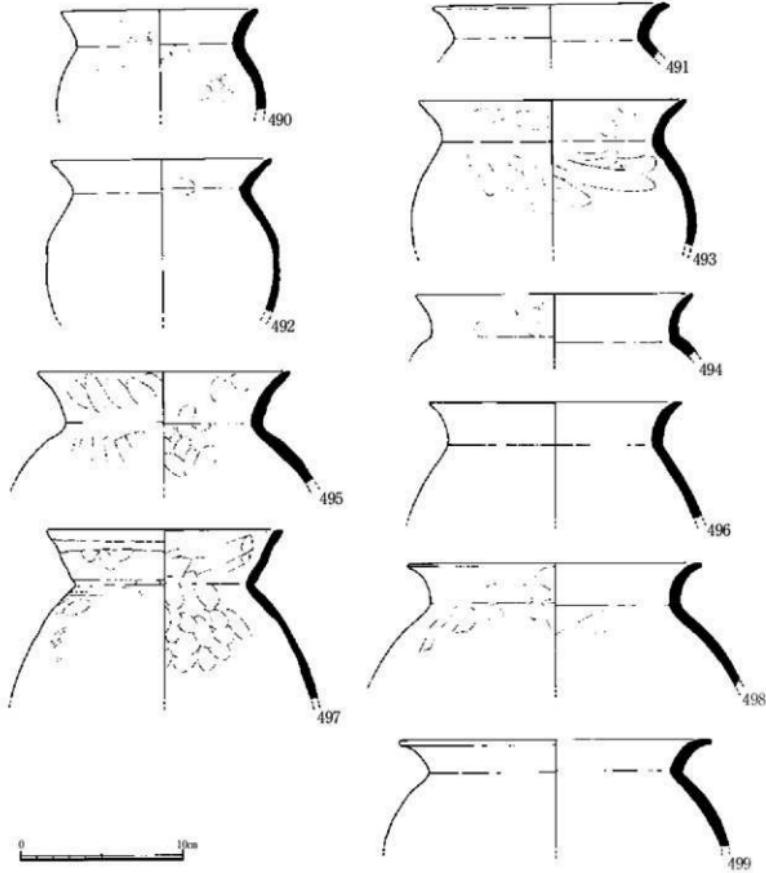
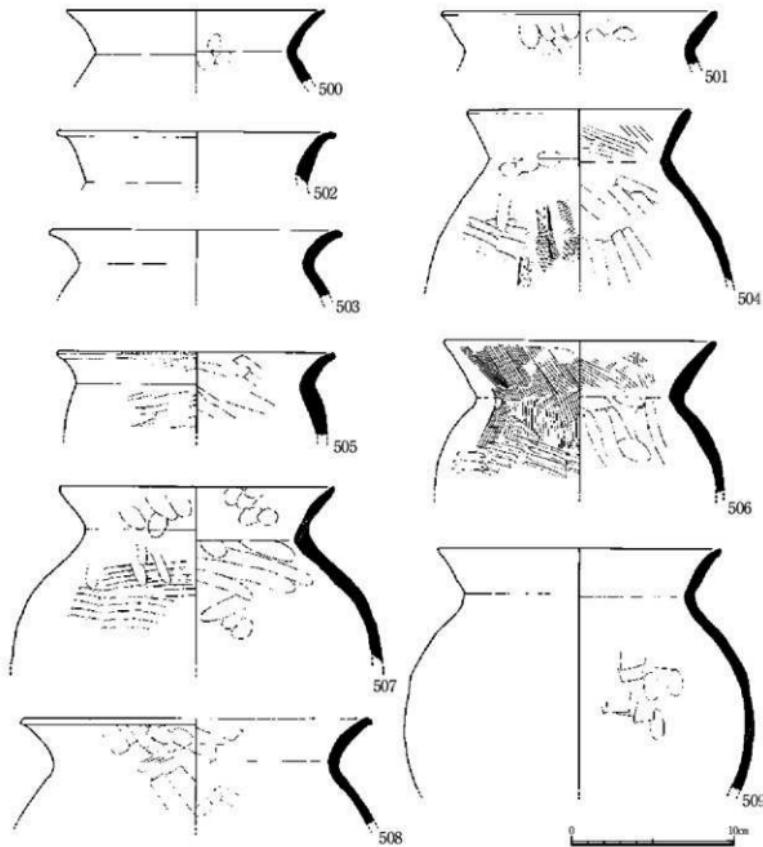


Fig.58 4 A区出土遺物48 III d層 (S : 1/3)



遺物 No.	測定・絵様
490 内面 (L) ナデ (網) ケズリのちたいナデ 外面 (L) ナデ (網) ナデ網	
491 内面 (L) ヨコナデ (網) ナデ 外面 (L) ヨコナデ (網) ナデ	
492 内面 (L) ヨコナデ (網) ハラナデ 外面 (L) ナデ (網) ナデ	
493 内面 (L) ナデ (網) ハラナデ 外面 (L) ヨコナデ (網) ハラナデ、深い凹凸面	
494 内面 (L) ナデ (網) ナデ 外面 (L) ハラナデ (網) 神社紙	
495 内面 (L) ヨコナデ (網) ケズリのちナデ、網状紙 外面 (L) ヨコナデ (網) ハラナデ	
496 内面 (L) ヨコナデ (網) ナデ 外面 (L) ヨコナデ (網) ハラナデ	
497 内面 (L) ヨコナデ (網) ナデ 神社紙 外面 (L) ヨコナデ (網) ヨコナデ	
498 内面 (L) ヨコナデ (網) ハラナデ 外面 (L) ヨコナデ (網) ナデ	
499 内面 (L) ナデ (網) ケズリのちナデ 外面 (L) ヨコナデ (網) ナデ	

Fig.59 4 A区出土遺物49 IIId層 (S : 1/3)



遺物
No.

	測定・経緯
500	内面 (L1) ナデ (側) 摘出痕。ハケのちハラナデ。外面 (L2) ナデ。浅い凹凸面 (側) ヨコナデ (側) ナデ
501	内面 (L1) ナデ。押出痕。外面 (L2) ナデ。凹凸面
502	内面 (L1) ナデ。外面 (L2) ヨコナデ
503	内面 (L1) ヨコナデ (側) ケズリのちナデ。外面 (L2) ナデ
504	内面 (L1) ヨコナデ。内面 (L2) ハラナデ。外側 (L3) ヨコナデ (側) タキのちハケ。ハラナデ
505	内面 (L1) ヨコナデ (下) ハラナデ (横ハサウエ器具が入る) (側) ハラナデ (横ハサウエ器具が入る) 外面 (L2) ハラナデ (側) ナデ (側) ヨコハラナデ (側) タキ
506	内面 (L1) ハケ (側) ハラナデ。外面 (L2) タタハナのちヨコナデ (口部と底部にナデ跡有) (側) タキのちハケ
507	内面 (L1) ヨコナデ (側) ナデ。外面 (L2) ヨコナデ (底部で鋸歯有) (側) タキのちナデ (上縁でナデ有無)
508	内面 (L1) ハラナデ (側) ナデ。外面 (L2) ナデ (側) ナデ (側) ヘラナデ
509	内面 (L1) ヨコナデ (側) ヘラナデ。外面 (L2) ヨコナデ (側) ヘラナデ

Fig.60 4 A区出土遺物50 IIId層 (S : 1/3)

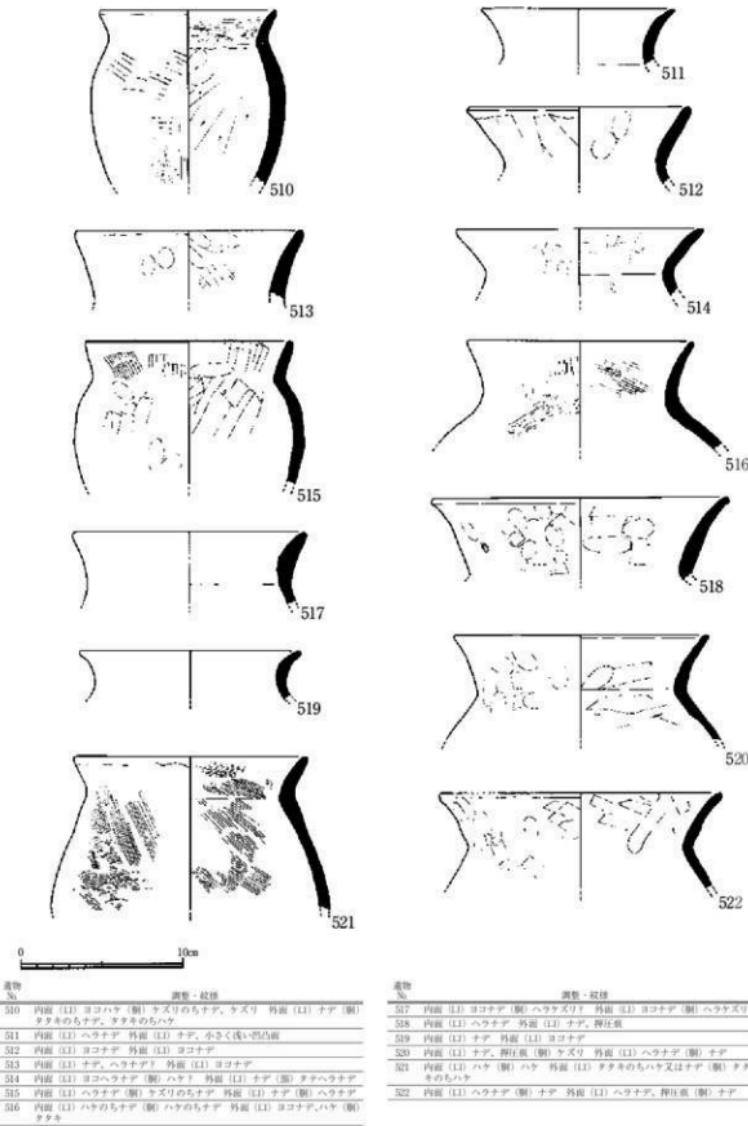
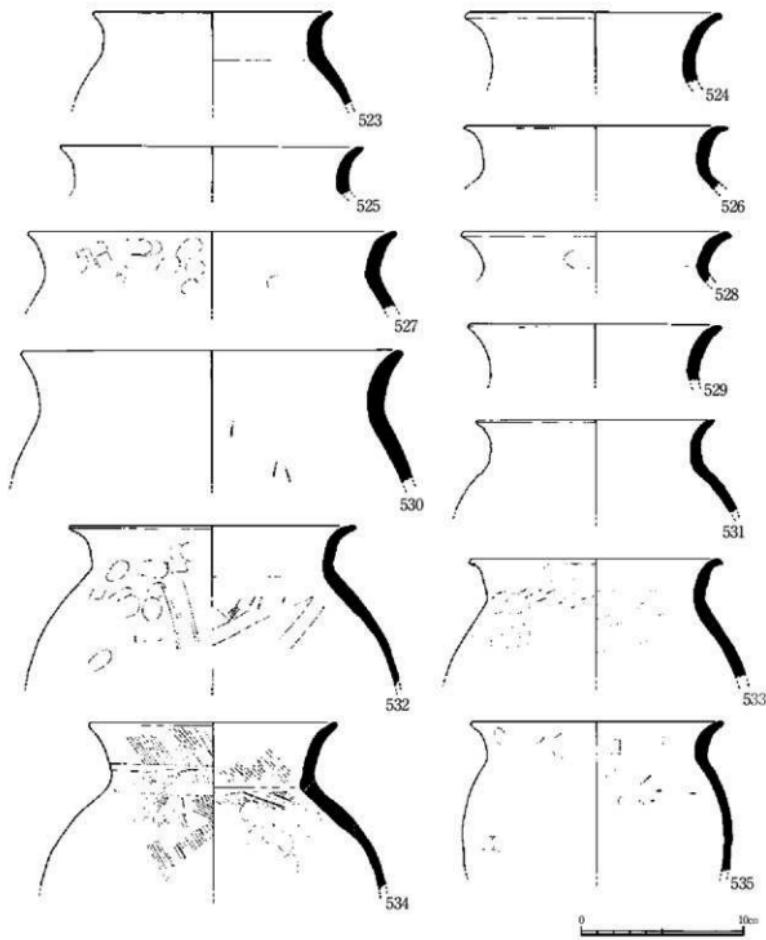
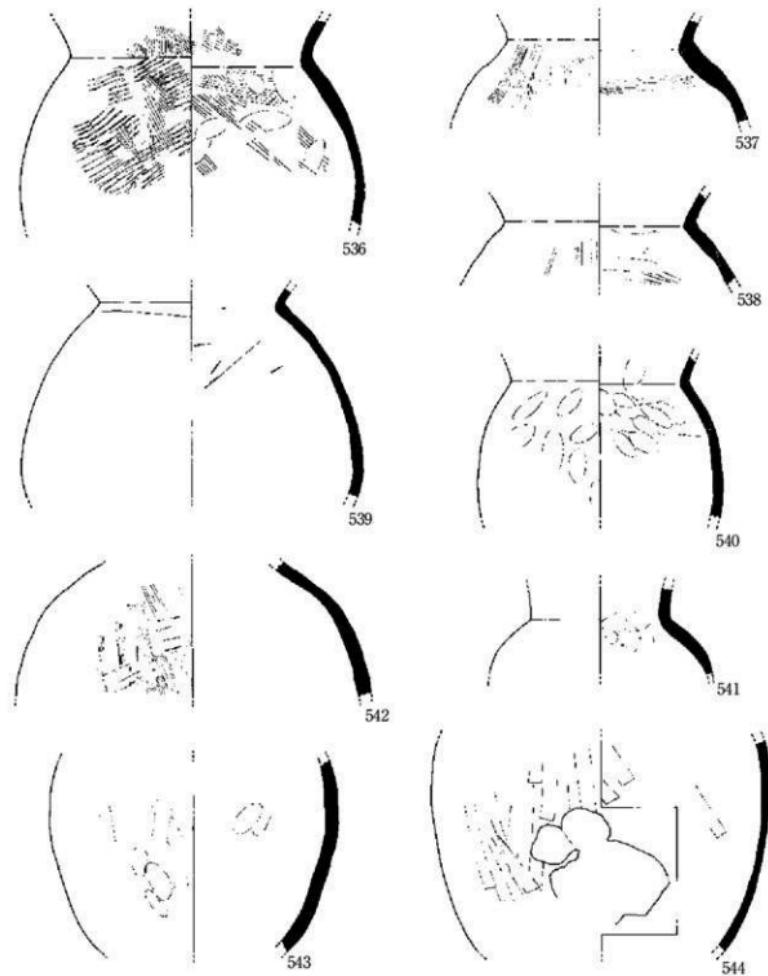


Fig.61 4 A区出土遺物51 IIId層 (S : 1/3)



遺物 No.	測量・絵様
523 内面 (L) ナデ (滑らかに仕上げる) (削) ケズリ? 外面 (L) ナデ (削) ナデ	
524 内面 (L) ナデ 外面 (L) ハラナデ? ハラナデ?	
525 内面 (L) ヨコナデ 外面 (L) ヨコナデ	
526 内面 (L) ナデ、浅く凹凸感 両面 (L) ナデ	
527 内面 (L) ナデ (削) ナデ (削) ハラナデ	
528 内面 (L) ヨコナデ (削) ナデ	
529 内面 (L) ナデ (削) 外面 (L) ヨコナデ (削)	
530 内面 (L) ナデ (削) ナデ	
531 内面 (L) ヨコナデ (削) ナデ 外面 (L) ヨコナデ (削) ナデ	
532 内面 (L) ヨコナデ (削) ケズリのちナデ 外面 (L) ヨコナデ (削) ハカ のちナデ	
533 内面 (L) ナデ (削) ケズリのもハラナデ 外面 (L) ナデ、ハラ丘筋 (削) ハラナデ	
534 内面 (L) ハケのちヨコナデ (削) ハケのちナデ 外面 (L) ハケのちヨコ ナデ (削) ハクヨコナデ (削) ハケ	
535 内面 (L) ナデ (削) ケズリのちナデ 外面 (L) ナデ、押汗筋 (削) ナデ	

Fig.62 4 A区出土遺物52 Ⅲd層 (S : 1/3)



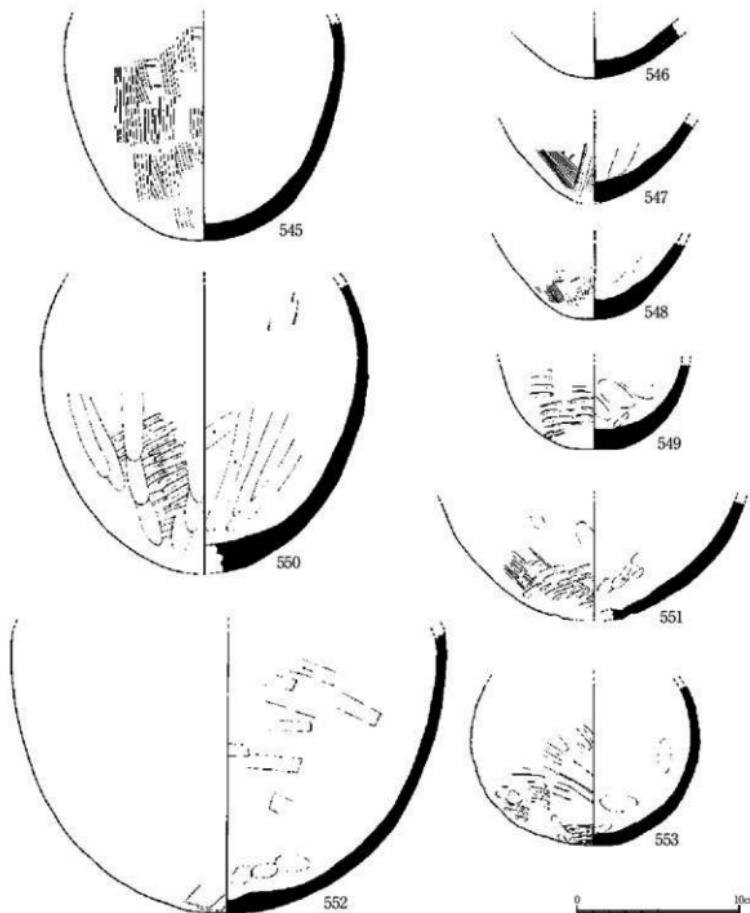
遺物
53

測量・校正

遺物	測量・校正
536 内面 (L1) ハタのちナデ (側) ハタのちナデ 外面 (L1) ハタ (側) ハタキのちナデ (側)	
537 内面 (L1) ナデ (側) ハタのちナデ (ケズリ様に線粒が動く) 外面 (L1) ハタ (側) ハタナデ (ハタ底全体)	
538 内面 (L1) ナデ (側) 風呂コハテ、頭部下に押付痕 外面 (側) ヨコナデ (側) ハタ ナデ	
539 内面 (L1) ナデ (側) ケズリのちヘラナデ 外面 (側) ヘラナデ	

遺物	測量・校正
540 内面 (L1) ヘラナデ (側) 頭 (側) ナデ、複合痕、凸凹痕 外面 (L1) ヨコナデ (側) ヨコナデ、ナデ	
541 内面 (L1) ナデ (側) 押付痕 (側) ハタ・ナデ 外面 (L1) ヨコナデ (側) ヨコナデ	
542 内面 (側上) ナデ (側下) ハラナデ 外面 (側上) ハタケ (側下) ハタキのちハタ	
543 内面 (側) テヌのちナデ 外面 (側) ヘラナデ	
544 内面 (側) ヘラナデ 外面 (側) ヘラナデ (細かいハタ底全体)	

Fig.63 4 A区出土遺物53 IIId層 (S : 1/3)



遺物 No.	調査・経緯
545	内面(側) ナデ、ヘラナデ 外面(側) タタキのちハバ(底) ナデ
546	内面(底) ナデ、波状凸面 外面(底) ヘラナデ
547	内面(底) ナデ、波状凸面 外面(底) タタキのちハバ
548	内面(底) ナデ、外面(底) タタキのちハバ、周目?注出
549	内面(底) ナデ、外面(底) ヘラナデ
550	内面(側) ナデ、波状凸面 外面(側) ナデ
551	内面(側) ナデ、外面(側) ナデ
552	内面(側) ナデ、外面(側) ナデ
553	内面(側) ナデ、外面(側) タタキのちナデ(底) ヘラナデ

遺物 No.	調査・経緯
545	内面(側) ナデ、ヘラナデ 外面(側) タタキのちハバ(底) ナデ
546	内面(底) ナデ、波状凸面 外面(底) ヘラナデ
547	内面(底) ナデ、波状凸面 外面(底) タタキのちハバ
548	内面(底) ナデ、外面(底) タタキのちハバ、周目?注出
549	内面(底) ナデ、外面(底) ヘラナデ
550	内面(側) ナデ、波状凸面 外面(側) ナデ
551	内面(側) ナデ、外面(側) ナデ
552	内面(側) ナデ、外面(側) ナデ
553	内面(側) ナデ、外面(側) タタキのちナデ(底) ヘラナデ

Fig.64 4 A区出土遺物54 III d層 (S : 1/3)

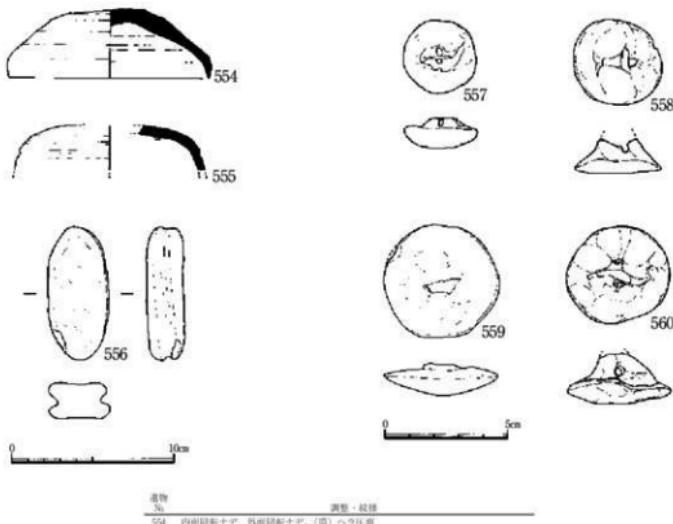


Fig.65 4 A区出土遺物55 III d層 (S : 1/2, 1/3)

甕 (Fig.41~64)

甕として図示したものは362から553の192点である。

362から379は小型の甕口縁である。頭部の屈曲は弥生後期末のように急なものは少ない。頭部の屈曲は緩くなっているものの、依然として変換点として頭部に稜を留めるものは存在する。363は内面にハケを施し、頭部の屈曲は急である。366は頭部で屈曲し、短く直線的に立上がる。367は口唇が外傾する面を成す。365・368は口縁が頭部から緩く外反して立上がる。一方、緩やかに曲がる頭部には、377や378のように連続的に外反して口頭部に明瞭な変換点(稜)を持たないものがある。また372・373・374に見られるのは、ナデ等の調整により頭部が緩く仕上げられ、上下位に弱い段が形成されるものがある。

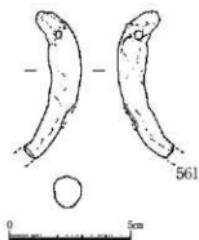


Fig.66 4 A区出土遺物56 III d層土製勾玉 (S : 1/2)

380から387は口縁で屈曲を有するものである。380・382は頸部で屈曲の後に短く立上がる。385は口縁が緩く外反するものであり、口唇は外傾する面を成す。387は口縁が内唇気味に立上がるものである。調整ではナデが盛行するものの、外面にタタキ目が残るものが多い。382・385・387ではタタキのちハケまたはハケ状工具によるナデが見られる。内面は380・383でケズリが施されており、382・385・387ではハケ目が残される。388から393は頸部で屈曲し、口縁は直線的に短く立上がるものである。胴部形態は球形指向かやや倒卵形¹⁾を呈するものが多い。388・392は口唇が外傾する面を成し、388は外側にやや肥厚する。外面には何れもタタキ目を留める。389・392はタタキのちナデである。388はタタキのちハケ状工具によるナデと考えられる。390・391・393ではタタキのちハケが卓越する。底部は丸底である。394・396から398は屈曲する頸部から口縁は直線的またはやや外反して立上がるものである。394・396・397は不明瞭ながら口唇が面を成し、調整は外面にタタキ目を残してナデまたはヘラナデが施されている。399はやや長胴気味の胴部に口縁はやや外反するものあり、内面には粘土接合痕を残す。401から404・406は頸部で屈曲し、口縁は外反する。401・403は口唇が不明瞭ながら外傾する面を成す。401は外面にタタキのちナデを施す。402は内面にケズリ痕が見られ、器壁は薄く仕上げられる。405・407は頸部に部分的な屈曲と彎曲の共存が認められるものである。胴体部は倒卵気味であり、外面にタタキ目を残す。408は形骸化した二重口縁を呈する。口縁は屈曲部で突帯状に外面に突出する。409は球形指向の胴体から屈曲の後に口縁が直線的に立上がる。内面にはケズリが施される。410から419は屈曲する頸部から口縁は直線的に立上がるものである。胴部は球形または球形指向である。417は最大径がやや下位に移行したフラスコ形を呈する。410は口唇が外傾する面を成し、外側にやや肥厚する。外面の調整は413・419がナデで仕上げられており、他ではタタキ目を残す。タタキのちハケまたはハケ状工具によるナデが施されるものが見られる。420から426は頸部の屈曲から口縁は外反して立上がるものである。外面の調整はナデによるものが多い。胴部は球形または球形指向である。口唇は丸くおさめるものが多いが、424は外傾する面を成す。422・425は外面にタタキ目を残す。400・427・428は頸部の屈曲から口縁は内唇気味に立上がる。胴部形態は球形からやや長胴形であり、内面にケズリ痕を残す。429・431・433は頸部にナデ等が施されて彎曲する。429はナデにより頸部下に弱い段を持つ。434から438は頸部が緩やかに曲り、口縁は直線的に立上がる。胴部は球形である。外面にはタタキ目を残してナデが施される。437は長い口縁を有し、最大径が胴部の下位に移行したものであり、フラスコ形が顕著である。430・432・439から447は緩やかに曲がる頸部から口縁は外反して立上がる。胴部は球形からやや長胴形である。430・432は口縁の外反が緩やかである。432の口唇は外傾する面を成し、440は口唇が概ね直立する丸味を持った面を成す。430と432の外面にはタタキ目が顕著に残されている。439から447は口頸部が連続的に外反すると云った表現が適當であろう。外面の調整はナデかヘラナデで仕上げられており、内面にはケズリが施されるものがある。448から469・474は口縁部の破片であり、屈曲する頸部から口縁は直線的に立上がる。口唇は丸味をもって仕上げるものが多く、調整ではナデまたはヘラナデを用いる。また口唇が面を成す458や459などで、器面にハケ目が残されている。448は急な屈曲部を持つ。口唇は外傾する面を成し、外側に

やや肥厚する。450と共に弥生後期末のものか。454は口唇が外傾する面を成す。470から473は屈曲する頸部から口縁は内彎気味に立上がるるものである。472は搬入品である。屈曲する頸部から口縁は内彎して立ち上がり、やや肥厚する。内面にはケズリを施す。尚、4 A区の本層から出土した搬入品と認められる土器は23点であった。475から489は頸部の屈曲から口縁は外反して立上がる。ここでも口唇を丸く仕上げるもの多くが器面をナデによって仕上げられている。477・485は口唇が外傾する面を成し、外側へやや肥厚が認められる。器面にはハケ目が施されており、一部にはタタキ目が残されている。490から499は頸部に屈曲と湾曲の共存が認められるものである。口縁は多くが外反して仕上げられる。調整の多くはナデである。479は直線的に立上がる口縁を持ち、口唇は内傾する面を成す。493は内面にケズリが施される。500から509はナデ等の調整により頸部は彎曲する。501・504・506は口縁が直線的に立上がる。他の口縁は緩く外反して立上がる。505は口唇の外傾する面にヘラ圧痕が認められる。510から535は緩やかに曲がる頸部を有する。519・523から535は口頭部が連続して外反するものである。510から518・520から522は口縁が直線的またはやや外反するものである。口唇は丸く修めるものや丸味を持つた面を成すものが多い。518は外傾する面を成す。調整は概ねナデまたはヘラナデで仕上げられており、534では外面にハケ、510・512では外面にタタキのちハケが認められる。内面のケズリは520・530・532・535に認められる。536から544は頸部と胴部である。536から541は屈曲する頸部を持つ。536は球形の胴部と考えられる。外面はタタキのちハケが施される。539は最大径が胴部の下寄りに移行したものであり、内面にケズリを施す。540は長胴形か。内面に粘土接合痕が見られる。545は丸底の底部である。545・547・548は外面がタタキのちハケで仕上げられる。550は球形の胴部に外面はタタキのちナデを施し、内面はナデで仕上げケズリ痕を残している。552はヘラナデによる調整が顕著である。

亮は、頸部の屈曲形態、口縁部形態、胴部形態、調整の各属性によって以下の様に分けられる。

I) 頸部の屈曲形態は、a. 頸部が「く」の字状に屈曲するもの、b. 頸部に屈曲と彎曲が同時に存在するもの、c. 頸部がナデ等により彎曲するもの、d. 頸部が緩やかに曲がるものがある。

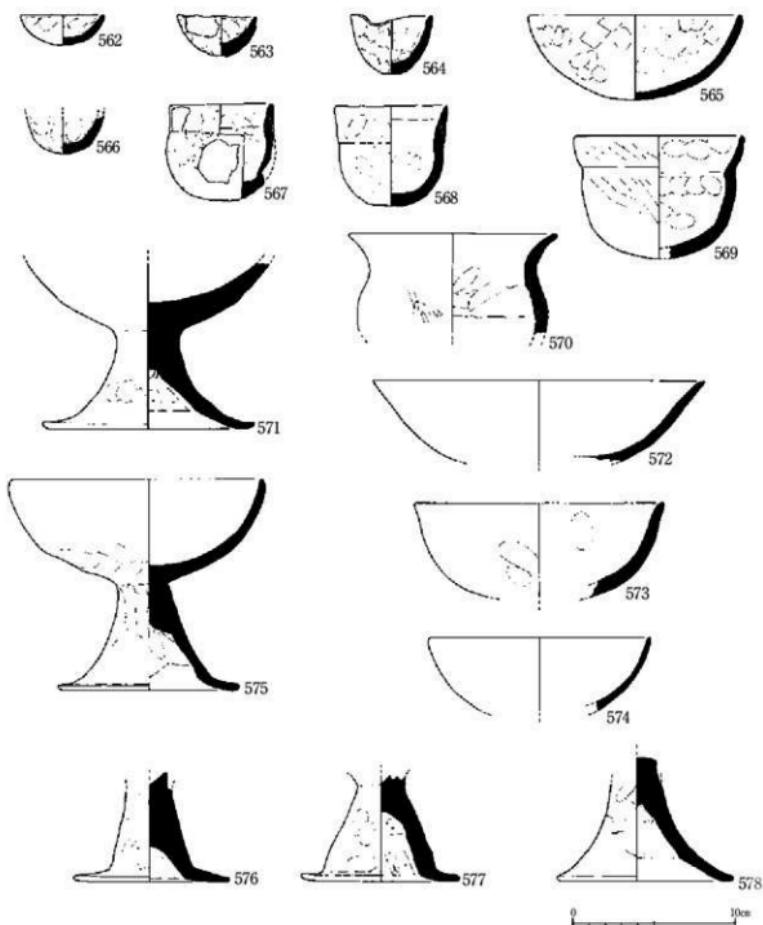
※このうち I bについては破片の場合抽出が困難と考えられ、その場合は I aと I cに加算される。

II) 口縁部形態は、a. 直線的に立上がるもの、b. 外反するもの、c. 内彎するものがある。

III) 胴部形態は、a. 胴部の中位に最大径を持ち下位がやや細くなったもの、フットボール形を呈するもの、b. 球形、または球形指向のもの、c. 胴部中位からやや下位に最大径をもつ、やや長胴形を呈するものである。

IV) 調整・成形痕は、器面（ここでは主に胴体部）に残された調整や成形痕であり、ハケ、タタキ、ナデ、ケズリ²⁾である。ナデを除いてこれらが単独で存在することは稀であり、概ね複合した状況が認められる。a. タタキ+ハケ、b. タタキ+ナデ、c. ハケ+ナデ、d. ケズリ+ナデ、e. ナデである。

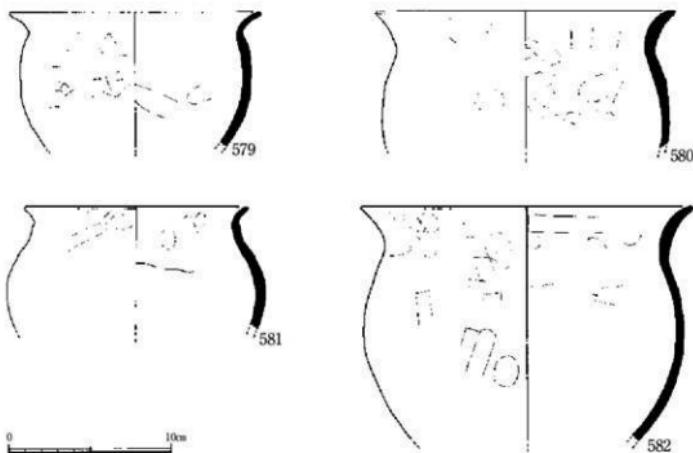
ここでは、III bの属性には I aや IV a・IV dなどの属性がやや顕著に認められる。また、I dの属



番号	測量・絵録
562	内面ナデ、背面直、外面ヘラナデ
563	内面ナデ、背面直、外面直
564	内面直、外面ナデ、背面直
565	内面(右)ナデ(左)ケズリのちナデ(右)ナデ 内面(左)ナデ(右)ナデ、押付
566	内面ヘラナデ 外面(左)ココナデ(右)ナデ
567	内面直、外面ナデ(凸面)
568	内面(左)ナデ(右)曲面ナデ 外面(左)ナデ(右)ナデ(右)ヘラナデ
569	内面(左)ココナデ(右)1字なナデ(右)ヘラナデ(左)ケズリ縁に砂粒が跡く(右)ナデ 外面(左)ヘラナデ(右)ナデ(右)ココナデ
570	内面(左)ナデ(右)曲面(右)ヘラナデ(左)ナデ(右)ココナデ
571	内面直、外面直
572	内面直、外面直
573	内面(左)ナデ(右)曲面(右)ナデ
574	内面直、外面直
575	内面直、外面直
576	内面直、外面直
577	内面直、外面直
578	内面直、外面直

番号	測量・絵録
571	内面(右)ナデ(左)ケズリのちナデ(右)ナデ 内面(左)ナデ(右)ナデ、押付
572	内面ナデ(左)カニナデ(右)外面ナデ
573	内面(右)ナデ(左)ナデ
574	内面(右)ナデ(左)ナデ
575	内面(左)ココナデ(右)1字なナデ(右)ヘラナデ(左)ケズリ縁に砂粒が跡く(右)ナデ 外面(左)ヘラナデ(右)ナデ(右)ココナデ
576	内面(右)ナデ(左)曲面(右)ヘラナデ(左)ナデ(右)ココナデ
577	内面(左)ナデ(右)曲面(右)ヘラナデ(左)ナデ(右)ココナデ
578	内面(右)ケズリのちナデ(左)ナデ(右)ナデ(左)ナデ(右)ヘラナデ

Fig.67 4 A区出土遺物57 Ⅲb層 (S : 1/3)



遺物	調査・状態
579 内面 (L) ナゲ (削) ナゲ 外面 (L) ココナデ (削) ヘラナゲ、凹凸面	
580 内面 (L) ココナデ (削) ヘラナゲ 外面 (L) ココナデ (削) ナゲ	
581 内面 (L) ナゲ (削) ナゲ 外面 (L) ナゲ (削) ナゲ (浅い凹凸面)	
582 内面 (L) ココナデ (削) ケズリのちナゲ 外面 (L) ココナデ (削) ナゲ	

Fig.68 4 A区出土遺物58 IIIb層 (S : 1/3)

性にはIIIcやIVbの属性が顕著である。

注

- 1) 肩のやや張った形態で所謂倒卵形を呈するものは厳密には確認できない。IIIcのやや長胴形とは区別する。
- 2) 出土遺物（主に壺）内面には調整でケズリ風に強いナゲが施されるものが見られた。器壁を削り取り薄く仕上げる意図が在ったかどうかは疑問であるが、ケズリを意識したものであろう。

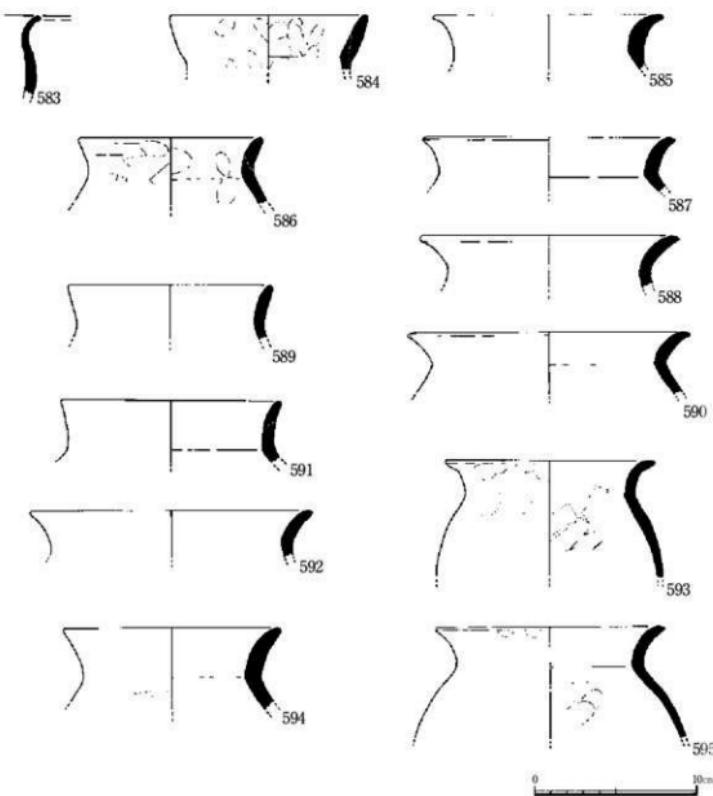


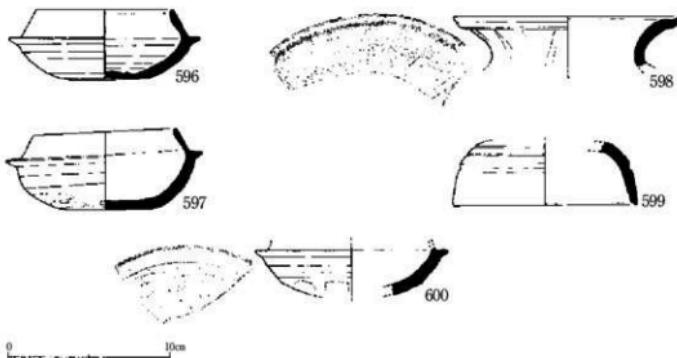
Fig.69 4 A区出土遺物59 III b層 (S : 1/3)

須恵器・蓋 (Fig.65)

図示したのは554と555の2点である。554はやや後出するものであろう。555は古墳中期か。

土製品 (Fig.65・66)

556は有溝土錘、557から560は土製の鏡である。561は土製勾玉であり、頭部をやや扁平である。



遺物 No.	調査・絞目
596	内面回転ナメ 外面(口)ナメ(体)回転ナメ、ヘラナメ
597	内面回転ナメ 外面(体) 中位以上回転ナメ、下位ヘラナメ
598	内面(口)回転ナメ 外面(口)回転ナメ。施文風らしきガキ
599	内面ナメ 外面(口)回転ナメ、回転ナメ、沈澱物の段部
600	内面(体)回転ナメ 外面(体)回転ナメ。回転ナメ(底)ヘラナメ?

Fig.70 4 A 区出土遺物60 IIIb層 (S : 1/3)

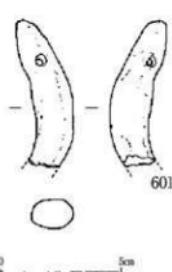
III b層出土土器・土製品 (Fig.67~70)

出土土器・土製品の総点数は、約1,750点である。縄文土器は18点、弥生土器53点、土師器は1,657点、須恵器は3点である。

・土師器

ミニチュア土器 (Fig.67)

562から564と566から568の6点を図示した。562から564は鉢形の製品であり、562はⅢ、563・564は楕の形態に近いものである。567・568は壺形に相当するものか。



鉢 (Fig.67)

565の1点を図示した。器高の低い楕形のものである。

小型丸底土器 (Fig.67)

569と570の2点を図示した。569は開いた口縁が鍔状を成すものであり、鉢形。570は丁寧な仕上げを行う。

Fig.71 4 A 区出土遺物61 IIIb層土製勾玉 (S : 1/2)

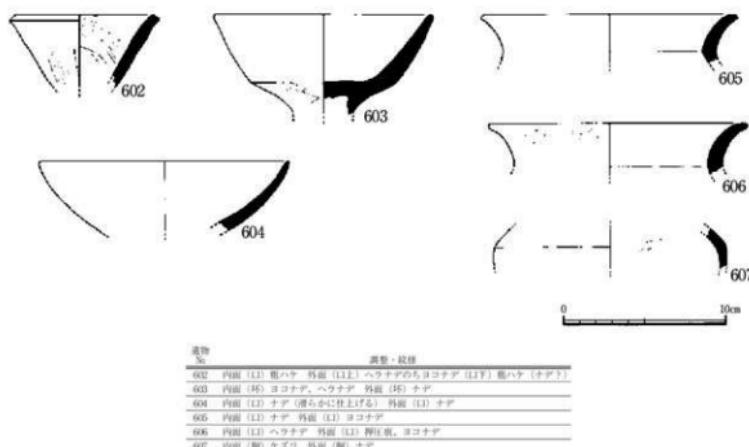


Fig.72 4 A区出土遺物62 III層群 (S : 1/3)

高坏 (Fig.67)

図示したものは571から578の8点である。572は高坏の口縁であり、直線的に大きく広がる。破断面下部に恐らく屈曲部を持つであろう。573・574は椀形の坏部であり、前者はやや外反し、後者は内彎して立上がる。571・575・578の脚部は裾に向かって連続的に外反する。571・578に繋がる口縁形態は573・574の椀形の坏部であろう。576・577は裾で屈曲する脚であり、坏部に段または屈曲を有するものに繋がるであろう。

壺 (Fig.68・69)

579から595の17点を図示した。579は開いた口縁から鉢付の鉢と区別し難い。頸部はナデにより彎曲し、短く外反する。580から582の口頭部は連続的に外反するものであり、581は内面に接合痕、582は内面にケズリを施す。583から595の頸部は彎曲または緩く曲がるものである。口頭部は連続的に外反し、口唇は丸味を持って修めるものが多い。調整は外面でナデまたはヘラナデを施すものが多く、593・595はケズリ痕が残る。

- 須恵器 (Fig.70)

596・597・600は坏身である。古墳中期から後期か。598は壺口縁であり、暗文風のミガキが施される。599は蓋であり、古墳中期か。

- その他の土器・土製品 (Fig.71)

601は土製勾玉である。頭部は細く仕上げ面を成す。

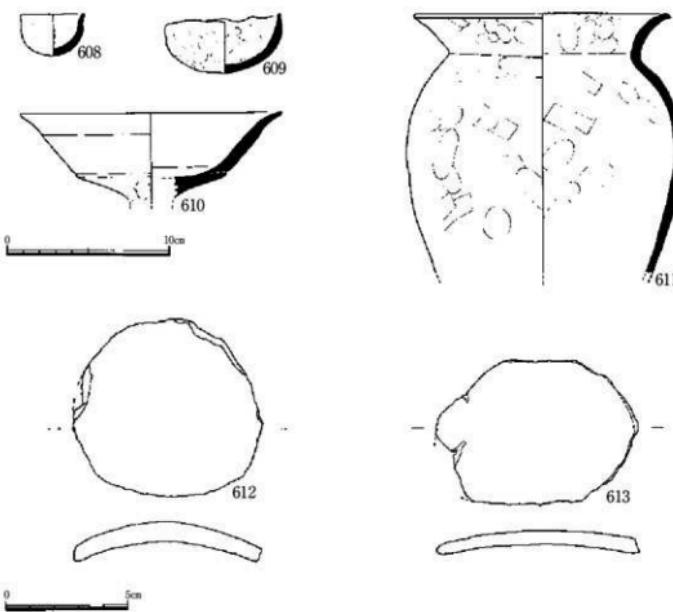


Fig.73 4 A区出土遺物63 その他の包含層 (S : 1/2, 1/3)

Ⅲ層群出土の土器・土製品 (Fig.72)

出土土器・土製品の総点数は、121点である。縄文土器7点、弥生土器16点、土師器98点である。602は鉢と考えられる。楕形であり、直線的な口縁部と外傾する面を持ち、口唇は外側に肥厚する。603・604は高坏の坏部である。603は坏部に屈曲を有し、口縁は直線的に立上がる。605から607は甕と考えられる。605・606は口頭部が連続的に外反する。

他包含層出土の土器・土製品 (Fig.73)

I層出土とした土器・土製品の総数は、129点である。縄文土器1点、弥生土器5点、土師器120点が出土している。

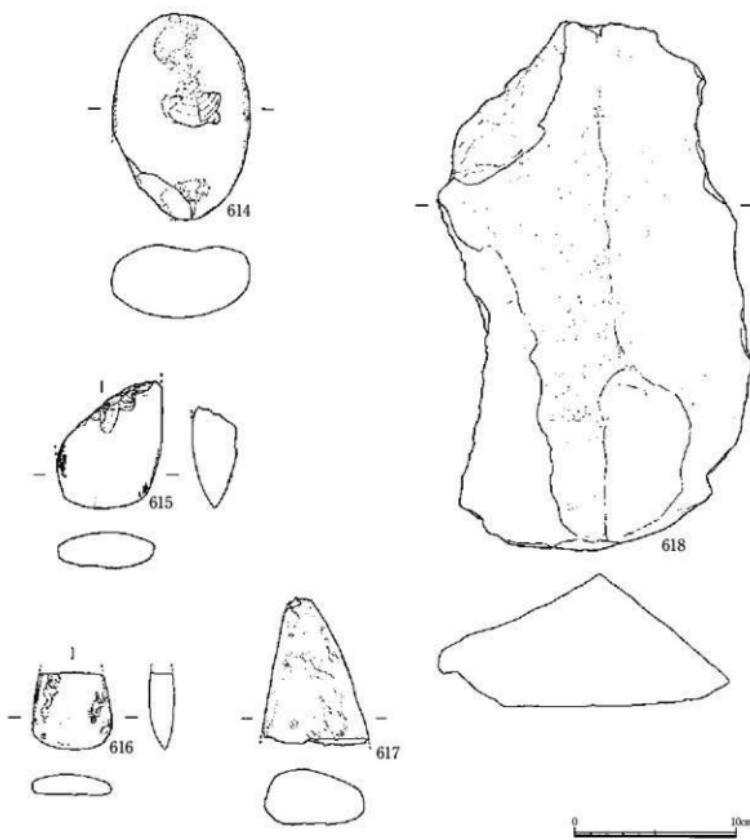


Fig.74 4 A区出土遺物64 Ⅲe層・Ⅲc層 (S : 1/3)

608は鉢形のミニチュア土器である。609は鉢であり、手捏ね成形による。610は坏部に段を有する高坏であり、口縁は外反する。611は頸部に屈曲と彎曲する部分が存在する個体であり、口縁は外反して立上がる。612・613は土器転用の円盤である。

II層出土とした土器・土製品の総数は、7点である。弥生土器1点、土師器6点が出土している。

②石器・石製品

Ⅲe層出土石器・石製品 (Fig.74)

出土の石器・石製品のうち図示したのは、614の叩石と618の敲打痕跡を多く留める台石である。

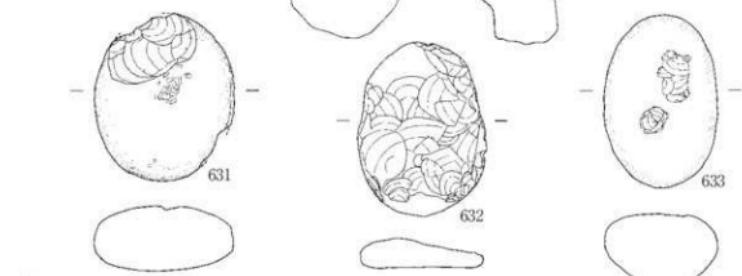
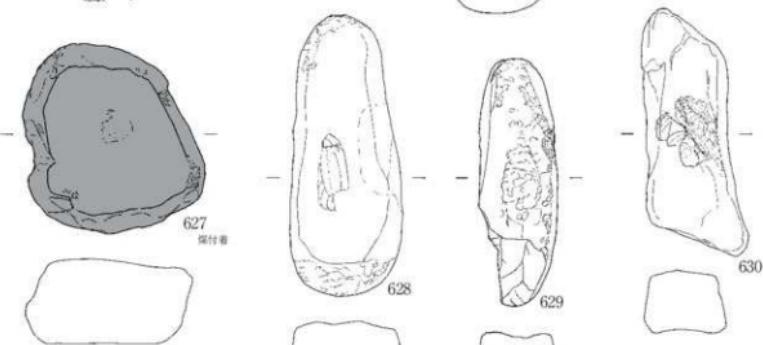
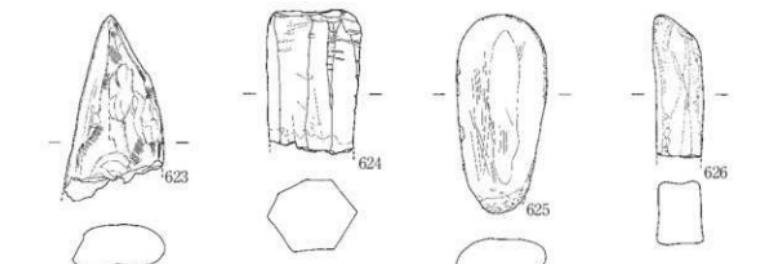
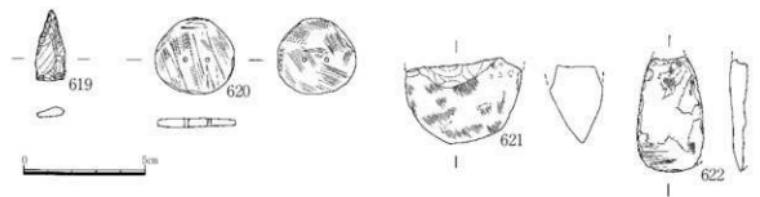


Fig.75 4 A区出土遺物65 IIId層 (S : 1/2, 1/3)

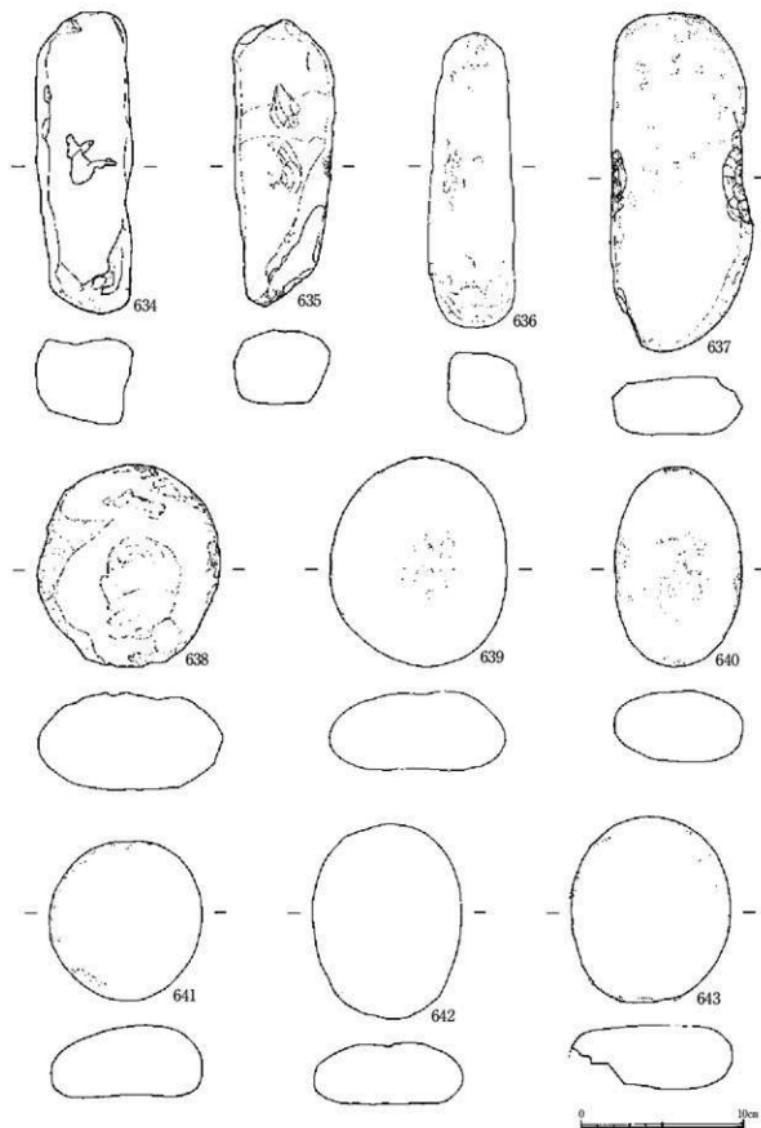


Fig.76 4 A区出土遺物66 IIId層 (S : 1/3)

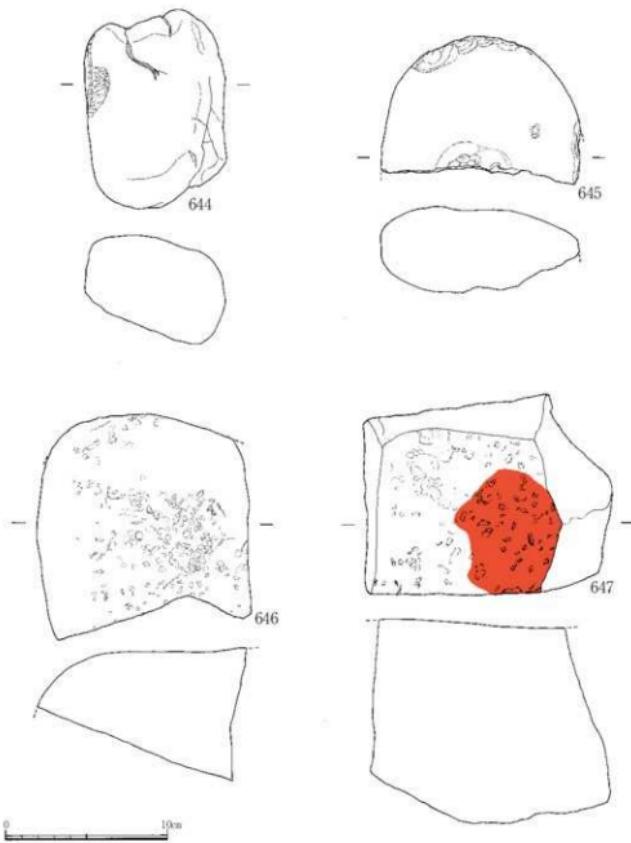


Fig.77 4 A区出土遺物67 IIId層 (S : 1/3)

その他チャート剥片が出土している。

IIIc層出土石器・石製品 (Fig.74)

出土した石器・石製品のうち図示したのは、615から617の石斧である。615は両刃で成形されており、616は片刃による。617は基部である。

IIId層群出土石器・石製品 (Fig.75~78)

出土した石器・石製品のうち図示したのは、619から649の41点である。619は無茎石錐である。620は有孔円盤である。中央に2孔を穿つ。621から623は石斧であり、621は両刃の刃部、622は

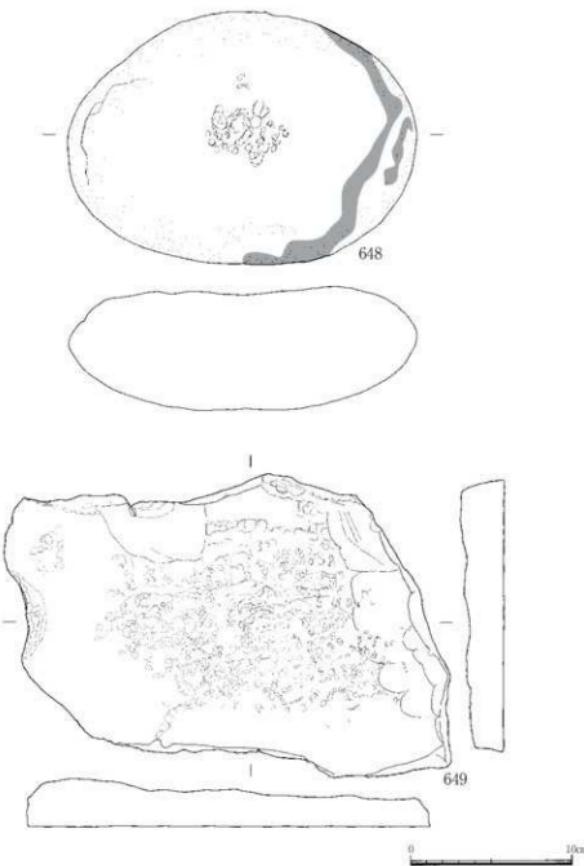


Fig.78 4 A区出土遺物68 Ⅲd層 (S : 1/3)

片刃？623は基部である。624から626は砾石であり、624は断面多角形を呈す。627はチャート質の円礫を用いた磨石である。628から645は叩石である。628・630・634から636は結晶片岩製である。646から649は台石と考えられる。

Ⅲb層出土石器・石製品 (Fig.79)

出土した石器・石製品のうち図示したのは、650と651の叩石2点である。

③木器・木製品

Ⅲd層群出土の木器・木製品 (Fig.80・81)

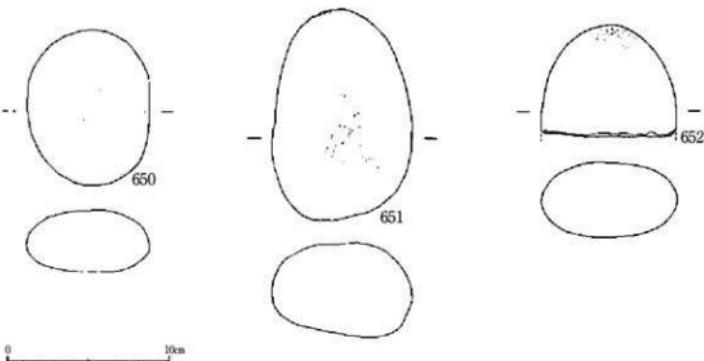


Fig.79 4 A区出土遺物69 Ⅲ層群 (S : 1/3)

653は用途不明である。丁寧な加工を施しており、祭祀具か。654は部材である。軸端部は方形に加工される。655はナスビ形木製品である。二股を中位で繋ぐ。657は有孔円盤である。658はヒキリ臼である。片側刃を両面から用いる。660は横鎬の柄か。661は注口部分と考えられる。

Ⅲ b層群及びその他の包含層出土の木器・木製品 (Fig.82・83)

664は櫛である。667は部材である。軸端部を扁平に加工する。668は舟形木製品である。

④自然遺物・その他

Ⅲ e層からは堅果類が出土している。Ⅲ d-2層からは桃核、ヒシの実が出土している。Ⅲ d層からは獸骨が出土している。

参考文献

- 『船戸遺跡』 財團法人高知県文化財団埋蔵文化財センター 1996年
- 『居徳遺跡群Ⅰ』 財團法人高知県文化財団埋蔵文化財センター 2001年
- 『居徳遺跡群Ⅲ』 財團法人高知県文化財団埋蔵文化財センター 2002年
- 『居徳遺跡群Ⅳ』 財團法人高知県文化財団埋蔵文化財センター 2003年
- 『仁ノ遺跡』 春野町教育委員会 2003年
- 『後川・中筋川埋蔵文化財発掘調査報告書』 財團法人高知県文化財団埋蔵文化財センター 1992年
- 『具同中山遺跡群Ⅳ』 財團法人高知県文化財団埋蔵文化財センター 2001年
- 『小籠遺跡Ⅱ』 財團法人高知県文化財団埋蔵文化財センター 1996年
- 『中間西井坪遺跡Ⅱ』 財團法人香川県埋蔵文化財調査センター 1999年
- 『長瀬高浜遺跡Ⅶ』 財團法人鳥取県教育文化財団 1997年

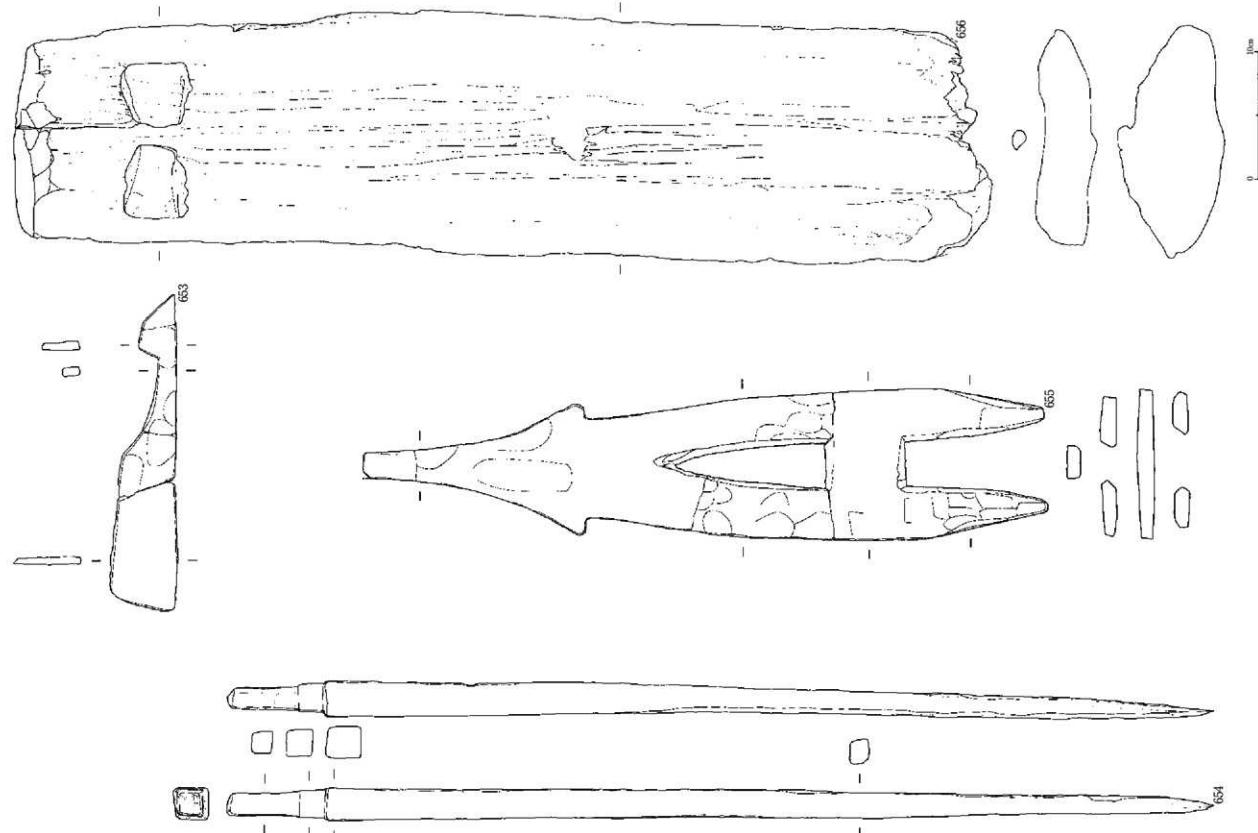


Fig. 60 4 A区出土遺物70 Ⅲd層 (S : 1/3)

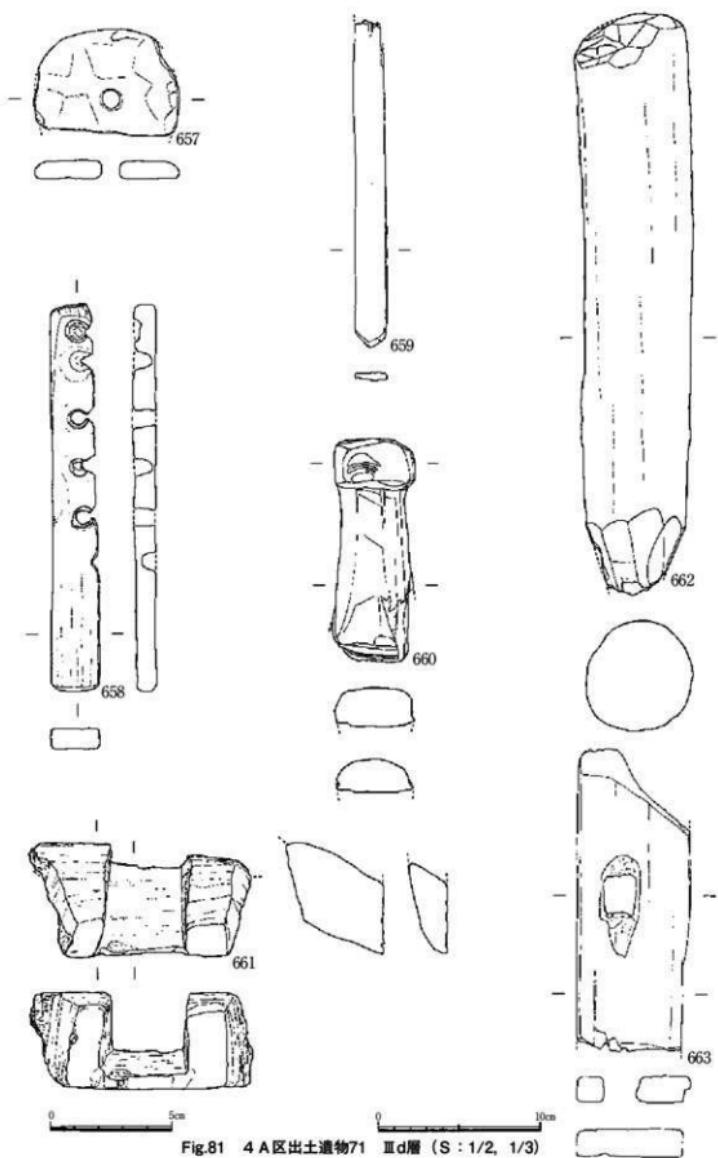


Fig.81 4 A区出土遺物71 Ⅲd層 (S : 1/2, 1/3)

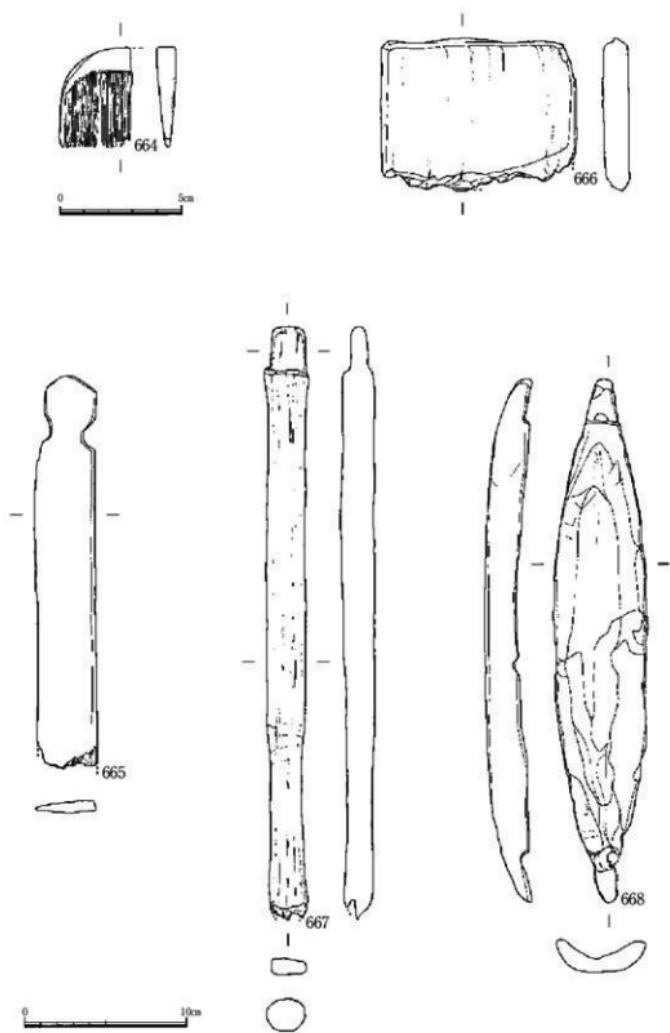


Fig.82 4 A区出土遺物72 IIIb層・III層群 (S : 1/2, 1/3)

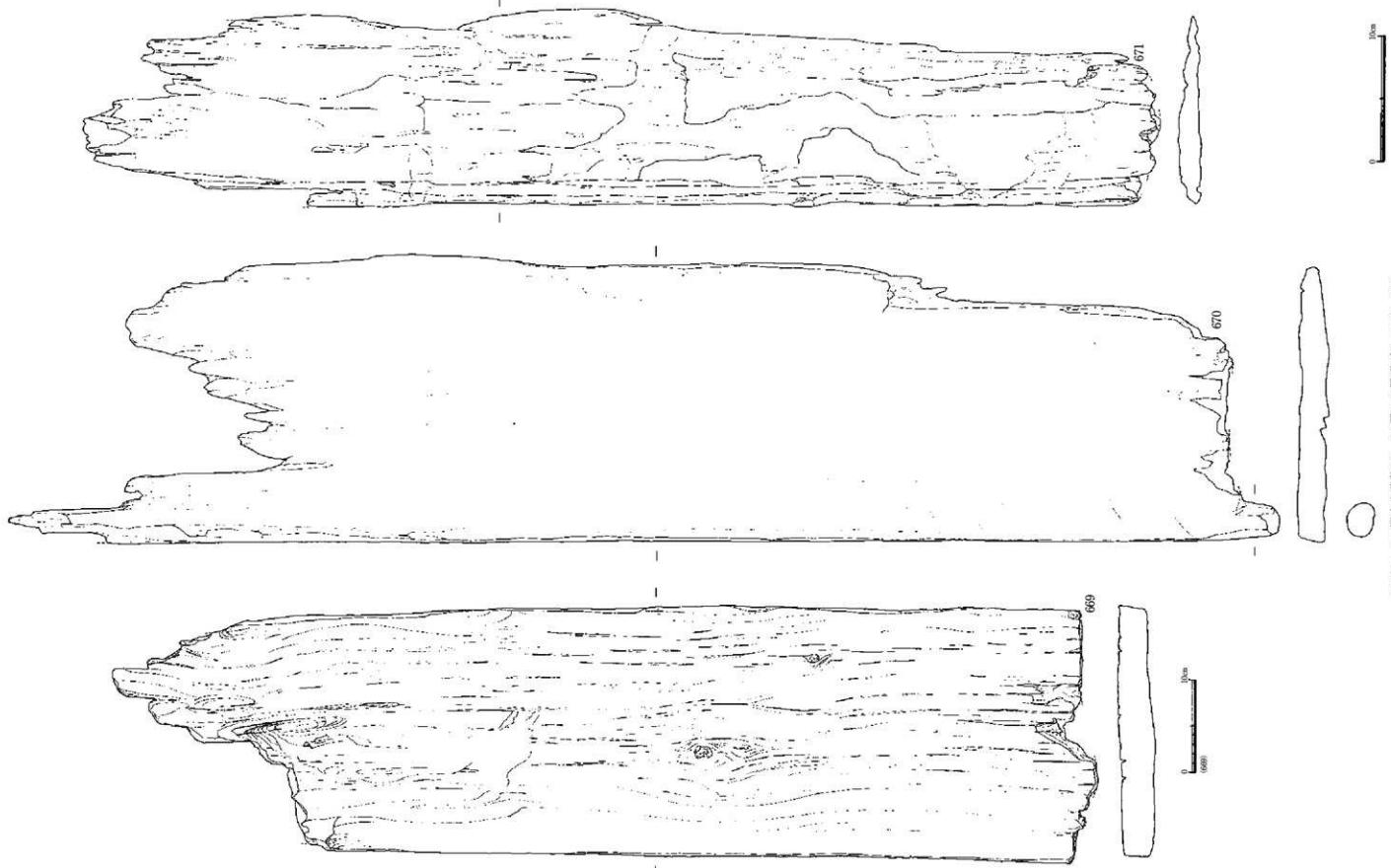


Fig.83 4区出土遺物73 IIb層・Ⅲ層群 (S : 1/3, 1/4)

表3 4A区遺物觀察表1

(土器・土製品)

No.	遺物	出土地点	器種	器形	部位	法面 (cm)	背側	内面	色調	地質	備考	
11 1	S.K.1 /L6.13	共生土器	壺	底	—	(36)	—	85 平底	に赤い葉緑	緑	灰	
11 2	K7.33	Ⅱe	圓文土器	浅鉢	—	33.5 (7.0)	—	—	に赤い葉緑	浅黄緑	黄灰	
12 1	K7.19	Ⅱe	圓文土器	深鉢	口縁	—	(26)	—	—	口縁は内側気泡に外斜方に立ち上がる。口縁は丸味を持った外傾する面を成す。内外斜部分に複数の凹部がある。	灰	
12 2	K7.30	Ⅱe	圓文土器	深鉢	口縁	—	(29)	—	—	口縁は内側外反して上方に立ち上がる。口縁は丸味を持った外傾する面を成す。内外斜部分に複数の凹部がある。	灰	
12 3	K7.30	Ⅱe	圓文土器	深鉢	口縁	—	(27)	—	—	口縁は内側外反して上方に立ち上がる。口縁は丸味を持った外傾する面を成す。内外斜部分に複数の凹部がある。	灰	
12 4	K7.9	Ⅱe	圓文土器	深鉢	口縁	—	(48)	—	—	口縁は内側外反して上方に立ち上がる。口縁は丸味を持った外傾する面を成す。内外斜部分に複数の凹部がある。	灰	
12 5	K7.30	Ⅱe	圓文土器	深鉢	口縁	—	(63)	—	—	口縁は内側外反して上方に立ち上がる。口縁は丸味を持った外傾する面を成す。内外斜部分に複数の凹部がある。	灰	
12 6	K7.7	Ⅱe	圓文土器	深鉢	口縁	—	(68)	—	—	口縁は内側外反して上方に立ち上がる。口縁は丸味を持った外傾する面を成す。内外斜部分に複数の凹部がある。	灰	
12 7	K7.7	Ⅱe	圓文土器	深鉢	口縁	—	(5.0)	—	—	口縁は内側外反して上方に立ち上がる。口縁は丸味を持った外傾する面を成す。内外斜部分に複数の凹部がある。	灰	
12 8	K7.7	Ⅱe	圓文土器	深鉢	口縁	—	41	—	—	口縁は内側外反して上方に立ち上がる。口縁は丸味を持った外傾する面を成す。	灰	
12 9	K7.7	Ⅱe	圓文土器	深鉢	口縁	—	(68)	—	—	口縁は内側外反して上方に立ち上がる。口縁は丸味を持った外傾する面を成す。	灰	
12 10	K7.9	Ⅱe	圓文土器	深鉢	口縁	—	(5.0)	—	—	口縁は内側外反して上方に立ち上がる。口縁は丸味を持った外傾する面を成す。	灰	
12 11	K7.14	Ⅱe	圓文土器 (浅鉢) ?	壺	—	(81)	—	—	内面側部と外側に複数有る。	に赤い葉緑	灰	
12 12	K7.30	Ⅱe	共生土器	壺	壺	—	(64)	—	—	内面側部と外側に複数有る。	に赤い葉緑	灰
12 13	K7.34	Ⅱe	圓文土器	深鉢	底部	—	(16)	—	63 平底	—	—	
13 14	K7.9	Ⅱe	圓文土器	深鉢	口縁	31.2 (25.3)	326	—	—	口縁は内側外反して上方に立ち上がる。口縁は丸味を持った外傾する面を成す。側部は丸や円に内曲する。外側全体が内側に付着する。	灰	
14 15	K7.9	Ⅱe	圓文土器	深鉢	口縁	30.4 (57)	—	—	—	口縁は内側外反して上方に立ち上がる。口縁は丸味を持った外傾する面を成す。側部は丸や円に内曲する。外側全体が内側に付着する。	灰	
14 16	K7.9	Ⅱe	圓文土器	深鉢	側	—	(349)	312	—	—	内面全体は上方に一部と外側全体が下方に一部に付着する。	灰
14 17	K7.8・9	Ⅱe・Ⅲe	圓文土器	深鉢	体	—	(7.3)	—	—	外側一部に付着有る。	灰	
14 18	K7.30	Ⅱe	圓文土器	深鉢	体	—	(64)	—	—	外側一部に付着有る。	灰	
14 19	K7.34	Ⅱe	圓文土器	深鉢	体	—	(56)	—	—	—	—	
15 20	K7.6	Ⅱc	共生土器	壺	口縁	13.0 (52)	—	—	—	口縁は内側外反して上方に立ち上がる。口縁は丸味を持った外傾する面を成す。側部は丸や円に内曲する。	灰	
15 21	K7.4	Ⅱc	共生土器	壺	口縁	—	(25)	—	—	口縁は内側外反して上方に立ち上がる。口縁は丸味を持った外傾する面を成す。側部は丸や円に内曲する。	灰	
15 22	K7.14	Ⅱc	共生土器	壺	口縁	—	(23)	—	—	口縁は内側外反して上方に立ち上がる。口縁は丸味を持った外傾する面を成す。側部は丸や円に内曲する。	灰	

表4 4A区遺物観察表2

(土器・土製品)

No.	遺物 No.	出土地點 アリヤフ 層	形種	器形	部位	測量 (cm)	剖面	色調	内面			外面			参考			
									口沿	器高	側径	底径	底	縁				
15	23	K7-19	Ⅲc	陶土器	壺	高	—	(15)	—	62	平底	—	—	—	12.5V-1 黄褐	12.5V-1 黄褐	灰灰	株生後期
15	24	K7-15	Ⅲc	陶土器	壺	高	—	(29)	—	11.0	底へ平底。器底を浅い溝が覆る。	—	—	—	10YR2/2 10YR2/2	10YR2/2 10YR2/2	NS/ 灰	株生
15	25	K7-19	Ⅲc	陶土器	鉢	口縁	—	(37)	—	—	—	—	—	—	10YR2/2 10YR2/2	10YR2/2 10YR2/2	灰	株生前期
											口縁は内壁に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。底下斜合部で底屈する。脚は縦に広がり筋膜で開く。縫合突起は気泡に丸く修める。						土器	
16	26	L6-17	Ⅲd	土器部	高杯	—	146	135	148	10.6	のど	—	—	—	10YR5/4 5YR6/6	10YR5/4 5YR6/6	5YR7/6	—
											口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。底下斜合部で底屈する。脚は縦に広がり筋膜で開く。縫合突起は気泡に丸く修める。							
16	27	L6-12	Ⅲd	土器部	高杯	—	140	137	143	9.6	脚	—	—	—	5YR5/6	7.5YR5/6	灰	—
											口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。底下斜合部で底屈する。脚は縦に広がり筋膜で開く。縫合突起は気泡に丸く修める。						NS/	
16	28	L6-17	Ⅲd	土器部	高杯	—	148	121	150	9.2	脚	—	—	—	7.5YR5/3	5YR6/4	灰	—
											口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。底下斜合部で底屈する。脚は縦に広がり筋膜で開く。縫合突起は気泡に丸く修める。						NS/	
16	29	L6-17	Ⅲd	土器部	高杯	—	146	136	148	9.6	脚	—	—	—	10YR2/3 10YR2/3	10YR2/3 10YR2/3	NS/	—
											口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。底下斜合部で底屈する。脚は縦に広がり筋膜で開く。縫合突起は気泡に丸く修める。							
16	30	L6-18・22	Ⅲd	土器部	高杯	—	143	134	147	10.0	脚	—	—	—	10YR6/3 7.5YR5/4	10YR6/3 7.5YR5/4	7.5YR6/4	浅黄褐
											口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。底下斜合部で底屈する。脚は縦に広がり筋膜で開く。縫合突起は気泡に丸く修める。							
16	31	L6-22	Ⅲd	土器部	高杯	—	153	148	—	10.7	底	—	—	—	10YR6/4	10YR6/4	10Y5/1	—
											口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。底下斜合部で底屈する。脚は縦に広がり筋膜で開く。縫合突起は気泡に丸く修める。							
16	32	L6-22	Ⅲd	土器部	高杯	—	130	134	133	10.7	底	—	—	—	10YR6/4	5YR5/4	25Y6/2	—
											口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。底下斜合部で底屈する。脚は縦に広がり筋膜で開く。縫合突起は気泡に丸く修める。							
16	33	L6-17・18	Ⅲd	土器部	高杯	—	115	(30)	117	—	脚	—	—	—	5YR6/4	5YR6/3	10Y2/1	—
											口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。底下斜合部で底屈する。脚は縦に広がり筋膜で開く。縫合突起は気泡に丸く修める。							
16	34	L6-13・L7-2	Ⅲd	土器部	高杯	—	150	110	153	10.0	脚	—	—	—	7.5YR6/4	5YR6/4	灰	—
											口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。脚は縦に広がり筋膜で開く。縫合突起は気泡に丸く修める。						NS/	
16	35	L6-7	Ⅲd	土器部	高杯	—	172	118	175	11.6	脚	—	—	—	5YR6/4	5YR6/3	7.5YR6/6	—
											口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。底下斜合部で底屈する。脚は縦に広がり筋膜で開く。縫合突起は気泡に丸く修める。							
16	36	L6-22	Ⅲd	土器部	高杯	—	151	128	154	11.1	脚	—	—	—	7.5YR7/3	7.5YR7/3	10YR7/2	—
											口縁は外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。脚は縦に広がり筋膜で開く。縫合突起は気泡に丸く修める。							
17	37	L6-13	Ⅲd	土器部	高杯	—	190	133	192	10.5	脚	—	—	—	7.5YR6/4	25Y7/3	5Y8/1	—
											口縁は外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。底下斜合部で底屈する。脚は縦に広がり筋膜で開く。縫合突起は気泡に丸く修める。							
17	38	L6-22	Ⅲd	土器部	高杯	—	199	133	202	12.5	脚	—	—	—	10YR6/4	5YR6/4	NS/	—
											口縁は外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。脚は縦に広がり筋膜で開く。縫合突起は気泡に丸く修める。							
17	39	L6-13	Ⅲd	土器部	高杯	—	180	122	184	10.7	脚	—	—	—	10YR7/3	7.5YR7/3	25Y8/3	淡黄
											口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。脚は縦に広がり筋膜で開く。縫合突起は気泡に丸く修める。							
17	40	L6-12	Ⅲd	土器部	高杯	—	170	118	172	10.2	脚	—	—	—	10YR7/4	10YR7/4	25GY8/1	—
											口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。脚は縦に広がり筋膜で開く。縫合突起は気泡に丸く修める。							
17	41	L7-1	Ⅲb・Ⅲd-2	土器部	高杯	—	143	(117)	—	—	脚	—	—	—	7.5YR6/6	5YR6/6	7.5Y4/1	—
											口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。脚は縦に広がり筋膜で開く。縫合突起は気泡に丸く修める。							
17	42	L6-7	Ⅲd・Ⅲ	土器部	高杯	—	157	124	160	11.7	土	—	—	—	SYR6/6	SYR6/6	NS/	暗灰

表5 4A区遺物觀察表3

(土器・土質品)

No.	遺物	出土地点	基盤	器形	部位	法縫 (cm)	有縫	内面	外面	地質	参考
							口縫	唇縫	側縫	底縫	
17 43	L6-7	Ⅲd	土器部	高杯	—	(30.6)	—	107	脚は大きく広がり幅で扁く開く。 胎土に細孔を含む。	に深い黒縫 10YR7/4	灰 10YR6/2 7SY6/1
17 44	L6-21	Ⅲd	土器部	高杯	—	(99)	—	121	環状に内側で外上方に立ち上がる。 脚は横に広がり外反する。 縫は少し気泡に丸く飾める。胎土 中に砂粒を含む。	に深い縫 7SYR6/4	に深い縫 7SYR6/4 10YR8/2
17 45	L6-22	Ⅲb・Ⅲd	土器部	高杯	—	(32.4)	—	—	口縫は直線的に外上方に向かう？ 脚は外反する。外縫にスリップを 施す。	に深い黒縫 10YR7/3	灰 10YR7/3 2SY7/1
17 46	L6-7・17	Ⅲd	土器部	高杯	—	(30.7)	—	—	脚は反する。	に深い黒縫 10YR7/3	オーラーク 10YR7/3 3T3/1
18 47	L6-22	Ⅲd	土器部	高杯	杯	13.6 (7.2)	138	—	口縫は直線的に外上方に向かう？ 口縫は丸く飾る。环下付 縫合部で底を成す。胎土中に砂粒。 石英砂、小礫を含む。	に深い黒縫 10YR6/3	縫 灰 7SYR6/6 5Y4/1
18 48	L6-17	Ⅲd	土器部	高杯	杯	11.7 (5.3)	—	—	口縫は直線的に外上方に向かう？ 口縫は丸く飾る。环下付 縫合部で底を成す。胎土中に砂粒。 石英砂、小礫を含む。	に深い黒縫 7SYR5/3	に深い黒縫 10YR5/3 10YR6/2
18 49	L7-11	Ⅲd2	土器部	高杯	杯	16.1 (7.5)	163	—	口縫は直線的に外上方に向かう？ 口縫は丸く飾る。环下付 縫合部で底を成す。	に深い縫 2SYR6/4	灰 2SYR6/4 10/
18 50	L6-7	Ⅲd	土器部	高杯？	环？	17.6 (3.9)	—	—	口縫は直線的に外上方に向かう？ 口縫は丸く飾る。	に深い黒縫 7SYR5/3	灰 10YR7/3 2SY5/1
18 51	L7-32	Ⅲd2	土器部	高杯	杯	14.8 (6.6)	150	—	口縫は直線的に外上方に向かう？ 口縫は丸く飾る。环下付 縫合部で底を成す。	に深い黒縫 10YR5/3	灰 10YR5/3 5Y4/1
18 52	L6-13	Ⅲd	土器部	高杯	杯	15.8 (5.8)	—	—	口縫は直線的に外上方に向かう？ 口縫は丸く飾る。环下付 縫合部で底を成す。	に深い黒縫 10YR6/3	周灰 7SYR6/4 N3/
18 53	L7-1-2	Ⅲd	土器部	高杯	杯	14.8 (5.6)	150	—	口縫は直線的に外上方に向かう？ 口縫は丸く飾る。环下付 縫合部で底を成す。	に深い黒縫 10YR6/4	周灰 10YR6/3 N3/
18 54	L7-1	Ⅲd	土器部	高杯	杯	16.0	47	—	口縫は直線的に外上方に向かう？ 口縫は丸く飾る。	に深い黒縫 10YR6/3	灰 7SYR6/4 5Y5/1
18 55	L7-1	Ⅲd	土器部	高杯	杯	13.8 (6.0)	140	—	口縫は直線的に外上方に向かう？ 口縫は丸く飾る。环下付 縫合部で底を成す。	に深い黒縫 10YR7/4	灰 10YR6/3 7SY6/1
18 56	L6-22	Ⅲd・Ⅲd2・Ⅲd3	土器部	高杯	杯	17.1 (6.7)	172	—	口縫は横く反対して外上方に向か う上上がる。口縫は丸く飾る。环下付 縫合部で底を成す。	に深い縫 7SYR6/4	に深い縫 7SYR6/4 10YR6/3
18 57	L6-13	Ⅲd	土器部	高杯	杯	15.4 (6.2)	156	—	口縫は横く反対して外上方に向か う上上がる。口縫は丸く飾る。环下付 縫合部で底を成す。胎土中に新緑や 多色を含む。	に深い黒縫 10YR6/4	に深い黒縫 10YR6/4 7SY4/1
18 58	L6-38	Ⅲd	土器部	高杯	杯	15.6 (4.4)	—	—	口縫は横く反対して外上方に向か う上上がる。口縫は丸く飾る。	に深い縫 7SYR7/3	に深い縫 7SYR7/3 10/
18 59	L6-13	Ⅲd	土器部	高杯	杯	18.9 (7.1)	192	—	口縫は横く反対して外上方に向か う上上がる。口縫は丸く飾る。环下付 縫合部で底を成す。胎土に新緑を 含む。砂粒。	に深い黒縫 10YR7/3	に深い縫 7SYR6/4 2SY6/4
18 60	L6-13	Ⅲd	土器部	高杯	杯	14.7 (5.5)	147	—	口縫は横く反対して外上方に向か う上上がる。口縫は丸く飾る。环下付 縫合部で底を成す。胎土に新緑を 含む。	縫 5YR6/6	に深い縫 7SYR6/4 10YR8/3
18 61	L6-13	Ⅲd	土器部	高杯	杯	16.4 (5.6)	166	—	口縫は横く反対して外上方に向か う上上がる。口縫は丸く飾る。环下付 縫合部で底を成す。胎土中に新緑や 砂粒。	に深い黒縫 10YR7/3	浅黄縫 10YR6/3 浅黄縫 10YR8/3
18 62	L5-22	Ⅲd	土器部	高杯	杯	16.6 (5.6)	—	—	口縫は横く反対して外上方に向か う上上がる。口縫は丸く飾る。	縫 5YR6/8	縫 5YR6/6 10Y6/1
18 63	L6-22	Ⅲb・Ⅲd	土器部	高杯	杯	19.0 (5.4)	193	—	口縫は横く反対して外上方に向か う上上がる。口縫は丸く飾る。环下付 縫合部で底を成す。胎土中に新緑。 新緑を無少量含む。	に深い黒縫 10YR7/4	赤背景 7SYR6/4 2SY6/3
18 64	L6-22	Ⅲd	土器部	高杯	杯	18.1 (5.9)	185	—	口縫は横く反対して外上方に向か う上上がる。口縫は丸く飾る。环下付 縫合部で底を成す。胎土中に新緑。 新緑を無少量含む。	に深い縫 7SYR7/3	に深い縫 7SYR7/3 N4/

表6 4A区遺物観察表4

《土器・土製品》

No.	遺物 No.	出土地點 アリヤフ 番	面種	器形	部位	計量(cm)	特徴	内面	外面	胎土	備考		
					1口径	断面	側注	底注					
19	65	L6-13	Ⅲ-d	土師器	高环	环	15.9 (55)	160	—	口縁は外反して外唇上方に立ち上る。 口部は内凹で底くわくを認めめる。	15.6-1 黄褐色 10YR5/4	15.6-1 黄褐色 10YR5/4	黄灰 10YR5-1
19	66	L6-21	Ⅲ-d	土師器	高环	环	15.1 (61)	152	—	口縁は外反して外唇上方に立ち上る。 口縁は内凹で底くわくを認めめる。 底中に砂粒を少量含む。無鉛。	15.6-1 黄褐色 10YR5/4	15.6-1 黄褐色 10YR5/4	黄灰 25Y4/1
19	67	L7-1	Ⅲ-d2	土師器	高环	环	13.6 (54)	—	—	口縁は外反して外唇上方に立ち上る。 口部は内凹で底くわくを認めめる。外唇環 部部分に擦れ有る。	15.6-1 黄褐色 10YR5/2	15.6-1 黄褐色 10YR5/2	黄灰 25Y4/1
19	68	L6-22	Ⅲ-d	土師器	高环	环	14.5 (54)	—	—	口縁は外反して外唇上方に立ち上る。 口部は内凹で底くわくを認めめる。底部下部 に星状の外輪環を有する。	15.6-1 黄褐色 10YR5/2	15.6-1 黄褐色 10YR5/2	黄 35Y-T
19	69	L6-17・18	Ⅲ-d・Ⅲ-d3	土師器	高环	环	14.5 (53)	148	—	口縁は外反して外唇上方に立ち上る。 口部は内凹で底くわくを認めめる。無鉛。	15.6-1 黄褐色 10YR5/4	15.6-1 黄褐色 10YR5/4	黄灰 5Y8-T
19	70	L6-18	Ⅲ-d	土師器	高环	环	14.5 46	—	—	口縁は外反して外唇上方に立ち上る。 口部は内凹で底くわくを認めめる。無鉛。	15.6-1 黄褐色 10YR5/6	15.6-1 黄褐色 10YR5/6	25Y5-1
19	71	L6-7	Ⅲ-d	土師器	高环	环	12.3 (46)	—	—	口縁は外反して外唇上方に立ち上る。 口部は内凹で底くわくを認めめる。	15.6-1 黄褐色 10YR5/6	15.6-1 黄褐色 10YR5/6	23Y7-2
19	72	L6-12	Ⅲ-d	土師器	高环	环	14.9 (63)	—	—	浅い瓦形の环形。口縁は内凹して 外唇上方に立ち上る。口部は内凹で底く わくを認めめる。無鉛。	15.6-1 黄褐色 10YR5/3	15.6-1 黄褐色 10YR5/3	黄 25Y7-2
19	73	L6-17・22	Ⅲ-d	土師器	高环	环	18.3 (74)	—	—	口縁は外反して外唇上方に立ち上る。 口部は内凹で底くわくを認めめる。無鉛。	15.6-1 黄褐色 10YR5/4	15.6-1 黄褐色 10YR5/4	10Y6-1
19	74	L6-17	Ⅲ-d	土師器	高环	环	15.4 (53)	—	—	口縁は外反する。口部は内凹で底く わくを認めめる。内唇一部に擦れ有る。底部下 部に砂粒。	15.6-1 黄褐色 10YR5/6	15.6-1 黄褐色 10YR5/6	25Y7-6
19	75	L6-17	Ⅲ-d	土師器	高环	环	14.4 (54)	—	—	口縁は外反する。口部は内凹で底く わくを認めめる。底部下部に擦れ有る。	15.6-1 黄褐色 10YR5/8	15.6-1 黄褐色 10YR5/8	25Y8-3
19	76	L6-13・18	Ⅲ-d	土師器	高环	环	16.8 (56)	169	—	口縁は外反して外唇上方に立ち上る。 口部は内凹で底くわくを認めめる。無 鉛。	15.6-1 黄褐色 10YR5/4	15.6-1 黄褐色 10YR5/4	10Y4-1
19	77	L7-1	Ⅲ-d	土師器	高环	环	12.6 (33)	—	65	口縁は内凹して外唇上方に立ち上る。 口部は内凹で底くわくを認めめる。無 鉛。	15.6-1 黄褐色 10YR5/3	15.6-1 黄褐色 10YR5/3	黄 NS/1
19	78	L7-2	Ⅲ-d	土師器	高环	环	11.8 (34)	—	—	口縁は外反して外唇上方に立ち上る。 口部は内凹で底くわくを認めめる。無 鉛。	15.6-1 黄褐色 10YR5/6	15.6-1 黄褐色 10YR5/6	25Y6-1
19	79	L6-7	Ⅲ-d	土師器	高环	环	15.8 (36)	—	—	口縁は外反して外唇上方に立ち上る。 口部は内凹で底くわくを認めめる。無 鉛。	15.6-1 黄褐色 10YR5/6	15.6-1 黄褐色 10YR5/6	25Y7-4
19	80	L6-17	Ⅲ-d	土師器	高环	环	15.6 (34)	—	—	口縁は内凹して外唇上方に立ち上る。 口部は内凹で底くわくを認めめる。内唇部 一部に擦れ有る。底部下部に砂粒。	15.6-1 黄褐色 10YR5/4	15.6-1 黄褐色 10YR5/4	25Y4-1
19	81	L6-17	Ⅲ-d	土師器	高环	环	— (32)	—	—	口縁は外反して外唇上方に立ち上る。 口部は内凹で底くわくを認めめる。無 鉛。	15.6-1 黄褐色 10YR5/8	15.6-1 黄褐色 10YR5/8	5Y7-6
20	82	L6-17	Ⅲ-d	土師器	高环	脚	— (83)	—	119	脚は直線的に破く広がり屈曲後脚 は直線的で脚は丸く無鉛。	15.6-1 黄褐色 10YR5/3	15.6-1 黄褐色 10YR5/3	10Y5-8
20	83	L6-17	Ⅲ-d	土師器	高环	脚	— (76)	—	112	脚は直線的に破く広がり屈曲後脚 は直線的で脚は丸く無鉛。無鉛。	15.6-1 黄褐色 10YR5/1	15.6-1 黄褐色 10YR5/6	5Y6-1
20	84	L7-12	Ⅲ-d2	土師器	高环	脚	— (76)	—	104	脚は直線的に破く広がり屈曲後脚 は直線的で脚は丸く無鉛。無鉛。	15.6-1 黄褐色 10YR5/3	15.6-1 黄褐色 10YR5/4	NS/1
20	85	L7-6	Ⅲ-d	土師器	高环	脚	— (84)	—	94	脚は直線的に破く広がり屈曲後脚 は直線的で脚は丸く無鉛。無鉛。	15.6-1 黄褐色 10YR5/4	15.6-1 黄褐色 10YR5/4	NS/1
20	86	L6-21	Ⅲ-d	土師器	高环	脚	— (84)	—	127	脚は直線的に破く広がり屈曲後脚 は直線的で脚は丸く無鉛。無鉛。	15.6-1 黄褐色 10YR5/3	15.6-1 黄褐色 10YR5/3	NS/1

表7 4A区遺物觀察表5

(土器・土製品)

No.	遺物	出土地点	器種	器形	部位	法縫 (cm)	剖面	内面	外面	地質	参考
20	87	L6-18	Ⅲd	土師器	高杯	脚 — (6.8)	— 107	に凹・板 砂を含む。	に凹・板 7.5YR6/4	に凹・板 7.5YR6/4	オーバー黑 5Y3/1
20	88	L6-17	Ⅲd	土師器	高杯	脚 — (8.4)	— 113	脚は表面的に凹く広がり屈曲後脚 は丸く、端は丸く修める。胎土中に砂 を含む。	灰黃褐 10YR5/2	灰黃褐 10YR5/2	暗灰黃 2SY5/2
20	89	L6-8	Ⅲd	土師器	高杯	脚 — (7.6)	— 86	脚は表面的に凹く広がり屈曲後脚 は丸く、端は丸く修める。胎土中に砂 を含む。	灰 5YR6/6	灰 2SYR6/6	灰 10YR5/1
20	90	L6-18	Ⅲd	土師器	高杯	脚 — (6.5)	— 96	脚は表面的に凹く広がり屈曲後脚 は丸く、端は丸く修める。胎土中に砂 を含む。	灰 7.5YR7/3	灰 7.5YR7/3	灰 7SY4/1
20	91	L6-22	Ⅲd	土師器	高杯	脚 — (8.2)	— 103	脚は表面的に凹く広がり屈曲後脚 は丸く、端は丸く修める。胎土中に砂 を含む。	灰黃褐 10YR5/2	灰黃褐 10YR6/3	灰 N5/
20	92	L6-22	Ⅲd	土師器	高杯	脚 — (9.4)	— 106	脚は表面的に凹く広がり屈曲後脚 は丸く、端は丸く修める。胎土中に砂 を含む。	灰 10YR2/2	灰 7SYR2/3	灰 N5/
20	93	L6-22	Ⅲd	土師器	高杯	脚 — (7.7)	— 85	脚は表面的に凹く広がり屈曲後脚 は丸く、端は丸く修める。胎土中に砂 を含む。	灰 5YR6/6	灰 2SYR6/6	灰 3YR6/6
21	94	L6-22	Ⅲd	土師器	高杯	脚 — (2.8)	— 116	脚は表面的に凹く修める。端は丸く 修める。胎土中に砂を含む。	灰 5YR7/4	灰 5YR7/4	灰 10Y5/1
21	95	L6-7・22	Ⅲd	土師器	高杯	脚 — (7.8)	— 109	脚は表面的に凹く修める。端は丸く 修める。胎土中に砂を含む。	灰 5YR6/6	灰 5YR6/6	灰 5Y7/2
21	96	L6-18	Ⅲd	土師器	高杯	脚 — (7.2)	— 117	脚は表面的に凹く修める。端は丸く 修める。胎土中に砂を少量含む。	灰 7.5YR6/4	灰 7.5YR6/6	灰 7SY8/4
21	97	L7-1	Ⅲd	土師器	高杯	脚 — (6.9)	— 99	脚は表面的に凹く修める。端は丸く 修める。胎土中に砂を含む。	灰 10YR6/3	灰 10YR6/3	灰 10Y6/1
21	98	L7-1	Ⅲb・Ⅲd	土師器	高杯	脚 — (6.4)	— 121	脚は表面的に凹く修める。端は丸く 修める。胎土中に砂を含む。	灰 7.5YR6/4	灰 7.5YR6/4	灰 10Y6/3
21	99	L6-17	Ⅲd	土師器	高杯	脚 — (6.8)	— 112	脚は表面的に凹く修める。端は丸く 修める。胎土中に砂を含む。	灰 5YR7/4	灰 5YR7/4	灰 2SY7/4
21	100	L6-21・22	Ⅲd	土師器	高杯	脚 — (6.7)	— 112	脚は表面的に凹く修める。端は丸く 修める。胎土中に砂を含む。	灰 10YR6/2	灰 10YR7/3	灰 2SY8/1
21	101	L6-17・ L7-1	Ⅲd	土師器	高杯	脚 — (7.0)	— 117	脚は表面的に凹く修める。端は丸く 修める。胎土中に砂を含む。	灰 10YR2/2	灰 10YR7/3	灰 2SY7/2
21	102	L6-17	Ⅲd-3	土師器	高杯	脚 — (7.2)	— 112	脚は表面的に凹く修める。端は丸く 修める。胎土中に砂を含む。	灰 7.5YR6/4	灰 7.5YR6/4	灰 7SY8/6
21	103	L7-6	Ⅲd-2	土師器	高杯	脚 — (6.8)	— 110	脚は表面的に凹く修める。端は丸く 修める。胎土中に砂を含む。	灰 7.5YR7/4	灰 7.5YR7/4	灰 3YR6/6
21	104	L6-12	Ⅲd	土師器	高杯	脚 — (8.4)	— 105	脚は表面的に広がり屈曲や少く屈曲 の傾向がある。端は丸く修める。	灰 7.5YR7/4	灰 7.5YR7/4	灰 7SY8/6
21	105	L6-18・22	Ⅲd	土師器	高杯	脚 — (8.2)	— 93	脚は表面的に凹く広がり屈曲は外 して多く修める。端は丸く修める。 胎土中に砂を含む。	灰黃褐 10YR6/2	灰黃褐 2SY6/2	灰 N3/
21	106	L6-17・22	Ⅲd	土師器	高杯	脚 — (7.1)	— 112	脚は表面的に凹く広がり屈曲後脚 は丸く修める。端は丸く修める。 胎土中に砂を含む。	NH/	NH/	灰 N3/
21	107	L6-13	Ⅲd	土師器	高杯	脚 — (5.9)	— 96	脚は表面的に凹く広がり屈曲後脚 は丸く修める。端は丸く修める。 胎土中に砂を含む。	灰黃褐 10YR6/2	灰黃褐 10YR7/2	灰 5Y5/1
22	108	L6-8	Ⅲd	土師器	帶台	台 12.0 (18)	—	脚は表面的に外反する。端は丸く 修める。	灰 10YR7/3	灰 10YR7/3	灰 5Y4/1

表8 4A区遺物観察表6

(土器・土製品)

No.	遺物	出土場所	面積	断面	剖面	法線 (cm)	判斷	内面		外面		備考	
								口徑	盤高	側径	底径		
22 109	L72-11	II-d - III-d	土加器	小型断面	92	(46)	93	—	台部は破壊して外斜方に立つ。口唇は丸く侈める。	灰斑	に赤い帶	灰	75YR6/2 75YR7/3 N4/
23 110	L617-18	II-d - III-d	土加器	鉢	82	61	73	—	有段鉢形、口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く侈める。面部は細く曲がる。丸底。	に赤い帶	に赤い黄斑	灰	75YR6/4 10YR7/2 75Y4/1
23 111	L6-22	III-b	土加器	鉢	76	67	71	29	直形の手形ね。口縁は外方に粘土壁で貼付し、直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く侈める。面部は細く曲がる。押しつぶした平底。	に赤い帶	灰斑	N3/	10YR6/3 10YR6/2
23 112	L6-18	II-d	土加器	鉢	94	67	82	—	有段鉢形、口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く侈める。面部はやや曲がる。丸底。	に赤い帶	灰	75YR6/3 75YR6/4 10Y5/1	
23 113	L6-18	II-d	土加器	鉢	84	70	86	—	有段鉢形、口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く侈める。面部はやや曲がる。丸底。	に赤い帶	灰斑	25Y6/1	75YR6/4 25Y6/1
23 114	L7-11	III-2	土加器	鉢	98	65	85	64	有段鉢形、口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く侈める。面部はやや曲がる。丸底。	に赤い帶	灰斑	N4/3	25Y6/3
23 115	L7-1	II-d	土加器	鉢	93	67	85	—	有段鉢形、口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く侈める。面部はやや曲がる。丸底。	灰斑	灰斑	10YR7/2	25Y6/2
23 116	L6-17	III-4	土加器	鉢	100	67	82	—	有段鉢形、口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く侈める。面部はやや曲がる。丸底。	に赤い帶	灰斑	5Y7/1	10YR6/3 10YR6/2
23 117	L6-13	II-d	土加器	鉢	97	67	74	—	有段鉢形、口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く侈める。面部はやや曲がる。丸底。	灰斑	灰斑	5Y6/2	25Y5/2
23 118	L6-17	II-d	土加器	鉢	106	(51)	—	有段鉢形の大型丸底鉢。口縁は内斜面に外上方に立ち上がる。口唇は丸く侈ぐる。面部は直角的。外面部全体は丸底。	に赤い帶	灰斑	灰	5YR5/4 5YR5/4 75Y5/1	
23 119	L6-13	II-d	土加器	鉢	103	(50)	86	—	有段鉢形の大型丸底鉢。口縁は内斜面で外上方に立ち上がる。口唇は丸く侈ぐる。面部は直角的。外面部全体は丸底。	に赤い帶	灰斑	N4/1	10YR5/3
23 120	L6-22	III-d	土加器	鉢	112	(59)	—	有段鉢形、口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く侈める。丸底。	灰斑	灰斑	25Y5/1	75YR6/2 75YR6/3	
23 121	L6-18	II-d	土加器	鉢	115	63	116	—	有段鉢形、口縁はやや直角的。面部は直角的。丸底。	に赤い帶	に赤い帶	灰	75YR6/4 75YR6/4 75YR7/4
23 122	L6-8	II-d	土加器	鉢	106	74	85	—	有段鉢形、口縁はやや直角的。面部は直角的。丸底。	に赤い帶	に赤い帶	N5/	10YR7/3
23 123	L6-18	II-d	土加器	鉢	100	78	96	26	有段鉢形、口縁を丸く曲げて直角的に外方に立ち上げる。口唇は丸く侈める。面部は直角的。丸底。	に赤い帶	に赤い帶	灰	75YR5-3 75YR5-3 10Y4/1
23 124	L6-22	II-d - III-d	土加器	鉢	104	71	—	有段鉢形、口縁は内斜面で外上方に立ち上がる。口唇は丸く侈める。面部は直角的。丸底。	灰斑	灰斑	25Y7/3	25Y7/3 5Y7/1	
23 125	L6-18	II-d	土加器	鉢	108	74	119	—	有段鉢形、口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く侈める。面部は直角的。丸底。	灰斑	灰斑	25Y6/2	10YR5/2 25Y6/1
23 126	L6-17	II-d	土加器	鉢	110	75	101	—	有段鉢形の大型丸底鉢。口縁は直線的に外上方に立ち上げる。口唇は丸く侈める。面部は直角的。丸底。	に赤い帶	に赤い帶	N4/	10YR5/3 10YR5/3
23 127	L7-6	II-d?	土加器	鉢	124	103	112	—	口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く侈める。面部は直角的。丸底。内底部の面部はやや直角。丸底。内底部と外底部は丸底。面部は直角的。丸底。	に赤い帶	に赤い帶	5Y7/4	75YR6/4 5Y7/4
23 128	L7-1	II-d	土加器	鉢	116	(8.8)	120	—	口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く侈める。面部は直角的。面部は丸底を持ち出す。外面部は丸底直角付。	に赤い帶	灰斑	10YR7/2	25Y4/1

表9 4A区遺物觀察表7

(土器・土製品)

Fig.	遺物	出土地点	西標	西形	部位	法量 (cm)	内標	外標	特徴	内面	外面	備考			
23	129	L6-17-22	II-d	II-d3	土細器	38°	108	94	11.1	—	神形の小型丸底土器。口縁は頗る外反して外方に立ち上がる。口唇は丸く修飾され、内側に斜めに削られた。底部底盤はやや厚く修飾する。底部底盤はやや厚く修飾する。	にぶい層	にぶい層	灰	
										7SYR6-2	SYR6-4	N4'			
24	130	1.6-13	Ⅲ-d	土細器	?	?	88	(5.0)	—	神形の小型丸底土器。口縁は直線的に外方に立ち上がる。口縁は丸く修飾され、内側に斜めに削られた。底部底盤はやや厚く修飾する。	灰黄	灰黄	灰		
										2SY7-2	2SY7-3	N4'			
24	131	1.6-22	Ⅲ-d	土細器	小型丸底器	—	(6.5)	64	—	口縁は内側で外方に立ち上がる。底部底盤はやや厚く修飾する。	層	にぶい層	褐色灰		
										7SYR6-4	10YR6-1				
24	132	1.7-1	Ⅲ-d	土細器	小型丸底器	100	84	71	—	底部小部を削り出さる。口縁は直線的に外方に立ち上がる。口縁は丸く修飾され、内側に斜めに削られた。底部底盤はやや厚く修飾する。	にぶい層	にぶい層	灰		
										10YR7-2	10YR6-3	N4'			
24	133	1.6-18	Ⅲ-d	土細器	小型丸底器	95	83	74	—	口縁は内側で外方に立ち上がる。口縁は丸く修飾され、内側に斜めに削られた。底部底盤はやや厚く修飾する。	灰黄	灰黄	灰黄		
										2SY6-2	2SY6-2	2SY7-2			
24	134	1.6-13	Ⅲ-d	土細器	?	口縁	88	(4.9)	—	神形の小型丸底土器。口縁は内側で外方に立ち上がる。底部底盤はやや厚く修飾する。	灰黄	にぶい層	灰		
										10YR6-2	10YR6-3	SY4-1			
24	135	1.6-21	Ⅲ-d	土細器	?	口縁	86	(2.0)	—	神形の大型丸底土器。口縁は内側で外方に立ち上がる。底部底盤はやや厚く修飾する。	にぶい層	にぶい層	褐色灰		
										10YR6-3	10YR6-3	N3'			
24	136	1.6-13	Ⅲ-d	土細器	小型丸底器	紙	—	(3.5)	94	丸底の底部部分から側部は大きく削出する。内面底部と外面底部一部に側付がある。	黒	にぶい層	灰		
										5Y2'1	10YR6-3	7SY4-3			
24	137	1.6-17	Ⅲ-d	土細器	小型丸底器	—	(4.7)	82	—	底部がやや張出す。丸底。	にぶい層	にぶい層	灰黄		
										10YR6-3	10YR6-3	2SY7-2			
24	138	1.6-13	Ⅲ-d	土細器	小型丸底器	?	74	83	87	側付。内側底部で赤茶色チャートを多く含む。底部は丸く修飾する。内側で外方に立ち上がる。口縁は丸く修飾する。底部底盤はやや厚く修飾する。底部周辺はやや急。側部は中段で大きく削らる。	灰黄	灰黄	灰白		
										2SY7-2	2SY7-2	2SY8-2			
24	139	1.6-2	Ⅲ-b - Ⅲ-d	土細器	?	80	93	85	—	口縁は直線的に外方に立ち上がる。口縁は丸く修飾する。底部はやや急。側部は中段で大きく削らる。	灰黄	2SY7-2	2SY7-2	10YR7-2	
										10YR6-2	10YR6-2	SY4-1			
24	140	1.6-22	Ⅲ-b - Ⅲ-d	土細器	?	89	98	92	—	口縁は内側で外方に立ち上がる。底部底盤はやや厚く修飾する。底部底盤はやや急。側部は丸底。	灰黄	10YR6-2	10YR6-2	SY4-1	
										10YR6-3	10YR6-2	2SY8-2			
24	141	1.6-8	Ⅲ-d	土細器	?	99	93	102	—	有茎鉢形の小型丸底土器。口縁は直線的に外方に立ち上がる。底部底盤はやや厚く修飾する。底部底盤はやや急。側部は中段で大きく削らる。	灰黄	灰黄	灰白		
										10YR6-3	10YR6-2	2SY8-2			
24	142	1.6-22	Ⅲ-d	土細器	小型丸底器	?	—	(6.0)	94	33	底部下部に縫合跡。側部は丸底で側付がある。	灰黄	2SY7-2	10YR6-2	2SY3-1
										10YR6-2	10YR6-2				
24	143	1.6-22	Ⅲ-d	土細器	?	側	—	(8.0)	104	—	神形の小型丸底土器。面部は直線的に外方に立ちかる。外側側部下部 - 下部に側付がある。	褐色灰	にぶい層	7SYR7-4	
										10YR5-1	10YR3-6	N4'			
25	144	1.6-13	Ⅲ-d	土細器	小型丸底器	II標	106	(3.9)	—	口縁は直線的に外方に立ち上がる。口縁は丸く修飾する。底部底盤はやや厚く修飾する。	にぶい層	にぶい層	灰		
										10YR5-3	10YR5-3	N4'			
25	145	1.7-6	Ⅲ-d2	土細器	?	口縁	111	(4.0)	—	口縁は内側で外方に立ち上がる。口縁は丸く修飾する。内側に側付がある。底部底盤はやや厚く修飾する。底部周辺はやや急。側部は張出しで側付を含む。	にぶい層	にぶい層	灰		
										5YR7-4	7SYR7-4	N4'			
25	146	1.6-13	Ⅲ-d	土細器	?	口縁	88	(5.9)	11.0	—	口縁は直線的に外方に立ち上がる。口縁は丸く修飾する。内側に側付がある。底部底盤はやや厚く修飾する。底部周辺はやや急。側部は張出しで側付を含む。	灰黄	にぶい層	褐色灰	
										10YR6-2	7SYR6-3	2SY4-1			
25	147	1.6-22	Ⅲ-d	土細器	?	?	111	11.0	11.1	—	神形の小型丸底土器。口縁は直線的に外方に立ち上がる。底部底盤はやや厚く修飾する。底部周辺はやや急。側部は直線的。側部周辺は側付を含む。	にぶい層	にぶい層	7SYR6-4	
										10YR6-3	7SYR6-2	SY4-1			
25	148	1.6-21	Ⅲ-d	土細器	?	?	92	(11.0)	11.0	—	神形の小型丸底土器。口縁は直線的に外方に立ち上がる。底部底盤はやや厚く修飾する。底部周辺はやや急。側部は直線的。側部周辺は側付を含む。	にぶい層	にぶい層	灰	
										10YR6-3	7SYR6-2	2SY4-1			
25	149	1.6-22	Ⅲ-d	土細器	?	?	97	127	12.1	—	神形の小型丸底土器。口縁は直線的に外方に立ち上がる。底部底盤はやや厚く修飾する。底部周辺はやや急。側部は直線的。側部周辺は側付を含む。	にぶい層	にぶい層	10YR6-3	
										10YR6-3	10YR6-3	7SY4-1			
25	150	1.6-22	Ⅲ-d	土細器	?	?	116	11.5	11.4	—	神形の大型丸底土器。口縁は直線的に外方に立ち上がる。底部底盤はやや厚く修飾する。底部周辺はやや急。側部は直線的。側部周辺は側付を含む。	にぶい層	にぶい層	5Y4-1	

表10 4A区遺物観察表8

《土器・土製品》

No.	遺物 名	出土地點 No.	層	器形	部位	寸法 (cm)	特徴	色調		備考	
								口徑	器内		
26 151	L7.1	Ⅲd	土師器	ミニチュア		41 27 4.5	—	耳付の手捏ね。口縁は内側して上方に立ち上がる。口縁は丸く修める。やや黒風。内外面に焼付有。	黒風	黒風	—
26 152	L6.13	Ⅲd.2	土師器	ミニチュア		34 23 3.9	—	耳付の手捏ね。口縁は内側する。口縁は丸く修める。丸底。	灰黄風	灰黄風	黄灰
26 153	L7.1	Ⅲd	土師器	ミニチュア		44 21 4.6	—	耳付の手捏ね。口縁は内側して外方に立ち上がる。口縁は丸く修める。丸底。	灰灰黄	灰灰黄	黄灰
26 154	L7.1	Ⅲd	土師器	ミニチュア		32 22 5.6	—	耳付の手捏ね。口縁は内側する。丸底。	暗灰	灰黄風	灰
26 155	L6.22	Ⅲd.3	土師器	ミニチュア		60 26 6.2	—	耳付の手捏ね。口縁は内側する。丸底。	NS	25YR6.2	5Y4/1
26 156	L6.21	Ⅲd	土師器	ミニチュア		55 32 5.7	—	耳付の手捏ね。口縁は丸く修める。丸底。	NS	NS	—
26 157	L6.22	Ⅲd	土師器	ミニチュア		59 26 6.0	—	耳付の手捏ね。口縁は丸く修める。丸底。	25Y5.1	25Y5.2	25Y5.1
26 158	L6.18	Ⅲd	土師器	ミニチュア		74 24 7.6	—	耳付の手捏ね。口縁は内側して外方に立ち上がる。口縁は丸く修める。丸底。	灰黄風	灰黄	灰
26 159	L6.8	Ⅲd	土師器	ミニチュア		75 20 —	—	耳付の手捏ね。口縁は内側して外方に立ち上がる。口縁は丸く修める。丸底。	10YR6.2	25YR6.2	10YR6.1
26 160	L6.18	Ⅲd	土師器	ミニチュア		64 1.6 6.6	33	耳付の手捏ね。口縁は内側する。丸底。	NS	NS	25Y5.1
26 161	L7.1	Ⅲd	土師器	ミニチュア		61 (37) 7.1	—	耳付の手捏ね。口縁は丸く修める。丸底。	25Y5.2	25Y5.2	NS
26 162	L7.1	Ⅲd	土師器	ミニチュア	?	65 34 6.9	—	耳付の手捏ね。口縁は内側して上方方に立ち上がる。口縁は丸く修める。一帯では内側に肥厚する。やや黒風。内外面に焼付有。	灰黄風	灰灰黄	灰灰黄
26 163	L7.1	Ⅲd	土師器	ミニチュア		64 31 6.6	—	耳付の手捏ね。口縁は内側して外方に立ち上がる。口縁は丸く修める。やや丸底。	暗灰	暗灰	暗灰
26 164	L6.2	Ⅲd	土師器	ミニチュア		38 3.8 5.0	—	耳付の手捏ね。口縁は内側する。丸底。	25Y4/1	25Y5.3	5Y6/4/1
26 165	L6.22	Ⅲd	土師器	ミニチュア		44 3.9 4.7	—	耳付の手捏ね。口縁はやや丸く修める。丸底。	75YR5.3	10YR6.2	10YR4/1
26 166	L6.18	Ⅲd	土師器	ミニチュア		32 3.1 4.6	—	耳付の手捏ね。口縁は内側して外方に立ち上がる。口縁は丸く修める。丸底。	10YR6.4	10YR7.3	N4/
26 167	L7.11	Ⅲd	土師器	ミニチュア		37 3.8 5.0	—	耳付の手捏ね。口縁は内側する。丸底。	25Y6.2	25Y6.2	N4/
26 168	L7.6	Ⅲd.2	土師器	ミニチュア		44 3.4 3.7	24	耳付の手捏ね。口縁は内側して外方に立ち上がる。口縁は丸く修める。押し出しがある。丸底。	25Y6.3	25Y6.3	N4/
26 169	L6.7	Ⅲd	土師器	ミニチュア		44 3.3 4.4	—	耳付の手捏ね。口縁は内側して外方に立ち上がる。口縁は丸く修める。丸底。	5YR6.6	5YR6.6	5Y5/1
26 170	L7.11	Ⅲd.2	土師器	ミニチュア		55 4.1 4.6	—	耳又は耳付の手捏ね。口縁は内側して外方に立ち上がる。丸底。	灰黄	灰黄	—
26 171	L7.1	Ⅲd	土師器	ミニチュア		33.5 4.4 2.0	—	耳又は耳付の手捏ね。口縁は内側して外方に立ち上がる。丸底。	25Y5.2	25Y5.2	5Y4/1
26 172	L7.41	Ⅲd	土師器	ミニチュア		50 4.3 5.3	—	耳又は耳付の手捏ね。口縁は内側して外方に立ち上がる。丸底。	灰黄	灰黄	灰

表11 4A区遺物觀察表9

(土器・土製品)

No.	遺物	出土地点	器種	器形	部位	法量 (cm)	寸法	器内	特徴	内面	外面	備考	
								底	口縁	底内	側付	底径	
要形の手招ね、口縁は外側に施土等を施して、口縁は外方に立ち上がる。口縁は丸く修める。丸底。													
26	173	1.6.22	Ed	土鉢器	ミニチュア	54	43	49	—	圓底	に高い黄褐色	暗灰	N3'
26	174	1.7.11	Ed2	土鉢器	ミニチュア	53	41	45	—	圓底	黄褐色	灰	N6'
要又は要形の手招ね、口縁は外側に施土等を施して、口縁は外方に立ち上がる。口縁は丸く修める。丸底。													
26	175	1.7.32	Ed2	土鉢器	ミニチュア	48	46	46	22	圓底	圓底	灰	SY6'1
要又は要形の手招ね、口縁は外側に施土等を施して、口縁は外方に立ち上がる。口縁は丸く修める。丸底。													
26	176	1.6.22	Ed3	土鉢器	ミニチュア	42	46	50	—	底	に高い黄褐色	黄褐色	N3'
要形の手招ね、口縁は外側に施土等を施して、口縁は外方に立ち上がる。口縁は丸く修める。丸底。													
26	177	1.7.1	Ed	土鉢器	ミニチュア	63	47	62	—	圓底	に高い黄褐色	に高い黄褐色	SY6'3
要形の手招ね、口縁は外側に施土等を施して、口縁は外方に立ち上がる。口縁は丸く修める。丸底。													
26	178	1.6.7	Ed	土鉢器	ミニチュア	57	(43)	66	46	丸	に高い黄褐色	灰	N4'
要形の手招ね、口縁は外側に施土等を施して、口縁は外方に立ち上がる。口縁は丸く修める。丸底。													
26	179	1.6.8	Ed	土鉢器	ミニチュア	63	(48)	—	—	圓底	圓底	灰	SY6'4/1
要形の手招ね、口縁は外側に施土等を施して、口縁は外方に立ち上がる。口縁は丸く修める。丸底。													
26	180	1.6.17	Ed	土鉢器	ミニチュア	58	(47)	57	—	底	底	灰	SY6'6
要形の手招ね、口縁は外側に施土等を施して、口縁は外方に立ち上がる。口縁は丸く修める。丸底。													
26	181	1.6.17	Ed	土鉢器	ミニチュア	63	53	63	27	圓底	に高い黄褐色	黄褐色	N4'
要形の手招ね、口縁は外側に施土等を施して、口縁は外方に立ち上がる。口縁は丸く修める。丸底。													
26	182	1.6.8	Ed	土鉢器	ミニチュア	71	57	59	25	黑褐	に低い	灰	N4'
要形の手招ね、口縁は外側に施土等を施して、口縁は外方に立ち上がる。口縁は丸く修める。丸底。													
26	183	1.6.23	Ed	土鉢器	ミニチュア	56	56	56	25	底	圆底	暗灰	N3'
要形の手招ね、口縁は外側に施土等を施して、口縁は外方に立ち上がる。口縁は丸く修める。丸底。													
26	184	1.7.11	Ed	土鉢器	ミニチュア	63	36	61	18	圓底	に低い	灰	SY6'3
要形の手招ね、口縁は外側に施土等を施して、口縁は外方に立ち上がる。口縁は丸く修める。丸底。													
26	185	1.6.13	Ed	土鉢器	ミニチュア	66	(37)	—	—	圓底	に高い黄褐色	灰	SY6'2
要形の手招ね、口縁は外側に施土等を施して、口縁は外方に立ち上がる。口縁は丸く修める。丸底。													
26	186	L67 - 17	Ed - Ed2	土鉢器	ミニチュア	69	69	69	30	圓底	に高い黄褐色	灰	N4'
要形の手招ね、口縁は外側に施土等を施して、口縁は外方に立ち上がる。口縁は丸く修める。丸底。													
26	187	1.6.8	Ed	土鉢器	ミニチュア	65	64	65	30	圓底	に高い黄褐色	灰	N3'
要形の手招ね、口縁は外側に施土等を施して、口縁は外方に立ち上がる。口縁は丸く修める。丸底。													
26	188	1.6.22	Ed	土鉢器	ミニチュア	75	60	67	35	底	底	灰	N4'
要形の手招ね、口縁は外側に施土等を施して、口縁は外方に立ち上がる。口縁は丸く修める。丸底。													
26	189	1.6.7	Ed	土鉢器	ミニチュア	63	62	64	23	圓底	圓底	灰	SY6'4
要形の手招ね、口縁は外側に施土等を施して、口縁は外方に立ち上がる。口縁は丸く修める。丸底。													
26	190	1.7.11	Ed2	土鉢器	ミニチュア	52	68	78	—	圓底	に高い黄褐色	灰	SY6'1
要形の手招ね、口縁は外側に施土等を施して、口縁は外方に立ち上がる。口縁は丸く修める。丸底。													
27	191	1.6.7	Ed	土鉢器	ミニチュア	76	(22)	—	—	底	底	灰	SY5'1
要形の手招ね、口縁は外側に施土等を施して、口縁は外方に立ち上がる。口縁は丸く修める。丸底。													
27	192	1.6.22	Ed	土鉢器	底?	75	(41)	66	—	圓底	に高い黄褐色	灰	SY4'1
要形の手招ね、口縁は外側に施土等を施して、口縁は外方に立ち上がる。口縁は丸く修める。丸底。													
27	193	1.6.22	Ed3	土鉢器	要?	口縁	92	(22)	—	—	圓底	底	N4'
要形の手招ね、口縁は外側に施土等を施して、口縁は外方に立ち上がる。口縁は丸く修める。丸底。													
27	194	1.6.28	Ed	土鉢器	ミニチュア	制	—	(37)	58	28	圓底	底	SY5'1

表12 4A区遺物観察表10

《土器・土製品》

No.	遺物 名	出土地點 No.	層 番	断面	部位	寸法(cm)	特徴			内面	外面	土色	備考
							13面	14面	側面				
28 195 L6-13	Ⅲd 土器部 壁?			12.6	15.5	13.6	口縁は内壁気泡に外上方に立ち上がる。口唇は丸く捲れる。面部はやや急。底部が突出する。丸底。中に小孔を含む。	10YR6/3	10YR6/3	灰白	25Y6/2		
28 196 L6-17-18	Ⅲd 土器部 壁?			11.4 (10.0)	13.6	—	口縁は反対して外上方に立ち上がる。口唇は丸く捲れる。面部はやや急。底部が突出する。丸底。	25Y3/1	7.5Y6/6	オーリーブ黒	SY3/1		
28 197 L6-22	Ⅲd 土器部 壁			11.2 (13.3)	14.2	—	口縁は内壁気泡に外上方に立ち上がる。口唇は丸く捲れる。面部はやや急。底部が突出する。丸底。	10YR6/3	10YR6/3	灰	5Y4/1		
28 198 L6-22	Ⅲd 土器部 壁 口縁			11.7 (4.4)	—	口縁は内壁気泡に外上方に立ち上がる。口唇は丸く捲れる。	SY8/3	SY8/3	青灰	5BG6/1			
28 199 L6-13-18	Ⅲd 土器部 壁 口縁		13面	20.4 (4.9)	—	口縁は内壁気泡に外上方に立ち上がる。口唇は丸く捲れる。	7.5YR7/3	7.5YR7/3	灰	10Y4/1			
28 200 L6-17-18	Ⅲd-Ⅲd-3 土器部 壁 口縁		13面	11.8 (5.1)	—	口縁は内壁気泡に外上方に立ち上がる。口唇は丸く捲れる。面部はやや急。	5Y5/1	5Y6/1	灰	NS/			
28 201 L6-13	Ⅲd 強生土器 壁 口縁			15.0 (5.8)	—	口縁は反対して外斜方に立ち上がる。口唇は丸く捲れる。面部はやや急。底部が突出する。	10YR6/3	7.5YR6/3	灰	發生時期 土器?			
28 202 L6-7-18	Ⅲd 土器部 壁 口縁			13.4 (12.6)	—	口縁は内壁気泡に外上方に立ち上がる。口唇は丸く捲れる。面部はやや急。	10YR5/2	7.5YR5/4	灰	NS/			
28 203 L6-8	Ⅲd 土器部 壁 口縁			— (3.0)	—	口縁は内壁気泡に外上方に立ち上がる。口唇は丸く捲れる。面部はやや急。	10YR7/2	10YR7/2	灰	5Y5/1 陶器品			
28 204 L7-1	Ⅲd 土器部 壁 例			— (3.6)	—	面部は外壁に大きく張出す。面部は丸底。	7.5YR6/6	10YR6/6	灰	5YR7/6			
28 205 L6-7-18	Ⅲd 土器部 壁			—	—	口縁は極く外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く捲れる。面部はやや急。	10YR7/2	7.5YR7/4	灰	10Y4/1			
28 206 L6-13	Ⅲd 土器部 壁 口縁			17.3 (14.8)	—	口縁は外上方に立ち上がる。口唇は丸く捲れる。面部はやや急。内面口縁一部に付着する。	SYR7/6	SYR7/6	浅黄褐	10YR8/3			
29 207 L6-22	Ⅲd 土器部 壁 —			— (9.0)	11.4	—	下と外壁側面部に付着する。口縁は丸く捲れる。面部はやや急。	10YR7/2	10YR7/2	灰	10YR7/3		
29 208 L6-22	Ⅲd-3 土器部 壁			17.0 (21.5)	26.6	—	面部は内壁の底部から中位で大きく膨らむ。面部は丸底。	SYR7/2	25Y7/2	灰白	25Y5/2		
29 209 L6-18-21	Ⅲd 土器部 壁 例			(8.4)	13.8	—	面部は内壁の底部から中位で大きく膨らむ。面部は丸底。	7.5YR6/3	7.5YR6/3	灰	NS/		
29 210 L6-18	Ⅲd 土器部 壁 例			(6.0)	13.0	—	面部は内壁で大きく膨らむ。面部は丸底。	10YR5/3	10YR6/4	10Y5/1			
29 211 L7-1	Ⅲd 土器部 壁 破			— (4.2)	—	—	丸底。押し溝して形成した彫り痕。	NS/	7.5YR7/4	灰	NS/		
30 212 L6-17-18 Ⅲd-Ⅲd-2	Ⅲd 土器部 壁			14.6	27.5	25.7	口縁は最も外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く捲れる。面部はやや急。面部は球状指凸。	10YR6/1	10YR6/2	灰	NS/		
30 213 L6-8	Ⅲd 土器部 壁			16.0	32.4	28.5	面部は丸底。	7.5YR5/4	7.5YR4/4	灰	25Y5/1		
31 214 —	強生土器 沈持 口縁			— (4.2)	—	—	口縁は外反して大きく開き外斜唇。	10YR8/2	10YR8/2	10YR8/2	10YR8/2		
31 215 L6-8	Ⅲd 強生土器 壁 口縁			— (2.0)	—	—	口縁は直立する前を直し上下に膨らむ。	10YR8/4	7.5YR8/4	10YR8/4	10YR8-3 土器		
31 216 L7-6	Ⅲd 強生土器 壁?			— (2.0)	—	—	口縁は内側向外方に立ち上がる。口唇は丸く捲れる。面部はやや急。	NS/	7.5YR8/4	灰	7.5Y5/1		

表13 4A区遗物器皿表11

《十翼》十翼足

番号	生出地點	基種	形態	部位	法則 (ca.)	特徴	色調		備考
							内面	外面	
No.	グリード	年	口仔	器部	性別	年齢			
31 217	L-71	II d-3	幼生土器	頭 頸	全員	全幅 幅厚	灰黃褐色	灰褐色	灰
					4.4	51 1.1			10YR5/2 10YR4/1
31 218	K-11	II d-2	幼生土器	頭 頸	—	(45)	—	3.1	頭部は偏平底。
							に於て、頭部は偏平底。	に於て、頭部は偏平底。	10YR5/2 10YR4/1
31 219	L-18	II d	幼生土器	頭 頸	—	(25)	—	4.2	押しつぶした平底。
							頭部はやや突出し、偏平底を成す。	に於て、頭部は偏平底。	10YR6/4 10YR2/2
31 220	L-18	II d	幼生土器	頭 頸	—	(49)	—	3.2	下。
							頭部は偏平底。	に於て、頭部は偏平底。	73YR7/4 73YR4/5
31 221	L-18	II d	幼生土器	頭 頸	—	(36)	—	4.4	付着。
							頭部は偏平底。外面部分的に瘤状。	頭部は偏平底。	N4 N3
31 222	L-71	II d-3	幼生土器	頭 頸	—	(44)	—	7.7	底盤でやや凸面を成す。
							底盤でやや凸面を成す。	に於て、底盤でやや凸面を成す。	10YR6/2 10YR2/2
31 223	L-6	II d-2	幼生土器	頭 頸	—	(57)	—	7.3	安定した平底。
							安定した平底。	に於て、底盤でやや凸面を成す。	10YR4/7 73YR4/1
31 224	L-71	II d-3	幼生土器	頭 頸	—	(26)	—	6.5	安定した平底。
							安定した平底。	に於て、底盤でやや凸面を成す。	10YR4/7 73YR4/1
31 225	L-6	II d	幼生土器	頭 頸	—	(36)	—	5.4	安定した平底。
							安定した平底。	に於て、底盤でやや凸面を成す。	10YR5/1 10YR2/2 73YR4/1
31 226	K-10	II d	幼生土器	頭 頸	—	(17)	—	9.6	平底。
							平底。	に於て、底盤でやや凸面を成す。	23YR4/3 23YR7/3
31 227	L-6	II d	幼生土器	頭 頸	—	(35)	—	10.0	平底。(小笠四面を成す)。
							平底。(小笠四面を成す)。	に於て、底盤でやや凸面を成す。	10YR8/2 10YR2/2
31 228	K-75	II d-2	幼生土器	頭 頸	—	(45)	—	9.6	安定した平底。外面部分的に瘤状。
							安定した平底。外面部分的に瘤状。	に於て、底盤でやや凸面を成す。	10YR2/2 10YR4/7 73YR4/2
32 229	L-71	II d	土細器	躰	8.4	40 8.8	—	—	頭部の長い楕円形。口縁は内側にして上方に立ち上がる。口縁は頗る丸く切られる。
							頭部の長い楕円形。口縁は内側にして上方に立ち上がる。口縁は頗る丸く切られる。	に於て、頭部の長い楕円形。口縁は内側にして上方に立ち上がる。口縁は頗る丸く切られる。	10YR5/2 10YR2/2
32 230	L-13	II d	土細器	躰	10.0	36 10.3	—	—	手捏ね痕跡。口縫は頗る圓く、内側部に瘤状する。
							手捏ね痕跡。口縫は頗る圓く、内側部に瘤状する。	に於て、頭部の長い楕円形。口縫は頗る圓く、内側部に瘤状する。	73YR6/4 10YR6/3 —
32 231	L-71	II d	土細器	躰	9.4	34	—	3.3	直筒。口縫は内側にして上方に立ち上がる。口縫は頗る丸く切られる。
							直筒。口縫は内側にして上方に立ち上がる。口縫は頗る丸く切られる。	に於て、頭部の長い楕円形。口縫は内側にして上方に立ち上がる。口縫は頗る丸く切られる。	10YR5/2 10YR4/7 73YR4/1
32 232	L-22	II d	土細器	躰	10.7	37	—	—	浅い楕円形。口縫は内側にして上方に立ち上がる。口縫は頗る丸く切られる。
							浅い楕円形。口縫は内側にして上方に立ち上がる。口縫は頗る丸く切られる。	に於て、頭部の長い楕円形。口縫は内側にして上方に立ち上がる。口縫は頗る丸く切られる。	10YR5/2 10YR4/7 73YR4/1
32 233	L-18	II b	土細器	躰	9.2	40 9.4	—	—	手捏ね痕跡。口縫は頗る圓く、内側部に瘤状する。
							手捏ね痕跡。口縫は頗る圓く、内側部に瘤状する。	に於て、頭部の長い楕円形。口縫は頗る圓く、内側部に瘤状する。	10YR6/3 10YR6/3 73YR6/4
32 234	L-12	II d	土細器	躰	9.2	37	—	—	直筒。口縫は内側にして上方に立ち上がる。口縫は頗る丸く切れる。
							直筒。口縫は内側にして上方に立ち上がる。口縫は頗る丸く切れる。	に於て、頭部の長い楕円形。口縫は内側にして上方に立ち上がる。口縫は頗る丸く切れる。	10YR6/4 10YR6/4 73YR4/1
32 235	L-22	II d	土細器	躰	10.6	51 10.8	—	—	直筒。口縫は内側にして上方に立ち上がる。口縫は頗る丸く切れる。
							直筒。口縫は内側にして上方に立ち上がる。口縫は頗る丸く切れる。	に於て、頭部の長い楕円形。口縫は内側にして上方に立ち上がる。口縫は頗る丸く切れる。	10YR5/2 10YR5/2 73YR4/1
32 236	L-17	II d	土細器	躰	9.6	(34)	—	—	直筒。外側壁付近に瘤状する。
							直筒。外側壁付近に瘤状する。	に於て、頭部の長い楕円形。外側壁付近に瘤状する。	10YR5/2 10YR5/2 73YR4/1
32 237	L-19	II d	土細器	躰	9.3	49 9.5	—	—	直筒。外側壁付近に瘤状する。
							直筒。外側壁付近に瘤状する。	に於て、頭部の長い楕円形。外側壁付近に瘤状する。	10YR5/2 73YR4/2 73YR4/1

表14 4A区遗物列表表12

《卡西·卡西法》

No	遺物	出土地点	基盤	形状	部位	法長 (cm)	口径	高さ	側径	底径	特徴			内面	外面	色調	
											内	外	底				
32	238	L7.1	Ⅲd	土師器	鉢	113	47	114	—	—	器高の低い瓶。口縁は極く内側にして外方に立ち上がる。口部は人字形。外縁は縦の線で構成する。	にぶい・黒褐	にぶい・黒褐	にぶい・黒褐	HBY-3	10YR6/3	HBY-3/3
32	239	L6.8	Ⅲd	土師器	鉢	96	45	100	—	—	器高の低い瓶。手形ねじは直角による。口部は極く内側して外方に立ち上がる。口部は丸く侈る。	黄褐色	にぶい・黒褐	灰	10YR6/2	10YR6/2	N6
32	240	L6.22	Ⅲd	土師器	鉢	105	42	107	—	—	器高の低い瓶。直形。口縁は内側して外方に立ち上がる。口部は丸く侈る。	黄褐色	にぶい・黒褐	灰	HBY-3	75YR6/3	25Y4/3
32	241	L6.13	Ⅲd	土師器	鉢	106	46	108	—	—	器高の低い瓶。口縁は内側して外方に立ち上がる。口部は丸く侈る。	灰黒	にぶい・黒褐	灰白	25Y7/2	10YR7/3	10YR7/1
32	242	L6.22	Ⅲd	土師器	鉢	110	48	111	—	—	器高の低い瓶。口縁は内側にして外方に立ち上がる。口部は丸く侈る。	灰	にぶい・黒褐	灰	10YR6/4	75YR6/3	75Y4/4
32	243	L6.22	Ⅲd	土師器	鉢	113	38	—	—	—	直形。口縁は内側にして外方に立ち上がる。口部は丸く侈る。	灰黒	灰黒	灰黒	10YR6/3	25Y5/2	25Y7/2
32	244	L6.18	Ⅲd	土師器	鉢	118	47	—	—	—	器高の低い瓶。口縁は内側する。	灰	にぶい・黒褐	灰	10YR7/3	25Y6/2	25Y6/1
32	245	L7.6	Ⅲd2	土師器	鉢	108	45	—	—	—	口縁は内側にして外方に立ち上がる。口部は丸く侈る。	灰	にぶい・黒褐	灰	10YR6/3	5Y4/1	5Y4/1
32	246	L7.1	Ⅲd	土師器	鉢	113	47	114	52	—	器高の低い瓶。口縁は内側して外方に立ち上がる。口部は丸く侈る。	灰	にぶい・黒褐	灰	10YR6/3	75YR6/3	10YR7/3
32	247	L6.13	Ⅲd	土師器	鉢	108	52	110	—	—	直形。口縁は内側して外方に立ち上がる。口部は丸く侈る。	灰黒	灰黒	灰	10YR6/3	10YR6/2	5Y6/1
32	248	L6.17	Ⅲd	土師器	鉢	116	39	—	—	—	直形。口縁は内側して外方に立ち上がる。口部は丸く侈る。	灰	にぶい・黒褐	灰	75YR6/4	75YR6/3	75Y5/1
32	249	L6.13	Ⅲd	土師器	鉢	120	55	123	—	—	器高の低い瓶。口縁は内側して外方に立ち上がる。口部は丸く侈る。	灰	にぶい・黒褐	灰色	10YR6/4	10YR6/3	10YR5/4
32	250	L6.13	Ⅲd	土師器	鉢	110	50	113	—	—	器高の低い瓶。口縁は内側する。	灰	にぶい・黒褐	にぶい・黒褐	10YR6/4	5YR6/4	25Y1/4
32	251	L6.13	Ⅲd	土師器	鉢	125	49	127	—	—	直形。口縁は内側して外方に立ち上がる。口部は丸く侈る。	灰	にぶい・黒褐	灰	25Y9/4	75YR6/4	5Y4/1
32	252	L6.22	Ⅲd	土師器	鉢	127	50	128	—	—	直形。口縁は内側して外方に立ち上がる。口部は丸く侈る。	灰	にぶい・黒褐	灰	10YR6/3	10YR6/2	10YR7/3
32	253	L6.13	Ⅲd	土師器	鉢	126	53	130	—	—	器高の低い瓶。口縁は内側して外方に立ち上がる。口部は丸く侈る。	灰	にぶい・黒褐	浅灰褐	75YR6/4	75YR6/3	75Y8/4
32	254	L6.22	Ⅲd	土師器	鉢	119	54	123	—	—	器高の低い瓶。口縁は内側する。	灰	にぶい・黒褐	灰	10YR6/2	10YR6/2	25Y8/3
33	255	L6.22	Ⅲd	土師器	鉢	134	(33)	—	—	—	直形。口縁は内側して外方に立ち上がる。口部は丸く侈る。	灰	にぶい・黒褐	灰	5YR6/4	5YR6/3	5YR6/4
33	256	L6.13	Ⅲd	土師器	鉢	123	42	127	—	—	直形。口縁は内側して外方に立ち上がる。口部は丸く侈る。	灰	にぶい・黒褐	灰	75YR6/4	75YR6/3	N4
33	257	L6.13	Ⅲd	土師器	鉢	148	(30)	—	—	—	直形。口縁は内側して外方に立ち上がる。口部は丸く侈る。	灰	にぶい・黒褐	灰	75YR6/4	75YR6/4	10YR3/1
33	258	L6.22	Ⅲd	土師器	鉢	132	38	—	—	—	直形。口縁は内側して外方に立ち上がる。口部は丸く侈る。	灰	にぶい・黒褐	灰	10YR6/3	10YR6/3	75Y3/1

表15 4 A区遺物觀察表13

(土器・土製品)

No.	測定	出土地点	器種	器形	部位	法縫 (cm)	有縫	内面	外面	参考
No.	No.	グリッド	縦	横	底部	法縫 (cm)	有縫	内面	外面	参考
33	259	1.6-17	Ⅱd	土器部	縫	13.0 (45)	—	直形。口縫は内側で外上方に立ち上がる。口部は丸く修める。	に高い裏縫 10YR5-3	に高い裏縫 10YR5-3
33	260	1.6-13	Ⅱd	土器部	縫	12.4 (41)	—	器高の低い瓶形。口縫は内側で外上方に立ち上がる。口部は丸く修める。	底窓 2SY6-2	底窓 2SY6-2
33	261	1.6-13	Ⅱd	土器部	縫	13.6 56 142	—	器高の低い瓶形。口縫は内側で外上方に立ち上がる。口部は丸く修める。口縫下内縫に側縫を付ける。	に高い腹縫 2SYR6-4	に高い腹縫 2SYR6-3
33	262	1.6-13	Ⅱd	土器部	縫	14.3 60 144	—	器高の低い瓶形。口縫は内側で外上方に立ち上がる。口部は丸く修める。底窓。	に高い腹縫 10YR7-4	浅腹縫 2SYR6-4
33	263	1.6-13	Ⅱd	土器部	縫	13.0 49 132	—	器高の低い瓶形。口縫は内側で外上方に立ち上がる。口部は丸く修める。底窓。	に高い裏縫 10YR6-3	に高い裏縫 5Y6-1
33	264	1.6-13	Ⅱd	土器部	縫	13.4 53 137	—	器高の低い瓶形。口縫は内側で外上方に立ち上がる。口部は丸く修める。底窓。	底窓 10YR5-2	底窓 10YR5-2
33	265	1.6-2	Ⅱd	土器部	縫	13.4 53 135	—	器高の低い瓶形。口縫は内側で外上方に立ち上がる。口部は丸く修める。	底窓 10YR5-2	底窓 10YR5-2
33	266	1.6-21	Ⅱd	土器部	縫	13.7 56 141	—	直形。口縫は内側で外上方に立ち上がる。口部は丸く修める。	に高い腹縫 2SYR6-4	に高い腹縫 10YR6-4
33	267	1.7-11	Ⅱd-2	土器部	縫	16.4 60 —	—	器高の低い瓶形。口縫は内側で外上方に立ち上がる。口部は丸く修める。丸窓。外側削部下部に一部に腹縫。	底窓 10YR6-2	底窓 10YR6-4
34	268	1.6-18	Ⅱd	土器部	縫	12.6 37 —	—	内側に縫に覆する。	5Y4-1	2SY6-2
34	269	1.6-22	Ⅱd	土器部	縫	10.6 (51) —	—	瓶形。口縫は直面の外上方に立ち上がる。口部は丸く修める。手すりによる凹凸が複数ある。	底窓 10YR5-2	底窓 10YR5-3
34	270	1.6-13	Ⅱd	土器部	縫	12.0 (47) —	6.0	器高の低い瓶形。口縫は内側で外上方に立ち上がる。口部は丸く修める。底部は少しつぶした平底で縫に覆する。	底窓 10YR5-2	底窓 10YR5-2
34	271	1.6-22	Ⅱd	土器部	縫	13.8 (43) —	—	口縫は内側で外上方に立ち上がる。口部は丸く修める。	底窓 10YR6-3	底窓 10YR6-3
34	272	1.7-2	Ⅱd	土器部	縫	12.5 55 127	—	丸窓。船形に砂質を多く含む。	5Y6-6	5Y6-6
34	273	1.6-13	Ⅱd	土器部	縫	12.2 55 123	—	器高の低い瓶形。口縫は丸く修める。底窓。	底窓 10YR6-2	底窓 10YR6-2
34	274	1.6-22	Ⅱd	土器部	縫	13.0 62 134 32	—	直形。口縫は内側で外上方に立ち上がる。口部は丸く修める。底窓。	底窓 10YR6-2	底窓 10YR6-2
34	275	1.6-13	Ⅱd	土器部	縫	13.8 57 —	—	器高の低い瓶形。口縫は内側で外上方に立ち上がる。口部は丸く修める。底窓。	黄6 2SY4-1	黒6 2SY3-1
34	276	1.6-18	Ⅱd	土器部	縫	14.0 61 142 4.5	—	直形。口縫は内側で外上方に立ち上がる。底窓。	10YR5-4	10YR5-4
34	277	1.6-17	Ⅱd	土器部	縫	14.2 (48) —	—	口縫は内側で外上方に立ち上がる。底窓。	底窓 2SY6-2	底窓 2SY7-3
34	278	1.6-13	Ⅱd	土器部	縫	13.3 61 138 —	—	直形。口縫は内側で外上方に立ち上がる。口部は丸く修める。底窓。	底窓 10YR6-2	底窓 10YR6-2
34	279	1.6-13	Ⅱd	土器部	縫	13.8 63 141 6.5	—	器高の低い瓶形。口縫は内側で外上方に立ち上がる。口部は丸く修める。底窓。	底窓 10YR6-2	底窓 10YR5-3

表16 4A区遺物観察表14

《土器・土製品》

Fnd.	遺物	出土地点	面種	器形	部位	法安 (cm)	特徴	内面	外面	地質	備考
No.	No.	グリフ Y	層								
34	280	L6-18	Ⅲd	土師器	鉢	146 (55)	—	—	—	灰白	
							器底の低い鉢。口縁は内側気風、 外上部に立ち上がる。口唇は丸 く突起で丸模様がある。	SYR6-6	SYR6-4	SYR6-2	
34	281	L6-17	Ⅲd	土師器	鉢	145 55 146	—	—	—	灰黄	
							鉢形でやや膨大。口縁は直線的 に外方に立ち上がる。口唇は丸 く突起で丸模様がある。	SYR7-2	2SYR-2	NS/	
34	282	L6-17・18	Ⅲd	土師器	鉢	173 (67) 176	—	—	—	灰	
							がくら型。口縁は内側して外上方 に立ち上がる。口唇は丸く突起で 丸模様がある。	SYR7-2	SYR-6	7SYR-4	
34	283	L7-1	Ⅲb・Ⅲd・ Ⅳd-3	土師器	鉢	157 67 159 75	—	—	—	灰	
							鉢形。口縁は内側して外上方 に立ち上がる。口唇は丸く突起で 丸模様がある。	SYR6-4	7SYR-4	10YR6-1	
35	284	L6-17	Ⅲd	土師器	鉢	112 (54)	—	—	—	灰灰	
							鉢形。口縁は直線的に外上方に 立ち上がる。口唇は丸く突起で 丸模様がある。	SYR6-2	10YR6-2	2SYR-1	
35	285	L6-22	Ⅲd-3	土師器	鉢	106 57 107 45	—	—	—	灰	
							鉢形。口縁は内側して外上方 に立ち上がる。口唇は丸く突起で 丸模様がある。	7SYR-4	7SYR-3	SYR6-6	
35	286	L6-22	Ⅲd-3	土師器	鉢	104 60 107	—	—	—	灰	
							鉢形。口縁は内側して外上方 に立ち上がる。口唇は丸く突起で 丸模様がある。	10YR6-3	10YR5-2	5YR-1	
35	287	L6-18	Ⅲd	土師器	鉢	118 58 121	—	丸底	—	灰	
							鉢形。口縁は内側気風に外上方に 立ち上がる。口唇は丸く突起で 丸模様がある。	10YR6-2	7SYR6-4	7SYR-1	
35	288	L6-7	Ⅲd	土師器	鉢	118 57	—	—	—	灰	
							鉢形。口縁は直線的に外上方に 立ち上がる。口唇は丸く突起で 丸模様がある。	10YR5-3	10YR4-1	10Y-1	
35	289	L6-18	Ⅲd	土師器	鉢	127 59 128	—	—	—	灰灰	
							鉢形。口縁は縦く外反する(裏返 り型)。口唇は丸く突起で丸模 様がある。	10YR5-2	10YR5-2	2SYR-1	
35	290	L6-18	Ⅲd	土師器	鉢	130 (44)	—	—	—	灰	
							鉢形。口縁は内側気風に外上方に 立ち上がる。口唇は丸く突起で 丸模様がある。	10YR6-4	10YR6-4	7SYR-1	
35	291	L7-1	Ⅲd	土師器	鉢	120 55 123 50	—	—	—	灰	
							鉢形。口縁は内側して外上方に 立ち上がる。口唇は丸く突起で 丸模様がある。	7SYR5-3	10YR5-3	10YR7-4	発生後期 末から古 暁時代初
35	292	L6-8	Ⅲd	陶土器	鉢	108 125 (36)	—	—	—	灰灰	
							口縁は丸く突起で内側に斜めに 傾斜する。口唇は丸く突起で丸模 様がある。	10YR5-2	7SYR6-4	NS/ 3B	
35	293	L6-17	Ⅲd	土師器	鉢?	128 (54)	—	—	—	灰灰	
							口縁は内側して外上方に立ち上 がる。口唇は丸く突起で丸模 様がある。	10YR5-2	7SYR6-3	2SYR-2	
35	294	L6-13	Ⅲd	土師器	鉢	124 (49)	—	—	—	灰灰	
							鉢形。口縁は内側気風に外上方に 立ち上がる。口唇は丸く突起で 丸模様がある。	10YR6-3	10YR6-2	10YR-3	
35	295	L6-13	Ⅲd	土師器	鉢	125 61	—	—	—	灰灰	
							鉢形。口縁は丸く突起で内側に 傾斜する。口唇は丸く突起で丸模 様がある。	10YR6-3	10YR6-2	10YR8-2	
35	296	L6-17	Ⅲd	土師器	鉢	126 62 129 44	—	—	—	灰	
							鉢形。口縁は内側して外上方に 立ち上がる。口唇は丸く突起で 丸模様がある。	SYR5-4	SYR6-6	10Y-1	
35	297	L6-18	Ⅲd	土師器	鉢	124 62 129	—	—	—	青灰	
							鉢形。口縁は内側する。口唇は丸 く突起で丸模様がある。	SYR6-6	SYR6-4	SB4-1	
35	298	L6-22	Ⅲd	土師器	鉢	144 76	—	—	—	灰灰	
							鉢形。口縁は内側して外上方に 立ち上がる。口唇は丸く突起で 丸模様がある。	10YR5-2	10YR4-1	2SYR-1	
35	299	L6-17	Ⅲd・Ⅲd-3	土師器	鉢	140 68 143	—	—	—	灰灰	
							鉢形。口縁は内側して外上方に 立ち上がる。口唇は丸く突起で 丸模様がある。	7SYR6-4	10YR6-2	7SYR7-4	
35	300	L6-13・22	Ⅲd-3	土師器	鉢	118 (47)	—	—	—	灰	
							鉢形。口縁は内側して外上方に 立ち上がる。口唇は丸く突起で 丸模様がある。	SYR6-4	SYR6-4	7SYR-1	

表17 4 A区遺物觀察表15

(土器・土製品)

No.	遺物	出土地点	西標	西標	部位	深度 (cm)	特徴	色調		備考
								内部	外部	
36 301	1.6-13	II-d	土加器	体	—	17.4 (9.2)	—	46	白	—
36 302	1.6-13	II-d	土加器	体	—	12.2 (3.8)	—	—	灰	—
36 303	1.6-22	II-d	土加器	体	—	12.0 (4.6)	—	—	灰	—
36 304	1.6-22	II-d	土加器	体	—	11.9 (3.8)	—	—	灰	—
36 305	1.6-22	II-d	土加器	体	—	13.5 (4.2)	—	—	灰	—
36 306	1.6-22	II-d	土加器	体	—	13.8 6.6	—	14.0 35	—	—
36 307	1.6-8	II-d	土加器	体	—	12.6 (3.6)	—	—	灰	—
36 308	1.6-22	II-d3	土加器	体	—	6.4	—	20	灰	—
36 309	1.6-22	II-d	土加器	体	—	14.5 6.3	—	14.6	灰	—
36 310	1.6-8	II-d	土加器	体	—	12.9 (7.1)	—	—	灰	—
36 311	1.6-18	II-d	土加器	体	—	16.3 (8.1)	—	—	灰	—
36 312	L6-17-21 .22	IIb-III-d	土加器	体	—	18.2 (8.8)	—	—	灰	—
37 313	L7-1	II-d	土加器	体	—	8.1 5.8	—	8.4 30	—	—
37 314	L7-1	II-d	土加器	体	—	(9.0) 6.1	—	—	灰	—
37 315	L6-22	II-d3	土加器	体	—	7.9 7.0	—	8.2 (16) 部分: 脚: 体	—	—
37 316	L6-18	II-d	土加器	体 (台付)	—	10.6 (3.1)	—	—	灰	—
37 317	L7-1	II-d	土加器	体	—	9.0 6.8	—	9.6	灰	—
37 318	L6-18	II-d	土加器	体	—	9.1 6.4	—	9.3 25	灰	—
37 319	L7-1	II-d	土加器	体	—	10.1 6.1	—	10.5	灰	—
37 320	L6-22	II-d-III-d3	土加器	体	—	10.8 6.0	—	11.0	灰	—
37 321	L6-18	II-d	土加器	体	—	11.4 6.0	—	—	灰	—

表18 4 A区遗物列表

《七游·七题品》

Fig	遺物	出土位置	形態	部位	法長 (cm)	特徴	色調		備考	
							内面	外側		
No.	No.	グリッド	番	印面	裏面	側面	底			
37	322	L-18	Ⅲd	土器部	鉢	9.8	7.5	—	褐色、口縁は黒褐色で上方へ立ち上がる。口唇は丸く、他の部分には内面に肥厚する。底浅。外側部全体に墨色を帯びる。	
									灰褐色 10YR6/4 10YR6/3 10YR6/3	
37	323	L-17	Ⅲd	土器部	鉢	10.6	6.7	10.8	4.8	褐色、口縫は黒褐色で上方へ立ち上がる。口唇は丸く、他の部分には内面に肥厚する。底浅。外側部全体に墨色を帯びる。
									灰褐色 7.5YR6/4 5YR6/4 2.5Y4/1	
37	324	L-17	Ⅲd	土器部	鉢	10.9	8.1	—	褐色、口縫は黒褐色で上方へ立ち上がる。口唇は丸く、他の部分には内面に肥厚する。底浅。	
									灰褐色 10YR6/2 10YR6/2 2.5Y7/3	
37	325	L-18	Ⅲd	土器部	鉢	10.7	9.3	11.5	4.5	褐色、口縫は黒褐色で上方へ立ち上がる。口唇は丸く、他の部分には内面に肥厚する。底浅。外側部全体に墨色を帯びる。
									灰褐色 2.5Y6/2 10YR6/2 2.5Y6/2	
37	326	L-18	Ⅲd	土器部	鉢	7.8	9.1	8.9	—	褐色、口縫は黒褐色で上方へ立ち上がる。口唇は丸く、他の部分には内面に肥厚する。底浅。
									灰褐色 2.5Y4/1 2.5Y3/1 5Y7/2	
37	327	L-18	Ⅲd	土器部	鉢	13.5	7.2	13.7	—	褐色、口縫は黒褐色で上方へ立ち上がる。口唇は丸く、他の部分には内面に肥厚する。底浅。
									灰褐色 7.5YR6/3 7.5YR6/4 N4/	
37	328	L-13	Ⅲd	土器部	鉢	13.0	7.0	13.2	—	褐色、口縫は黒褐色で上方へ立ち上がる。口唇は丸く、他の部分には内面に肥厚する。底浅。
									灰褐色 2.5Y5/2 2.5Y5/2 7.5YR6/3	
L62-2		—		—		—		—		
37	329	L-17	Ⅲd	土器部	鉢	12.0	6.8	12.2	—	褐色、口縫は黒褐色で上方へ立ち上がる。口唇は丸く、他の部分には内面に肥厚する。底浅。
									灰褐色 5YR6/6 5YR6/6 5YR6/6	
37	330	L-18	Ⅲd	土器部	鉢	14.0	(8.4)	—	褐色、口縫は黒褐色で上方へ立ち上がる。口唇は丸く、他の部分には内面に肥厚する。底浅。	
									灰褐色 10YR5/3 10YR5/2 10Y6/1	
37	331	L-13	Ⅲd	土器部	鉢	13.2	(9.7)	14.0	—	褐色、口縫は黒褐色で上方へ立ち上がる。口唇は丸く、他の部分には内面に肥厚する。底浅。
									灰褐色 10YR6/2 2.5Y6/2 7.5YR6/2	
38	332	L-18	Ⅲd	土器部	鉢	11.8	9.0	(5.9)	—	口縫は黒褐色で上方へ立ち上がる。口唇は丸く、他の部分には内面に肥厚する。底浅。
									灰褐色 2.5Y6/2 5Y6/2 5Y4/1	
38	333	L-18	Ⅲd	土器部	鉢	11.0	9.8	(6.7)	10.4	口縫は黒褐色で上方へ立ち上がる。口唇は丸く、他の部分には内面に肥厚する。底浅。
									灰褐色 7.5YR6/4 10YR6/4 10Y6/1	
38	334	L-22	Ⅲd	土器部	鉢	—	—	—	—	口縫は黒褐色で上方へ立ち上がる。口唇は丸く、他の部分には内面に肥厚する。底浅。
									オリーブ墨 7.5Y3/1 2.5Y5/1 5Y3/1	
38	335	L-18	Ⅲd	土器部	鉢	11.8	(6.0)	—	—	口縫は黒褐色で上方へ立ち上がる。口唇は丸く、他の部分には内面に肥厚する。底浅。
									灰褐色 10YR6/3 2.5Y6/2 7.5Y4/1	
38	336	L-17	Ⅲd	土器部	鉢	9.7	12.3	11.1	—	口縫は黒褐色で上方へ立ち上がる。口唇は丸く、他の部分には内面に肥厚する。底浅。
									灰褐色 10YR6/2 10YR6/2 7.5Y5/1	
Hd2-3		—		—		—		—		
38	337	L-17	d-3	土器部	鉢	10.8	10.4	—	褐色、口縫は黒褐色で上方へ立ち上がる。口唇は丸く、他の部分には内面に肥厚する。底浅。	
									灰褐色 10YR6/3 10YR6/2 10YR6/2	
38	338	L-17	Ⅲd	土器部	鉢	15.9	(6.6)	—	—	口縫は黒褐色で上方へ立ち上がる。口唇は丸く、他の部分には内面に肥厚する。底浅。
									灰褐色 10YR5/3 10YR6/2 N3/	
38	339	L-13	Ⅲd	生土器	鉢	—	(3.9)	—	30	褐色で平底でやや凸面を成す。口縫は黒褐色で上方へ立ち上がる。口唇は丸く、他の部分には内面に肥厚する。底浅。
									灰褐色 SYR6-6 SYR6-6 10YR7/3	
38	340	L-17	Hd2	土器部	鉢	—	(8.7)	11.5	—	褐色で平底でやや凸面を成す。口縫は黒褐色で上方へ立ち上がる。口唇は丸く、他の部分には内面に肥厚する。底浅。
									灰褐色 10YR6/4 7.5YR5/3 5Y4/1	
38	341	L-18	Ⅲd	土器部	鉢	25.2	(11.0)	—	—	褐色、口縫は黒褐色で上方へ立ち上がる。口唇は丸く、他の部分には内面に肥厚する。底浅。
									灰褐色 10YR6/3 10YR6/3 5Y3/1	
38	342	L-17	Ⅲd	土器部	鉢	—	(5.4)	—	—	褐色、口縫は黒褐色で上方へ立ち上がる。口唇は丸く、他の部分には内面に肥厚する。底浅。
									灰褐色 10YR6/3 10YR6/3 5Y3/3	

表19 4 A区遺物觀察表17

《土器·土製品》

Fig	種類	出土地点	基準	断面	部数	法線 (cm)	特徴	色調			備考	
								L1	L2	L3		
38 343	L6-18	21	Ⅲd	土器部	鉢	底部	— (45)	—	灰底、粗粒土。	SYR7/8	SYR7/6	SYR7/6
							形状、山形山並みに外上方へ立ち上る。口唇は丸く侈めた形又は丸く切れる。口縁は肥厚し下位で凹入状を持つ。					
38 344	L6-13	13	Ⅲd	土器部	鉢	27.0	(14.9)	—	—	SYR6/6	SYR6/6	25Y5/1
							口縁は直線的に外上方方に立ち上る。口唇は丸く侈めた。腹部屈屈部はやや急、腹部部はやくねじ形とする。堆塑、外表面部が少位に堆塑する。					
38 345	L7.2	—	Ⅲd	陶生土器	鉢	底	— (27)	—	37.	SYR7/1	SYR7/2	N4/
							口縁は直線的に外上方方に立ち上る。口唇は丸く侈めた。腹部屈屈部はやや急、腹部部はやくねじ形とする。堆塑、外表面部が少位に堆塑する。					
39 346	L7.1	—	Ⅲd	土器部	鉢?	11.0	(9.5)	12.4	—	SYR6/3	SYR6/3	N3/
							山形山並みに外上方方に立ち上る。口唇は丸く侈めた。腹部屈屈部はやや急、腹部部はやくねじ形とする。					
39 347	L7.1	—	Ⅲd	土器部	鉢	13.6	10.5	12.6	—	SYR4/1	SYR4/1	25Y5/1
							口縁は直線から弧形的に外側に屈り外上方方に立ち上る。口唇は実り丸く侈めた。					
39 348	L6.7	—	Ⅲd	土器部	鉢?	13.0	(7.6)	13.6	—	SYR6/2	SYR6/2	N4/
							口縁は直線から弧形的に外上方方に立ち上る。口唇は丸く侈めた。					
39 349	L7.1	—	Ⅲd	土器部	鉢	19.2	13.9	—	—	SYR5/3	SYR6/4	SYR6/6
							口縁は直線から弧形的に外上方方に立ち上る。口唇は丸く侈めた。					
39 350	L6-21	21	Ⅲd	土器部	体?	口縁	18.8	(5.1)	19.2	SYR6/2	SYR6/2	10Y4/1
							山形山並みに外上方方に立ち上る。口唇は丸く侈めた。					
39 351	L6-22	—	Ⅲd - Ⅲd3	土器部	鉢?	14.6	(10.2)	17.2	—	SYR6/4	SYR6/4	25Y5/6
							口縁は直線から弧形的に外上方方に立ち上る。口唇は丸く侈めた。					
40 352	L6-21	—	Ⅲd	土器部	台付鉢?	— (27)	—	—	台付鉢又は?	SYR5/2	SYR5/1	10Y6/1
							腹部又はややくねじ形。口縁は直線から外方へ立ち上る。口唇は丸く侈めた。					
40 353	L6-18	—	Ⅲd	土器部	台付鉢	12.5	9.7	12.6	7.5	SYR6/6	SYR6/6	25Y5/1
40 354	L6-17 - 21	—	Ⅲb - Ⅲd	土器部	底	底	— (7.0)	—	底部直付	SYR5/1	SYR5/1	25Y5/1
40 355	—	—	I	土器部	瓶	底	— (3.7)	—	底部直付下位堆塑。	SYR4/1	SYR6/2	N3/
							底部直付下位にやや突起。中央に約8-12mmの円孔を埋在前。中央に約8-12mmの円孔を埋在前。					
40 356	—	—	Ⅲd	土器部	瓶?	底?	— (2.5)	—	16 窓?	SYR5/3	SYR5/3	10Y4/1
							瓶形、容量やや大。底部に約6mmの円孔を有す。口縁は内側に立てて上方に立ち上る。口唇は丸く侈めた又は丸く切れる。底付直付。					
40 357	L6.7	—	Ⅲd	土器部	鉢 (8)	13.9	7.1	14.2	—	SYR6/4	SYR6/4	25Y5/2
							口縁は直線から外上方方に立ち上る。口唇は丸く侈めた。					
40 358	L6-13	—	Ⅲd	土器部	鉢 (8)	14.0	10.4	14.3	—	SYR6/6	SYR6/6	—
							口縁は直線から外上方方に立ち上る。口唇は丸く侈めた。底部直付。					
40 359	L7.1	—	Ⅲd2	土器部	鉢 (8)	15.2	(10.0)	15.4	—	SYR5/2	SYR5/2	SYR5/1
							口縫は内壁に沿る。口唇は丸く侈めた。底部中央に約5mmの円孔を有す。					
40 360	L6-22	—	Ⅲd	土器部	鉢 (8)	13.2	9.1	—	—	SYR5/3	SYR5/4	25Y4/1
							口縫は内壁に沿る。口唇は丸く侈めた。底部直付。					
40 361	L6-13	—	Ⅲd	土器部	鉢 (8)	12.8	12.9	13.7	—	SYR5/4	SYR5/4	25Y5/1
							口縫は直線から外上方方に立ち上る。口唇は丸く侈めた。底部直付。					
41 362	L6-22	—	Ⅲd	土器部	甕	口縁	9.4	(4.3)	—	SYR6/3	SYR6/4	10Y3/2
							口縫は直線から外上方方に立ち上る。口唇は丸く侈めた。底部直付。					
41 363	L6.3	—	Ⅲd	土器部	甕	口縁	10.8	(3.5)	—	SYR5/3	SYR5/3	SY4/3

表20 4 A区遺物観察表18

(土器・土製品)

No.	遺物 名	出土地點 No.	層 号	断面	部位	法長(cm)	特徴	色調		備考
								内面	外面	
41 364 L6-22	Ⅲd 土師器	東	口縁	12.5	(50)	—	口縁は内側にして外上方に立ち上がる。口唇は頗る丸く侈める。面部は直角でやや厚。	7.5YR5/3	5YR6/6	N4/10Y5/1
41 365 L6-17	Ⅲd 土師器	東	口縁	11.8	(38)	—	口縁は直角的に外反して外上方に立ち上がる。口唇は外輪する面又は平史の底だらん成し外輪に肥はす。面部直角でやや厚。外輪口縁は直角でやや厚。	7.5YR4/3	7.5YR5/3	5Y4/
41 366 L6-18	Ⅲd 土師器	東	口縁	9.8	(50)	—	口縁は直角的に外上方へ立ち上がる。口唇は丸く侈める。面部直角でやや厚。外輪口縁は直角でやや厚。面部直角上位の一部に肥付有。	7.5YR6/2	5YR7/4	7.5Y4/1
41 367 L6-22	Ⅲd 土師器	東	口縁	12.6	(64)	—	口縁は直角的に外上方に立ち上がる。口唇は平らな面を有す。面部直角でやや厚。外輪口縁に肥付有。	7.5YR5/3	10YR5/2	N3/
41 368 L6-17	Ⅲd 土師器	東	口縁	12.2	(54)	—	口縁は直角的に外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く侈める。面部直角でやや厚。	5YR6/4	5YR7/3	10YR4/1
41 369 L7-1	Ⅲd 土師器	東	口縁	11.2	(64)	106	口縁は直角的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く侈める。面部直角でやや厚。外輪口縁を有する。面部直角上位に肥付有。	5YR7/6	7.5YR6/4	N6/
41 370 L6-8	Ⅲd 土師器	東	口縁	11.2	(25)	—	口縁と外輪口縁に肥付有。	N3/	N2/	オリーブ黒 SYR1/
41 371 L7-6	Ⅲd 土師器	東	口縁	—	(53)	—	口縁は直角的に外上方に立ち上がる。口唇は直角でやや厚。	25Y5/1	7.5YR4/4	25Y7/2
41 372 L6-22	Ⅲd 土師器	東	口縁	9.0	(42)	—	口縁は直角的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く侈める。面部直角でやや厚。	7.5YR5/3	25Y5/3	N5/
41 373 L7-1	Ⅲb-Ⅲd 土師器	東	刷	—	(80)	11.0	口縁は直角的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く侈める。面部直角でやや厚。外輪口縁が小窪の外輪側面中央部に肥付有。	7.5YR5/3	10YR5/3	7.5Y5/1
41 374 L6-17	Ⅲd 土師器	東	口縁	12.8	(39)	—	口縁は直角的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く侈める。面部直角でやや厚。外輪口縁に肥付有。	7.5YR6/2	10YR5/2	N4/
41 375 L6-13	Ⅲd 土師器	東	口縁	9.4	(61)	—	圓形の直角丸頭土器。口縁は直角で外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く侈める。面部直角でやや厚。	10YR4/1	10YR3/1	7.5Y4/1
41 376 L6-18	Ⅲd 土師器	要?	口縁	11.2	(53)	95	口縁は直角的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く侈める。面部直角でやや厚。	5YR5/4	7.5YR6/3	N3/
41 377 L6-22	Ⅲd 土師器	東	口縁	11.8	(26)	—	口縁は直角にして外上方に立ち上がる。口唇は丸く侈める。面部直角でやや厚。外輪口縁に肥付有。	10YR6/3	10YR6/3	7.5Y5/1
41 378 L6-22	Ⅲd 土師器	東	口縁	11.2	(34)	—	口縁は直角的に外上方に立ち上がる。口唇は外輪する面を有す。面部直角でやや厚。	10YR5/3	10YR5/3	N4/
41 379 L6-13	Ⅲd 土師器	東	口縁	—	(21)	—	口縁は直角的に外上方に立ち上がる。口唇は直角でやや厚。	7.5YR6/4	5YR6/6	N4/
41 380 L7-2	Ⅲd 土師器	東	口縁	13.4	(126)	154	口縁は直角的に外上方に立ち上がる。口唇は直角でやや厚。	7.5Y5/1	5YR6/4	7.5Y4/1
42 381 L6-17	Ⅲd 土師器	東	—	14.4	(118)	164	口縁は直角的に外上方に立ち上がる。口唇は外輪する面を有す。外輪にやや肥付する。面部直角でやや厚。	5Y4/1	7.5Y6/4	5Y4/1
42 382 L6-18	Ⅲd 土師器	東	—	11.3	(98)	147	口縁は直角的に外上方に立ち上がる。口唇は直角でやや厚。	10YR6/3	10YR5/3	7.5Y5/1
42 383 L6-22	Ⅲd 土師器	東	—	12.3	(95)	154	口縁は直角的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く侈める。面部直角でやや厚。	10YR6/2	10YR6/2	N4/
42 384 L7-1-6	Ⅲd-Ⅲd.3 土師器	東	口縁	13.6	(113)	156	口縁は直角的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く侈める。面部直角でやや厚。	25Y5/2	25Y5/2	10G5/1

表21 4 A区遺物觀察表19

《土器・土製品》

Fig.	遺物	出土地点	西標	器形	部位	法面 (cm)	特徴	色調		備考		
								内面	外面			
42	385	1.6-18	II-d	土器部	裏	口縁	14.6 (11.0)	—	—	口縁は裏外反して外上方に立ち上がる。口縁は丸味を持つて外縁とする面を有す。頭部周縁はやや急。頭部周縁はやや緩。外縁に付付番。	10YR6/4 10YR6/4	DYR6/4 SY4/1
42	386	L6-17-18 ·22	Ed3	土器部	裏	口縁	17.2 (12.6)	18.8	—	口縁は裏外反して外上方に立ち上がる。口縁は外縁とする平らな面を成し一部で外縁に付厚する。頭部周縁はやや急。頭部周縁はやや緩。外縫部の中段に口縫付付番。	10YR6/3 10YR6/3	DYR6/3 25Y5/1
42	387	1.6-22	Ed3	土器部	裏	口縁	17.8 (14.2)	20.0	—	口縁はやや内傾して外上方に立ち上がる。口縁は丸味を持つて外縁とする面を成す。頭部周縁はやや急。外縫部の中段に口縫付付番。	7.5YR5/2 7.5YR5/1	7.5YR6/4 7.5YR6/4
43	388	1.6-8	II-d	土器部	裏	—	13.2 (22.9)	20.4	—	口縁は裏外反して外上方に立ち上がる。口縁は外縁とする面を成す。頭部周縁はやや急。外縫部の中段に口縫付付番。	10YR5/4 10YR5/4	DYR6/4 25Y5/1
43	389	L6-17-18 ·22-23	Ed3	土器部	裏	—	14.1 (23.6)	20.6	—	口縁は裏外反して外上方に立ち上がる。口縁は丸味を持つて外縁とする面を成す。頭部周縁はやや急。外縫部の中段に口縫付付番。	7.5YR6/4 7.5YR6/4	DYR6/4 N4/
43	390	L6-13-17 ·18	II-d	土器部	裏	—	14.4 (20.2)	20.2 (27.7)	—	口縁は裏外反して外上方に立ち上がる。口縁は丸味を持つて外縁とする面を成す。頭部周縁はやや急。頭部周縁は丸味。外縫部の中段に口縫付付番。	10YR6/1 10YR6/1	DYR6/1 25Y5/1
43	391	1.6-22	II-d	土器部	裏	—	13.6 (19.6)	16.2	—	口縁は裏外反して外上方に立ち上がる。口縁は外縁とする面を成す。頭部周縁はやや急。頭部周縁は丸味。外縫部の中段に口縫付付番。	10YR5/2 10YR3/1	DYR6/1 SY5/1
43	392	1.6-18	II-d	土器部	裏	—	13.2 (17.5)	17.5	—	口縁は裏外反して外上方に立ち上がる。口縁は外縁とする面を成す。頭部周縁はやや急。頭部周縁は丸味。外縫部の中段に口縫付付番。	SYR6/6 SYR6/6	7.5YR4/3 7.5YR7/4
44	393	1.7-1	II-d	土器部	裏	—	11.3 (36.6)	14.7	—	口縁は裏外反して外上方に立ち上がる。口縁は外縁とする面を成す。頭部周縁はやや急。頭部周縁は丸味。外縫部の中段に口縫付付番。	10YR3/1 10YR3/1	DYR5/4 SY4/1
44	394	1.6-17	II-d	土器部	裏	—	12.9 (22.2)	18.8	—	口縁は裏外反して外上方に立ち上がる。口縁は外縁とする面を成す。頭部周縁はやや急。頭部周縁は丸味。外縫部の中段に口縫付付番。	25Y3/1 25Y3/1	DYR5/6 N4/
44	395	1.6-22	II-d	土器部	裏	—	12.1 (15.3)	14.5	—	口縁は裏外反して外上方に立ち上がる。口縁は外縁とする面を成す。頭部周縁はやや急。頭部周縁は丸味。外縫部の中段に口縫付付番。	7.5YR6/4 7.5YR6/4	7.5YR7/2 10YR7/2
44	396	1.6-22	II-b · II-d	土器部	裏	—	15.5 (39.8)	20.6	—	口縁は裏外反して外上方に立ち上がる。口縁は丸味を持つて外縁とする面を成す。頭部周縁はやや急。頭部周縁は丸味。外縫部の中段に口縫付付番。	10YR5/4 10YR5/4	DYR5/4 7.5YR5/4
44	397	1.6-22	II-d	土器部	裏	—	15.0 (24.8)	20.1	—	口縁は裏外反して外上方に立ち上がる。口縁は外縁とする面を成す。頭部周縁はやや急。頭部周縁は丸味。外縫部の中段に口縫付付番。	10YR5/3 10YR5/3	DYR5/2 7.5YR5/4
45	398	1.6-8	II-d	土器部	裏	—	14.4 (22.8)	21.6	—	口縁は裏外反して外上方に立ち上がる。口縁は外縁とする面を成す。頭部周縁はやや急。頭部周縁は丸味。外縫部の中段に口縫付付番。	10YR5/2 10YR5/2	DYR5/3 7.5YR4/3
45	399	1.6-13	II-d	土器部	裏	—	16.2 (25.5)	21.7	—	口縁は裏外反して外上方に立ち上がる。口縁は外縁とする面を成す。頭部周縁はやや急。頭部周縁は丸味。外縫部の中段に口縫付付番。	10YR6/3 10YR6/3	DYR5/4 SY5/1
45	400	L6-17-18 ·22	Ed3	土器部	裏	—	14.6 (19.3)	16.4	—	口縁は裏外反して外上方に立ち上がる。口縁は丸味を持つて外縁とする面を成す。頭部周縁はやや急。頭部周縁は丸味。外縫部の中段に口縫付付番。	10YR6/3 10YR6/3	DYR6/3 SY5/1
45	401	L6-13-18	II-d	土器部	裏	—	15.0 (15.8)	18.9	—	口縁は裏外反して外上方に立ち上がる。口縁は外縁とする面を成す。頭部周縁はやや急。頭部周縁は丸味。外縫部の中段に口縫付付番。	SYR5/4 SYR5/4	7.5YR5/4 SY5/1
45	402	K7-30	II-d	土器部	裏	—	15.2 (17.9)	17.0	—	口縁は裏外反して外上方に立ち上がる。口縁は外縁とする面を成す。頭部周縁はやや急。頭部周縁は丸味。外縫部の中段に口縫付付番。	10YR5/2 10YR5/2	DYR5/1 N4/
46	403	L6-17-18	Ed3	土器部	裏	—	15.8 (23.3)	20.4	—	口縁は裏外反して外上方に立ち上がる。口縁は外縁とする面を成す。頭部周縁はやや急。頭部周縁は丸味。外縫部の中段に口縫付付番。	10YR5/2 10YR5/2	DYR5/3 N5/

表22 4 A区遺物観察表20

(土器・土製品)

No.	遺物 名	出土地點 No.	層 号	断面 形	部位	計量 (cm)	特徴	色調		備考
								内面	外面	
45 404	L6-17・18	II d - III	土師器	裏	148	24.0	206	—	—	—
								口縁は破れ外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く侈る。面部裏面はやや急。側部はやや直角形。内面裏面と外縁に擦り痕有。	にぶい褐色	にぶい黃褐色
46 405	L5-1	II b - II d	土師器	裏	12.0	16.2	14.6	—	—	—
								口縁は破れ外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く侈る。面部裏面はやや急。側部はやや直角形。内面裏面と外縁に擦り痕有。	にぶい褐色	にぶい黃褐色
46 406	L6-18	III d	土師器	裏	14.6	(21.7)	185	—	—	—
								口縁は破れ外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く侈める。面部裏面はやや急。側部はやや直角形。内面裏面と外縁に擦り痕有。	にぶい褐色	にぶい黃褐色
46 407	L6-22	III d	土師器	裏	13.8	19.2	171	—	—	—
								口縁は破れ外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く侈める。面部裏面はやや急。側部はやや直角形。内面裏面と外縁に擦り痕有。	にぶい褐色	にぶい黃褐色
47 408	L7-12	II d - III d-3	土師器	裏?	13.2	(16.0)	180	—	—	—
								口縁は破れ外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く侈める。面部裏面はやや急。側部はやや直角形。内面裏面と外縁に擦り痕有。	にぶい褐色	にぶい黃褐色
47 409	L6-17・22	II b - II d	土師器	裏	14.7	29.4	269	—	—	—
								口縁は破れ外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く侈める。面部裏面はやや急。側部はやや直角形。内面裏面と外縁に擦り痕有。	にぶい褐色	にぶい黃褐色
48 410	L6-22	II d - III d-3	土師器	裏	15.4	(22.6)	203	—	—	—
								口縁は破れ外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く侈める。面部裏面はやや急。側部はやや直角形。内面裏面と外縁に擦り痕有。	にぶい褐色	にぶい黃褐色
48 411	L6-13	III d	土師器	裏	16.0	24.1	213	—	—	—
								中横に二縫を有する。口縁は丸く侈める。面部裏面はやや急。側部はやや直角形。内面裏面と外縁に擦り痕有。	褐色	褐色
48 412	L6-17・18	III d	土師器	裏	15.6	(18.0)	211	—	—	—
								口縁は破れ外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く侈める。面部裏面はやや急。側部はやや直角形。内面裏面と外縁に擦り痕有。	暗赤褐色	褐色
48 413	L6-13	III d	土師器	裏	15.3	21.9	190	—	—	—
								口縁は破れ外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く侈める。面部裏面はやや急。側部はやや直角形。内面裏面と外縁に擦り痕有。	褐色	褐色
49 414	L6-7・8	III d	土師器	裏	14.8	(14.9)	170	—	—	—
								口縁は破れ外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く侈める。面部裏面はやや急。側部はやや直角形。内面裏面と外縁に擦り痕有。	にぶい褐色	褐色
49 415	L6-18	III d	土師器	裏	13.4	(15.6)	150	—	—	—
								口縁は破れ外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く侈める。面部裏面はやや急。側部はやや直角形。内面裏面と外縁に擦り痕有。	にぶい褐色	にぶい褐色
49 416	L6-17・18	II d - III d-3	土師器	裏	13.7	(16.7)	174	—	—	—
								口縁は破れ外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く侈める。面部裏面はやや急。側部はやや直角形。内面裏面と外縁に擦り痕有。	にぶい褐色	褐色
50 420	L6-17・18	II b - III d-3	土師器	裏	13.8	(17.1)	167	—	—	—
								口縁は破れ外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く侈める。面部裏面はやや急。側部はやや直角形。内面裏面と外縁に擦り痕有。	にぶい褐色	褐色
50 421	L6-22	II b - III d	土師器	裏	14.4	(16.7)	161	—	—	—
								口縁は破れ外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く侈める。面部裏面はやや急。側部はやや直角形。内面裏面と外縁に擦り痕有。	灰褐色	灰褐色
50 422	L6-17・18	II d - III d-3	土師器	裏	14.3	18.3	161	—	—	—
								口縁は破れ外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く侈める。面部裏面はやや急。側部はやや直角形。内面裏面と外縁に擦り痕有。	にぶい褐色	明赤褐色

表23 4 A区遺物觀察表21

(土器・土製品)

No.	遺物	出土地点	西標	器形	部位	法縫 (cm)	特徴	色調		参考	
								内面	外側		
30 423	L6-17・22	IIb・IIId	土器部	要	—	15.3 18.2 18.1	—	山腹は最もくびかる。口唇は突り尖る。底部はやや尖る。側部は理屈。内部底盤と外側側部少し空き部に厚壁有。	灰 7.5YR5/4	灰 7.5YR5/3	N6/
30 424	L6-13	IIb	土器部	要	—	14.8 21.7 20.0	—	山腹は外反して外唇上方に立ち上がる。口唇は突り尖る。底部は丸く尖る。側部は理屈。内部底盤と外側側部少し空き部に厚壁有。	灰 10YR6/4	灰 10YR5/2	灰 10YR5/1
30 425	L7-1	IIb	土器部	要	—	15.4 21.1 19.9	—	山腹は直線的に外唇上方に立ち上がる。口唇は尖り気味に丸く尖る。側部は理屈。内部底盤と外側側部少し空き部に厚壁有。	灰 7.5YR6/4	灰 7.5YR6/4	N4/
31 426	L6-17・22	IIb	土器部	要	—	19.0 22.4 22.5	—	山腹は直線的に外唇上方に立ち上がる。口唇は突り尖る。底部は理屈。内部底盤と外側側部少し空き部に厚壁有。	灰 10YR4/2	灰 7.5YR5/4	25Y7/1
31 427	L6-17・18	IId・IIId	土器部	要	—	13.2 (36.2) 17.4	—	山腹は直線的に外唇上方に立ち上がる。口唇は尖り気味に丸く尖る。側部は理屈。内部底盤と外側側部少し空き部に厚壁有。	灰 25Y7/2	灰 25Y7/3	5Y3/1
31 428	L6-18	IIb	土器部	要	—	16.0 (11.9) 19.6	—	山腹は内面理屈に外上方に立ち上がる。口唇は丸く尖る。底部は理屈。内部底盤と外側側部少し空き部に厚壁有。	灰 7.5YR6/4	灰 7.5YR6/4	5Y5/1
32 429	L6-8	IId	土器部	要	—	15.3 (23.5) 20.6	—	山腹は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く尖る。側部は理屈。内部底盤と外側側部少し空き部に厚壁有。	灰 25Y4/1	灰 25Y5/1	5Y5/1
32 430	L6-22	IId・IIId	土器部	要	—	8.4 20.6 20.3	—	山腹は直線的に外上方に立ち上がる。側部は理屈。内部底盤と外側側部少し空き部に厚壁有。	灰 7.5YR6/4	灰 7.5YR7/6	10Y4/1
32 431	L6-18	IIb	土器部	要	削	— (4.3)	—	山腹は直線的に外上方に立ち上がる。側部は理屈。内部底盤と外側側部少し空き部に厚壁有。	灰 10YR6/3	灰 5YR7/6	N4/
32 432	L6-18	IIb	土器部	要	—	16.1 18.1 15.0	—	山腹は直線的に外上方に立ち上がる。側部は理屈。内部底盤と外側側部少し空き部に厚壁有。	灰 7.5YR5/3	灰 7.5YR5/2	10YR6/3
32 433	L6-17・18	IIb	土器部	要	削	— (36.9)	19.4	山腹は直線的に外上方に立ち上がる。側部は理屈。内部底盤と外側側部少し空き部に厚壁有。	灰 10YR6/4	灰 5YR6/4	5Y4/1
33 434	L6-22	IId	土器部	要	—	11.2 13.3 12.5	—	山腹は直線的に外上方に立ち上がる。側部は理屈。内部底盤と外側側部少し空き部に厚壁有。	灰 25Y6/3	灰 10YR5/2	7.5Y4/1
33 435	L7-1	IId・IIId	土器部	要	—	11.3 15.1 13.2	—	山腹は直線的に外上方に立ち上がる。側部は理屈。内部底盤と外側側部少し空き部に厚壁有。	灰 10YR6/4	灰 5YR5/2	7.5Y5/4
33 436	L6-23	IIb	土器部	要	—	12.0 16.3 14.5	—	山腹は直線的に外上方に立ち上がる。側部は理屈。内部底盤と外側側部少し空き部に厚壁有。	灰 10YR6/3	灰 10YR6/3	7.5Y5/1
33 437	L6-22・L7-1	IIb	土器部	要	—	11.1 15.8 11.6	—	山腹は直線的に外上方に立ち上がる。側部は理屈。内部底盤と外側側部少し空き部に厚壁有。	灰 10YR6/3	灰 10YR6/3	10YR7/3
33 438	L7-1	IIb・IIId	土器部	要	—	13.2 (12.8) 16.0	—	山腹は直線的に外上方に立ち上がる。側部は理屈。内部底盤と外側側部少し空き部に厚壁有。	灰 10YR5/3	灰 10YR5/3	5Y5/1
33 439	L7-1	IIb	土器部	要	—	12.4 (10.7) 15.2	—	山腹は直線的に外上方に立ち上がる。側部は理屈。内部底盤と外側側部少し空き部に厚壁有。	灰 10YR5/2	灰 10YR4/1	25Y5/1
33 440	L6-17・22	IIb・IIId	土器部	要	—	14.5 (20.3) 19.2	—	山腹は外反する。口唇は丸く尖る。側部は理屈。内部底盤と外側側部少し空き部に厚壁有。	灰 10YR4/2	灰 10YR5/2	N5/
33 441	L7-1	IIb・IIId	土器部	要	—	16.4 (22.5) 23.1	—	山腹は外反する。口唇は丸く尖る。側部は理屈。内部底盤と外側側部少し空き部に厚壁有。	灰 10YR5/1	灰 7.5YR5/6	N4/
34 442	L7-1	IIb・IIId	土器部	要	—	17.3 26.3 25.6	—	山腹は外反する。口唇は丸く尖る。側部は理屈。内部底盤と外側側部少し空き部に厚壁有。	灰 10YR6/3	灰 10YR6/3	5Y4/1
34 443	L6-17・22	IIb・IIId	土器部	要	—	7.3 (20.9) 24.2	—	山腹は外反する。口唇は丸く尖る。側部は理屈。内部底盤と外側側部少し空き部に厚壁有。	灰 10YR5/1	灰 10YR5/2	5Y5/1

表24 4 A区遺物観察表22

(土器・土製品)

Fig. No.	遺物 名	出土地點 No.	層 級	断面 形	部位	法長(cm) 13層 断面 側注 底注	特徴	色調		備考	
								内面	外面		
55 444	L6-17	Ⅲd	土師器	裏	15.8 (19.3)	211	口縁は留出から連続的に外反する。 口部は丸く移れる。外側削割 中位以上に複数有る。	灰黒褐 10YR8/2	褐灰 10YR5/1	灰 5Y5/1	
55 445	L7-1	Ⅲd	土師器	裏	12.3	19.7	19.1	断面部から口縁が連續的に外反して 外上方に立ち上がる。 口部は丸く 移める一部では外側に肥厚する。側 部無理。	灰黒褐 10YR8/2	灰褐 10YR5/3	灰 7.5Y4/1
55 446	L6-17・23	Ⅲd	土師器	裏	13.0 (9.1)	160	口縁は丸く移る。 口部は丸く 移れる。部分は丸く 盛り高くなる。 口部は丸く移れる。断面部は丸く 盛り高くなる。	褐灰 10YR5/1	灰 10YR5/2	黄灰 5Y4/1	
55 447	L7-1	Ⅲb	土師器	裏	16.1	32.2	26.4	口縁は直線的に外上方に立ち上 がる。 口部は丸く移れる。断面部は丸 く盛り高くなる。 口部は丸く移れる。側部削割 に肥厚する。側部削曲はやや急。	灰 5Y4/1	灰 7.5YR8/4	灰 N5
55 448	L6-22	Ⅲd	土師器	裏	13.4	(27)	口縁は直線的に外上方に立ち上 がる。 口部は丸く移れる。断面部は丸 く盛り高くなる。 口部は丸く移れる。側部削曲 に肥厚する。側部削曲はやや急。	灰 10YR8/2	灰 10YR8/4	灰 N4	
56 449	L7-6	Ⅲd	土師器	裏	14.3	(36)	口縁は直線的に外上方に立ち上 がる。 口部は丸く移れる。断面部は丸 く盛り高くなる。 口部は丸く移れる。側部削曲 に肥厚する。側部削曲はやや急。	灰 10YR7/3	灰 10YR7/3	灰 5Y6/1	
56 450	L6-8	Ⅲd	洛牛山型	裏	口縫	12.0 (6.3)	—	口縁は直線的に外上方に立ち上 がる。 口部は丸く移れる。断面部は丸 く盛り高くなる。 口部は丸く移れる。側部削曲 に肥厚する。側部削曲はやや急。	褐 2.5YR6/8	明褐色 2.5YR5-6	灰 5Y4/1
56 451	L6-13	Ⅲd	土師器	裏	口縫	15.0 (4.0)	—	口縁は直線的に外上方に立ち上 がる。 口部は丸く移れる。断面部は丸 く盛り高くなる。 口部は丸く移れる。側部削曲 に肥厚する。側部削曲はやや急。	灰 10YR7/2	灰 5YR6/4	灰 N5
56 452	L7-1	Ⅲd	土師器	裏	口縫	13.6 (2.4)	—	口縁は直線的に外上方に立ち上 がる。 口部は丸く移れる。断面部は丸 く盛り高くなる。 口部は丸く移れる。側部削曲 に肥厚する。側部削曲はやや急。	灰 10YR8/3	灰 10YR8/3	黄灰 5Y6/1
56 453	L6-18	Ⅲd	土師器	裏	口縫	15.0 (2.7)	—	口縁は直線的に外上方に立ち上 がる。 口部は丸く移れる。断面部は丸 く盛り高くなる。 口部は丸く移れる。側部削曲 に肥厚する。側部削曲はやや急。	褐 5YR6/6	褐 7.5YR7/6	灰 7.5Y4/1
56 454	L6-17・22 Ⅱd・Ⅲd-3	土師器	裏	口縫	13.9 (13.9)	168	口縁は直線的に外上方に立ち上 がる。 口部は丸く移れる。断面部は丸 く盛り高くなる。 口部は丸く移れる。側部削曲 に肥厚する。側部削曲はやや急。	灰 10YR5/2	黑 5Y2/1	灰 5Y5/1	
56 455	L6-23	Ⅲd	土師器	裏	口縫	13.4 (3.0)	—	口縁は直線的に外上方に立ち上 がる。 口部は丸く移れる。断面部は丸 く盛り高くなる。 口部は丸く移れる。側部削曲 に肥厚する。側部削曲はやや急。	灰 5YR6/3	明褐色 5YR6/4	明褐色 5YR7/6
56 456	L6-22	Ⅲd	土師器	裏	口縫	14.4 (4.6)	—	口縁は丸く外反して外上方に立 ち上がる。 口部は丸く移れる。断面部は丸 く盛り高くなる。 口部は丸く移れる。側部削曲 に肥厚する。側部削曲はやや急。	灰 10YR5/2	灰 10YR5/3	灰 5Y5/1
56 457	L6-18	Ⅲd	土師器	裏	口縫	17.0 (9.1)	—	口縁は直線的に外上方に立ち上 がる。 口部は丸く移れる。断面部は丸 く盛り高くなる。 口部は丸く移れる。側部削曲 に肥厚する。側部削曲はやや急。	灰 2.5YR7/2	灰 2.5YR7/2	灰 5Y6/1
56 458	L6-8	Ⅲd	土師器	裏	口縫	13.3 (5.3)	—	口縁は直線的に外上方に立ち上 がる。 口部は丸く移れる。断面部は丸 く盛り高くなる。 口部は丸く移れる。側部削曲 に肥厚する。側部削曲はやや急。	灰 10YR3/2	灰 7.5YR5/2	灰 N4
56 459	L6-2	Ⅲd	土師器	裏	口縫	13.3 (5.7)	—	口縁は直線的に外上方に立ち上 がる。 口部は丸く移れる。断面部は丸 く盛り高くなる。 口部は丸く移れる。側部削曲 に肥厚する。側部削曲はやや急。	灰 10YR5/2	灰 10YR5/2	灰 10Y4/1
57 460	L6-18	Ⅲd	土師器	裏	口縫	15.8 (7.2)	—	口縁は直線的に外上方に立ち上 がる。 口部は丸く移れる。内側 前面削付有る。	灰 10YR5/3	黑褐 10YR3/1	灰 5Y4/1
57 461	L6-22	Ⅲd	土師器	裏	口縫	14.5 (3.8)	—	口縁は直線的に外上方に立ち上 がる。 口部は丸く移れる。内側 前面削付有る。	灰 5Y4/1	灰 7.5Y5/3	灰 5Y2/1
57 462	L6-22	Ⅲd	土師器	裏	口縫	17.0 (2.6)	—	口縁は直線的に外上方に立ち上 がる。 口部は丸く移れる。内側 前面削付有る。	灰 10YR2/4	灰 10YR5/6	灰 7.5Y4/1
57 463	L6-13	Ⅲd	土師器	裏	口縫	11.0 (8.1)	—	口縁は直線的に外上方に立ち上 がる。 口部は丸く移れる。内側 前面削付有る。	灰 10YR8/2	灰 10YR4/1	オリーブ灰 7.5Y3/1
57 464	L7-12	Ⅲd-2	土師器	裏	口縫	13.9 (5.4)	—	口縁は直線的に外上方に立ち上 がる。 口部は丸く移れる。断面部は丸 く盛り高くなる。 断面部は丸く盛り高くなる。	明褐色 7.5YR7/2	浅黃褐 5YR7/4	浅黃褐 7.5YR8/4

表25 4 A区遺物觀察表23

《土器・土製品》

No.	遺物	出土地点	器種	器形	部位	法縫 (cm)	剖面	内面	外側	参考			
								グリット	層	参考			
37 465	1.6-17	E.d - E.d3	土器	壺	口縫	16.0 (50)	-	-	口縫は直面的外上方に立ち上がる。口唇は丸く外側に膨らむ。面部屈曲はやや急。内面面口縫一部に埋付着。	黄灰 25Y5/1	暗灰黃 25Y5/2	黄灰 25Y4/1	
37 466	1.7-2	E.b - E.d	土器	壺	口縫	17.8 (52)	-	-	口縫は直面的外上方に立ち上がる。面部屈曲はやや急。内面面口縫一部に埋付着。	赤褐 25YR5/6	紅 25YR5/3	オーリーブ黒 5Y3/1	
37 467	1.6-33	E.d	土器	壺	口縫	17.2 (35)	-	-	口縫は直面的外上方に立ち上がる。面部屈曲はやや急。内面面口縫一部に埋付着。	褐灰 10YR4/1	紅 10YR5/2	灰	
37 468	1.6-22	E.d	土器	壺	口縫	16.7 (42)	-	-	口縫は直面的外上方に立ち上がる。口唇は丸く外側に膨らむ。面部屈曲はやや急。内面面口縫一部に埋付着。	灰 10YR6/3	黑 N2	灰 75VB6/3	
37 469	1.6-22	E.d3	土器	壺	口縫	16.8 (92)	17.4	-	口縫は直面的外上方に立ち上がる。口唇は丸く外側に膨らむ。面部屈曲はやや急。内面面口縫一部に埋付着。	灰 10YR6/3	灰 75YR6/4	灰 75VB6/3	
37 470	1.6-7	E.b	土器	壺	口縫	17.1 (48)	-	-	口縫は直面的外上方に立ち上がる。口唇は丸く外側に膨らむ。面部屈曲はやや急。内面面口縫一部に埋付着。	オリーブ黒 5Y3/1	黑 5Y2/1	灰 513/1	
37 471	1.6-17	E.d	土器	壺	口縫	17.1 (32)	-	-	口縫は直面的外上方に立ち上がる。口唇は丸く外側に膨らむ。面部屈曲はやや急。内面面口縫一部に埋付着。	灰 10YR6/3	灰 10YR6/3	灰 75Y5/1	
L6.13 - 17		E.18 - 22		E.d	土器	壺	13.6 (112)	-	-	口縫は直面的外上方に立ち上がる。口唇は丸く外側に膨らむ。面部屈曲はやや急。内面面口縫一部に埋付着。	灰 75YR5/3	灰 10YR6/2	灰 10YR6/2 輸入品
37 472	1.6-22	E.b	土器	壺	口縫	17.0 (33.0)	17.6	-	口縫は直面的外上方に立ち上がる。口唇は丸く外側に膨らむ。面部屈曲はやや急。内面面口縫一部に埋付着。	灰 10YR6/2	灰 10YR6/2	灰 10YR6/2	
37 473	1.6-22	E.b	土器	壺	口縫	21.6 (93)	-	-	口縫は直面的外上方に立ち上がる。口唇は丸く外側に膨らむ。面部屈曲はやや急。内面面口縫一部に埋付着。	灰 10YR6/2	灰 10YR6/2	灰 10YR6/2	
37 474	1.6-23	E.d	土器	壺	口縫	21.6 (93)	-	-	口縫は直面的外上方に立ち上がる。口唇は丸く外側に膨らむ。面部屈曲はやや急。内面面口縫一部に埋付着。	灰 25Y7/2	灰 10YR6/3	灰 5Y6/1	
38 475	1.6-22	E.b	土器	壺	口縫	12.8 (32)	-	-	口縫は直面的外上方に立ち上がる。口唇は丸く外側に膨らむ。面部屈曲はやや急。内面面口縫部分と外側口縫部分に埋付着。	灰 75YR6/3	灰 75YR6/1	灰 10Y6/1	
38 476	1.7-1	E.d3	土器	壺	口縫	16.0 (28)	-	-	口縫は直面的外上方に立ち上がる。口唇は丸く外側に膨らむ。面部屈曲はやや急。内面面口縫部分と外側口縫部分に埋付着。	灰 10YR6/3	灰 10YR6/3	灰 5Y5/1	
38 477	1.6-8	E.b	土器?	壺	口縫	14.4 (50)	-	-	口縫は直面的外上方に立ち上がる。口唇は丸く外側に膨らむ。面部屈曲はやや急。内面面口縫部分に埋付着。	黑褐 10YR1/1	灰 10YR4/2	灰 25Y5/1 共生後期 土器	
38 478	1.6-23	E.b	土器	壺	口縫	16.2 (24)	-	-	口縫は直面的外上方に立ち上がる。口唇は丸く外側に膨らむ。面部屈曲はやや急。内面面口縫部分に埋付着。	灰 10YR5/3	灰 10YR5/3	灰 10YR6/3	
38 479	1.6-22	E.b	土器	壺	口縫	12.9 (52)	-	-	口縫は直面的外上方に立ち上がる。口唇は丸く外側に膨らむ。面部屈曲はやや急。内面面口縫部分に埋付着。	黄灰 25Y5/1	暗灰 N3	オーリーブ黒 5Y3/1	
38 480	1.6-22	E.d2	土器	壺	口縫	15.0 (57)	-	-	口縫は直面的外上方に立ち上がる。口唇は丸く外側に膨らむ。面部屈曲はやや急。内面面口縫部分に埋付着。	灰 10YR6/3	灰 10YR6/3	灰 10Y4/1	
38 481	1.6-18	E.b	土器	壺	口縫	15.2 (34)	-	-	口縫は直面的外上方に立ち上がる。口唇は丸く外側に膨らむ。面部屈曲はやや急。内面面口縫部分に埋付着。	褐灰 25Y4/2	褐 25Y5/3	灰 N5/	
38 482	1.6-7	E.d	土器	壺	口縫	16.2 (27)	-	-	口縫は直面的外上方に立ち上がる。口唇は丸く外側に膨らむ。面部屈曲はやや急。内面面口縫部分に埋付着。	褐 5YR6/6	褐 10YR5/2	灰 5Y5/1	
38 483	1.6-13	E.b	土器	壺	口縫	16.1 (116)	-	-	口縫は直面的外上方に立ち上がる。口唇は丸く外側に膨らむ。面部屈曲はやや急。内面面口縫部分に埋付着。	褐 75YR2/6	褐 5YR5/4	灰 3Y4/1	
38 484	1.6-22	E.d	土器	壺	口縫	16.8 (48)	-	-	口縫は直面的外上方に立ち上がる。口唇は丸く外側に膨らむ。面部屈曲はやや急。内面面口縫部分に埋付着。	褐 10YR4/1	褐 5YR7/6	灰 5Y5/1	
38 485	1.6-13	E.b	土器	壺	口縫	17.4 (38)	-	-	口縫は直面的外上方に立ち上がる。口唇は丸く外側に膨らむ。面部屈曲はやや急。内面面口縫部分に埋付着。	褐 5YR6/6	褐 5YR6/6	褐 5YG7/6	

表26 4 A区遺物観察表24

(土器・土製品)

No.	遺物 名	出土地點 No.	アリヤ' 番	面種	唇形	部位	法安 (cm)	特徴	色調		備考	
									内面	外面		
58 486 L6-17-22	口縁	Ⅲ-4	土師器	裏	口縁	15.0	(8.4)	—	口縁は強く外反する。口唇は尖り、 気味はなく艶ある。面部底面は急、 外側に倒付着。	灰黒褐	に赤い褐	灰
58 487 L7-1	口縁	Ⅲ-4	土師器	裏	口縁	17.4	(5.4)	—	口縁は反して外上方に立ち上がる。 口唇は尖り、気味はなく艶ある。 面部底面はやや急、外側口縁一部に 倒付着。	灰黒褐	に赤い黄褐	黄灰
58 488 K7-11	口縁	Ⅲ-4	土師器	裏	口縁	19.2	(5.3)	—	口縁は反して外上方に立ち上がる。 口唇は尖り、気味はなく艶ある。 面部底面はやや急、外側口縁一部に 倒付着。	灰黒褐	に赤い黄褐	黄灰
58 489 L6-22	口縁	Ⅲ-4	土師器	裏	口縁	18.2	(7.9)	—	口縁は強く外反して外上方に立 上がる。口唇は尖り、気味はなく艶 ある。面部底面はやや急、外側口 縁と外側底部一部に倒付着。	灰黒	に赤い黄褐	灰
59 490 L6-17	口縁	Ⅲ-4	土師器	裏	口縁	11.9	(6.2)	—	口縁は強く外反して外上方に立 上がる。口唇は尖り、気味はなく艶 ある。面部底面はやや急。	灰黒	に赤い黄褐	黄灰
59 491 L7-1	口縁	Ⅲ-4-2	土師器	裏	口縁	14.2	(3.3)	—	口縁は強く外反して外上方に立 上がる。口唇は尖り、気味はなく艶 ある。面部底面はやや急。	灰黒	に赤い黄褐	黄灰
59 492 L6-13	口縁	Ⅲ-4	土師器	裏	口縁	13.6	(9.3)	14.4	口縁は直線的に外上方に立ち上 がる。口唇は尖り、気味はなく艶 ある。面部底面はやや急、外側口 縁と外側底部一部に倒付着。	灰黒	に赤い黄褐	灰
59 493 L7-6	口縁	Ⅲ-4	土師器	裏	口縁	16.4	(8.9)	17.5	口縁は直線的に外上方に立ち上 がる。口唇は尖り、気味はなく艶 ある。面部底面はやや急、外側口 縁と外側底部一部に倒付着。	灰黒	に赤い黄褐	黄灰
59 494 L6-22	口縁	Ⅲ-4	土師器	裏	口縁	16.6	(3.9)	—	口縁は強く外反して外上方に立 上がる。口唇は尖り、気味はなく艶 ある。面部底面はやや急、外側口 縁と外側底部一部に倒付着。	灰黒	に赤い黄褐	黄灰
59 495 L7-1	口縁	Ⅲ-4	土師器	裏	口縁	15.2	(6.8)	—	口縁は反して外上方に立ち上 がる。口唇は尖り、気味はなく艶 ある。面部底面はやや急、外側口 縁と外側底部一部に倒付着。	灰黒	に赤い黄褐	黄灰
59 496 L7-1	口縁	Ⅲ-4-2	土師器	裏	口縁	15.5	(7.3)	—	口縁は直線的に外上方に立ち上 がる。口唇は尖り、気味はなく艶 ある。面部底面はやや急、外側口 縁と外側底部一部に倒付着。	灰黒	に赤い黄褐	黄灰
59 497 L6-23	口縁	Ⅲ-4	土師器	裏	口縁	14.2	(10.4)	—	口縁は反する。口唇は尖り、気 味はなく艶ある。面部底面はや や急。	灰黒褐	に赤い黄褐	浅灰褐
59 498 L6-23	口縁	Ⅲ-4	土師器	裏	口縁	17.9	(7.6)	—	口縁は反する。口唇は尖り、気 味はなく艶ある。面部底面はや や急。	灰黒褐	に赤い黄褐	黄灰
59 499 L6-22	口縁	Ⅲ-4	土師器	裏	口縁	18.8	(6.6)	—	口縁は直線的に外上方に立ち上 がる。口唇は尖り、気味はなく艶 ある。面部底面はやや急、外側口 縁と外側底部一部に倒付着。	灰黒褐	に赤い黄褐	モーリー黒
60 500 L7-2	口縁	Ⅲ-4	土師器	裏	口縁	15.8	(4.5)	—	口縁は直線的に外上方に立ち上 がる。口唇は尖り、気味はなく艶 ある。面部底面はやや急、外側口 縁と外側底部一部に倒付着。	灰	明赤褐	灰
60 501 L6-17	口縁	Ⅲ-4	土師器	裏	口縁	17.0	(3.3)	—	口縁は直線的に外上方に立ち上 がる。口唇は尖り、気味はなく艶 ある。面部底面はやや急、外側口 縁と外側底部一部に倒付着。	灰	明赤褐	灰
60 502 L6-18	口縁	Ⅲ-4	土師器	裏	口縁	16.8	(3.2)	—	口縁は直線的に外上方に立ち上 がる。口唇は尖り、気味はなく艶 ある。面部底面はやや急、外側口 縁と外側底部一部に倒付着。	灰	明赤褐	灰
60 503 L6-21	口縁	Ⅲ-4	土師器	裏	口縁	17.3	(4.1)	—	口縁は直線的に外上方に立ち上 がる。口唇は尖り、気味はなく艶 ある。面部底面はやや急、外側口 縁と外側底部一部に倒付着。	灰	明赤褐	灰
60 504 L6-22	口縁	Ⅲ-4	土師器	裏	口縁	13.4	(10.6)	—	口縁は直線的に外上方に立ち上 がる。口唇は外側する面を成す。 外側に倒付着する。面部底面はや や急。	灰	に赤い褐	灰
60 505 L6-13	口縁	Ⅲ-4	土師器	裏	口縁	16.9	(5.0)	—	口縁は直線的に外上方に立ち上 がる。口唇は尖り、気味はなく艶 ある。面部底面はやや急、外側 口縁と外側底部一部に倒付着。	灰	に赤い褐	灰
60 506 L7-4	口縁	Ⅲ-4	土師器	裏	口縁	16.4	(9.3)	17.7	口縁は直線的に外上方に立ち上 がる。口唇は尖り、気味はなく艶 ある。面部底面はやや急、外側 口縁と外側底部一部に倒付着。	灰	に赤い褐	灰

表27 4 A区遺物觀察表25

(土器・土製品)

No.	遺物	出土地点	器種	器形	部位	法縫 (cm)	剖面	背面	色調		参考	
									内面	外面		
60	507	L7.1-6	Ⅲb-Ⅲd2	土器	要	口縫	16.6 (10.9)	227	—	に赤い黄褐色	に赤い黄褐色	灰
60	508	L6.22	Ⅲd	土器	要	口縫	21.0 (6.5)	—	—	に赤い黄褐色	に赤い黄褐色	黄灰
60	509	L6.17	Ⅲd	土器	要	口縫	17.3 (14.2)	215	—	に赤い黄褐色	に赤い黄褐色	灰
61	510	L7.2	Ⅲd	土器	要	口縫	10.6 (8.0)	119	—	に赤い黄褐色	に赤い黄褐色	黄灰
61	511	L6.38	Ⅲd	土器	要	口縫	11.7 (3.5)	—	—	に赤い黄褐色	に赤い黄褐色	灰
61	512	L7.1	Ⅲd	土器	要	口縫	13.3 (4.7)	—	—	に赤い黄褐色	に赤い黄褐色	灰
61	513	K7.11	Ⅲd2	土器	要	口縫	13.8 (4.2)	—	—	に赤い黄褐色	に赤い黄褐色	黄灰
61	514	L7.6	Ⅲd	土器	要	口縫	15.1 (4.1)	—	—	に赤い黄褐色	に赤い黄褐色	灰
61	515	L7.1	Ⅲd	土器	要	口縫	12.3 (8.8)	141	—	に赤い黄褐色	に赤い黄褐色	灰
61	516	L6.8	Ⅲd	土器	要	口縫	13.8 (6.8)	—	—	に赤い黄褐色	に赤い黄褐色	灰
61	517	L7.1	Ⅲd	土器	要	口縫	14.0 (4.5)	—	—	に赤い黄褐色	に赤い黄褐色	灰
61	518	L6.22	Ⅲd	土器	要	口縫	15.0 (5.0)	—	—	に赤い黄褐色	に赤い黄褐色	灰
61	519	L6.7	Ⅲd	土器	要	口縫	13.6 (2.9)	—	—	に赤い黄褐色	に赤い黄褐色	灰
61	520	L6.22	Ⅲd	土器	要	口縫	15.4 (6.4)	—	—	に赤い黄褐色	に赤い黄褐色	黄灰
61	521	L6.13	Ⅲd	土器	要	口縫	13.8 (9.4)	172	—	に赤い黄褐色	に赤い黄褐色	黄灰
61	522	L6.22	Ⅲd	土器	要	口縫	17.2 (5.8)	—	—	に赤い黄褐色	に赤い黄褐色	黄灰
62	523	K7.5	Ⅲd3	土器	要	口縫	14.8 (5.7)	—	—	に赤い黄褐色	に赤い黄褐色	灰
62	524	L6.17	Ⅲd	土器	要	口縫	15.2 (4.3)	—	—	に赤い黄褐色	に赤い黄褐色	灰
62	525	L6.22	Ⅲd	土器	要	口縫	18.6 (2.9)	—	—	に赤い黄褐色	に赤い黄褐色	黄灰
62	526	L6.22	Ⅲd	土器	要	口縫	15.0 (3.4)	—	—	に赤い黄褐色	に赤い黄褐色	灰
62	527	L6.17	Ⅲd-Ⅲd3	土器	要	口縫	22.4 (4.8)	—	—	に赤い黄褐色	に赤い黄褐色	灰白

表28 4 A区遺物觀察表26

《土器・土製品》

No.	遺物	出土地点 No.	層 No.	器種	器形	部位	注意 (cm)	特徴		内面 色調	外側 色調	参考	
								上部	部面	側面	底面		
62	528	L7.1	Ⅲd	土器器	甕	口縁	16.6 (3.1)	—	—	に赤・黄褐色	に赤・黄褐色	灰	
62	529	L6.18	Ⅲd	土器器	甕	口縁	15.6 (3.9)	—	—	10YR7/2	10YR7/3	N4/	
62	530	L6.17	Ⅲd	土器器	甕	口縁	23.5 (8.1)	—	—	10YR7/2	10YR7/3	7.5YS/1	
62	531	L6.22	Ⅲd	土器器	甕	口縁	13.6 (3.7)	—	—	10YR4/2	10YR5/2	7.5YS/1	
62	532	L6.23	Ⅲd	土器器	甕	口縁	17.4 (9.8)	—	—	10YR6/2	10YR6/3	7.5YS/1	
62	533	L6.17	Ⅲd	土器器	甕	口縁	15.0 (7.3)	—	—	10YR5/3	10YR5/3	N4/	
62	534	L6.7-18	Ⅲd	土器器	甕	口縁	14.9 (10.2)	—	—	に赤・黄褐色	に赤・黄褐色	灰	
62	535	L7.1	Ⅲb-Ⅲd.2	土器器	甕	—	15.3 (9.2)	85	—	10YR5/3	10YR5/3	5YS/3	
63	536	L6.8	Ⅲd	土器器	甕	側部	— (12.5)	21.2	—	10YR7/3	10YR6/3	7.5YV/1	
63	537	L7.1	Ⅲd	土器器	甕	側	— (5.6)	—	—	2.5YV/1	N3/	7.5YV/1	
63	538	K7.1-5-6	Ⅲb-Ⅲd	土器器	甕	側	— (6.5)	—	—	2.5YV/1	2.5YV/3.1	5YV/3	
63	539	L6.13	Ⅲd	土器器	甕	側	— (12.5)	21.0	—	2.5YV/1	2.5YV5/3	7.5YV/1	
63	540	L6.22	Ⅲd.3	土器器	甕	側	— (9.8)	15.1	—	2.5YV/1	2.5YV6/4	5YV/3	
63	541	L6.17	Ⅲd.3	土器器	甕	側	— (5.2)	—	—	2.5YV/1	10YR7/2	5YV/3	
63	542	L6.22	Ⅲd	土器器	甕	側	— (8.9)	—	—	2.5YV/3	N3/	7.5YV/1	
63	543	18	Ⅲd	土器器	甕	側	— (11.8)	17.8	—	内外側面部に付着	10YR4/2	N3/	
63	544	L6.13	Ⅲd	土器器	甕	—	(13.0)	20.8	—	内部面部に付着	2.5YV4/2	N3/	
64	545	L7.2	Ⅲd	土器器	甕	側	— (13.3)	17.2	—	—	10YR4/1	2.5YV5/3	7.5YV5/1
64	546	L6.22	Ⅲd.3	土器器	甕	底	— (3.3)	—	丸底。外側底部に付着。	2.5YV4/1	2.5YV6/3	N4/	
64	547	L6.17-18	Ⅲd	土器器	甕	底	— (4.9)	—	—	10YR7/2	2.5YV7/2	N4/	
64	548	L6.22	Ⅲd.3	土器器	甕	底	— (4.6)	—	—	10YR7/3	2.5YV4/1	—	
64	549	L7.6	Ⅲd.3	土器器	甕	底	— (3.1)	—	—	1.5YV5/2	7.5YV6/6	5YV/3	
64	550	L6.8	Ⅲd	土器器	甕	底	— (17.6)	20.0	—	—	10YR6/2	2.5YV6/4	5YV/3

表29 4 A区遺物観察表27

(土器・土製品)

No.	遺物	出土地点	西標	東標	部位	法縫 (cm)	特徴	内面	外面	色調	胎土	備考	
								口付	器内	側付	底付		
64 551	L6.22	II-d・III-d3	土師器	壺	底	—	—	内外面部分的に復原。	灰	灰	灰	3YR5/1	
64 552	L6.21・22	II-d3	土師器	壺	底	(17.0)	36.6	丸底	灰黃	灰黃	灰	2.5Y7/2	
64 553	L6.23	II-d	土師器	壺	—	(9.8)	14.0	丸底量、制脚部残。丸底?	灰	灰	灰	5Y3/1	
65 554	L6.22	II-d	土師器	壺	—	122	42	12.5 4.7	口付は斜く上方に立ち上がる。 口付は丸くおさめる。	灰黃	灰	明青灰	3YR5/6
65 555	L6.17	II-d	土師器	壺	里	—	—	—	灰	灰	灰	N5'	
65 556	1.7.6	II-d2	土師器	有溝土壺	—	全長 8.1	全幅 3.8	全厚 2.3	重量 68.4 g	溝幅は上部で12mm、下部では 3mm。一部残付着。	黄褐	浅黃等	7.5YR6/8
65 557	1.6.17	II-d?	罐	—	—	全長 30	全幅 30	全厚 13	重量 (6.5g)	手すり丸五筋ね。縫合部は貼付で、内側から2×5mmの細円孔が 複数個ある。表面は凸面を成し、 裏面は凹面を成す。	黑	黑	3.5Y2/1
65 558	1.6.17	II-d	罐	—	—	全長 35	全幅 36	全厚 (1.4)	重量 94.1 g	直筒形の内側部を輪状に25mmをなす。器口による押 圧痕。表面は凸面を成す。	灰	灰	10YR5/3
65 559	1.6.8	II-d	罐	—	—	全長 46	全幅 47	全厚 13	重量 (168 g)	直筒形の内側部を輪状に25mmをなす。器口による押 圧痕。表面は凸面を成す。	灰	灰	7.5YR6/3
65 560	L7.12	II-d2	罐	—	—	全長 40	全幅 43	全厚 (2.0)	重量 (166 g)	手すり丸五筋ね。厚い横筋の縫合部が貼付され、内孔も4 mmで豊富である。表面は凸面を成し、裏面は凹面を成す。	灰	灰	10YR6/3
65 561	1.6.22	II-b	土師器	ミニチュア	—	50	19	52	—	直筒形の内側部を輪状に25mmをなす。器口による押 圧痕。表面は凸面を成す。	灰	灰	3.5Y3/1
65 562	1.6.22	II-b	土師器	ミニチュア	—	48	25	—	—	直筒形の手すりね。口付は内側に 押す。外方に立ち上がる。口付は丸 くね。	灰	灰	10YR6/3
65 563	1.6.22	II-b	土師器	ミニチュア	—	—	—	—	直筒形の手すりね。口付は内側に 押す。外方に立ち上がる。口付は丸 くね。	灰	灰	10YR6/3	
65 564	1.6.17	II-b	土師器	ミニチュア	—	48	36	50	—	直筒形の手すりね。口付は内側に 押す。外方に立ち上がる。口付は丸 くね。	灰	灰	7.5Y5/1
65 565	1.6.18	II-b	土師器	鉢	—	128	52	33.1	—	直筒形の手すりね。口付は内側に 押す。外方に立ち上がる。口付は丸 くね。	灰	灰	10YR6/3
65 566	1.6.22	II-b	土師器	ミニチュア	—	(2.0)	—	—	手すりね。丸底。	灰	灰	10YR6/2	
65 567	1.6.22	II-b	土師器	ミニチュア	—	62	70	67	22	直筒形の手すりね。口付は外側 に贴り付けて残す。直筒形に 上部に立ち上がる。口付は丸 くね。	灰	灰	3.5Y6/4
65 568	1.6.22	II-b	土師器	ミニチュア	—	68	61	64	2.8	直筒形の手すりね。口付は外側 に贴り付けて残す。直筒形に 上部に立ち上がる。口付は丸 くね。	灰	灰	10YR6/2
65 569	—	II-b	土師器	鉢	—	102	75	94	—	直筒形の手すりね。口付は外側 に贴り付けて残す。直筒形に 上部に立ち上がる。口付は丸 くね。	灰	灰	7.5YR5/3
65 570	L7.1	II-b	土師器	鉢	—	124	6(1)	117	—	直筒形の手すりね。口付は外側 に贴り付けて残す。直筒形に 上部に立ち上がる。口付は丸 くね。	灰	灰	7.5YR6/3
65 571	1.6.17	II-b	土師器	高环	—	(10.0)	—	122	—	直筒形の手すりね。口付は外側 に贴り付けて残す。直筒形に 上部に立ち上がる。口付は丸 くね。	灰	灰	10YR6/2
65 572	1.6.22	II-b	土師器	高环	脚	304	(5.2)	—	—	直筒形の手すりね。口付は外側 に贴り付けて残す。直筒形に 上部に立ち上がる。口付は丸 くね。	灰	灰	5YR6/6
65 573	1.7.1	II-b	土師器	高环	环	152	(5.8)	—	—	直筒形の手すりね。口付は外側 に贴り付けて残す。直筒形に 上部に立ち上がる。口付は丸 くね。	灰	灰	10YR6/3
65 574	1.6.18	II-b	土師器	高环	环	134	(4.5)	—	—	直筒形の手すりね。口付は外側 に贴り付けて残す。直筒形に 上部に立ち上がる。口付は丸 くね。	灰	灰	3.5Y5/1

表30 4 A区遺物觀察表28

(土器・土製品)

No.	遺物	出土地点	形種	唇形	部位	寸法(cm)	特徴	色調		備考
								内面	外面	
67 325	L7.1	Ⅲb	土師器	高环		15.4 12.8 15.8	106 106 106	口縁は内側して上方へ立ち上がる。脚は高く張り紙で開く。端は失ひ或は丸く修める。	75YR6-6 75YR6-6 75YR6-6	10YR6-1
67 326	L6.22	Ⅲb	土師器	高环	脚	— (67)	94	脚は直角に弱く広がり基盤部を屈らせる。端は丸く修める。胎土中には砂粒を含む。	5YR5-4 5YR5-4	10Y6-1
67 327	L7.1	Ⅲb	土師器	高环	脚	— (65)	93	脚は内側気孔方に広がり屈曲後には開く。端は丸く修める。胎土中に砂粒を含む。	10YR5-3 10YR5-3	NS
67 328	L6.7	Ⅲb	土師器	高环	脚	— (75)	106	脚は直角に弱く広がり基盤部を屈らせる。端は丸く修める。胎土中には砂粒を含む。	75YR6-4 75YR6-4	7.5YR7-4
68 329	L7.1	Ⅲb	土師器	高?		15.6 (82) 142	—	口縁は外側から弱く外反して外上方へ立ち上がる。口唇は丸く修める。外側脚部に砂粒を含む。	10YR7-2 10YR7-3	7.5Y4-1
68 330	L6.22	Ⅲb	土師器	高?	口縁	18.1 (85)	—	口縁は胎土から直角的に弱く外反して外上方へ立ち上がる。口唇は丸く修める。外側脚部に砂粒を含む。	10YR6-3 10YR6-3	2.5Y5-1
68 331	L7.1	Ⅲb	土師器	高?	口縁	13.5 (75)	158	口縁は胎土から直角的に弱く外反して外上方へ立ち上がる。口唇は丸く修める。外側脚部に砂粒を含む。	7.5YR6-2 10YR4-1	NS
68 332	L7.1	Ⅲb	土師器	高?	口縁	30.1 (14.3) 196	—	口縁は胎土から直角的に弱く外反して外上方へ立ち上がる。口唇は丸く修める。外側脚部に砂粒を含む。	2.5Y6-2 10YR6-2	5Y4-1
69 333	L7.1	Ⅲb	土師器	高?	口縁	— (47)	—	口縁は胎土から直角的に弱く外反して外上方へ立ち上がる。口唇は丸く修める。外側脚部に砂粒を含む。	10YR6-2 10YR6-4	7.5Y4-1
69 334	L7.1	Ⅲb	土師器	高?	口縁	12.0 (33)	—	口縁は直角的に外方へ立ち上がる。端は丸く修める。	7.5YR5-4 7.5YR5-4	7.5Y4-1
69 335	L6.22	Ⅲb	土師器	高?	口縁	— (33)	—	口縁は直角的に外方へ立ち上がる。口唇は丸く修める。外側脚部に砂粒を含む。	10YR6-2 10YR6-2	5Y4-1
69 336	L6.22	Ⅲb	土師器	高?	口縁	13.8 (33)	—	口縁は直角的に外方へ立ち上がる。口唇は丸く修める。外側脚部に砂粒を含む。	10YR6-2 10YR6-4	10YR4-1
69 337	L7.1	Ⅲb	土師器	高?	口縁	11.2 (40)	—	口縁は直角的に外方へ立ち上がる。口唇は丸く修める。外側脚部に砂粒を含む。	10YR6-2 10YR6-4	7.5Y5-1
69 338	L7.1	Ⅲb	土師器	高?	口縁	14.9 (33)	—	口縁は直角的に外方へ立ち上がる。口唇は丸く修める。外側脚部に砂粒を含む。	10YR6-2 10YR6-2	7.5Y5-1
69 339	L7.1	Ⅲb	土師器	高?	口縁	15.4 (32)	—	口縁は直角的に外方へ立ち上がる。口唇は丸く修める。外側脚部に砂粒を含む。	10YR6-3 10YR6-3	5Y5-1
69 340	L7.1	Ⅲb	土師器	高?	口縁	12.4 (33)	—	口縁は直角的に外方へ立ち上がる。口唇は丸く修める。外側脚部に砂粒を含む。	7.5YR5-4 7.5YR5-4	5Y4-1
69 341	K7.5	Ⅲb	土師器	高?	口縁	13.0 (45)	—	口縁は直角的に外方へ立ち上がる。口唇は丸く修める。	5Y4-1 5Y4-1	NS
69 342	L6.22	Ⅲb	土師器	高?	口縁	13.4 (38)	—	口縁は直角的に外方へ立ち上がる。口唇は丸く修める。	7.5YR5-4 7.5YR5-4	10YR4-1
69 343	L6.22	Ⅲb	土師器	高?	口縁	17.0 (29)	—	口縁は直角的に外方へ立ち上がる。口唇は丸く修める。	7.5YR6-4 7.5YR6-4	5Y4-1
69 344	L7.1	Ⅲb	土師器	高?	口縁	12.4 (71)	—	口縁は直角的に外斜面上に立ち上がる。口唇は丸く修める。面部は破損する。	2.5Y6-2 2.5Y6-2	2.5Y4-1
69 345	L7.1	Ⅲb	土師器	高?	口縁	16.6 (38)	—	口縁は直角的に外斜面上に立ち上がる。口唇は丸く修める。面部は破損する。	10YR7-2 10YR7-3	5Y5-1
69 346	L7.1	Ⅲb	土師器	高?	口縁	13.4 (68)	—	口縁は直角的に外斜面上に立ち上がる。口唇は丸く修める。面部は破損する。	2.5Y7-2 10YR6-2	2.5Y4-1

表31 4 A区遺物觀察表29

(土器・土製品)

No.	遺物	出土地点	基盤	唇形	底部	高さ (cm)	特徴	内面	外面	胎土	備考	
70-596	L7-I	IIb	直底器	环	84	43	11.8	42	受底部 立ち上がりは長く口縁は立上方向に 立ち、受け部は水平に張出す。	灰 NS'	砂灰 NS'	SYR5-T
70-597	L6-12	IIb	直底器	环	86	49	12.1	51	口縁は丸く内傾する。受け部は 水平で約5mm幅。外面に大擦が残 る。	灰 SYR5/1	灰 NA'	黄灰 SYR6/1
70-598	L6-12	IIb	直底器	直	13.8	(3.1)	—	—	口縁は丸く立ち上がりが立上 なる。口縁は斜めに丸く移れる。	灰 SY4/1	灰 NA'	黄灰 SYR5/1
70-599	L6-17	IIb	直底器	直	11.3	(3.6)	—	—	口縁は直角的に外方に向か う。口縁は中央のせんだけで横する	灰 NS'	灰 NS'	黄灰 NA'
70-600	L6-21	IIb	直底器	环	体	—	(2.9)	11.8	受け部は水平に張出し、立ち上が る。口縁は斜めする面を成し外側 は丸く内傾する。	灰 NS'	灰 NS'	黄灰 SYR5/1
72-602	—	III	土加器	脚?	85	(4.5)	—	—	口縁は直角的に外方に立ち上 がる。口縁は丸く移れる。外側口縁 は斜めで内傾する。胎土中に砂粒, 小礫を多く含む。	灰 SYR7/2	灰 SYR7-3	黄灰 NA'
72-603	—	III	土加器	高环	环	13.2	(6.0)	—	口縁は直角的に外方に立ち上 がる。口縁は丸く移れる。外側口縁 は斜めで内傾する。胎土中に砂粒, 小礫を多く含む。	明赤施 SYR5-6	明赤施 SYR5-6	黄灰 SYR6/1
72-604	—	III	土加器	高环	环	15.3	(4.3)	—	口縁は直角的に外方に立ち上 がる。口縁は丸く移れる。	灰 SYR6/2	灰 SYR6/3	黄灰 SYR6/1
72-605	1.6.2	III	土加器	直	13.8	(3.1)	—	—	口縁は外反して外上方に立ち上 がる。口縁は丸く移れる。	灰 SYR6/2	灰 SYR6/3	SY4/1
72-606	L6.2	III	土加器	直	16.8	(3.2)	—	—	口縁は直角的に外方に立ち上 がる。口縁は丸く移れる。外側口縁 は斜めで内傾する。	黄灰 NS'	灰 NS'	黄灰 SYR5-T
72-607	K7.9	IIe	土加器	直	—	—	14.2	—	胎土中に砂粒で細く混入する。外側側 面が空洞的に内側付ける。	灰 SYR6-4	灰 SYR5-4	黄灰 SYR5/1
73-608	—	I	土加器	ミニチュア	39	25	3.8	—	棒足の手形ね。口縁は丸く外反 して外上方に立ち上がる。口縁は 丸く丸く移れる。丸底。	灰 SYR6-6	灰 SYR6-6	黄灰 SYR7/4
73-609	—	I	土加器	ミニチュア	6.8	36	7.2	—	脚付の手形ね。口縁は丸く移れる。 丸底。内外全体部中位以上に堆積 物を含む。	黑 SY2/1	オリーブ黒 SY3/1	灰 NS'
73-610	—	I	土加器	高环	环	15.9	(5.3)	—	口縁は外反して外斜上方に立ち上 がる。口縁は丸く丸く移れる。 外側口縁は斜めで内傾する。	灰 SYR7/2	灰 SYR6/3	黄灰 SYR5-T
73-611	—	I	土加器	直	15.4	(15.8)	36.8	—	口縁は直角的に外斜上方に立ち上 がる。口縁は丸く丸く移れる。 外側口縁は斜めで内傾する。	灰 SYR6-4	灰 SYR6-3	黄灰 SYR5/1
73-612	L6-17	IId	抛光土器	土製円盤	全長	全幅	全厚	重量	土器(?) 腹部の軸用品。外面 は丸く内側は斜めで内傾する。	灰 10YR5-3	灰 SYR6-4	黄灰 NS'
73-613	—	I	土加器	?	6.0	8.3	1.0	368 g	胎土的に付着する。	灰 10YR5-1	灰 SYR5-2	黄灰 SY6/1

表32 4 A区遺物観察表30

《石器・石製品》

Fig. No.	遺物 No.	出土地点 グリッド 層	種類	法量				特徴	その他
				全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	重量(g)		
74	614	K77	IIIe	叩石	126	84	4.4	599.2	表面、両側面、端部に敲打痕が多く残る。
74	615	L6-22	IIIC	石斧	(7.3)	(6.2)	(2.7)	191.7	両刃石斧。細かな研磨を施す。数ヶ所の刃部は平行と擦痕が残る。
74	616	L6-16	IIIc	石斧	(4.7)	48	1.5	61.1	両刃石斧。研磨痕を残す。刃部は彎曲する。側面は平らな面。
74	617	L6-17	IIIC	石斧	(9.0)	(6.5)	3.4	278.0	磨製石斧基部。
74	618	K79	IIIe	石灰	322	17.6	10.2	5800.0	ほぼ全面に敲打痕を残す。数ヶ所に敲打痕が集中した擦みが見られる。部分的に筋状の敲打痕列が残る。
75	619	L68	IIId	石鏃	29	13	0.4	15	舌状の有茎鏃。基部に近い中央部に剥離面が残る。
75	620	L67	IIId	有孔円盤	31	—	0.4	6.8	表面と側面に研摩痕を残し、丁寧に磨く。中央部にφ2mmとφ15mmの円孔を穿つ。
75	621	L76	IIId-2	石斧	(4.8)	(7.1)	(3.3)	134.7	両刃石斧。刃部は大きな弧状を成す。両面からやや膨らみを持って研磨施される。
75	622	L72	IIId	石斧	(6.9)	4.0	1.0	45.6	扁平片刃石斧。上面の一部に研摩痕を残す。超塙基性岩基部は角錐状を成して尖る。部分的に細かな研磨が残る。
75	623	K7-10	IIId	石斧	(20.0)	(5.7)	(2.7)	249.6	角状で中央部が窪む。側面は7面。仕上げ砥。被熱?
75	624	L6-13	IIId	砥石	(8.9)	(5.7)	(4.8)	348.5	表面中央部に縱位の研ぎ面が窪んで形成される。やや粗い形状が長軸方向、斜め方向に残る。
75	625	L7-4	IIId?	砥石	(12.2)	5.5	2.7	232.3	断面不整長方形の磨岩自然縫を用いた砥石。一個面に溝状の研磨痕を残す。他面には敲打痕が残る。
75	626	L7-7	IIId	砥石	(8.6)	(3.8)	(2.9)	182.4	表面全体に研磨が付着する。敲打痕を数ヶ所に残す。
75	627	L6-12	IIID	叩石	11.5	10.7	5.1	1154.5	両面に擦れが付着する。敲打痕を数ヶ所に残す。
75	628	L6-23	IIId?	叩石	17.2	6.7	4.3	771.0	両端部に密な敲打痕を残す。
75	629	L6-17	IIId	叩石	15.2	4.8	4.0	411.3	表面全体、裏、側面中央部、端部に敲打痕を残す。
75	630	L6-18	IIId?	叩石	12.5	5.6	3.5	580.0	表面側の中央部を中心に敲打痕を残す。
75	631	—	IIId?	叩石	(10.3)	8.6	3.9	428.6	表面側と側面、端面に敲打痕を残す。
75	632	L7-6	IIId-2	叩石	9.7	7.8	1.8	191.4	平面橢円形、扁平な自然縫を用いる。側邊と表面中央の剥離が顕著。
75	633	L6-12	IIId	叩石	10.6	6.9	4.5	461.5	表面に2ヶ所の大きな剥離部分を残す。

表33 4 A区遺物觀察表31

《石器・石製品》

Fig No.	遺物 No.	出土地点 グリッド 層	種類	法量				特徴	その他の 記述	
				全長 (cm)	全幅 (cm)	全厚 (cm)	重量 (g)			
76	634	L6-13	Ⅲd	叩石	18.5	5.8	5.1	916.0	両端面と表面中央部に敲打痕を残す。	結晶片岩
76	635	L7-18	Ⅲd?	叩石	17.1	6.1	4.5	726.0	表面の中央部に剥離痕を残す。一側面中央部と一端部に敲打痕を残す。	結晶片岩
76	636	L7-12	Ⅲd-2	叩石	18.0	5.2	4.4	693.0	表・裏面と端部に敲打痕を多く残す。	結晶片岩
76	637	L7-17	Ⅲd?	叩石	20.5	8.7	3.9	1089.0	ほぼ全面に敲打痕を残す。側面中央部は片側のみ剥離する。	
76	638	L7-6	Ⅲd-2	叩石	12.4	11.1	5.9	1085.5	表面と両側面、端面に密な敲打痕、剥離痕を残す。	
76	639	L6-7	Ⅲd	叩石	12.8	10.7	4.8	968.0	表・裏面の中央部は特に密。側面・端面には部分的に敲打痕が残る。	
76	640	L6-12	Ⅲd	叩石	12.2	7.7	4.3	584.6	表面面と側面の中央部分を中心として密な敲打痕。端面にも敲打痕が残る。	
76	641	L7-3	Ⅲd?	叩石	9.7	9.3	4.2	570.2	側面から端面の一部に薄い剥離を作った敲打痕。	
76	642	L6-22	Ⅲd-3	叩石	11.9	9.1	3.8	614.5	表面の中央部分と端面に敲打による剥離痕を残す。	
76	643	L6-3	Ⅲd	磨石	11.4	9.8	3.9	616.0	端部(側面・端面)に細かな打痕(擦り痕)が帯状に全般する。	
77	644	L6-13	Ⅲd	叩石?	11.5	8.5	6.5	914.0	側辺の一箇所に敲打痕を残す。	
77	645	L6-22	Ⅲd	叩石	(12.1)	8.0	5.2	779.5	表・裏面の中央部と側面、端面に密度の高い敲打剥離痕を残す。	
77	646	L7-12	Ⅲd-2	台石	(12.9)	(12.5)	(8.0)	1692.0	規模の大きな河原石を用いる。表面に敲打痕が密に残る。	
77	647	L7-12	Ⅲd-2	台石	(15.3)	(12.2)	(12.0)	3400.0	表面に敲打痕を多く残す。やや僅んだ中央部に赤色顔料が附着する。	
78	648	L7-11	Ⅲd-2	台石	21.4	15.5	7.3	3250.0	表・裏面の中央部に敲打痕を残す。河原石を用い、一部には擦が付着する。	
78	649	L6-13	Ⅲd?	台石	24.6	17.3	3.0	1876.0	表面は敲打痕が密で数カ所で深む。表面は平らで砥面を成す。	泥質砂岩
79	650	L6-21	ⅢB	叩石	9.5	7.5	3.7	365.9	表面面の中央部と一側面を中心に敲打による剥離。被熱?	
79	651	L6-21	ⅢB	叩石	12.9	8.5	5.7	886.0	表・裏面に敲打痕が多く残る。一端部に敲打痕が密着する。	
79	652	—	Ⅲ	叩石	6.9	8.4	4.6	351.0	正面、側縁の中央部と端部に敲打痕を残す。	

表34 4 A区遺物観察表32

《木器・木製品》

Fig No	遺物 No	種類	遺物名・用途	出土地位		法薬 (cm)			特徴	その他
				グリッド	層位	全長	全幅	全厚		
80	653	祭祀具?	—	L7-1	Ⅲd-2	25.0	5.3	0.7	厚さ5~7%の板を一端部を尖り気味に、他端を幅広く丁寧に加工する。	
80	654	部材	—	L6-17	Ⅲd	78.0	26	2.8	断面方形の軸状木製品。端部は段階的に削り込まれており、使用に因る磨滅を認める。	
80	655	祭祀具	ナスピ形木製品	L6-13		54.1	11.8	1.4	上位から縦や斜に開き両側面に小さな突起部を持つ。中位上部から二段に分かれ、下位では横木で繋ぐ。刃部は丁寧に削り出される。	
80	656	農工具?	—	L6-21	ⅢD-3	77.0	18.5	7.0	端部には粗い工具痕が残る。断面不規則台形で、30×13%の長方形を呈した穴を材の短軸方向、上部に穿つ。	
81	657	祭祀具	木製有孔円盤	L6-12	ⅢD	60	4.4	0.8	中央部にφ7%の内孔を穿つ。	
81	658	発火具	ヒキリ板	L6-23	Ⅲd	15.9	2.0	0.8	構造から切り込みは片側からのみで、3~5%に達する。ヒキリ口はφ8~10%で、浅い断面菱形を呈する1例を除くとU字形である。	
81	659	雑具	施状木製品	L6-17	Ⅲd	20.0	2.0	0.5	端部を山形に加工する。	
81	660	工具	横槌(櫛部)	L7-11	Ⅲd	9.2	3.3	1.6	成形板を残して削り込んだ櫛部と端部はやや肥厚する。	
81	661	容器	注口部	L6-18	Ⅲd	4.7	9.1	4.0	注口部の幅は30%、背後の容器本体と共に削り出されたもの?	
81	662	農工具	鍬件	L6-12	ⅢD	35.6	7.3	6.8	端部は丸味を持って仕上げる。中央部(櫛部)を細く削り出す。	
81	663	部材	—	K7-10	Ⅲd	18.5	7.0	1.7	板材の中央や側面寄りにφ23×20%を穿つ。	
82	664	着身具	櫛	L6-22	Ⅲb	4.1	2.9	0.8	断面形は楕形。背面は平らな面を成し、側面に向かって丸く仕上げる。櫛方は約0.5~1%厚味を持つ。	
82	665	部材?	—		Ⅲb	24.0	3.7	0.7	端部は加工し、側面に仕上げ、やや内側に両側面から抉りを入れる。	
82	666	部材	板状木製品		Ⅲ	9.3	12.0	1.6	平面長方形、側面は平らで、端面は尖り気味に削める。	
82	667	部材	—		Ⅲ	36.3	2.8	2.0	一端部を長さ25%に渡って、断面長方形のホゾ状に削り出す。	
82	668	祭祀具	舟形木製品	L6-12	Ⅲ	32.0	5.8	2.1	一端部に直角6%の内孔を穿つ。他端には段部を有する。	
83	669	部材	板		Ⅲ	105.6	27.0	3.8	断面長方形、側面には工具痕を残す。	
83	670	部材	—	L6-21	ⅢB	102.0	23.0	3.0	端部の一部を輪状(φ27×21%)に削り出す。笠板、または脚板か。	671と同一個体?
83	671	部材	—	L6-21	ⅢB	86.0	16.0	2.0	一端面に表裏面から調整を加え尖り気味に仕上げる。	670と同一個体?

(2) 4 B区

1. 4 B区の概要

地溝帯に沿って東西走する清滝山系から舌状を成して南側に延びた小規模な尾根の西斜面を含む調査区である。この尾根は現況で東半分を残し西半は既に削平を受けており、耕作面(ビニールハウス、水田)となっていた。調査を進めるに及び尾根の西側斜面は隣接する調査区4 A区から大きく湾曲して調査区外の西方に延びるものであり、南北方向に傾斜を持って開いていたものと考えられる。古墳時代の遺物は地表面から沖積層に向かって標高を下げた斜面で発見されており、土器では土師器の壺、甕、鉢、高杯や小型丸底土器、ミニチュア土器等が多く見られた。石器・石製品や木製品も同時に出土する場面が多く、砂鉄が小鉢の中に入ったままの状態で出土している。土器遺物は完形に近いものも存在するが破片となったものが多くあり、原位置を止めず斜面を上方から転がって来た可能性が高い。置かれたままの状態に近い4 A区の出土状況と比較するとやや趣を異にする。下層から出土する土器も4 A区に共通するものであり、縄文晩期から弥生前期、弥生中期から後期の遺物である。総出土量は4 A区に比してやや多く、弥生後期以前の遺物も4 A区に比して多く含まれている。遺構は縄文晩期から弥生前期の貯蔵穴？（どんぐりピット）が発見された。浅い皿状の形態であり、堅果類の出土量は少ない。植物纖維を編んだ筵状の製品が一部残存しており、蓋様に使用したものと考えられる。既に報告された1 F区等の貯蔵穴とは形態的に異なる。

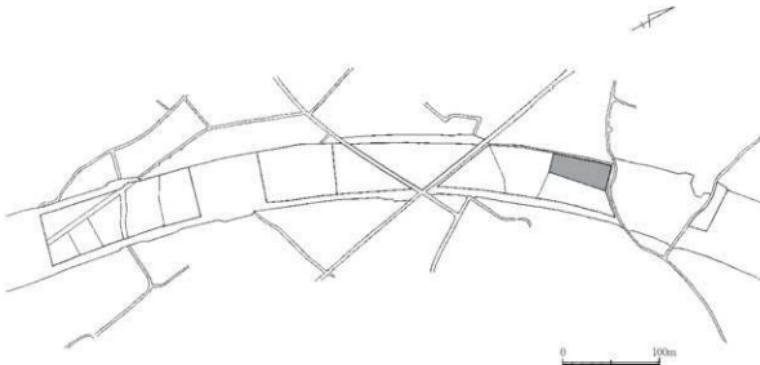


Fig.84 4 B区の位置 (S : 1/5,000)

2. 調査の方法

4B区の調査は平成10年6月23日から、先ず表土機械掘削が行われた。4A区と同様に東半は多くが削平された地山面であった。続いて6月29日からは機械包含層掘削を開始した。地山面を除く堆積層が主な掘削対象である。調査区の西側は包含する遺物量が希薄であることから、下層（縄文晩期から弥生前期）まで機械による掘削を行う。東半は地山面からの傾斜部に遺物の出土が一定量認められることから、緩い傾斜を持って包含層を残し包含層機械掘削を終了する。最後に包含層人力掘削は平成10年7月13日から開始した。調査は第IV系公共座標に則った4m×4mを1単位とするグリッドを設定して上位から堆積層ごとに掘削することで行った。調査区全体の堆積状態は西壁セクションと西南壁セクションを精査し、写真、図に記録した。斜面部では調査区の中央部に傾斜と直交する形で設けたベルトで堆積土層を確認し、記録して行った。遺物の取り上げは、遺構名・グリッド名と層名を記入することで行い、保存状態の良いものについては出土状態を写真撮影、図化または先述の公共座標を記録の上行った。遺構の検出については暗灰色の各堆積層の界面では困難であり、灰白色系の検出面を持つ縄文晩期から弥生前期包含層下まで掘削を継続して行った。貯蔵穴の検出はこの面であり、遺構内の出土状態や完掘状態等の平面図作成については座標系に基づいて1/10, 1/20等の縮尺で適宜行った。人力包含層掘削と遺構掘削の終了は平成10年10月5日であり、完掘後10月10日には航空写真撮影・測量を完了した。この間、平成10年の台風7号や9月24日の集中豪雨により調査区が冠水し、壁面の崩壊等が発生したことから調査の中止を余儀無くされた。

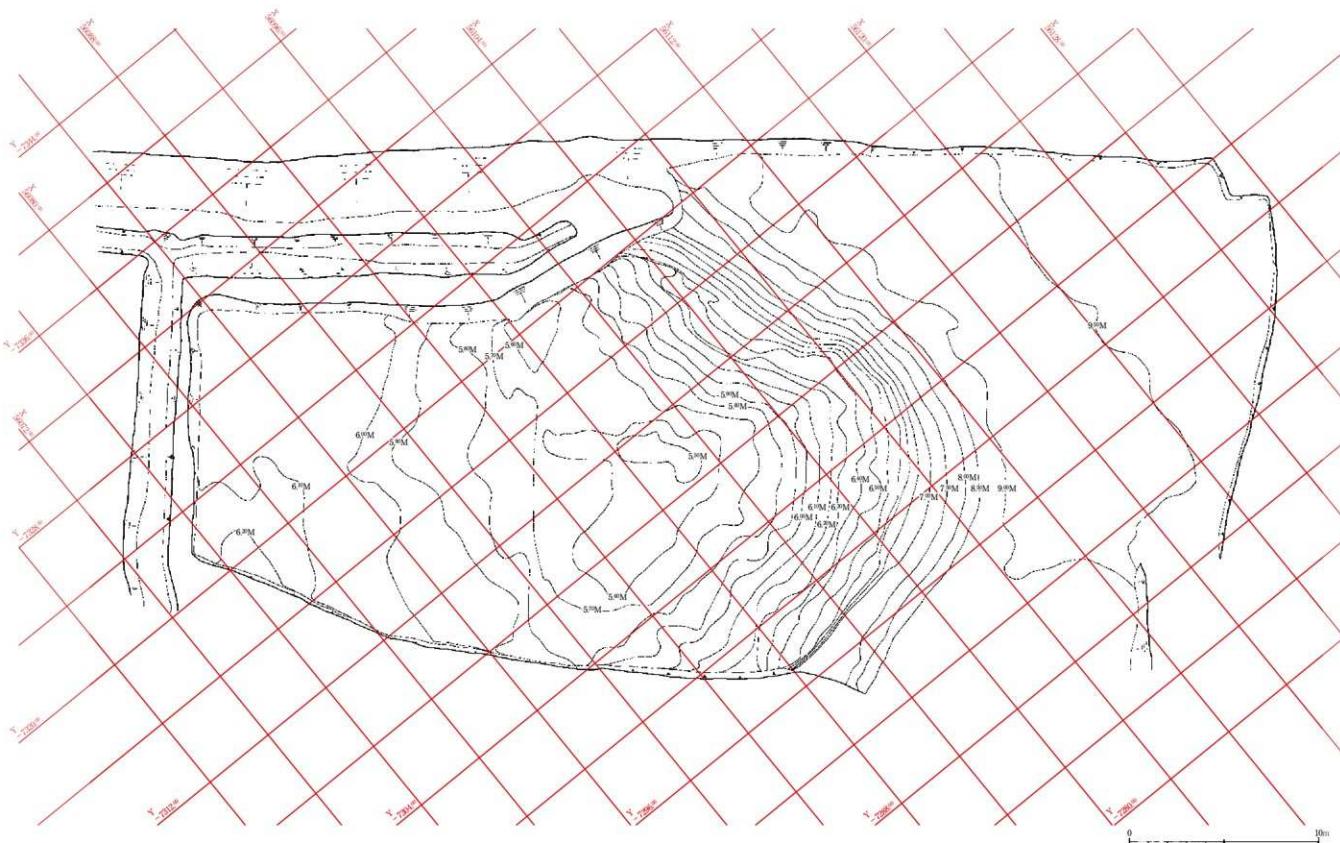


Fig.85 4B区全体図(下層) (S : 1/200)

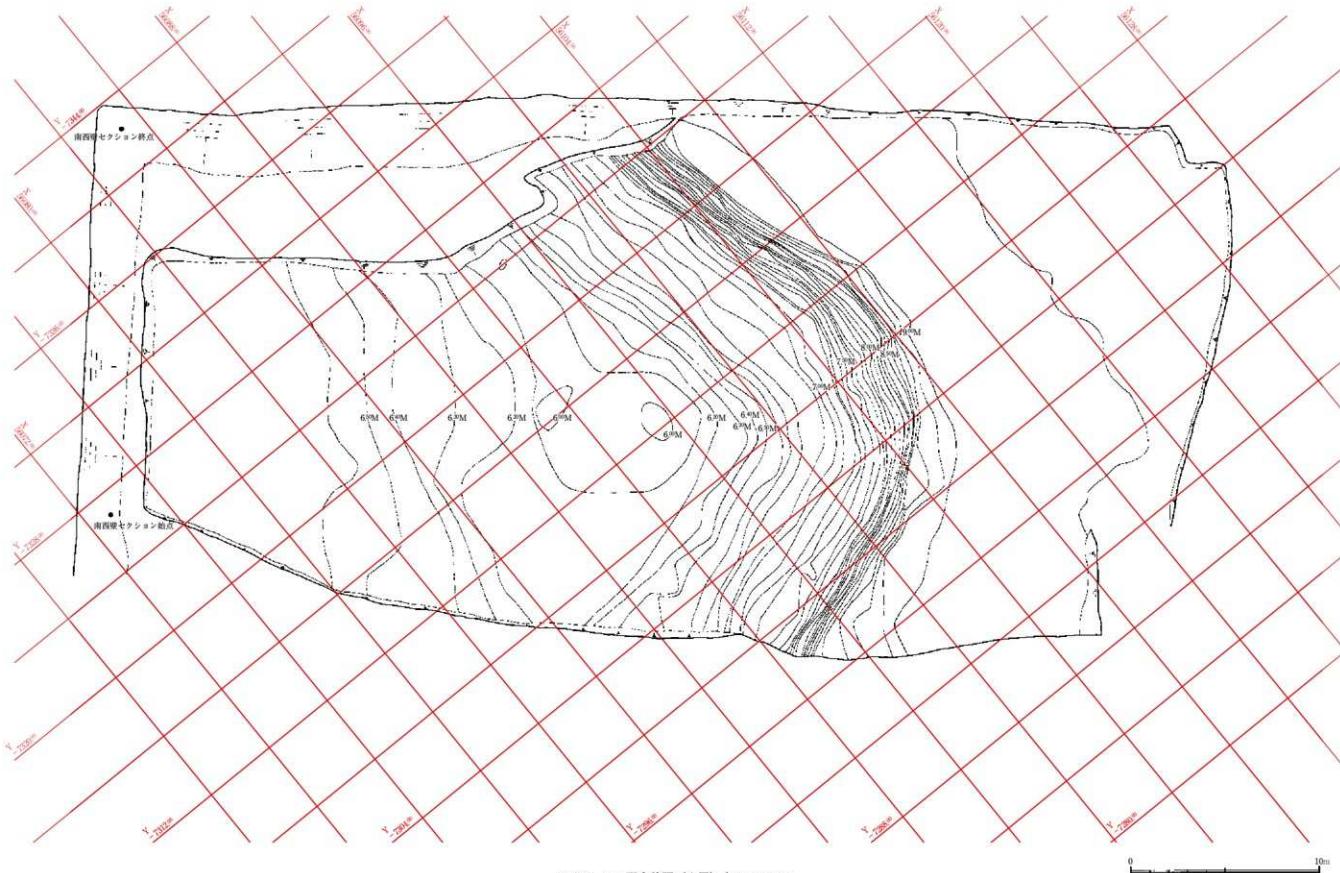


Fig.86 4B区全体図（上層）(S : 1/200)

3. 層序

4 B 区の標準的な堆積環境は 4 A 区と同様、概ね安定した堆積状態と考えられる。これは 4 B 区西南壁セクションからも明らかであり、斜面部分を除くと流路等による層位の乱れは観察されていない。斜面部には自然崩壊等の痕跡が認められるものの、緩やかな斜面堆積を示す。縄文晩期から弥生前期と考えられる段階では東側の斜面から下った部分に凹地が形成されており、ここに腐植を含む堆積層（Ⅲ C 層）が確認される。調査区の西側に向かっては緩やかな勾配を以て標高を上げ西端部には高位が存在する。4 C 区検出の S D 2 に係る自然堤防状の堆丘か。

（1）基本層序（Fig.87～89, 95）

I 層・II 層は耕作土や耕作土と耕作に係わる土層である。調査区のはば全域に渡って耕作土下厚さ 50cm の盛土（黄褐色土 10YR6/4）が存在する。調査区の東側約 1/3 は地山面であり、西側部分には旧耕作土が緩急の斜面堆積を覆って存在する。

III 層はここでは一連の各時代遺物包含層群である。調査時には堆積環境が近似するであろう 4 A 区の各包含層と整合する様、層の精査に努めたが両区の各層を等号で結ぶことはできない。III 層は III B 層群、III D 層群、III C 層群、III E 層に大きく分層が可能である。

III B 層は南方向へ緩やかな傾斜面を形成して存在し、西南壁では分厚い堆積層群として観察される。本層は III B - 0、III B - 1、III B - 2、III B - 3 の各層に分層が可能である。何れも暗色系の腐植を多く含んだ層群であり、木片や流木などの植物遺体と共に鍬などの農工具、木鍤などの工具が出土している。III B - 0 は斜面部では III D 層を覆っており、4 A 区の III b 層に相当するであろう。III B - 1 層は III B - 0 層下に存在し、III D 層堆積（埋積？）直後に形成されたものと考えられ、III D 層に接する部分には通常地山直上に堆積している灰白色粘土の混入が顕著である。時期は III B - 0、III B - 1 層が古墳時代後期から古代・中世であろう。III B - 2 層と III B - 3 層は III D 層以前の堆積と考えられ先述のとおり水成の湿潤な堆積環境を示すものである。III B - 2、III B - 3 が弥生中・後期から古墳時代前期？のものか。

III D 層は斜面部分にのみ存在を認めるものあり、土師器を中心に多くの遺物が発見された。斜面部分を中心として検出されることなど 4 A 区の III d 層に良く似ているが、破片遺物が多く見られる出土状態や中央セクションで観察される地山崩壊疊の多混などやや異なる点が見受けられる。本層の成因は斜面の自然崩壊か人為的な埋納や地形の変改であった可能性がある。祭祀遺物を伴う多くの土器群と叩石を主とした石器・石製品、木製品が出土している。時期は古墳時代前期から中期であろう。III D - 1 層は砂鉄が入った鉢が検出された L5 - 22 グリッド周辺で設けた層位であり、遺物が多く出土した III D 層主体の下層に相当している。また、標高的には III D 層の下位層である III B - 2 層や III B - 3 層に相当しており、連続する可能性もある。ただし、これらと比較すると地山崩壊角礫を多量に含む点が異なっている。

III C 層は III C - 0 層と III C - 1 層、及びその間に間層（無遺物層）を挿んで存在する。地山面に近い斜面では青色の崩壊角礫を多く含んでいる。シルト質の層中には腐植が顕著であり、先述の斜面下の凹部では III C 層の堆積が厚い。時期は縄文晩期から弥生前期と考えられる。

III E 層は灰白色を呈する粘土層であり、4 A 区の III e 層に概ね対応するであろう。尾根を下つた緩斜面で SK 1 他の貯蔵穴を検出したのは本層の上面である。

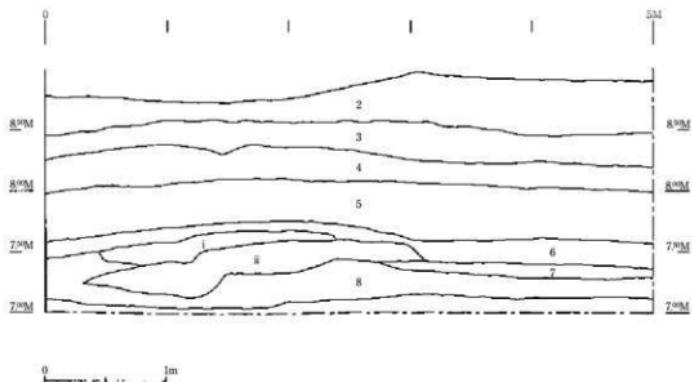


表35. 4B区南西壁セクション層序表

層	内容	その他
1	粘性あり、縛まりあり。黄褐色 (10YR6/4)	
2	粘性あり、縛まりあり。褐色 (10YR4/6)、青灰色粘土 (5B5/1) を含む。	耕作土
3	粘性あり、縛まりあり。褐色 (10YR5/1) 土、小石を多く含む。	
4	粘性あり、縛まりあり。灰黄色 (10YR4/2)、炭化物、地山崩壊塊を含む。	旧耕作土
5	粘性あり、縛まりあり。小型の植物遺体を含む。黒色土 (N5/10)、暗赤褐色 (5YR3/6)	
6	粘性あり、縛まりあり。小型の植物遺体を含む。褐灰色 (10YR5/1)、にぶい褐色 (7.5YR5/3)	
7	粘性あり、縛まりあり。褐灰色 (7.5YR4/1)	
8	粘土。縛まりあり。植物遺体を多少含む。灰色 (7.5Y5/1)	
9	粘土。縛まりあり。青灰色 (5E6/1)	Ⅲc 層 (4A区)
i	粘性あり、縛まりあり。褐灰色	
ii	粘性あり、縛まりあり。褐灰色	

Fig.87 4B区南西壁セクション図 (S : 1/40)

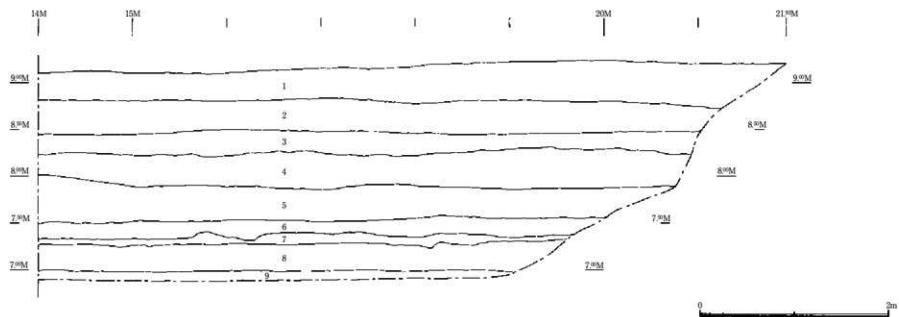
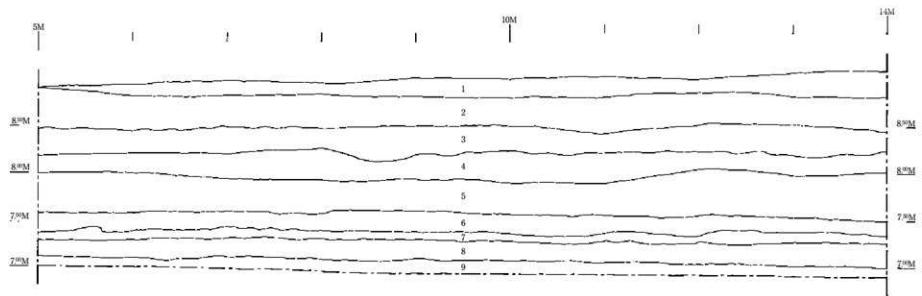


表36. 4B区西壁セクション層序表

西壁セクション層序（上層）

層	内容	その他の
1	粘性あり。縮まりあり。黄灰色 (25Y6/1)	耕作土
2	粘性あり。縮まりあり。黄褐色 (10YR6/4)	盛土
3	粘性あり。縮まりあり。褐灰色 (75YR6/1)。黄褐色土 (10YR6/4) を多く含む。	旧耕作土
4	粘性あり。縮まりあり。灰褐色 (75Y5/1)。青色地山崩壊角礫を多く含む。	
5	粘性あり。縮まりあり。黒褐色 (5YR3/1)。植物遺体を多く含む。	
6	粘性あり。縮まりあり。灰褐色 (75YR5/1)。炭化物を含む。	
7	灰白色 (N7/0)。灰色 (7.5YR5/1) 土を含む。	
8	粘性あり。縮まりあり。灰色 (7.5YR5/1)	
9	粘性あり。縮まりあり。灰色 (5Y5/1)	
10	粘土。縮まりあり。青灰色 (5B6/1)	Ⅲc層 (4A区)
11	粘性あり。縮まりあり。暗青灰色、灰色 (N4/0)。地山崩壊角礫 (青色) を多く含む。	
12	粘性あり。縮まりあり。暗灰色、黃灰色 (25Y6/1)。地山崩壊角礫 (青色) を多く含む。	
13	灰白色、青灰色 (5BG6/1)。地山崩壊角礫を多く含む。	
14	黄褐色、黄橙色 (75YR7/8)	
i	粘性あり。縮まりあり。灰黄褐色 (10YR5/2)	
ii	粘性あり。縮まりあり。褐灰色 (10YR5/1)	
iii	粘性ややあり。縮まりあり。にふい黄橙色 (10YR6/3)	

西壁セクション層序（下層）

層	内容	その他の
1	粘性ややあり。縮まりあり。暗褐色、褐灰色 (5YR4/1)。風化した砂岩礫を少量含む。炭化物（腐植）を稀に含む。	ⅢB
2	粘性ややあり。縮まりあり。褐灰色 (7.5YR5/1)。暗褐色と灰色粘土ブロック混。風化砂岩礫を少量含む。	ⅢC-0
3	粘性あり。縮まりあり。褐灰色 (10YR6/1)。暗灰褐色。風化砂岩礫 (2~3mm) を稀に含む。炭化物を稀に含む。	
4	粘性あり。縮まりあり。褐灰色 (10Y5/1)。暗灰褐色と灰色粘土ブロック多混。炭化物と植物遺体を多く含む。	ⅢC-1
5	粘性あり。縮まりあり。灰黄褐色 (10YR6/2)。褐色と灰色粘土を含む。炭化物を少量含む。	
6	粘性強。縮まりあり。灰色 (N6/0)。青灰色（または灰白色）。炭化物及び植物遺体を稀に含む。	ⅢE

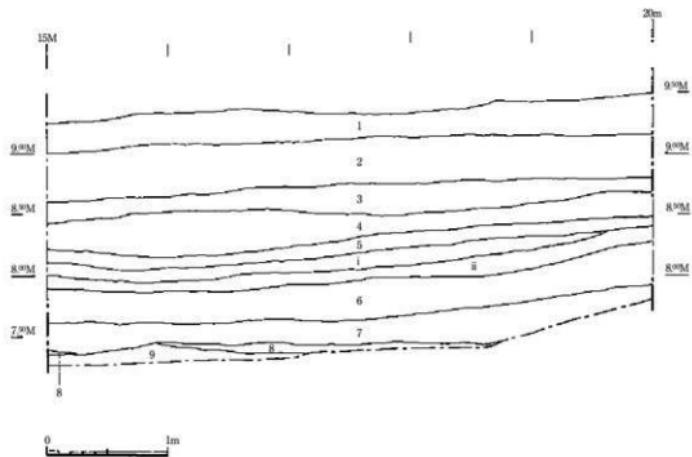
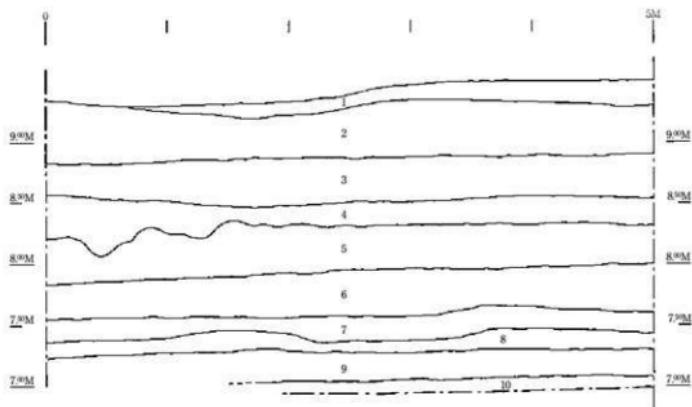
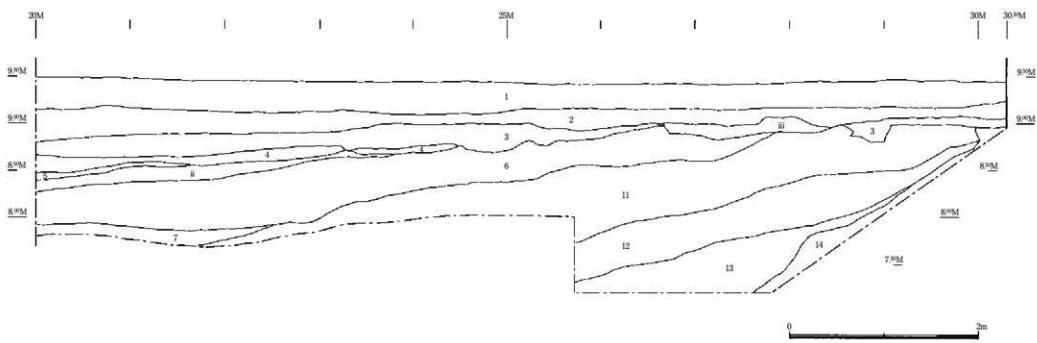
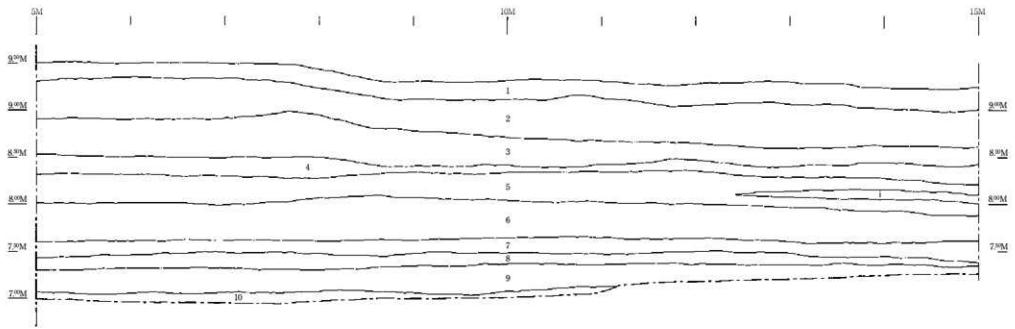


Fig.88 4B区西壁セクション図 (S : 1/40)



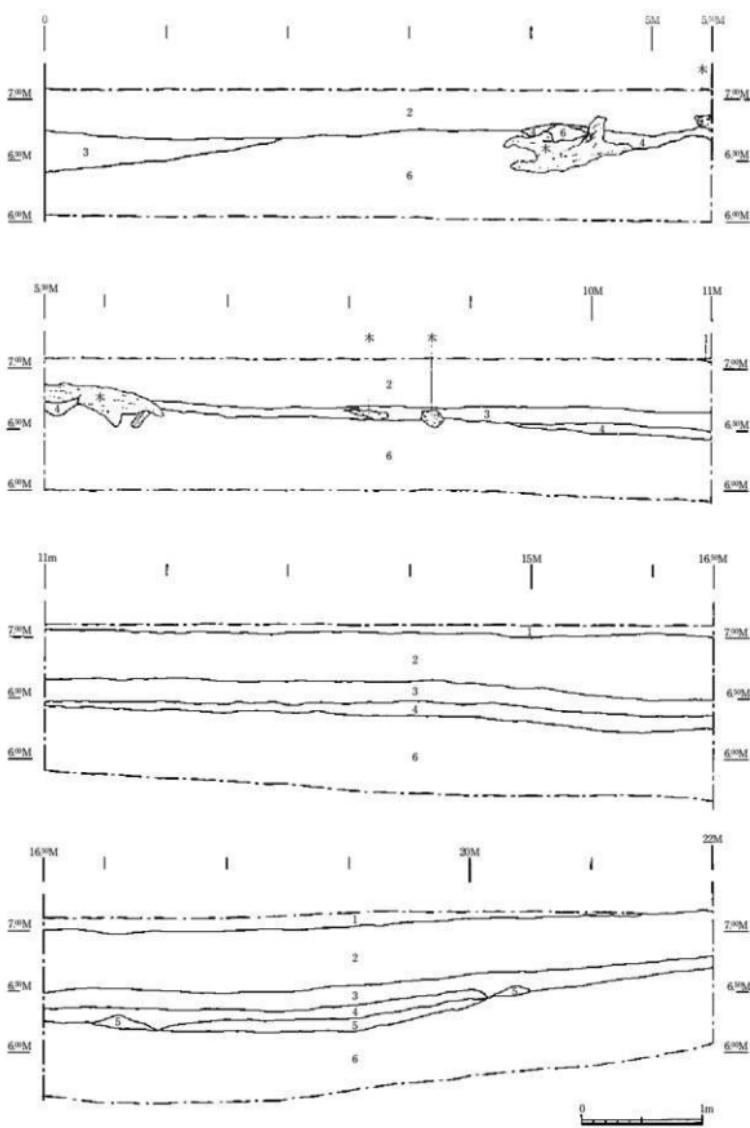


Fig.89 4B区西壁セクション図(下層) (S:1/40)

4. 遺構

遺構は、ⅢE層上面（縄文時代晩期～弥生時代前期）と地山上の主に2面で確認できた。どんぐりピットと考えられる土坑が主に検出されており、堅果類の出土が確認されている。

(1) ⅢE層上面（縄文時代晩期～弥生時代前期）検出の遺構

当該期の検出遺構としてここで取り上げたのは土坑4基である。既報告の1F区で検出されたどんぐりピット群は設置された時期にやや時間差があると考えるのが妥当である。このことから推すと明色系色調を有する遺構検出面として選んだⅢE層上面よりも上位から掘削された遺構が存在すると考えられ、ここでは取り上げなかつたが調査では皿状の極浅い土坑底部と考えられる部分が検出されている。

① SK1 (Fig.90)

調査区東に存在したであろう尾根の裾に当たるK5-23グリッドである。SK1の立地は緩やかな斜面であり、調査時には規模の小さな湧水が周辺には見られた。平面形態は不整円形乃至隅丸方形である。規模は長径1m、短径80cmであり、検出面から底面までの深さは37cmを測る。遺構埋土はⅢC-1層に相当するであろう茶褐色土であり、堅果類（イチイガシ、シラカシ）約1,000点

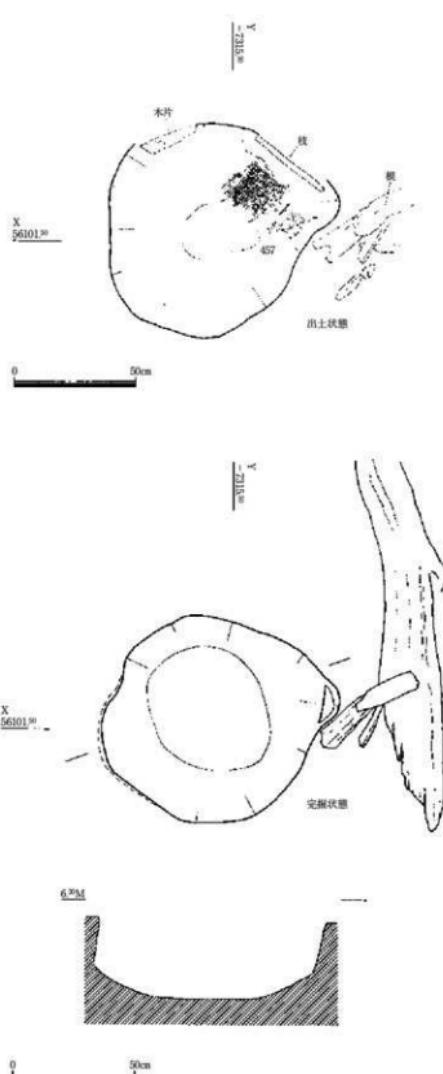


Fig.90 4B区SK1遺構平面図 (S:1/20)

が含まれている。検出面からやや下に掘削した段階で草を編んで製作したものであろう筵（籠？）状製品の一部が遺構埋土と共に検出された。蓋用に土坑を覆っていたものか、もしくは堅果類を入れていた袋状の製品であろうか。土坑は検出面からの深度がやや浅いことや堅果類の残りも少ないことから、貯蔵的な意図よりも水晒し的な機能を優先した遺構か。また、土坑はもう少し上位から掘削されていた可能性もある。出土遺物は植物遺体、板状木製品、網状製品、堅果類である。

② SK 2 (Fig.91)

SK 1 からさほど離れないK6-3グリッドに位置する。Ⅲ E 層に掘削された土坑であり、立地も SK 1 と同様に緩やかな斜面である。平面形態は梢円形であり、規模は長径84cm、短径68cm、検出面からの深さは26cmを測る。遺構埋土は茶褐色土であり、堅果類（イチイガシ、シラカシ、他不明1種）数100点と腐植を含む。貯蔵穴や水晒し場としての機能を考えられ、SK 1 と同時期に設置されたものと考えられる。

出土遺物は堅果類のみである。

③ SK 6 (Fig.92)

調査区の東側斜面下のK5-23グリッド、SK 1 の北東に位置する。検出は SK 1 と同様Ⅲ E 層上

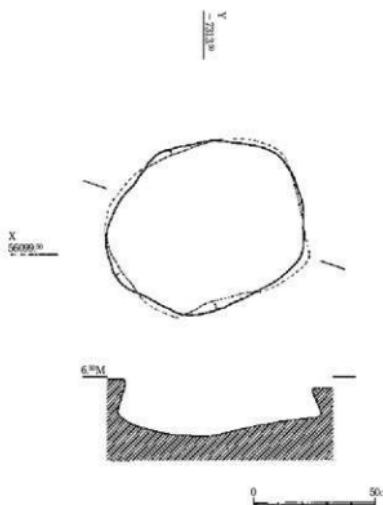


Fig.91 4B区SK2遺構平面図 (S:1/20)

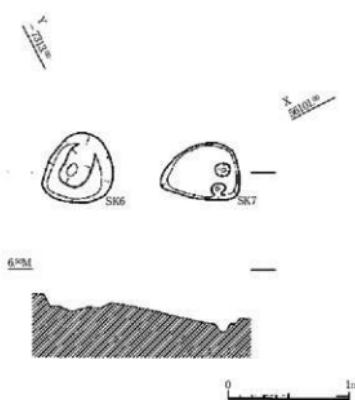


Fig.92 4B区SK6・7遺構平面図 (S:1/40)

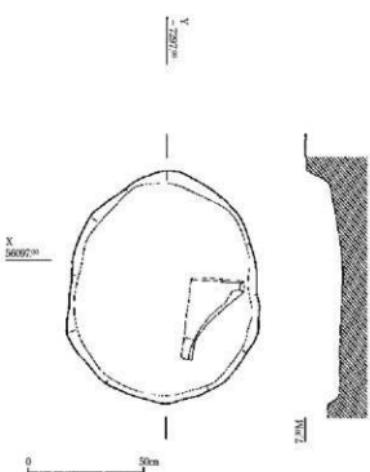


Fig.93 4B区SK3遺構平面図 (S : 1/20)

面である。平面形態は不整円形であり、規模は長径60cm、短径58cm、検出面からの深さは20cmを測る。遺構埋土は白色粘土が混じった茶褐色土であり、堅果類（イチイガシ、他不明1種）である。規模はやや小さいがSK1やSK2と同様貯蔵穴か水晒し場であろう。

④ SK 7 (Fig.92)

調査区の東側斜面下のK5-23・24グリッド、SK6に隣接して存在する。検出はⅢE層上面である。平面形態は楕円形であり、規模は長径66cm、短径46cm、検出面からの深さは20cmを測る。遺構埋土はSK6と同じく茶褐色土であり、堅果類の出土は見ないが、貯蔵穴か水晒し場的な性格の遺構であろう。

⑤ SK 3 (Fig.93)

調査区東側の傾斜面下、L6-2グリッドに位置する。ⅢE層上面で検出された他の土坑と遺構埋土が異なることや堅果類の出土を見なかったことから、SK1やSK2等とは性格を違えるものと考えられる。また、検出はⅢE層であったが掘削は更に上層から行われていたものであろう。ⅢE層はこの辺りで多くの青色地山崩壊角礫を含んでおり、SK1等が存在する箇所よりもやや急な傾斜面を成している。平面形態は楕円形であり、長径97cm、短径80cm、検出面からの深さは16cmを測る。遺構埋土は暗灰色粘土であり、灰褐色の粗砂粒を含む。

出土遺物は板状に加工された厚手の木製品破片であり、用途は不明である。

(2) 地山検出の遺構

① SK 5 (Fig.94)

調査区の東側、地山面の斜面際で検出された土坑であり、L5-6・11グリッドに位置する。平面形態は不整梢円形であり、規模は長径1m、短径68cm、検出面からの深さは最大で42cmを測る。遺構埋土は暗褐色土の單層である。底面の形態は一様でなく凹凸が激しく、平面形にも人工的な要素が窺えない。木か木根の抜き跡であろうか。

出土遺物は弥生土器の甕頭部が2点と他に細片である。

弥生時代末から古墳時代のものであろう。

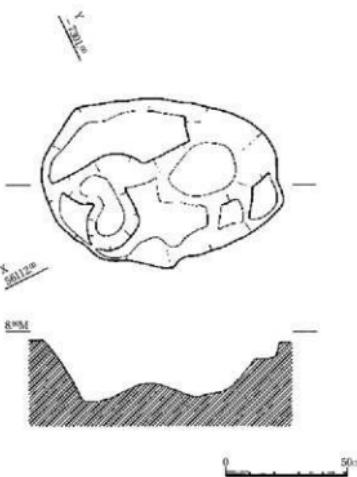


Fig.94 4B区SK5遺構平面図 (S:1/20)

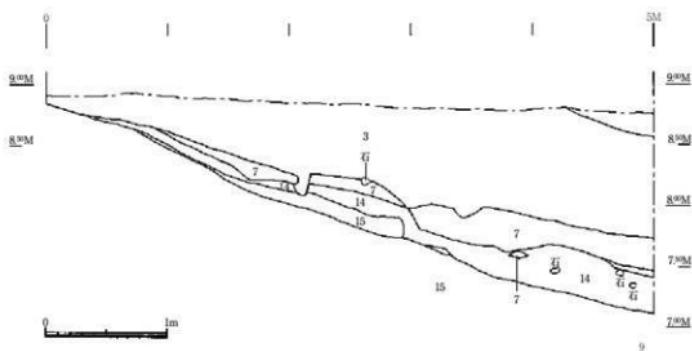
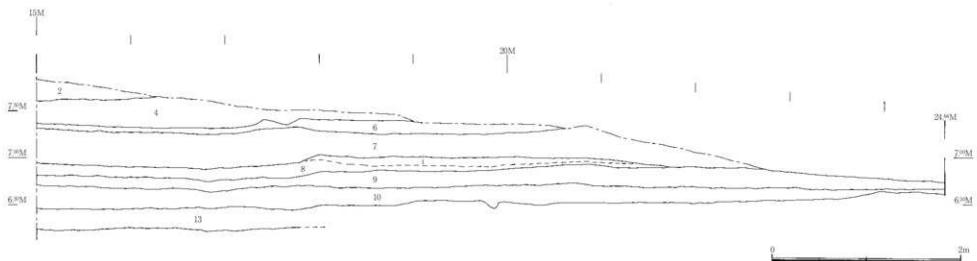
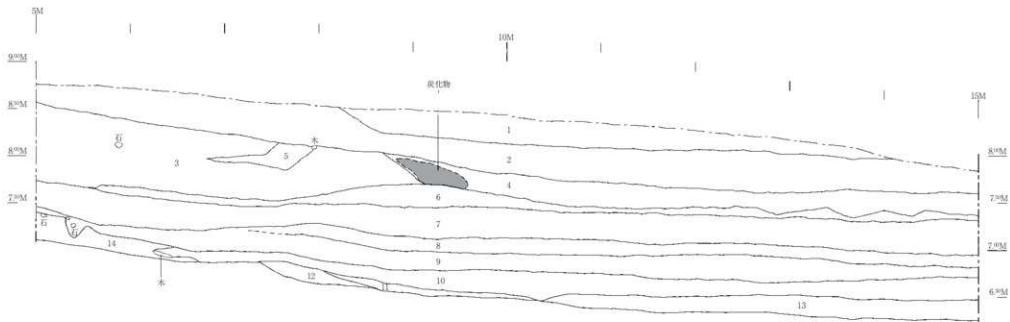


表37. 4B区南北ベルトセクション層序表

層	内容	その他
1	粘性あり。締まりあり。黒褐色(7.5YR2/2)腐植を多く含む。青色角礫を少し含む。	
2	粘性あり。締まりあり。黒褐色(7.5YR3/2)木片を含む。青色角礫を多く含む。	III B - 0
3	粘性あり。締まりあり。黄灰色(2.5Y4/1)。円礫、青色地山崩壊角礫を多く含む。	III D
4	粘性あり。締まりあり。黒褐色(10YR3/1)。褐灰色(10YR5/1)土、灰白色(10YR7/1)土が混入する。	III B - 1
5	粘性あり。締まりあり。黒褐色(7.5YR3/1)。腐植を含む。青色角礫を多く含む。	
6	粘性あり。締まりあり。褐灰色(7.5YR3/1)。腐植・木片を多く含む。青色角礫を含む。	III B - 2
7	粘性あり。締まりあり。褐灰色(10YR4/1)。青色角礫を多く含む。木片、炭化物を少し含む。	III B - 3
8	粘性あり。締まりあり。灰色(5YR6/1)。青色角礫を多く含む。木片、炭化物を少し含む。	
9	粘性あり。締まりあり。灰色(2.5Y5/1)。灰色(N7/0)粘土を含む。青色角礫を多く含む。	III C - 0
10	粘性あり。締まりあり。灰色(7.5Y6/1)。木片を少し含む。青色角礫を多く含む。	
11	粘性やや強、締まりあり。黄灰色(2.5Y5/1)。青色角礫を少し含む。炭化物を少し含む。	
12	粘土。締まりあり。灰白色(7.5Y7/1)。青色角礫を少し含む。	
13	黒褐色(10YR3/1)。腐植を多く含む。褐色(7.5YR4/4)礫、青色角礫を少し含む。	III C - 1
14	粘性やや強、締まりあり。灰色(5Y6/1)。青色角礫を多く含む。炭化物を少し含む。	
15	粘土。締まりあり。灰色(2.5GY8/1)。青色角礫を少し含む。炭化物を少し含む。	
i	粘性あり。締まりあり。灰色(5Y6/1)。青色角礫を含む。	

Fig.95 4B区南北ベルトセクション図 (S : 1/40)



5. 遺物

遺物はⅢE層上面で確認された各遺構とⅢE層、ⅢC層群、ⅢD層群、ⅢB層群の各層から出土した。

(1) 遺構出土遺物

①ⅢE層上面検出遺構の遺物

S K 1 出土遺物

堅果類¹⁾（イチイガシ、シラカシ他）約1,000個と小型の植物遺体が出土している。先述の様に貯蔵穴としてはやや浅めであり、検出面よりも更に上位から掘削された可能性があるが、ここでは堅果類を覆う（蓋または袋状のものか）草本類²⁾を材料とした編状製品の一部が発見されている。また、獸骨破片が出土している。

S K 2 出土遺物

堅果類（イチイガシ、シラカシ他）が少量出土している。

S K 6 出土遺物

堅果類（イチイガシ他）が少量出土している。

S K 3 出土遺物 (Fig.93)

製品としてここでは図示し得ないが、板状の木製品の一部分が出土している。規模は約35cm × 25cm、厚さ約5cmであり、一側面は凸面で仕上げられている。農工具の一部か。

②地山検出の遺構

S K 5 出土遺物

遺構の形態は先述のように不整形であり、人工的な要素が低い。弥生土器の甕頸部2点と細片が出土している。

注

1) 大型植物化石の樹種に関しては新山氏による分析結果「居德遺跡群出土の大型植物化石」「居德遺跡群 IV」を参考にさせて頂いた。特にイチイガシ、シラカシについてはサンプルを抽出し、これを基準として行った。

2) 樹種同定についてはパレオ・ラボによる分析を参照されたい。

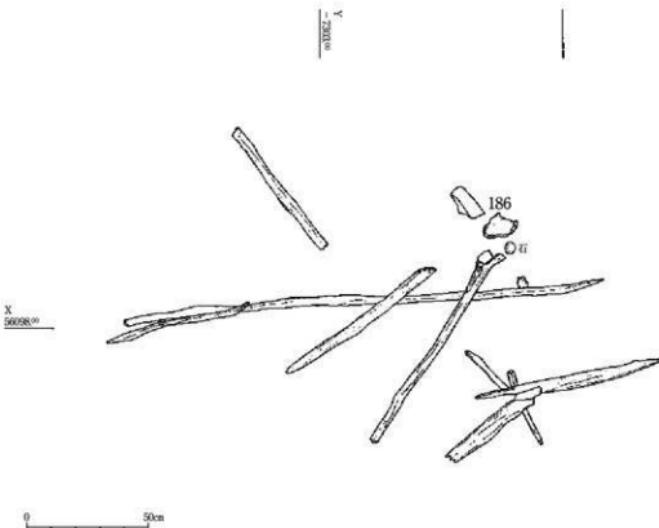


Fig.96 4B区遺物出土状態1 L 6-1 グリッド (S : 1/20)

(2) 包含層出土遺物

①土器・土製品

ⅢE層出土土器・土製品 (Fig.99)

ⅢE層から出土した土器・土製品の総点数39点である。縄文土器29点、弥生土器10点である。縄文土器は深鉢が25点、浅鉢が4点である。弥生土器は壺胴部が4点、壺が6点である。

・縄文土器

図示したものは1～8の8点である。1は縄文後期深鉢の口縁か。沈線を用いた施紋が見られる。2・3は浅鉢の口縁である。内面には縄文が施され、沈線で区画される。外面は条痕が見られる。4は深鉢の体部上位であり、屈曲の後に口縁は内傾する。5から7は深鉢の口縁である。8は浅鉢の底部であり、凹面を成す。

ⅢC層群出土土器・土製品 (Fig.100～105)

ⅢC層群出土遺物はⅢC層、ⅢC-0層、ⅢC-1層、ⅢC-2層の各層出土遺物に区分される。

ⅢC層から出土した土器・土製品の総点数は1,274点である。このうち縄文土器は41点、弥生土器は1,176点、土師器は9点である。縄文土器のうち浅鉢は5点、深鉢は34点である。弥生土

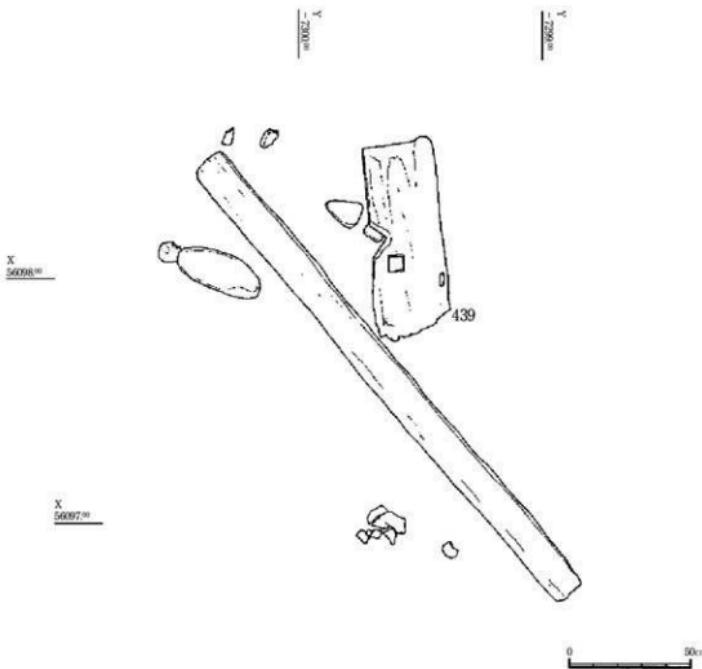


Fig.97 4B区遺物出土状態2 L 6-1・2グリッド (S : 1/20)

器のうち甕は660点、壺は205点、鉢は12点、器台9点、高坏は3点である。土師器のうち甕は7点、壺は1点、高坏は1点である。

III C-0層から出土した土器・土製品の総点数は599点である。このうち縄文土器は4点、弥生土器は211点、土師器は240点である。縄文土器のうち深鉢は3点である。弥生土器のうち甕は185点、壺は20点、器台は4点、鉢は2点である。土師器のうち甕は236点、高坏は2点、鉢は1点である。

III C-1層から出土した土器・土製品の総点数は145点である。このうち縄文土器は4点、弥生土器は82点、土師器は2点である。縄文土器のうち浅鉢は2点、深鉢は2点である。弥生土器のうち甕は57点、壺は25点である。土師器のうち鉢は1点、甕は底部が1点である。

III C-2層から出土した土器・土製品は5点のみである。弥生土器の甕が2点と壺が3点出土している。

III C層で表れる土器・土製品の出土点数の偏りは、III C層群が弥生土器包含層であること示

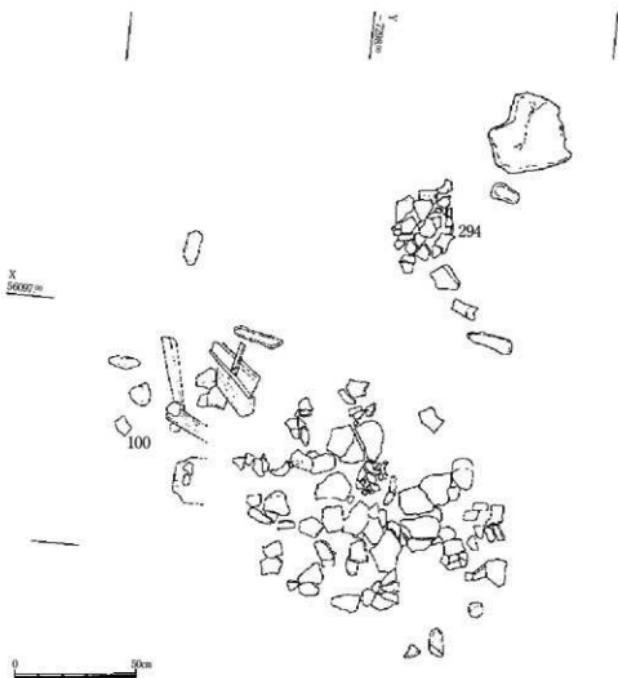
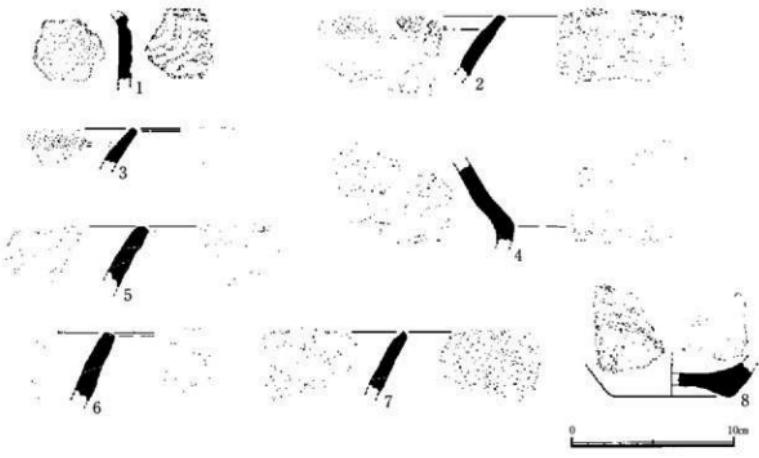


Fig.98 4B区遺物出土状態3 L 6-2グリッド (S : 1/20)

している。本層群の古い段階では縄文土器や縄文系土器¹⁾を伴った弥生前期土器が主体を成している。新しい段階（Ⅲ C - 0層）では弥生中期末から後期の土器が多くを占めている。

9から13は浅鉢である。9は内面に沈線状の段を有し、外面には弱い段を持つ。10は波頂部であり端部に2ヶ所を押圧して刻む。11は内脣して立上がる口縁である。形態はボウル状を成すものと考えられる。12・13は口縁下の屈曲部である。12の口縁は外反して広がり、13の口縁は内傾して立上がる。14から32は壺である。14は斜位の3条ヘラ描き沈線紋が見られる。15は重弧紋。16は横位のやや彎曲するヘラ描き沈線帶。17は沈線状の段部が見られる。18は3条の曲線を主体とする沈線紋と斜位の沈線が施される。19は重弧紋である。20・21は明瞭な区画沈線と無軸木葉紋を施す。22は多条のヘラ描き沈線帯が見られる。23は2条の区画沈線。24は3条の区画沈線と弱く彎曲する斜位の沈線紋が見られる。25は区画沈線と矢羽根状の沈線紋が見られる。26は矢羽状の沈線紋が見られる。27は24と同様な紋様か。綾杉状の沈線紋か。極く細



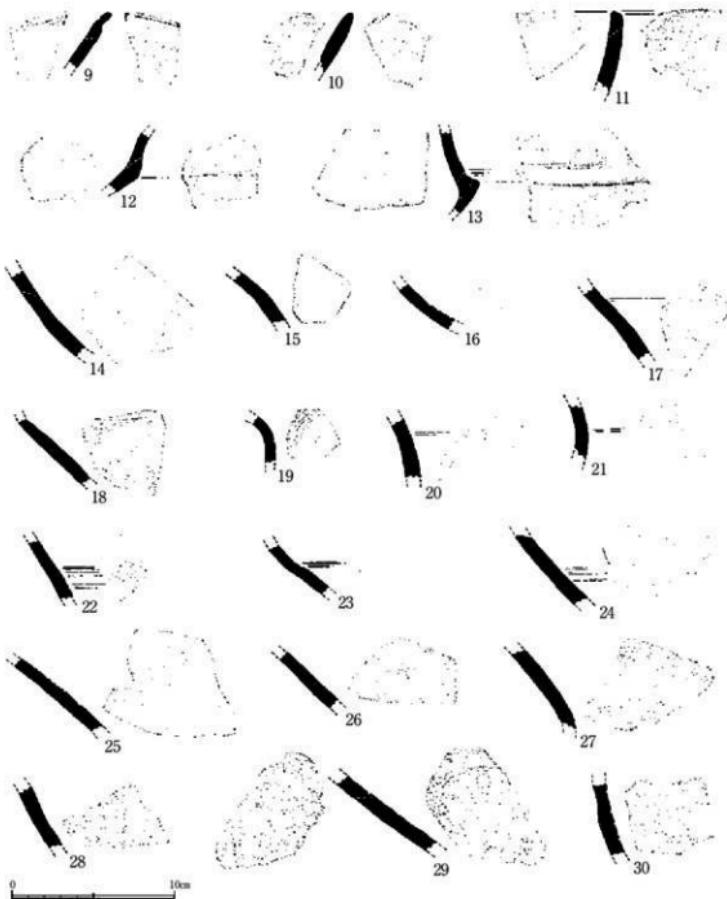
遺物 No.	測定・絵録
1	内面ナデ 内面沈線
2	内面 (L1) 楕円LR、沈線 1 条 (体) ナデ 外面 ハラミガキ
3	内面 (L1) 2 ガキ (L1B 下) L30mm 矢、1 条沈線 外面 (L2) ヘテミガキ
4	内面 (側) ナデ 外面 (側) ナデ

遺物 No.	測定・絵録
5	内面ナデ 黒面条痕
6	内面 (L1) ナデ (L1B) 刺突筋
7	内面 (L1) ナデ 外面 (L2) ナデ、凸凹筋
8	内面 (底) ナデ 外面ナデ

Fig.99 4B区出土遺物1 III E層 (S : 1/3)

い沈線で構成される。28は重弧紋である。29はやや粗製の胎土である。器面に2条沈線による重弧紋が施される。30は多条のヘラ書き沈線帯であり、弥生前末期か。31は断面台形の刻目突帯が沈線帯に貼付されるものであり、弥生前末期である。32は4条のヘラ書き沈線帯を施す。

33から70は縄文土器または縄文系土器の深鉢形、甕である。33は深鉢形であり、口縁下に低い突帯が付き、押圧の刻みを施す。34は深鉢形であり、口縁外面に断面三角形の突帯が付き、押圧の刻みを施す。35は口縁下に突帯が貼付され不明瞭な刻みを施す。36は口唇下の断面三角形突帯に刺突風の刻みを施す。37はやや扁平な断面鉢形の突帯であり、縱長の刻みを施す。38は口縁が緩やかに外反して開く深鉢形であり、口縁外面に断面三角形の突帯が付く。39は開く口縁に断面形が垂下した三角形を呈する突帯を貼付し、連続的に刻む。40は開く口縁に幅太の突帯が付き押圧風に刻みを施す。41は低い扁平な突帯に不規則な刺突風の刻みを施す。42は口縁下に断面三角形の突帯が付き、刻みは不明瞭で連続的である。43は小さく突出する突帯に刻みを施す。44は口唇下の幅広で低い突帯に連続的な刺突風の刻みを施す。45は口縁外面に断面三角形の突帯を貼付し連続的に刻む。46から51は口縁外面に貼付された突帯下に外面からの未貫通孔が孔列紋様に施されており、内面側には大きく粘土が盛り上がる。46は口縁外面の断面三角形突帯に不明瞭な刻みが施される。47は口縁外面に無刻みの断面三角形突帯が貼付され



遺物 No.	測定・絞組
9	内面 (L2管下) 1条沈痕 (L2) ヘラミガキ 外面 (L2) ナデ (体) 挿過 内面 (L2) ヘラミガキ 内面 (L2) 挿過、波浪部の口唇に伸ばによる2ヶ所の凹入 (L2管下)
10	内面 (L2) ナデ 外面 (L2) ナデ、波浪部の口唇に伸ばによる2ヶ所の凹入 (L2管下)
11	内面 (L2) ナデ 外面 (L2) ナデ
12	内面 (体) ヘラミガキ 外面 (体) ヘラミナデ
13	内面 (体) ヘラミガキ 外面 (体) ヘラミガキ
14	内面 (頭) ナデ 外面 (頭) ナデ、沈痕
15	内面 (頭) ナデ 外面 (頭) ナデ
16	内面 (頭) ナデ 外面 (頭) ナデ
17	内面 (頭) ナデ 外面 (頭) ナデ
18	内面 (頭) ナデ 外面 (頭) ナデ
19	内面 (頭) ナデ 外面 (頭) ナデ
20	内面 (頭) ナデ 外面 (頭) ナデ
21	内面 (頭) ナデ 外面 (頭) ナデ、屈曲状沈痕、黒褐色斑紋
22	内面 (頭) ナデ 外面 (頭) ナデ、ヘラ抹拭痕
23	内面 (頭) ナデ 外面 (頭) ナデ (頭) 沈痕2ヶ所
24	内面 (頭) ナデ 外面 (頭) 沈痕の沈痕、3条沈痕、横筋山形紋
25	内面 (頭) ナデ 外面 (頭) ヘラミガキ、刃状沈痕 (波紋?)
26	内面 (頭) ナデ 外面 (頭) ナデ、刃状紋
27	内面 (頭) ナデ 外面 (頭) ナデ、刃状紋
28	内面 (頭) ナデ 外面 (頭) ナデ、ヘラ抹拭痕、山形紋
29	内面 (頭) ナデ 外面 (頭) ナデ (頭) 沈痕区画化線、下弦筋塊紋

遺物 No.	測定・絞組
20	内面 (頭) ナデ 外面 (頭) ナデ、黒褐色斑紋、屈曲状沈痕
21	内面 (頭) ナデ 外面 (頭) ナデ、屈曲状沈痕、黒褐色斑紋
22	内面 (頭) ナデ 外面 (頭) ナデ、ヘラ抹拭痕
23	内面 (頭) ナデ 外面 (頭) ナデ (頭) 沈痕2ヶ所
24	内面 (頭) ナデ 外面 (頭) 沈痕の沈痕、3条沈痕、横筋山形紋
25	内面 (頭) ナデ 外面 (頭) ヘラミガキ、刃状沈痕 (波紋?)
26	内面 (頭) ナデ 外面 (頭) ナデ、刃状紋
27	内面 (頭) ナデ 外面 (頭) ナデ、刃状紋
28	内面 (頭) ナデ 外面 (頭) ナデ (頭) 沈痕区画化線、下弦筋塊紋
29	内面 (頭) ナデ 外面 (頭) ナデ、ヘラ抹拭痕1-2条、半弦竹管による下弦筋塊紋
30	内面 (L2) ナデ 外面 (L2) ナデ、黒褐色斑紋2条

Fig.100 4B区出土遺物2 III層群 (S : 1/3)

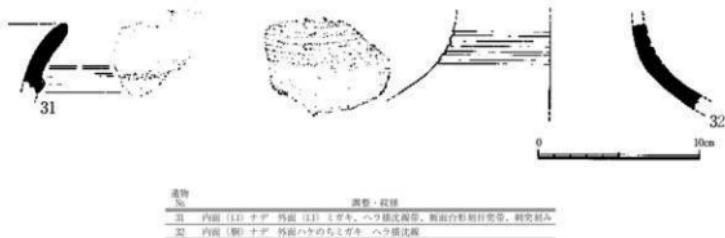


Fig.101 4B区出土遺物3 III C層群 (S : 1/3)

る。48は大きく広がる口縁外面にやや垂下気味の突帯が付き、連続的な刻みを施す。49は口縁外面の断面三角形突帯をやや縦長に刻む。50は口縁外面に断面形がやや垂下する三角形の突帯が貼付され、連続的に刻む。51から56は口唇外端と口縁外面に刻みを施すものである。51は口唇外端と突帯を押圧風に刻む。52は口唇外端を押圧風に刻み、断面三角形の突帯は縦長に刻む。53は口唇外端と断面三角形突帯を連続的に刻む。突帯下口頭部の無紋部に縦位の3条を一単位とする沈線紋を施す。54の刻みは連続的である。口唇外面は押圧風であり、突帯には刺突風な刻みが施される。55には小さく浅い刻みが施される。56は口唇外端に施された刻みが不明瞭で、突帯にはやや縦長の刻みを施す。57は口唇外端に刺突による刻みを施す。58は外反する口縁を有し、口唇では連続的に刻みを施す。59は口唇外端を押圧風に刻む。60は口唇外端を刺突風に刻む。61は口唇が外側にやや肥厚し、不明瞭な刻みが施される。62から64は口頭部が短く外反する壺である。口唇または口唇外端を押圧風に刻む。65は弥生前期の壺であり、口唇の平端面を筋状に刻む。灰褐色の胎土であり、器面は丁寧に仕上げる。66から70は深鉢形の胴部に貼付された突帯である。66は突帯に小さな刻みが施される。67は突帯に連続的な刻みを施す。68は断面台形の突帯に刺突風の連続的な刻みを施す。69は段ともとれる低い扁平な突帯に筋条の刻みを施す。70は突帯に連続する不明瞭な刻みを施す。71から82は弥生中期末以降の土器である。71と74は肥厚する口縁外面に筋状の刻みを施し、下位には瘤状の浮紋が見られる。74では胴部上位に瘤状の浮紋が付き、直下には「ノ」字状の刻み列と柳描沈線が施される。73は肥厚する口縁下端をヘラ状原体により押圧風に刻む。75は口縁が垂下して肥厚し、下端を連続的に刻む。76は肥厚する口縁外面に押圧痕が残る。77は肥厚する口縁下端を連続的に刻む。78は垂下して肥厚する口縁下端を押圧風に刻む。79は口唇外端をやや疊に刻む。80は胴部がやや長胴形を呈する。口縁は頭部の屈曲から直線的に立上がり、口唇は外側にやや肥厚する。外面にはタタキのちハケが施される。81・82は頭部の屈曲から口縁は直線的に立上がる。81は胴部内面にケズリ痕が残り、82は胴部外面にタタキ目が残る。83は深鉢形の胴部上位であり、突帯には半截竹管による刺突刻みが施される。84は深鉢の胴体部である。内面には厚く炭化物が付着する。85は深鉢の胴体部であり、外面には条痕が施される。86は底平の深鉢底部である。外面には条痕が施される。

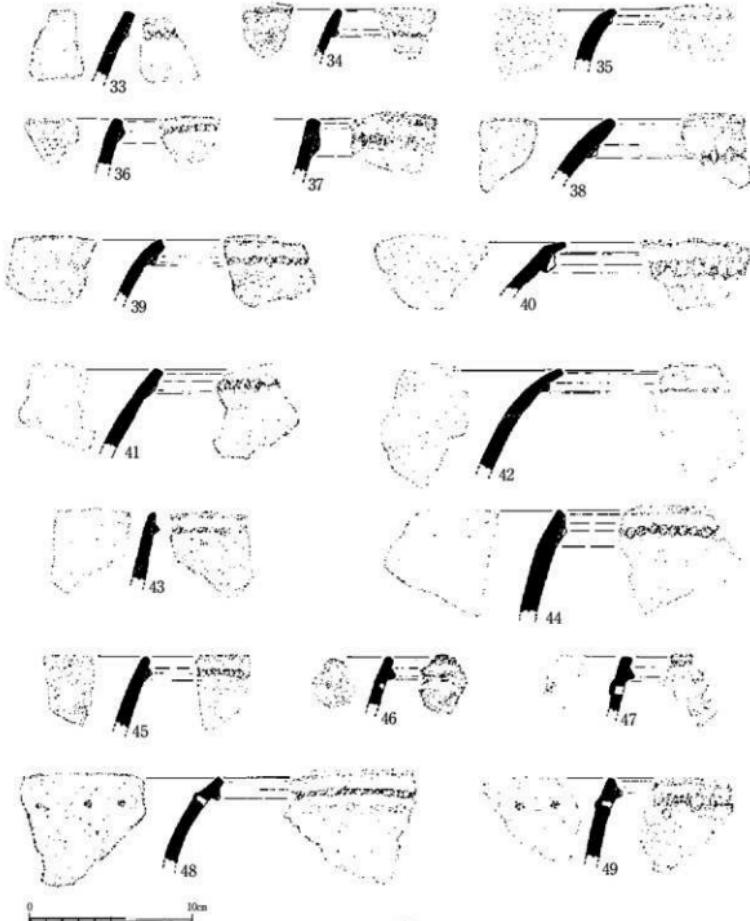
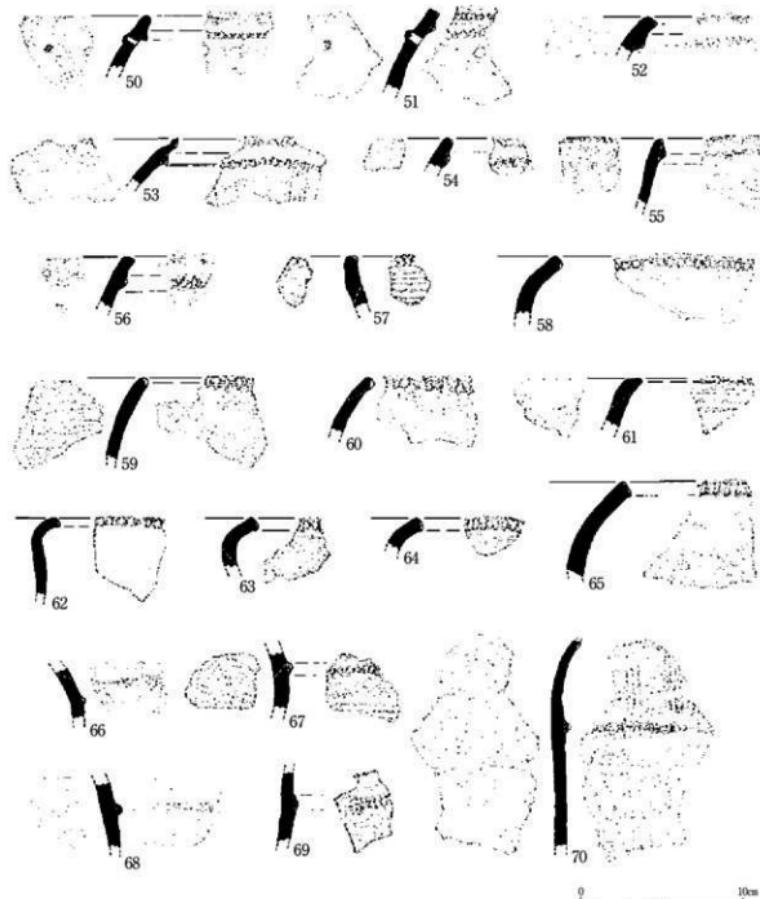


Fig.102 4 B区出土遺物4 ⅢC層群 (S : 1/3)

通巻 No.	調査・経緯		調査・収集
	内面	外縁	
33	内面 (L) ナデ 外縁 (L) ナデ。長い側扁三角形前部を帶び特徴的な押縫あり。		42 内面 (L) ナデ 外縁 (L) ナデ。細長い角形前部を帶び特徴。密なやわらかい鱗状の筋膜あり。下方位接合部。
34	内面 (L) ナデ 外縁 (L) ナデ。腹面二角形前部突出。やや密な押縫あり。		43 内面 (L) ナデ 外縁 (L) ナデ? 小さな筋膜あり。角形前部を帶び特徴。
35	内面 (L) ナデ 外縁 (L) ナデ? 機械的二角形前部を帶び特徴。胸刺風模様、腹縫合筋膜あり。		44 内面 (L) ナデ 外縁 (L) ナデ。三角形前部を帶び特徴。密な筋膜あり。
36	内面ナギテ、外縁ナギテ。頭部後方突起あり。小さな胸刺風模様あり。脛部後方		45 内面 (L) ナデ 外縁 (L) ナデ。小さな筋膜あり。角形前部を帶び特徴。小さな押縫筋膜あり。接合部。
37	内面 (L) ナデ 外縁 (L) ナギテ。腹面兩側三角形前部を帶び。密な筋膜あり。		46 内面 (L) ナデ 外縁 (L) ナデ。腹面二角形前部を帶び特徴。腹縫合、兜縫合後正面貫通孔。(P, 5 mm) 上部。
38	内面 (L) ナギテ 外縁 (L) ナギテ。腹面二角形前部を帶び。大きな胸刺風模様あり。		47 内面 (L) ナギテ、外縁 (L) ナギテ (口器外) 筋膜の小さな筋膜。腹面二角形前部を帶び特徴。腹縫合後正面貫通孔。(P, 6 mm)
39	内面 (L) ナギテ 外縁 (L) ナギテ。腹面二角形前部を帶び。ややくぼ(風模)。尾連接着1条。		48 内面 (L) ナギテ 外縁 (L) ナギテ。腹面二角形前部を帶び特徴。小さな押縫筋膜あり。脛部後方突起あり。頭部後方筋膜あり。(P, 3 mm)
40	内面 (L) ナギテ 外縁 (L) ナギテ。腹面二角形前部を帶び特徴。棘風模様あり。		49 内面 (L) ナギテ 外縁 (L) ナギテ。腹面二角形前部を帶び特徴。密な筋膜部をA、Bと分離する筋膜孔。(P, 3~5 mm)



番号	調査・絞り	番号	調査・絞り
50	内面 (L) ナデ 外面 (L) ナデ 斜面・直角形斜面貼付、小さな斜面風呂込み、や小窓、安田市東普通乳頭 (L) ナデ 口付外側剥離。	60	内面 (L) ナデ 外面 (L) ナデ 口唇部やや壘な斜面風呂込み
51	内面 (L) ナデ 外面 (L) ナデ 口付外側剥離。	61	内面 (L) ナデ 口唇部狂乳頭、外腹 (L) ナデ、口唇部狂風呂込み
52	内面 (L) ナデ 外面 (L) ナデ 斜面・直角形斜面貼付、小さな斜面風呂込み、や小窓、安田市東普通乳頭 (L) ナデ 口付外側剥離。	62	内面 (L) ナデ 口唇部狂乳頭 (L) ナデ
53	内面 (L) ナデ 外面 (L) ナデ 口付外側剥離。	63	内面 (L) ナデ 口唇部狂乳頭 (L) ナデ
54	内面 (L) ナデ 外面 (L) ナデ 斜面・直角形斜面貼付、小さな斜面風呂込み、や小窓、安田市東普通乳頭 (L) ナデ 口付外側剥離。	64	内面 (L) ナデ 口唇部狂乳頭 (L) ナデ
55	内面 (L) ナデ 外面 (L) ナデ 口付外側剥離。	65	内面 (L) ナデ 口唇部狂乳頭 (L) ナデ
56	内面 (L) ナデ 外面 (L) ナデ 口付外側剥離。	66	内面 (L) ナデ 外面 (L) ナデ 口唇部狂乳頭 (L) ナデ
57	内面 (L) ナデ 外面 (L) ナデ 口付外側剥離。	67	内面 (L) ナデ 外面 (L) ナデ 口唇部狂乳頭 (L) ナデ
58	内面 (L) ナデ 外面 (L) ナデ 口付外側剥離。	68	内面 (L) ナデ 外面 (L) ナデ 口唇部狂乳頭 (L) ナデ
59	内面 (L) ナデ 外面 (L) ナデ 口付外側剥離。	69	内面 (L) ナデ 外面 (L) ナデ 口唇部狂乳頭 (L) ナデ
60	内面 (L) ナデ 外面 (L) ナデ 口唇部狂乳頭 (L) ナデ	70	内面 (L) ナデ 外面 (L) ナデ 口唇部狂乳頭 (L) ナデ

Fig.103 4B区出土遺物5 ⅢC層群 (S : 1/3)

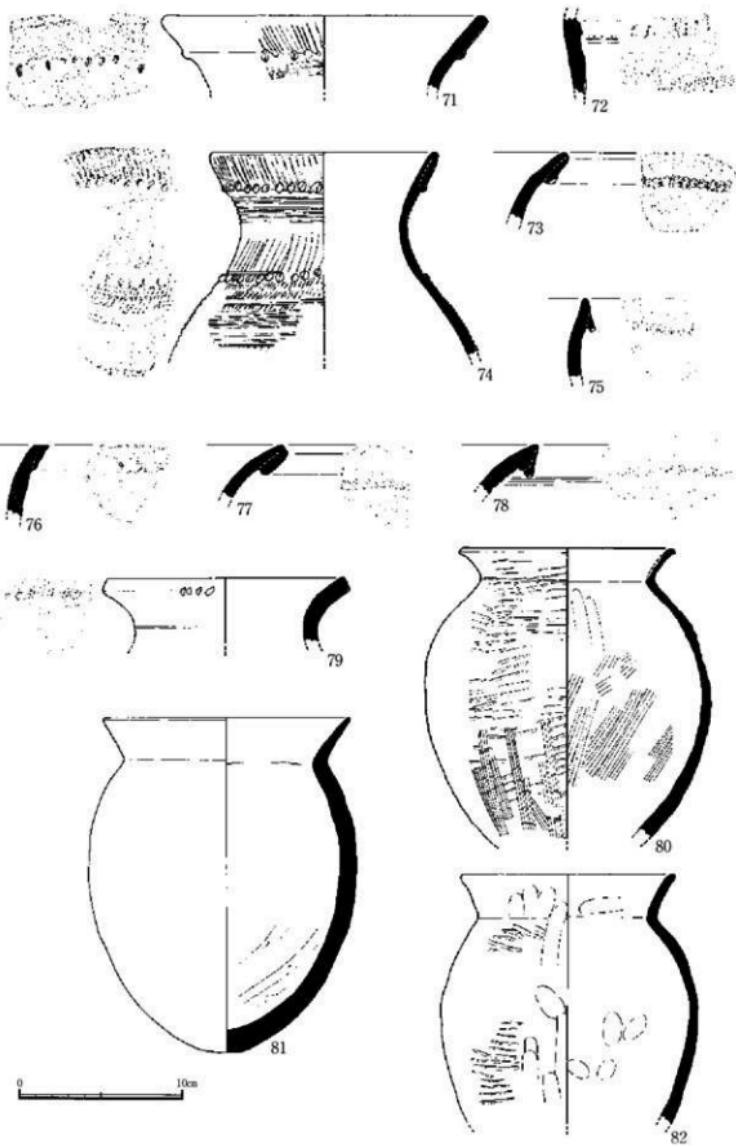
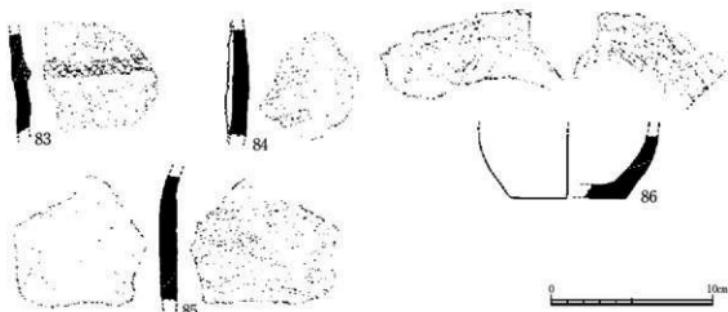


Fig.104 4 B区出土遺物6 III C層群 (S : 1/3)



遺物 No.	測量・絆様
71	内面 (L) ナデ 外面斜削刃のみ。縦模沈痕。縦模汎痕
72	内面 (削) ナデ、縦模痕 外面 (削) ナデ、縦模汎絆列。縦模? 比縦 2 条、斜削斜削刃ナデ
73	内面 (L) ナコ彫りハケ 外面 (L) ナデ 斜面底下三角形粘土帯粘付。ハケ 異常例によるか押打風削み、削ハケ
74	内面 (L) ナデ (削) ナデ 外面 (L) ハラ状工具による削み、汎絆列。縦模汎痕。縦模斜削刃？ 縦模斜削み？ (削上) 縦模沈痕。縦模汎絆列。縦模全体による削み (削中) ハラ削み
75	内面 (L) ナデ 外面 (削) (L) ナデ、やや奥の斜削風削み。高圧削
26	内面 (L) ナデ、浅い凹凸面 外面 (L) ナデ、口唇下押圧痕
27	内面 (L) ナデ 外面 (L) ナデ、口唇下端に削み
28	内面 (L) ナデ 外面 (L) 口唇外側に風削み、縦模汎痕

遺物 No.	測量・絆様
79	内面 (L) ナデ 外面 (L) 剥外縁 神戸削み (L) ナデ
80	内面 (L) ナデ (削) ハケのちナデ 外面 (L) ハタキのちナデ (削上) ハタキ (削下) ハタキのちハケ
81	内面 (L) ナコナデ (削中) ケズリのちナデ (削下) ケズリ 外面 (L) ナコナデ (削) ナデ
82	内面 (L) ナデ (削) ナデ、浅い凹凸面 外面 (L) ナデ (削) ハタキのちナデ
83	内面 (削) ナデ 外面 (削) 山形紋、斜面薄彫削付突起、研究削み (干野竹管？) ナデ
84	外面 (削) 条痕
85	内面 (削) ナデ 外面 (削) ナデ (削下) 条痕
86	内面 (削) ナデ 外面 (削下) 条痕、ナデ

Fig.105 4B区出土遺物7 III-C層群 (S : 1/3)

III D層群出土土器・土製品 (Fig.106~136)

III D層から出土した土器・土製品の総点数は、22,800点である。そのうち、縄文土器は10点、弥生土器は2,224点、土師器は10,518点、須恵器は9点、土師質土器は7点、陶器は2点、磁器は1点である。

縄文土器は深鉢が10点である。弥生土器は壺が1,877点、壺が251点、器台が41点、鉢が40点、高坏が14点、蓋が1点である。土師器は壺が9,307点、高坏が558点、鉢が389点、壺が213点、ミニチュア土器が26点、小型丸底土器が5点、器台と勾玉が各1点、椀が8点である。須恵器は壺が6点、壺が1点、坏身が1点、坏蓋が1点である。土師質土器は坏が7点である。

III D-1層から出土した土器・土製品の総数は、1,280点である。そのうち、弥生土器は60点であり、土師器は475点である。弥生土器は壺が35点、壺が17点、器台が4点、高坏と鉢が各2点である。土師器は壺が448点、鉢が19点、壺と高坏が4点である。

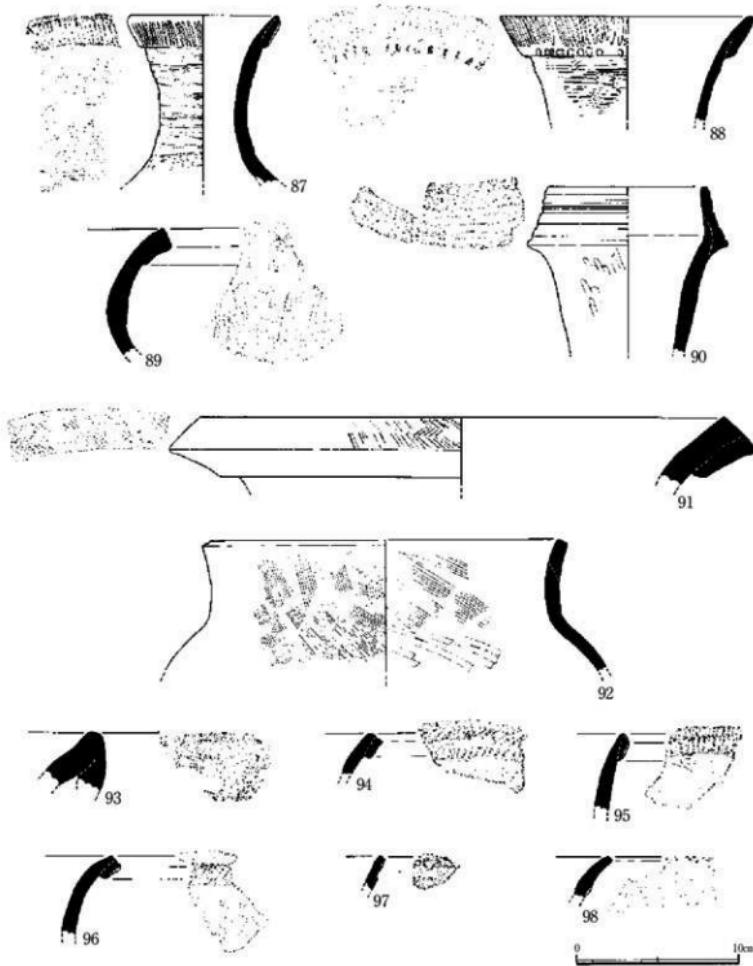
・弥生土器後期以前の土器 (Fig.106~118)

87から118は縄文晚期から弥生後期の土器である。87は長頸の壺口縁であり、粘土帶貼付により肥厚する口縁外面に刻みを施す。頸部には櫛描沈線が施される。88は肥厚する口縁に筋状の刻みと瘤状の浮紋が施される。頸部には櫛描沈線が配される。87・88は弥生中期末のものである。89は肥厚する口縁外面に刻み風の押圧痕を残すものであり、頸部には櫛描沈線と縦位のハケが施される。90は長頸の壺であり、内傾する口縁には箆描き沈線（擬凹線²？）が施される。弥生後期初頭と考えられる。91は広口形の壺であり、肥厚する口縁端面にヘラ状工具による斜線紋（羽状紋？）が施される。弥生後期のものである。92は直口形の壺であり、内外面にハケが施される。93は口縁が大きく外側に肥厚して垂下する。外面には箆描き波状紋を施す。94は肥厚する口縁の外面と端面に連続的な刻みを施す。95も肥厚する口縁の外面と外傾する端面に継長の連続的な刻みを施す。96は肥厚する口縁の外面に斜位で筋状の刻みを施す。97は口縁下に薄い小さな円形浮紋を施す。98は口縁外面の低い突帯を押圧して刻む。99は突帯状に粘土帶を貼付し肥厚する口縁外面を小さく刻む。100は平らな面を成す口唇を斜位の筋状に刻む。また胴部上位にも刻み列を配す。101は垂下して肥厚する口縁の外端を連続的に刻む。102は胴体部上位に断面台形の突帯を貼付して押圧により刻む。103は胴部上位に瘤状浮紋列と3条の筋状刻みを施す。104・105は頸部破片であり、区画沈線と刻み列、押圧による刻みを施した幅広の突帯を配する。106は頸部から胴部上位にかけて櫛描沈線と瘤状浮紋を施す。107は胴部上位に瘤状浮紋と刺突による刻み列を施す。108は頸部から胴部上位に櫛描沈線と刺突による刻み列を施す。103から108は弥生中期末のものと考えられる。109は壺の胴部であり、区画沈線上に無軸木葉紋を配す。110・111は壺の胴部であり、区画沈線下に刺突による米粒状の羽状紋を施す。112は壺の胴部であり、竹管による刺突列が配される。113は口縁が緩やかに外反する深鉢形であり、口縁外面の突帯と口唇を押圧風に刻む。114は壺であり、口唇を押圧して刻む。115は口縁外面に2条の刺突列と無刻み突帯を配する。116は口唇外端を筋状に刻む。117は口唇下に無刻み突帯が付く。118は口唇下の突帯に刺突風の刻みを施す。

・土師器

高坏 (Fig.109~111)

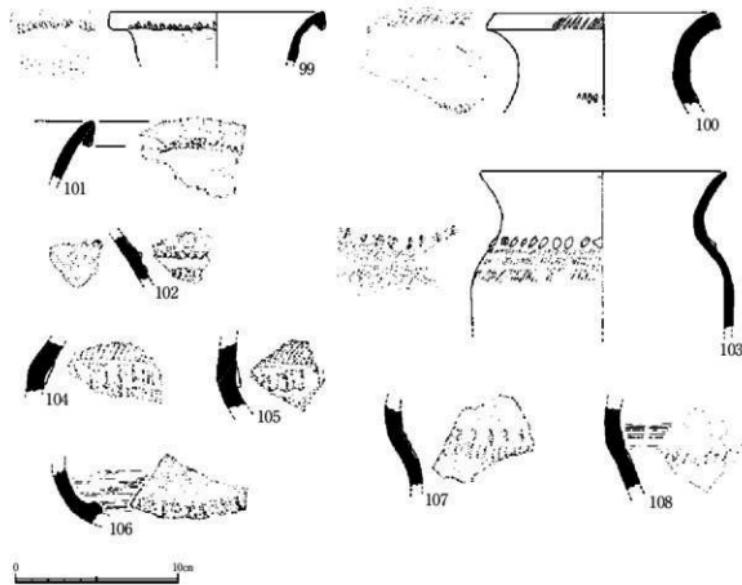
119から130は高坏の坏部に明瞭な段または屈曲を有する。口縁は直線的乃至やや外反して立上がる。119の口縁は屈曲から直線的に立上がる。坏部から脚部は連続しており、裾は大きく広がる。脚部の内底面は中実で凹面を成す。121は脚部が直立気味に立上がる脚柱から裾は外反して開く。122は坏部で弱い段を有し屈曲する。脚部は屈曲の後、裾は直線的に広がる。123は脚部で屈曲の後、裾は内側して広がる。124・125は脚部で屈曲の後、裾は外反して広がる。中実で外面に爪痕を残す。126の脚部は裾へ向かって連続的に外反する。白から灰白色胎土である。127は長い脚柱から屈曲の後、裾は直線的に広がる。129はヘラミガキを施した細長い脚柱から屈曲の後、裾は直線的に広がる。130は直立気味の脚柱から屈曲の後、裾は直線的に広がる。131は坏部で弱い屈曲の後、口縁は直線的に立上がる。脚部は「ハ」の字状に直線的に開く。脚柱の内面には粘土紐巻き上げ痕が残される。132は粗製胎土の高坏であり、口縁は屈曲の後に外反する。脚部は連続的に外反する。133は口縁が屈曲の後に直線的に立上がり、口唇は外傾す



遺物 No.	測定・絞錠
87	内面 (L) ナデ 外面 (L) 口唇外へり別み 條状沈錠
88	内面 (L) ナデ 外面 (L) 繩状ヘラ別み、縄状浮錠、椭球沈錠
89	内面 (L) ナデ、ハケのちナデ、ヨコハケ 外面 (L) 椎体沈錠、テテハケ、椭球沈錠、椎合錠
90	内面 (L) ナデ 外面 (L) ハラ根状沈錠5条 (頭) テテハラミガキ
91	内面 (L) ナデ 外面 (L) ナデ、口唇にハラ状発育による沿状沈錠
92	内面 (L) ハケ (頭上) ヘラナデ 外面 (L) ハケ (頭上) ハケ

遺物 No.	測定・絞錠
93	内面 (L) ナデ 外面 (L) ナデ 椎柱錠
94	内面 (L) ナデ? 外面 (L) ナデ、口唇上へラ別み、口唇下へラ別み
95	内面 (L) ナデのちナデ 外面 (L) ナデ、口唇と口唇外に密な筋状別み
96	内面 (L) ナデ 外面 (L) ナデ、口唇外斜錠別み
97	内面 (L) ナデ 外面 (L) 椎下円錠浮錠 (内側) (L) 斜錠の筋状別み2条
98	内面 (L) ナデ 外面 (L) ナデ、幅広の丸い神柱別み、小穴錠

Fig.106 4B区出土遺物8 III-C層群 (S : 1/3)



遺物	調査・収録
99 内面 (II) ナマ 外面 (I) ナマ 口縁下に凹面、直角折立部を有する。外縁を押付ける。	
100 内面 (II) ナマ 外面 (II) 斜削面状剥離 (I) ナマ (面) 米粒状剥離	
101 内面 (II) ナマ 外面 (I) 斜削面状剥離	
102 内面 (I) ナマ 外面 (I) ハラ押付立張。前面台形前円凸部貼付 (2ヶ)。底面押付部	
103 内面 (II) ナマ (腹) ナマ (背) 突起 (I) ナマ (腹) 剥離浮出剥離、擦痕剥離	
104 内面 (II) ナマ 外面 (I) 表又は側面のみ、浮絵、ハラナマ (面) 漆画剥離 (2ヶ)	
105 内面 (III) ナマ 外面 (I) ハラ底上部にによる剥離、擦痕沈泥、浮絵、ヘナナマ	
106 内面 (I) ナマ 外面 (I) 橢接洗浄、漆脱附剤	
107 内面 (I) ナマ 外面 (I) ナマ 剥離浮出剝離、剥離風剥離	
108 内面 (I) ナマ 外面 (I) 橢接洗浄、剥離風剥離	

Fig.107 4B区出土遺物9 III D層群 (S : 1/3)

る面を成す。134は坏部で屈曲の後に口縁は外反する。脚部は屈曲の後にやや外反して広がる。135は坏部で屈曲の後に口縁は直線的に立上がる。136は粗製胎土の高坏であり、胎土中に細砂粒から砂粒を多く含む。坏部で屈曲の後に口縁は外反して立上がる。坏部下位の器面は荒れる。

137から149は坏部に段や屈曲を有さない、椀形を呈する。137は口縁が内彎して立ち上がり、口唇は面を成す。脚部は概ね連続して外反する。138は浅めの坏部を有し、口唇は内傾する面を成す。139は口縁が外反して立ち上がり、脚部は連続的に外反する。 $6 \sim 10^{\circ}$ の円孔透かしを有する。140は口縁端で外反するものの概ね内彎する坏部に、脚部は連続して外反する。141は内彎して立上がる坏部口縁に、口唇は面を成す。脚部は緩く外反する。142は内彎して立上がる大きな坏部口縁に、低くて連続的に外反する脚が付く。低脚杯の形態。

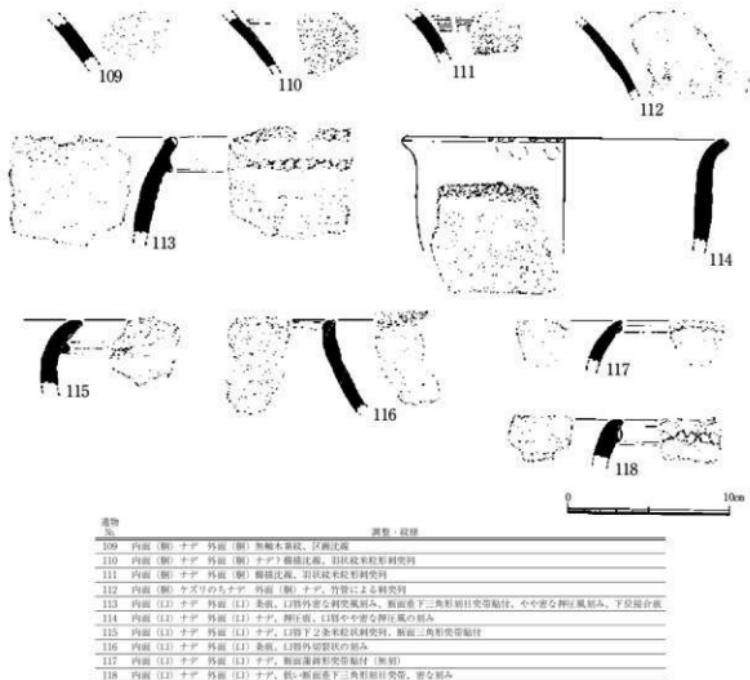


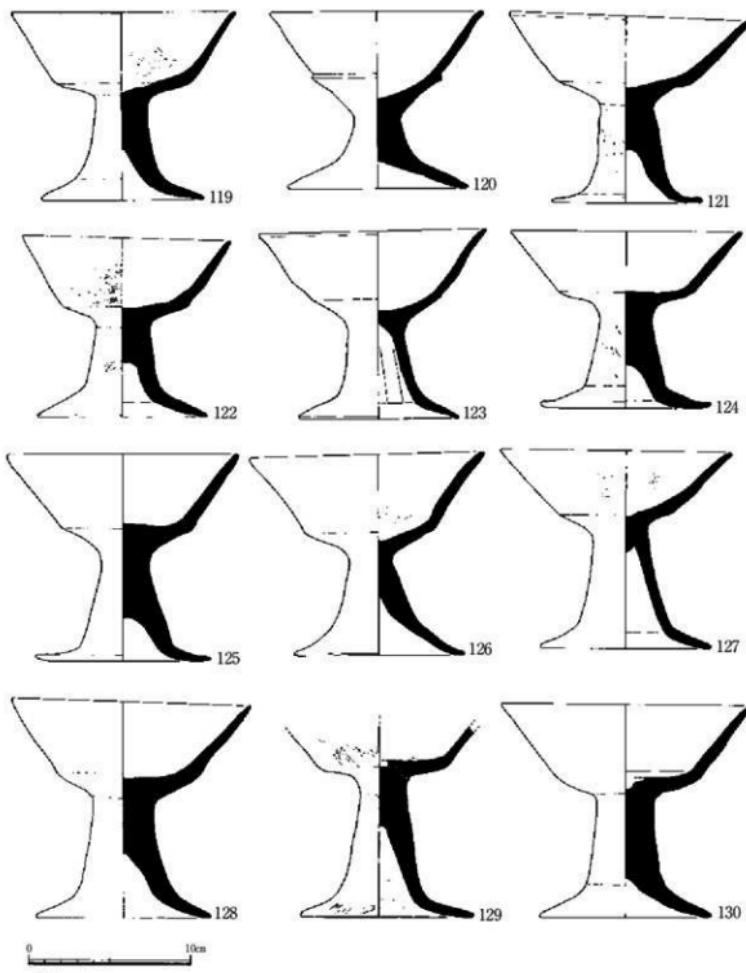
Fig.108 4B区出土遺物10 III D層群 (S : 1/3)

ミニチュア土器 (Fig.112)

150から155の6点を図示した。150は明瞭な頸部を有する壺形か。151は鉢形である。尖底または短い脚が付くと考えられる。152・153は浅めの鉢形である。154は深めの鉢形。155は口縁に粘土帯を貼付したものであり、鉢形か。

小型丸底土器 (Fig.112)

156から177の22点を図示した。156から167は壺形または壺形である。156・157は胴部下位に最大径を持つ分銅形。158は口縁が広がった壺形か。159・160は口縁が直線的に立上がる壺形。161・162・165は球形の胴部にやや外反する口縁が付く。166・167は短い口縁が付く壺形。168から177は鉢形である。168は手捏ね成形である。底部は平底であり、口縁下の屈曲はヘラにより沈線状を成す。口縁は内彎して立上がる。169は大きき内彎気味に広がる口縁が付く。170は短い口縁が直線的に立上がる。171は胴長の体部からやや長い口縁が直線的に延びる。172から177は開いた体部に短い口縁が付く。172・177はやや深い体部を有する。173・175は浅めの体部



遺物 No.	測量・絵図
119 内面 (36) ヘラミガキ、ナデ (脚) ナデ 外面 (35) ナデ (脚) ナデ	
120 内面 (37) ナデ 外面 (31) ヨコナデ (脚) ナデ (脚) ナデ	
121 内面 (32) コヨナデ (脚) ナデ (脚) ヨコナデ 外面 (30) ヘラナデ、口縁と底部にヘラミゼキ? (脚) ヘラナデ (脚) ナデ	
122 内面 (38) ナデ、ヘラナデ (脚) ナデ (脚) ナデ 外面 (39) ナデ、ヘラミガキ (脚) ヘラナデ、ヘラミガキ	
123 内面 (36) ナデ (脚) ケズリ (脚) ナデ 外面 (37) ヨコナデ (脚) ナデ (脚) テヘラナデ (脚) ナデ	
124 内面 (36) ナデ、ヘラナデ (脚) ナデ (脚) ナデ 外面 (38) ナデ? (脚) ヘラナデ、底紙 (脚) ヘラナデ、浅い凹凸	
125 内面 (36) ナデ (脚) ナデ (脚) ナデ 外面 (39) ナデ (脚) ヘラナデ (脚) ヘラナデ (脚) ナデ	
126 内面 (36) ヨコナデ (脚) 縦り手 (脚) ナデ 外面 (39) ヨコナデ (脚) ヘラナデ (脚) ナデ	
127 内面 (36) ハナのちり (脚) ヘラナデ (脚) ケズリ (脚) ナデ 外面 (34) ヨコナデ (脚) ハナのナデ (脚) ヘラナデ (脚) ナデ	
128 内面 (35) ナデ (脚) ナデ 外面 (33) ヨコナデ (脚) ナデ (脚) ヘラナデ	
129 内面 (36) ナデ、レギキ (脚) ヘラナデ (脚) ケズリのちナデ (脚) ナデ 外面 (35) ハケ (脚) ナデ (脚) ヘラナデ (ミガキ) (脚) ハケ、ナデ	
130 内面 (36) ナデ (脚) ナデ (脚) ナデ 縦り手 (脚) ナデ 外面 (36) ナデ (脚) ヘラナデ (脚) ヘラナデ	

Fig.109 4B区出土遺物11 ⅢD層群 (S : 1/3)

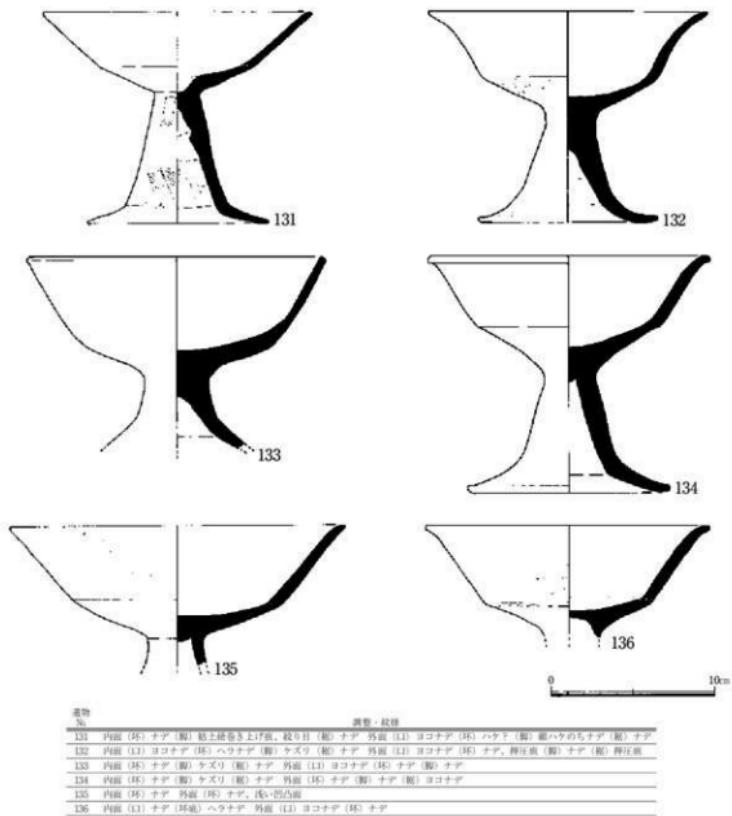


Fig.110 4B区出土遺物12 III D層群 (S : 1/3)

から弱い屈曲の後、口縁はやや内擣して立上がる。174は浅めの体部から緩やかに外反して口縁に至る。176は弱い屈曲から口縁は直線的に立上がる。底部に押圧痕が残り、体部はミガキ風のナデで丁寧に仕上げられる。

壺 (Fig.114~117)

178から196の19点を図示した。178は粗製胎土であり、球形の胴部から屈曲の後に口縁は内擣気味に立上がる。胴部中位以上には煤が付着する。胴部内面にはケズリ風のナデが施される。179は粗製胎土であり、球形の胴部から屈曲の後に口縁は直線的に立上がる。胴部外面には煤が付着する。180は粗製胎土である。大きく張出す胴部から屈曲の後に口縁は緩く外反す

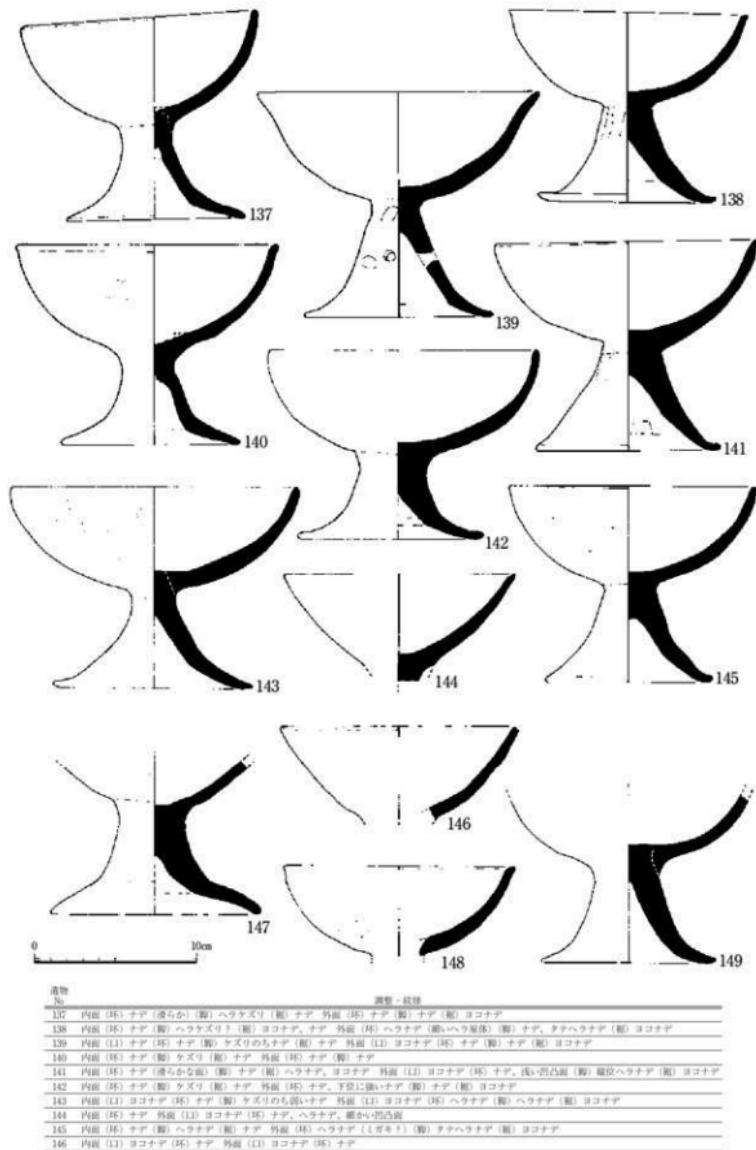
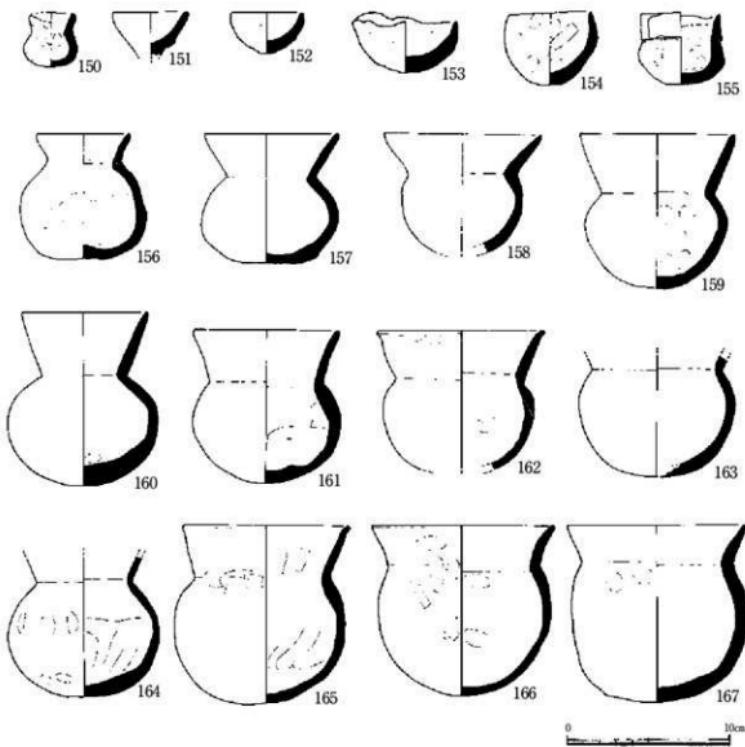
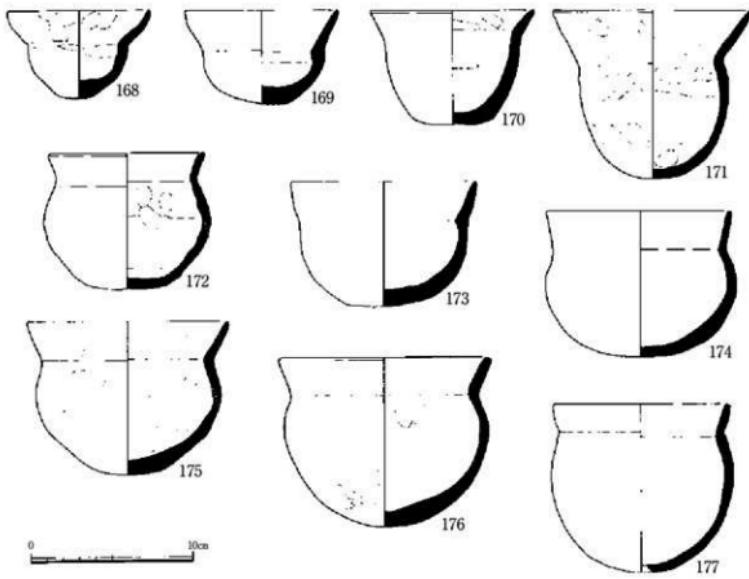


Fig.111 4B区出土遺物13 ⅢD層群 (S : 1/3)



遺物	調査・絆群
147 内面(口) ナデ(脚) ナデ 外面(口) ミヨキ(脚) ナデ	
148 内面(口) ナデ 外面(口) ハラナデ	
149 内面(口) ナデ(脚) ケズリのちナデ(脚) ナデ 外面(口) ナデ(脚) ナデ	
150 内面(口) ナデ(脚) ナデ(脚) 外面ナデ(脚) ナデ(脚) 四凸面	
151 内面ナデ(脚) 振れ押付	
152 内面ナデ(脚) 外面ナデ(脚) 四凸面	
153 内面ナデ(脚) 振れ押付外面押付板、ヘラナデ(脚) 四凸面	
154 内面ナデ(脚) 振れ押付、外面ナデ(脚) 四凸面	
155 内面(口) ナデ(脚) ナデ(脚) 外面(口) 深い押付底、縦合痕(脚) ナデ	
156 内面(口) ナデ(脚) ナデ(脚) 外面(口) ヨコナデ(脚) ナデ、四凸面	
157 内面(口) ナデ(脚) ナデ(脚) 四凸面 外面(口) ナデ(脚) ナデ	
158 内面(口) ナデ(脚) ハラナデ(脚) ナデ(脚) 外面(口) ヨコナデ(脚) ナデ、ヘラナデ	
159 内面(口) ナデ(脚) ナデ(脚) 振れ押付(脚) 外面(口) ヨコナデ(脚) ナデ	
160 内面(口) ナデ(脚) ナデ 外面(口) ナデ(脚) ナデ	
161 内面(口) ナデ(脚) 振れ押付(脚) ナデ(脚) 外面(口) ナデ(脚) ヨコナデ(脚) ナデ、深い凹凸面	
162 内面(口) ヨコナデ(脚) ヘラナデ(脚) 外面(口) 押压痕、ヨコナデ(脚) ナデ	
163 内面(口) ナデ(脚) ナデ(脚) 外面(口) ナデ(脚) ナデ(脚) 四凸面	
164 内面(口) ナデ(脚) ナデ(脚) 外面(口) ヨコナデ(脚) ナデ(脚) ナデ	
165 内面(口) ナデ(脚) ナデ(脚) 外面(口) ヨコナデ(脚) ナデ(脚) ナデ	
166 内面(口) ナデ(脚) ナデ(脚) 外面(口) ヨコナデ(脚) ナデ(脚) ナデ	
167 内面(口) ヨコヘラナデ(脚) ケズリのちナデ(脚) 外面(口) ナデ(脚) ヨコヘラナデ(脚) ナデ(脚) 四凸面	

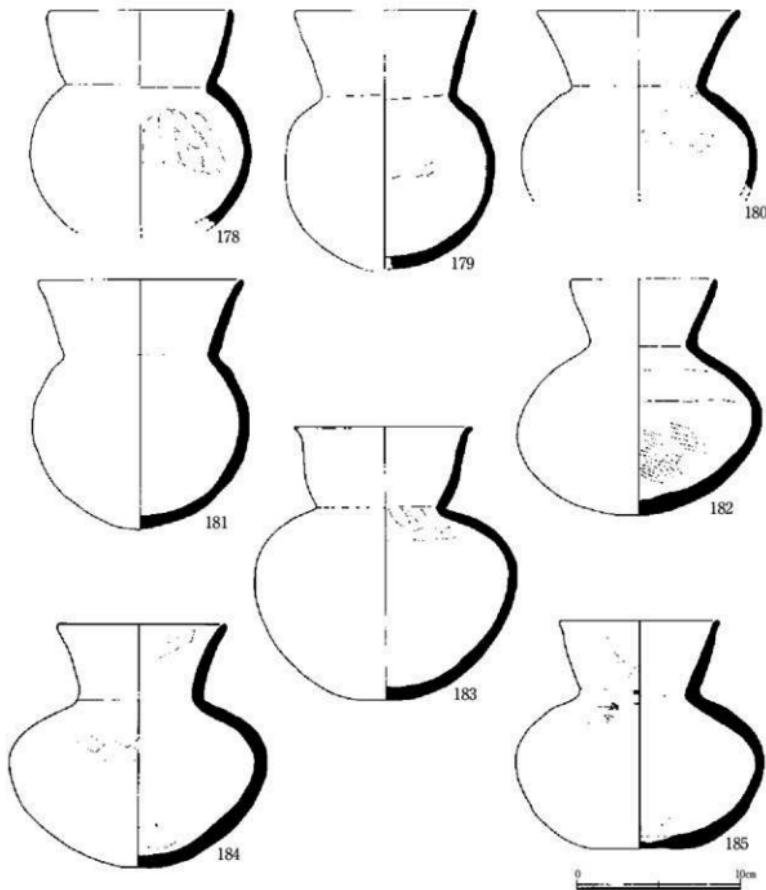
Fig.112 4B区出土遺物14 III D層群 (S : 1/3)



物語	調整・絞詰
368 内面 (L1) ナデ (体) ナデ (体) 神戸農 枝前 (L1) ナデ (体) ハラによる北沢院のナデ (体) ナデ (体)	
369 内面 (L1) ナデ (体) ナデ (体) 香呑 (L1) ナデ (体) ハラ (清らか)	
370 内面 (L1) ヘラナ (体) ナデ ヘラナ (体) ナデ (体) ハラナ (清)	
371 内面 (L1) ナデ (体) 神戸農 (施) ナデ (体) 神戸農 (施) ナデ (体) ナデ (体) ハラ (清) ハラ (施)	
372 内面 (L1) ナデ (体) 神戸農 (施) ハラ (四凸面) (ナデ) 神戸農 枝前 (L1) ナデ (清) ハラ (四凸面) (ナデ)	
373 内面 (L1) ナデ (体) ナデ (体) 香呑 (L1) ナデ (体) ナデ (体) ケズリのちナデ	
374 内面 (L1) ナデ (体) ナデ (体) 外前 (L1) ナデ (体) ナデ	
375 内面 (L1) ヨコナ (ナデ) (ナデ) ハラナ (体) ハラナ (体) ヨコナ (ナデ) (清) ハラナ (清)	
376 内面 (L1) ヨコナ (ナデ) ハラナ (体) ヨコナ (ナデ) ハラナ (ナデ) (身体によるミガキ) (施) 枝前 (施)	
377 内面 (L1) ヘラナ (体) (ナデ) (清らか) (ナデ) (体) ナデ (体) ハラナ (丁寧)	

Fig.113 4B区出土遺物15 III D層群 (S : 1/3)

る。182から185は精製胎土である。182は算盤玉形の胴部から屈曲の後に口縁は内彎気味に立上がる。183は胴部上位で最大径を有する肩張形。口縁は内彎して立ち上がり、後に小さく外反する。184は胴部上位で大きく張出し、口縁は緩く外反する。185は扁平な胴部から屈曲の後に口縁は直線的に立上がる。186から188は弥生後期末の土器と考えられる。186は二重口縁の壺であり、口縁は屈強の後に内彎して立上がる。弥生後期末。187は広口形の壺であり、口唇は外傾する面を成して肥厚する。188は口唇は外傾する面を成してやや肥厚する。189は球形の胴部を持ち、彎曲する頸部から口縁は直線的に立上がる。胴部外面にはハケ状原体による丁寧なヘラナデが施される。また、外面には煤の付着が纏まって見られる。190は頸部の屈曲から口縁は緩く外反して立上がる。口唇は外傾する面を成す。191は頸部の屈曲から口縁は直線的に立上がる。192は広口形の壺である。丸底の底部と胴部は球形を成す。頸部の屈曲から口縁は外反して立上がる。



遺物
No.

調査・収録

178 内面 (11) ヨコナデ (側) ナデ (前面), ヘラナデ (側) ヨコナデ (側) ヘラナデ
179 内面 (11) ヨコナデ, ヘラナデ (側) タズリのちヘラナデ, 外面 (12) ヨコナデ (側) ナデ (側下) タテヘラナデ
180 内面 (11) ナデ (側上) ヘラナデ (側下) タズリ (底) ヘラナデ, 外面 (12) ヨコナデ (側) ナデ
181 内面 (11) ナデ (側) ナデ, 外面 (12) ヨコナデ (側) ナデ, ヨコナデ (側) ヘラナデ
182 内面 (11) ナデ (側上) ナデ, 褐合模 (側中), 褐ハトのちナデ, 外面 (11) ナデ (側) ヨコナデ (側) ナデ
183 内面 (11) ヨコナデ (側上) ナデ, 拝正模 (側下) ナデ, 外面 (12) ヨコナデ (側) ナデ, 深い凹凸面
184 内面 (11) ヨコナデのちヘラナデ (側上) ナデ (側下) ヘラナデ, 外面 (12) ヨコナデ (側) ヘラナデ
185 内面 (11) ナデ, ヘラナデ (側) ナデ, ヘラナデ (側) ヘラナデ (側) ナデ, ヘラナデ (側) ヨコヘラナデ (側上) ハケのちナデ (側) ナデ, 1ガキ

Fig.114 4B区出土遺物16 III層群 (S : 1/3)

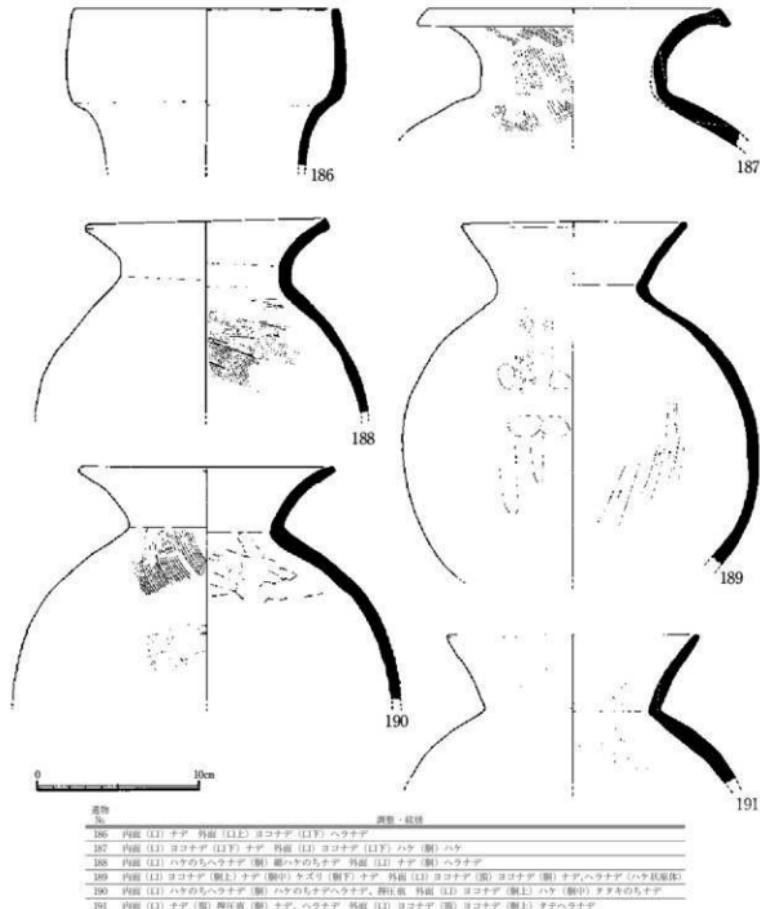


Fig.115 4B区出土遺物17 III D層群 (S : 1/3)

口唇は丸味を持った面を成し、外側に肥厚する。底部にタタキ目を残すものの、器面は概ねハケまたはナデで仕上げられる。193・194は弥生後期末の土器底部である。193はやや狭い平底を呈する。194は高台状に厚く開いた底部を有する。195は球形の胴部を持つ。頭部はヨコナデにより彎曲し、口縁は直線的に立上がる。196は球形に胴部を持つ。頭部の屈曲から口縁は緩やかに外反する。器面はヘラナデにより仕上げられる。

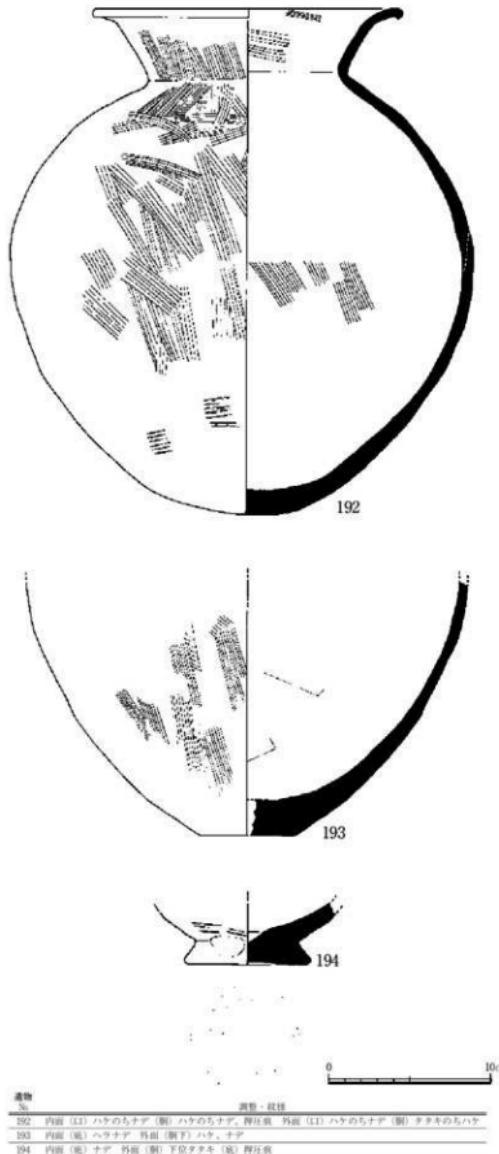
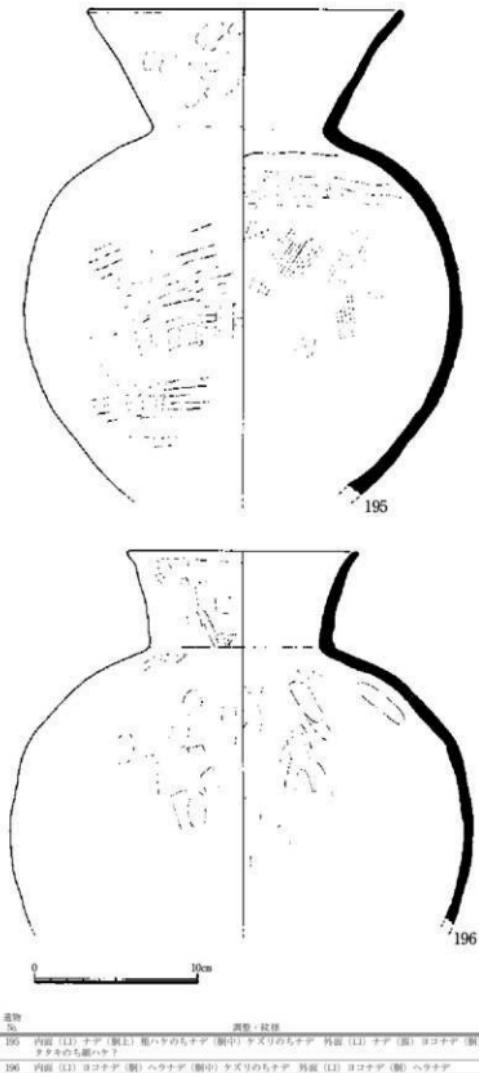


Fig.116 4B区出土遺物18 III層群 (S:1/3)

鉢 (Fig.118~120)

197から237の41点を図示した。鉢は形態的に①向付状の器高の低い浅い椀形、②湯呑み状の深い椀形、③皿形が認めらる。加えて、④口縁が鍔状を成すもの、⑤椀形で容量のあるボウル状のもの、⑥低脚杯とか台付鉢と呼ばれるものであり、短い脚が付くもの、⑦底部に穿孔するものが存在する。

①には222や218などの平底を呈するものが存在している。201・212・224などは丸底の底部であり、この範疇に含まれるものが多く存在している。中には207などの、押しつぶしたような不明瞭な底部を有するものが見られる。②には226の平底を呈するものや217・223などの丸底を呈するものが見られる。また、204・206・230などの口縁が上方に向って立上がるものが存在している。200は鼓形であり、底部は凹面を成す。③には②との区別がつけ難いが、209の不明瞭な底部を有するものが存在する。④には203・231などの椀形を呈する部体に短い口縁が付くものや232・237の甕様の形態を呈するものが存在している。⑤には225を置いた。やや底部が突出する平底の底部である。⑥には233の浅い椀形乃至皿形を呈する鉢部を有するものや234の椀形を体部に持つものが存在している。



遺物	測定・技術
195 内面 (L1) ナデ (側上) 和ハケのちナデ (側中) ケズリのちナデ 外面 (L1) ナデ (底) ヨコナデ (側) タタキのち面ハケ?	
196 内面 (L1) ヨコナデ (側) ヘラナデ (側中) ケズリのちナデ 外面 (L1) ヨコナデ (側) ヘラナデ	

Fig.117 4B区出土遺物19 III層群 (S : 1/3)

壺 (Fig.121~133)

238から311の74点を図示した。238から246は小型の壺である。238・244・246は弱い屈曲から口縁は直線的に立上がる。239の頸部には屈曲する部分と彎曲する部分が存在する。口縁は直線的に立上がる。240は頸部の屈曲から口縁は内彎気味に立上がる。口頭部の広がった形態で鉢とすべきか。241・245は屈曲から口縫は緩く外反する。242・243は頸部が彎曲して仕上げられる。242は口縫が直線的に立上がるものであり、壺とするべきか。243は口縫が外反する。247は器壁の薄い精緻な胎土で作られる。頸部の急な屈曲から口唇は内側にやや肥厚する。搬入品。248は頸部の屈曲から口縫は緩く外反する。249は長胴形の胴部に直線的に立上がる口縫が付き、口唇は外傾する面を成す。外面にはタタキ目を残す。251は球形の胴部に彎曲する頸部から口縫は内彎気味に立上がる。252は頸部の屈曲から口縫は緩く外反する。外面にはタタキ目が残る。253は器壁を薄く仕上げ、全面に細かいハケが施される。搬入品か。255は頸部の屈曲から口縫は直口形に上方に立上がる。256・258はやや長胴形の胴部に頸部の屈曲から口縫は緩く外反する。256の口唇は外

傾する面を成し、胴部内面にケズリを施す。257は球形の胴部に連続的に外反する口頸部が付く。外面には粘土接合痕が残る。精緻な作りであり、胎土中には細砂粒を多く含む。259は頸部の屈曲から口縁は緩く外反する。外面にはハケ状原体によるナデを施し、内面にはケズリ痕が残る。260は球形の胴部に彎曲する頸部が付く。262と264はやや長胴形の胴部に連続的に外反する口頸部が付く。264は器壁を薄く仕上げる。263はやや長胴形の胴部であり、頸部は彎曲する。265から272は口縁が直線的またはやや外反して立上がるるものである。頸部には概ね屈曲部を持つが、268や269では部分的に彎曲が見られる。267は胎土中に粗砂粒から小礫を多く含んでいる。弥生土器的胎土。273から278は頸部の屈曲から口縁は外反して立上がる。273・274・277は長胴形の胴部を持つ。273・274・278の胴部内面には粘土接合痕が残り、274と278では押圧痕が顕著に見られる。273や275は胴部の内面にケズリ痕が残る。278は口唇が外傾する面を成し、外側にやや肥厚する。279は頸部の屈曲から口縁は外反して立ち上がり、口唇は外傾する面を成して外側に肥厚する。底部は狭い平底を呈し、胴部外面にはタタキのちハケを施す。280の底部は尖底気味であり、胴部外面にはタタキ目を残す。頸部にはタテハケが施されやや彎曲する。281は胴部は球形であり、口唇は尖り気味に丸く修める。胴部は外面にタタキのちハケが施される。282は球形の胴部外面にタタキのち丁寧なハケを施す。器面に煤の付着は見られない。283は頸部の屈曲から口縁は外反して立上がる。胴部の上位内面には粘土の接合痕が残る。284は調整により彎曲する頸部を持つ。286は最大径を胴部下位に有するフラスコ形の胴部に、頸部では屈曲とナデによる彎曲が認められる。287は長胴形の胴部外面にタタキ目が残り、内面にはケズリ痕が見られる。口縁は頸部屈曲の後に直線的に立上がる。288は球形の胴部外面にタタキのちハケが施され、内面にはケズリ痕が見られる。口縁は頸部屈曲の後に直線的に立上がる。289・290は球形の胴部に彎曲する頸部が付く。289では胴部の外面にタタキのちハケが施され、290ではタタキ目が残る。291はやや長胴形の胴部にヨコナデによる彎曲する頸部が付く。胴部の中位には火標が見られる。292は胴部の中位で大きく張出し、頸部は急に屈曲する。胴部の上位内面には粘土接合痕が残り、押圧痕が顕著である。器壁は薄く仕上げられ、胎土中には細砂や砂粒を多く含む。293は連続的に外反する口頸部を持ち、胴部の外面にはタタキ目を残す。294は球形の胴部に彎曲する頸部が付く。胴部の上位外面にはケズリのちナデが施される。295・296は連続的に外反する口頸部を持つ。297はやや長胴形の胴部にナデにより彎曲する頸部が付く。298は球形の胴部に連続的に外反する口縁部が付く。299はやや長胴形の胴部に連続的に外反する口頸部が付く。胴部の上位外面には粘土接合痕が認められる。300は長胴形の胴部に連続的に外反する口頸部が付く。器壁は薄く仕上げ、胎土中には細砂を多く含む。302から305は二重口縁である。305は精製胎土であり、搬入品である。306は長胴形の胴部に短く直立する口縁が付く。外面には粘土接合痕が残る。器壁は薄く仕上げ、胎土中には砂粒をやや多く含む。灰色を呈す。307から309は底部である。307は平底の底部にタタキ目が残る。308はやや尖底気味の底部であり、甕か。309は小型の甕底部であり、丸底。310は底部が凹面を成す。鉢か。311は底部が高台状に突出するものである。

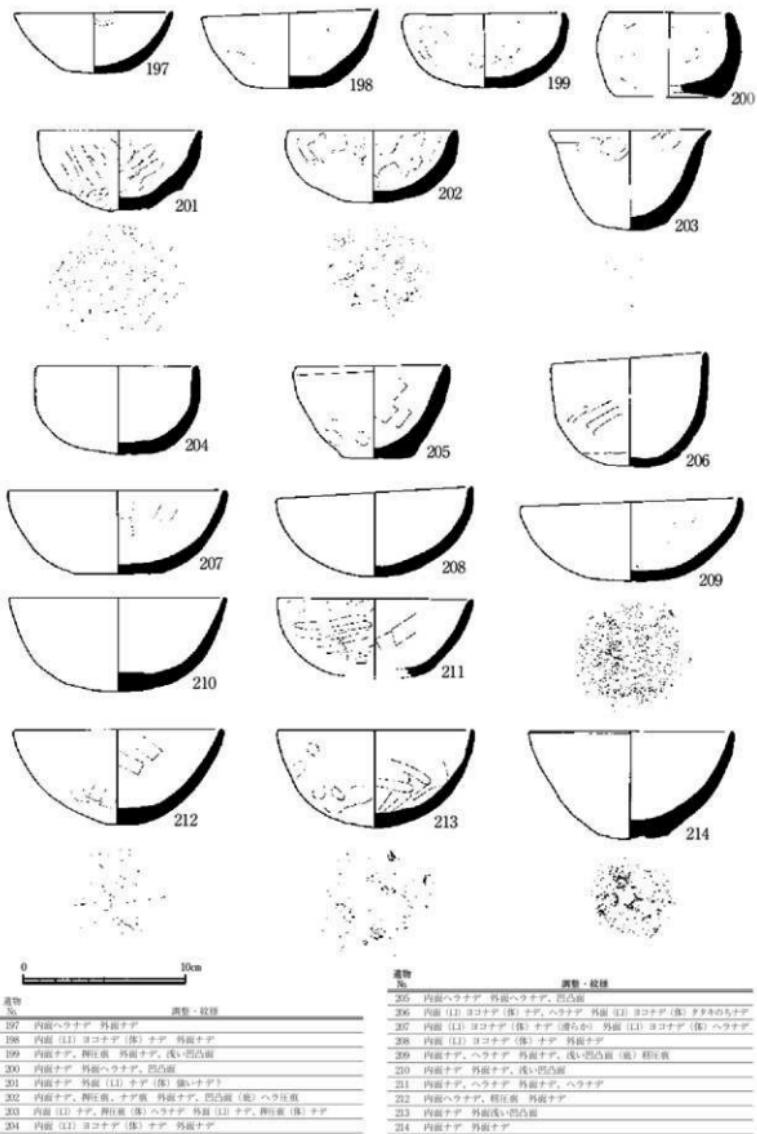
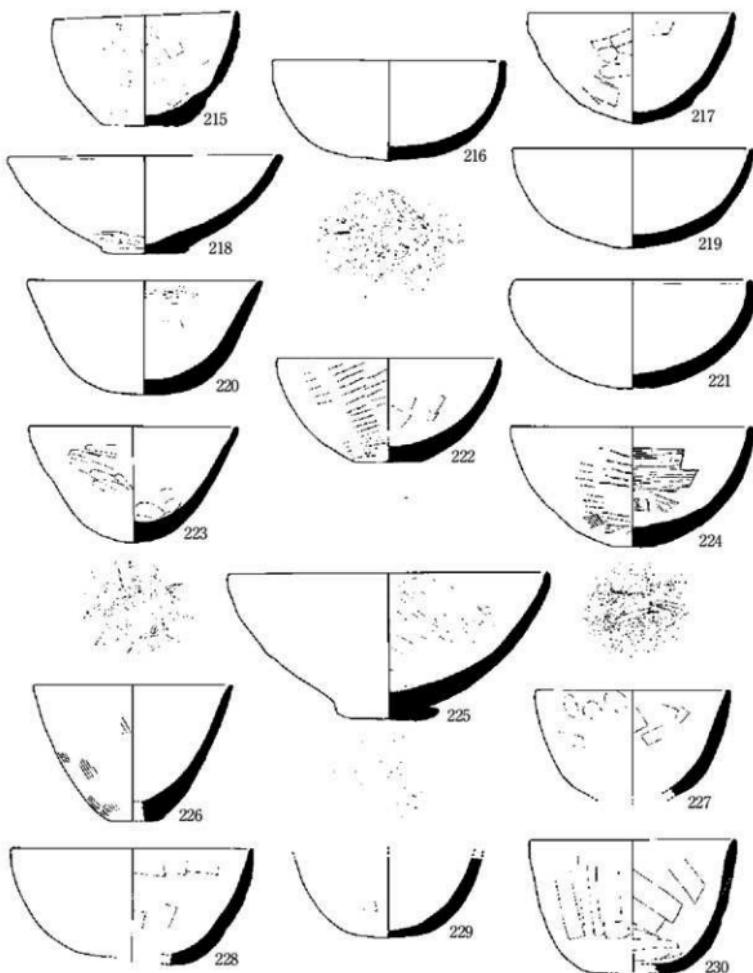


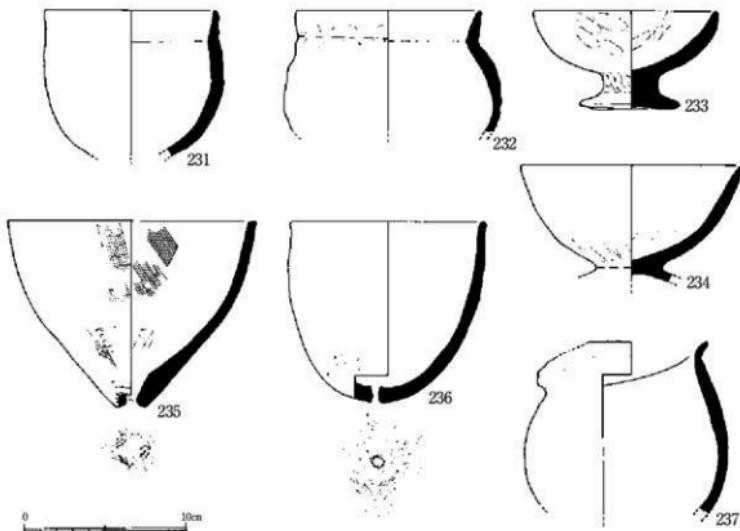
Fig.118 4B区出土遺物20 III群層 (S : 1/3)



遺物 No.	調査・収録
215	内面ヘラナデ、凸面、外縁ヘラナデ、凸凹面
216	内縁(II) ヨコナデ(体) ナデ、外縁(II) ヨコナデ(体) ナデ(底) 木の 削り皿
217	内縁ナデ、外縁ヘラナデ、押注瓶
218	内縁(II) ヨコナデ(体) ナデ、外縁(II) ヨコナデ(体) ナデ(底) ナデ
219	ヨコナデ、外縁ナデ
220	内縁(II) 鹿ハラのちナデ(体) ナデ、外縁ナデ
221	内縁ナデ、ヨコナデ(体) ナデ、外縁(II) ヨコナデ(体) ナデ
222	内縁ナデ、ヘラナデ、外縁タタキ
223	内縁(II) ヨコナデ(体) ナデ、外縁(II) ヨコナデ(体) ヘラナデ(底) 凸凹面

遺物 No.	調査・収録
224	内縁(II) ハナのちナデ(細ハケ状原形?) (体) ヘラナデ、外縁(II) タキ のらナデ(底) タキのらナデ
225	内縁ナデのちナデ、外縁ナデ(底) 木の削り皿
226	内縁ナデ、外縁ハナナ
227	内縁ナデ、外縁ヘラナデ、押注瓶
228	内縁ナデ、ヘラナデ、外縁ナデ、凸凹面
229	内縁(体) ナデ、外縁(底) ナデ?
230	内縁ナリナデ、外縁タテヘラナデ

Fig.119 4B区出土遺物21 III層群 (S : 1/3)



通号	測量・結構
231	内面 (L1) ナデ (刷) ナデ (刷) 内面 (L1) ナデ (刷) ナデ (刷) ナデ (刷)
232	内面 (L1) ヘラナデ (刷) ナデ 内面 (L1) ナデ 壁仕面 (刷) ヘラナデ
233	内面 (L1) ナデ 外面 (刷) ナデ (刷) 壁仕面 (刷) 壁仕面
24	内面 (L1) エコナデ (刷) ナデ ナデ (刷) 壁仕面 外面 (L1) エコナデ (刷) ナデ (浅い凹凸面 (右)) 壁仕面
25	内面 (L1) ハタケ (左) 壁ハタケのちナデ (右) 壁仕面 外面 (L1) タタキのちハタケ ナデ (刷) タタキのちハタケ ナデ
26	内面 ナデ ヘラナデ (刷) 壁タタキのちナデ
27	内面 (L1) ナデ (刷) ナデ 壁仕面のナデ (刷) 外面 (L1) ナデ (刷) 浅い凹凸面

Fig.120 4B区出土遺物22 III D層群 (S : 1/3)

• 須恵器 (Fig.134)

312から315の4点を図示した。312は壊身であり、短く水平に張出す受け部と立ち上がりはやや長く内傾する。314は壊蓋である。

• その他の土器・土製品 (Fig.135・136)

316は勾玉である。小型の土製品であり、頭部は指で押さえることで扁平に成る。317は小型の鉢である。椀形を呈する。底部は弱い凸面を成し、口縁は内彎して立上がる。内面には押圧痕がのこり、外面はタタキのちナデが施される。砂鉄がこの鉢の中に入った状態で出土している。

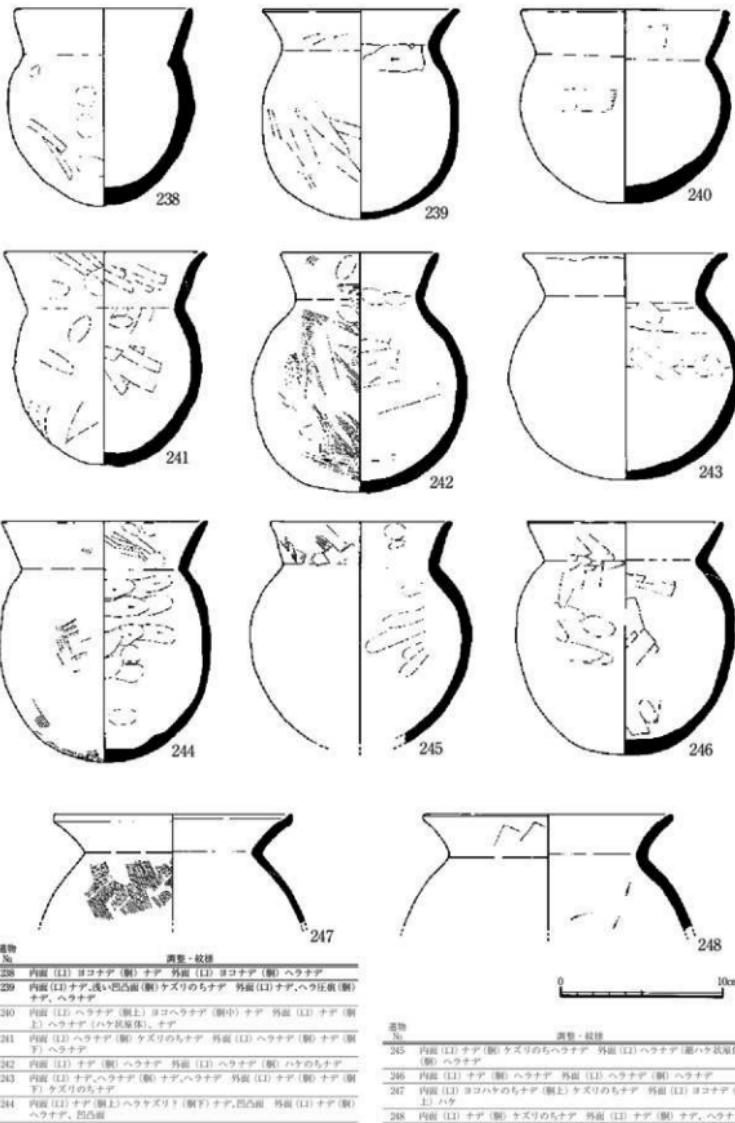


Fig.121 4B区出土遺物23 III-D層群 (S : 1/3)

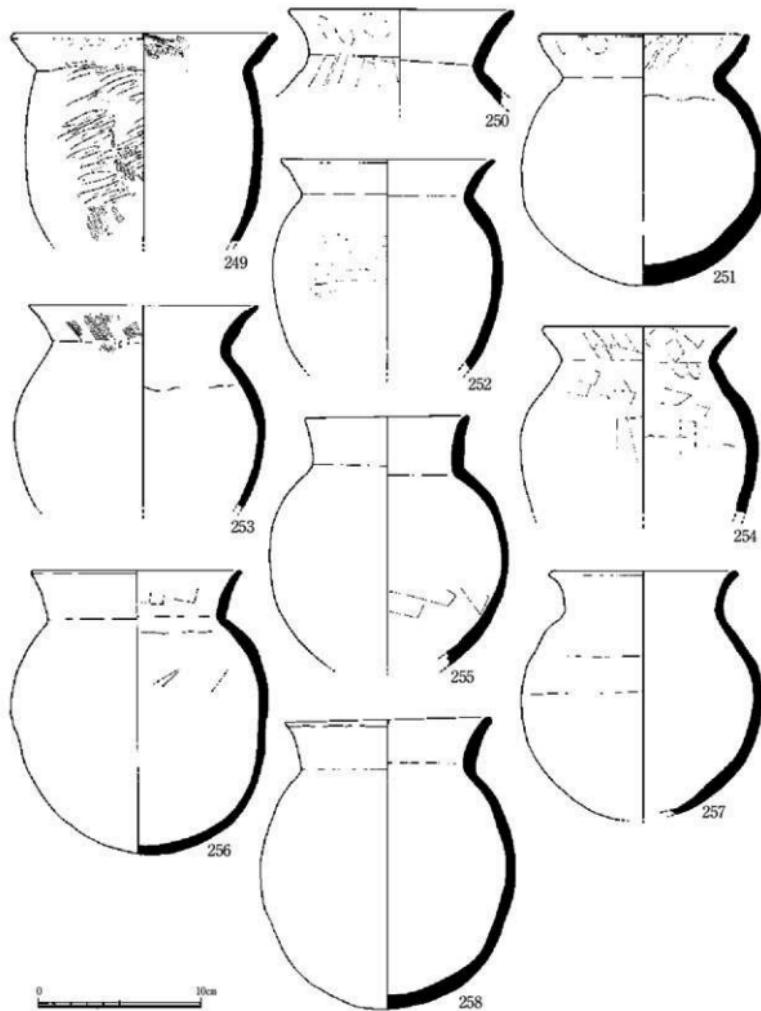
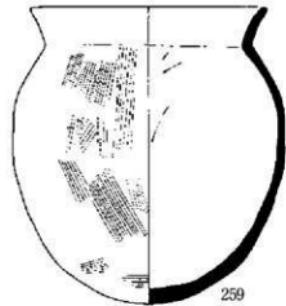
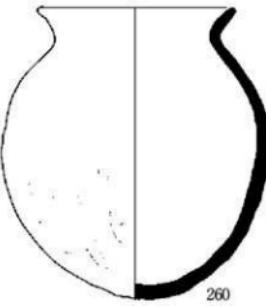


Fig.122 4 B区出土遺物24 ⅢD層群 (S : 1/3)

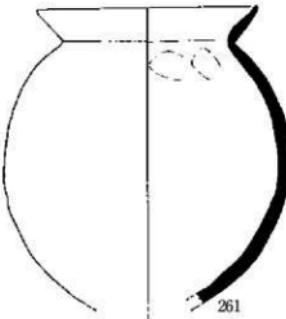
植物 名	調査・絆様	植物 名	調査・絆様
249 内面 (L) ハナ (側) ナデ 外面 (L) 頭頂下に押付生長、タキのちナデ ハナナデ		254 内面 (L) ヘラナデ (側) 背面屈曲部に押付生長、ナデ 外面 (L) ナデ (側) ナデ ヘラナデ	
250 内面 (L) ナデ、ハナナデ (側) ナデ、ヘラナデ 外面 (L) ナデ、押付生長 (側) ハナナデ		255 内面 (L) ナデ (側) ナデ (側) ナデ (側) ナデ (側) ナデ (側) ナデ (側) ナデ ヘラナデ	
251 内面 (L) ナデ、押付生長 (側) ヘラナデ、ナデ (側) ヨコナデ、押付生長 (側) ヨコナデ (側) ナデナデ、押付生長		256 内面 (L) ナデ (側) ナデ (側) ナデ (側) ナデ (側) ナデ (側) ナデ (側) ナデ ヘラナデ (側) 上りカリのちナデ (側) ナデ (側) ナデ (側) ナデ (側) ナデ (側) ナデ ヨコナデ (側) ヨコナデ (側)	
252 内面 (L) ナデ (側) ヘラナデ (側) ナデ (側) ナデ (側) ナデ (側) ナデ (側) ヨコナデ (側) ナデナデ、押付生長		257 内面 (L) ナデ (側) ヘラナデ 外面 (L) ナデ (側) ナデ、浅い凹凸面	
253 内面 (L) ナデ (側) ナデ (側) ナデ (側) ナデ (側) ナデ (側) ナデ (側) ナデ ヨコナデ (側) ナデナデ		258 内面 (L) ヘラナデ (側) ナデ 外面 (L) ナデ (側) ヘラナデ、凹凸凹凸面	



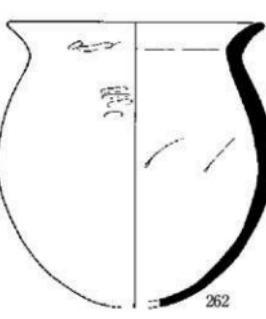
259



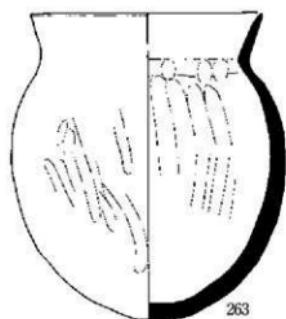
260



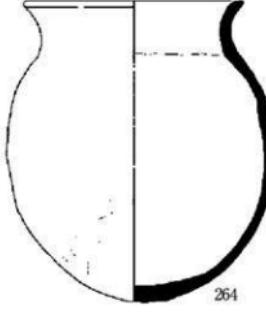
261



262



263



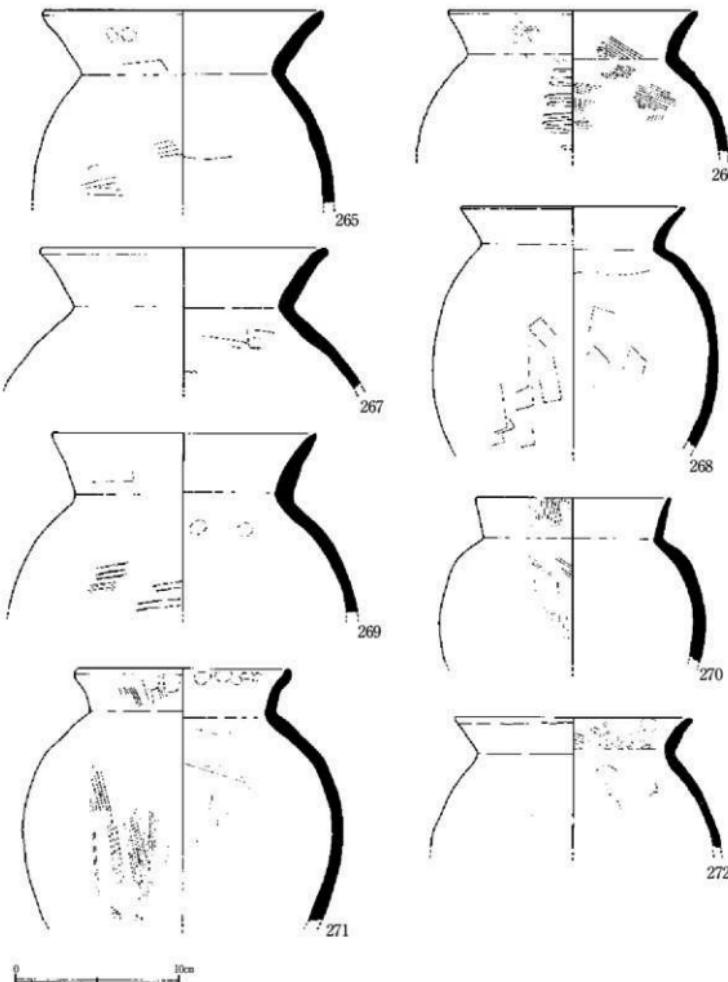
264

0 10cm

遺物 No.	測量・絵様
259 内面 (L) ヘラナデ (網) ケズリのちナデ 外面 (L) ヨコナデ (網) ヘラナデ	
260 内面 (L) ヨコナデ (網) ナデ、ヘラナデ 外面 (L) ヨコナデ (網) ヘラナデ	
261 内面 (L) ヨコナデ (網上) ナデ、大きな凹凸面 外面 (L) ヨコナデ (網) ヘラナデ	

遺物 No.	測量・絵様
262 内面 (L) ヨコヘラナデ (網) ケズリのちナデ 外面 (L) ヨコナデ、タケのちナデ (網) タケのちナデ	
263 内面 (L) ヨコハケのちナデ (網上) ナデ (網下) 薄いハナデ 外面 (L) ナデ (網) ヨコナデ (網上) ナデ (網下) ナデ (網小) ナデ (網底)	
264 内面 (L) ヨコナデ (網) ケズリのちナデ (網) ナデ、凹凸面 外面 (L) ヨコナデ (網) ナデ、ヘラナデ、薄い凹凸面	

Fig.123 4B区出土遺物25 III D層群 (S : 1/3)



遺物 名	測量・絵様
265 内面 (LD) ナデ (刷) ナデ 外面 (LD) ナデ。浅い凹凸面 (刷) ハケのちナデ	
266 内面 (LD) ハケ (刷上) ハケのちナデ 外面 (LD) ハケのちハケ (刷) ハケのちハケ	
267 内面 (LD) ナデ (刷) カズリのちナデ 外面 (LD) ヨコナデ (刷) ヨコナデ (刷) ナデ	
268 内面 (LD) ナデ (刷) ハラナデ 外面 (LD) ヨコナデ (刷) ヨコナデ (刷) ハラナデ。浅い凹凸面	
269 内面 (LD) ナデ (刷) ハラナデ 外面 (LD) ナデ (刷) ハラナデ	
270 内面 (LD) ハラナデ (刷) ナデ 凹凸面 (LD) ハラナデ (刷) ハケのちナデ	
271 内面 (LD) ナデ (口唇に押付刷) ナデ 外面 (LD) ヨコナデ (刷上) ハケのちハラナデ	
272 内面 (LD) ハラナデ (刷) ナデ 外面 (LD) ヨコナデ (刷上) ハラナデ	

Fig.124 4B区出土遺物 ⅢD層群 (S : 1/3)

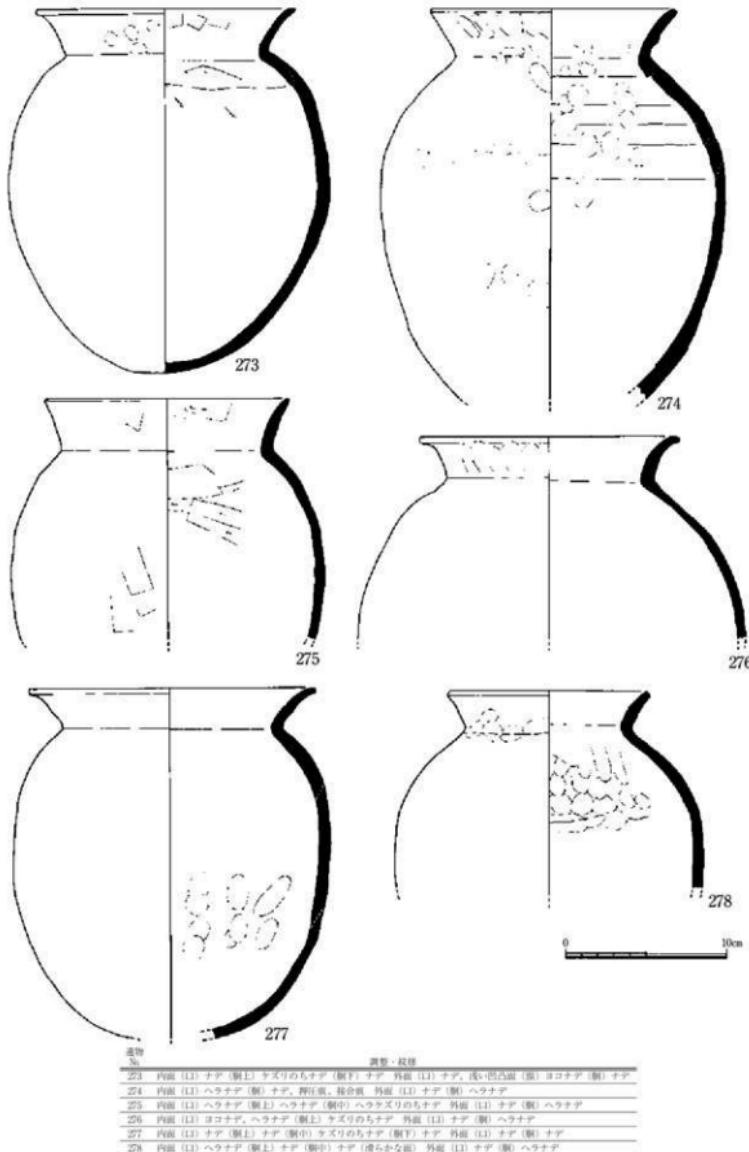
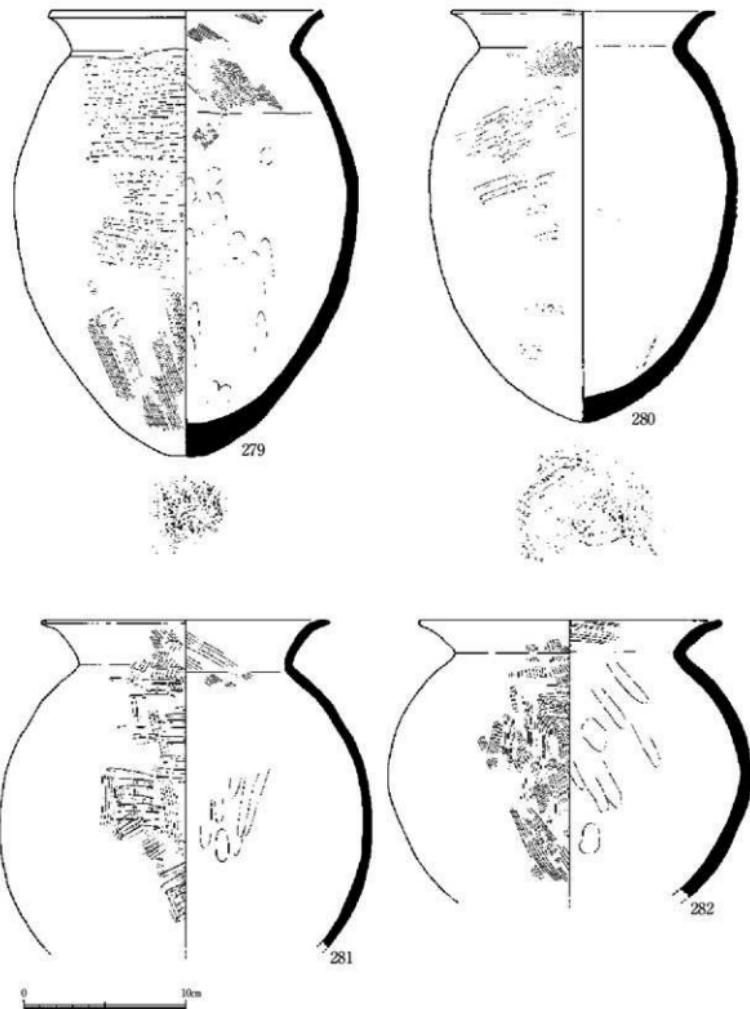
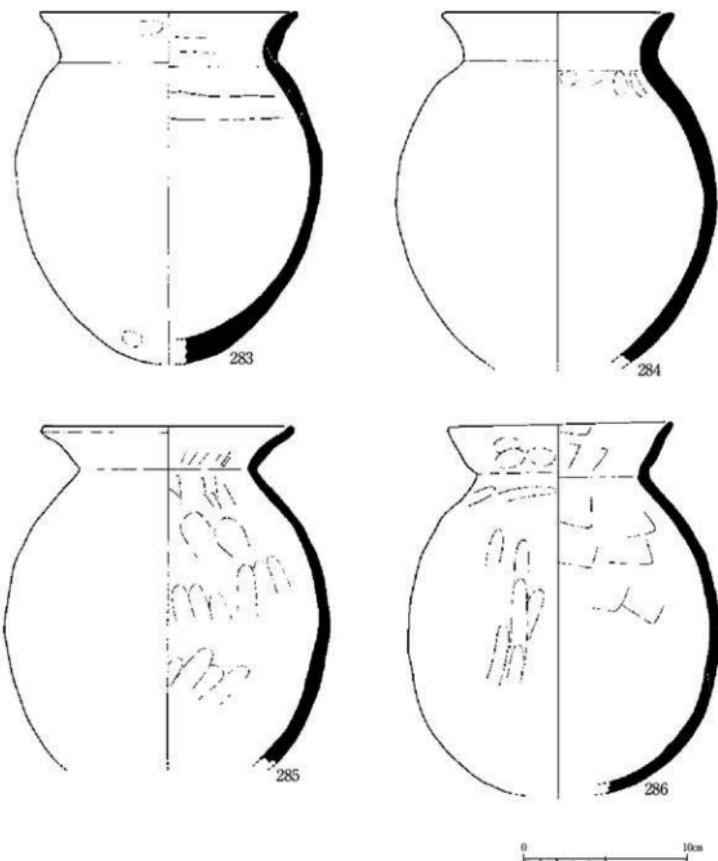


Fig.125 4B区出土遺物27 III D層群 (S : 1/3)



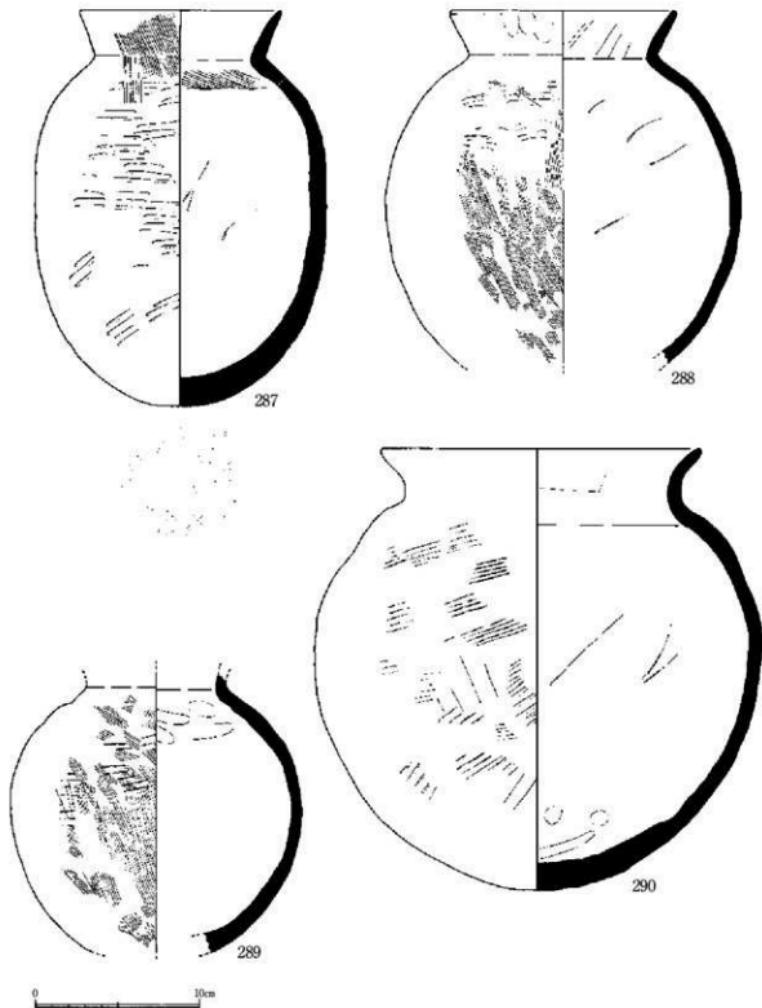
遺物 No.	測定・絵様
279 内面 (L1) ハケ(刷上) 鹿ハケ(刷中) ナデ 当面 (L1) ナデ(刷上) タタキ(刷下) タタキのちハケ	
280 内面 (L1) ナデ(刷) ナデ(刷) ハケのちナデ 外面 (L1) ヨコナデ(刷) タオハケ(刷) タタキ	
281 内面 (L1) 鹿ハケのちヨコナデ(刷) ナデ 外面 (L1) 鹿ハケのちヨコナデ (L1) 鹿ハケ(刷上) タタキのちナデ(刷中) タタキのちハケ	
282 内面 (L1) ハケのちナデ (刷) ナデ 外面 (L1) ハケのちヨコナデ(刷) タタキのちハケ	

Fig.126 4B区出土遺物28 III-D層群 (S : 1/3)



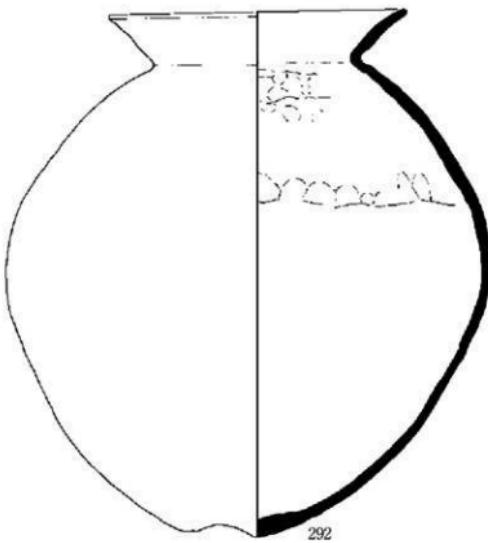
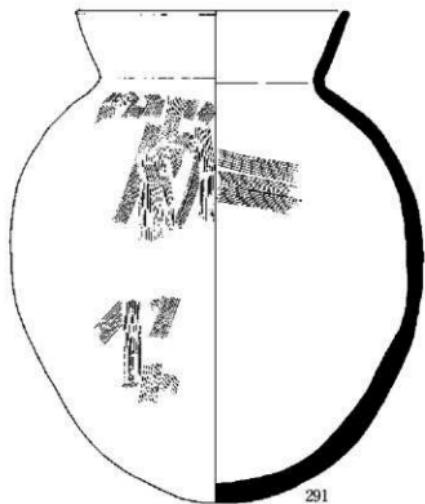
遺物 No.	測量・枚様
283 内面 (L1) ナデ (網) ナデ 外面 (L1) ヨコナデ (網) ナデ	
284 内面 (L1) ヨコナデ (網) 肩下に押付箇。ナデ 外面 (L1) ヨコナデ (網) ナデ	
285 内面 (L1) ナデ、ヘラナデ (網上) ヨコヘラナデ (網下) ナデ 外面 (L1) ヨコナデ (網) ナデ	
286 内面 (L1) ヘラナデ (網上) ヘラナデ (網中) ケズリのちナデ 外面 (L1) ヨコヘラナデ (網) ヨコナデ (網) ナデ	

Fig.127 4B区出土遺物29 III D層群 (S : 1/3)



遺物 No.	測定・紋様			
287 内面 (左) ハテのちナデ (腹上) ハテのちナデ (腹下) ケズリのちナデ (腹下) ナデ 外面 (右) ハテ (腹上) ドタキのちハテ (腹下) ドタキ				
288 内面 (左) ヘラナデ (腹上) ケズリのちヘラナデ 外面 (右) ヨコナデ (腹上) ヘラナデ ドタキのちハテ				
289 内面 (左) ケズリのちナデ (腹) ナデ 外面 (右) ドタキのちハテ				
290 内面 (左) ヨコナデ (腹上) ケズリのちヘラナデ (腹下) ナデ 外面 (右) ヨコナデ (腹下に凹る) (腹) ドタキのちナデ				

Fig.128 4B区出土遺物30 III D層群 (S : 1/3)



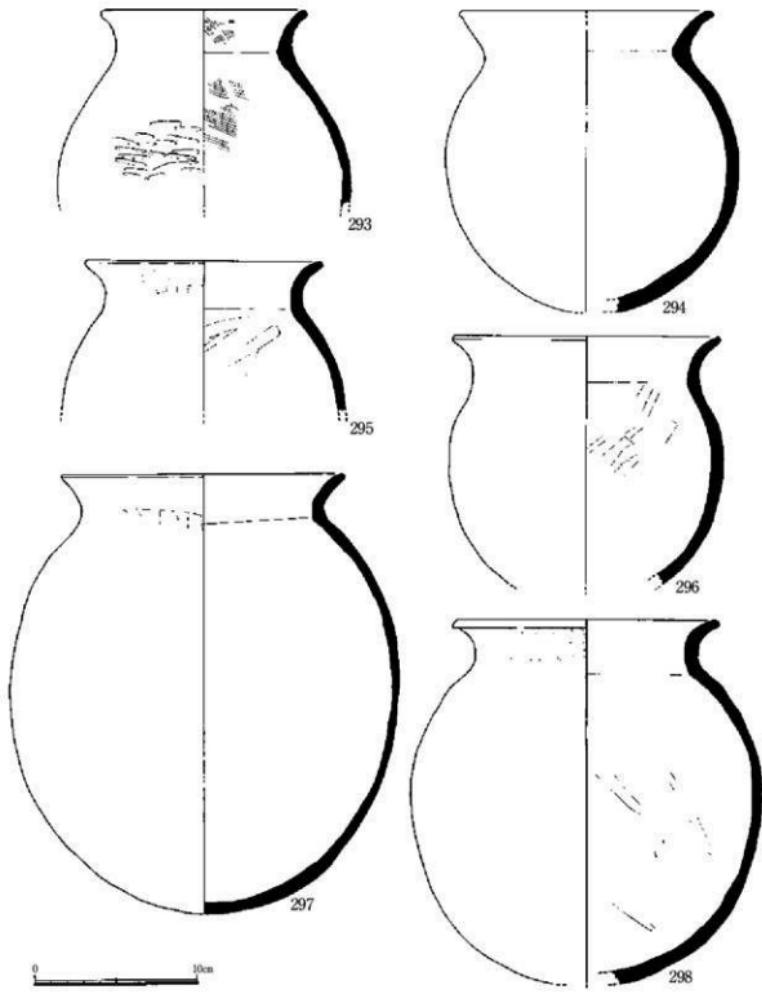
遺物
No.

測量・絵録

291 内面 (上) ヨコナデ (側上) 縞ハケ又はナデ (側中) 強いナデ又はケズリ (側下) ハラナデ 外面 (上) ナデ (底) ヨコナデ (側上) ハケのちナデ (側下) ハラナデ
292 内面 (上) ハラナデ (側上) 神社模 (側中) ナデ (底) 凹凸面 外面 (上) ヨコナデ (側) ナデ (側下) 凹凸面

0 10cm

Fig.129 4B区出土遺物31 III層群 (S : 1/3)



遺物 No.	測量・模様
293 内面 (L)	ハケのちヨコナデ (網) ハケのちヘラナデ?
293 外面 (R)	ヨコナデ (網) テテカのちナデ
294 内面 (L)	ヘラナデ (網) ケズリのちナデ
294 外面 (R)	ナデ、浅い凸凹面 (網) ナデ。上部にヘラ压痕
295 内面 (L)	ナデ (網) ケズリのちナデ
295 外面 (R)	ヨコナデ (網) ヘラナデ
296 内面 (L)	ナデ (網) ヘラナデ
296 外面 (R)	ナデ (網) ヘラナデ
297 内面 (L)	ヘラナデ (網) ケズリのちナデ
297 外面 (R)	ヨコナデ (網) ヨコナデ
298 内面 (L)	ヘラナデ (網) ケズリのちナデ
298 外面 (R)	ナデ、口付下に押付痕、底部上にヘラ压痕 (網) ナデ、ヘラナデ

Fig.130 4B区出土遺物32 III D層群 (S : 1/3)

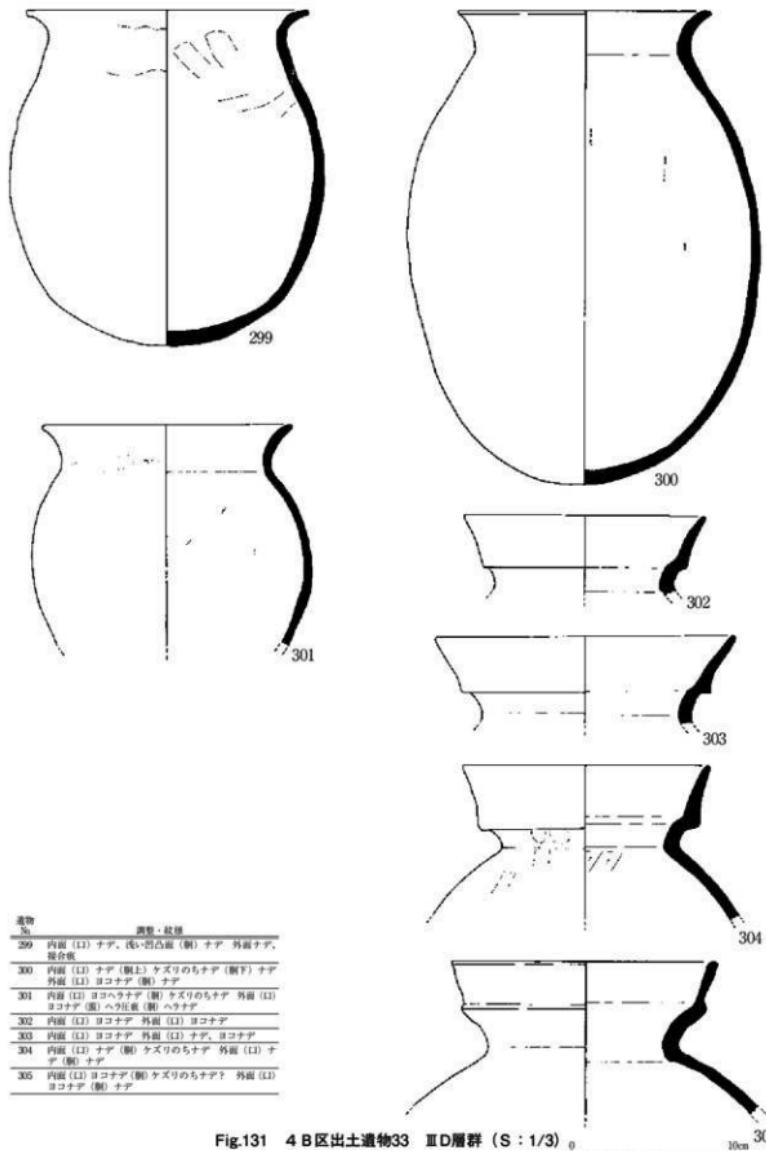


Fig.131 4B区出土遺物33 III D層群 (S : 1/3)

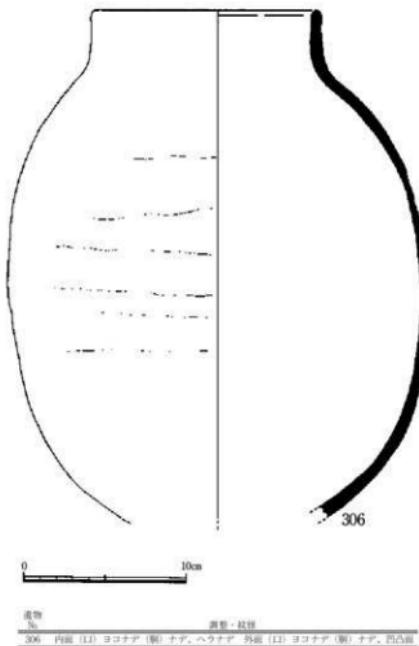


Fig.132 4B区出土遺物34 III D層群 (S : 1/3)

弥生土器は壺が2点、鉢・壺・高坏・器台が各1点である。土師器は壺が225点、高坏が11点、鉢が6点、壺が4点である。III B - 0層から出土した土器・土製品の総点数は1,506点である。弥生土器は97点、土師器518点、須恵器6点、陶器1点である。

318は壺の胴部であり、区画弦線と斜線紋が施される。319は壺胴部であり、十字の区画と無軸木葉紋が施される。320は断面台形の小さな突帯に連続的な刻みが施されており、下位には沈線と下弦重弧紋が見られる。321は緩やかに広がる深鉢の口縁であり、端部には刻みが施される。322は口唇外がやや肥厚し、疎な刻みが施される。323は口唇と口縁外面をやや不明瞭な刺突風に刻む。324は幅広の扁平な突帯を連続的に刻む。325は口唇外端と垂下した突帯を連続的に刻む。326は深鉢の胴部であり、低い断面三角形の突帯に小さな刻みが施される。327は口唇に連続的な刻みが施され、口縁下には段が残る。弥生前期前半。328は口唇が面を成し、外側にやや肥厚する。329は短く外反する口縁を持ち、口唇は押圧により刻む。330は粘土帶の貼付により肥厚する口縁外面を筋状に刻み、口縁下端には瘤状の浮紋が施される。331は肥厚する口縁外面に斜格子紋が施され、直下に瘤状の浮紋が付く。332は直立する口縁に刻みを施し、瘤状浮紋を配する。333は肥厚する口縁に筋状の刻みと瘤状浮紋を施す。334は凸面を成して肥厚する口縁に幅

III B層群出土土器・土製品

(Fig.137~139)

III B - 3層から出土した土器・土製品の総点数は4,662点である。このうち、繩文土器は16点、弥生土器は1,404点、土師器は1,661点である。繩文土器は浅鉢が3点、深鉢が12点、壺が1点である。弥生土器は壺が1,151点、壺が213点、器台が19点、鉢が14点、高坏が5点、蓋が2点である。土師器は壺が1,588点、鉢が42点、高坏が15点、壺が8点、器台が7点、小型丸底土器が1点である。III B - 2層から出土した土器・土製品の総点数は452点である。弥生土器は10点、土師器は242点、須恵器は1点である。弥生土器は壺が8点、壺が2点である。土師器は壺が212点、高坏が17点、鉢が9点、壺が4点である。III B - 1層から出土した土器・土製品の総点数は292点である。繩文土器は1点、弥生土器は6点、土師器は246点である。繩文土器は深鉢が1点である。

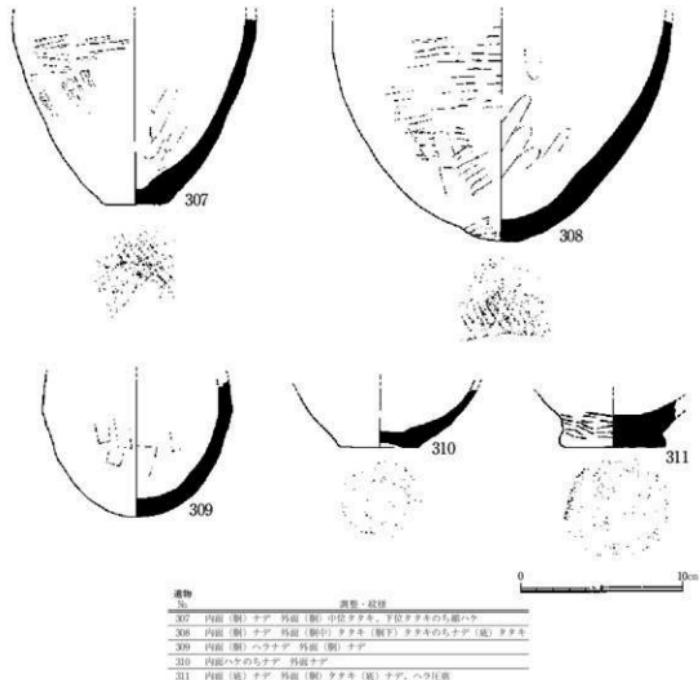


Fig.133 4B区出土遺物35 III D層群 (S : 1/3)

広の斜位刻みを施す。335は肥厚する口縁に筋状の刻みを施す。336・338は肥厚する口縁の上端が突帯状に突出し、筋状の刻みが施される。339は肥厚する口縁に幅広の斜位刻みを施す。340は肥厚する口縁外面と口唇に刻みを施す。341は口縁外面に2列の円形浮紋を配す。342は屈曲の後に内傾して立上がる口縁の外面にヘラ描沈線が凹線紋風（擬凹線²¹）に施される。343は肥厚する口縁端面に円形浮紋を付す。344は突帯状に口縁が大きく肥厚する。345は口縁は大きく外反して広がり、端面に円形浮紋を施す。346は胴部の上位に円形浮紋が施される。347は壺の胴部に斜格子紋と竹管で刺突した円形浮紋を施す。348は緩く窪んだ面を成して肥厚する口縁外面に櫛描沈線を施す。349は口縁がやや肥厚し、端面には筋状の刻みを施す。350は口唇下に突帯状の粘土帶を貼付し、連続的に刻む。351は口唇下が突帯状に肥厚し、押圧風に刻む。胴部上位に瘤状浮紋を配する。352は口縁が垂下して肥厚し、端部を押圧風に刻む。353は壺の胴部上位である。櫛描沈線を施した後に瘤状浮紋を配する。下位には斜位の刻み列が施される。354は口縁がやや垂下して肥厚し、端部に連続的な刻みを施す。355は口縁の外面が突帯風に肥厚する。端部には連続的な刻みが施される。356は高坏の口縁である。屈曲の後に口縁は短く外反して立

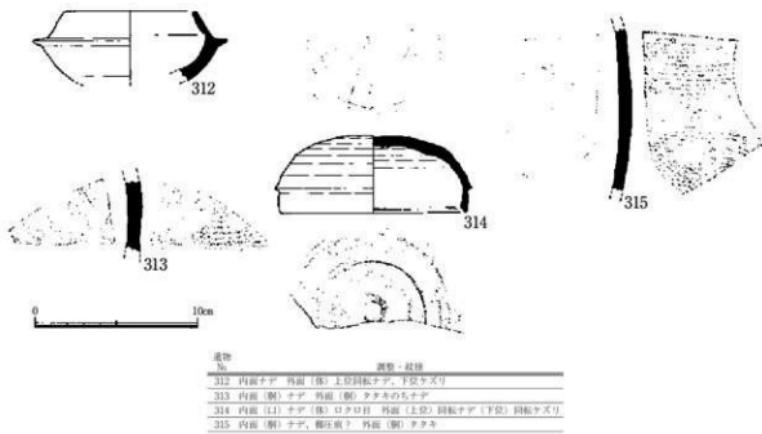


Fig.134 4 B 区出土遺物36 III D層群 (S : 1/3)

上がる。口唇は平らな面を成す。357から359は器面が赤褐色に発色し、胎土は灰色で砂粒等の混和剤は少ない。357は壺の口縁か。口唇には斜位の刻みを施し、口縁の外面には刻みを施した棒状浮紋が付く。358は壺の口縁である。口縁の外面には櫛描波状紋が施される。359は壺の口縁である。口縁は上下に大きく肥厚する。端面には櫛描波状紋のち押圧の刻みを施した棒状浮紋が付く。360は高坏の脚部である。中空の脚には恐らく二段の円形透かしが施されるであろう。

Fig.135 4 B 区出土遺物37 III D層群土製勾玉 (S : 1/2)

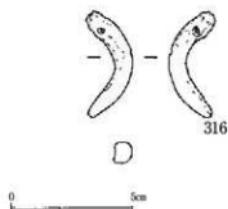


Fig.135 4 B 区出土遺物37 III D層群土製勾玉 (S : 1/2)

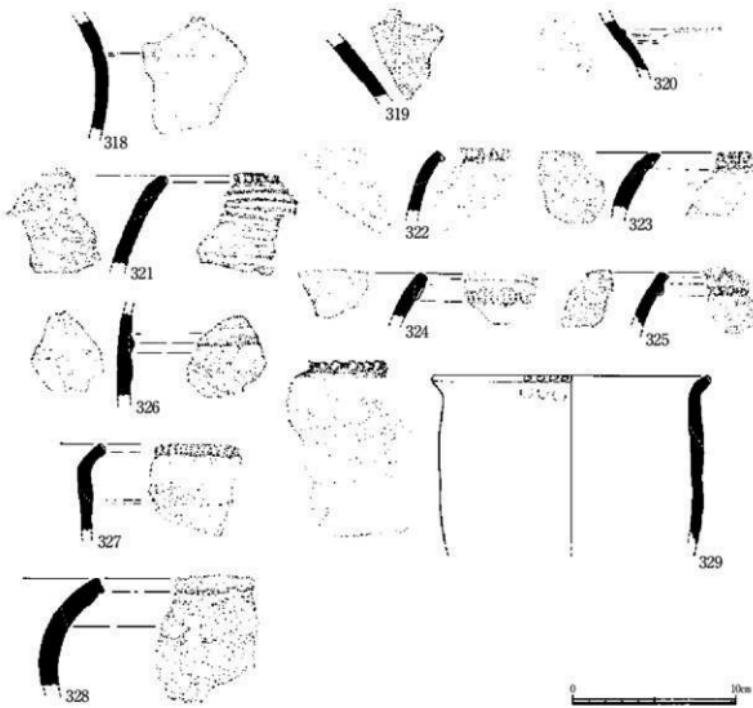
その他の包含層出土土器・土製品

(Fig.140・141)



Fig.136 4 B 区出土遺物38 III D層群砂鉄入鉢 (S : 1/3)

361は鉢形のミニチュア土器である。口縁は短く外反する。362は鉢である。椀形を呈し、口縁は内凹して立上がる。363は壺の胴部である。頭部下で擬口縁を成す。368は椀である。高台は「ハ」の字状に開く。369は壺である。底部には回転ヘラ切り痕



遺物	調査・経緯
318 内面(側)ナデ 外面(側)ヒカリ、鋸歯紋? 弓曲状	
319 内面(側)ナデ 外面(側)弓曲状、黒釉本筋紋	
320 内面(側)ナデ 外面(側)タカギ、断面台形状突起付。連続的な押込み跡。下部丸み	
321 内面(側)ナデ 外面(側)骨質外輪部、(注)漆痕	
322 内面(側)ナデ 外面(側)漆痕のラグナード、L型外やや縦の斜突起付。	
323 内面(側)ナデ 外面(側)ナデ、骨質的な突起付。(注)漆痕?	
324 内面(側)ナデ 外面(側)ナデ、底に断面台形状突起付。密な押込み	調査・経緯
325 内面(側)ナデ 外面(側)密な、L型外輪部の小さな溝織の押込み、既に削除した三角形骨質包帯付。密な斜突起付。	
326 内面(側)ナデ 外面(側)ナデ、底付近三角形突起付(無削)	
327 内面(側)ナデ 外面(側)ナデ、底付近三角形突起付(無削)	
328 内面(側)ナデ 外面(側)ナデ、(注)凸凹面。複合窓	
329 内面(側)ナデ 外面(側)ナデ、口輪にやや密な骨質外輪部(側)ナデ	

Fig.137 4 B 区出土遺物39 III B層群 (S : 1/3)

が残る。364から367は須恵器の甕である。364・365には横位のタタキ目が残される。370・371は小型の器台である。裾は端部で外側に肥厚する。外面には二段の鋸歯紋が施される。372は須恵器の壺か。胴部に断面台形の突帯が廻る。

(2)石器・石製品 (Fig.142~146)

III E層から出土した石器・石製品のうち図示したのは373の1点であり、石斧の基部である。III C層群から出土した石器・石製品のうち図示したのは374から384の11点である。374から378

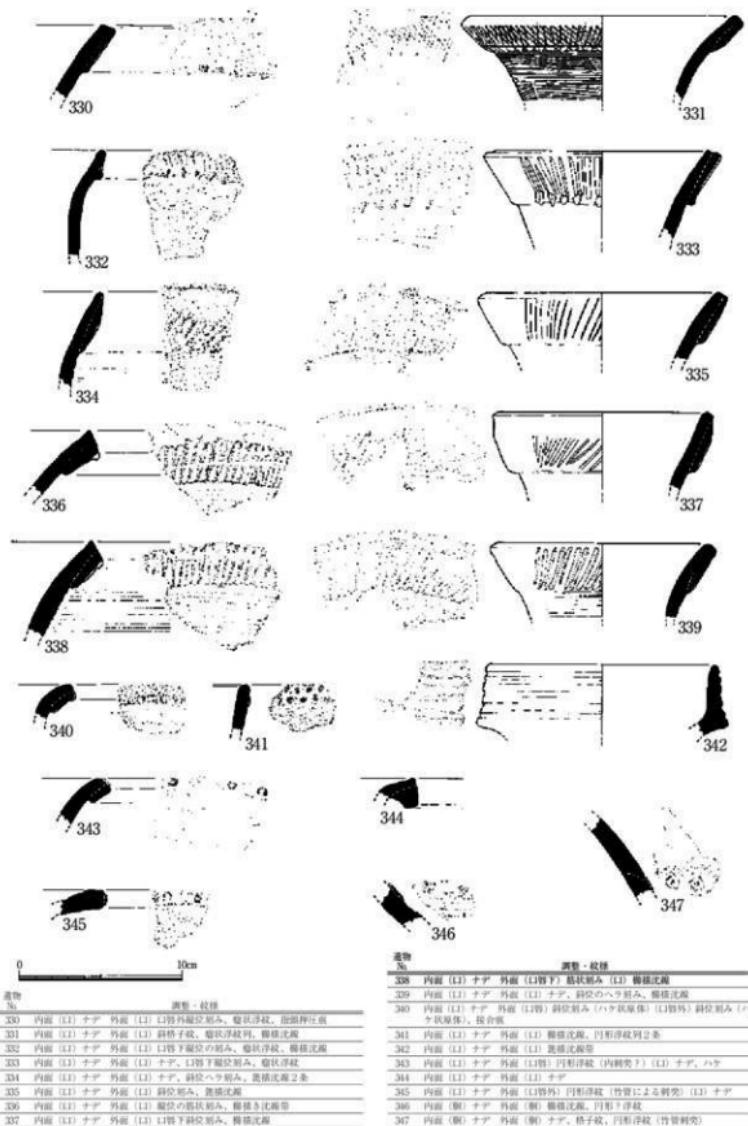


Fig.138 4B区出土遺物40 III層群 (S : 1/3)

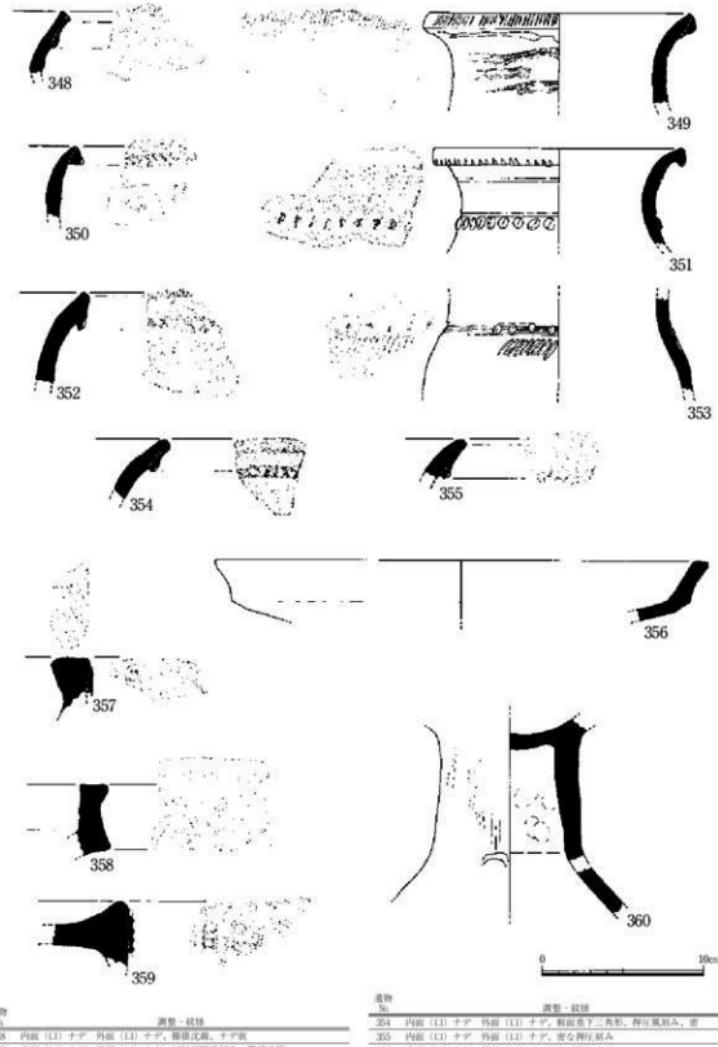
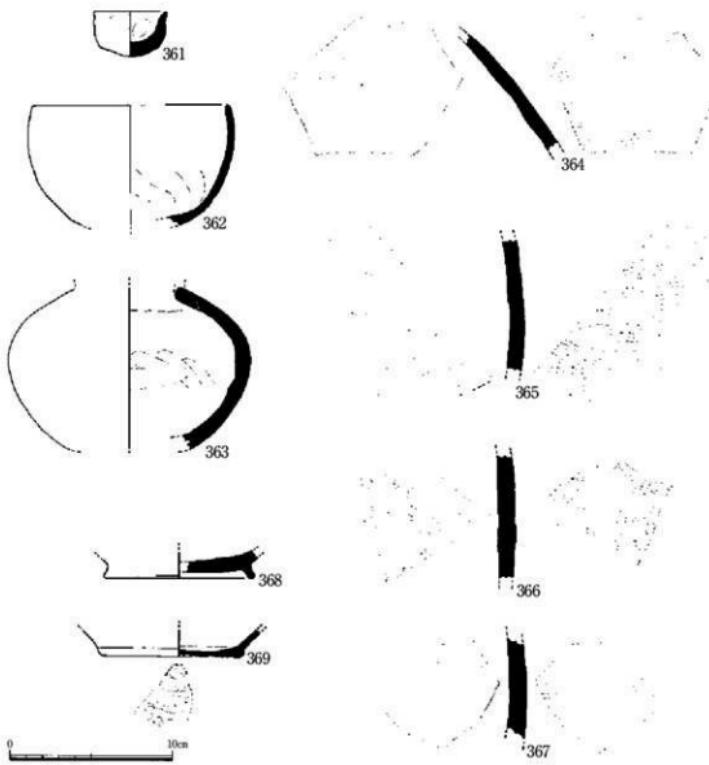


Fig.139 4B区出土遺物41 ⅡB層群 (S : 1/3)

遺物 No.	測量・収録	遺物 No.	測量・収録
348 内面 (L) ナデ 外面 (L) ナデ, 摺揉状, ナデ状	354 内面 (L) ナデ 外面 (L) ナデ, 斜面直下三角形, 摺揉風削み, 突		
349 内面 (L) ナデ 外面 (L) ナデ, L型下端切削み, 摺揉状	355 内面 (L) ナデ 外面 (L) ヨコナギな (L) ナデ		
350 内面 (L) ナデ 外面 (L) ナデ, L型外端直風削み, 摺揉状	356 内面 (L) ナデ 外面 (L) ナデ, 摺揉浮絞 (筋)		
351 内面 (L) ナデ 外面 (L) 剥み, L型底面2条, 突状浮絞	357 内面 (L) ナデ 外面 (L) ナデ, 壁面		
352 内面 (L) ナデ 外面 (L) ナデ, 斜面が大きく窓な斜面風削み	358 内面 (L) ナデ 外面 (L) ナデ, 摺揉状		
353 内面 (L) ナデ 外面 (L) ナデ, 摺揉状浮絞, 斜面削み (ヘラ?)	359 内面 (L) ナデ 外面 (L) ナデ, 斜面削み		
354 内面 (L) ナデ 外面 (L) ナデ, 斜面直下三角形, 摺揉風削み, 突	360 内面 (L) ナデ (削) ヘクナデ, ナデ (削) ヘクナデ 外面 (削) ヘクナデ (ナデ)		



遺物 No.	調整・破損
361	内面ナデ 内面ナデ
362	内面ナデ 外面 (CD) ヨコナデ (底) ナデ
363	内面 (側上) ナデ。頭部ナデ (腹下) ケズリ (傷いナデ?) 外面 (側) ヘラナデ (邊らか)
364	内面 (側) ナデ。縫合? 外面 (側) クライ
365	内面 (側) ナデ。内心内灰 外底 (側) タタキ? (底)
366	内面 (側) ナデ。内面 (側) タタキ (斜形子灰)
367	内面 (側) ナデ。内面 (側) タタキ (斜形子灰)
368	内面ナデ、ロクロ貝 外面ナデ (底) 回転ヘラ切り状
369	内面ナデ

Fig.140 4B区出土遺物42 その他の包含層 (S : 1/3)

は石斧である。379は石包丁、382は石剣か。380・381・383・384は叩石である。本層ではその他にチャート、サヌカイトの剥片が出土している。ⅢD層群から出土した石器・石製品のうち図示したのは385から405の21点である。385はサヌカイト製の石錐である。386・387は石斧である。388は石包丁、390も石包丁か。389・391から393は砥石である。394から402は叩石である。404から405は台石である。本層からはその他にチャート、サヌカイトの剥片が出土している。ⅢB



Fig.141 4B区出土遺物43 その他の包含層 (S : 1/3)

層群から出土した石器・石製品のうち図示したのは406から421の16点である。406は有孔円盤、407は石斧基部、408は打製石包丁、409は磨石である。410から420は叩石であり、421は台石である。

③木器・木製品 (Fig.147~156)

III C層から出土した木器・木製品のうち図示したものは423と424である。423は杓子か。その他には炭化材が出土している。III D層群から出土した木器・木製品のうち図示したものは425から440の16点である。425は把手か、429は工具部品の一部、430は槽または蓋、434は弓と考えられる。435は組合せ式の鞆または柄、436・437は鍬である。その他には炭化材が出土している。III B層群から出土した木器・木製品のうち図示したものは441から455の15点である。443・448は木錘である。444は舟形木製品、446は鉢の口縁か、447は弓、446は木皿、451は羽口鍬である。その他に炭化材が出土している。

④金属遺物

砂鉄³⁾

L5-22グリッド、III D-1層で出土した小型の鉢に入った状態で発見された。層序の項で記述したようにIII D-1層は祭祀遺物を多く含んだIII D層に先行する堆積層であり、尾根斜面部に近いことから地山崩壊疊を多く含んではいるがIII B-2層またはIII B-3層に後続する時期の堆積層と考えられる。鉢口縁部は破損を受けて一部分しか残されていないが、平底の底部から胴体部にかけてはよく残されており、砂鉄一部は鉢の内面に付着していた。鉢の造りは一般的なものであり、胎土はどちらかと云うと粗製に近い。特に祭祀的な印象は受けない。

出土量は約150gであり、暗灰色を呈している。

⑤自然遺物

堅果類他

III E層から堅果類（不明1種）が出土している。III D層のK5-19グリッドからはシラカシ？胡桃やL6-2グリッドからは果が出土しており、他に桃、瓢箪、が発見された。III B層群ではIII B-3層から獸骨が出土している。III B-0層からはサルノコシカケが出土している。III B層からは胡桃が出土している。

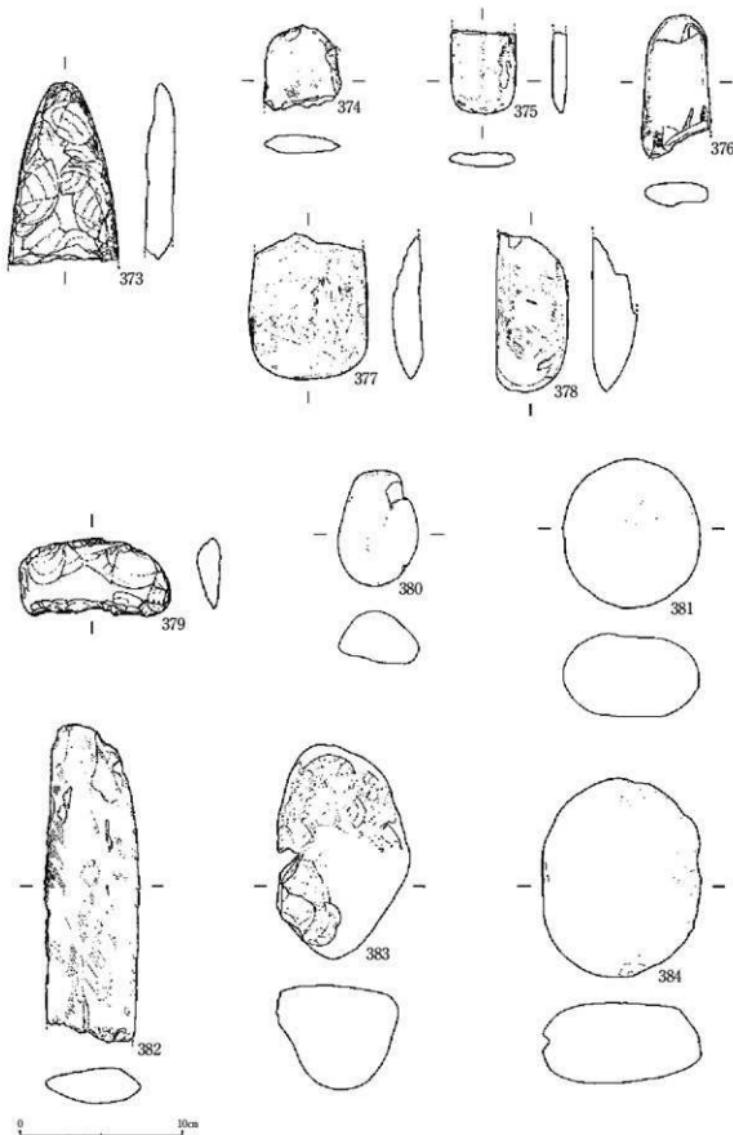


Fig.142 4 B 区出土遺物44 III E層・III C層群 (S : 1/3)

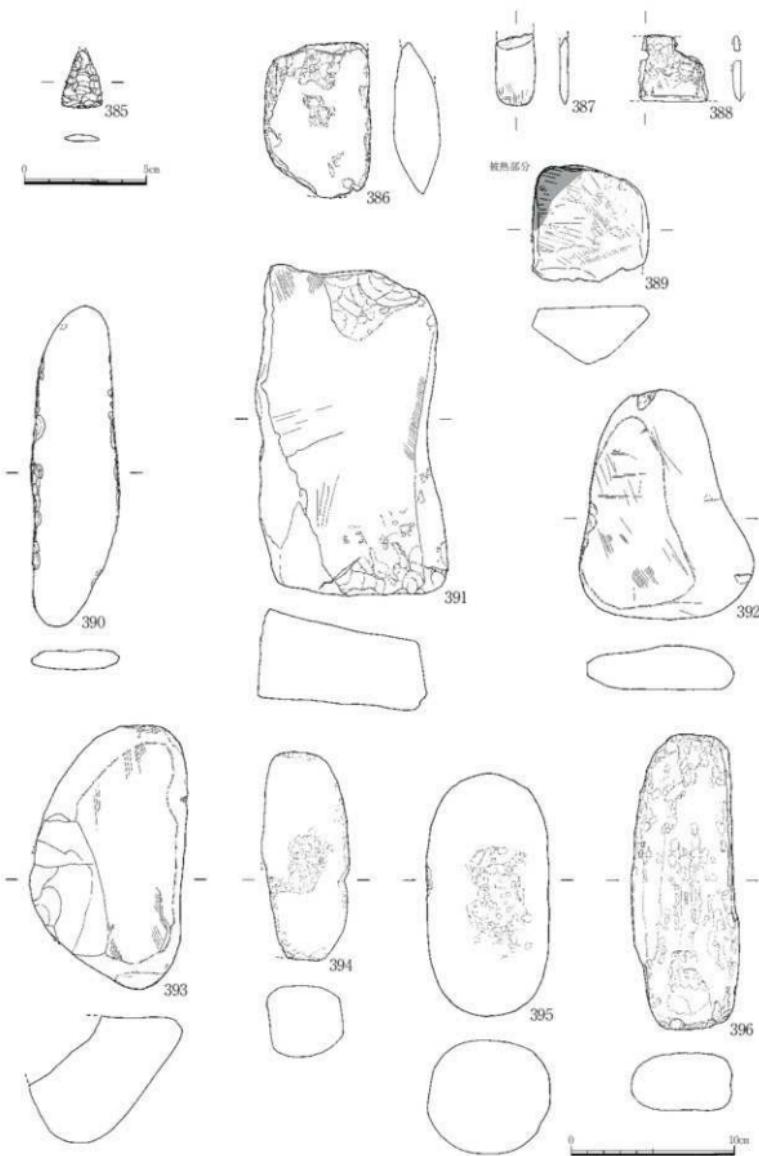


Fig.143 4 B区出土遺物45 III層群 (S : 1/2, 1/3)

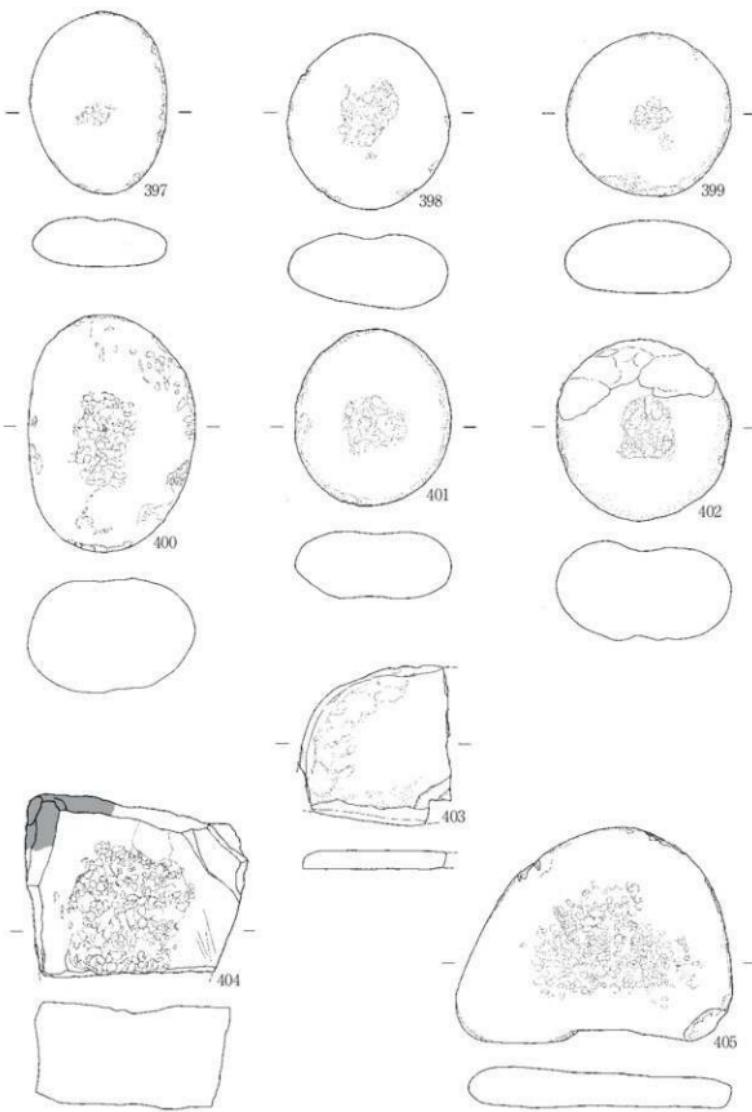


Fig.144 4 B区出土遺物46 III D層群 (S : 1/3)

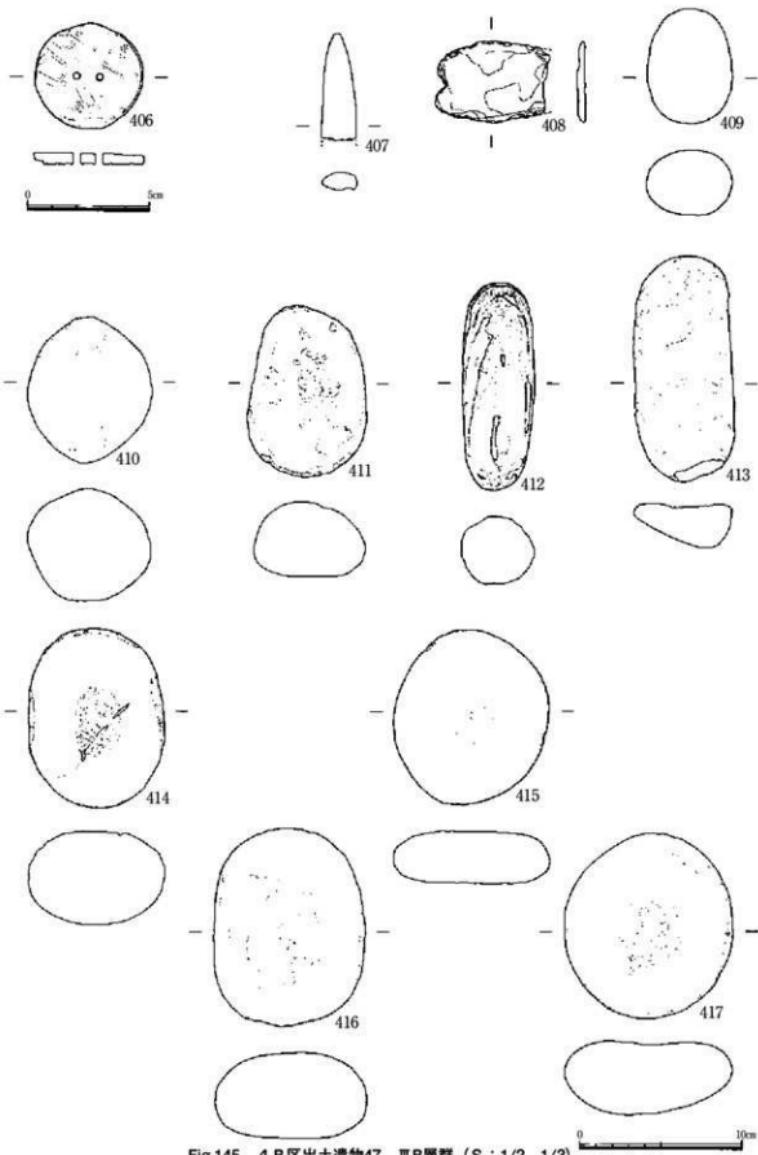


Fig.145 4B区出土遺物47 III層群 (S : 1/2, 1/3)



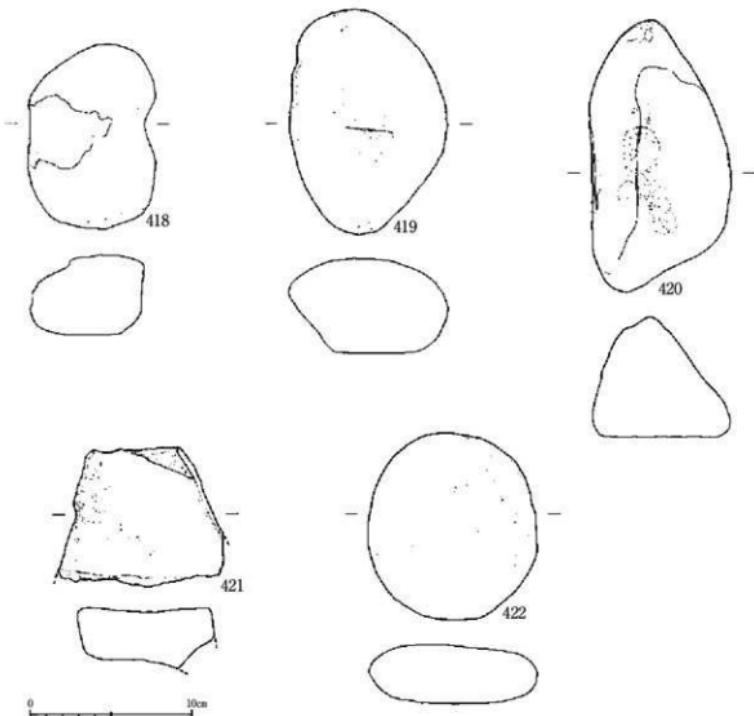


Fig.146 4 B区出土遺物48 III B層群 (S : 1/3)

注

- 縄文晩期末の深鉢と同様な形態を示すものを縄文系土器の深鉢形とした。突帯の規模や形態、刻みの方法や密度、粘土紐の接合方法など各属性に変化はあらわれるものの漸移的であり、形態的には区別が容易に付かないものが多い。
- 本調査区では四線紋土器の存在を示すことはできない。本調査区における中期末の様相がこれらの土器群に見られる独自のものであるのか、または『文京遺跡第10次調査』に示されている中期から後期への過渡的な状況を表したものであろうか。近接する『北高田遺跡』の久家芳隆氏による分析では、同様な出土土器群について後期初頭の位置付けがなされている。凹線紋の退化形態か。
- 砂鉄については大澤正巳氏による分析を参照されたい。大澤氏には高知県内（四国大平洋側）の砂鉄に含まれ成分についての詳細な意見を頂いた。また、武吉眞裕氏には高知県内の砂鉄採取地点と粒子の形状について御教授頂いた。

参考文献

- 『文京遺跡第10次調査』 愛媛大学埋蔵文化財調査室 1991年
 『北高田遺跡』 財團法人高知県文化財団埋蔵文化財センター 2000年
 『四村日本遺跡』 財團法人愛媛県文化財調査センター 1998年
 『下川津遺跡』 財團法人香川県埋蔵文化財調査センター 1990年

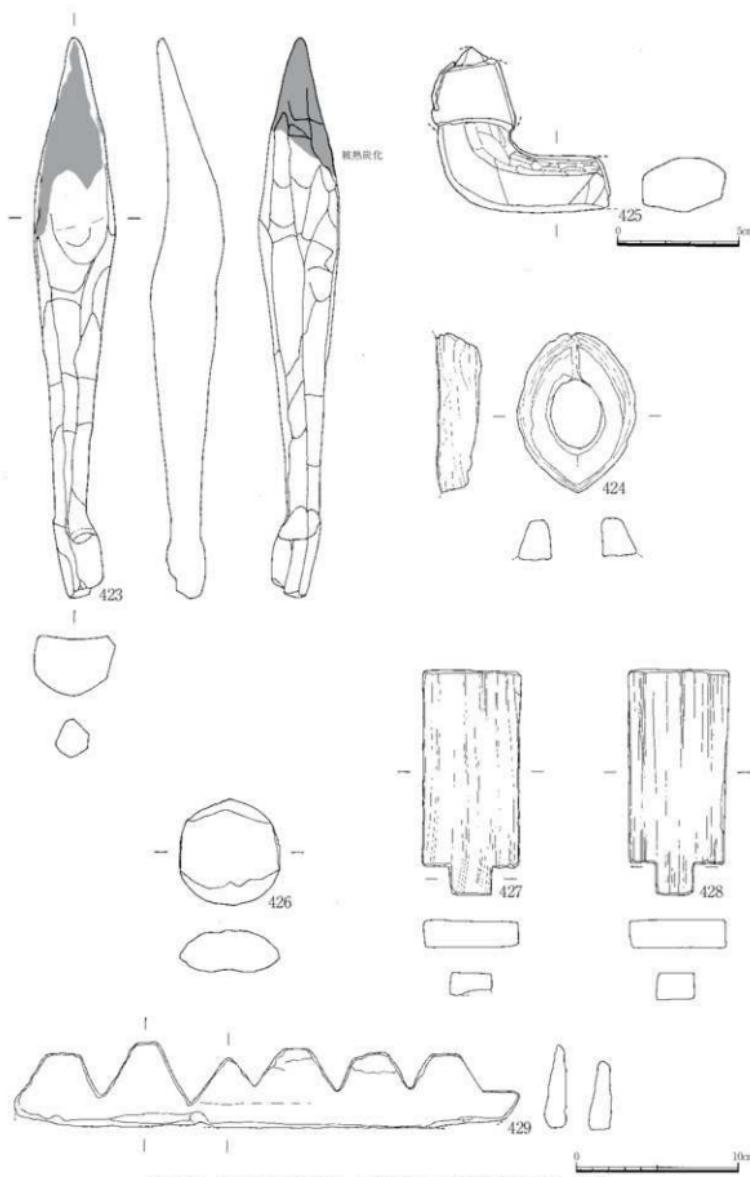
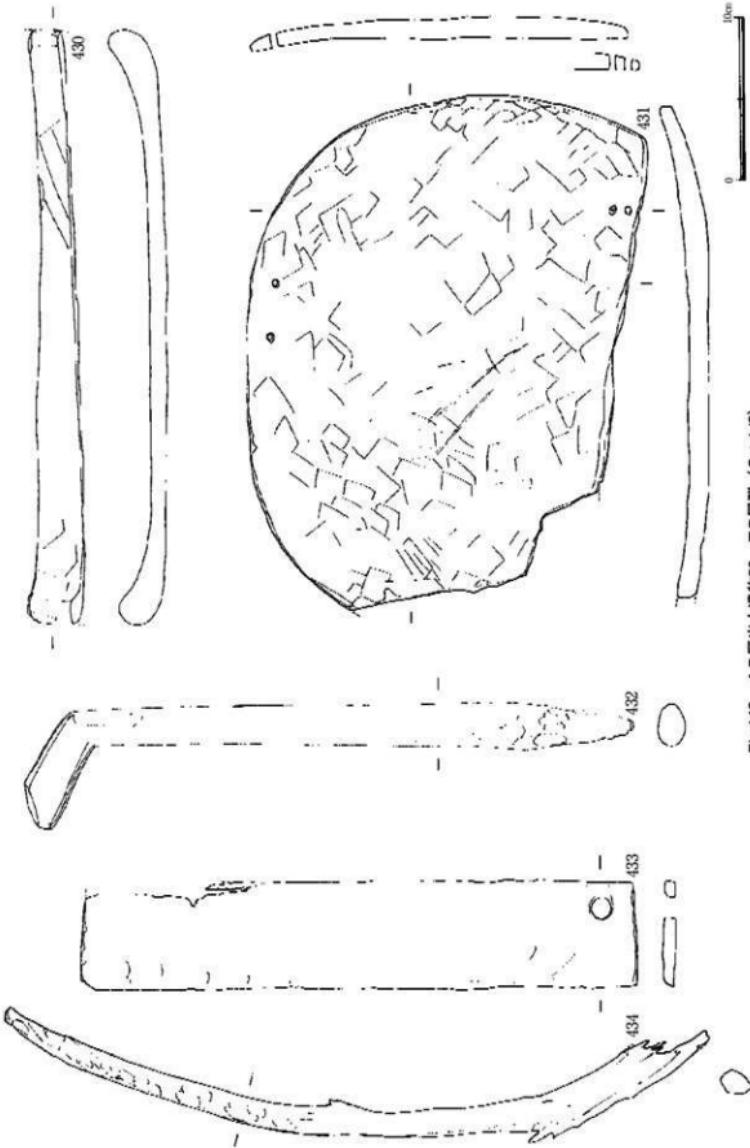


Fig.147 4 B区出土遺物49 III C層群・III D層群 (S : 1/2, 1/3)

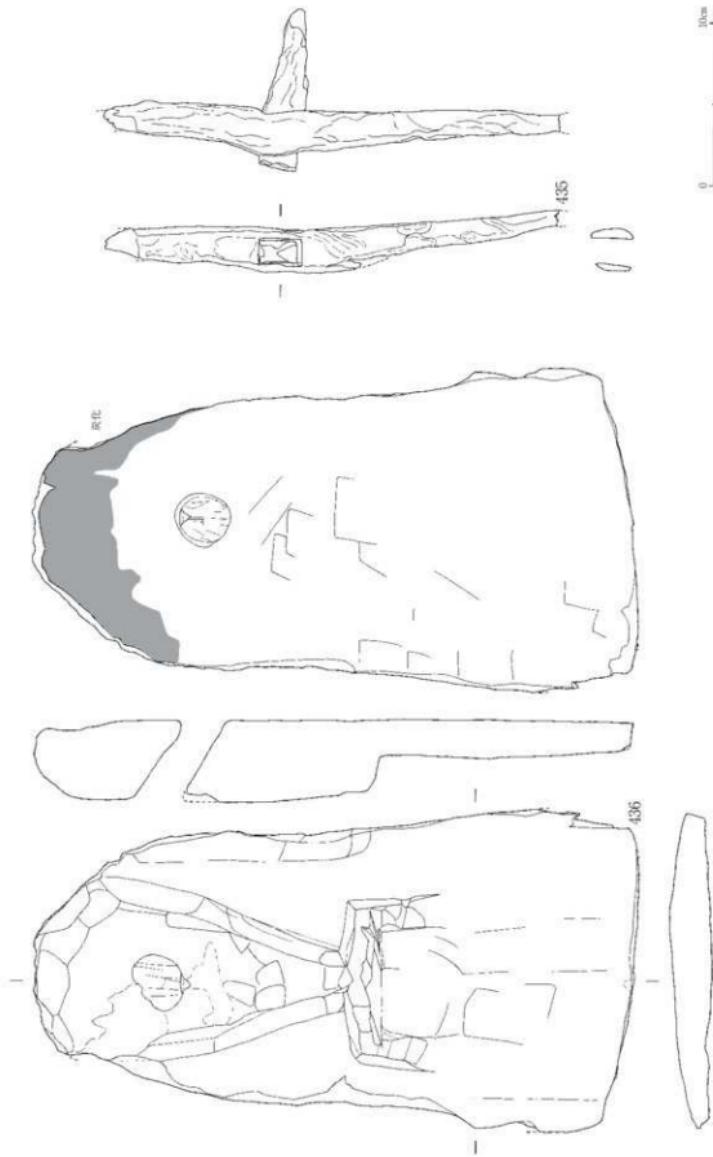
10cm

Fig.148 4区出土物50 ⅢD層群 (S : 1/3)



10cm

Fig.149 4B区出土遺物51 III層群 (S : 1/3)



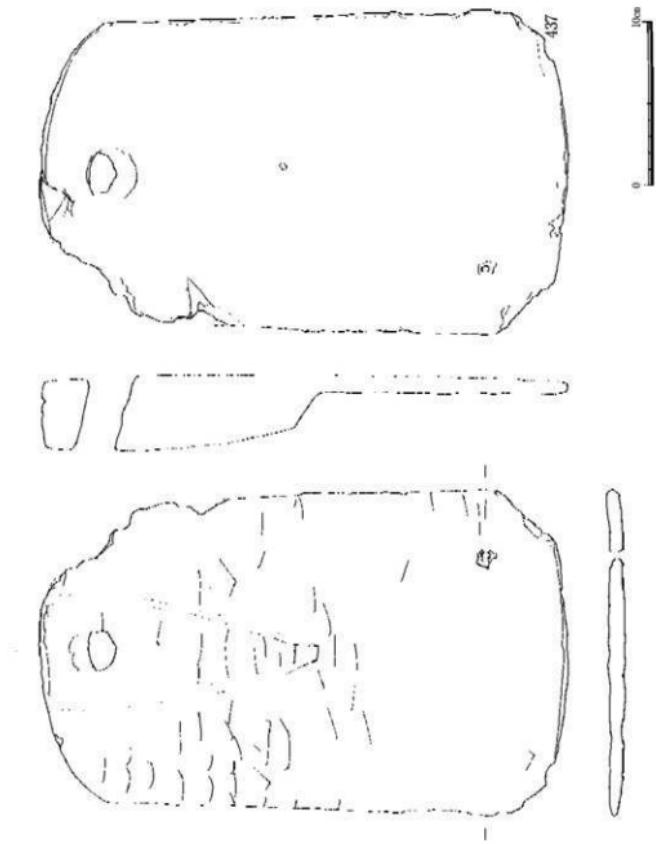


Fig.150 4B区出土遺物52 Ⅲ D層群 (S : 1/3)

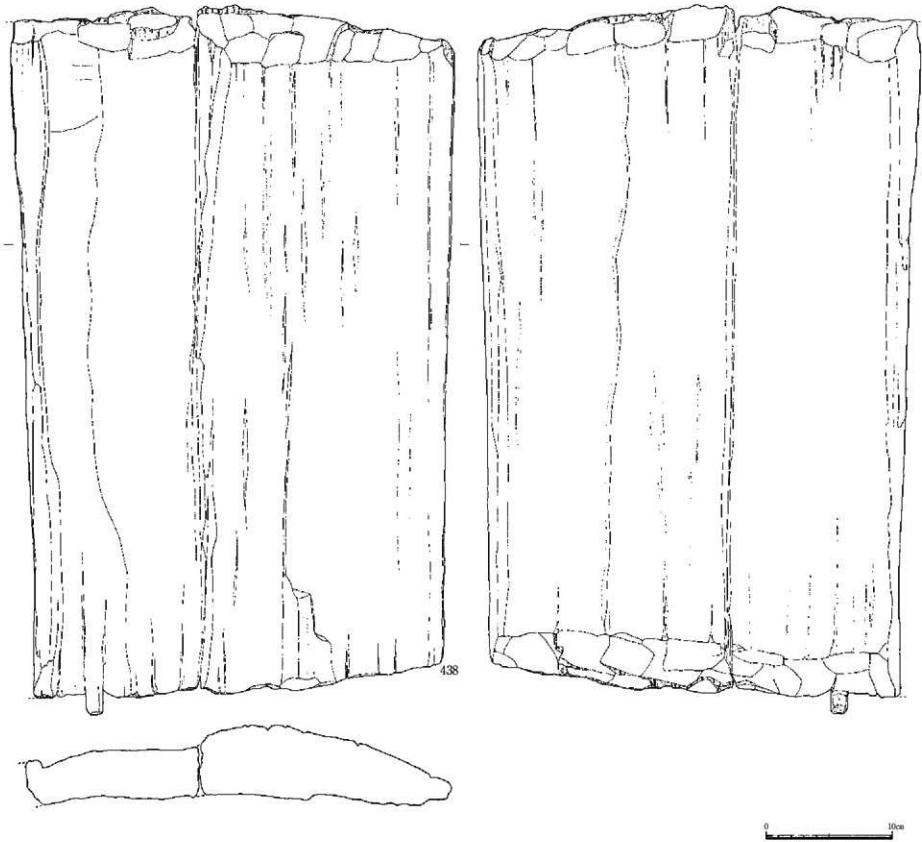
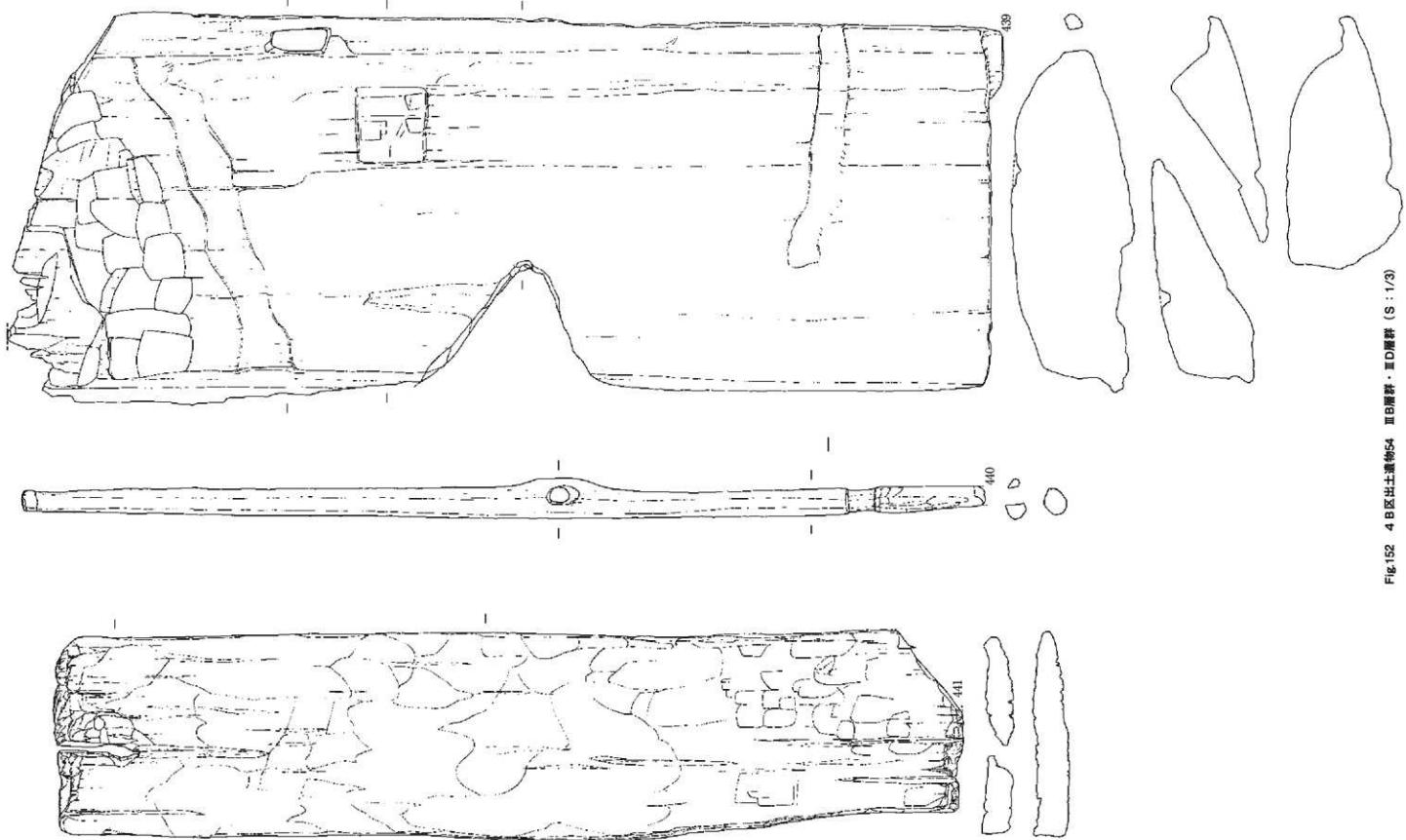


Fig.151 4B区出土遺物53 III層群 (S : 1/3)

10mm

Fig.152 4区出土遺物54 ⅢB頭骨・ⅢD頭骨 (S:1/3)



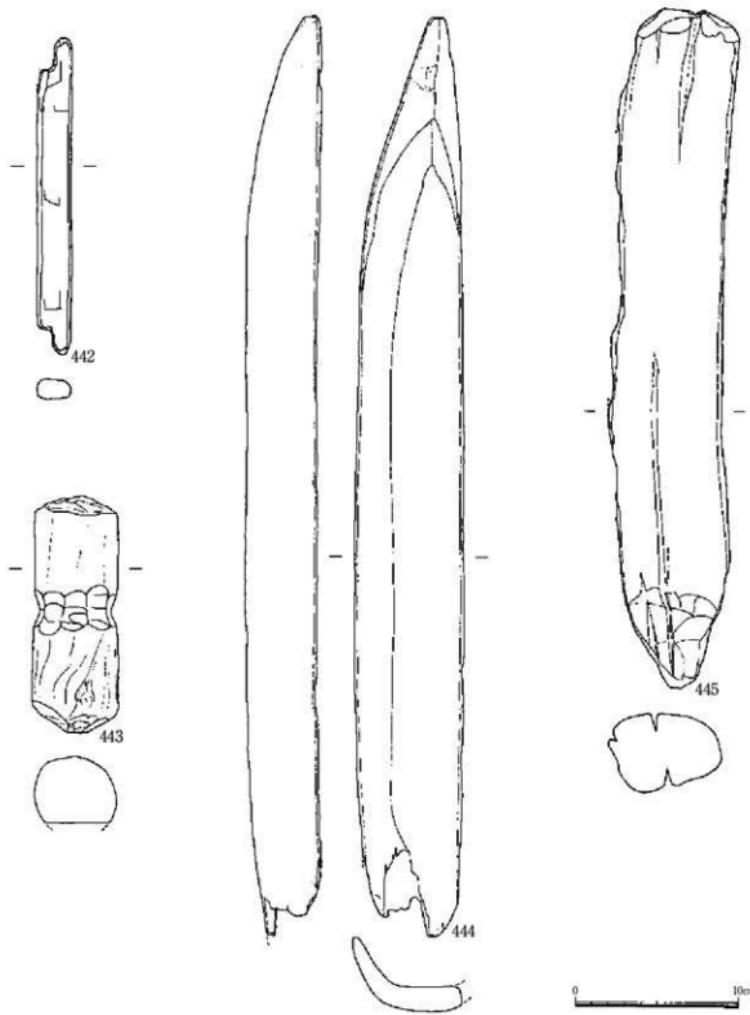


Fig.153 4 B区出土遺物55 ⅢB層群 (S : 1/3)

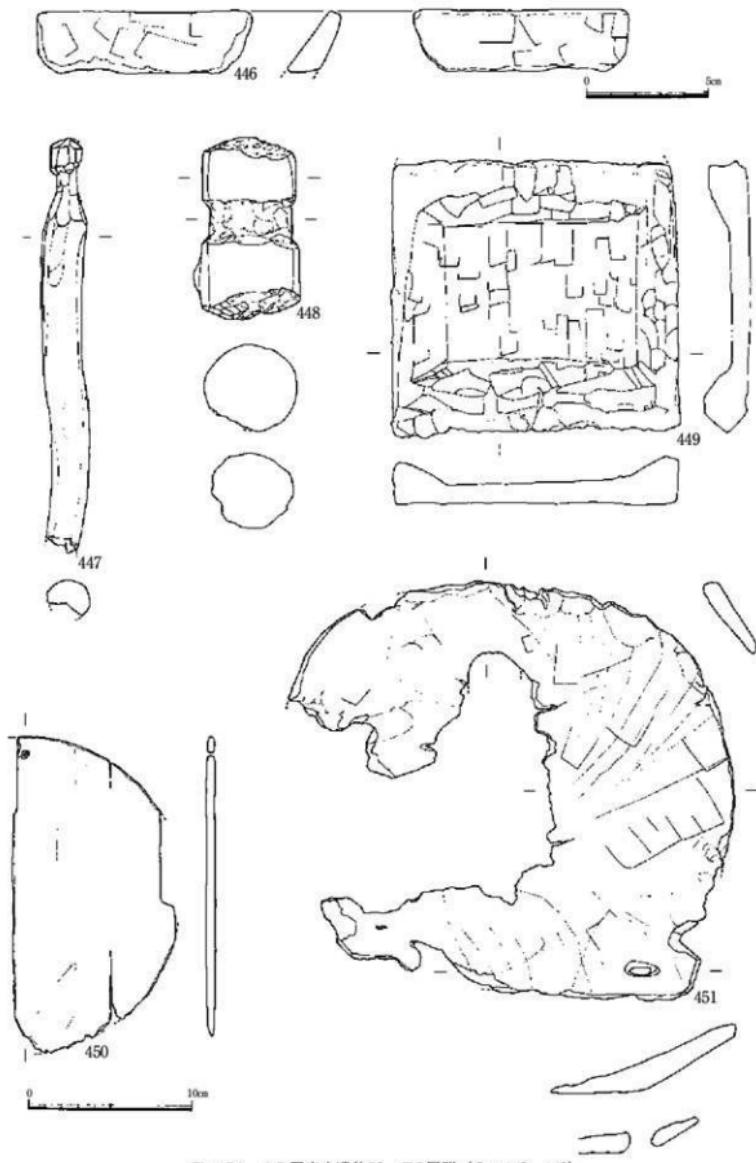


Fig.154 4 B区出土遺物56 ⅢB層群 (S : 1/2, 1/3)

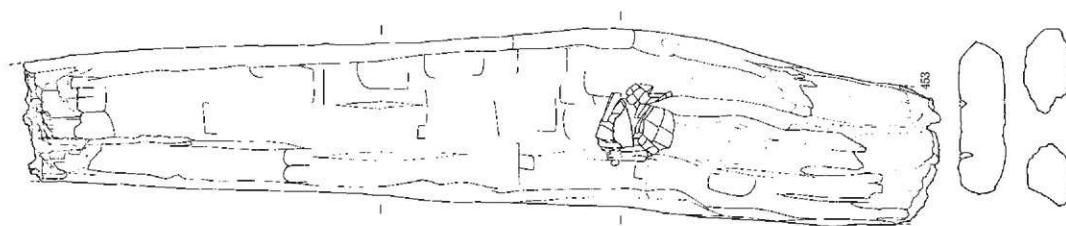
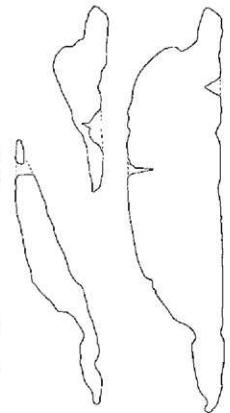
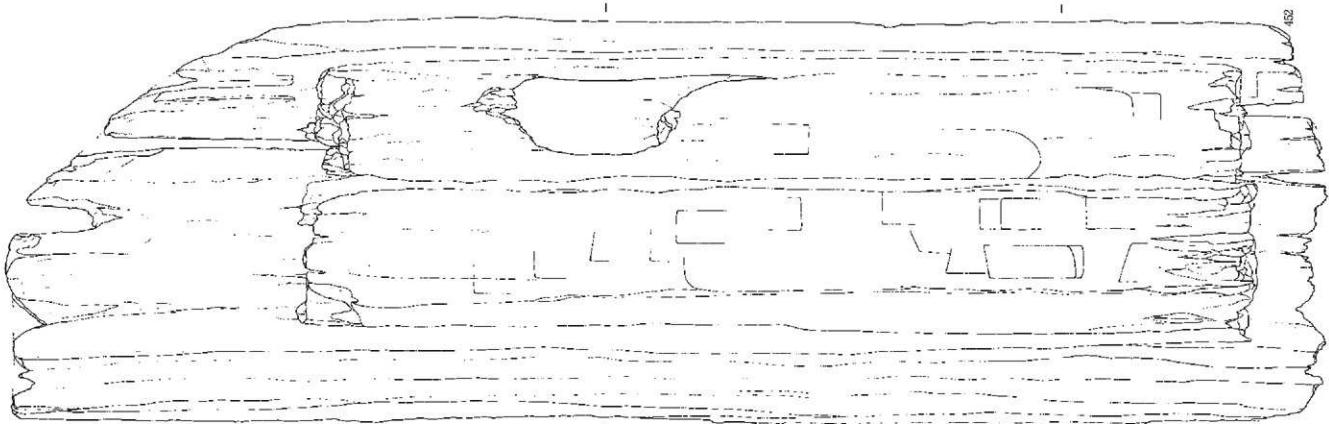


Fig.155 4区出土遺跡57 IIIB類群 (S : 1/3)

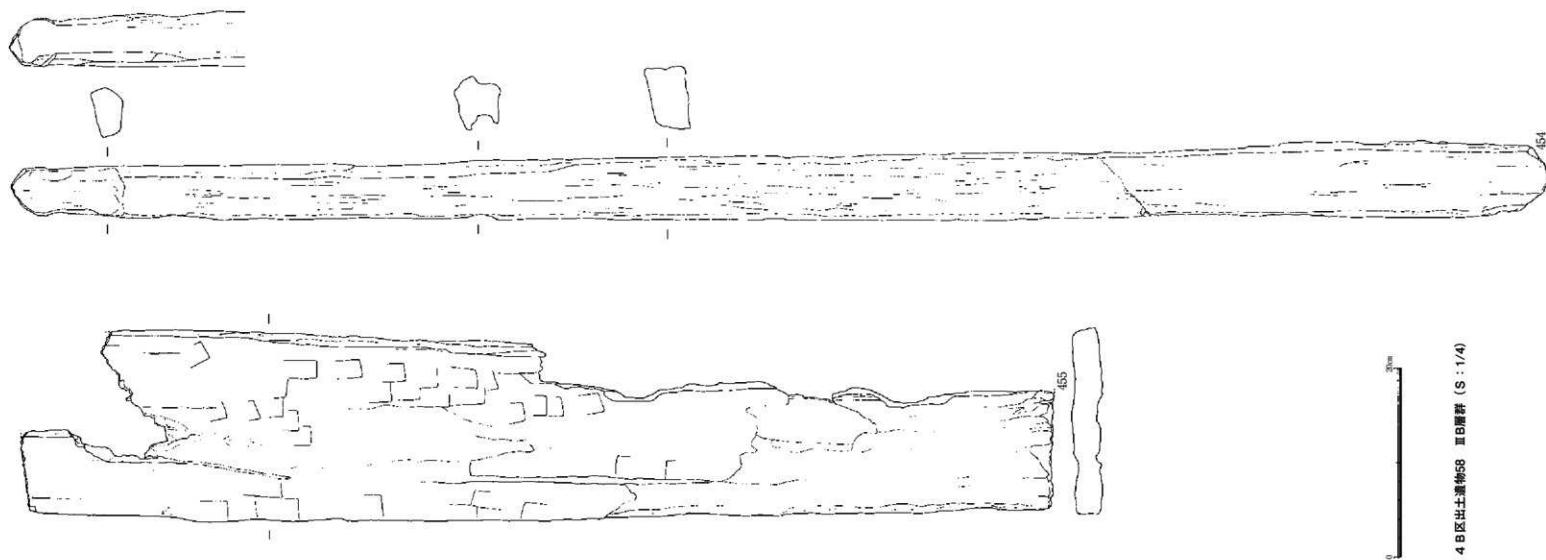


Fig.156 4B区出土遗物58 ⅢB層群 (S:1/4)

表38 4B区遺物觀察表1

(土器・土製品)

No.	遺物	出土地点	器種	器形	部位	計量(cm)	特徴	色調	内面	外面	胎土	備考
									口幅	底面	側壁	
99 1	—	ⅢE 瓦文土器 浅鉢	口縁	4.0	0.8	—	縫帶有孔器?	灰D	16x3	灰白	—	—
99 2	J625	ⅢE 瓦文土器 浅鉢	口縁	—	(37)	—	口縁は最も外反して外方に立上がる。口唇は外斜する平らな面がある。	10Y8R1/1 10Y8R2/2 10Y8R9/3	10Y8R1/1 10Y8R2/2 10Y8R9/3	10Y8R1/1 10Y8R2/2 10Y8R9/3	N5/	—
99 3	J625	ⅢE 瓦文土器 浅鉢	口縁	—	(21)	—	—	灰黒	25Y7/2	25Y7/3	25Y6/2	—
99 4	ⅢE 瓦文土器 深鉢	体	—	(46)	—	—	弧曲後内相す。	灰黒	25Y7/2	5Y7/1	10Y4/1	—
99 5	J7-5	ⅢE 瓦文土器 深鉢	口縁	—	(37)	—	口縁は最も外反して外方に立上がる。口唇は最も外斜する平らな面がある。内面に複数の凹部を有する。	10Y8R5/4	10Y8R4/2	5Y4/1	—	—
99 6	J625	ⅢE 瓦文土器 深鉢	口縁	—	(41)	—	—	灰黒	25Y6/2	5Y4/1	5Y5/1	—
99 7	—	ⅢE 瓦文土器 深鉢	口縁	—	(36)	—	—	10Y8R5/2	5Y4/1	5Y5/1	—	—
99 8	—	ⅢE 瓦文土器 深鉢	底	—	(21)	7D	底部に複数の凹部を有する。	10Y8R5/4	5Y5/6	10Y8R4/1	—	—
100 9	—	ⅢC 瓦文土器 浅鉢	口縁	—	(34)	—	—	10Y8R5/2	10Y8R4/1	10Y8R6/2	—	—
100 10	K5-19	ⅢC 瓦文土器 浅鉢	口縁	—	(35)	—	—	10Y8R5/2	10Y8R4/1	10Y8R6/2	—	—
100 11	K5-22	EC-0 瓦文土器 浅鉢	口縁	—	(49)	—	—	10Y8R5/2	10Y8R3/1	10Y8R3/1	—	—
100 12	K62	EC-1 瓦文土器 浅鉢	体	—	(35)	—	—	10Y8R1/1	25Y4/1	25Y2/1	—	—
100 13	K64	EC-1 瓦文土器 浅鉢	体	—	(50)	—	—	10Y8R1/1	10Y8R3/1	25Y4/1	—	—
100 14	K63	EC-1 強生土器 壺	側	—	(53)	—	—	10Y8R1/1	25Y4/2	10Y8R7/2	—	—
100 15	K69	EC-1 強生土器 壺	側	—	(31)	—	—	10Y8R1/1	25Y4/1	25Y7/4	—	—
100 16	K5-23	ⅢC 強生土器 壺	側	—	(28)	—	—	10Y8R6/2	25Y3/2	25Y7/2	—	—
100 17	K62	ⅢC 強生土器 壺	側	—	(44)	—	—	10Y8R1/1	25Y4/1	25Y3/3	25Y6/2	強生前期
100 18	—	EC-2 強生土器 壺	側	—	(40)	—	—	10Y8R1/1	5Y3/1	5Y3/1	10Y8R7/3	—
100 19	—	EC-1 強生土器 壺	側	—	(29)	—	—	10Y8R1/2	—	—	25Y5/2	—
100 20	K5-21	ⅢC 強生土器 壺	側	—	(36)	—	—	10Y8R6/2	10Y8R6/2	10Y8R6/2	—	—
100 21	K5-18	EC-0 強生土器 壺	側	—	(32)	—	—	10Y8R1/1	25Y4/1	25Y3/3	25Y6/2	強生前期
100 22	K5-21	ⅢC 強生土器 壺	側	—	(35)	—	—	10Y8R1/1	25Y4/1	25Y3/3	10Y8R6/4	—
100 23	K5-21	ⅢC 強生土器 壺	側	—	(31)	—	—	10Y8R1/1	25Y4/1	25Y7/1	10Y8R6/3	75YR7/4
100 24	L61	ⅢC 強生土器 壺	側	—	(41)	—	—	10Y8R6/3	10Y8R6/3	10Y8R6/3	10Y8R6/4	強生前期
100 25	K5-9	EC-1 強生土器 壺	側	—	(44)	—	—	10Y8R1/1	35Y1/1	10Y8R6/2	75YR7/4	—
100 26	K5-22	ⅢC 強生土器 壺	側	—	(34)	—	—	10Y8R6/2	25Y4/1	5Y3/1	75YR7/2	強生前期
100 27	K6-10	ⅢC 強生土器 壺	側	—	(48)	—	—	10Y8R6/2	10Y8R6/2	10Y8R6/2	10Y8R6/2	—
100 28	K6-10	ⅢC 強生土器 壺	側	—	(37)	—	—	10Y8R6/2	10Y8R6/2	10Y8R6/2	5Y5/1	—
100 29	K5-23	ⅢC 強生土器 壺	側	—	(46)	—	—	10Y8R6/1	5Y3/1	10Y8R6/1	5Y5/1	—
100 30	K5-19	ⅢC 強生土器 壺	側	—	(45)	—	—	10Y8R6/2	5Y5/4	5Y6/1	N4/	—
100 31	K5-21	EC-0 強生土器 壺	口縁	—	(42)	—	—	10Y8R6/2	25Y6/2	25Y6/2	5Y5/1	強生前期

表39 4B区遺物觀察表2

《土器・土製品》

No.	遺物 名	出土地點 No.	基盤 層	器形	部位	注意 (cm)	特徴	色調			参考
								内部 部位	外縁 部位	胎土	
101 32	—	ⅢC	陶土器	深	腹	— (3.2)	—	灰	灰	灰	SYRS-6
102 33	K5-24	ⅢC	陶土器	深	腹	— (3.9)	—	灰	灰	灰	SYRS-6
102 34	—	ⅢC-1	陶土器	深	腹	— (2.9)	—	灰	灰	灰	SYRS-1
102 35	K5-19	ⅢC	陶土器	深	腹	— (3.2)	—	灰	灰	灰	SYRS-1
102 36	K5-23	ⅢC-0	陶土器	深	腹	— (2.9)	—	灰	灰	灰	SYRS-1
102 37	K5-17	ⅢC	陶土器	深	腹	— (3.2)	—	灰	灰	灰	SYRS-1
102 38	K5-23	ⅢC	陶土器	深	腹	— (3.6)	—	灰	灰	灰	SYRS-1
102 39	K5-25	ⅢC-1	陶土器	深	腹	— (3.6)	—	灰	灰	灰	SYRS-1
102 40	K5-24	ⅢC	陶土器	深	腹	— (2.9)	—	灰	灰	灰	SYRS-1
102 41	K5-17	ⅢC	陶土器	深	腹	— (4.8)	—	灰	灰	灰	SYRS-1
102 42	K5-22	ⅢC	陶土器	深	腹	— (6.1)	—	灰	灰	灰	SYRS-1
102 43	K5-6	ⅢC	陶土器	深	腹	— (4.2)	—	灰	灰	灰	SYRS-1
102 44	K5-22	ⅢC	陶土器	深	腹	— (6.2)	—	灰	灰	灰	SYRS-1
102 45	K5-23	ⅢC-0	陶土器	深	腹	— (4.3)	—	灰	灰	灰	SYRS-1
102 46	K5-21	ⅢC	陶土器	深	腹	— (3.0)	—	灰	灰	灰	SYRS-1
102 47	K5-17	ⅢC	陶土器	深	腹	— (3.4)	—	灰	灰	灰	SYRS-1
102 48	K5-8	ⅢC-1	陶土器	深	腹	— (5.2)	—	灰	灰	灰	SYRS-1
102 49	K5-21	ⅢC	陶土器	深	腹	— (4.9)	—	灰	灰	灰	SYRS-1
102 50	—	ⅢC-1	陶土器	深	腹	— (3.1)	—	灰	灰	灰	SYRS-1
103 51	K5-3	ⅢC-1	陶土器	深	腹	— (4.9)	—	灰	灰	灰	SYRS-1
103 52	K5-2	ⅢC-1	陶土器	深	腹	— (2.1)	—	灰	灰	灰	SYRS-1
103 53	K5-3	ⅢC-1	陶土器	深	腹	— (2.8)	—	灰	灰	灰	SYRS-1
103 54	K5-19	ⅢC-0	陶土器	深	腹	— (3.8)	—	灰	灰	灰	SYRS-1
103 55	K5-15	ⅢC-1	陶土器	深	腹	— (4.1)	—	灰	灰	灰	SYRS-1
103 56	K5-9	ⅢC-1	陶土器	深	腹	— (3.1)	—	灰	灰	灰	SYRS-1

表40 4B区遗物觀察表3

《十善·十惡品》

種類	出土地点 No.	出土地点 グリッド 番号	層位	形態	部位	法長 (cm)	特徴	色調		備考
								内面	外側	
103 57 K6-3	II C	岡文土器	深鉢	L鉢	—	(32)	口縁は外反して内方に立ち上がる。口唇は丸く膨らむ。	灰	白	灰
103 58 K5-21	II C	陶生土器	甕	L鉢	—	(35)	口縁は外反して外方に立ち上がる。口唇は丸く膨らむ。外縁に付ける保付を成す。	灰	白	25Y7/1 10Y8/2 10Y8/4 10Y8/5 後生前期
103 59 L5-20	II C	岡文土器	深鉢	L鉢	—	(50)	口縁は外反して外方に立ち上がる。口唇は丸く膨らむ。内縁と外縁に一部に保付を成す。	黄灰	灰	灰白
103 60 K6-10	II C-1	岡文土器	深鉢	L鉢	—	(34)	波状口縁は外反して外方に立ち上がる。口唇は丸く膨らむ。	灰	黄	黄灰
103 61 K5-19	II C-0	岡文土器	深鉢	L鉢	—	(20)	口縁は外反して外方に立ち上がる。口唇は丸く膨らむ。外縁に口縁に付ける保付を成す。	灰	白	3Y5/1
103 62 K6-3	II C-1	陶生土器	甕	L鉢	—	(48)	口縁は外反して外方に立ち上がる。口唇は丸く膨らむ。又は丸く修飾する。	灰	白	25Y7/2 10Y8/2 10Y8/4 10Y8/5 後生前期
103 63 K5-19	II C-0	陶生土器	甕	L鉢	—	(30)	口縁は外反して外方に立ち上がる。口唇は丸く膨らむ。又は丸く修飾する。	灰	白	4C1-2 25Y7/2 25Y8/1 10Y8/2 後生前期
103 64 K5-24	II C	陶生土器	甕	L鉢	—	(19)	口縁は外反して外方に立ち上がる。口唇は丸く膨らむ。外縁に付ける保付を成す。	灰	白	25Y7/2 25Y8/2 後生前期
103 65 K5-21	II C	陶生土器	甕	L鉢	—	(57)	口縁は外反して外方に立ち上がる。口唇は外側の中央の僅んだ一面を成し、外縁にやや肥厚する。	黄	白	25Y7/2 10Y8/3 10Y8/5 10Y8/6 後生前期
103 66 K5-17	II C	岡文土器	深鉢	甕	—	(31)	—	灰	黄	25Y7/2
103 67 K5-23	II C	岡文土器	深鉢	甕	—	(34)	—	灰	白	25Y7/1 5Y3/1 25Y7/1
103 68 J5-25	II C	岡文土器	深鉢	甕	—	(40)	外縁側面部部分に保付を成す。	灰	白	灰
103 69 K5-19	II C	岡文土器	深鉢	甕	—	(43)	—	灰	白	25Y7/2 10Y8/2 10Y8/5 25Y7/2 10Y8/1
103 70 K6-19	II C	岡文土器	深鉢	甕	—	(128)	口縁は外反して外方に立ち上がる。内縁と外縁部分に保付を成す。	灰	白	25Y7/2
104 71 K5-30 BB3-3 II C	陶生土器	甕	L鉢	—	(45)	—	口縁は直角的で外方に立ち上がる。外縁に保付を成す。	灰	白	25Y7/2 10Y8/2 10Y8/4 10Y8/5 後生後期
104 72 K5-24	II C	陶生土器	甕	側	—	(47)	—	—	灰	灰
104 73 K6-4	II C	陶生土器	甕	L鉢	—	(41)	口縁は外反して外方に立ち上がる。口唇は丸く膨らむ。口縁に付ける保付を成す。	灰	白	NS/
104 74 K5-20 III C- D II C	陶生土器	甕	L鉢	—	(125)	—	口縁は直角的で外方に立ち上がる。外縁に保付を成す。	灰	白	25Y7/1 25Y7/2 10Y8/2 10Y8/4 後生中期
104 75 K5-23	II C	陶生土器	甕	L鉢	—	(48)	口縁は直角的で外方に立ち上がる。口唇は丸く膨らむ。口縁に付ける保付を成す。	灰	白	25Y7/1 25Y7/2 10Y8/1 後生後期
104 76 E6-9	II C	陶生土器	甕	L鉢	—	(44)	—	—	灰	灰
104 77 E6-2	II C	陶生土器	甕	L鉢	—	(23)	口縁は外反して外方に立ち上がる。口唇は丸く膨らむ。外縁に付ける保付を成す。	灰	白	25Y7/1 25Y7/2 10Y8/2 10Y8/4 後生後期
104 78 K5-24	II C	陶生土器	甕	L鉢	—	(31)	—	—	灰	白
104 79 K5-22	II C	陶生土器	甕	L鉢	14.2	(40)	口縁は外反して外方に立ち上がる。口唇は丸く膨らむ。	灰	白	25Y7/1 25Y7/2 10Y8/2 10Y8/4 後生中期

表A1 A B区遗物列表表A

第1章 土器・土製品		出土地點 No.	出土地点 No.	器種 ダリッド 類	形態 ED	部位 土器部 要	法蓋 (cm) 12.8 (17.6)	特徴 上口 底面 側面 底面	内面		外側		報告 者	
遺物	地圖								内面	外側	内面	外側		
K5-5 17・21 22	III-B-3-C II-D	土器部 要	—	—	—	—	—	L18は被り外反して外方に立ち上がる。口唇は外側を丸く持った面乃至尖る。底部は幅厚する。底部原面はやや凹。外面部斜下立・下唇に帶状に付着する。	灰質	25Y6/2	灰質黒	モリーブ黒	10Y3/1	
104 80	—	—	—	—	—	—	—	L18は直線的に外方に立ち上がる。口唇は外側を丸く持った面乃至尖る。底部原面はやや凹。外面部斜下立・下唇に帶状に付着する。	灰質	10Y8E/2	10Y8E/2	10Y3/1	—	
K5-21 K5-19 K6-4	III-B-3-C II-D	土器部 要	—	—	—	—	—	L18は直線的に外方に立ち上がる。口唇は丸く修飾。外側にやや肥厚する。底部原面はやや凸。外面部斜下立・L18の部分的に帯状に付着する。	灰質	7.5TB8/4	灰質黒	灰	—	
104 81	—	—	—	—	—	—	—	L18は被り外反して外方に立ち上がる。口唇は丸く修飾。外側にやや肥厚する。底部原面はやや凸。外面部斜下立・L18一部に帯状に付着する。	灰質	7.5TB8/3	5TY8E/4	5/5Y1	—	
K5-16 29・21	II-C・II-D	土器部 要	—	—	—	—	—	—	—	—	灰質	灰	—	
104 82	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	灰質	灰	—	
105 83	K5-19	II-C	陶文土器	深鉢	体	—	(60)	—	内側接合。	25Y7/1	10Y8E/3	3Y/T	—	
105 84	—	II-C	陶文土器	深鉢	側	—	65	半径 10	—	—	5M7/1	5Y4/3	2.5SY/2	
105 85	K6-2	II-C	陶文土器	深鉢	側	—	(77)	—	外面部側に複合付着。	25Y5/2	2.5M6/2	2.5Y/T	—	
105 86	K6-19	II-C	陶文土器	深鉢	底	—	(40)	—	底面。内側接合。	2.5M6/2	10Y8E/3	10Y8E/3	—	
—	—	—	—	—	—	—	—	L18は外反して外方に立ち上がる。口唇は丸く修飾する。L18外側部に粘土層付し肥厚する。	灰質	7.5TB8/5	7.5Y8E/5	7.5Y4/1	—	
II-B3・II		D	衛生土器	罐	L18	9.0	(10.2)	—	—	—	灰質	灰質	灰	—
106 87	L5-11・20	—	—	—	—	—	—	L18は被り外反して外方に立ち上がる。口唇は丸く修飾する。L18外側部に粘土層付し肥厚する。	25Y6/2	10Y8E/2	7.5Y4/1	—	—	
II-B3・II		D	衛生土器	罐	L18	15.7	(64)	—	—	—	灰質	灰質	灰	衛生中隔
106 88	K5-18	—	—	—	—	—	—	L18は被り外反して外方に立ち上がる。口唇は丸く修飾する。L18外側部に粘土層付し肥厚する。	25Y6/2	10Y8E/2	—	—	—	
106 89	K5-23	II-D	衛生土器	罐	L18	—	(77)	—	—	—	灰質	灰質	灰	—
106 90	K5-20	II-D	衛生土器	罐	L18	—	9.7	(99)	—	—	—	—	—	衛生後隔
—	—	—	—	—	—	—	—	L18は外反して外方に立ち上がる。口唇は丸く修飾する。L18外側部に粘土層付し肥厚する。	2.5M6/2	7.5TB8/4	7.5Y8E/3	7.5Y5/1	—	
106 91	K5-19	II-D	衛生土器	罐	L18	32.0	(42)	—	—	—	灰質	灰質	灰	—
106 92	K5-20	II-D	衛生土器	罐	L18	21.4	(82)	—	—	—	灰質	灰質	灰	10Y8E/3
106 93	K5-22	II-D	衛生土器	罐	L18	—	(36)	—	—	—	灰質	灰質	灰	—
106 94	K5-14	II-D	衛生土器	要	—	(24)	—	—	—	—	灰質	灰質	モリーブ黒	7.5Y8E/4
106 95	L6-2	II-D	衛生土器	罐	L18	—	(4.6)	—	—	—	2.5M7/2	7.5Y8E/4	7.5Y5/1	—
106 96	L5-21	II-D	衛生土器	要	L18	—	(48)	—	—	—	灰質	灰質	灰	—
106 97	K5-19	II-D	衛生土器	罐	L18	—	(21)	—	—	—	2.5M7/2	N3	N4/	—
106 98	K5-19	II-D	衛生土器	要	L18	—	(25)	—	—	—	2.5M7/3	2.5M7/1	2.5SY/1	—
107 99	K5-15	II-D	衛生土器	罐	L18	13.0	(31)	—	—	—	2.5M7/2	10Y8E/3	2.5SY/1	モリーブ黒
107 100	L6-2	II-D	衛生土器	罐	L18	13.4	(56)	—	—	—	5M6/1	2.5M7/2	N4/	モリーブ黒
107 101	L6-2	II-D	衛生土器	罐	L18	—	(55)	—	—	—	—	—	—	モリーブ黒

表42 4B区遺物觀察表5

(土器・土製品)

No.	遺物	出土地点	基盤	唇形	部位	法長 (cm)	口径	唇高	側径	底径	特徴			内面	外面	胎土	参考	
											基盤	内面	外面					
307 102 L5.22	II D	縄文土器 深鉢 体	—	(27)	—	—	—	—	—	—	口縁は腹部から連続的に外反する。口唇は外縁から前面を成すか又は丸く移る。腹部は織く曲がる。外底斜削部上位一部・口縁部分に側付有。	灰黄褐	灰黄褐	灰	10YR4/2	10YR6/2	10YR5/1	
307 103 K5.15	II D	弦生土器 突唇 体	15.0	(96)	16.2	—	—	—	—	—	口縁は腹部から連続的に外反する。口唇は外縁から前面を成すか又は丸く移る。腹部は織く曲がる。外底斜削部上位一部・口縁部分に側付有。	灰黄褐	灰黄褐	黑褐	10YR5/2	10YR6/2	25Y7/3	弦生中期
307 104 K5.19	II D	弦生土器 突唇	—	(27)	—	—	—	—	—	—	口縁は腹部から連続的に外反する。口唇は外縁から前面を成すか又は丸く移る。腹部は織く曲がる。外底斜削部上位一部・口縁部分に側付有。	灰黄	灰黄	灰	10YR5/2	10YR6/2	25Y7/3	
307 105 K5.20	II D	弦生土器 突唇	—	(41)	—	—	—	—	—	—	口縁は腹部から連続的に外反する。口唇は外縁から前面を成すか又は丸く移る。腹部は織く曲がる。外底斜削部上位一部・口縁部分に側付有。	灰黄	灰黄	灰	25Y6/2	25Y6/3	25Y6/2	
307 106 K5.21	II D	弦生土器 突唇 例	—	(34)	—	—	—	—	—	—	口縁は腹部から連続的に外反する。口唇は外縁から前面を成すか又は丸く移る。腹部は織く曲がる。外底斜削部上位一部・口縁部分に側付有。	灰黄	灰黄	灰	10YR6/4	10YR6/4	25Y7/3	弦生中期
307 107 K5.21	II D	弦生土器 突唇 例	—	(49)	—	—	—	—	—	—	口縁は腹部から連続的に外反する。口唇は外縁から前面を成すか又は丸く移る。腹部は織く曲がる。外底斜削部上位一部・口縁部分に側付有。	灰黄	灰黄	灰	25Y5/1	25Y6/2	25Y6/3	Nd
307 108 K5.14	II D	弦生土器 突唇 例	—	(32)	—	—	—	—	—	—	口縁は腹部から連続的に外反する。口唇は外縁から前面を成すか又は丸く移る。腹部は織く曲がる。外底斜削部上位一部・口縁部分に側付有。	灰黄	灰黄	灰	25Y6/3	25Y7/2	25Y7/3	Nd
308 109 L6.2	II D	弦生土器 突唇 例	—	(26)	—	—	—	—	—	—	口縁は腹部から連続的に外反する。口唇は外縁から前面を成すか又は丸く移る。腹部は織く曲がる。外底斜削部上位一部・口縁部分に側付有。	灰黄	灰黄	灰	25Y6/2	10YR6/2	10YR6/2	
308 110 K5.22	II D	弦生土器 突唇 例	—	(30)	—	—	—	—	—	—	口縁は腹部から連続的に外反する。口唇は外縁から前面を成すか又は丸く移る。腹部は織く曲がる。外底斜削部上位一部・口縁部分に側付有。	灰	灰	灰	10KN3/	5YR6/6	Nd	
308 111 L5.36	II D	弦生土器 突唇 例	—	(24)	—	—	—	—	—	—	口縁は腹部から連続的に外反する。口唇は外縁から前面を成すか又は丸く移る。腹部は織く曲がる。外底斜削部上位一部・口縁部分に側付有。	灰	灰	灰	25YH5/2	5YR6/6	25Y4/3	
308 112 L5.22	II D	弦生土器 突唇 例	—	(42)	—	—	—	—	—	—	口縁は腹部から連続的に外反する。口唇は外縁から前面を成すか又は丸く移る。腹部は織く曲がる。外底斜削部上位一部・口縁部分に側付有。	灰	灰	灰	10YR5/1	5Y3/1	Nd	
308 113 L6.1	II D	縄文土器 深鉢 口縁	—	(59)	—	—	—	—	—	—	口縁は腹部から連続的に外反する。口唇は外縁から前面を成すか又は丸く移る。腹部は織く曲がる。外底斜削部上位一部・口縁部分に側付有。	灰白	灰黄	黄灰	25Y5/2	25Y6/1	10YR4/1	
308 114 K5.21	II D	弦生土器 突唇 例	19.4	(63)	—	—	—	—	—	—	口縁は腹部から連続的に外反する。口唇は外縁から前面を成すか又は丸く移る。腹部は織く曲がる。外底斜削部上位一部・口縁部分に側付有。	灰白	灰黄	浅黄	25Y6/2	10YR5/2	25Y6/3	弦生前期
308 115 L6.2	II D	弦生土器 突唇 例	—	(40)	—	—	—	—	—	—	口縁は腹部から連続的に外反する。口唇は外縁から前面を成すか又は丸く移る。腹部は織く曲がる。外底斜削部上位一部・口縁部分に側付有。	灰白	灰黄	灰	25Y6/2	10YR7/3	10YR3/1	
308 116 K5.18	II D	縄文土器 深鉢 口縁	—	(56)	—	—	—	—	—	—	口縁は腹部から連続的に外反する。口唇は外縁から前面を成すか又は丸く移る。腹部は織く曲がる。外底斜削部上位一部・口縁部分に側付有。	灰白	浅黄	黑	10YR8/2	25Y7/3	25Y2/1	
308 117 K5.21	II D	弦生土器 突唇 例	11.8	—	(25)	—	—	—	—	—	口縁は腹部から連続的に外反する。口唇は外縁から前面を成すか又は丸く移る。腹部は織く曲がる。外底斜削部上位一部・口縁部分に側付有。	灰白	灰黄	灰	10YR7/2	10YR6/3	5Y4/1	
308 118 K5.18	II D	縄文土器 深鉢 例	—	(24)	—	—	—	—	—	—	口縁は腹部から連続的に外反する。口唇は外縁から前面を成すか又は丸く移る。腹部は織く曲がる。外底斜削部上位一部・口縁部分に側付有。	灰白	灰黄	灰	25YH5/4	7.5YR5/4	5Y5/1	
309 119 K5.21	II D	土加器 高环	13.1	11.5	—	9.7	—	—	—	—	口縁は腹部から連続的に外反する。口唇は外縁から前面を成すか又は丸く移る。腹部は織く曲がる。外底斜削部上位一部・口縁部分に側付有。	灰黄	灰黄	灰	25Y7/2	25Y7/2	Nd	
309 120 K5.17・20	II D	土加器 高环	12.9	10.8	—	11.0	—	—	—	—	口縁は腹部から連続的に外反する。口唇は外縁から前面を成すか又は丸く移る。腹部は織く曲がる。外底斜削部上位一部・口縁部分に側付有。	浅黄褐	浅黄褐	灰	7.5YR8/4	5YR7/6	7.5Y4/1	
309 121 K5.21・22	II D	土加器 高环	14.5	11.7	—	8.8	—	—	—	—	口縁は腹部から連続的に外反する。口唇は外縁から前面を成すか又は丸く移る。腹部は織く曲がる。外底斜削部上位一部・口縁部分に側付有。	浅黄褐	浅黄褐	灰	10YR7/2	25Y8/3	Nd	
309 122 K5.21	II D	土加器 高环	12.7	11.1	—	10.4	—	—	—	—	口縁は腹部から連続的に外反する。口唇は外縁から前面を成すか又は丸く移る。腹部は織く曲がる。外底斜削部上位一部・口縁部分に側付有。	浅黄褐	浅黄褐	灰	10YR7/3	10YR7/3	5Y4/1	
309 123 K5.21・22	II D	土加器 高环	13.7	11.4	—	9.6	—	—	—	—	口縁は腹部から連続的に外反する。口唇は外縁から前面を成すか又は丸く移る。腹部は織く曲がる。外底斜削部上位一部・口縁部分に側付有。	浅黄褐	浅黄褐	浅黄	10YR8/4	7.5YR7/4	25Y7/3	

表43 4B区遺物観察表6

土器・土製品	Fig. 造物		出土地点		器種		形態		部位		法長 (cm)		内面		外面		色調		備考
No.	No.	グリッド	層	土器部	形態	高さ	口径	底径	底径	上口径	下口径	側壁	底壁	内面	外面	内面	外面	地土	
109	124	K5-19	ED	土器部	高环	13.9	17.5	—	104	環状	—	—	—	灰	灰	黄	黄灰	—	
109	125	K5-16・17	ED	土器部	高环	14.0	12.7	—	108	環状	—	—	—	灰	灰	灰	黄	オリーブ黒	
109	126	K5-16	ED	土器部	高环	14.1	12.3	—	105	環状	—	—	—	灰	灰	灰	白	—	
109	127	K5-13・18	ED	土器部	高环	14.0	12.1	—	105	環状	—	—	—	灰	灰	灰	灰	—	
109	128	L5-16	ED	土器部	高环	14.5	13.5	—	108	環状	—	—	—	灰	灰	灰	灰	—	
109	129	K5-19・20	ED	土器部	高环	—	(11.7)	—	116	環状	—	—	—	灰	灰	灰	灰	—	
109	130	L5-16	ED	土器部	高环	15.3	13.1	—	102	環状	—	—	—	灰	灰	灰	灰	—	
110	131	K5-19	ED	土器部	高环	16.2	12.9	—	110	環状	—	—	—	灰	灰	灰	灰	—	
110	132	L5-16・17	ED	土器部	高环	16.9	12.9	—	110	環状	—	—	—	灰	灰	灰	灰	—	
110	133	L5-22	ED	土器部	高环	17.8	(11.6)	—	—	—	—	—	—	灰	灰	灰	灰	—	
110	134	K5-19	ED	土器部	高环	16.8	14.5	—	116	環状	—	—	—	灰	灰	灰	灰	—	
110	135	L5-22	ED	土器部	高环	20.4	8.6	—	—	—	—	—	—	灰	灰	灰	灰	—	
110	136	L5-16	ED	土器部	高环	21.7	(6.8)	—	—	—	—	—	—	灰	灰	灰	灰	—	
111	137	K5-20	ED	土器部	高环	14.1	12.4	—	108	環状	—	—	—	灰	灰	灰	灰	オリーブ黒	
111	138	K5-20	EB3・II D	土器部	高环	14.6	11.7	—	115	環状	—	—	—	灰	灰	灰	灰	—	
111	139	K5-20	ED	土器部	高环	17.1	13.8	—	—	—	—	—	—	灰	灰	灰	灰	—	
111	140	L5-22	ED	土器部	高环	15.6	11.9	—	—	—	—	—	—	灰	灰	灰	灰	—	

表44 4B区遺物觀察表7

(土器・土製品)

No.	遺物	出土地点	器種	器形	部位	法量 (cm)	寸法	器内	器外	色調	備考	
								底内	側付	底付	底付	
111 141	L5-21・22	ⅢD	土師器	高环	157	128	—	11.2	楕円の底盤。口縁は内側して外上方に立てる。口唇は直角で底を少し部分的に内側傾ける。脚は脚に側面からついて横方向に反し、端で翫く圓く、縫隙付。	にぶい楕	にぶい楕	暗灰
111 142	L5-21	ⅢD	土師器	高环	163	116	—	31.4	口縁は丸く外反する。口唇は直角で底を少し部分的に内側傾ける。脚は脚に側面からついて横方向に反し、端で翫く圓く、縫隙付。	SYR6/4	SYR6/4	NS/
111 143	KS-25・ L5-21・ L6-2	ⅢB-3・Ⅱ D	土師器	高环	174	124	—	11.6	楕円の底盤。口縁は内側して外上方に立てる。口唇は直角で底を少し部分的に内側傾ける。脚は脚に側面からついて横方向に反し、端で翫く圓く、縫隙付。	にぶい楕	にぶい楕	灰白
111 144	15-36	ⅢD	土師器	高环	16	140	(6.6)	—	楕円の底盤。口縁は内側して外上方に立てる。口唇は直角で底を少し部分的に内側傾ける。脚は脚に側面からついて横方向に反し、端で翫く圓く、縫隙付。	SYR6/6	SYR6/5	NS/
111 145	K5-19	ⅢB・ⅢD	土師器	高环	148	119	—	9.6	楕円の底盤。口縁は内側して外上方に立てる。口唇は直角で底を少し部分的に内側傾ける。脚は脚に側面からついて横方向に反し、端で翫く圓く、縫隙付。	SYR7/6	SYR6/8	オリーブ黒 SY3/1
111 146	L6-1・6・ 7	Ⅲ・ⅢD	土師器	高环	97	143	(5.8)	—	楕円の底盤。口縁は外側傾けるが底だけ正面に立てる。内側に外反する。脚は脚に側面からついて横方向に反し、端で翫く圓く、縫隙付。	SYR5/2	SYR5/2	暗灰
111 147	K5-30	ⅢD	土師器	高环	—	(144)	—	32.6	楕円の底盤。口縁は内側して外上方に立てる。口唇は直角で底を少し部分的に内側傾ける。脚は脚に側面からついて横方向に反し、端で翫く圓く、縫隙付。	SYR7/2	SYR7/3	SY4/1
111 148	K5-30	ⅢD	土師器	高环	16	142	(5.5)	—	楕円の底盤。口縁は内側して外上方に立てる。口唇は直角で底を少し部分的に内側傾ける。脚は脚に側面からついて横方向に反し、端で翫く圓く、縫隙付。	SYR7/4	SYR7/4	NS/
111 149	K5-19	ⅢD	土師器	高环	—	(104)	—	30.7	楕円の底盤。口縁は直角で底を少し部分的に内側傾ける。脚は脚に側面からついて横方向に反し、端で翫く圓く、縫隙付。	SYR7/6	SYR7/6	NS/
111 150	K5-19	ⅢD	土師器	ミニチュア	26	34	34	—	楕円の底盤。口縁は直角で底を少し部分的に内側傾ける。脚は脚に側面からついて横方向に反し、端で翫く圓く、縫隙付。	SYR5/1	SYR6/3	SY4/1
111 151	K5-18	ⅢD	土師器	ミニチュア	46	(26)	—	—	楕円の底盤。口縁は直角で底を少し部分的に内側傾ける。脚は脚に側面からついて横方向に反し、端で翫く圓く、縫隙付。	SYR6/3	SYR7/3	SY6/1
112 152	K5-17	ⅢD	土師器	ミニチュア	43	25	—	12	楕円の底盤。口縁は直角で底を少し部分的に内側傾ける。脚は脚に側面からついて横方向に反し、端で翫く圓く、縫隙付。	SYR5/2	SY4/1	SY4/1
112 153	K5-30	ⅢD	土師器	ミニチュア	63	36	—	—	楕円の底盤。口縁は直角で底を少し部分的に内側傾ける。脚は脚に側面からついて横方向に反し、端で翫く圓く、縫隙付。	SYR6/6	SYR6/4	SY5/1
112 154	K5-19	ⅢD	土師器	ミニチュア	50	45	57	15	楕円の底盤。口縁は直角で底を少し部分的に内側傾ける。脚は脚に側面からついて横方向に反し、端で翫く圓く、縫隙付。	SYR5/3	SYR5/3	SY6/2
112 155	K5-30	ⅢD	土師器	ミニチュア	47	44	52	26	楕円の底盤。口縁は直角で底を少し部分的に内側傾ける。脚は脚に側面からついて横方向に反し、端で翫く圓く、縫隙付。	SYR6/3	SYR6/4	SY3/1
112 156	K5-19	ⅢD	土師器	壺	56	87	78	50	楕円の大型丸底土器。口縁は直角的に外上方に立てる。口唇は直角で底を少し部分的に内側傾ける。脚は脚に側面からついて横方向に反し、端で翫く圓く、縫隙付。	SYR6/3	SYR5/3	SY4/1
112 157	L5-22	ⅢD	土師器	壺	80	79	84	35	楕円の大型丸底土器。口縁は直角的に外上方に立てる。口唇は直角で底を少し部分的に内側傾ける。脚は脚に側面からついて横方向に反し、端で翫く圓く、縫隙付。	SYR7/3	SYR7/3	NS/
112 158	K5-17・22	ⅢD	土師器	壺	95	73.0	74	—	楕円の大型丸底土器。口縁は直角的に外上方に立てる。口唇は直角で底を少し部分的に内側傾ける。脚は脚に側面からついて横方向に反し、端で翫く圓く、縫隙付。	SYR5/2	SY4/1	NS/
112 159	K5-30	ⅢD	土師器	壺	93	95	87	—	楕円の大型丸底土器。口縁は直角的に外上方に立てる。口唇は直角で底を少し部分的に内側傾ける。脚は脚に側面からついて横方向に反し、端で翫く圓く、縫隙付。	SYR6/1	SYR4/1	NS/
112 160	L5-16・20	ⅢD	土師器	壺	76	106	—	—	楕円の大型丸底土器。口縁は直角的に外上方に立てる。口唇は直角で底を少し部分的に内側傾ける。脚は脚に側面からついて横方向に反し、端で翫く圓く、縫隙付。	SYR7/3	SYR7/3	SY5/1
112 161	K5-19	ⅢD	土師器	壺	88	94	91	—	楕円の大型丸底土器。口縁は直角的に外上方に立てる。口唇は直角で底を少し部分的に内側傾ける。脚は脚に側面からついて横方向に反し、端で翫く圓く、縫隙付。	SYR6/2	SYR7/4	SY4/1

表A5 A B区遗物列表表8

Fig. 3. 布面の形状										地質			参考	
No.	遺物	出土地点	層位	形態	部位	法長 (cm)			特徴	内面	外面	地質		
						口徑	高さ	側壁						
112	162	E5-20	ED	土器部	縫?	10.5	(8.5)	9.2	—	内面は微細な丸毛底土器。口縫は内側向外方に立ち上がる。口唇は丸く側面にやや肥厚する。	内面	外面	灰	
112	163	E5-19	ED	土器部	縫?	—	(7.5)	9.6	—	前縫の小型丸毛底土器。縫部はやや急に立ち上がる。縫部は丸味。丸底。裏底は外側に縫部に垂直する。	内面	外面	灰	
112	164	E5-20	ED	土器部	縫	—	8.5	9.3	—	前縫の小型丸毛底土器。縫部前面はやや急。縫部は球形に向む。底部丸底。側壁は直線的。	内面	外面	灰	
112	165	E5-20	ED	土器部	縫?	10.1	11.0	10.5	—	前縫又は変形の小型丸毛底土器。口縫は内側向外方に立ち上がる。縫部は外側にやや肥厚する。縫部は丸味。丸底。裏底は外側に縫部に垂直する。縫部は球形。丸底。内面丸底。外側縫部(口縫一部)に側壁付着。	内面	外面	灰	
112	166	L5-21	ED	土器部	縫?	11.0	10.4	10.6	—	前縫又は変形の小型丸毛底土器。口縫は内側向外方に立ち上がる。口唇は丸く、部分的に前面を削す。丸底。	内面	外面	灰	
112	167	E5-16	ED	土器部	縫	11.0	10.8	10.6	5.2	前縫又は変形の小型丸毛底土器。口縫は内側向外方に立ち上がる。縫部は丸味。丸底。側壁は直線的。	内面	外面	灰	
113	168	K5-16	ED	土器部	縫	4.6	5.4	—	12	前縫の直線形の小型丸毛底土器。口縫は内側向外方に立ち上がる。縫部は丸く、側壁は直線的。	内面	外面	灰	
113	169	L5-17	ED	土器部	縫	9.3	5.8	7.4	—	前縫の直線形の小型丸毛底土器。口縫は内側向外方に立ち上がる。口唇は丸く修める。底部は押し潰した平底で丸い凹面を成す。外側全体は一部に側壁付着。	内面	外面	灰	
113	170	K5-20	ED	土器部	縫	10.0	7.0	—	34	前縫の直線形の小型丸毛底土器。口縫は内側向外方に立ち上がる。口唇は丸く修める。底部は押し潰した平底で丸い凹面を成す。外側全体は一部に側壁付着。	内面	外面	灰	
113	171	E5-19	ED	土器部	縫	12.1	10.3	9.2	—	前縫又は変形の小型丸毛底土器。口縫は内側向外方に立ち上がる。口唇は丸く修める。底部は押し潰した平底で丸い凹面を成す。外側全体は一部に側壁付着。	内面	外面	灰	
113	172	E5-20	ED	土器部	縫?	9.4	8.3	10.2	—	前縫又は変形の小型丸毛底土器。口縫は内側向外方に立ち上がる。口唇は丸く修める。底部は押し潰した平底で丸い凹面を成す。外側全体は一部に側壁付着。	内面	外面	灰	
113	173	E5-16	ED	土器部	縫	11.2	2.7	—	—	前縫の直線形の小型丸毛底土器。口縫は内側向外方に立ち上がる。口唇は丸く修める。底部は押し潰した平底で丸い凹面を成す。外側全体は一部に側壁付着。	内面	外面	灰	
113	174	L5-16	ED	土器部	縫	11.1	8.9	11.7	—	前縫又は変形の小型丸毛底土器。口縫は直線的に外方に立ち上がる。口唇は丸く修める。底部は押し潰した平底で丸い凹面を成す。外側全体は一部に側壁付着。	内面	外面	灰	
113	175	E5-20	ED	土器部	縫	12.2	9.4	11.3	—	前縫の直線形の小型丸毛底土器。口縫は丸く修める。底部は押し潰した平底で丸い凹面を成す。外側全体は一部に側壁付着。	内面	外面	灰	
113	176	E5-20	D	土器部	縫	12.5	10.3	12.5	—	前縫又は変形の小型丸毛底土器。口縫は内側向外方に立ち上がる。口唇は丸く修める。底部は押し潰した平底で丸い凹面を成す。外側全体は一部に側壁付着。	内面	外面	灰	
113	177	E5-20	ED	土器部	縫	10.5	10.3	11.1	—	前縫又は変形の小型丸毛底土器。口縫は内側向外方に立ち上がる。口唇は丸く修める。底部は押し潰した平底で丸い凹面を成す。外側全体は一部に側壁付着。	内面	外面	灰	
114	178	E5-20	ED	土器部	縫	11.0	(13.2)	13.6	—	前縫又は変形の小型丸毛底土器。口縫は内側向外方に立ち上がる。口唇は丸く修める。底部は押し潰した平底で丸い凹面を成す。外側全体は一部に側壁付着。	内面	外面	灰	
114	179	E5-17	ED	土器部	縫	10.9	(15.0)	12.8	—	前縫又は変形の小型丸毛底土器。口縫は内側向外方に立ち上がる。口唇は丸く修める。底部は押し潰した平底で丸い凹面を成す。外側全体は一部に側壁付着。	内面	外面	灰	
114	180	E5-20	ED	土器部	縫?	12.3	11.0	14.4	—	前縫又は変形の小型丸毛底土器。口縫は内側向外方に立ち上がる。口唇は丸く修める。底部は押し潰した平底で丸い凹面を成す。外側全体は一部に側壁付着。	内面	外面	灰	

表46 4B区遺物観察表9

《土器·土製品》

表47 4B区遺物觀察表10

(土器・土製品)

Fig. No.	遺物 名	出土地點 No.	層 名	断面 形状	部位	法長(cm) 口径 断面 側径 底径	特徴	色調		備考		
								内面	外面			
118 201	K5-19	ⅢD	土師器	鉢	9.9	49	—	口縁は内側して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。丸底。外 部底部から底部下部に環付帯。	に赤・黄	灰黒	灰	
118 202	K5-21	ⅢD	土師器	鉢	10.1	45	—	口縁は内側して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。丸底。内面全体が 丸く修る。丸底。内面全体が灰黒。	25Y6/2	25Y6/2	—	
118 203	K5-18	ⅢD	土師器	鉢	9.9	62	—	口縁は内側して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。底部は少し 凸面を有する。外面部・底部一部に環付帯。	に赤・褐	に赤・褐	N/S	
118 204	K5-16	ⅢD	土師器	鉢	9.8	55	—	丸底。口縁は内側凹面に上方に立 上がる。丸底。	10Y8E/4	10Y8E/4	75Y4/1	
118 205	L5-16	ⅢD	土師器	鉢	9.2	57	—	43	口縁は内側を有し、周辺に赤褐色の 斜面上に立上る。口唇は丸く修 める。丸底。内面底面と外面部基 部に環付帯。	に赤・黄褐	灰黒	灰
118 206	K5-20	ⅢD	土師器	鉢	9.4	70	—	口縁は丸く修める。底部は丸く 修つした平底。内面全体部分的 に環付帯。	10Y8E/4	10Y8E/4	N/S	
118 207	L5-16	ⅢD	土師器	鉢	13.0	51	—	56	口縁は内側を有し、周辺に立上 る。口唇は丸く修める。底部は丸 く修つした平底。内面全体部分的 に環付帯。	10Y8E/3	10Y8E/3	5Y4/1
118 208	L5-21・22	ⅢD	土師器	鉢	11.9	53	—	口縁は内側を有し、周辺に立上 る。口唇は丸く修める。底部は丸 く修つした平底。内面全体部分的 に環付帯。	25Y8E/6	25Y8E/6	75Y4/1	
118 209	K5-21	ⅢD	土師器	鉢	13.3	48	—	30	口縁は内側を有し、周辺に立上 る。口唇は丸く修める。底部は丸 く修つした平底。内面と外面部一部に環 付帯。	5Y3/4	25Y5/3	N/S
118 210	K5-16	ⅢD	土師器	鉢	13.1	57	—	—	丸底。口縁は内側凹面に外上方に立 上がる。口唇は丸く修める。丸底。	7.5Y8E/4	7.5Y8E/4	10Y8E/3
118 211	K5-21	ⅢD	土師器	鉢	12.0	48	—	—	口縁は内側を有し、周辺に立上 る。口唇は丸く修める。底部は丸く 修つした平底。内面と外面部基部に環 付帯。	10Y8E/2	10Y8E/2	N/S
118 212	L6-2	ⅢD	土師器	鉢	12.5	58	—	25	口縁は内側を有し、周辺に立上 がる。底部は丸く修める。丸底。 部分的に環付帯。椭円形。	7.5Y8E/4	7.5Y8E/4	75Y8E/4
118 213	L5-16	ⅢD	土師器	鉢	11.9	59	—	—	内面底面と外底部部分に環付帯。	7.5Y8E/3	7.5Y8E/3	5Y5/1
118 214	K5-16	ⅢD	土師器	鉢	12.4	67	—	43	口縁は内側を有し、周辺に立上 る。口唇は内側凹面に立上る。丸底。 底部は丸く修める。丸底。内面全体 に環付帯。	5Y8E/4	5Y8E/6	7.5Y8E/4
118 215	K5-20	ⅢD	土師器	鉢	11.2	70	—	47	口縁は内側を有し、周辺に立上 る。口唇は丸く修める。丸底。内面全体 に環付帯。	10Y8E/3	10Y8E/4	N/S
119 216	L5-16	ⅢD	土師器	鉢	14.0	61	—	—	内面一部と外底部部分に環 付帯。	10Y8E/2	25Y5/2	75Y4/1
119 217	K5-20	ⅢD	土師器	鉢	12.5	68	—	—	口縁は内側を有し、周辺に立上 がる。口唇は丸く修める。底部 は丸く修つた楕円形を成す。丸底。 外面部に環付帯。	25Y5/2	25Y5/2	10Y5/1
119 218	K5-16	ⅢD	陶土器	鉢	16.4	60	—	54	容量大。ボウを有する。口縁は内側 で外上方に立上がる。口唇は丸く 修つた面を成す。底部は丸く修 つた面を成す。	10Y8E/2	10Y8E/3	10Y5/1
119 219	L5-22	ⅢD	土師器	鉢	14.6	63	—	—	口縁は内側を有し、周辺に立上 る。口唇は丸く修める。底部 は丸く修つた不規則な平面。外面部 に環付帯。	7.5Y8E/4	7.5Y8E/4	25Y3/1
119 220	K5-17・ 18・20	ⅢD	土師器	鉢	14.2	70	—	48	口縁は内側凹面に立上がる。口唇 は丸く修める。又は内側する丸底。 を有する。底部は丸く修つた面を成す。	10Y8E/2	10Y8E/4	N/S/1
119 221	L5-21	ⅢD	土師器	鉢	14.5	67	152	—	口縁は内側を有し、周辺に立上 がる。口唇は丸く修める。底部 は丸く修つた面を成す。丸底。内面全体 一部に環付帯。	5Y8E/4	5Y8E/3	5Y4/1

表48 4B区遺物觀察表11

(土器・土製品)

No.	遺物 出土地点 No. グリッド	器種	器形	部位	法縦 (cm)	剖面	背面	色調		備考	
								内面	外面		
119 222	L5-21 - 22	ⅢD - ⅣB-3	土器部	体	13.6	64	—	4.0	概形。口縁は内側で外方に立ち上がる。口部は丸く修める。底部は斜ら底。中央部がやや盛んだ直を呈す。	灰 7.5YR2/4 10YR2/3 7.5Y4/1	生糸絞 一期・古墳 前期初期
119 223	K5-21	ⅢD	土器部	体	12.7	72	—	—	概形。口縁は直立して外方に立ち上がる。口部は丸く修める。丸底。 内面に複数の凹。	灰 7.5YR6/4 5YR6/6 10YR6/2	二期実
119 224	K5-20	ⅢD	土器部	体	14.5	74	—	24	概形。口縁は内側で外方に立ち上がる。口部は丸く修める。丸底。 内面に複数の凹。	灰 5YR6/6 5YR6/6 10YR3/1	オーリーブ黒
119 225	K5-18 - 19	ⅢB-3 - Ⅱ D	土器部	体	15.4	91	—	62	ガラス形。口縁は内側で外方に立ち上げる。口部は丸く修める。底部は斜ら底。外側底部から全体の一部が剥離する。 底部は押しつぶしめた。底盤は突出した。	灰 10YR7/4 10YR7/4 N4	生糸絞 一期・古墳 前期初期
119 226	K5-15	ⅢD	抛光土器	体	12.1	84	—	30	口縁は直立的で外方に立ち上がる。口部は丸く修める。底部は斜ら底。外側底部から全体の一部が剥離する。 底部は斜ら底で外方に立ち上がる。口部は丸く修める。丸底。	灰 10YR6/3 10YR6/3 5Y4/1	生糸絞 一期・古墳 前期初期
119 227	L5-17	ⅢD	土器部	体	11.6	(65)	—	—	外側全体に複数の凹。	灰 10YR6/2 10YR6/2 10Y7/1	
119 228	23 - 22	ⅢD - ⅣA	土器部	体	14.6	71	—	70	概形。口縁は内側で外方に立ち上がる。口部は丸く修める。底部は直立。直底。外側全体が削除されている。	灰 7.5YR6/4 7.5YR6/4 10Y6/1	
119 229	K5-19	ⅢD	土器部	体	—	(49)	—	54	口縁は直立的で外方に立ち上がる。口部は丸く修める。底部は斜ら底。外側全体が削除されている。	灰 10YR5/3 10YR6/3 5Y5/1	
120 232	K5-19	ⅢD	土器部	裏	11.3	(74)	—	133	外側全体が削除された。口縁は丸く修める。底部は直立。直底。外側全体が削除されている。	灰 10YR5/3 10YR5/2 10Y3/1	オーリーブ黒
120 233	L5-21	ⅢD	土器部	台付鉢	11.1	61	—	60	折脚鉢。(後) 楕円形の底盤。口縁は内側で外方に立ち上がる。口部は丸く修める。丸底。	灰 7.5YR6/6 7.5YR6/6 5Y6/1	
120 234	K5-17	ⅢD	土器部	台付鉢	13.6	(72)	—	—	外側全体が削除された。口縁は丸く修める。底部は直立。直底。外側全体が削除されている。	灰 10YR7/1 7.5YR6/3 N5	
120 235	K5-20 - 1	ⅢD	土器部	体	15.2	11.4	—	—	張り口縁は直立して外方に立ち上がる。口縁は平らな形状を成す。外側にやや肥厚する。底盤は尖端で内側より突出する。(5.5cm - 12cm)。 底盤は楕円形の底盤。部に直立。(5.5 - 6cm)。 底盤は楕円形の底盤。部に直立。(5.5 - 6cm)。	灰 10YR6/2 10YR6/3 7.5Y3/1	生糸絞 一期・古墳 前期初期
120 236	L5-16 - 17 - 21	ⅢD	土器部	体	11.8	11.1	—	—	水底形。口縁は直立して外方に立ち上がる。口部は丸く修める。底部は直立。直底。外側全体が削除された。外側全体が削除された。外側全体が削除された。	灰 7.5YR6/3 10YR6/3 7.5Y5/1	
120 237	K5-18	ⅢD	土器部	裏	11.6	(92)	120	—	口縁は内側で外方に立ち上がる。口部は丸く修める。底部は直立。直底。外側全体が削除された。	灰 7.5YR6/4 2.5V6/1 2.5Y7/1	
121 238	K5-20	ⅢD	土器部	裏	10.7	32.1	115	—	口縁は直立して外方に立ち上がる。口部は丸く修める。底部は直立。直底。外側全体が削除された。	灰 10YR6/4 10YR6/4 7.5Y5/1	
121 239	K5-19	ⅢD	土器部	裏	11.7	32.9	120	—	口縁は内側で外方に立ち上がる。口部は丸く修める。底部は直立。直底。外側全体が削除された。	灰 2.5Y4/1 10YR6/2 —	
121 240	L5-16	ⅢD	土器部	裏?	12.4	31.8	—	—	口縁は直立して外方に立ち上がる。口部は丸く修める。底部は直立。直底。外側全体が削除された。	灰 10YR6/3 10YR6/2 N5	
121 241	K5-19	ⅢD	土器部	裏	12.1	33.2	115	—	口縁は直立して外方に立ち上がる。口部は丸く修める。底部は直立。直底。外側全体が削除された。	灰 10YR5/3 10YR6/3 7.5Y4/1	

表49 4B区遺物觀察表12

(土器・土製品)

Fig. No.	遺物 名	出土地點 No.	アリヤ Y	層	断面	部位	法安 (cm)	特徴	内面		外側	土色	備考	
									口縁	唇	側注	底付		
I21 242 K5-22	ED	土器部	裏	9.6	14.7	132	—	口縁は外反して下方に立ち上がる。口唇は丸く侈める。一部では丸味をもった形を成す。腹部屈曲はやや急。側部は直角形。丸底。内面底部と外面部中位付着。	灰黄褐	灰黄褐	灰黄褐	黒褐	HYRS-2 10YR8-2 25Y3-1	
I21 243 K5-19	ED	土器部	裏	12.4	13.9	144	—	口縁は外反して下方に立ち上がる。口唇は丸く侈める。腹部屈曲はやや急。側部は直角形。丸底。内面底部と外面部中位付着。	黄灰	12.4S-裏側	灰白	NB/	25Y5-1 10YR8-3	
I21 244 K5-30	ED	土器部	裏	12.5	14.8	129	—	口縁は直角的に外方に立ち上がる。口唇は丸く侈める。一部では丸味をもった形を成す。腹部屈曲はやや急。側部は直角形。丸底。内面底部と外面部中位付着。	灰黄褐	灰黄褐	灰黄褐	HYRS-2 10YR8-3	HYRS-3	
I21 245 K5-19・20	ED	土器部	裏	11.0	(13.6)	136	—	口縁は直角的に外方に立ち上がる。口唇は丸く侈める。腹部屈曲はやや急。側部は直角形。丸底。内面底部と外面部中位付着。	灰白	12.4S-裏側	灰白	オリーブ黒	7.5YR8-3 7.5YR8-4 7.5Y3-1	
I21 246 K5-22	ED	土器部	裏	11.8	14.5	134	—	口縁は直角的に外方に立ち上がる。口唇は丸く侈める。一部では丸味をもった形を成す。腹部屈曲はやや急。側部は直角形。丸底。内面底部と外面部中位付着。	黄灰	12.4S-裏側	オリーブ黒	灰	25Y4-1 5Y3-1 5Y4-1	
I21 247 L5-22・ L6-1	ED・ D1	土器部	裏	14.4	(66)	—	—	口縁は直角的に外方に立ち上がる。口唇は丸く侈める。腹部屈曲はやや急。側部は直角形。丸底。内面底部と外面部中位付着。	灰黄褐	黑	同灰黒	古墳前期 初期 施錫 施金品	10YR8-2 10YR2-1 25Y3-5	
I21 248 K5-30	ED	土器部	裏	15.0	(7.1)	—	—	口縁は直角的に外方に立ち上がる。口唇は外反する形を成す。腹部屈曲はやや急。外面部中位付着・上位一部に底付着。	灰	12.4S-裏側	灰	NB/	10YR8-1 10YR8-1 10YR8-1	
I22 249 K5-16	ED	土器部	裏	15.9	(12.9)	145	—	口縁は直角的に外方に立ち上がる。口唇は丸く侈める。腹部屈曲はやや急。外面部中位付着・上位一部に底付着。	灰	12.4S-裏側	灰	5YR7-6	5YR8-6 25YR8-6 5YR7-6	
I22 250 K5-17・20	ED	土器部	裏	13.5	(69)	—	—	口縁は直角的に外方に立ち上がる。口唇は丸く侈める。腹部屈曲はやや急。外面部中位付着・口縁に底付着。	灰黄褐	12.4S-裏側	灰	10YR8-2 7.5YR8-3 10Y4-1	10YR8-2	
I22 251 K5-21	ED	土器部	裏	12.7	15.4	150	—	口縁は直角的に外方に立ち上がる。口唇は丸く侈める。腹部屈曲はやや急。外面部中位付着・上位一部に底付着。	灰黄褐	灰黄褐	灰	NB/	10YR8-2 10YR8-2 10YR8-2	
I22 252 K5-20	ED	土器部	裏	13.0	(12.9)	141	—	口縁は直角的に外方に立ち上がる。口唇は丸く侈める。腹部屈曲はやや急。外面部中位付着・部分的に底付着。	灰	12.4S-裏側	12.4S-裏側	NB/	7.5YR8-3 7.5YR8-3 N/S	
I22 253 K5-19	ED	土器部	裏	14.0	(12.6)	153	—	口縁は直角的に外方に立ち上がる。口唇は丸く侈める。腹部屈曲はやや急。外面部中位付着・外面部側部に底付着。	灰黄褐	12.4S-裏側	灰灰	10YR8-2 10YR8-3 10YR4-1	10YR8-2	
I22 254 L5-16	ED	土器部	裏	11.2	(11.5)	146	—	直腹身、直縁、口縁は直角的に外方に立ち上がる。口唇は丸く侈める。腹部屈曲はやや急。外面部側部に底付着・上位一部に底付着。	灰	12.4S-裏側	明赤褐	灰	5YR5-6 5YR5-6 N/S	5YR5-6
I22 255 L5-20・ L5-21・ L6-2	ED・ D	土器部	裏	9.8	(15.3)	146	—	直腹身、直縁、口縁は直角的に外方に立ち上がる。口唇は丸く侈める。腹部屈曲はやや急。外面部側部に底付着・上位一部に底付着。	灰	12.4S-裏側	灰	NB/	25Y7-2 10YR8-2 N/S	10YR8-2
I22 256 L5-21・22	E・ED	土器部	裏	12.6	17.5	156	—	口縁は直角から圓錐形へ外反して外方に立ち上がる。口唇は丸く侈める。腹部屈曲はやや急。又は丸く侈る様にやや肥厚する。一部の底へ向てより底を成す。底部はやや急に立ち上がる。側部は直角形。丸底。外面部側部と上位一部に底付着・施土標記。	灰	12.4S-裏側	12.4S-裏側	灰	10YR8-3 7.5YR8-4 N/S	10YR8-3
I22 257 K5-19	ED	土器部	裏	11.4	(15.3)	149	—	口縁は直角から圓錐形へ外反して外方に立ち上がる。口唇は丸く侈める。腹部屈曲はやや急。又は丸く侈る様にやや肥厚する。一部の底へ向てより底を成す。底部はやや急に立ち上がる。側部は直角形。丸底。外面部側部と上位一部に底付着・施土標記。	灰	12.4S-裏側	12.4S-裏側	灰	7.5YR8-3 7.5YR8-3 10Y6-1	7.5YR8-3
I22 258 K5-30	ED	土器部	裏	12.6	17.9	156	—	口縁は直角から圓錐形へ外反して外方に立ち上がる。口唇は丸く侈める。腹部屈曲はやや急。又は丸く侈る様にやや肥厚する。一部の底へ向てより底を成す。底部はやや急に立ち上がる。側部は直角形。丸底。外面部側部と中位付着・口縁に底付着。	灰	12.4S-裏側	12.4S-裏側	灰	10YR8-1 7.5YR8-4 N/S	10YR8-1
I22 259 K5-16	ED	土器部	裏	14.2	18.2	167	—	口縁は直角から圓錐形へ外反して外方に立ち上がる。口唇は丸く侈める。腹部屈曲はやや急。又は丸く侈る様にやや肥厚する。一部の底へ向てより底を成す。底部はやや急に立ち上がる。側部は直角形。丸底。外面部側部と中位付着・口縁に底付着。	灰	12.4S-裏側	12.4S-裏側	灰	7.5YR8-3 7.5YR8-4 —	7.5YR8-3

表50 4B区遺物觀察表13

(土器・土製品)

Fig.	遺物	出土地点	西標	器形	部位	法縫 (cm)	有縫	内面	外縫	縫考	
No.	グリッド	層	口径	器高	側径	底径					
123	260	K5-21	III D	土鉢器	裏	11.8	17.9	16.4	—	口縫は最も外側にして外方に立上るが、口部は大きく侈める。面部は齊刷りする。側部はやや長削。丸底。内面底部・口縫と外面側部中央下・口縫に複付着。	
123	261	K5-21	III D	土鉢器	裏	13.5	(18.4)	17.6	—	口縫は直線的に外上方へ立上がる。口縫は丸く侈める。面部面部は急傾斜で、側部は長削である。内面底部・口縫と外面側部中央下に複付着。	
LS-17・		22-1-L6-1	III D	土鉢器	裏	15.5	(17.4)	17.0	—	口縫は直線的に外上方へ立上がる。口部は直角である。またはやや外側するが侈れる。面部は頭部を盛り、側部はやや長削。丸底。内面底部中央下に口縫と外面側部中央下に複付着。	
123	262	22-1-L6-1	III D	土鉢器	裏	14.0	18.8	16.8	—	口縫は直線的に外上方へ立上がる。口部は直角である。またはやや外側するが侈れる。面部は頭部を盛り、側部はやや長削。丸底。内面底部中央下に口縫と外面側部中央下に複付着。	
123	263	K5-22	III D	土鉢器	裏	13.3	18.5	16.3	—	口縫は直線的に外上方へ立上がる。口部は丸く侈める。面部面部は急傾斜で、側部は長削である。内面底部・口縫と外面側部中央一部に複付着。	
123	264	K5-19	III D	土鉢器	裏	13.3	18.5	16.3	—	口縫は直線的に外上方へ立上がる。口部は丸く侈める。面部面部は急傾斜で、側部は長削である。内面底部・口縫と外面側部中央一部に複付着。	
124	265	K5-18-19	III D	土鉢器	裏	13.0	17.0	(11.9)	—	口縫は直線的に外上方へ立上がる。口部は丸く侈める。面部面部は直角である。内面底部・口縫と外面側部中央一部に複付着。	
III B-3・II		K5-16-21	D	土鉢器	裏	15.2	(8.8)	—	—	口縫は直線的に外上方へ立上がる。口部は丸く侈れる。面部面部は直角である。内面底部・口縫と外面側部中央一部に複付着。	
124	266	K5-16-21	D	土鉢器	裏	13.4	(14.9)	17.5	—	口縫は直線的に外上方へ立上がる。口部は丸く侈れる。面部面部は直角である。内面底部・口縫と外面側部中央一部に複付着。	
K5-18-19		III B-3・II	III D	土鉢器	裏	17.2	(8.9)	—	—	口縫は直線的に外上方へ立上がる。口部は丸く侈れる。面部面部は直角である。内面底部・口縫と外面側部中央一部に複付着。	
124	267	K5-18-19	III B-3・II	III D	土鉢器	裏	12.9	(15.6)	19.6	—	口縫は直線的に外上方へ立上がる。口部は丸く侈れる。面部面部は直角である。内面底部・口縫と外面側部中央一部に複付着。
K5-18-19 16-19		20	III D	土鉢器	裏	12.9	(15.6)	19.6	—	口縫は直線的に外上方へ立上がる。口部は丸く侈れる。面部面部は直角である。内面底部・口縫と外面側部中央一部に複付着。	
124	271	20	III D	土鉢器	裏	13.4	(14.9)	17.5	—	口縫は直線的に外上方へ立上がる。口部は丸く侈れる。面部面部は直角である。内面底部・口縫と外面側部中央一部に複付着。	
III B-3・II		K5-16-21	D	土鉢器	裏	14.5	(8.0)	—	—	口縫は直線的に外上方へ立上がる。口部は丸く侈れる。面部面部は直角である。内面底部・口縫と外面側部中央一部に複付着。	
124	272	K5-16-21	D	土鉢器	裏	12.0	(10.2)	16.4	—	口縫は直線的に外上方へ立上がる。口部は丸く侈れる。面部面部は直角である。内面底部・口縫と外面側部中央一部に複付着。	
K5-16-19		K5-20	III D	土鉢器	裏	15.7	22.3	19.6	—	口縫は直線的に外上方へ立上がる。口部は丸く侈れる。面部面部は直角である。内面底部・口縫と外面側部中央一部に複付着。	
125	273	K5-20	III D	土鉢器	裏	14.9	21.9	21.2	—	口縫は直線的に外上方へ立上がる。口部は丸く侈れる。面部面部は直角である。内面底部・口縫と外面側部中央一部に複付着。	
K5-16-19		21-22	III D	土鉢器	裏	14.8	(14.0)	19.2	—	口縫は直線的に外上方へ立上がる。口部は丸く侈れる。面部面部は直角である。内面底部・口縫と外面側部中央一部に複付着。	
125	274	21-22	III D	土鉢器	裏	15.8	21.4	—	—	口縫は直線的に外上方へ立上がる。口部は丸く侈れる。面部面部は直角である。内面底部・口縫と外面側部中央一部に複付着。	
K5-19-20		K5-19	III D	土鉢器	裏	17.3	(21.4)	19.5	—	口縫は直線的に外上方へ立上がる。口部は丸く侈れる。面部面部は直角である。内面底部・口縫と外面側部中央一部に複付着。	
125	275	K5-19	III D	土鉢器	裏	15.8	21.4	—	—	口縫は直線的に外上方へ立上がる。口部は丸く侈れる。面部面部は直角である。内面底部・口縫と外面側部中央一部に複付着。	
K5-19-20		B-3・II	D	土鉢器	裏	17.3	(21.4)	19.5	—	口縫は直線的に外上方へ立上がる。口部は丸く侈れる。面部面部は直角である。内面底部・口縫と外面側部中央一部に複付着。	
125	276	B-3・II	D	土鉢器	裏	15.8	21.4	—	—	口縫は直線的に外上方へ立上がる。口部は丸く侈れる。面部面部は直角である。内面底部・口縫と外面側部中央一部に複付着。	
K5-19-20		B-3・II	III D	土鉢器	裏	17.3	(21.4)	19.5	—	口縫は直線的に外上方へ立上がる。口部は丸く侈れる。面部面部は直角である。内面底部・口縫と外面側部中央一部に複付着。	
125	277	B-3・II	III D	土鉢器	裏	17.3	(21.4)	19.5	—	口縫は直線的に外上方へ立上がる。口部は丸く侈れる。面部面部は直角である。内面底部・口縫と外面側部中央一部に複付着。	

表51 4B区遺物觀察表14

(土器・土製品)

Fig No.	遺物 No.	出土地點 アリヤ'Y	面種	唇形	部位	法安 (cm)	特徴	内面	色調 外面	地土	備考			
125	278	L516・22	III B2・II D	土師器	裏	123 (12.1)	190 —	—	口縁はやく外反して外上方に立ち がる。口部は外張する面を成す。 外側にはやく膨らむ。腹部底面は やや凸。外面部部中位带状。口縁 に保付。	10YR6/2	75YR7/3	灰	10YR7/3	
126	279	K519・30	II D	陶土器	裏	165 23 210	—	—	口縁はやく外反して外上方に立ち がる。口部は外張する面を成す。 外側にはやく膨らむ。腹部底面は やや凸。外面部部中位带状。口縁 に保付。	10YR6/2	5YR6/6	10Y4/1		
126	280	K519	II D	土師器	裏	160 25.2 200	—	—	口縁はやく外反して外斜面上に立ち がる。口部はやく膨らむ。腹部底面 はやや凸。外面部部中位带状。口縁 に保付。	10YR6/1	10YR6/3	N5/		
126	281	K517	II D	土師器	裏	17.7 (20.1)	228	—	口縁はやく外反して外斜面上に立ち がる。口部はやく膨らむ。腹部底面 はやや凸。外面部部中位带状。口縁 に保付。	7.5YR6/6	5YR6/4	7.5Y5/1		
126	282	K521	II D	土師器	裏	18.4 37.0 224	—	—	口縁はやく外反して外斜面上に立ち がる。口部はやく膨らむ。腹部底面 はやや凸。外面部部中位带状。口縁 に保付。	7.5YR6/4	7.5YR6/4	N4/		
127	283	K520	II D	土師器	裏	15.8 (21.6)	188	—	口縁はやく外反して外斜面上に立ち がる。口部はやく膨らむ。腹部底面 はやや凸。外面部部中位带状。口縁 に保付。	10YR6/2	10YR6/2	5Y4/1		
127	284	L521・22	II D・II D-1	土師器	裏	13.8 (21.4)	197	—	口縁はやく外反して外斜面上に立ち がる。口部はやく膨らむ。腹部底面 はやや凸。外面部部中位带状。口縁 に保付。	10YR6/2	5YR5/3	7.5Y7/1		
127	285	K521・22	II D	土師器	裏	15.0 (20.4)	200	—	口縁はやく外反して外斜面上に立ち がる。口部はやく膨らむ。腹部底面 はやや凸。外面部部中位带状。口縁 に保付。	5Y4/1	10YR6/1	—		
127	286	L516	K530	II D	土師器	裏	13.5 (22.6)	192	—	口縁は直線的に外方に立ち上 がる。口部は丸く膨らむ。腹部底面 はやや凸。外面部部中位带状。口縁 に保付。	10YR6/4	10YR6/4	3Y5/1	
128	287	K521	II D	土師器	裏	12.3 24.2 178	—	—	口縁は直線的に外方に立ち上 がる。口部は丸く膨らむ。腹部底面 はやや凸。外面部部中位带状以上 に保付。	10YR6/4	2.5Y4/1	7.5Y4/1		
128	288	K516・21	II D	土師器	裏	13.6 (21.6)	218	—	口縁は直線的に外方に立ち上 がる。口部は丸く膨らむ。腹部底面 はやや凸。外面部部中位带状以上 に保付。	10YR6/4	10YR6/3	10Y5/1		
128	289	K520	II D	土師器	裏	— (17.2)	178	—	口縁は直線的に外方に立ち上 がる。口部は丸く膨らむ。腹部底面 はやや凸。外面部部中位带状以上 に保付。	10YR6/3	10YR6/6	10Y5/1		
128	290	K521	II D	土師器	裏	19.5 27.0 274	—	—	口縁は直線的に外方に立ち上 がる。口部は丸く膨らむ。腹部底面 はやや凸。外面部部中位带状以上 に保付。	10YR6/2	75YR6/3	7.5Y5/1		
129	291	K519・34	II D	土師器	裏	16.1 30.1 253	—	—	口縁は直線的に外方に立ち上 がる。口部は丸く膨らむ。腹部底面 はやや凸。外面部部中位带状以上 に保付。	7.5YR7/4	7.5YR7/4	N4/		
129	292	K519	II D	土師器	裏	17.9 32.4 306	—	—	口縁は直線的に外方に立ち上 がる。口部は丸く膨らむ。腹部底面 はやや凸。外面部部中位带状以上 に保付。	7.5YR8/4	10YR6/3	10Y5/1		
130	293	K519	II D	土師器	裏	12.2 (12.1)	180	—	口縁は直線的に外方に立ち上 がる。口部は丸く膨らむ。腹部底面 はやや凸。外面部部中位带状以上 に保付。	10YR6/4	7.5YR5/3	10Y7/3		
130	294	L62	II D	土師器	裏	15.3 18.5 180	—	—	口縁は直線的に外方に立ち上 がる。口部は丸く膨らむ。腹部底面 はやや凸。外面部部中位带状以上 に保付。	10YR6/3	10YR6/3	N5/		
130	295	L521	II D	土師器	裏	14.3 92	—	—	口縁は直線的に外方に立ち上 がる。口部は丸く膨らむ。腹部底面 はやや凸。外面部部中位带状以上 に保付。	7.5YR6/3	7.5YR6/2	10Y5/1		
130	296	K520	II D	土師器	裏	16.2 (15.3)	169	—	口縁は直線的に外方に立ち上 がる。口部は丸く膨らむ。腹部底面 はやや凸。外面部部中位带状以上 に保付。	7.5YR6/4	10YR6/3	N4/		

表52 4B区遺物觀察表15

《土器・土製品》

Fig.	遺物	出土地点	番号	器形	部位	法尺 (cm)	特徴	内面	色調	備考
No.	グリッド	層						外面		
130	297	1.5-21	II D	土鉢	裏	17.3 26.8 24.0	口縁は最も外反して外方に立ち上がる。口部は丸く侈る。内面に外側に肥厚する。底部は埋入指向。丸底。内面底部と外側底部部分に保付着。	5Y5/1	灰青褐	灰
130	298	1.5-22	III D	土鉢	裏	16.0 (22.3) 21.6	口縁は最も外反して外方に立ち上がる。口部は丸く侈る。内面に外側に肥厚する。底部は埋入指向。丸底。内面に保付着。	25Y5/1	灰青褐	25Y5/1
131	299	K5-23	II D	土鉢	裏	17.0 29.5 19.2	口縁は最も外反して外方に立ち上がる。口部は丸く侈る。内面に外側に肥厚する。底部は埋入指向。丸底。内面底部に中空部付着。	灰青褐	灰青褐	灰青褐
131	300	K5-19	III D	土鉢	裏	15.5 29.0 21.6	口縁は最も外反して外方に立ち上がる。口部は丸く侈る。内面に外側に肥厚する。底部は埋入指向。丸底。内面に保付着。	10Y8E-3	灰青褐	オリーブ黒 5Y5/1
131	301	K5-18	III D	土鉢	裏	15.0 (13.6) 17.1	口縁は最も外反して外方に立ち上がる。内面に外側に肥厚する。底部は埋入指向。丸底。内面底部から口縁の一部に保付着。	灰青褐	灰青褐	灰
131	302	1.6-2	III D	土鉢	裏	14.6 (4.9)	二重口。口縁は外反し、底面は最も外反して外方に立ち上がる。口部は丸く侈る。	10Y8E-3	灰青褐	古墳前期 古墳中期
131	303	25-15-16	III B-2 · II D	土鉢	裏	18.2 (5.5)	二重口。口縁は外反し、底面は最も外反して外方に立ち上がる。口部は丸く侈る。内面に外側に肥厚する。内面に保付着。	5Y8E-6	5Y8E-6	25Y5/1
131	304	1.6-6	III B-2 · II D	土鉢	裏	15.0 (9.5)	口縁は最も外反して外方に立ち上がる。口部は丸く侈る。内面に外側に肥厚する。内面に保付着。	5Y4/1	灰	5Y5/3 N6/1 古墳前期
131	305	1.5-22	II D	土鉢	裏	10.8 (6.2) (9.4)	二重口。口縁は外反し、底面は最も外反して外方に立ち上がる。口部は丸く侈る。内面に外側に肥厚する。内面に保付着。	10Y8E-2	灰青褐	灰青褐 25Y5/2 人足
132	306	K5-20	III B-1 · III D	土鉢	裏	13.6 (30.9) 25.9	口縁は最も外反して外方に立ち上がる。内面に外側に肥厚する。内面に保付着。	25Y5/1	灰青	灰 5Y4/1 先秦中期
133	307	K5-17	II D	陶生土器	裏	— (11.3)	底部は低い平底。	N4/	浅黄褐	灰 先秦中期
133	308	1.5-16	II D	土鉢	裏	— (13.7)	底部は低い平底。	7.5Y8E-4	灰	7.5Y8E-6 7.5Y4/1
133	309	K5-19	II D	土鉢	裏	— (8.5)	底部は低い平底。	10Y8E-3	灰青褐	灰
133	310	1.5-21	II D	陶生土器	底	— (36)	底部は平底で高台向中央が突出する。内面に外側に肥厚する。内面に保付着。	10Y8E-3	灰	12.5-2.7 モルタル 先秦中期
133	311	1.6-2	II D-1	陶生土器	裏	— (30)	6.5 口底は板状でやや肥厚する。	10Y8E-2	10Y8E-2	7.5Y4/1 後半
134	312	1.5-20	II D	陶生土器	底	— (32)	口縁は内側に深んだを成す。内面に外側に肥厚する。内面に保付着。	7.5Y8E-4	灰	7.5Y8E-4
134	313	K5-20	II D	陶生土器	裏	全員 9.8	内面に外側に肥厚する。内面に保付着。	N4/	灰	灰 黄褐
134	314	K5-20	II D	陶生土器	底	11.2 46 12.2	内面に外側に肥厚する。内面に保付着。	5Y6/1	灰	N5/1
134	315	1.6-2	II D	陶生土器	裏	—	胎土中の気孔は円・弧孔で密。	10Y5/1	灰青褐	10Y5/3
137	318	K5-22	III B-3	陶生土器	底	— (67)	胎土中に空洞がある。	25Y7/1	灰青褐	灰
137	319	1.6-6	III B	陶生土器	裏	— (34)	胎土中に空洞がある。	25Y8/2	灰青褐	10Y8E-1
137	320	K5-21	III B-3	陶生土器	裏	— (31)	胎土中に空洞がある。	25Y5/2	灰青褐	10Y8E-2 先秦中期
137	321	K5-20	III B-3	陶生土器	深鉢	— (55)	胎土中に空洞がある。	10Y8E-3	灰青褐	10Y7H-4 10Y4/1
137	322	K5-17	III B-3	陶生土器	深鉢	— (36)	胎土中に空洞がある。	10Y8E-2	灰青褐	25Y5/1

表53 4B区遺物觀察表16

(土器・土製品)

No.	遺物 名	出土地點 No.	グリフ	基形	部位	注意 (cm)	特徴	色調		参考
								内面	外面	
137 323	K5-18	IIIB3	縄文土器?	深鉢	口縁	— (3.4)	—	口縁は外反して外上方に立上がり る。口唇は丸く削める。	黒 灰	SY2/1 SY4/1 25Y4/1
137 324	K5-17	IIIB3	縄文土器	深鉢	口縁	— (2.7)	—	口縁は内反して外上方に立上 がる。口唇は外削する面を成す。	灰黄 灰白 灰	25Y7/2 SY7/2 N4/
137 325	K5-17	IIIB3	縄文土器?	深鉢	口縁	— (3.4)	—	口縁は外反して外上方に立上 がる。口唇は外削する面を成す。	暗灰黄 灰 灰	25Y5/2 25Y5/2 25Y6/1
137 326	K5-22	IIIB3	縄文土器	深鉢	全体	— (5.1)	—	—	灰 灰	10Y8E/3 25Y6/2 25Y6/1
137 327	K5-13	IIIB0	陶生土器	要	口縁	— (3.0)	—	口縁は粗く外反して外上方に立上 がる。口唇は丸味を持った外削す る面を成す。口縁の後部で腹 を支える。口縁下部に斜めの附着部。 口縁は外反して外上方に立上 がる。口唇は丸味を持った面を成し、外 縁にやや肥厚する。	にひい黄褐 浅黄褐 灰黃	10Y8E/3 75Y8E/6 25Y7/2
137 328	K5-64	IIIB3	陶生土器	要	口縁	— (6.6)	—	—	灰 暗灰 灰	25Y6/2 75Y8E/6 SY5/1 陶生土器
137 329	K5-22	IIIB3	陶生土器	要	口縁	16.8 (10.0)	—	口縁は外反して外上方に立上 がる。口唇は丸味を持った面を成 す。	灰 灰 灰	25Y7/2 25Y6/1 25Y7/2
138 330	K5-19	IIIB3	陶生土器	要	口縁	— (4.5)	—	口縁は外反して外上方に立上 がる。口唇下外側に粘土帶を貼付 し肥厚する。口縁は外削する面を成 す。	灰 灰白 灰	SY4/1 25Y6/2 N4/
138 331	K5-25	IIIB3	陶生土器	要	口縁	16.3 (3.3)	—	口縁は外反して外上方に立上 がる。口唇下外側に粘土帶を貼付 し肥厚する。口縁は外削する面を成 す。	にひい褐色 にひい褐色	75Y8E/4 75Y8E/4 NS/ —後期
138 332	K5-22	IIIB3	陶生土器	要	口縁	— (6.5)	—	—	灰 灰	N4/ 75Y8E/4 N4/ 陶生後期
138 333	K5-24	IIIB3	陶生土器	要	口縁	14.6 (5.4)	—	口縁は外反して外上方に立上 がる。口唇下粘土帶を貼付し肥厚 する。口縁は中央の僅んだ面を成 す。	灰 灰 灰	10Y5/1 25Y7/2 N4/
138 334	K5-19	IIIB3	陶生土器	要	口縁	— (5.9)	—	口縁は外反して外上方に立上 がる。口唇下外側に粘土帶を貼付 し肥厚する。口縁は中央の僅んだ面を成 す。	灰 灰 灰	75Y7/1 25Y6/2 N4/
138 335	K5-19	IIIB3	陶生土器	要	口縁	12.6 (4.7)	—	口縁は直面で外上方に立上 がる。口唇下外側に丸味を持った 面を成す。口縁外側に粘土帶を貼 付し肥厚する。	灰 灰 灰	SY6/1 10Y8E/3 N4/
138 336	K5-20	IIIB3	陶生土器	要	口縁	— (3.9)	—	口縁は外反して外上方に立上 がる。口縁下外側に丸味を持った 面を成す。口縁外側に粘土帶を貼 付し肥厚する。	にひい褐色 灰 灰	75Y6/4 25Y6/1 N6/
138 337	K5-19	IIIB3	陶生土器	要	口縁	14.3 (4.1)	—	口縁は外反して外上方に立上 がる。口唇下外側に丸味を持った 面を成す。口縁外側に粘土帶を貼 付し肥厚する。	灰 灰 灰	NS/ 75Y8E/6 N4/
138 338	K5-20	IIIB3	陶生土器	要	口縁	— (2.8)	—	—	灰 灰 灰	25Y6/3 SY5/1 SY5/1
138 339 23-24	K5-19	IIIB3	陶生土器	要	口縁	— (6.6)	—	口縁は外反して外上方に立上 がる。口縁下外側に丸味を持った 面を成す。口縁外側に粘土帶を貼付 し肥厚する。	灰 灰 灰	SY8E/6 N4/ 陶生後期
138 340	K5-19	IIIB3	陶生土器	要	口縁	— (2.1)	—	—	灰 灰 青灰	10Y8E/4 10Y8E/4/2 5NC5/1
138 341	K5-19	IIIB3	陶生土器	要	口縁	— (2.8)	—	口縁は内縫して外上方に立上 がる。口縁下外側に丸味を持った 面を成す。口縁外側に粘土帶を貼 付し肥厚する。	灰 灰 暗灰	9E2/1 SY7/1 75Y4/1
138 342	K5-20	IIIB3	陶生土器	要	口縁	13.8 (4.3)	—	—	灰 灰 灰	10Y8E/1 10Y8E/2 25Y5/1
138 343	K5-13	IIIB0	陶生土器	要	口縁	— (2.8)	—	口縁は外反して外上方に立上 がる。口縁下外側に丸味を持った 面を成す。口縁外側に粘土帶を貼付 し肥厚する。	灰 灰 灰	75Y4/1 SY4/1 SY4/1
138 344	K5-18	IIIB3	陶生土器	要	口縁	— (1.8)	—	—	灰 灰 灰	SY6/1 N4/ N4/
138 345	K5-20	IIIB3	陶生土器	要	口縁	— (1.5)	—	口縁は外反して外上方に立上 がる。口縁下外側に丸味を持った 面を成す。部分的にやや肥厚する。	灰 灰 灰	10Y8E/2 75Y7/1 SY4/1
138 346	K5-19	IIIB3	陶生土器	要	制	— (2.3)	—	—	にひい黄褐 灰 灰	10Y8E/4 10Y8E/4 25Y5/1

表54 4B区遺物觀察表17

(土器・土製品)

No.	遺物	出土地点	基種	器形	部位	寸法 (cm)	特徴	内面	外側	色調	胎土	備考	
口径	器高	側径	底径										
138 347 K5-20	EB3	陶生土器	壺	刷	— (4.8) —	—	瓶の軸用?	HOTR2/1	J4G3	25Y8/2	IVY87/1	陶生後期	
							口は破れ、外反して外上方に立てるが、口縁外側に點打しを施す。口唇は丸く膨らむ。底厚は丸く、底径を持った面を成す。						
139 348 L67	EB	陶生土器	壺	口縁	— (3.8) —	—	—			25Y7/2	IVY87/2	N4/	
							口は外反して外上方に立てるが、口縁外側に点打しを施す。外側は丸く膨らむ。口片に点打しを施す。手縫合跡。外側は部分的に保付						
139 349 K5-22	EB3	陶生土器	壺	口縁	16.0 (5.5) —	—	—			25Y4/1	IVY86/2	SYS/1	
							口は外反して外上方に立てるが、口縁外側に点打しを施す。外側は丸く膨らむ。口片に点打しを施す。手縫合跡。外側は部分的に保付						
139 350 K5-20	EB3	陶生土器	壺	口縁	— (4.4) —	—	— (保付)			25Y5/2	IVY84/1	IVY4/1	
							口は外反して外上方に立てるが、口縁外側に点打しを施す。外側は丸く膨らむ。口片に点打しを施す。手縫合跡。外側は部分的に保付						
139 351 K5-19	EB3	陶生土器	壺	口縁	15.2 (5.9) —	—	—			IVY86/1	7SY85-4	IV/	
							口は外反して外上方に立てるが、口縁外側に点打しを施す。口唇は丸く膨らむ。底厚は丸く、底径を持った面を成す。						
139 352 K5-20	EB3	陶生土器	壺	口縁	— (5.6) —	—	—			7SY85/1	7SY86/1	IVY/1	
							口は外反して外上方に立てるが、口縁外側に点打しを施す。口唇は丸く膨らむ。底厚は丸く、底径を持った外側する面を成す。						
139 353 L5-11	EB0	陶生土器	壺	刷	— (5.7) —	—	—			7SY86/2	7SY86/6	SYS/1	
							口は外反して外上方に立てるが、口縁外側に点打しを施す。口唇は丸く膨らむ。底厚は丸く、底径を持った面を成す。						
139 354 K5-22	EB3	陶生土器	壺	口縁	— (3.6) —	—	—			IVY86/4	SYS/6	25Y5/1	
							口は外反して外上方に立てるが、口縁外側に点打しを施す。口唇は丸く膨らむ。底厚は丸く、底径を持った面を成す。						
139 355 K5-21	EB3	陶生土器	壺	口縁	— (2.4) —	—	—			IVY87/3	7SY87-3	7SY5/1	
							口はやや外反して外上方に立てるが、口縁外側に点打しを施す。口唇は平らな面を成す。手縫合跡。						
139 356 K5-25	EB3	陶生土器	高環	口縁	28.8 (3.7) —	—	—			25Y7/2	25Y7/1	N4/	
							口は直進的で上部へ立ち上がる。口縁は丸平な面を成す。手縫合跡。						
139 357 K5-22	EB3	陶生土器	高环?	口縁	— (3.3) —	—	—			10Y6/1	25GY86-3	IV/	
							口は直進的で上部へ立ち上がる。口縁は丸平な面を成す。手縫合跡。						
139 358 K5-19	EB3	陶生土器	高環	— (4.3) —	—	—	— (2.6) —			25Y8/1	10Y87/3	N4/	
							口は直進的で上部へ立ち上がる。口縁は丸平な面を成す。手縫合跡。						
139 359 K5-22	EB3	陶生土器	高環	口縁	— (4.0) —	—	—			7SY86/4	7SY86-4	N4/	
							口は直進的で上部へ立ち上がる。口縁は丸平な面を成す。手縫合跡。						
139 360 K5-17	EB3	陶生土器	高環	刷	— (12.0) —	—	— (1) —			25Y8/3	N7/	N4/	
							口は直進的で外上方に立てるが、口縁は丸く膨らむ。底厚は丸く、底径を持った面を成す。						
140 361 K5-14	EB0	土器	ミニチュア	44	18	—	—			5Y84/2	5Y84/4	SYS/1	
							口は直進的で外上方に立てるが、口縁は丸く膨らむ。底厚は丸く、底径を持った面を成す。						
140 362 K5-25	EB3	土器	鉢	—	11.9 (7.4) 12.7	—	—			25Y4/1	10Y86-3	10Y4/1	
							口は直進的で外上方に立てるが、口縁は丸く膨らむ。底厚は丸く、底径を持った面を成す。						
140 363 K5-25	EB3	土器	鉢	—	— (9.9) 14.8	—	—			25Y8/4	5Y86-6	SYS/1	
							口は直進的で外上方に立てるが、口縁は丸く膨らむ。底厚は丸く、底径を持った面を成す。						
140 364 K5-23	EB3	土器	鉢	—	— (7.2) —	—	—			—	5Y3/1	10Y85-3	
							口は直進的で外上方に立てるが、口縁は丸く膨らむ。底厚は丸く、底径を持った面を成す。						
140 365 L5-21	EB	破壊	壺	刷	12.2	0.9	—	前立中の気泡は孔状で隙間		10Y85/1	10Y84/1	7SY85-3	
							全長 穴厚	口は孔状で隙間					
140 366 K5-15	EB0	破壊	壺	刷	—	10	—	— (2.0) —		5Y6/6	N7/	N7/	
							全長 穴厚	口は孔状で隙間					
140 367 K5-18	EB1	破壊	壺	刷	6.2	1.2	—	— (1.5) —		10Y5/1	7SY7/1	7SY86/4	
							全長 穴厚	口は孔状で隙間					
140 368 K5-20	EB0	土器	瓶	底	— (1.7) —	—	9.3	— (1.5) —		7SY86/6	7SY86/4	10Y7/1	
							全長 穴厚	口は直立する。口内は丸く、内側は白い凹面。内側は丸く、内側は白い凹面。					
140 369 K5-24	EB0	土器	鉢	底	— (1.7) —	—	7.9	— (1.5) —		25Y6/2	25Y6/2	25Y7/2	
							全長 穴厚	口は直立する。口内は丸く、内側は白い凹面。					
141 370 —	—	—	陶生土器	高环?	刷	— (2.7) —	—	— (1.5) —		5Y86/6	5Y87/4	SYS/1	
							全長 穴厚	口は直立する。口内は丸く、内側は白い凹面。					
141 371 —	—	—	陶生土器	高环?	刷	— (3.0) —	—	— (1.5) —		10Y86/4	25Y86/6	SYS/1	
							全長 穴厚	口は直立する。口内は丸く、内側は白い凹面。					
141 372 —	—	—	陶生土器	壺	刷	— (3.6) —	—	— (1.5) —		5Y6/1	N7/1	10Y7/1	
							全長 穴厚	口は直立する。口内は丸く、内側は白い凹面。					

表55 4B区遺物観察表18

《石器・石製品》

Fig.	図版 No.	出土地点 No.	種類 グリッド 番	法量				特徴	その他
				全長 (cm)	全幅 (cm)	全厚 (cm)	重量 (g)		
142	373	K5-20	III-E	石斧(基部)	(10.8)	(6.7)	1.7	2017	成形時の剥離痕を残し研摩を施す。刃辺は丁寧に研摩。基部は仄く分岐形?
									超塗基性岩
142	374	K6-18	III-C	石斧(基部)	(4.8)	(4.7)	(1.0)	340	磨製石斧。基部はやや屈く彎曲する。表面裏面に研摩痕、擦痕を残す。敲打痕(整形痕?)を残す。
142	375	K6-3	III-C-1	石斧	(5.0)	4.0	0.9	358	扁平片刃。前面は成形時の剥離面を残して研摩。後面は丁寧に研摩する。刃部は彎曲し刃端附近を残す。
									結晶片岩
142	376	K5-22	III-C	石斧	(8.2)	(4.2)	1.4	81.6	小型の河原石を用いて端部を加工する。刃部は彎曲する。片刃? 研摩は側辺の中央部及び刃
									結晶片岩
142	377	K5-18	III-C	石斧	(9.0)	7.3	(1.9)	2008	扁平片刃。刃部は仄く彎曲する。側面は仄く平らな面を成す。刃部と側面を中心に丁寧な研摩。
									超塗基性岩
142	378	K5-23	III-C-1	石斧	(9.5)	4.4	(3.1)	189.4	刃部の河原石を用いる。刃部はやや内擡し、表面より調節を加える。背部は仄く削削し、湾く仕上げる。
									結晶片岩
142	379		III-C	石包丁	9.2	4.4	1.5	783	小型の河原石を用い、端部に敲打痕を残す。緑色チャート表面中央部に側辺。端部に敲打痕が集中して歪む。裏面の中央付近には滑らか。
142	380	K5-20	III-D	叩石	7.1	4.9	3.3	1690	刃部(側辺)に敲打痕を残す。背部(側辺)以外にやや深い塑形痕が仄く残る。
									結晶片岩
142	381	K5-17	III-C	叩石	9.1	8.4	5.0	529.3	表面中央部に側辺。端部に敲打痕が集中して歪む。裏面の中央付近には滑らか。
142	382	K5-17	III-C		(18.8)	5.8	2.1	393.1	刃部(側辺)に敲打痕を残す。背部(側辺)以外にやや深い塑形痕が仄く残る。
									結晶片岩
142	383	K5-19	III-C	叩石	13.1	7.9	6.4	856.0	表面はやや意んだ自然面で敲打による剥離を残す。
									緑色チャート
142	384	K5-19	III-C	叩石	12.2	9.8	4.9	880.5	側面の中央部に側辺が集中し大きくなつて、側面には塊状の歪みが存在する。砾石として使用?
143	385	K5-19	III-D	石鏨	(24)	16	0.3	13	平基。主に表面から加工する。裏面は端部のみ調整。
143	386	K5-20	III-D	石斧	(9.5)	(6.5)	3.0	291.7	扁平片刃。刃部の一部が欠損後、再び刃を研ぎ出して使用? 叩石として転用。前面と側面に敲打痕が残る。
									超塗基性岩
143	387	K5-20	III-D	石斧(刃部)	(4.3)	24	0.5	10.2	自然縫(河原石)を用いる。刃部を両刃に加工する。小型の整狀。
143	388	K5-20	III-D	石包丁	(4.2)	4.0	(0.5)	11.6	刃部は直線的で片刃。背部は彎曲? 縫孔はφ 6mmの円孔。
									泥岩
143	389	K5-16	III-D	砥石	(6.9)	7.2	3.8	2029	砥面は2~3mm。一面は平坦で滑らか。繊かな擦痕を残す。一面は裏面を残し、擦痕が全体に見られる。一部で整形時の敲打痕を残す。
									泥質砂岩
143	390	L6-1	III-D	叩石	18.9	53	1.2	2128	表面は滑らか。成形時の敲打痕を側面に残す。側面に敲打痕を成す。
									結晶片岩
143	391	K5-14	III-D	砥石	19.8	11.0	6.1	1977.0	表面は滑らかに砥面を成す。
									砂岩
143	392	L6-2	III-D-1	砥石	14.1	10.8	2.7	498.2	表面の多くは滑らか砥面(仕上げ面)を成し、細かい擦痕が部分的に残る。裏面は全体に粗な擦痕が主に側面に残る。側面の一部は敲打痕による大きな剥離が存在する。
143	393	K5-18	III-D	砥石	16.2	9.3	7.8	1220.0	河原石を用いて1~2面を砥面とする。裏面と端部に敲打痕を残す。
143	394	K5-20	III-D	叩石	12.6	5.4	4.7	461.8	表・裏面の中央部に敲打痕を集中し、裏面と側面の一部に敲打痕を残す。
143	395	L5-22	III-D	叩石	15.0	6.5	7.0	1263.0	表面に敲打痕を集中し、裏面と側面の一部に敲打痕を残す。
143	396	L6-2	III-D-1	叩石	18.1	6.2	3.5	725.5	全面に敲打痕が残る。裏面は剥離を作り平面となる。裏面は丸味を持った面で敲打が密。
									緑色片岩
144	397	L6-2	III-D-1	叩石	11.1	8.4	3.1	395.8	表・裏面の中央部は敲打により大きく歪む。
144	398	L5-16	III-D	叩石	10.8	9.8	4.8	662.0	表・裏面の中央部は敲打により大きく歪む。

表56 4B区遺物觀察表19

《石器・石製品》

Fig. No.	図版 No.	出土地点 グリッド 番	種類	法量				特徴	その他
				全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	重量(g)		
144	399	L6.2	ⅢD-1	叩石	10.1	10.0	4.5	6460	表・裏面の中央部にやや敲打痕が集中する。 側辺から端部は一部を除いて敲打痕が帶状に残る。
144	400	L5.21	ⅢD	叩石	14.6	10.2	7.1	1608.0	表面には敲打痕が多く残り、中央部では密に分布する。裏面中央や側面、端面の一部でも敲打痕が帶状で部分的に剥離する。
144	401	K5.15	ⅢD	叩石	10.8	9.6	4.1	6460	表・裏面の中央部には敲打痕が集中し変む。 側辺から端部は敲打痕が全周し、部分的には剥落する。
144	402	K5.15	ⅢD	叩石	(11.1)	10.7	6.0	9330	表・裏面の中央部には敲打痕が集中する。一部被熱。
144	403	K5.19	ⅢD	砥石	(9.2)	9.7	1.1	176.7	兩端調整孔? 泥岩
144	404	L5.16	ⅢD	台石	(11.1)	13.6	3.4	8205	表・裏面には敲打痕が集中して大きく変む。 一部は側らがやや規模の大きな破壊痕が残る。裏面?
144	405	K5.19	ⅢD	台石	16.3	12.5	2.4	8170	表・裏面には悪く敲打痕が残る。端、側面の一部にも敲打痕が残る。 砂岩
145	406	L5.16	ⅢB-2	有孔円盤	直徑4.3		0.5	17.8	表・裏面には悪く敲打痕が残る。中央部は3mmの円孔が2個。端部は丁寧に研磨。
145	407	K5.17	ⅢB-0	石斧(基部)	(6.5)	(21)	(1.1)	22.7	小型の製作。表面は滑らか。 結晶片岩
145	408	K5.25	ⅢB-3	打製石包丁	(6.7)	5.0	0.6	24.3	刃部、背部とともに側面に弯曲する。端部を打ち欠いて刃を作り出が剥離する。側辺中央部を打ち欠き経掛削とする。 結晶片岩
145	409	K5.14	ⅢB-0	石斧	6.9	5.2	3.9	2092	両端部が著しく摩滅する。 砂岩
145	410	K5.17	ⅢB-3	叩石	9.0	7.6	6.9	607.0	全面に敲打痕、剥離痕を残す。 緑色チャート
145	411	K5.17	ⅢB-0	叩石	10.4	7.5	4.7	542.6	表面中央部、側面の全面に敲打痕を残す。 端部は側面に敲打痕が集中する。 砂岩
145	412	K5.17	ⅢB-3	叩石	17.7	4.4	4.1	367.3	端部と表・裏面は敲打により激しく剥落する。 結晶片岩
145	413	K5.18	ⅢB-3	叩石	14.8	6.0	2.9	359.3	表面と側面に敲打痕が多く残す。 表・裏面には広く敲打痕が残る。側面と端部は敲打痕が密で滑らかな面を形成する。
145	414	K5.14	ⅢB-0	叩石	11.0	8.3	5.8	807.5	砂岩
145	415	K5.21	ⅢB-3	叩石	10.6	9.5	3.1	489.9	表・裏面の中央部と側辺に敲打痕が集中する。
145	416	L5.16	ⅢB-3	叩石	12.1	9.3	5.3	996.0	表・裏面には広く敲打痕が残る。側面と端部は敲打痕が密で滑らかな面を形成する。
145	417	K5.20	ⅢB-3	叩石	11.3	10.3	4.5	731.0	表面中央部は敲打により変む。側辺から端部の一部に敲打痕が附着。
146	418	K5.25	ⅢB-3	叩石	11.3	7.8	4.9	675.0	両側面を削り大きく抉る。部分的には滑らか。端部は片面に敲打痕が附着する。
146	419	L5.21	ⅢB-3	叩石	12.7	9.6	5.7	1070.5	表・裏面中央部に敲打痕が残る。側面及び端部には敲打痕が密で大きく残む。 河原石を用い各辺と端部に敲打痕を残す。
146	420	K5.17	ⅢB-3	叩石	16.2	8.5	7.3	1298.5	表面は滑やかな凹面を成す。一部に敲打痕を残す。裏面には船底の様な擦れ痕が残る。 砂岩
146	421	K5.19	ⅢB-3	砥石	(9.9)	(8.4)	(4.2)	400.0	表・裏面、側辺には敲打による剥離で小規模の浅い凹面が残される。
146	422	K5.14	ⅢB-0	叩石	11.4	10.3	3.7	665.5	砂岩

表57 4B区遺物觀察表20

《木器・木製品》

Fig.	遺物	出土地点	種類	遺物名・用途	法華 (cm)			特徵
					全長	全幅	全厚	
147	423	III C	食事具	杓子	34.2	4.9	3.7	身部は細やかな凹面を成し、中央部で肥厚し最大となる。柄部は徐々に細く成り端部で曲がる。二次的に枝として利用か。
147	424	K5-22	III C	農工具 鋤(納蓋着部)	97	7.3	2.6	鋤本体と共に厚く削り出され、中央部分に斜位に穿たれた横円孔がある。
147	425	K5-17	III D	部材 把手状木製品	63	34	2.2	丁寧に加工し、鉗手状に彎がった端部は肥厚する。
147	426	L6-2	III D	部材?	—	4.4	4.1	平面円形、断面角柱形を呈す。顯著な成形痕を留めない。
147	427	L6-2	III D	部材	—	13.7	6.1	1.7
147	428	L6-2	III D	部材	—	13.8	6.1	1.8
147	429	L6-2	III D	工具部材 支持部品?	31.0	5.1	1.4	短冊形、内厚の板状一端部にホゾを造り出す。端面、側面は調整削り残し丁寧に仕上げられる。
148	430	L6-7	III D	容器 木皿/樽?	37.3	3.4	3.7	短冊形で内厚の板状一端部を削り出し、ホゾを造り出す。
148	431	L6-6	III D	容器 箕	24.5	31.4	3.0	突出部は丁寧削し、先端は薄く仕上げられる。底部はV字で、浅瀬があり、4~5.5°の傾きを持つ。一部被熱変化。
148	432	L6-6	III D	器具	—	37.4	7.7	1.7
148	433	L6-2	III D	農工具?	—	34.1	6.7	0.8
148	434	K5-20	III D	狩猟具 矛?	—	43.1	2.6	端部は赤掛け部分を浅く抉り、外端を肥厚させる。
149	435	L6-2	III D	農工具 / 掘り具	28.0	9.9	2.5	引き具の中央にΦ6×1.67のホゾ穴と長軸方向に穴。掘り具は高さ10°の四角椎と先端は斜減する。
149	436	L6-2	III D-1	農工具 鋤	37.2	19.7	5.0	平面分離形で、刃部はやや膨らむ。柄の取り付け部分は分厚く削り落され、中央部分での穴状に分かれ後、徐々に低くなる。
150	437	L6-2	III D	農工具 鋤	32.0	19.9	4.6	平面分離形で、刃部はやや膨らみを持つ。柄の取り付け部は厚く削り出され、逆三角形を呈し、頂点は中央部に至る。刃部の中央寄りにΦ5の円孔が開く。
151	438	L5-21	III D	部材	—	56.0	34.9	6.3
152	439	L6-2	III D	部材	—	80.6	31.6	9.9
152	440	L6-2	III D	部材	—	78.0	4.0	2.0
152	441	K6-15	III B-3	部材	—	73.7	166	3.0
153	442	L5-22	III B-3	部材	—	19.3	2.1	1.2
153	443	K5-25	III B-2	工具 木鍤	14.5	5.3	4.1	端部は鋭い凸面に細工を残して仕上げる。中央部はやや幅狭で、浅く抉り込む。
153	444	K6-5	III B-2	精査具 扇形木製品	56.8	7.9	4.6	先端は鋭く削り出され、舟底は平らな面を成す。
153	445	K6-3	III B-2	農工具 織作	41.5	7.5	4.9	端部は丸頭を残し、鋭い凸面を成す。中央部分へ向けてやや深く抉る。
154	446	L6-7	III B	容器 鍤(柄)	25.8	2.5	1.1	やや内側する口縁部破片で、口唇は平らな面を成す。内外間に加工跡を残す。
154	447	K5-25	III B	狩猟具 矛(端部)	25.3	2.8	2.2	赤掛け部分を彎く削り出す。端部は宝珠状に太く削り出す。
154	448	L6-6	III B	工具 木鍤	11.1	6.5	5.3	両端部が鋭い凸面に仕上げる。中央部分は幅広にやや浅く抉り取る。
154	449	L6-6	III B	食事具 木皿	17.0	17.6	3.0	平面正方形。側面長方形を呈す。四辺は15°程度の低い土手状を成し、中央部は平面長方形に削り込む。
154	450	L5-22	III B	容器 底板	19.1	10.0	0.6	Φ4×2.6の縦穴(「縫穴」)?が1個残る。分割式または補修孔か。
154	451	L6-2	III D	農工具 羽口鍤	25.6	27.1	4.3	一本から、薄く広いV型部と断面馬蹄形の土手部を削り出す。土手部削りや中央寄りに、幅10°、高さ42°の断面長方形を呈した穿孔部があり、主部からV部に斜めに貫通する。農工具か。中央部に広い馬蹄工具に因る穿孔を両面から行う。表面裏に成形痕を残す。
155	452	K5-20	III B-2	部材	—	110.0	34.3	8.0
155	453	L6-7	III B	部材	—	76.6	16.4	4.0
156	454	K6-3	III B-3	部材	—	162.0	8.0	6.0
156	455	L6-6	III B	部材	—	109.2	20.0	3.2
156	456	L6-2	III D	樹皮 L=80.6.5	—	—	成形時の工具痕が正面と側面に残る板状木製品。一端部の内側にホゾ穴状の穿孔か。	
457	SKI			網状底	40.0	30.0		

居徳遺跡から出土した木製品と木材片の樹種同定

松葉礼子（パレオ・ラボ）

1. はじめに

高知県土佐市高岡町乙にある居徳遺跡から出土した木製品と木材計4点について樹種同定を行った。遺跡は土佐市北東の仁淀川河畔にある水田に位置している。居徳遺跡は縄文時代～室町時代にいたるまでの各時代の遺構が確認されている複合遺跡で日本最古の鍬を含む木製品も多く出土している遺跡である。

今回はこれらの樹種を同定する事により遺物の性格を明らかにする一端となすことを目的として樹種を同定した。

2. 試料と方法

樹種同定を行った試料は漆器の椀の破片、根、蔓製品、木片の計4点である（表1）。

同定には、木製品から直接片歯剃刀を用いて、木材組織切片を横断面、接線断面、放射断面の3方向作成した。これらの切片は、ガムクロラールにて封入し、永久標本とした。樹種の同定は、これらの標本を光学顕微鏡下で観察し、原生標本との比較により樹種を決定した。これらの標本は写真図版にし、同定の証拠とする。なお、作成した木材組織プレパラートは、標本番号（KCH1～4）を付し（株）パレオ・ラボ（埼玉県戸田市下前1-13-22）で保管されている。

表1 居徳遺跡出土木製品と木材の樹種同定結果一覧

プレパラート番号	樹種	製品名	木取り	遺物番号	出土遺構	出土区	層位
KCH1	不明	根	樹皮つき丸木	No.2	祭祀集中	4A区	Ⅲ層
KCH2	モクレン属近似種	漆製品 椭		No.3-②	No.1182	1A区	Ⅲd層
KCH3	ブドウ科近似種	蔓製品 丸木		No.4	No.1305	1A区	Ⅲd層
KCH4	アカガシ亜属	木片	径目方向	No.18	SR2	4C区	

以下に木材の解剖学的な記載をすることで、同定の根拠とする。

アカガシ亜属 *Quercus* Subgen. *Cyclobalanopsis* Fagaceae 写真図版1a～1c:KCH4

中型で厚壁の円形の道管が単独で、放射方向に幅を持って配列する放射孔材。道管の穿孔は單一。木部柔組織は1～3細胞幅程度の接線方向の帶状を呈す。放射組織は、単列同性で、時に複合状となる。放射組織道管間の壁孔は柵状を呈す。

以上の形質により、ブナ科コナラ属アカガシ亜属の材であると同定した。日本に産するアカガシ亜属には8種が含まれ、いずれも常緑高木。

不明

写真図版2a～2c:KCH1

小型の道管が単独あるいは数個複合している。年輪界は乾燥による細胞壁の癒着により確認できない。道管の穿孔は階段穿孔である。放射組織は単列で集合放射組織も見られる。同性か異性かは確認できない。

以上の確認された形質から類推するにハンノキ属ハンノキ節に近似していると考えられる。しかし、確認できていない形質が多いことから不明にした。

モクレン属近似種 *Magnolia* Magnoliaceae

写真図版3a～3c:KCH2

小型の道管が単独、あるいは放射方向に数個複合して散在する散孔材。道管の大きさは年輪界

付近でやや小さくなる。確認できた道管の穿孔は單一。放射組織は2列で異性。道管放射組織間の壁孔は大きくほぼ円形～楕円形を呈する。

以上の形質からモクレン科のモクレン属の材に近似していることが分かった。しかし、乾燥のため細胞が癒着しており、道管相互の階段状壁孔などが確認できなかったため、同定にはいたらなかった。モクレン属にはホオノキ・オオヤマレンゲ・コブシ・タムシバなどが含まれている。

ブドウ科近似種

写真団版4a～4c:KCH3

大きな道管が単独もしくは数個複合して年輪界に並ぶ環孔材。その後年輪界に向けて急激に径を減じた小道管が放射方向や接線方向に複合して並んでいる。道管の穿孔は單一。放射組織は10細胞幅前後で背が高い。放射組織道管間の壁孔は階段状を呈す。

以上の形質からブドウ科のつる植物に近似していることが分かった。本標本の形質からフジやナンテンカズラ、ツルアジサイ、マタタビ属、イチジク属オオイタビ節、ツルウメモドキ、クマヤナギ属、アケビといったつる植物よりもブドウ科の標本に形質が近い事が確認できたが同定にはいたらなかった。

3. 結果

これらの結果から、アカガシ亜属1種とモクレン属近似種、ブドウ科近似種の一種が確認された。いずれの標本も出土した後乾燥をしている影響で細胞壁が癒着しており、樹種を同定するにあたって必要な形質が確認できなかった試料が多かった。アカガシ亜属は材の比重が高く、材質が堅くて特徴的な構造をしている樹種であるため、乾燥による収縮が起きてはいるものの同定が可能であった。

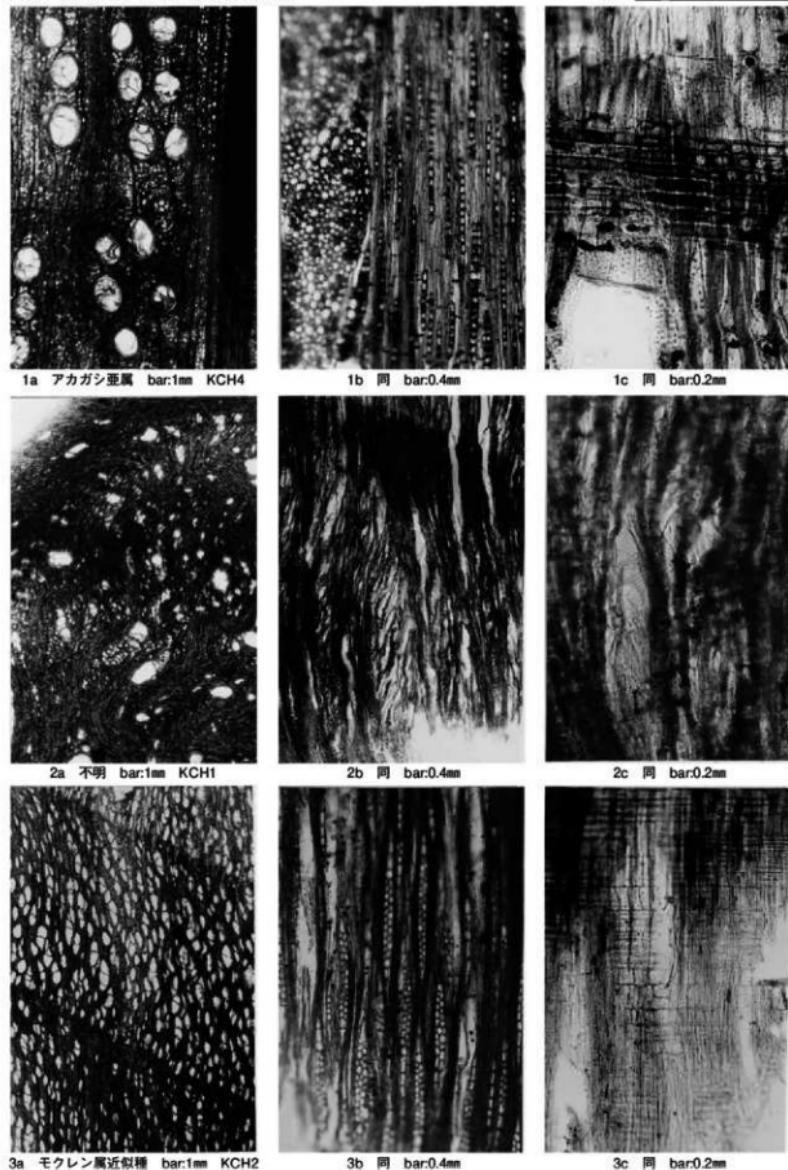
4. 考察

漆器木胎部はモクレン属近似種であった。漆器で確認される樹種はケヤキ、トネリコ属、サクランボ属、モクレン属、トチノキ、ブナ属、カエデ属など材質に硬軟差の少ない木材が多い。これは漆器木胎部が挽物で製作されるため、回転整形に適した樹種が選択されていると考えられる。これらの樹種は地域・時代により量比は変化するが、基本的に樹種構成はこの範疇からあまりでることはない。今回の結果もこれらの全国的な樹種選択の傾向と一致していると考えられる。木片はアカガシ亜属であった。アカガシ亜属は自生している地域では農具に使用されることで知られているが、高知県内の暖帯の自然植生でもあるので、遺跡の所在する高知県土佐市では比較的容易に入手できる樹種である。根材はハンノキ属ハンノキ節の可能性が示唆されるにとどまった。この樹種は低湿地に自生する樹種であるので、遺跡立地が低湿地であることから考えるとこの樹種に整合性があるが木材の形質からは同定にいたらなかった。根材であるので流路などからの出土でなければ、現地性が高い遺物であると考えられる。蔓製品もブドウ科の近似種であることは確認できるが明瞭な同定までにはいたらなかった。笊、籠、運搬用具などの民具で使用されている材料には「あけび蔓」、「マタタビ蔓」、「やまぶどう蔓」、「藤蔓」、「葛藤蔓」などが挙げられている（諸岡・里深, 1996）。これらのうちマタタビ属やフジ、アケビなどは明らかに本標本とは特徴が異なる。

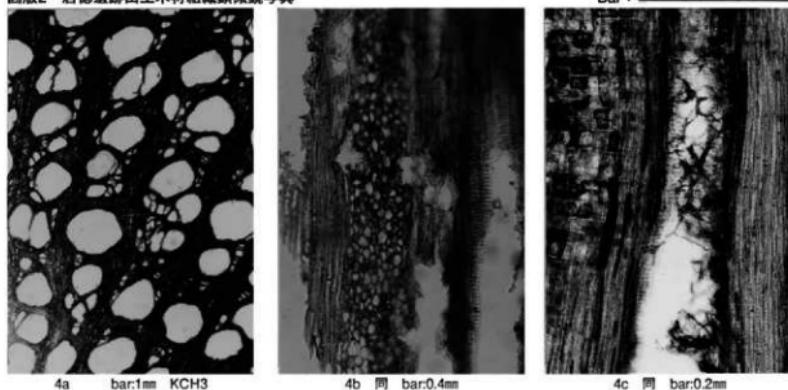
引用文献

諸岡青人・里深文彦. 1996. 民具の文化史. アグネ承風社. 175pp. 東京.

図版1 居德遺跡出土木材組織顕微鏡写真



図版2 居德遺跡出土木材組織顕微鏡写真



高知県居徳遺跡群出土木製品の樹種調査結果

株吉田生物研究所 沙見 真
京都造形芸術大学 岡田文男

1. 試料

試料は高知県居徳遺跡群から出土した工具、農具、農工具、運搬具、祭祀具、建築部材、服飾具、容器、紡織具、雑具、用途不明品である。

2. 觀察方法

剃刀で木口（横断面）、柾目（放射断面）、板目（接線断面）の各切片を採取し、永久プレパラートを作成した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

3. 結果

樹種同定（針葉樹6種、広葉樹7種、樹皮1種、草本類1種）し、各種の解剖学的特徴を記す。

1) マツ科モミ属 (*Abies* sp.)

(4 B区444)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は比較的ゆるやかで晩材部の幅は狭い。柾目では放射組織の上下縁辺部に不規則な形状の放射柔細胞がみられる。放射柔細胞の壁は厚く、数珠状末端壁になっている。放射組織の分野壁孔はスギ型で1分野に1～4個ある。板目では放射組織は単列であった。モミ属はトドマツ、モミ、シラベがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。

2) コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ (*Sciadopitys verticillata* S. et Z.)

(4 A区659,665,667,4 B区430,435,442)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行はやや緩やかで晩材部の幅は極めて狭い。柾目では放射組織の分野壁孔は小型の窓状で1分野に1～2個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。コウヤマキは本州（福島以南）、四国、九州（宮崎まで）に分布する。

3) スギ科スギ属スギ (*Cryptomeria japonica* D. Don)

(4 B区444)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行はやや急であった。樹脂細胞は晩材部で接線方向に並んでいた。柾目では放射組織の分野壁孔は典型的なスギ型で1分野に1～3個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。樹脂細胞の末端壁はおおむね扁平である。スギは本州、四国、九州の主として太平洋側に分布する。

4) ヒノキ科ヒノキ属 (*Chamaecyparis* sp.)

(4 A区654,658,666,668,669,670,671,4 B区438,452,455)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行が急であった。樹脂細胞は晩材部に偏在している。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型で1分野に1~2個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。ヒノキ属はヒノキ、サワラがあり、本州（福島以南）、四国、九州に分布する。

5) ヒノキ科アスナロ属 (*Thujopsis* sp.)

(4 A区663.4 B区427,434,449,450)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は緩やかであった。樹脂細胞は晩材部に散在または接線配列である。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型からややスギ型で1分野に2~4個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。アスナロ属にはアスナロ（ヒバ、アテ）とヒノキアスナロ（ヒバ）があるが顕微鏡下では識別困難である。アスナロ属は本州、四国、九州に分布する。

6) ヒノキ科クロベ属 クロベ (*Thuja standishii* Carr.)

(4 B区426,428,433)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行はやや急であった。樹脂細胞は晩材部に偏って接線状に存在する。柾目では放射組織の分野壁孔はスギ型で1分野に2~6個ある。放射柔細胞の水平壁が接線壁と接する際に水平壁は山形に厚くなり、接線壁との間に溝の様な構造（インデンチャ-）ができ、よく発達しているのが認められる。板目では放射組織は全て単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。クロベは本州、四国に分布する。

7) ブナ科コナラ属 アカガシ亜属 (*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis* sp.)

(4 A区653,655,657,660,661,666 4 B区424,429,432,436,437)

放射孔材である。木口では年輪に関係なくまちまちな大きさの道管（~200 μm ）が放射方向に配列する。軸方向柔細胞は接線に1~3細胞幅の独立帶状柔細胞をつくっている。放射組織は単列放射組織と非常に列数の広い放射組織がある。柾目では道管は單穿孔と多数の壁孔を有する。放射組織はおおむね平伏細胞からなり、時々上下縁辺に方形細胞が見られる。道管放射組織間壁孔は大型で横状の壁孔が存在する。板目では多数の単列放射組織と放射柔細胞の塊の間に道管以外の軸方向要素が挟まれている集合型と複合型の中間となる型の広放射組織が見られる。アカガシ亜属はイタイガシ、アカガシ、シラカシ等があり、本州（宮城、新潟以南）、四国、九州、琉球に分布する。

8) クワ科クワ属 (*Morus* sp.)

(4 B区425)

環孔材である。木口は大道管（~280 μm ）が年輪界にそって1~5列並んで孔圈部を形成している。孔圈外では小道管が2~6個、斜線状ないし接線状、集合状に不規則に複合して散在

している。柾目では道管は單穿孔と対列壁孔を有する。小道管には螺旋肥厚もある。放射組織は平伏と直立細胞からなり異性である。道管内には充填物（チロース）が見られる。板目では放射組織は1～6細胞列、高さ～1.1mmからなる。単列放射組織はあまり見られない。クワ属はヤマグワ、ケグワ、マグワなどがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。

9) クスノキ科クスノキ属クスノキ (*Cinnamomum camphora* Presl)

(4 B区423.431.446.448.451)

散孔材である。木口では中庸の道管（～200 μm ）が単独または2ないし数個が放射方向あるいは斜方向に連続して年輪内に平等に分布する。軸方向柔細胞は道管の周囲を厚く鞘状に取り囲んでおり、その中に一見小さな道管と見間違えるほどの油細胞（樟脳油貯蔵細胞）がある。柾目では道管は單穿孔と側壁に交互壁孔と螺旋肥厚を有する。放射細胞は平伏と直立細胞からなり異性である。道管放射組織間壁孔はレンズ状の大型壁孔が階段状に並んでいる。板目では放射組織は1～3細胞列、高さ～800 μm からなる。放射組織の直立細胞や軸方向柔細胞が油細胞に変化したものが多く見られる。クスノキは本州（関東以西）、四国、九州に分布する。

10) クスノキ科タブノキ属 (*Machilus* sp.)

(4 B区447)

散孔材である。木口は中庸で厚壁の道管（～130 μm ）が単独または2ないし数個が放射方向斜方に連続して年輪内に平等に分布する。軸方向柔細胞は道管の周囲を厚く鞘状に囲んでいる。柾目では道管は單穿孔とまれに階段穿孔、側壁に交互壁孔と螺旋肥厚を有する。放射組織は平伏と直立細胞からなり異性である。道管と放射組織間壁孔は円形、レンズ状、筒状の壁孔が並んでいる。板目では放射組織は1～3細胞列、高さ～600 μm からなる。放射組織の直立細胞や軸方向柔細胞が油細胞（樟脳貯蔵細胞）となったものが見られる。タブノキ属はタブノキ、ホソバタブノキがあり、本州（日本海側は青森、太平洋側は岩手中部以南）、四国、九州、琉球に分布する。

11) バラ科ナシ属 (*Pyrus* sp.)

(4 B区443)

散孔材である。木口は小さい道管（～70 μm ）が単独ないし2、3個複合して分布している。年輪最外部では少ない。軸方向柔細胞は散在状ないし短接線状。ビスフレックがみられる。柾目では道管は單穿孔と側壁に交互壁孔及び螺旋肥厚を有する。放射組織は同性ないし異性で中央部の平伏細胞と上下縁辺の方形細胞からなる。板目では放射組織は1～2（3）細胞列、高さ～0.5mm以下からなる。ナシ属はヤマナシなどがあり、本州、四国、九州に分布する。

12) アワブキ科アワブキ属 (*Meliosma* sp.)

(4 B区445)

散孔材である。木口では中庸な道管（～130 μm ）が、単独ないし柔細胞を間に挟んで2～4個放

射方向に複合して分布している。幅の広い放射組織が幾筋もある。柾目では道管は階段穿孔（バー小数）を持つ。放射細胞は平伏と直立細胞からなり異性である。板目は放射組織は1～4細胞列、高さ～2.5mmからなる。アワブキ属はヤマビワ、アワブキ等があり、本州、四国、九州、琉球に分布する。

13) ツゲ科ツゲ属ツゲ (*Buxus microphylla* S. et Z. var *japonica* Rehd. et Wils.)

(4 A区659)

散孔材である。木口では極めて小さい道管（～40 μm ）が多数平等に分布する。木纖維は厚壁である。柾目では道管は階段穿孔（10本前後）を有する。放射組織は平伏と直立細胞からなり異性である。道管放射組織間壁孔には小型の篩状の壁孔がある。板目では放射組織は2～3細胞列、高さ～600 μm からなる。ツゲは本州（関東以西）、四国、九州に分布する。

14) ヤマザクラorカバの樹皮

(4 B区456)

木口と柾目ではコルク組織とコルク皮層が交互に並んで密に詰まっている。板目では細胞が放射方向に規則正しく配列している。しかし桜、樺の皮は顕微鏡観察での判別は難しい。

15) イネ科タケ亜科 (Subfam. Bambusoideae)

(4 B区457)

稈の横断面では維管束が不規則に並立して基本組織に配列している。個々の維管束の周囲を多量の厚壁纖維の組織（維管束鞘）がとりまいている。稈の縦断面では維管束、維管束鞘、その他の基本組織の細胞を含むすべての要素が稈軸方向に配列している。タケ亜科は熱帯から暖帯、一部温帯に分布する。

参考文献

島地 謙・伊東隆夫「日本の遺跡出土木製品総覧」雄山閣出版（1988）

島地 謙・伊東隆夫「図説木材組織」地球社（1982）

伊東隆夫「日本産広葉樹材の解剖学的記載 I～V」京都大学木質科学研究所（1999）

木村四郎・村田 源「原色日本植物図鑑木本編I・II」保育社（1979）

深澤和三「樹体の解剖」海青社（1997）

使用顕微鏡

Nikon

MICROFLEX UFX-DX Type 115

居徳遺跡出土鉢入砂鉄の金属学的調査

大澤正己・鈴木瑞穂

概要

古墳時代前期に属する居徳遺跡から出土した椀形状鉢入砂鉄を調査して、次の点が明らかになった。

砂鉄は、高チタン ($30.38\% \text{TiO}_2$)・高クロム ($3.08\% \text{Cr}_2\text{O}_3$) の塩基性砂鉄に分類される。この高クロム含有砂鉄は、四国方面の特質であって、地元採取品の可能性は頗る高い。なお、外観的には、 0.1mm 粒度主体の細粒で、河川砂鉄のもつ弱い摩耗度が観察された。

1. いきさつ

居徳遺跡は、高知県土佐市高岡町乙、居徳に所在する。四国横断自動車道（伊野～須崎間）の建設事業に伴う調査で発見された。年代は、縄文時代から室町時代にかけての複合遺跡である。そのうちの古墳時代前期に比定される祭祀跡より鉢入砂鉄は出土した。この砂鉄を通して、産地と共に埋納目的などの把握を目論んで金属学的調査を行った。なお、土器入り砂鉄の出土例は、四国では徳島県所在、矢野遺跡の壺入例（古墳時代前期初頭）^(注1) があり、他には千葉県所在の一本桜南遺跡壺入例（古墳時代初頭）^(注2)などがある。一方、長野県所在で縄文時代晩期前葉に属する円光房遺跡においても小壺入り砂鉄の報告がある。^(注3)

2. 調査方法

2-1. 供試材

椀形状鉢入砂鉄約90gが出土した。そのうちの約30gを供試材として受け取った。Table.1にその履歴と調査項目を示す。

2-2. 調査項目

(1) 肉眼観察

実体顕微鏡観察と、マクロ組織及び穴澤義功氏作成の遺物観察記録をもとに、観察結果を加味して文章化している。

(2) 実体顕微鏡組織

福岡市埋蔵文化センター所有の顕微鏡を使用して、10倍、20倍、30倍の倍率で外観を撮影した。

(3) マクロ組織

顕微鏡埋込み試料の断面全体像を、投影機の20倍で撮影した。低倍率の観察は、組織の分布状態、形状、大きさなどよりも広範囲にわたっての情報が得られる利点がある。

(4) 顕微鏡組織

供試材の砂鉄は、耳搔き1杯程度の分量をベークライト樹脂に埋込み、エメリー研磨紙の#150、#240、#320、#600、#1,000と順を追って研磨し、最後は被研磨面をダイヤモンド粒子の 3μ と 1μ

で仕上げて光学顕微鏡観察を行った。

(5) X線回折法 (X-Ray diffractometer)

回折X線スペクトルを利用した示性分析法。X線回折計 (diffractometer) を使って砂鉄粉末試料 (30メッシュ程度) の回折X線をとり、物質の同定を行っている。X線回折を採用する場合に用いる。

(6) CMA (Computer Aided X-ray Micro Analyzer)

E PMA (Electron Probe Micro Analyzer) にコンピューターを内蔵させた新鋭分析機器である。旧式装置は別名X線マイクロアナライザーとも呼ばれる。分析の原理は、真空中で試料面 (顕微鏡試料併用) に電子線を照射し、発生する特性X線を分光後に画像化し、定性的な結果を得る。更に標準試料とX線強度との対比から元素定量値をコンピューター処理してデータ解析を行う方法である。化学分析を行えない微量試料や鉱物組織の微小域の組織同定が可能である。

(7) 化学組成分析

供試材の分析は次の方法で実施した。

全鉄分 (Total Fe)、金属鉄 (Metallic Fe)、酸化第一鉄 (FeO) : 容量法。

炭素 (C)、硫黄 (S) : 燃焼容量法、燃焼赤外吸収法

二酸化硅素 (SiO₂)、酸化アルミニウム (Al₂O₃)、酸化カルシウム (CaO)、酸化マグネシウム (MgO)、酸化カリウム (K₂O)、酸化ナトリウム (Na₂O)、酸化マンガン (MnO)、二酸化チタン (TiO₂)、酸化クロム (Cr₂O₃)、五酸化磷 (P₂O₅)、バナジウム (V)、銅 (Cu) : ICP (Inductively Coupled Plasma Emission Spectrometer) 法 : 誘導結合プラズマ発光分光分析。

3. 調査結果

(1) 肉眼観察

砂鉄外観は、青黒色で光沢質の微細 (0.1mm径) 粒である。各粒子は、強く波浪に揉まれた痕跡は少なく、僅かに稜を残す程度の磨耗粒である。海浜砂鉄ではなく河川砂鉄の印象を受けた。砂鉄の中の夾雜物は透明な石英粒子や、半透明で褐色、淡緑色、朱色などを呈する珪酸塩系鉱物を混在させる。詳細は遺物観察記録表を参照されたし。

(2) 実体顕微鏡組織

Photo.1に10倍、20倍、30倍の外観を示す。比較的に粒度の整った砂鉄粒子は、光沢を有し、青黒色を呈して通常砂鉄とはやや趣を異なる。一般に自然界に賦存する砂鉄（製鉄原料を対象とした場合）は、長く地中に埋蔵されて地下水などで浸食されて長年月の間に化学変化を受ける。そのため酸化鉄の一部分が水酸化鉄となり風化して赤褐色を呈する。そのような一般塩基性砂鉄とは異なる印象を受けた。

(3) マクロ組織

Photo.2は砂鉄埋込み試料の断面を20倍で撮影したマクロ組織を示す。白色粒子で磁鉄鉱 (Magnetite : Fe₃O₄ : FeO) 粒径は、0.03 ~ 0.3mm ($\bar{X} = 0.12\text{mm}$) のバラツキをもち、溶離組織のチタン鉄鉱などは、やや粒径が大きくて0.06 ~ 0.3mm ($\bar{X} = 0.18\text{mm}$) 程度に落着く。後者はチタン (Ti)、クロム (Cr) 含みで硬質であり摩耗度も低いことが想定される。

(4) 顕微鏡組織

Photo.3に示す。砂鉄の主なる鉱物組成は、マクロ組織に述べたように、白色粒子は磁鉄鉱 (Magnetite : Fe₃O₄ · FeO) で、こちらは磁性が強く、⑦⑧にみられる格子組織がチタン鉄鉱 (Ilmenite : FeO · TiO₂) で磁性は弱い。後者の格子組織は、チタン鉄鉱と磁鉄鉱とが固溶体となつた内部共晶であり、この高チタン粒子からチタン (Ti) を除くには、化学的方法以外では困難である。なお、各粒子内には茶黒色の斑点が点在するのは包裏鉱物（輝石、角尖石、石英など）である。組成の一部については、CMAの項で詳述する。包裏鉱物は微量であり、砂鉄成分の純度の高いものは、この脈石成分も少ない傾向にある。また、当組織写真でも判るように、チタン含有量の高い砂鉄は、格子組織のチタン鉄鉱が多く含まれ、チタン含有量の低い砂鉄は逆に格子組織はあまり検出されない。

(5) X線回折

砂鉄の主要鉱物相のX線回折結果をTable.2とFig.1に示す。検出鉱物相は、磁鉄鉱 (Magnetite : FeO · Fe₃O₄)、チタン鉄鉱 (Ilmenite : FeO · TiO₂) であるが、磁鉄鉱の表面が自然風化を受けて酸化され、磁鉄鉱FeO · Fe₃O₄ → 磁赤鉄鉱 γ - Fe₃O₄ → 赤鉄鉱 α - Fe₂O₃ → 褐鉄鉱 2Fe₂O₃ · n H₂Oとなる。Magnetite, Maghemite, Limoniteと変化を受ける。この変化過程の鉱物相のヘマタイト (Fe₂O₃) も検出された。

(6) CMA調査

砂鉄粒子を2種類分析した。その一つをPhoto.4に示す。分析対象粒子は顕微鏡組織のPhoto.3⑨にみられた包裏鉱物と格子組織である。分析視野はPhoto.4のCOMP（反射電子像）に示すところを特性X線像と定量分析を行った。COMPに8の番号をつけた球状包裏鉱物は、白色輝点が珪素 (Si) に強く集中し、定量分析値は93.6% SiO₂ - 5.1% Al₂O₃ - 1.1% K₂Oが得られた。石英 (Quartz) が同定される。それから基地でCOMPの9の番号の個所は、白色輝点が鉄 (Fe) とチタン (Ti) に強く集中し、定量分析値は、47.9% FeO - 50.7% TiO₂組成となり、チタン鉄鉱 (Ilmenite : FeO · TiO₂) が同定された。

次はPhoto.5のCOMPに微かにみられる格子状組織であるが、こちらはチタン鉄鉱 (Ilmenite : FeO · TiO₂) ではなくて別物鉱物である。10の番号をつけた白色基地は、89.8% FeO組成で8.4% Cr₂O₃を固溶するが、12の番号をつけた灰色片状部は、52.2% Cr₂O₃ - 40.0% FeO組成でクロマイト (Chromite : Cr₂O₃ · FeO) が同定される。化学組成のところで触れるが該品砂鉄の高クロム傾向は、この様な化合物で存在する。クロムは非磁性であって、遺物観察記録表での磁着をほとんどしない98%の粒子の正体はこの鉱物相と、チタン鉄鉱の両方であろう。また、COMPの11の番号の黒色片状鉱物は、マグネシウム (Mg) と珪素 (Si) に白色輝点が集中し、38.6% MgO - 43.0% SiO₂組成となり、エンスタタイト (Enstatite : MgSiO₃) が同定された。珪酸塩の一種で輝石群に分類されよう。

(7) 化学組成分析

Table.3に示す。該品は磁選なしでの供試材である。鉄分はやや少なくて、チタン (Ti)、クロム (Cr) の高めが特徴である。全鉄分 (Total Fe) は39.58%に対して、金属鉄 (Metallic Fe) 0.09%、

酸化第1鉄（FeO）25.38%、酸化第2鉄（Fe₂O₃）28.26%の割合である。また、ガラス質成分（SiO₂+Al₂O₃+CaO+K₂O+NaO）も8.78%と磁選なしにしては特別多くはないが、このうちに塩基性成分（CaO+MgO）を2.55%を含む。次に問題となるのが砂鉄特有成分の二酸化チタン（TiO₂）が30.38%と高めで、バナジウム（V）は通常で0.15%に留まる。また、注目すべきは酸化クロム（Cr₂O₃）が3.08%と従来の砂鉄ではあまり見られぬ多さである。もっともTable.3に参考値として示した四国方面の砂鉄のクロム（Cr₂O₃）量は、0.78～1.75%（磁選採取砂鉄）と高値傾向にある。Cr₂O₃が0.1%を超える例は北海道以外、他地域ではみられぬ現象である。居德砂鉄のこの高クロム（Cr）は、雄弁に在地砂鉄の可能性を示唆するものである。^(B4)また、酸化マンガン（MnO）の0.80%も同じく高めあって、五酸化磷（P₂O₅）が0.17%、銅（Cu）は0.001%など一般レベルであった。

4. まとめ

居德遺跡出土の古墳時代前期に属する椀形状鉢入砂鉄は、高チタン・高クロム系の塩基性砂鉄であった。砂鉄といえば製鉄原料に短絡しがちであるが、鉄分（Total Fe）39.58%と低く、夾雜成分（TiO₂・Cr₂O₃）が多いところから用途は別途配慮すべきであろう。例えば、玉類の穿孔摩耗剤とか、歯を黒く染めるため鉄を酢にひたした溶液とする御歯黒（鉄漿）原料なども候補にあげられる。^(B5)更には祭祀遺構出土であれば、それなりに祭祀用の使用があったかも知れない。今後の研究課題となろう。

一方、今回の調査で注目されたのは、出土砂鉄は高Cr系から地元採取の可能性が大きいことである。それに対して、徳島県矢野遺跡の古墳時代前期初頭に属する壺入砂鉄は低Cr系で外部搬入砂鉄が想定されて、両者の比較検討も進めるべきであろう。

最後にTable.4に示した弥生時代以降チタン系鉱物含有遺物一覧表は、弥生から古墳時代前半にかけてのチタン鉱物を含む遺物を掲げている。砂鉄製錬の始源を考察するうえでの参考資料となるもので、これを含めて今回提示データを評価して頂ければ幸いである。

〔参考資料〕

砂鉄について 長谷川熊彦『改訂増補 砂鉄』技術書院 1963.5.15 抜粋

砂鉄鉱は火成岩中に含まれた微細鉱物である。火成岩の平均成分は、SiO₂ 59.93%、Al₂O₃ 14.97%、Fe₂O₃ 2.53%、FeO 3.42%、MgO 3.85%、CaO 4.87%、Na₂O 3.40%、K₂O 2.99%であって、これ以外にTiO₂、P₂O₅、Cr₂O₃、V₂O₅などを含む。この火成岩は、これを大別して酸性および塩基性に分類される。

岩石を構成する酸化物SiO₂を酸性化合物といい、FeO、CaO、MgOなどを塩基性化合物という。これら両性分の多少により酸性および塩基性と分類する。

同様にAl₂O₃、Cr₂O₃などを多く含む場合には中性といふ。花崗岩、花崗斑岩、石英粗面岩、ベゲマタイト、アラスカイトなどは酸性に属し、橄欖岩、玄武岩、玢岩、閃綠岩、斑櫟岩などは、塩基性に属する。砂鉄鉱は以上の如き岩漿分離作用により火成岩中より析出した單一酸化鉄結晶で、化学成分Fe₂O₃、磁性酸化鉄である。砂鉄鉱は火成岩が大気中における風化分解作用を受けた場合

に磁性酸化鉄が集合堆積したものである。

砂鉄の分類

(1) 砂鉄の成因からの分類

酸性砂鉄：母岩……花崗岩、花崗斑岩、石英粗面岩。

鉄品位高くチタンおよび矽など不純物が少ない。鳥取県日野郡、鳥根県仁多郡飯石郡邑智郡等に多い。古来重視された真砂鉄、あるいは真砂小鉄（まさこがね）はこの部類に属する。

塩基性砂鉄：母岩……安山岩、閃綠岩、斑櫛岩、橄欖岩など塩基性岩石。不純物が多く特にチタン、矽の含有が多い。赤目砂鉄はこれに属する。広島県、岡山県等山陽地方の砂鉄は主としてこの種のものである。

TiO₂の含有量7%以上のごとき砂鉄は、この部類に属するといえる。

(2) 地質時代についての分類

古生代砂鉄、中生代砂鉄、第三紀砂鉄、第四紀砂鉄、洪積層砂鉄、沖積層砂鉄。

注

- (1) 大澤正己・鈴木瑞穂「矢野遺跡出土鉄製品・砂鉄等の金属学的調査」『矢野遺跡（I）～徳島県南環状道路建設に伴う埋蔵文化財調査報告～』（徳島県埋蔵文化財センター調査報告書 第33集）徳島県教育委員会・徳島県内臓文化財センター・建設省四国地方建設局 2001
- (2) 鄭堀英司・大澤正己「一本桜南遺跡出土の砂鉄について」『研究連絡会誌 第25号』（財）千葉県文化財センター 1989
- (3) 戸倉町教育委員会『円光房遺跡』1990 白居直之・町田勝則「中部高地における鉄器の出現と展開」『東日本における鉄器文化の受容と展開』（第4回 鉄器文化研究集会 発表旨集）鉄器文化研究会・朝霞市教育委員会 1997.12.20
- (4) 大澤正己・鈴木瑞穂 前掲書（1）
- (5) 御歎黙説：広島大学名誉教授潮見浩先生も提唱されている。

Table 1 供試材の履歴と調査項目

符号	通路名	遺物名	推定年代	調査項目				備考
				実体 頭泡泡 組織	マクロ 頭泡泡 組織	ビックル 断面観 測定	CMA X線回折 測定	
ITK-1	内港	L5-22 (鉄納)	鉄質	古墳時代前期	○	○	○	○

Table 2 回折X線パターンによる定性分析結果

符号	試料名	化学式	鉱物名
ITK-1	砂 黄	Fe ₃ FeO ₄ Fe ₂ O ₃ FeTiO ₃	Magnetite (Fe ₃ O ₄) Hematite (Fe ₂ O ₃) Ilmenite (FeO · TiO ₃)

目的	鉱物成分調査のため	MXT3VAHF22型	
使用機器	マックスエンジニアリング社製	X線発生装置 : 3kW	管電流 : 30mA
		被覆 : Cu	データ範囲 : 10,020~90,000deg
		波長 : 1.54056Å	データ点数 : 4000
測定プロファイル	管電圧 : 400kV	スキャン速度 : 1,000deg/min	Fig. 1

Fig. 1

Table.3 供試材の化学組成

1 大澤和己・鈴木道裕「防衛省が主導する鉱業の金属学的調査」[防衛技術研究会編著]、2003

2 大澤正己、岸本龍也「矢野山出土銅鏡、作製等の金属学的研究」『大野透群』(1)、『奈良県出土文化財』(2)、『奈良県出土文化財』(2)、『奈良県出土文化財』(2)、『奈良県出土文化財』(2)

小野田洋一著「日本の政治と政治家」(岩波新書)によれば、昭和天皇は「政治家としての才能をもつてゐる」と評価している。

（十一）小田原市立图书馆附属资料室（十二）小田原市立图书馆附属资料室（十三）小田原市立图书馆附属资料室（十四）小田原市立图书馆附属资料室（十五）小田原市立图书馆附属资料室（十六）小田原市立图书馆附属资料室（十七）小田原市立图书馆附属资料室（十八）小田原市立图书馆附属资料室（十九）小田原市立图书馆附属资料室（二十）小田原市立图书馆附属资料室

「日本語の音楽」は、日本語の音楽を解説する書籍で、著者は、日本音楽文化研究者である。本書は、日本語の音楽の歴史、文化、技術などを総合的に解説するもので、多くの音楽理論家や研究者が参考する重要な書籍である。

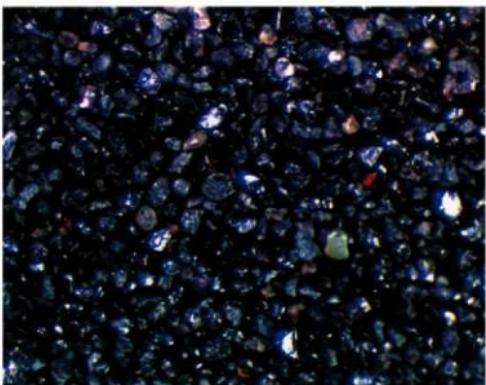
Table.4 弥生時代以降チタン系鉱物含有遺物一覧表

No	遺跡	遺構	府県	遺物	推定年代	TiO ₂ 介在物組成
1	梅ノ木	142-SI	熊本	歴先（歴先）	弥生中期後半～後期中葉	非金属介在物 24.8%TiO ₂ -24.4%FeO-47%MnO-24.3%S-1.3%V ₂ O ₅
2	タ	216-SI	タ	铸造铁斧片	弥生中期中葉～後葉	非金属介在物 29%TiO ₂ -81.7%, 7%FeO-28.1%MnO-17.6%S
3	タ	櫻乱排水路	タ	铸造铁斧片 転用ノミ状铁器	不明	非金属介在物 2.4%TiO ₂ -64.7%FeO-14.9%MnO-35.6%S
4	タ	169-SI	タ	铸造铁斧片	弥生中期後葉～後期前葉	非金属介在物 3.7%TiO ₂ -64.7%FeO-38.3%MnO-20.2%S
5	タ	101-SI	熊本	鑿状鉄器	弥生中期後葉～後期後葉	非金属介在物 2.7%TiO ₂ -8.5%V ₂ O ₅ -93.8%FeO-24.3%S
6	貝元 (KAI-2)	土89底面	福岡	铸造铁斧片	弥生中期初葉	非金属介在物 17%TiO ₂ -51.1%FeO-43.4%MnO-26.9%S
7	貝元 (KAI-6)	住62	タ	タ	弥生後期前葉	非金属介在物 29.5%TiO ₂ -78.4%FeO-11.1%MnO-6.3%S
8	貝元 (KAI-8)	土4No.5	タ	タ	弥生時代	非金属介在物 16%TiO ₂ -93.5%FeO-28.7%MnO-11.8%S
9	小糸山	59.60住居跡	熊本	鉄片 (鉄軋脱皮鋼)	弥生後期	非金属介在物 15%TiO ₂ -54.6%FeO-44.8%MnO-23.8%S
10	タ	タ	タ	タ	タ	非金属介在物 29%TiO ₂ -64.0%FeO-39.1%MnO-23.1%S
11	タ	タ	タ	タ	タ	非金属介在物 4.2%TiO ₂ -71.5%FeO-35.6%MnO-17.3%S
12	向山	住居跡 (6号)	埼玉	二条凸帯 铸造铁斧	タ	非金属介在物 22.4%TiO ₂ -1.3%V ₂ O ₅ -0.1%ZrO ₂
13	タ	住居跡 (13号)	タ	锻造袋状铁斧	タ	非金属介在物 22.7%TiO ₂ -1.4%V ₂ O ₅ -0.08%ZrO ₂
14	奈具岡	住居跡 (SH01)	京都	鉄斧（切片）	弥生中期末	硫化マンガンの刷縁部TL, V 特性X線像検出
15	一本桜南	住居跡	千葉	朱塗り壺入り 砂鉄 (520g)	4C後半	4.83%TiO ₂
16	伊佐山墳墓	古墳	兵庫	被葬者枕元供獻 砂鉄 (500g)	4C末	9.7%TiO ₂
17	沖塚	鍛冶工房跡	千葉	棒状鉄片	4C初	非金属介在物 6.5%, 62.0%TiO ₂
18	湯谷悪谷	住居跡	鳥根	鉄滓 (製鍊滓・ 精鍊鍛冶滓)	4C初	製鍊滓9.4%TiO ₂ 精鍊鍛冶滓2.4%TiO ₂
19	左坂C-15号墳	古墳	京都	鉄滓 (精鍊鍛冶滓)	5C後半	3.9%TiO ₂
20	押入西1号墳	古墳	岡山	鉄滓 (精鍊鍛冶滓)	5C中頃	1.3%TiO ₂
21	郡津湧り	ビット	大阪	銹鉄 (板状鉄製品)	5C後半～6C前半 (奈良・平安時代 の可能性)	非金属介在物 8.1%TiO ₂
22	御藏山中	住居跡	埼玉	鉄鏪	5C中頃	非金属介在物 27.2%, 6.3%TiO ₂
23	濱崎	祭祀土坑	福岡	鉄滓 (製鍊滓・ 精鍊鍛冶滓)	5C後半	製鍊滓20.4%TiO ₂ 精鍊鍛冶滓5.7%TiO ₂
24	夏崎	古墳	佐賀	ねずみ鉄	5C末～6C前半	非金属介在物 30%TiO ₂ -0.22V ₂ O ₅ -0.06%ZrO ₂
25	河辺上原	古墳	岡山	梯形铸造铁斧	6C後半	非金属介在物 1.0%Ti-67%Fe-31%S
26	大坂城跡	10, 11層	大阪	円盤状鉄製品	6C後半～7C初頃	非金属介在物 7.0%TiO ₂ -19%V ₂ O ₅ -66.2%FeO-39.8%S- 12.7%MnO
27	居德	L5-22	高知	砂鉄 (鉢入)	古墳時代前期	TiO ₂ : 30.38% (鉢蓋なし)
28	矢野	SB2044	徳島	砂鉄 (壺入)	古墳時代前期初頭	TiO ₂ : 28.6% (壺蓋なし) TiO ₂ : 12.8% (鉢)

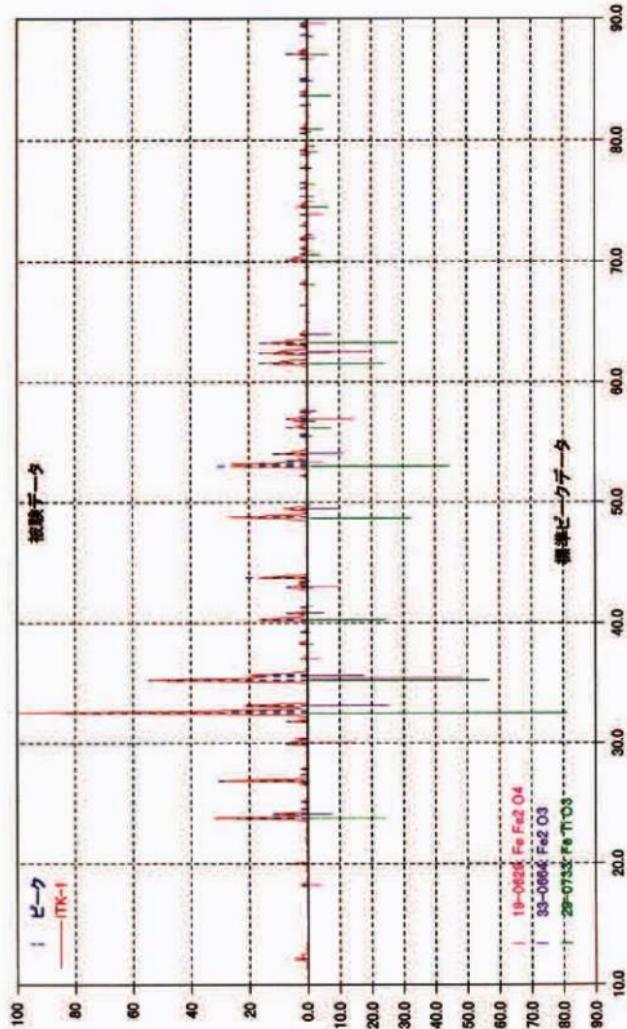
(Table.4の注)

- 1～5 大澤正己・鈴木瑞穂「梅ノ木遺跡出土弥生鉄製品の金属学的調査」「梅ノ木遺跡Ⅱ」(熊本県文化財調査報告 第199集) 熊本県教育委員会2001
- 6～8 大澤正己・鈴木瑞穂「貝元遺跡出土鉄製遺品の金属学的調査」「貝元遺跡Ⅱ 下巻」福岡県教育委員会1999
- 9～11 大澤正己「小糸山出土鉄製品の金属学的調査」熊本県教育委員会報告書準備中
- 12, 13 大澤正己・塚本敏夫「向山遺跡出土鉄製品の金属学的調査」～二条凸帯鍛造鉄斧・鍛造袋状鉄斧～『埼玉県朝霞市教育委員会記者発表資料』朝霞市教育委員会(1997.4.26新聞記事)
- 14 大澤正己「奈良岡遺跡出土鉄製品・鉄片(切片)の金属学的調査『京都府遺跡調査概報第76冊』～奈良岡遺跡～』(京都府埋蔵文化財調査研究センター 1997)
- 15 郷堀英司・大澤正己「一本木桜南遺跡出土の砂鉄について」『研究連絡誌第25号』(千葉県文化財センター 1989)
- 16 大澤正己「列島における鉄生産の始源をめぐって」～鉄滓の分析を中心に～特定研究『日本人の技術と生活に関する歴史的研究』(在来技術の伝統と継承)研究会資料 歴史民俗博物館1990
- 17 大澤正己「古墳時代初頭・沖塚遺跡鍛冶工房出土の遺物の金属学的調査」『八千代市 沖塚・上の台遺跡他』(千葉県文化財センター 1994)
- 18 大澤正己「湯谷悪谷遺跡出土鉄滓の金属学的調査」鳥根県石見町教育委員会への提出原稿報告書準備中 1994.3.24
- 19 増田孝彦「丹後の鉄生産」『京都府埋蔵文化財論集第2集』(京都府埋蔵文化財調査研究センター 1991) 鉄滓分析結果は未発表 後日報告予定
- 20 大澤正己「古代鉄生産」～金属学的見地からのアプローチ『日本古代の鉄生産』1987年度たたら研究会1987
- 21 大澤正己「交野市森遺跡とその周辺遺跡出土鍛冶関連遺物の金属学的調査」『森遺跡Ⅲ』(交野市埋蔵文化財調査報告書1990-1) 交野市教育委員会1991 この鉄製品は奈良・平安時代のもの可能性あり。
- 22 大澤正己「御歳山中遺跡出土鉄滓と鉄器の金属学的調査」『御歳山中遺跡』(大宮市遺跡調査会報告書第26集) 1989
- 23 大澤正己「潤崎遺跡祭祀土壤出土鉄滓の金属学的調査」『潤崎遺跡』(北九州市埋蔵文化財調査報告書第49集) 財團法人北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室1986
- 24 大澤正己「夏崎古墳出土鉄製品の金属学的調査」『夏崎遺跡』伊万里市教育委員会報告書準備中
- 25 大澤正己「河辺上原古墳群より出土した鉄滓と鉄器の金属学的調査」『河辺上原遺跡』(津山市埋蔵文化財発掘調査報告第54集) 津山市教育委員会1994
- 26 大澤正己・鈴木瑞穂「大坂城跡出土鍛冶・铸造関連遺物の金属学的調査」『大坂城跡発掘調査報告書Ⅰ』財團法人大阪府文化財調査研究センター 報告書準備中
- 27 大澤正己・鈴木瑞穂「居徳遺跡出土鉢入砂鉄の金属学的調査」『居徳遺跡群V』(四国自動車道(伊野～須崎間)の建設工事事業に伴う発掘調査報告) 財團法人高知県文化財团埋蔵文化財センター 2003
- 28 大澤正己・鈴木瑞穂「矢野遺跡出土鉄製品・砂鉄等の金属学的調査」『矢野遺跡(I)～徳島南環状道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告～』(徳島県埋蔵文化財センター調査報告書第33集) 徳島県教育委員会・財團法人徳島県埋蔵文化センター・建設省四国地方建設局2001

資料番号 ITK-1 遺物観察記録

出土状況	遺跡名	高知 居徳遺跡		遺物No.	1			項目	砂鉄	メタル										
	出土位置	土器内砂鉄		時期：根摺	弥生後期：出土土器															
試料記号	検鏡：ITK-1 化学：ITK-1 放射化：-	法 長 径 - cm 規 径 - cm 厚 さ - cm 量 重 量	- cm 色 表：青黒色 地：青黒色	調 表：青黒色 地：青黒色	遺 存 度 - 破 面 数 - 前 合 浸 - 断面樹脂 -	- - - -	マ ク ロ 鏡 度 C X 線 回 折 学 度 化 火 学 度 放 射 X 線 透 通	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○											
遺物種類 (名称)	砂 鉄																			
観察所見	土器内より得られた砂鉄の一部である。全23.5gのうち、磁着強の砂鉄は0.49gで、全体の2%にあたり。磁着をほとんどしない砂鉄が23.01g(98%)を占める。前者をA、後者をBとする。なお、一見、鍛造剥片様の2mm以下の小片が2点混在していたが、鉄器表面の酸化物の一様である可能性が高い。																			
A 光沢のやや少ない、青黒色の微細な砂鉄である。粒度は0.24mm~0.02mm大で、平均粒度は0.1mm前後である。やや棗を残す粒子も認められるが、全体的には摩耗している粒子は多目である。																				
B ギラギラした光沢を持つ、青黒色の微細な砂鉄である。粒度は0.28mm~0.06mm大で、平均0.13mm大である。非常に粒子個々がはっきりしたもので、見かけは粒度が揃っているように見える。摩耗している粒子も確認出来るが、やや角張った粒子が目立つ。																				
A、Bの比率は2:98%で、製鐵遺跡ではまず確認されていないバランスの砂鉄である。磁着の極めて弱い砂鉄は、チタン鉄鉱系のものが多いが、これらは一般的に褐色気味や、やや風味の弱い物が多い。それに対して、本資料のうち主体を占める、磁着弱の砂鉄は、ギラギラした光沢をもつ青黒色のもので、一般的に見られる赤目系のチタン分の高い砂鉄とは、違う印象を持つ。参考までに、比較資料として採取した、高知県中村市平野海岸跡海地点の砂鉄は、全28.87gのうち、ギラギラした光沢を持つ青黒色の微細な物が多く、全28.87gのうち、17.12gを占め、全体の59.3%にあたる。こちらの粒度は、最大0.38~0.07mm大で、平均粒度は、0.1mm大と、居徳の資料に近い。また磁着しないサンプルBは、砂鉄が7割5分程度を占め、砂鉄の比率は、残りの2割5分程度である。砂粒は、0.35~0.1mm大で、透明の石英粒子や、半透明の有色物が多い。砂鉄は、最大0.28mm~0.1mm大である。こちらは、全28.87gのうち、11.75gを占め、69%にあたる。磁着する粒子と、磁着しない比率は、居徳出土のものと中村市平野海岸採取のものは、ある意味で逆転した比率をもつが、粒子の粒度などは、平均が近いものである。但し、居徳の砂鉄の方が、粒度幅が狭い傾向をもつ。この点では、土砂と共に地中に流れ込んだというよりも、ごく狭い範囲でのワンポイントの砂鉄採取を遺跡周辺の海岸や、河川の中流域で採取したものと考えられる。現状では、中村市の海岸ではないようである。また用途も不明といわざるを得ない。なお、本サンプルに混在していた鉄器表面鈍化物は、浅い波状の厚さ0.16mm大のものと、やや平板な0.09mm大のものである。																				
 <p>(×約30)</p>																				

検索結果照合図

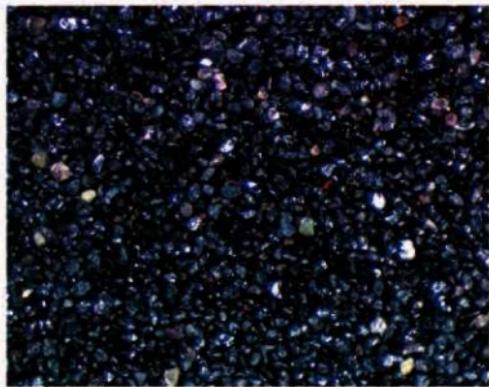


28

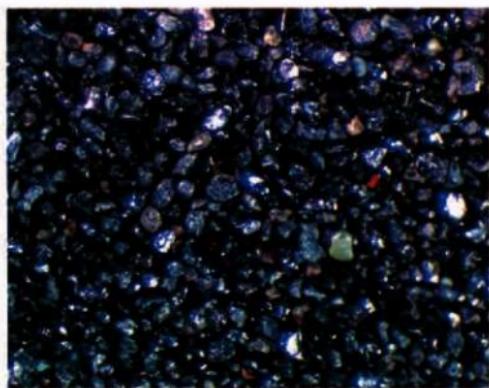
Fig. 1 砂鉄 (ITK-1) のX線回折プロファイル



($\times 10$)



($\times 20$)



(\times 約30)

高知県居徳遺跡出土試料

Photo.1 実体顕微鏡組織

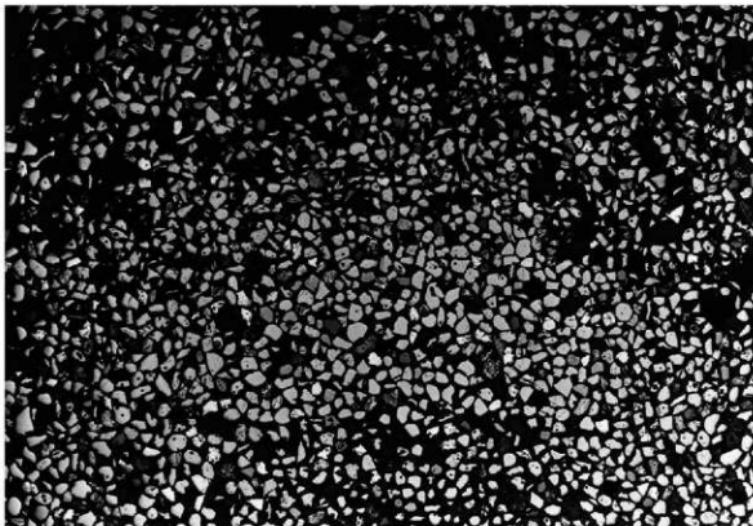


Photo.2 砂鉄 (ITK-1) のマクロ組織 ($\times 20$)

ITK-1
砂鉄

- ①～③×100 白色粒：磁鐵
鉱 (Fe_3O_4 - FeO)、格子組織：
チタン鉄鉱 ($\text{FeO} \cdot \text{TiO}_2$)
④×100 ⑤×400 中央：磁
鐵鉱粒内包裏鉱物
⑥×100 ⑦×400 中央：格
子組織：チタン鉄鉱
⑧×100
⑨×400 同上

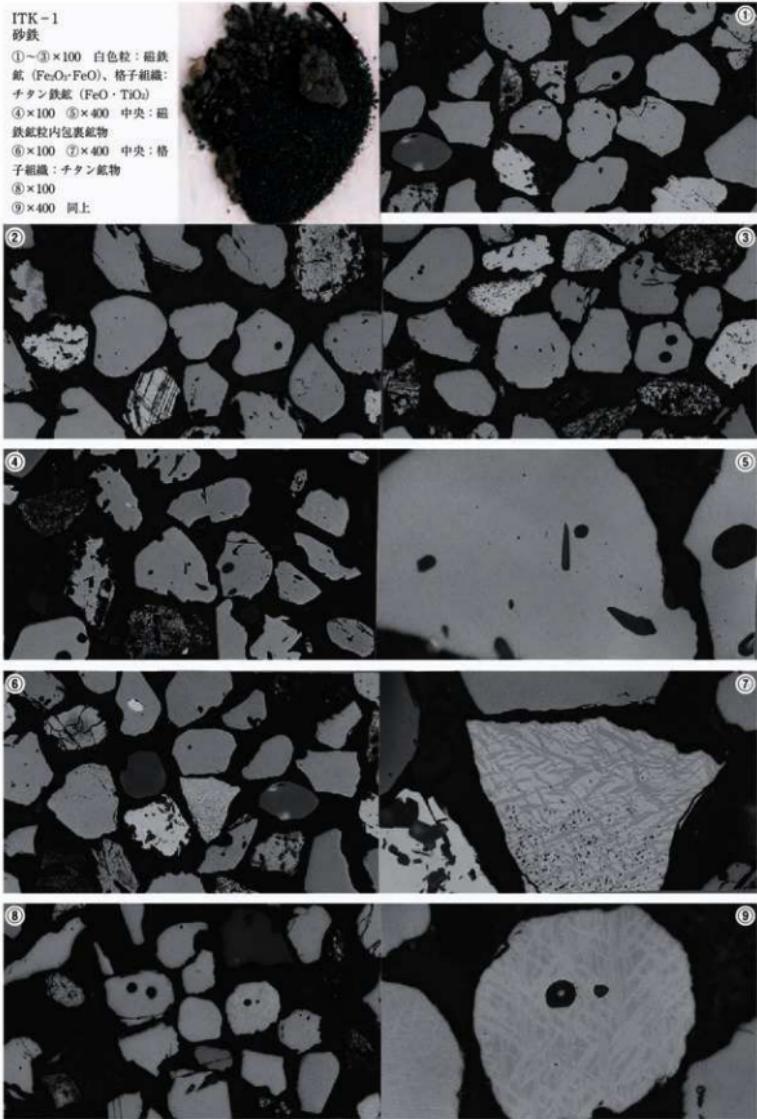


Photo.3 砂鉄の顕微鏡組織

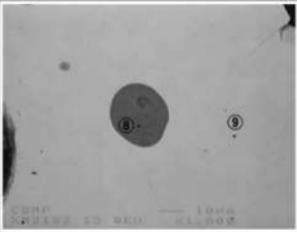
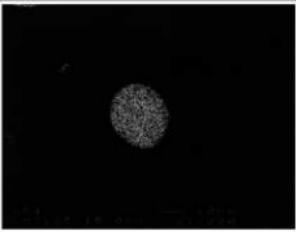
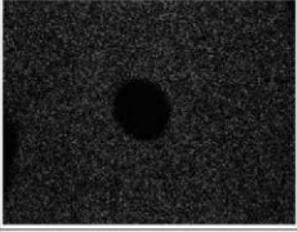
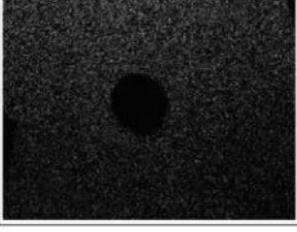
COMP			Si																																													
Fe		<table> <thead> <tr> <th>Element</th> <th>8</th> <th>9</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Na₂O</td> <td>0.621</td> <td>0.005</td> </tr> <tr> <td>MgO</td> <td>0.023</td> <td>1.603</td> </tr> <tr> <td>Al₂O₃</td> <td>5.137</td> <td>0.088</td> </tr> <tr> <td>SiO₂</td> <td>93.588</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>P₂O₅</td> <td>0.050</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>S</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>K₂O</td> <td>1.078</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>CaO</td> <td>0.101</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>TiO₂</td> <td>0.802</td> <td>50.702</td> </tr> <tr> <td>MnO</td> <td>-</td> <td>0.686</td> </tr> <tr> <td>FeO</td> <td>0.967</td> <td>47.940</td> </tr> <tr> <td>ZrO₂</td> <td>0.007</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>V₂O₃</td> <td>0.073</td> <td>0.401</td> </tr> <tr> <td>Cr₂O₃</td> <td>-</td> <td>0.010</td> </tr> </tbody> </table>		Element	8	9	Na ₂ O	0.621	0.005	MgO	0.023	1.603	Al ₂ O ₃	5.137	0.088	SiO ₂	93.588	-	P ₂ O ₅	0.050	-	S	-	-	K ₂ O	1.078	-	CaO	0.101	-	TiO ₂	0.802	50.702	MnO	-	0.686	FeO	0.967	47.940	ZrO ₂	0.007	-	V ₂ O ₃	0.073	0.401	Cr ₂ O ₃	-	0.010
Element	8	9																																														
Na ₂ O	0.621	0.005																																														
MgO	0.023	1.603																																														
Al ₂ O ₃	5.137	0.088																																														
SiO ₂	93.588	-																																														
P ₂ O ₅	0.050	-																																														
S	-	-																																														
K ₂ O	1.078	-																																														
CaO	0.101	-																																														
TiO ₂	0.802	50.702																																														
MnO	-	0.686																																														
FeO	0.967	47.940																																														
ZrO ₂	0.007	-																																														
V ₂ O ₃	0.073	0.401																																														
Cr ₂ O ₃	-	0.010																																														
Ti		Total	102.447 101.435																																													

Photo.4 砂鉄 (ITK-1) 粒子中の包裏鉱物の特性X線像と定量分析値

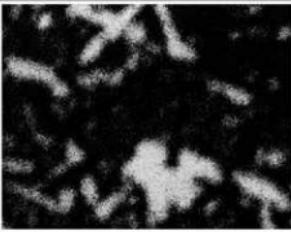
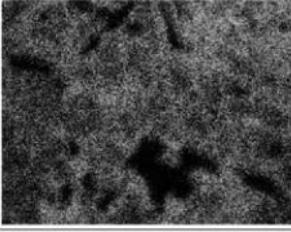
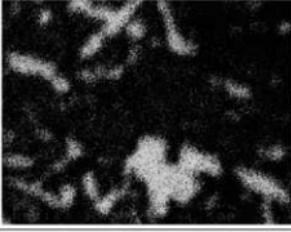
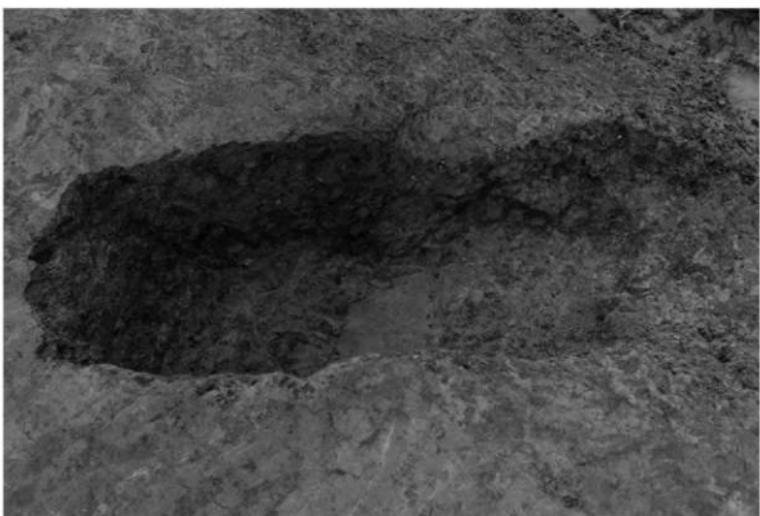
COMP			Si																																																																
Fe			Mg																																																																
Ti		<table> <thead> <tr> <th>Element</th> <th>10</th> <th>11</th> <th>12</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Na₂O</td> <td>0.003</td> <td>—</td> <td>0.040</td> </tr> <tr> <td>MgO</td> <td>0.476</td> <td>38.605</td> <td>3.528</td> </tr> <tr> <td>Al₂O₃</td> <td>0.001</td> <td>2.926</td> <td>0.410</td> </tr> <tr> <td>SiO₂</td> <td>0.053</td> <td>43.010</td> <td>0.249</td> </tr> <tr> <td>P₂O₅</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>S</td> <td>0.001</td> <td>0.005</td> <td>0.007</td> </tr> <tr> <td>K₂O</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>CaO</td> <td>—</td> <td>0.006</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>TiO₂</td> <td>0.028</td> <td>0.021</td> <td>0.109</td> </tr> <tr> <td>MnO</td> <td>0.630</td> <td>0.073</td> <td>1.854</td> </tr> <tr> <td>FeO</td> <td>89.809</td> <td>3.202</td> <td>40.041</td> </tr> <tr> <td>ZrO₂</td> <td>—</td> <td>0.022</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>V₂O₃</td> <td>—</td> <td>0.059</td> <td>0.150</td> </tr> <tr> <td>Cr₂O₃</td> <td>8.414</td> <td>—</td> <td>52.154</td> </tr> <tr> <td>Total</td> <td>99.415</td> <td>87.928</td> <td>98.540</td> </tr> </tbody> </table>	Element	10	11	12	Na ₂ O	0.003	—	0.040	MgO	0.476	38.605	3.528	Al ₂ O ₃	0.001	2.926	0.410	SiO ₂	0.053	43.010	0.249	P ₂ O ₅	—	—	—	S	0.001	0.005	0.007	K ₂ O	—	—	—	CaO	—	0.006	—	TiO ₂	0.028	0.021	0.109	MnO	0.630	0.073	1.854	FeO	89.809	3.202	40.041	ZrO ₂	—	0.022	—	V ₂ O ₃	—	0.059	0.150	Cr ₂ O ₃	8.414	—	52.154	Total	99.415	87.928	98.540	
Element	10	11	12																																																																
Na ₂ O	0.003	—	0.040																																																																
MgO	0.476	38.605	3.528																																																																
Al ₂ O ₃	0.001	2.926	0.410																																																																
SiO ₂	0.053	43.010	0.249																																																																
P ₂ O ₅	—	—	—																																																																
S	0.001	0.005	0.007																																																																
K ₂ O	—	—	—																																																																
CaO	—	0.006	—																																																																
TiO ₂	0.028	0.021	0.109																																																																
MnO	0.630	0.073	1.854																																																																
FeO	89.809	3.202	40.041																																																																
ZrO ₂	—	0.022	—																																																																
V ₂ O ₃	—	0.059	0.150																																																																
Cr ₂ O ₃	8.414	—	52.154																																																																
Total	99.415	87.928	98.540																																																																

Photo.5 砂鉄 (iTK-1) 粒子溶離組織及び包裹鉱物の特性X線像と定量分析値

写 真 図 版

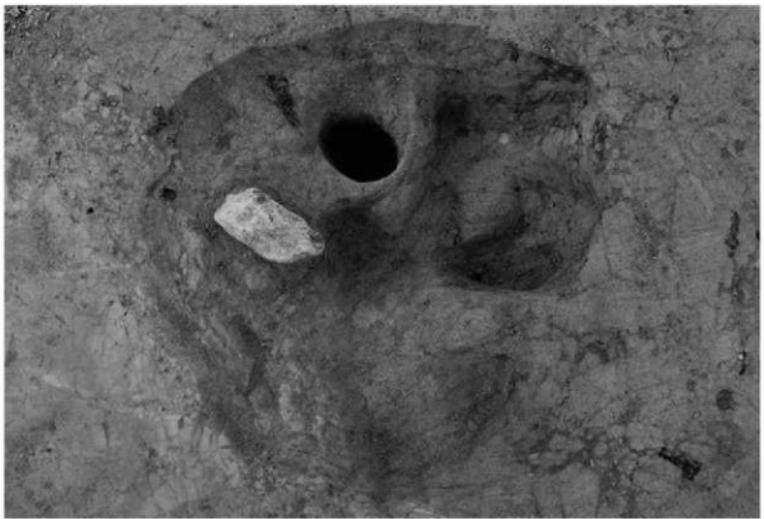


4 A区 SK 1 完掘状態



4 A区 SK 1 埋積状態

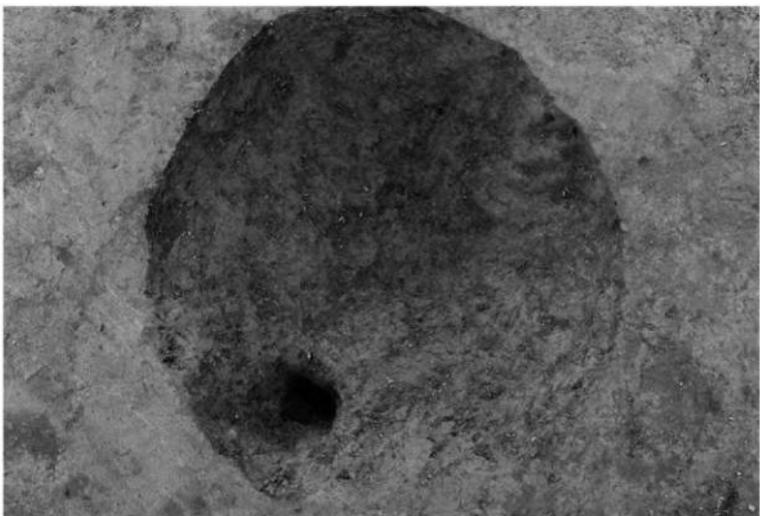
PL. 2



4 A区 P 1 完掘状态



4 A区 P 2 完掘状态



4 A区 P 3 完掘状態



4 A区 P 4 完掘状態



4 A区遺物出土状態



4 A区遺物出土状態



4 A区遺物出土状態



4 A区遺物出土状態



4 A区木根周辺の遺物出土状態



同上



4 A区木根周辺の遺物出土状態



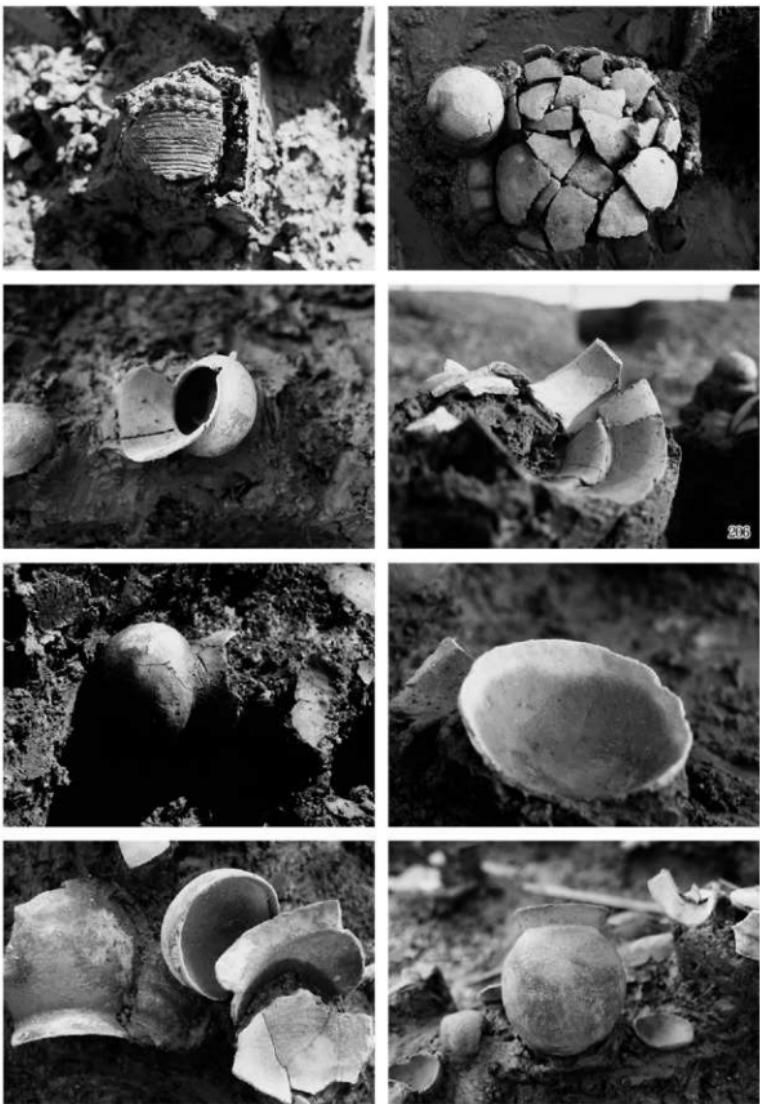
4 A区L6-21・22グリッドIIId層遺物出土状態



4 A区L6-17グリッドIIId層遺物出土状態



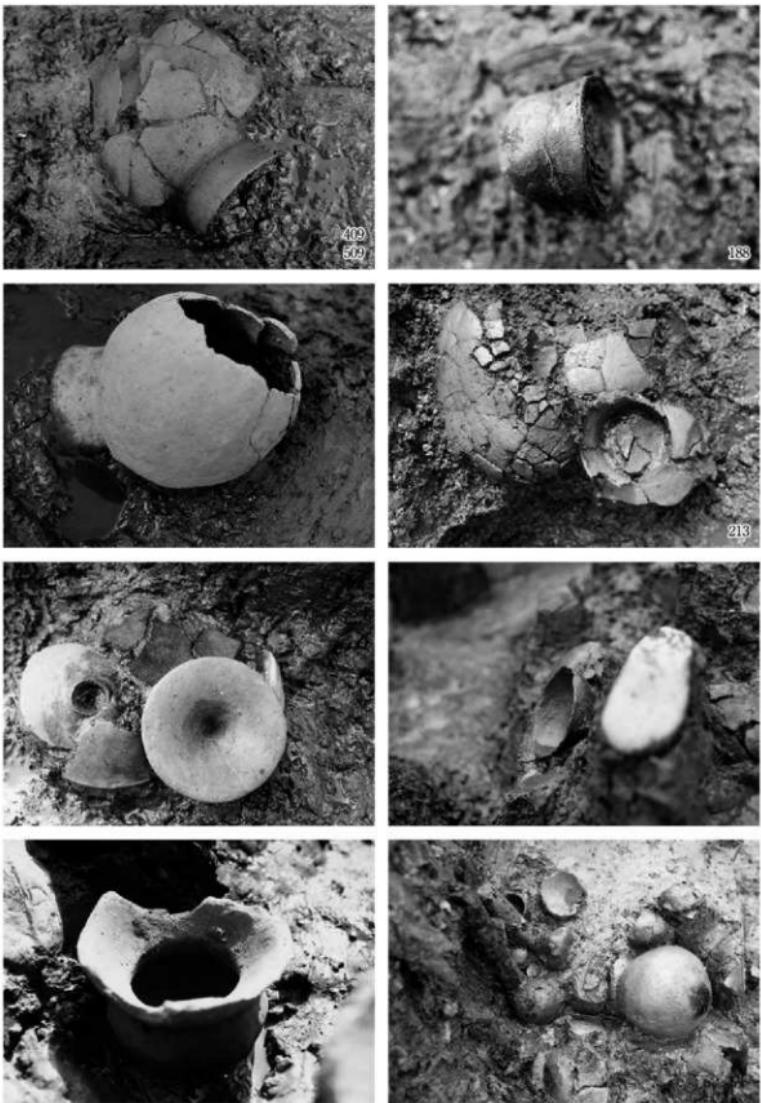
4 A区調査風景



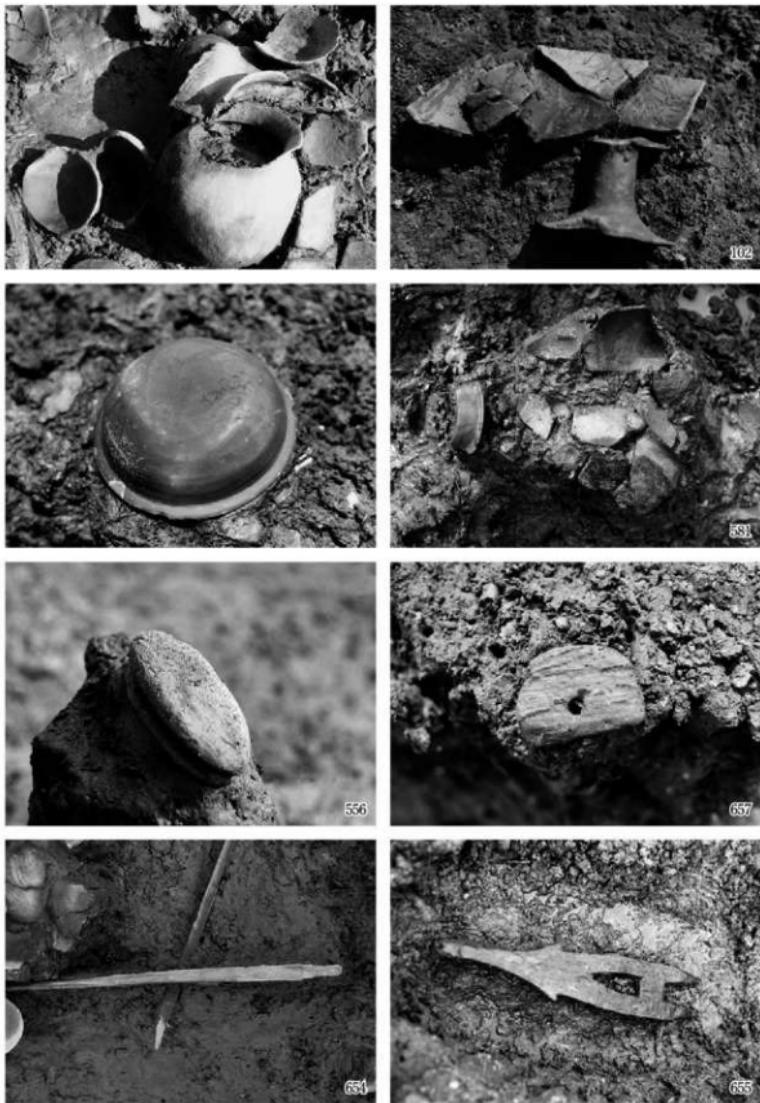
4 A区IIIc層・IIId層遺物出土状態



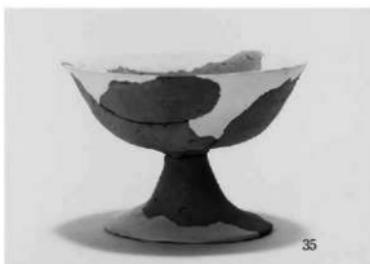
4 A区IIId層群遺物出土状態 1



4 A区 IIId層群遺物出土状態 2



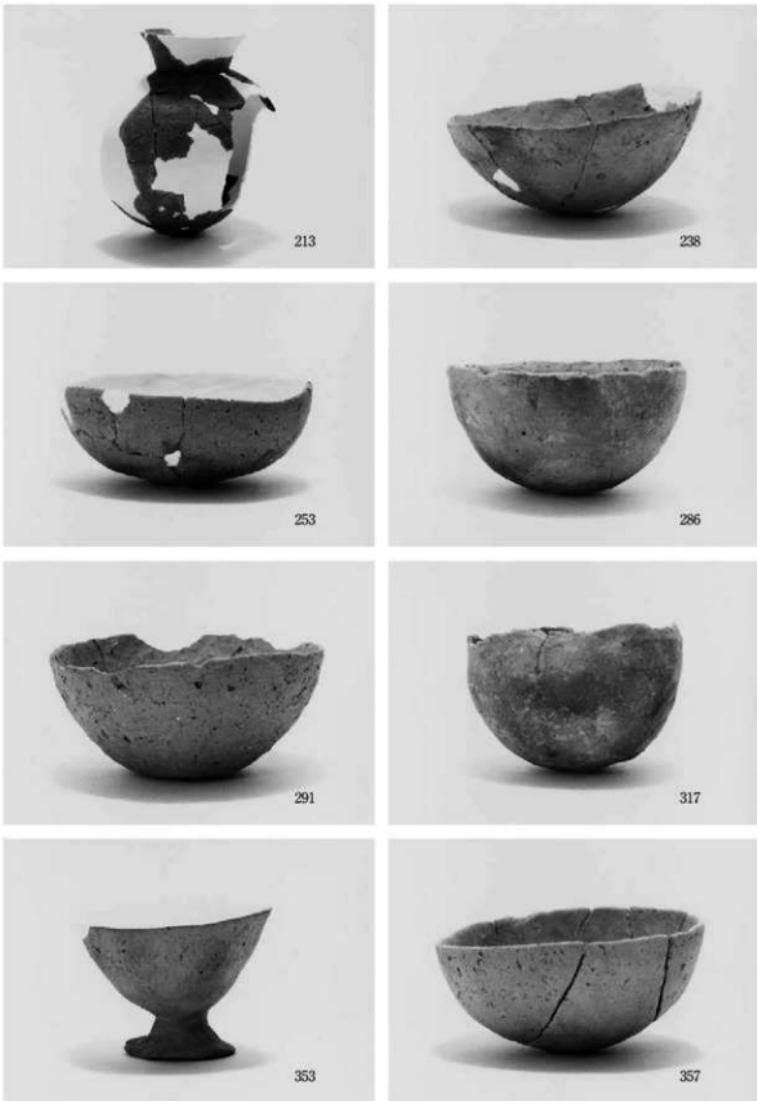
4 A区 III b層・III d層群遺物出土状態



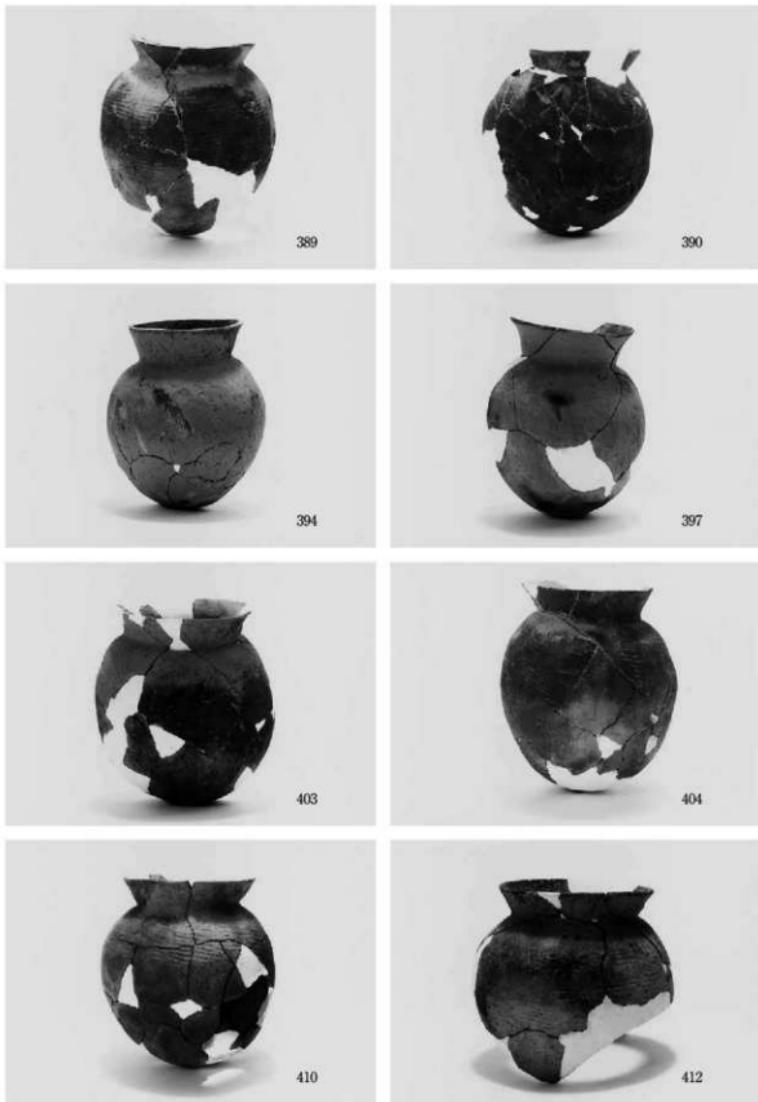
4 A区出土遺物 1



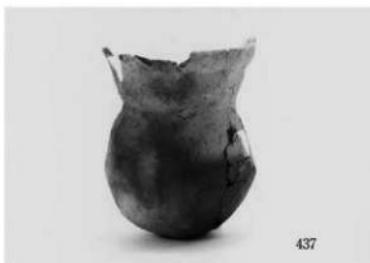
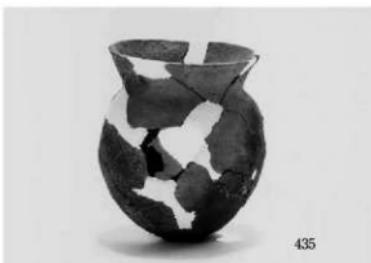
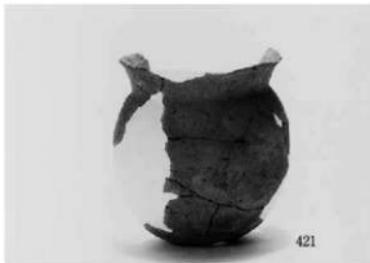
4 A区出土遺物 2



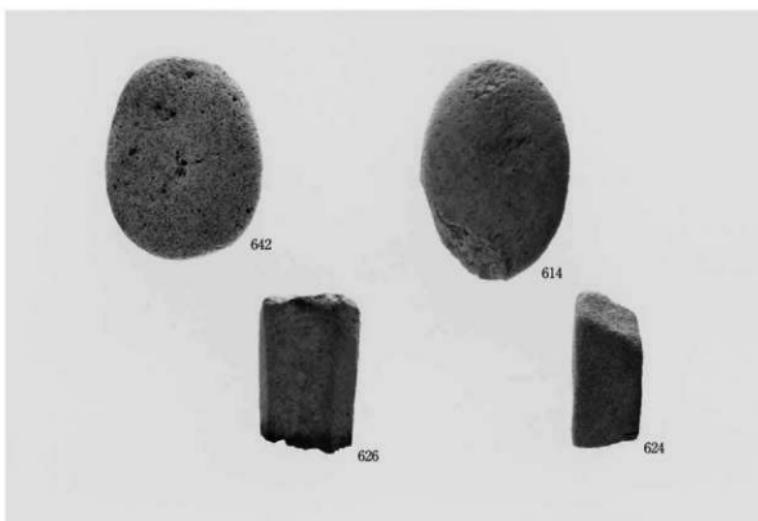
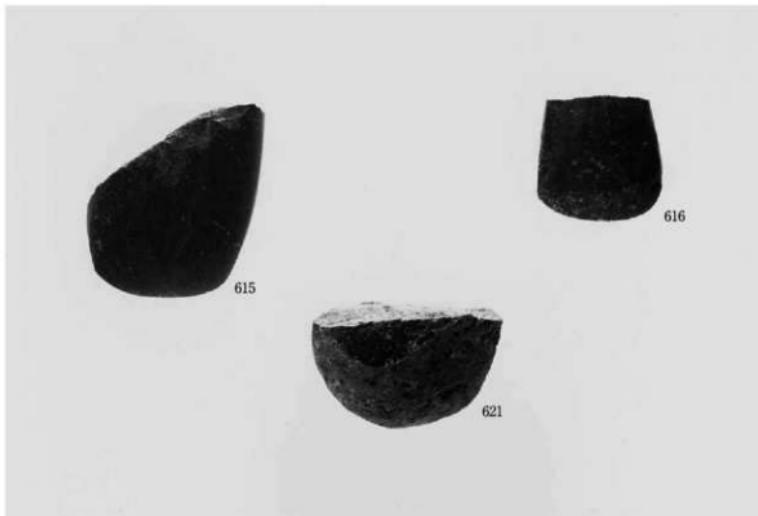
4 A区出土遗物 3



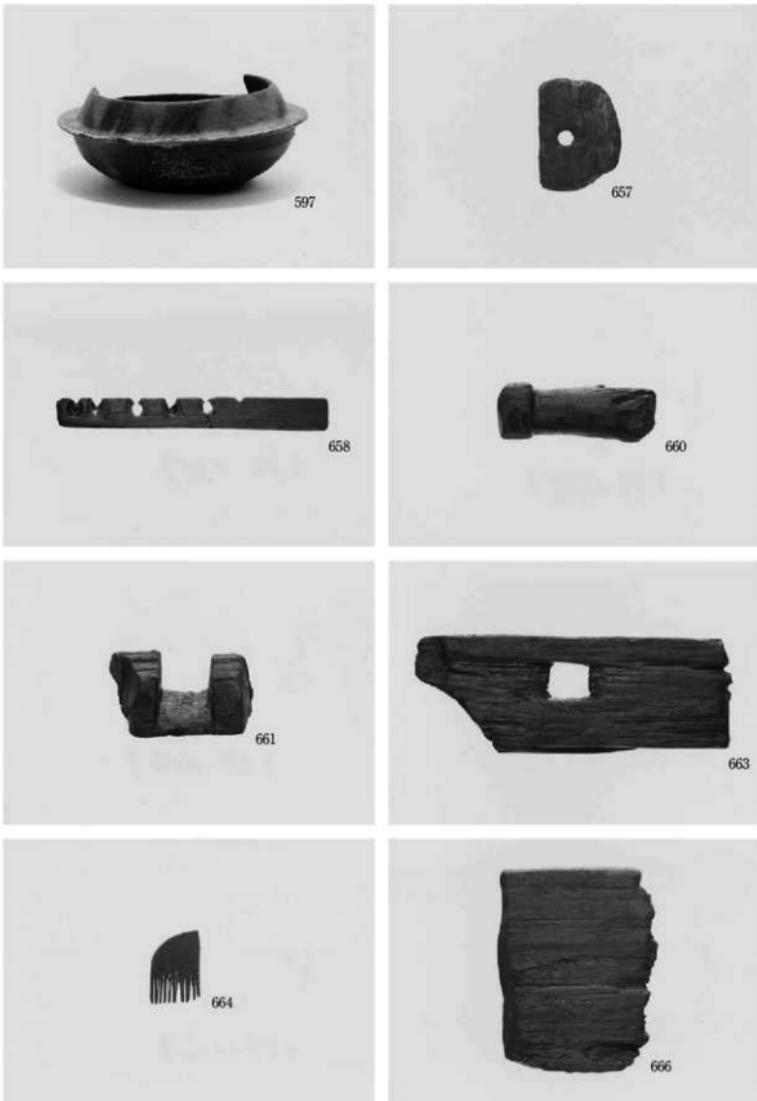
4 A区出土遺物 4



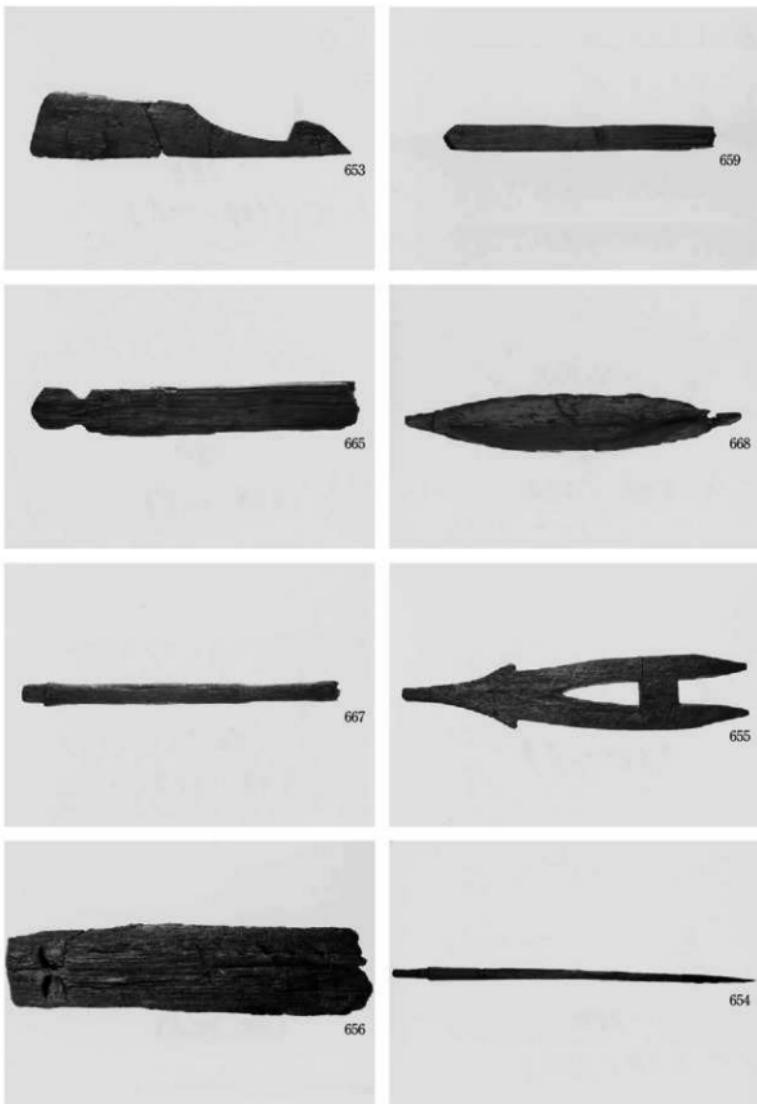
4 A区出土遺物 5



4 A区出土遺物 6



4 A区出土遗物 7



4 A区出土遺物 8



4 B 区完掘状態（南東から）



4 B 区完掘状態（南から）



4 B 区西完掘状態（手前）・4 A 区（奥）



4 B 区中央ベルトセクション（西から）



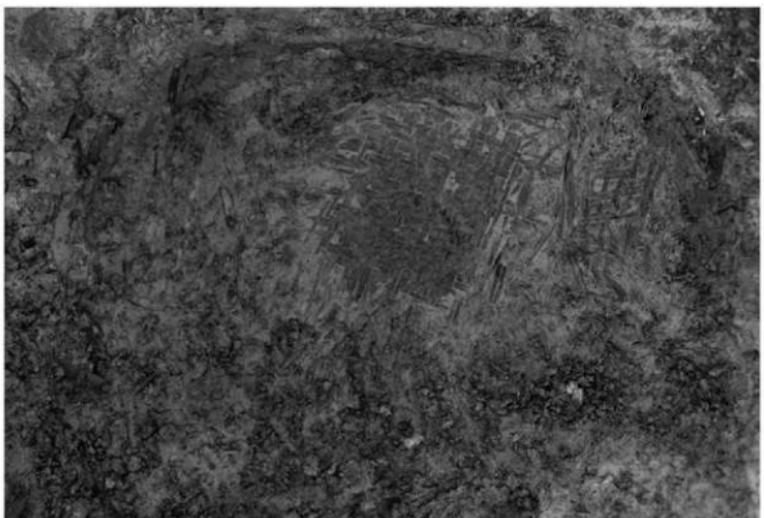
4 B 区 SK 1 完掘状態



4 B 区 SK 1 堅果類出土状態



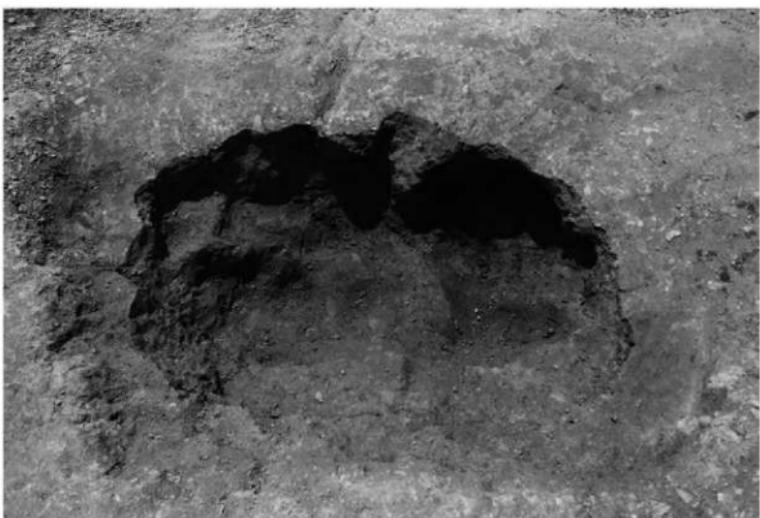
4 B 区 SK 1 出土状態



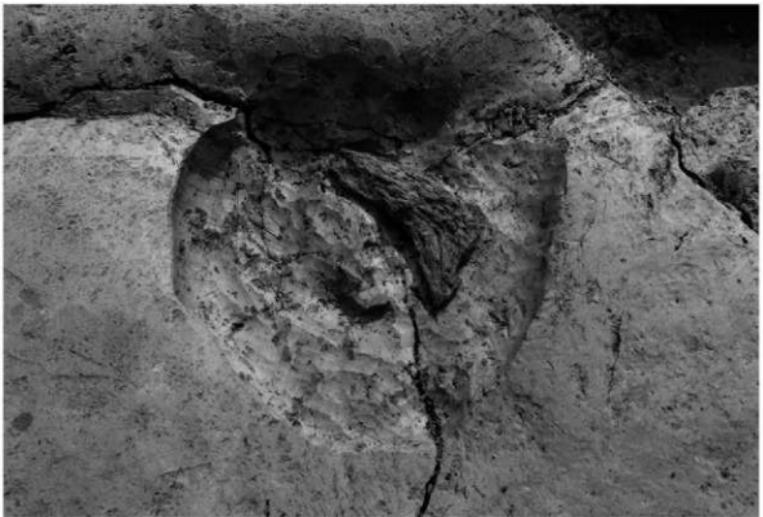
4 B 区 SK 1 網籠状遺物出土状態



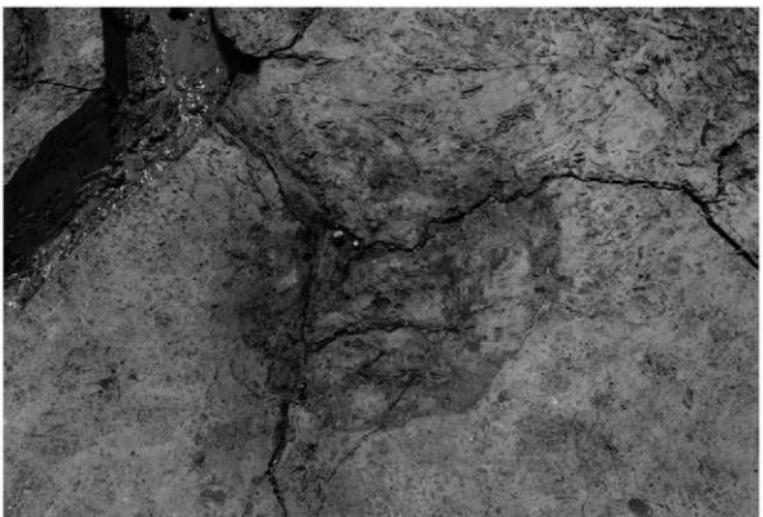
4 B区SK2堅果類出土状態



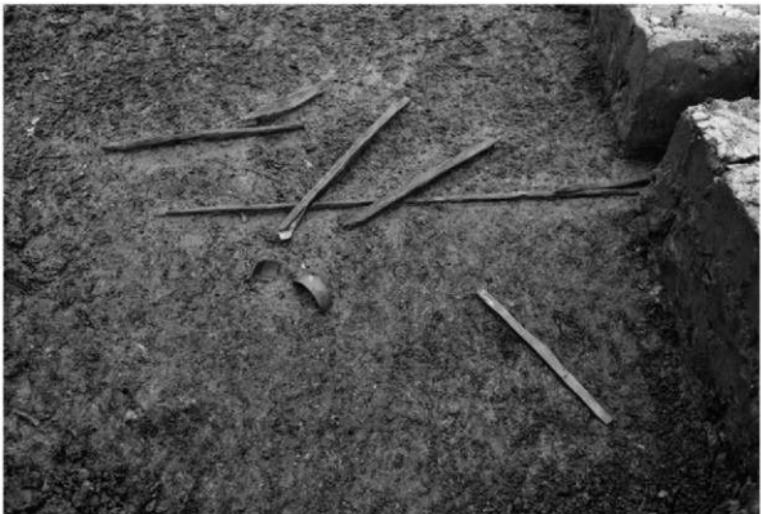
4 B区SK5完掘状態



4 B 区 SK 6 出土状態



4 B 区 SK 6 検出状態



4 B 区L5-22・L6-1グリッド遺物出土状態



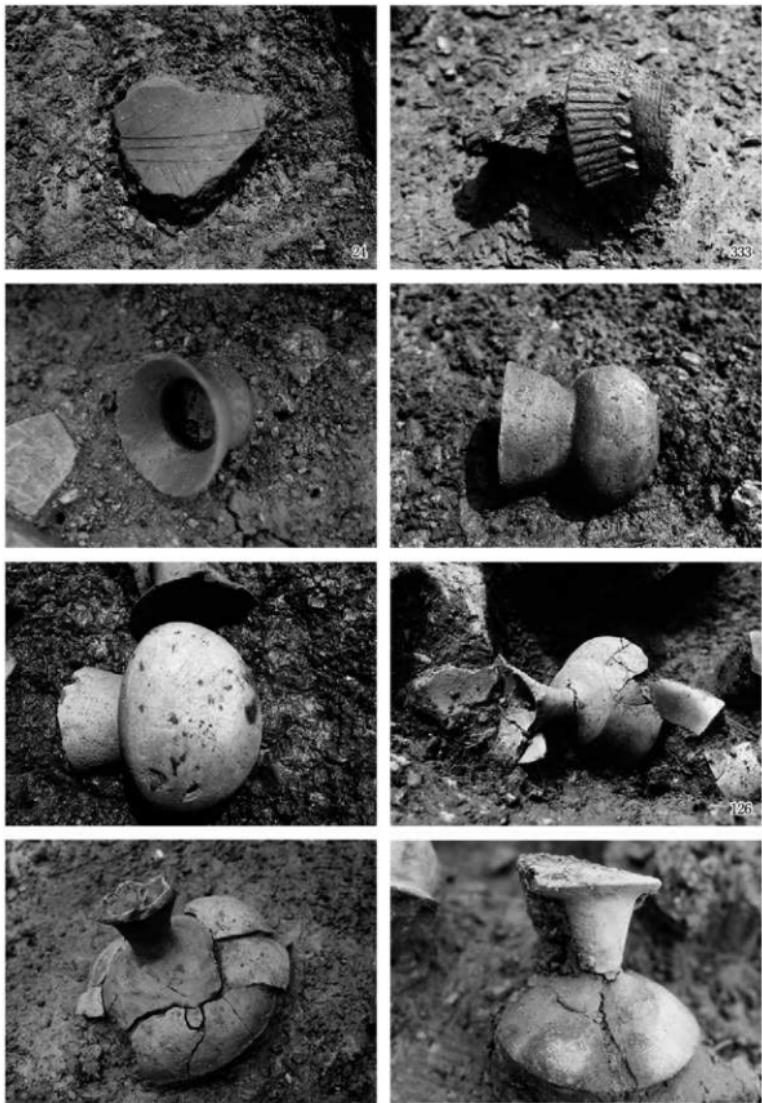
4 B 区K5-19グリッド遺物出土状態



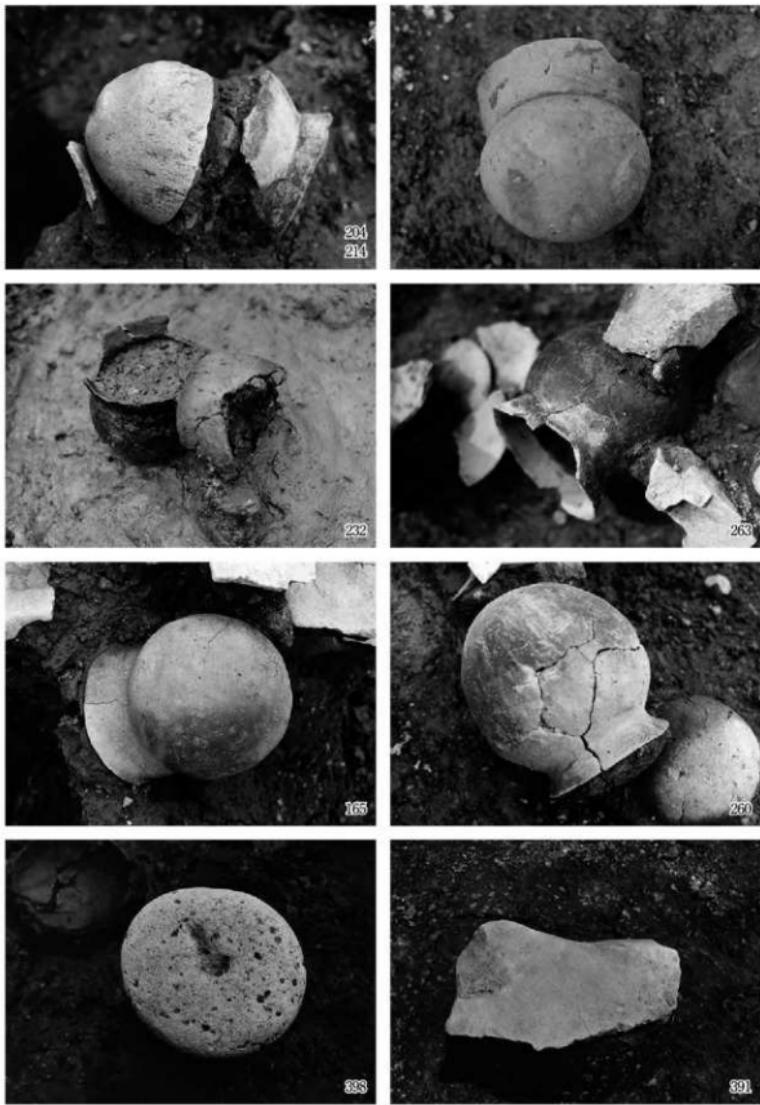
4 B区表土掘削状態



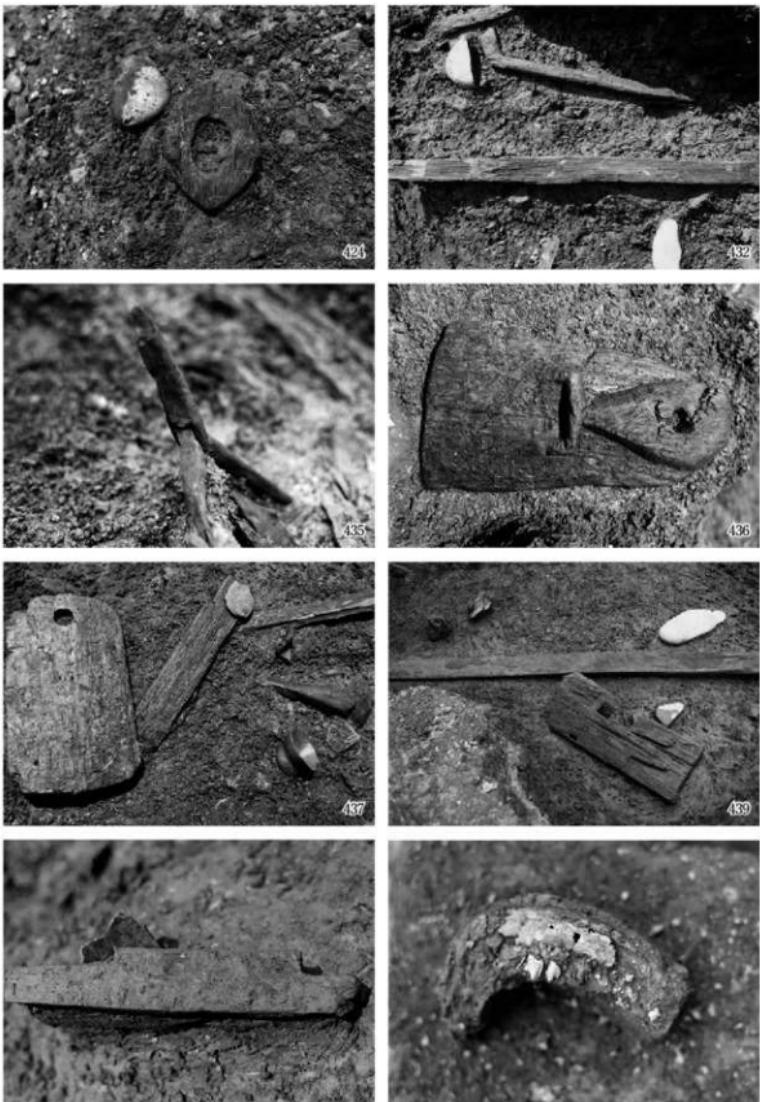
4 B区調査風景



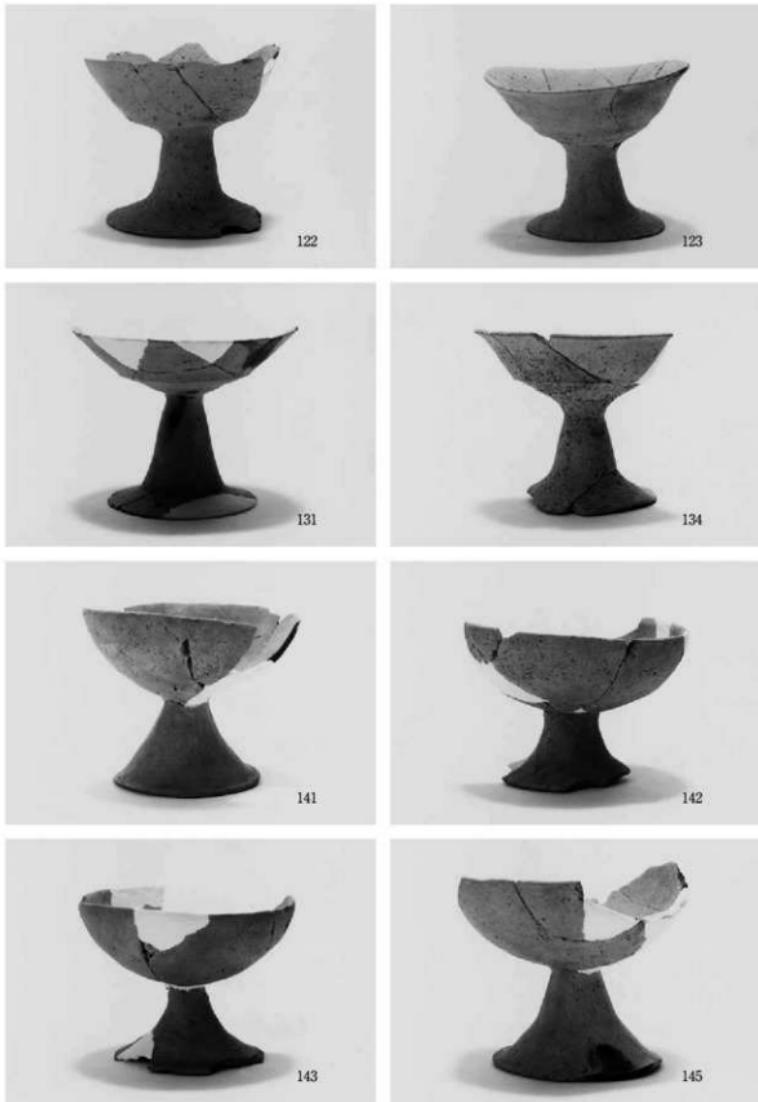
4 B 区ⅢC層・ⅢD層群遺物出土状態



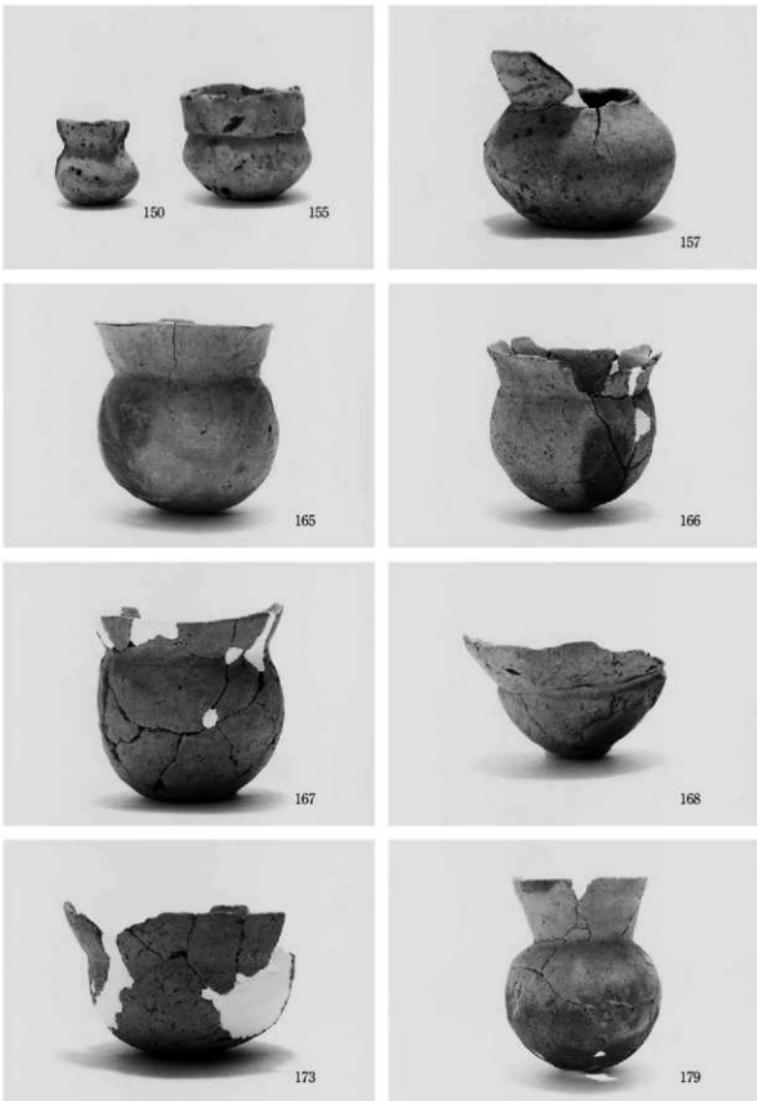
4 B 区ⅢD層群遺物出土狀態



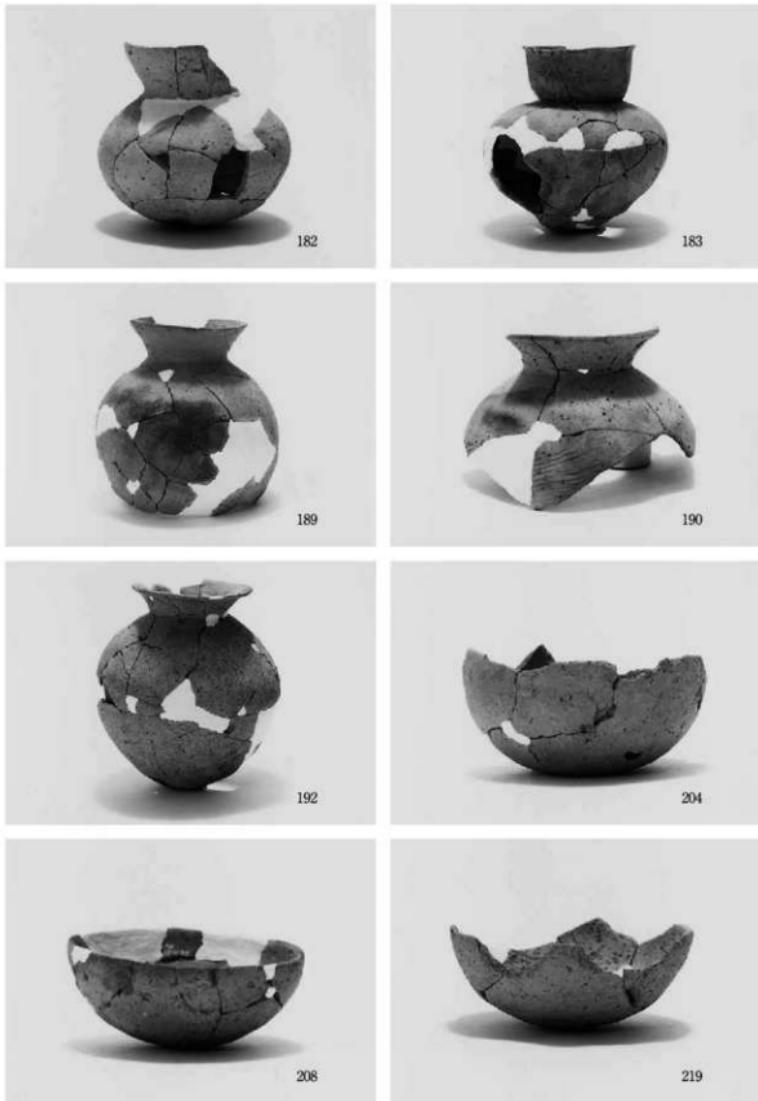
4 B 区木製品・自然遺物出土状態



4 B 区出土遺物 1



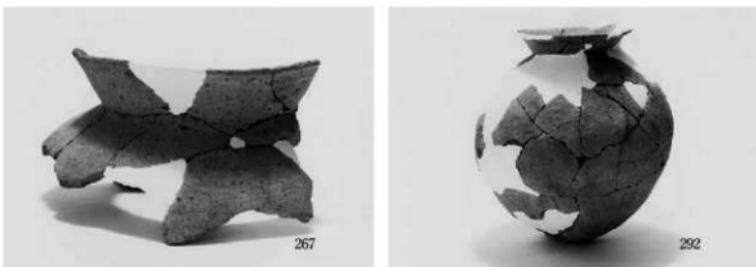
4 B区出土遗物 2



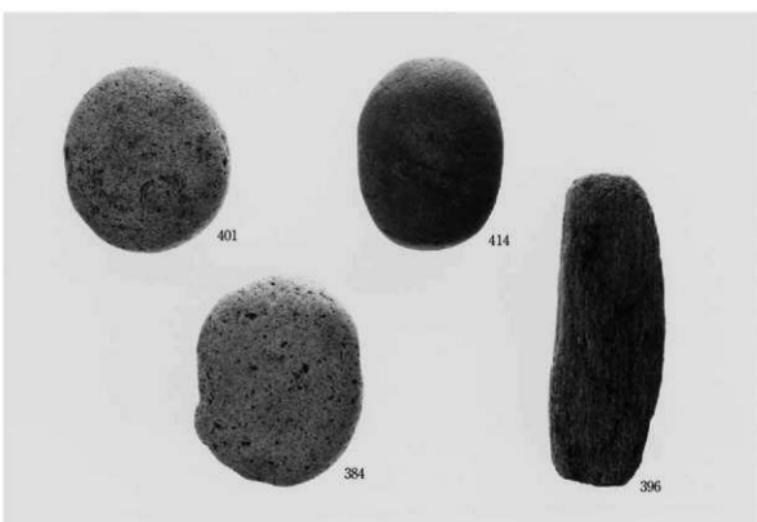
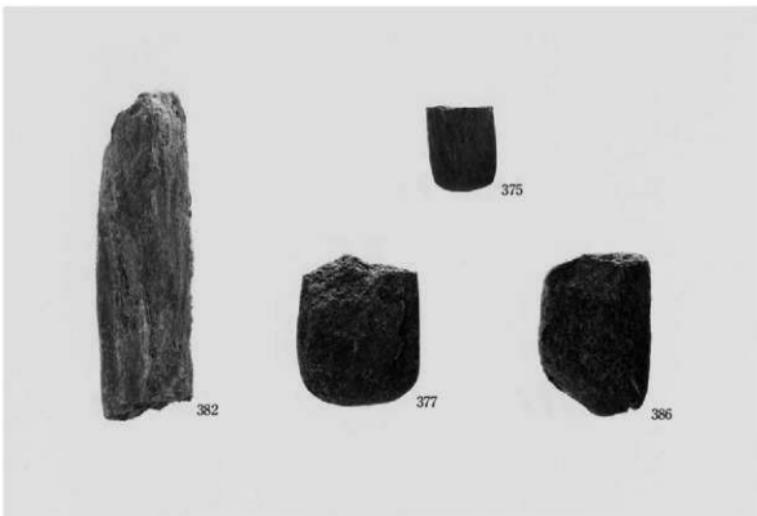
4 B 区出土遺物 3



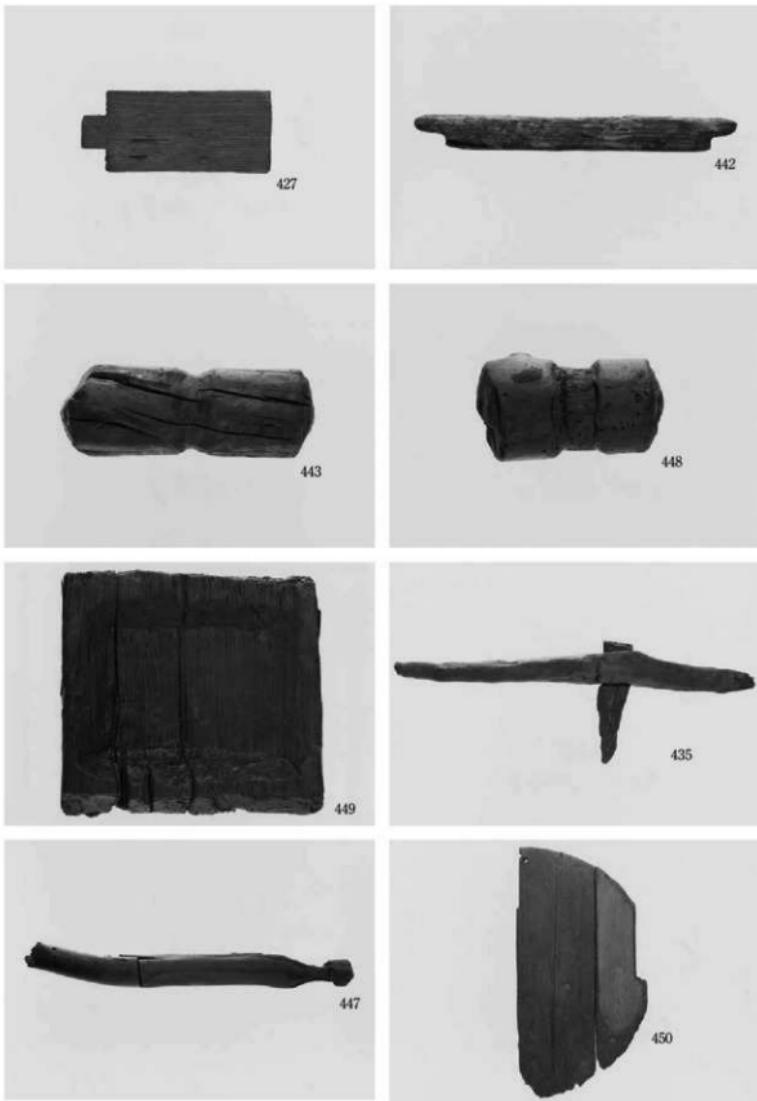
4 B区出土遗物 4



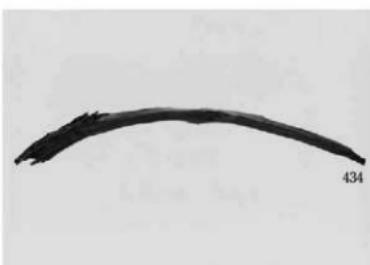
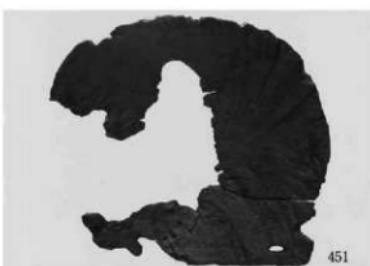
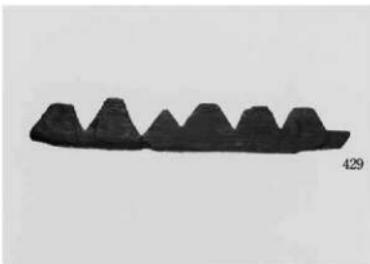
4 B 区出土遺物 5



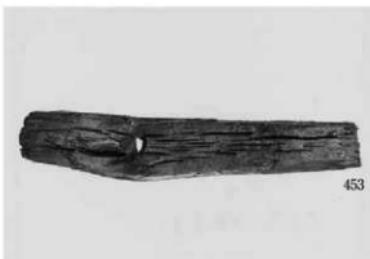
4 B区出土遗物 6



4 B 区出土遗物 7



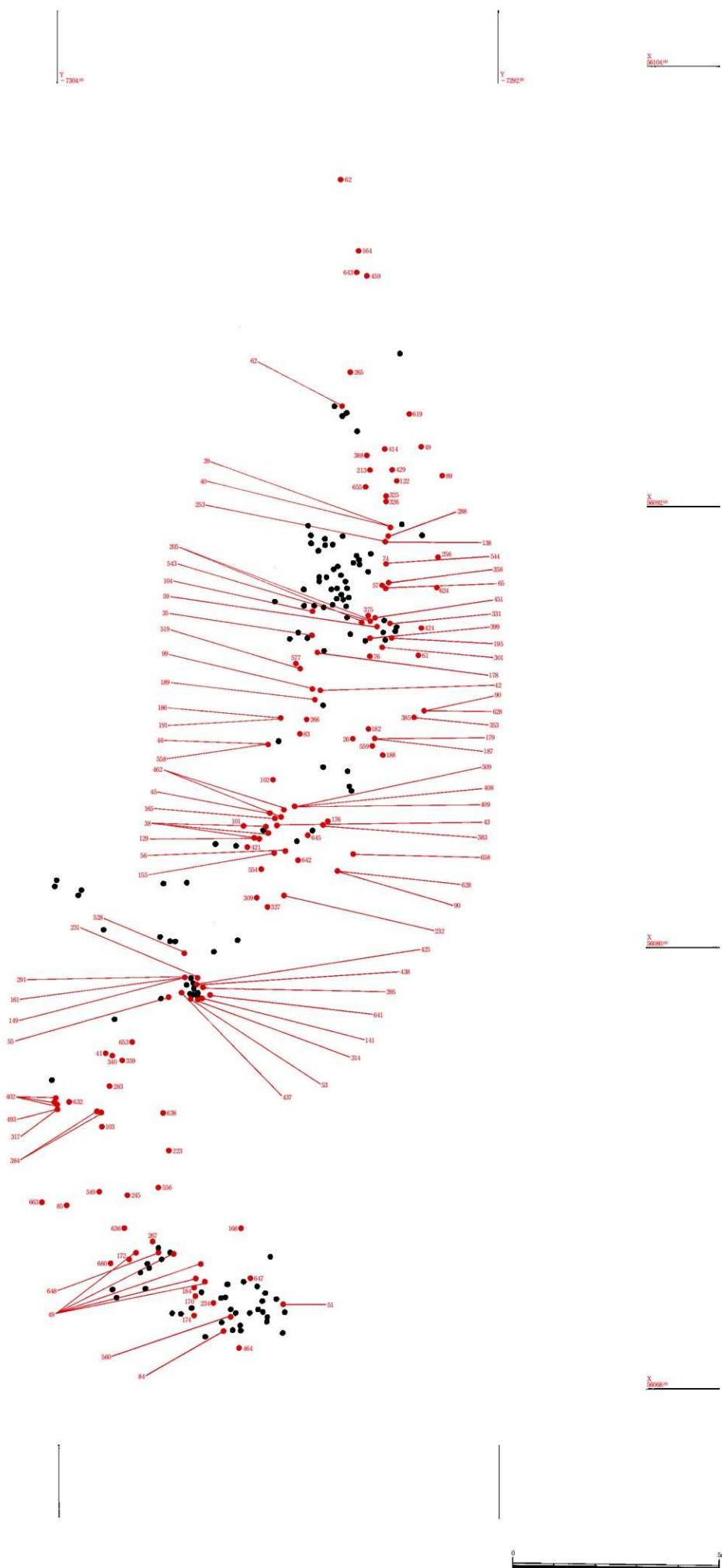
4 B区出土遗物 8



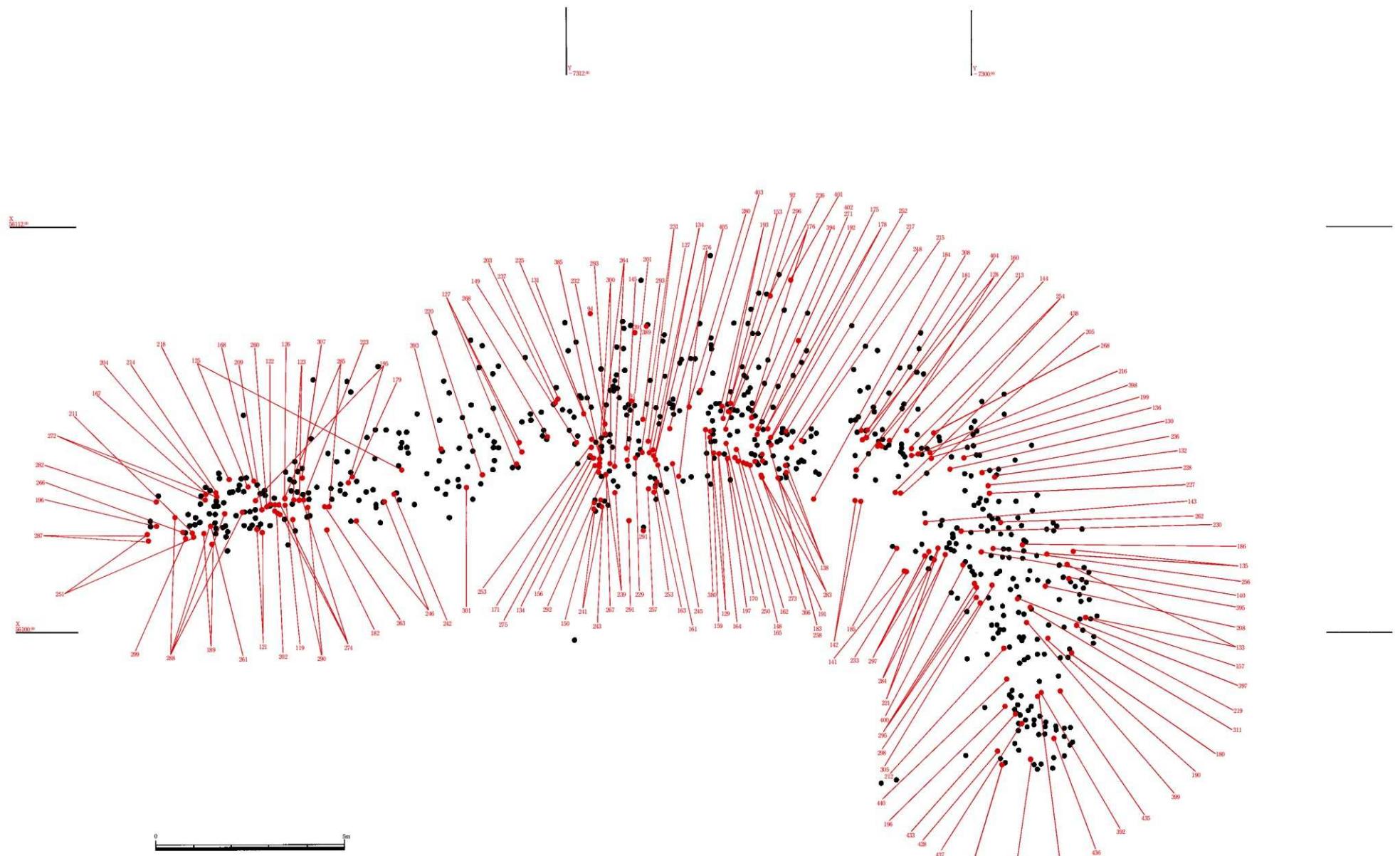
4 B 区出土遗物 9

報告書抄録

ふりがな	いとくいせきぐん							
書名	居徳遺跡群 V							
副書名	四国横断自動車道(伊野～須崎間)建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
卷次								
シリーズ名	高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書							
シリーズ番号	第86集							
編著者名	松葉礼子・汐見 真・岡田文男・大澤正巳・鈴木瑞穂・藤方正治							
編集機関	財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター							
所在地	〒783-0006 高知県南国市篠原1437-1 Tel088-864-0671							
発行年月日	2003年12月24日							
ふりがな 所取遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ° °	東經 ° ° °	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
いとくいせきぐん 居徳遺跡群	こうちけん とさし 土佐市 たかおかくいとくいせきぐん 高岡町乙 いとく 居徳はか	39205	50087	33度 30分 10秒	133度 25分 8秒	19971017 ～ 19990331	3.616m ²	四国横断 自動車道 (伊野～ 須崎間) 建設
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
4 A 区	祭祀	縄文時代晚期 弥生時代中期末 から後期 古墳時代	土坑	縄文土器、弥生土器、 土師器、須恵器				
4 B 区	祭祀	縄文時代晚期 弥生時代中期末 から後期 古墳時代	貯蔵穴	縄文土器、弥生土器、 土師器、須恵器				



付図1 4A区出土遺物分布 IIId層 (S:1/80)



付図2 4B区出土遺物分布 III D層群 (S : 1/80)

(財)高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第86集

居徳遺跡群 V

四国横断自動車道(伊野～須崎間)建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2003年12月24日

発行 (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

高知県南国市篠原1437-1

Tel. 088-864-0671

印刷 共和印刷株式会社